千葉県文化財センター調査報告第421集

千葉東南部ニュータウン25

－千葉市有吉城跡１（縄文時代以降）－

平成14年３月

都市基盤整備公団

財団法人　千葉県文化財センター

千葉東南部ニュータウン25

－千葉市有吉城跡（ありよしじょうあと）１（縄文時代以降）－

序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その結果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第421集として，都市基盤整備公団千葉地域支社（旧住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部）の千葉東南部土地区画整理事業に伴って実施した千葉市有吉城跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，古墳時代後期から平安時代の住居跡が検出されるなど，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。刊行に当たり，本書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

発掘調査は，有吉町の土地所有者・住民の皆様の御理解・御協力の元に30次にわたって断続的に行われました。この場を借り，お礼を申し上げます。そのほか，関係者の皆様や関係機関，また，発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成14年３月25日

財団法人千葉県文化財センター

理　事　長　　清　水　新　次

凡　　例

1　本書は，都市基盤整備公団千葉地域支社（旧住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部）による千葉市東南部地区におけるニュータウン建設計画に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県千葉市緑区有吉町57ほかに所在した有吉城跡（遺跡コード*201-031*）である。なお，第1地点から第6地点については報告書を刊行済みであり，本書は第7地点から第30地点の縄文時代以降の資料を扱い，旧石器時代の資料については別途刊行予定である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，都市基盤整備公団千葉地域支社の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の経緯及び担当者は第１章，第１節に記した。

5　本書の編集・執筆は，副所長　加藤修司，上席研究員　西野雅人，研究員　渡邉高弘が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化課，都市基盤整備公団千葉地域支社，千葉市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　人骨の歯種同定にあたって，渡辺新氏の御協力を得た。また，中近世陶磁器について君津郡市文化財センター井上哲朗氏の御協力を得た。

8　第3図に国土地理院発行1/25,000地形図「蘇我」（Ｎ－54－19－15－2）を利用した。

9　本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。大グリッドは調査地点ごとに別のナンバーが付けられている。地点ごとの記載はそのまま行ったが，全体的な記載では統一ナンバーを使用した。

10　本書で呼称した遺構番号は調査時とは異なる。旧番号は第2表により照合されたい。また，遺構の事実記載において，新番号の後に括弧付きで示した。

11　本文中に示した掲載資料の点数には，表に個体として掲載したものも含めている。

12　挿図に使用したスクリントーン及び記号の用例は，挿図中または本文中に記した。

本文目次

第1章　はじめに …… 1
　第1節　調査の概要 …… 2
　　1　調査・整理の経緯 …… 3
　　2　調査・整理の方法 …… 4
　第2節　遺跡の位置と環境 …… 4
　　1　遺跡の位置と周辺の地形 …… 4
　　2　歴史的背景－「有吉城」の概要－ …… 4
　第3節　周辺の遺跡 …… 4
第2章　検出した遺構と遺物 …… 9
　第1節　第7地点 …… 9
　第2節　第8地点 …… 21
　第3節　第9･10地点 …… 45
　第4節　第11地点 …… 97
　第5節　第12地点 …… 113
　第6節　第13地点 …… 163
　第7節　第14.15.16地点 …… 167
　第8節　第17.18.19.20.21.22.23.24地点 …… 187
　第9節　第25.26.27.28.29.30地点 …… 193
第3章　動物遺存体 …… 209
　第1節　埋葬人骨 …… 209
　第2節　貝サンプルの分析 …… 210
第4章　製鉄関連遺物 …… 214
　第1節　概要 …… 214
　第2節　製鉄関連遺構と出土遺物 …… 214
第5章　まとめ …… 216
　第1節　縄文時代 …… 216
　第2節　古墳時代 …… 216
　第3節　奈良・平安時代 …… 217
　第4節　中近世の遺構・遺物と「有吉城」の存在について …… 218
注・参考文献 …… 226
付表 …… 227
報告書抄録 …… 巻末

挿図目次

第1図　全体図1　各地点の位置と大グリッド……2
第2図　有吉城跡の位置とおゆみ野周辺の遺跡……5
第3図　全体図2　遺構配置 ……6

第7地点

第4図　縄文時代遺構（SK01～03）……9
第5図　第7地点全体図 ……10
第6図　縄文時代遺構外出土遺物……11
第7図　古代遺構（SK04～10）……13
第8図　古代の遺構外出土遺物……14
第9図　近世遺構（SB01，SK11～19，SE01・02）…15
第10図　近世遺構出土遺物1（SK15）……16
第11図　近世遺構出土遺物2（SK15・SE01）……17
第12図　近世遺構出土遺物3（SE01・02）……18
第13図　近世遺構出土遺物4（SX10）……19
第14図　近世遺構出土遺物5（SX10）……20

第8地点

第15図　第8地点全体図 ……21
第16図　縄文時代遺構，遺構外出土遺物……22
第17図　SI01（1）……23
第18図　SI01（2）……24
第19図　SI02……25
第20図　SI03（1）……26
第21図　SI03（2）……27
第22図　SI04（1）……28
第23図　SI04（2）……29
第24図　SI05（1）……30
第25図　SI05（2）……31
第26図　SI06……32
第27図　SI07……33
第28図　SI08……34
第29図　SI09……35
第30図　SI10・SM01 ……36
第31図　古代土坑1（SK21～28）……37
第32図　古代土坑2，遺構外出土遺物 ……38
第33図　SB02・03 ……40
第34図　SM02・03（1）……41
第35図　SM02・03（2）……42
第36図　近世土坑1（SK31～38）……43
第37図　近世土坑2（SK39～41）……44
第38図　SD01・SD02 ……44

第9地点

第39図　第10地点全体図……45
第40図　第9地点全体図 ……46
第41図　縄文時代遺構1（SK42～46）……47
第42図　縄文時代遺構2（SI11）……48
第43図　縄文時代遺構外出土土器……49
第44図　縄文時代遺構外出土石器（1）……50
第45図　縄文時代遺構外出土石器（2）……51
第46図　SI13（1）……52
第47図　SI13（2）……53
第48図　SI14……54
第49図　SI15（1）……55
第50図　SI15（2）……56
第51図　SI16（1）……57
第52図　SI16（2）……58
第53図　SI17・SI33（1）……59
第54図　SI17・SI33（2）……60
第55図　SI18（1）……61
第56図　SI18（2）……62
第57図　SI18（3）……63
第58図　SI18（4）・SI19 ……64
第59図　SI20（1）……65
第60図　SI20（2）……66
第61図　SI21（1）……67
第62図　SI21（2）……68
第63図　SI22・SI23 ……69
第64図　SI24（1）……70
第65図　SI24（2）……71
第66図　SI24（3）……72
第67図　SI25……73
第68図　SI26……74
第69図　SM04（1）……75
第70図　SM04（2）……76
第71図　SI30……77

第72図　SI31・SI32・SI34……78
第73図　SI35・SI36……79
第74図　SI37・SI38……80
第75図　SI39・SI40……81
第76図　SK47・SK48……82
第77図　古代の遺構外出土遺物……82
第78図　SX01（1）全体図……83
第79図　SX01（2）SD03～05断面図……84
第80図　土坑（SK49・51・56・57）……85
第81図　SX02と周辺の溝……86
第82図　近世溝（SD12・14・19・21～25）……87
第83図　近世土坑（SK50・52～55・58～60）……88
第84図　近世炭窯（SO01），建物跡（SB08）……89
第85図　近世遺構出土遺物（1）SK57・SD……92
第86図　近世遺構出土遺物（2）SD10・11……93
第87図　近世遺構出土遺物（3）SD，SX01・02……94
第88図　近世遺構出土遺物（4）土器以外（1）……95
第89図　近世遺構出土遺物（4）土器以外（2）……96
第11地点
第90図　第11地点全体図……97
第91図　遺構外縄文土器・土製品……98
第92図　遺構外縄文時代石器（1）……99
第93図　遺構外縄文時代石器（2）……100
第94図　SM05全体図……101
第95図　SM05第1主体部……102
第96図　SM05第1主体部出土遺物……103
第97図　SM05第2主体部……104
第98図　SM05第2主体部出土遺物……105
第99図　SM05第3主体部・出土鉄鏃……106
第100図　SM05第3主体部出土直刀（1）……107
第101図　SM05第3主体部出土直刀（2）……108
第102図　SM05出土土器……109
第103図　SM05第3主体部出土土器……110
第104図　SM05（塚）出土近世遺物……111
第105図　SM06……112
第12地点
第106図　第12地点全体図……114
第107図　縄文時代・炉穴，陥し穴……115
第108図　縄文時代・住居跡（SI41・42）……116
第109図　遺構外縄文土器（1）……117
第110図　遺構外縄文土器（2）・土製品……118
第111図　縄文時代石器（1）……118
第112図　縄文時代石器（2）……119
第113図　SI43（1）……121
第114図　SI43（2）……122
第115図　SI44（1）……122
第116図　SI44（2）……123
第117図　SI45（1）……124
第118図　SI45（2）……125
第119図　SI46（1）……126
第120図　SI46（2）……127
第121図　SI46（3）……128
第122図　SI47（1）……129
第123図　SI47（2）……130
第124図　SI48（1）……131
第125図　SI48（2）……132
第126図　SI49・63・64（1）……133
第127図　SI49・63・64（2）……134
第128図　SI50・51（1）……135
第129図　SI50・51（2）……136
第130図　SI52（1）……137
第131図　SI52（2）……138
第132図　SI52（3）……139
第133図　SI53（1）……140
第134図　SI53（2）……141
第135図　SI54……142
第136図　SI55……143
第137図　SI56（1）……144
第138図　SI56（2）……145
第139図　SI57（1）……145
第140図　SI57（2）……146
第141図　SI58……147
第142図　SI59（1）……148
第143図　SI59（2）……149
第144図　SI60……150
第145図　SI61……151
第146図　SI62……151
第147図　SI65……152

第148図　SI66・67……152
第149図　SI68……153
第150図　SI69……154
第151図　SI70・71・72……155
第152図　SI73……156
第153図　奈良·平安時代土坑（1）……157
第154図　奈良·平安時代土坑（2）……158
第155図　遺構外土器（1）古墳時代……158
第156図　遺構外土器（2）奈良·平安時代……159
第157図　近世溝……160
第158図　近世土坑・遺構外出土遺物……161
第13地点
第159図　第13地点全体図……163
第160図　遺構外出土縄文土器・石器……164
第161図　SI28……164
第162図　SI74……165
第163図　中近世土坑……165
第164図　遺構外出土中近世遺物……166
第14～16地点
第165図　第14地点・16地点全体図……167
第166図　第15地点全体図……168
第167図　縄文時代・炉穴（1）（SK77～80）……169
第168図　縄文時代・炉穴（2）（SK81）……170
第169図　遺構外縄文土器（1）……171
第170図　遺構外縄文土器（2）……172
第171図　遺構外縄文土器（3）・土製品・石器……173
第172図　SX003（1）全体図……175
第173図　SX003（2）断面図・火床・土坑……176
第174図　SX003（3）出土遺物（1）……177
第175図　SX003（4）出土遺物（2）……178
第176図　SX003（5）出土遺物（3）……179
第177図　SX003（6）出土遺物（4）……180
第178図　SX003（7）出土遺物（5）……181
第179図　SM07……181
第180図　SD42……182
第181図　遺構外出土近世遺物……183
第16地点
第182図　遺構外出土縄文遺物……184
第183図　SM08……185
第184図　SD43……186
第185図　遺構外出土近世遺物……186
第17～24地点
第186図　第17・20・21地点全体図，出土遺物……188
第187図　第22・23・24地点全体図……189
第188図　第18地点全体図（1）……190
第189図　第18地点全体図（2）……191
第190図　第22地点遺構（SK82・83，SI75）……192
第25～30地点
第191図　第25·26・27地点全体図……193
第192図　第28地点全体図（1）……194
第193図　第28地点（2），第29・30地点全体図……195
第194図　第25地点遺構外出土縄文土器……196
第195図　第25地点近世遺構（SX05，SD47～49）…196
第196図　第26地点遺構外出土縄文土器……197
第197図　第26地点古墳時代遺構（SK84）……197
第198図　第26地点近世遺構（1）（SX，SK)……198
第199図　第26地点近世遺構（2）（SD）……199
第200図　第27地点遺構（SM09）……200
第201図　第28地点縄文時代遺構，遺構外出土遺物…201
第202図　第28地点古墳（1），近世遺構（1）……202
第203図　第28地点古墳（2）……203
第204図　第28地点近世遺構(2)(SD55～58, SX09)…204
第205図　第28地点近世遺構(3)(SD55・56)……205
第206図　第28地点近世遺構(4)(SD52～54, SX07)…206
第207図　第28地点近世遺構(5)(SD53・54・59)……207
第208図　第28地点近世遺構(6)(SX08，SK）……208
第209図　第30地点縄文遺構（SK97）……209
動物遺存体
第210図　貝種組成……212
まとめ
第211図　縄文時代の遺構分布……219
第212図　古墳時代の遺構分布……221
第213図　奈良・平安時代の遺構分布……222
第214図　近世の遺構分布……224

表 目 次

第１表　おゆみ野の遺跡……5
第２表　遺構番号検索表……7
第３表　貝層と貝サンプル……211
第４表　貝類種名一覧……212
第５表　貝種組成……212
第６表　貝類計測値分布……213
第７表　製鉄関連遺構（１）　古墳時代……214
第８表　製鉄関連遺構（２）　奈良・平安時代……215
第９表　スラグ等集計・計量結果……215
第10表　縄文土器掲載点数数……220
第11表　縄文時代石器掲載点数……220
第12表　土師器･須恵器等掲載点数……223
第13表　中近世遺物掲載点数（1）……225
第14表　中近世遺物掲載点数（2）……225

付表
第15表　遺構一覧……227
第16表　縄文土器……231
第17表　土器片錘・土製円板……234
第18表　縄文時代石器・石製品……235
第19表　土師器･須恵器等……236
第20表　中近世陶磁器類……245
第21表　古代の土製品……250
第22表　古代の石製品……251
第23表　古代の金属製品……251
第24表　中近世の土製品……252
第25表　中近世の石製品……252
第26表　SM05-第3主体部直刀計測値……252

図 版 目 次

図版１　有吉城跡付近航空写真
図版２　第７地点全景
図版３　第７地点遺構（1）
図版４　第７地点遺構（2）
図版５　第７地点遺構（3）
図版６　第７地点縄文時代遺物
図版７　第７地点古代・中近世遺物
図版８　第８地点遺構（1）
図版９　第８地点遺構（2）
図版10　第８地点遺構（3）
図版11　第８地点遺構（4）
図版12　第８地点遺構（5）
図版13　第８地点遺構（6）
図版14　第８地点遺構（7）
図版15　第８地点遺構（8）
図版16　第８地点遺構（9）
図版17　第８地点遺構（10）
図版18　第８地点縄文時代遺物
図版19　第８地点古墳時代土器（1）
図版20　第８地点古墳時代土器（2）
図版21　第８地点古墳時代土器（3）
図版22　第８地点奈良･平安時代土器（1）
図版23　第８地点金属・土製品
図版24　第９地点遺構（1）
図版25　第９地点遺構（2）
図版26　第９地点遺構（3）
図版27　第９地点遺構（4）
図版28　第９地点遺構（5）
図版29　第９地点遺構（6）
図版30　第９地点遺構（7）
図版31　第９地点遺構（8）
図版32　第９地点遺構（9）
図版33　第９地点遺構（10）
図版34　第９地点遺構（11）
図版35　第９地点遺構（12）
図版36　第９地点遺構（13）
図版37　第９地点遺構（14）
図版38　第９地点遺構（15）

図版39　第９地点縄文土器（1）
図版40　第９地点縄文土器（2）
図版41　第９地点縄文石器
図版42　第９地点古墳時代土器（1）
図版43　第９地点古墳時代土器（2）
図版44　第９地点古墳時代土器（3）
図版45　第９地点古墳時代土器（4）
図版46　第９地点古墳時代土器（5）
図版47　第９地点古墳時代土器（6）
図版48　第９地点奈良･平安時代土器
図版49　第９地点金属・土・石製品
図版50　第９地点中近世遺物
図版51　第11地点遺構（1）
図版52　第11地点遺構（2）
図版53　第11地点遺構（3）
図版54　第11地点遺構（4）
図版55　第11地点遺構（5）
図版56　第11地点遺構（6）
図版57　第11地点縄文時代遺物（1）
図版58　第11地点縄文時代遺物（2）
図版59　第11地点古墳時代土器・石製品
図版60　第11地点金属製品（1）
図版61　第11地点金属製品（2）
図版62　第11地点金属製品（3）・中近世遺物
図版63　第12地点全景・遺構（1）
図版64　第12地点遺構（2）
図版65　第12地点遺構（3）
図版66　第12地点遺構（4）
図版67　第12地点遺構（5）
図版68　第12地点遺構（6）
図版69　第12地点遺構（7）
図版70　第12地点遺構（8）
図版71　第12地点遺構（9）
図版72　第12地点遺構（10）
図版73　第12地点縄文土器（1）
図版74　第12地点縄文土器（2）
図版75　第12地点縄文土器（3）
図版76　第12地点縄文石器（1）
図版77　第12地点縄文石器（2）
図版78　第12地点古墳時代土器（1）
図版79　第12地点古墳時代土器（2）
図版80　第12地点古墳時代土器（3）
図版81　第12地点古墳時代土器（4）
図版82　第12地点古墳時代土器（5）
図版83　第12地点古墳時代土器（6）
図版84　第12地点古墳時代土器（7）
図版85　第12地点古墳時代土器（8）
図版86　第12地点古墳時代土器（9）
図版87　第12地点古墳時代土器（10）
図版88　第12地点奈良･平安時代土器（1）
図版89　第12地点奈良･平安時代土器（2）
図版90　第12地点奈良･平安時代土器（3）
図版91　第11地点土･石製品
図版92　第13地点遺構
図版93　第13地点遺物
図版94　第15地点遺構（1）
図版95　第15地点遺構（2）
図版96　第15地点遺構（3）
図版97　第15地点縄文土器（1）・土製品
図版98　第15地点縄文土器（2）
図版99　第15地点縄文土器（3）
図版100　第15地点縄文土器（4）
図版101　第15地点縄文石器・石製品
図版102　第15地点中近世遺物
図版103　第17～30地点遺構（1）
図版104　第17～30地点遺構（2）
図版105　第17～30地点遺構（3）
図版106　第17～30地点遺構（4）
図版107　第17～30地点遺物（1）
図版108　第17～30地点遺物（2）

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　調査・整理の経緯

(1) 発掘調査の経緯

本遺跡の調査は昭和57年度に開始し，平成9年度の第30地点まで，断続的に実施した。このうち，昭和57・58年度に調査した第1地点～第6地点についてはすでに報告済みである[(1)]。第7地点以降の各地点の調査概要を以下に示す。なお，下層調査については別に報告する予定であるため，本調査面積には含めていない。各地点の位置は第1図に示す。

年度	地点	面積	班長·所長	担当者	備考
昭和59年度	第7地点	4,000㎡	清藤一順	永沼律朗	当初5,900㎡，1,900㎡対象外。全面本調査
昭和60年度	第8地点	6,700㎡	阪田正一	西口　徹，上守秀明	全面本調査。東側墓地4,100㎡調査対象外
昭和61年度	第9地点	15,100㎡	阪田正一	西口　徹，笹生　衛	当初7,500㎡から増
	第10地点	1,400㎡		西口　徹，笹生　衛	確認調査のみ
昭和62年度	第11地点	2,700㎡	阪田正一	鈴木康男，柴田龍司	900㎡本調査
	第12地点	13,200㎡		奥田正彦，田島　新	6,260㎡本調査
昭和63年度	第13地点	1,600㎡	佐久間豊	相京邦彦，出口雅人	当初2,000㎡から減。確認調査のみ
平成元年度	第14地点	570㎡	大原正義	出口雅人	確認調査のみ
	第15地点	1,130㎡		出口雅人	全面本調査
	第16地点	3,500㎡		今泉　潔，島立　桂	500㎡本調査
平成2年度	第17·18地点	632㎡	三浦和信	福田明美	確認調査のみ
	第19地点	148㎡		福田明美	確認調査のみ
	第20地点	470㎡		雨宮龍太郎	20～24地点，計1,550㎡のうち，
	第21地点	140㎡		雨宮龍太郎	20地点の350㎡を本調査
	第22地点	400㎡		雨宮龍太郎	確認調査のみ，遺構調査あり
	第23地点	360㎡		雨宮龍太郎	確認調査のみ
	第24地点	180㎡		雨宮龍太郎	確認調査のみ
平成3年度	第25·26地点	630㎡	三浦和信	雨宮龍太郎	全面本調査
	第27地点	370㎡		高柳圭一	全面本調査
	第29地点	100㎡		三浦和信	全面本調査
平成4年度	第28地点	1,000㎡	矢戸三男	麻生正信	全面本調査
平成5年度	第26·28·30地点	1,300㎡	矢戸三男	城田義友	全面本調査
平成6年度	第15地点	150㎡	田坂　浩	関口達彦	全面本調査
平成9年度	第25・30地点	200㎡	藤崎芳樹	吉野健一	全面本調査，調査対象全域完了

第1図　全体図1－各地点位置と大グリッド

(2) 整理作業の経緯

年度	班長・所長	担当者	備考
昭和60年度	阪田正一	西口　徹	遺物の復元
平成10年度	石田廣美	渡邉高弘	記録整理の一部から復元まで
	重点遺跡整理促進事業		
	整理課長佐久間豊，担当者	上守秀明，平井真紀子	実測・トレース
平成11年度	石田廣美	渡邉高弘	挿図・図面作成の一部まで
平成12年度	三浦和信	加藤修司	原稿執筆の一部まで
平成13年度	三浦和信	西野雅人	原稿執筆，報告書刊行

(3) 中世城郭の確認と近世遺構の扱い

当遺跡は中世城郭である「有吉城」に比定されていたため，当初は，城郭にかかわる遺構の発掘や測量を大きな目的として調査を進めていた。しかし，調査が進むにつれて，中･近世の遺構・遺物のほとんどが近世のものであり，当地が中世城郭であったか疑問が生じた。そこで，各時代の遺構等を調査するとともに，調査の目的は中世城郭に関わる遺構が存在するかどうかを確認することに移っていった。

整理作業においては，中･近世の遺構として調査・記録された資料について，出土遺物を観察して時期を詳しく検討した。その結果，中世に遡ることが確実な遺構は存在しないことが判明した。したがって，城郭･居館跡，塚，野馬土手などを除いて近世の遺構は調査･整理の対象としないという当県の原則に従えば，対象外となる。しかし，中世城郭であったどうかについて検討した材料を資料として公表することは当然求められるべきことと判断した。検討の結果近世の遺構と判明したものについては，時期決定に使用した出土遺物を中心に掲載し，遺構の内容についても最低限の事実記載を行った。

なお，当遺跡が城郭であることが否定されたことからすれば，「有吉城跡」という遺跡名はふさわしくない。この名称は地名でもなく，本来は小字名（東側，西側，駒見台，木名田，井戸尻）などに変更するか，あるいは伝有吉城跡などとすべきであろうが，変更せずに報告することにした。

2　調査・整理の方法

当センターでは，千葉県教育委員会の指導により，上層については対象面積の約10%，下層については約4%の確認調査を行い，その結果に基づいて本調査範囲を確定している。当遺跡の調査においても，原則としてこの方式を採用した。なお，全域の地形測量は昭和57年度に実施されている。

公共座標（国家標準直角座標第Ⅸ系）に基づく基準杭を設定して調査を実施したが，グリッドの名称は地点ごとに異なっていた（各地点の全測図に示す）。多くの地点では40m×40mの大グリッド，4m×4mの小グリッドを設定し，小グリッドの名称は西から東に向かって00～09，北から南に向かって00～90とした。しかし，本書においては全域をカバーする新たな大グリッド番号を用意し，原則としてこれを使用した。全測図（第1・3図）及び原稿ではこの名称を使用している。一方，各地点の全測（遺構配置）図と，遺物の属性表は旧名称のままとした。

遺構番号は地点ごとに付けられ,付け方も不統一であったため，整理作業において付け直すことにした。ただし，番号の付け替えは整理作業の末期に行ったので，出土資料・記録類などは旧番号のままである。新旧番号は本章末の第2表で照合されたい。また，本文の遺構記載や写真図版のキャプションには旧番号を括弧付けで示した。

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置と周辺の地形

有吉城跡は，千葉市緑区有吉町の千葉東南部ニュータウン事業地内に所在した。平成13年には町名変更により緑区おゆみ野有吉となっている。JR外房線鎌取駅から南西へ約1.2kmの位置である。

千葉市付近の地形は，東京湾に面した海岸平野と，その東側の下総台地という二つの平坦面からなっていて，台地は都川・村田川とそれにつながるいくつもの支谷によって樹枝状に刻まれている。ニュータウンの付近は，なかでも谷密度が高く，傾斜面の多いところである。遺跡は，赤塚支谷と泉支谷に南北を挟まれた，標高30～40m程の台地上に位置している。台地の中央部分は，この付近でもっとも広い平坦面である。これは中近世に集落地として整形された影響を強く受けた結果でもある。

２　歴史的背景－「有吉城」の概要－

「有吉城」は1538年（天文7年）に築城され，26年後の1564年（永禄7年）に廃城にいたった城郭として知られてきた(2)。「有吉城」は，当時の記録にはなく，江戸時代に入ってから書かれたいくつかの軍記物(3)に登場する。この点については，すでに前回の報告で詳しく紹介した(4)。軍記物によれば，「有吉城」は1538年に北条綱成が城主となり，1564年の第二次国府台合戦ごろまで房総における後北条氏の拠点であった(5)。この記述が正しいとすれば，本格的な城郭であったはずである。その位置が，当遺跡の場所とされた経緯についてはよくわかっていない。前述のように発掘調査によって，当地が中世城郭であった可能性は否定されたが，その根拠は第5章第4節においてまとめてみたい。

東南部ニュータウン全体をみても，中世の遺構･遺物はごく少ない。当時の中心地は小弓城・生実城の所在した生実町から南生実町付近にあった。当地が生活の場となったのは，江戸時代で，それ以来「有吉」集落の中心地となり，現在に至っている。なお，ニュータウン内は平成13年に町名変更があり，当地は千葉市緑区おゆみ野有吉となった。

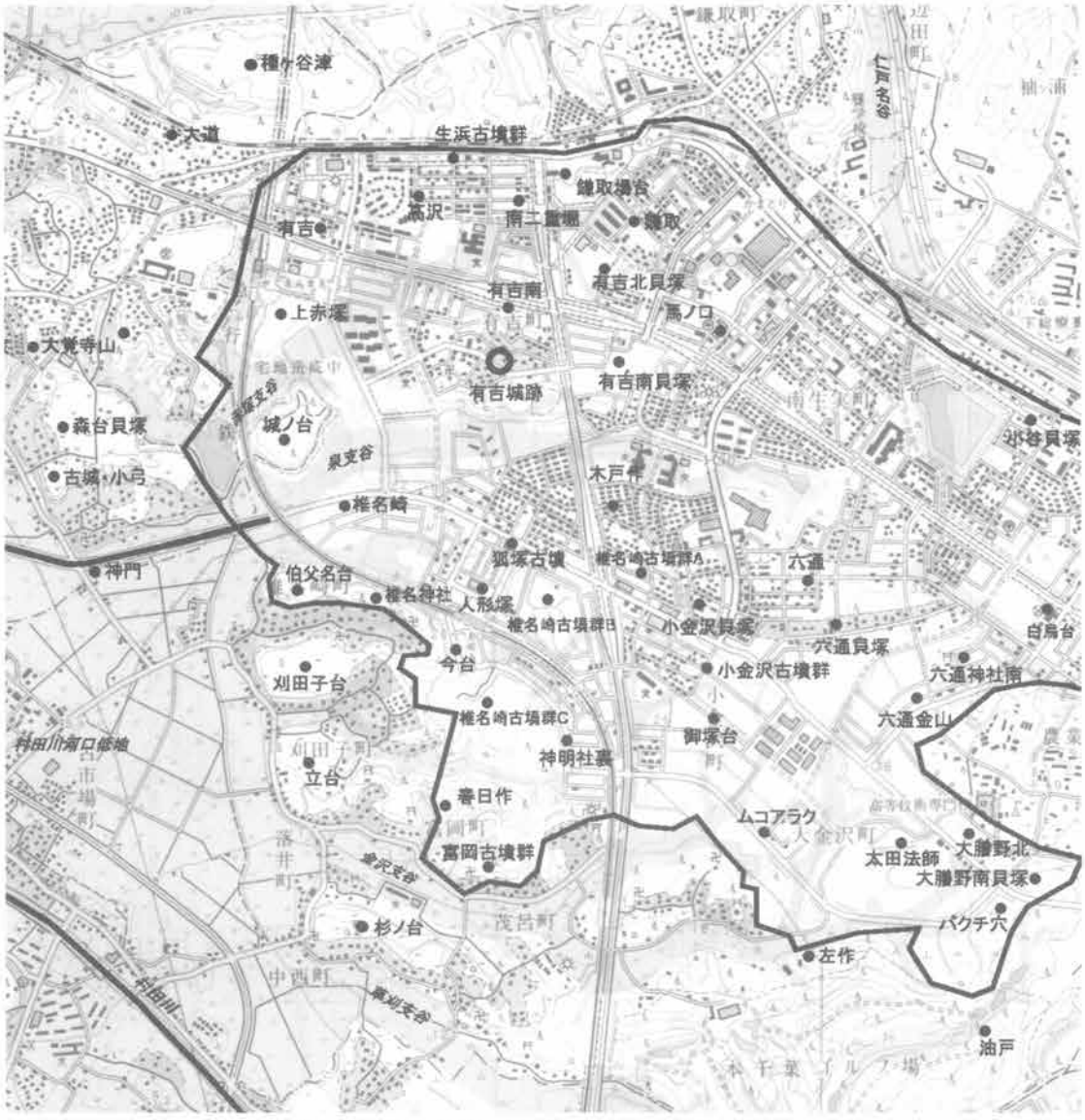
第3節　周辺の遺跡

東南部ニュータウン地区では，旧石器時代から中近世まできわめて多くの遺跡がみられる。なかでも，縄文時代の大型貝塚，古墳時代後期から平安時代の集落・古墳群が密集している。第2図にはニュータウン周辺の遺跡を示す。かつての谷地形をスクリーントーンで表した。第1表には当遺跡で検出した主な遺構の数と，同様に遺構を検出している遺跡を一覧にした。

赤塚支谷と泉支谷に面した遺跡（表で上赤塚遺跡から椎名崎遺跡まで）をみると，古墳時代後期から平安時代の集落が11箇所あり，調査された住居跡は1,000軒を越えている。遺構数の多い遺跡は，有吉遺跡(6)，高沢遺跡(7)，有吉北貝塚(8)，城ノ台遺跡（未報告）である。有吉城跡はこれらの遺跡には及ばないが，近世に多くの遺構が破壊されたことを考慮すれば，かなり大きな集落であった可能性がある。

一方，ニュータウン内では300基近い古墳が見つかっている。これらは全体が広義の「椎名崎古墳群」に含まれる(9)。有吉城跡のある赤塚支谷と泉支谷に挟まれた台地上は，集落の中心であったためか古墳の分布が薄い。

製鉄関連の遺跡が多いのも特徴である。廃滓等が見つかった遺跡は数多く，そのうち鎌取遺跡(10)（古墳中期），有吉北貝塚（古墳後期），御塚台遺跡（平安，未報告）・太田法師遺跡(11)（平安）では小鍛冶炉や工房を伴っている。また，ムコアラク遺跡（未報告）では砂鉄が採取されたらしい。



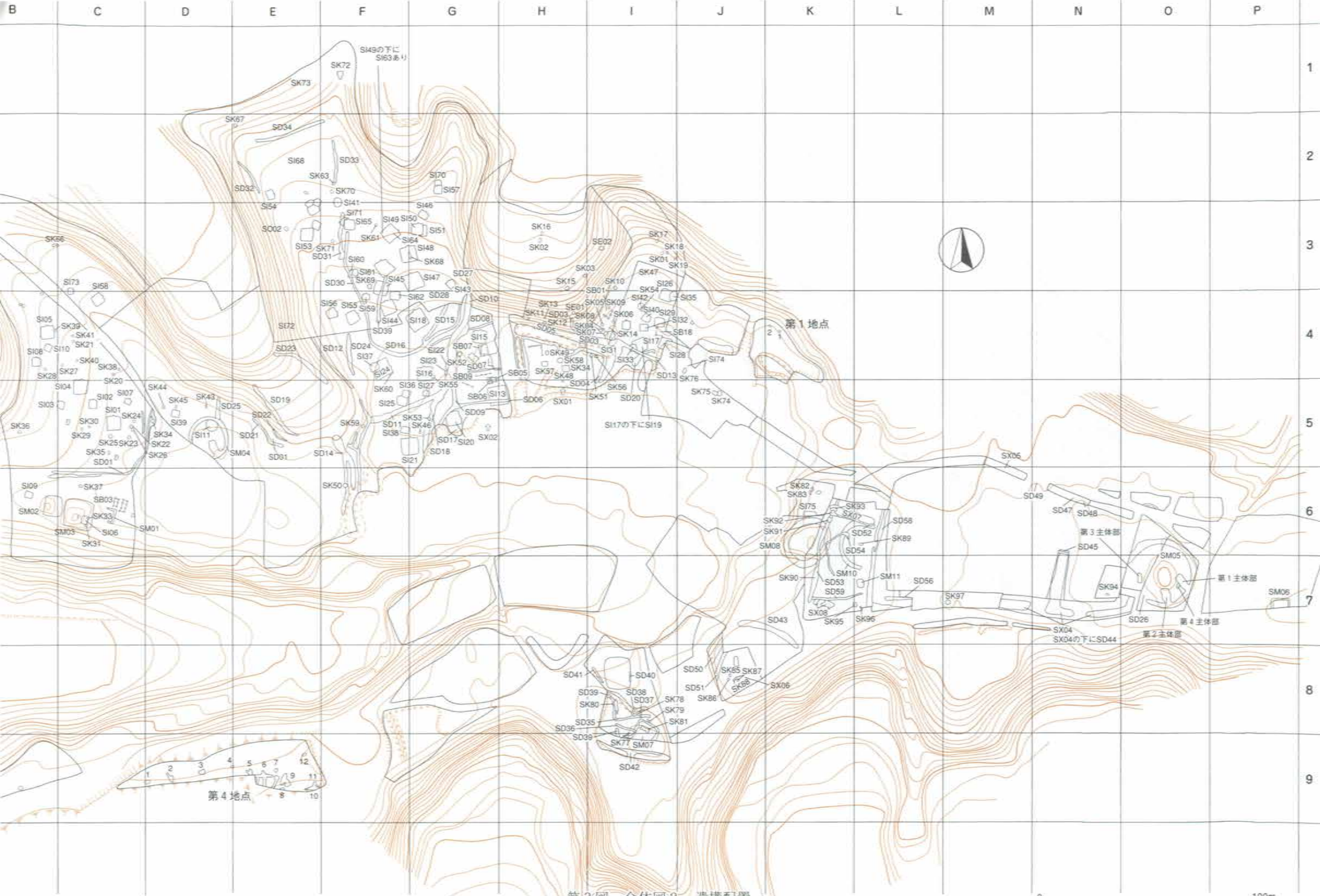
第２図　有吉城跡の位置とおゆみ野周辺の遺跡

第１表　おゆみ野の遺跡

有吉城跡と同時期の遺構数を示す。加Eは加曽利E式、古墳後は古墳時代後期

遺跡名	住居跡			古墳	製鉄遺構
	加E前半	古墳後	奈良・平安		
上赤塚			12	7	
有吉	1	69	130	11	
高沢	4	141	207	1	2
生浜古墳群				12	
南二重堀	7			19	
鎌取場台	14			6	
鎌取	3	2		2	1
馬ノ口				9	
有吉北貝塚	146	97	5		2
有吉南		8	4		
有吉城跡	**2**	**38**	**30**	**8**	**8**
城ノ台		99	45		
有吉南貝塚	◎	10	14		
椎名崎古墳群A		1		8	
木戸作		27		1	
狐塚古墳群				2	
椎名崎		46	100	4	
人形塚古墳				2	
椎名崎古墳群B		1	6	16	
椎名崎古墳群C			25	40	

遺跡名	住居跡			古墳	製鉄遺構
	加E前半	古墳後	奈良・平安		
今台		9	42	1	1
椎名神社		1	12	1	
伯父名台		42	25	3	2
春日作		11	3		1
富岡古墳群				3	
神明社裏		15	23		
小金沢貝塚		1		19	
小金沢古墳群				9	
御塚台	2	31	34	14	5
ムコアラク		9	39	16	砂鉄採取?
六通			3		
六通貝塚			14	1	1
六通金山		2	2	5	
六通神社南				55	
太田法師		9	89	11	37
大膳野北	1		29	2	
バクチ穴			8		
大膳野南貝塚			1		
白鳥台					1



第3図　全体図2　遺構配置

第２表　遺構番号検索表

新No.	地点-旧No.	種類	時期	ｸﾞﾘｯﾄﾞ
SI01	08-003	住居跡	古墳	C5
SI02	08-004	住居跡	古墳	C5
SI03	08-005	住居跡	古墳	C5
SI04	08-006	住居跡	古墳	C5
SI05	08-010	住居跡	古墳	B4
SI06	08-001	住居跡	平安	C6
SI07	08-002	住居跡	平安	C5
SI08	08-007	住居跡	平安	B4
SI09	08-008	住居跡	平安	B6
SI10	08-009	住居跡	平安	B4
SI11	09-J30	住居跡	縄文	D5
(SI12)	09-J29	（欠番）		
SI13	09-J01	住居跡	古墳	G5
SI14	09-J02	住居跡	古墳	G4
SI15	09-J03	住居跡	古墳	G4
SI16	09-J04	住居跡	古墳	G4
SI17	09-J07	住居跡	古墳	I4
SI18	09-J10	住居跡	古墳	G4
SI19	09-J12	住居跡?	古墳	I4
SI20	09-J13	住居跡	古墳	G5
SI21	09-J14	住居跡	古墳	G5
SI22	09-J18	住居跡	古墳	G4
SI23	09-J19	住居跡	古墳	G4
SI24	09-J20	住居跡	古墳	F4
SI25	09-J23	住居跡	古墳	F5
SI26	09-J28	住居跡	古墳	I4
SI27	09-J11	住居跡?	古墳？	G5
SI28	09+13-J27	住居跡	古墳	I4
SI29	09-J17	住居跡	古代?	I4
SI30	09-J06	住居跡	平安	I4
SI31	09-J08	住居跡	平安	I4
SI32	09-J09	住居跡?	平安	I4
SI33	09-J16	住居跡	平安	I4
SI34	09-J21	住居跡?	平安	H4
SI35	09-J22	住居跡	平安	I4
SI36	09-J24	住居跡	平安	F5
SI37	09-J25	住居跡	平安	F4
SI38	09-J26	住居跡	平安	F5
SI39	09-J31	住居跡	平安	D5
SI40	09-J15	住居跡?	平安?	I4
SI41	12-J25	住居跡	縄文	F2
SI42	12-J29	住居跡	縄文	E2
SI43	12-J01	住居跡	古墳	G3
SI44	12-J05	住居跡	古墳	F4
SI45	12-J07	住居跡	古墳	F3
SI46	12-J08	住居跡	古墳	G3
SI47	12-J09	住居跡	古墳	G3
SI48	12-J10	住居跡	古墳	F3
SI49	12-J12	住居跡	古墳	F3
SI50	12-J14	住居跡	古墳	G3
SI51	12-J15	住居跡	古墳	G3
SI52	12-J16	住居跡	古墳	F3
SI53	12-J18	住居跡	古墳	E3
SI54	12-J22	住居跡	古墳	E2
SI55	12-J23	住居跡	古墳	F4
SI56	12-J24	住居跡	古墳	F4
SI57	12-J27	住居跡	古墳	G2
SI58	12-J32	住居跡	古墳	C4
SI59	12-J02	住居跡	平安	F4
SI60	12-J03	住居跡	平安	F3
SI61	12-J04	住居跡	平安	F3
SI62	12-J06	住居跡	平安	F4
SI63	12-J11	住居跡	平安	F3
SI64	12-J13	住居跡	平安	F3
SI65	12-J17	住居跡	平安	F3
SI66	12-J19	住居跡	平安	E3
SI67	12-J20	住居跡	平安	E2
SI68	12-J21	住居跡	平安	E2
SI69	12-J26	住居跡	奈良・平安	E3
SI70	12-J28	住居跡	平安	G2
SI71	12-J30	住居跡	平安	F3
SI72	12-J31	住居跡	平安	E4
SI73	12-J33	住居跡	平安	C3
SI74	13-006	住居跡	古墳	J4
SI75	22-003	住居跡?	古墳?	K6
SK01	07-036	炉穴	縄文	I3
SK02	07-021	陥し穴	縄文	H3
SK03	07-026	陥し穴	縄文	H3
SK04	07-010	土坑	平安	I4
SK05	07-011	土坑	古代	I4
SK06	07-012	土坑	不明	I4
SK07	07-013	土坑	古代	I4
SK08	07-030	土坑	古代	I4
SK09	07-031	土坑	古代	I4
SK10	07-016	土坑	平安	I3
SK11	07-001	土坑	不明	H4
SK12	07-002	土坑	不明	H4
SK13	07-003	土坑	不明	H4
SK14	07-019	土坑	不明	I4
SK15	07-020	土坑	近世	H3
SK16	07-022	土坑	不明	H3
SK17	07-033	土坑	不明	I3
SK18	07-034	土坑	不明	I3
SK19	07-035	土坑	不明	I3
SK20	08-D19	陥し穴	縄文	C4
SK21	08-D33	土坑	平安	C4
SK22	08-D09	土坑	平安	C5
SK23	08-D10	土坑	平安	C5
SK24	08-D11	土坑	古代?	C5
SK25	08-D12	土坑	平安	C5
SK26	08-D16	土坑	古代?	C5
SK27	08-D25	土坑	古代	C4
SK28	08-D30	土坑	平安	B4
SK29	08-D31	土坑	古代	C5
SK30	08-D32	土坑	平安	C5
SK31	08-D02	土壙墓	近世	C6
SK32	08-D01	土坑	近世	C6
SK33	08-D03	土坑	近世	C6
SK34	08-D06	土坑	近世?	D5
SK35	08-D15	土坑	不明	C5
SK36	08-D18	土坑	不明	B5
SK37	08-D20	土坑	不明	C6
SK38	08-D22	土坑	不明	C4
SK39	08-D23	土坑	不明	B4
SK40	08-D24	土坑	不明	C4
SK41	08-D26	土坑？	不明	C4
SK42	09-FP1・2	炉穴	縄文	I4
SK43	09-FP3	炉穴	縄文	D5
SK44	09-FP4	炉穴	縄文	D5
SK45	09-FP5	炉穴	縄文	D5
SK46	09-P01	土坑	縄文	G5
SK47	09-D03	土坑	平安	I3
SK48	09-D11	土坑	平安	H4
SK49	09-D08	土坑	近世	H4
SK50	09-D32-1	土坑	近世	F6
SK51	09-D32-3	土坑	近世	I4
SK52	09-D31	土坑	近世？	G4
SK53	09-D05	土坑	近世	G5
SK54	09-D01	土坑	近世?	I4
SK55	09-D04	土坑	不明	G4

新No.	地点-旧No.	種類	時期	ｸﾞﾘｯﾄﾞ
SK56	09-D06	土坑	近世	I4
SK57	09-D07	土坑	近世	H4
SK58	09-D10	土坑	近世	H4
SK59	09-D30	土坑	不明	F5
SK60	09-D32-2	土坑	不明	F4
SK61	12-FP1	炉穴	縄文	F3
SK62	12-FP2	炉穴	縄文	E2
SK63	12-FP3	炉穴	縄文	F2
SK64	12-FP4	（欠番）		
SK65	12-FP5	（欠番）		
SK66	12-FP6･7	炉穴	縄文	B3
SK67	12-D07	陥し穴	縄文	E2
SK68	12-D08	陥し穴	縄文	G3
SK69	12-D04	土坑	平安	F3
SK70	12-D01	土坑	平安	F2
SK71	12-D02	土坑	平安	F3
SK72	12-D05	土坑	古代?	F1
SK73	12-D06	土坑	不明	E1
SK74	13-001	土坑	不明	J5
SK75	13-002	土坑	不明	J5
SK76	13-003	土坑	不明	J4
SK77	15-FP1	炉穴	縄文	I8
SK78	15-FP2	炉穴	縄文	I8
SK79	15-FP3	炉穴	縄文	I8
SK80	15-FP4･5	炉穴	縄文	I8
SK81	15-FP6	炉穴	縄文	I8
SK82	22-001	炉穴	縄文	K5
SK83	22-002	炉穴	縄文	K6
SK84	26-003	土坑	古墳？	J8
SK85	26-P3	土坑	近世	J8
SK86	26-P4	土坑	近世	J8
SK87	26-P5･P6	土坑	近世	J8
SK88	26-P7	土坑	近世	J8
SK89	28-SK51	陥し穴	縄文	L6
SK90	28-SK52	土坑		K7
SK91	28-SK07	（欠番）		
SK92	28-SK08	（欠番）		
SK93	28-SK09	（欠番）		
SK94	28-SK16	（欠番）		
SK95	28-SK53	土坑		L7
SK96	28-SK54	土坑		L7
SK97	30-SK01	小竪穴	縄文	M7
SM01	08-M03	古墳	平安	C6
SM02	08-1号塚	塚	近世	B6
SM03	08-2号塚	塚	近世	C6
SM04	09-1号墳	古墳	古墳	D5
SM05	11+20-古墳	古墳	古墳	O7
SM06	11-周溝	古墳	古代	P7
SM07	15-塚	塚	近世	I8
SM08	16-古墳	古墳	古墳	K6
SM09	27-001	古墳?	古墳?	O6
SM10	28-SD06	古墳	古墳	K6
SM11	28-SX02	古墳	古墳	L7
SO01	09-K01	炭窯	近世	E5
SO02	12-D03	炭窯	近世	E3
SX01	09-整形1	台地整形	近世	H4
SX02	09-整形2	台地整形	近世	G4
SX03L	15-整形	台地整形	近世	I8
SX03U	15-整形	台地整形	近世	I8
SX04	18･19-土塁	土塁	近世	N7
SX05	25-整形	台地整形	近世	M6
SX06	26-004	台地整形	近世	J8
SX07	28-SX01	土塁	近世	K6
SX08	28-SX03	畑跡	不明	K7
SX09	28-SD13	台地整形	近世	L7
SX10	07-No.なし	台地整形	近世	H3
SB01	07-032	柱穴列	近世?	I4
SB02	08-1･2掘立	掘立	近世?	C6

新No.	地点-旧No.	種類	時期	ｸﾞﾘｯﾄﾞ
SB03	08-3掘立	柱穴列	近世?	C6
SB04	09-4号掘立	（欠番）		
SB05	09-1号掘立	掘立	近世?	G4
SB06	09-2号掘立	掘立	近世?	G4
SB07	09-3号掘立	掘立	近世?	G4
SB08	09-5号掘立	柱穴列	近世?	I4
SB09	09-No.なし	柱穴列	近世?	G4
SD01	08-M01	溝	近世?	C6
SD02	08-M02	溝	近世?	C5
SD03	09-M03	溝	近世	H4
SD04	09-M04	溝	近世	H4
SD05	09-M21	溝	近世	H4
SD06	09-M01	溝	近世	G5
SD07	09-M02	溝	近世	G4
SD08	09-M05	溝	近世	G4
SD09	09-M07	溝	近世	G5
SD10	09-M06	溝	近世	G4
SD11	09-M08	溝	近世	F5
SD12	09-M09	溝	近世	F5
SD13	09-M10	溝	近世	I4
SD14	09-M11	溝	近世	F5
SD15	09-M12	溝	近世	G4
SD16	09-M13	溝	近世?	F4
SD17	09-M14	溝	近世	G5
SD18	09-M15	溝	近世?	G5
SD19	09-M16	溝	近世?	E5
SD20	09-M17	溝	近世	I4
SD21	09-M18	溝	近世	E5
SD22	09-M19	溝	近世?	E5
SD23	09-M20	溝	近世	E4
SD24	09-M22	溝	近世?	F4
SD25	09-M23	溝	近世?	D5
SD26	11-M01	溝	近世	O7
SD27	12-M01	溝	近世?	G3
SD28	12-M02	溝	近世	G3
SD29	12-M03	溝	近世?	F4
SD30	12-M04	溝	近世	F3
SD31	12-M05	溝	近世?	F3
SD32	12-M06	溝	近世?	E2
SD33	12-M07	溝	近世?	F2
SD34	12-M08	溝	近世?	E2
SD35	15-溝1	溝	近世	I8
SD36	15-溝2	溝	近世	I8
SD37	15-溝3	溝	近世	I8
SD38	15-溝4	溝	近世	I8
SD39	15-溝5	溝	近世?	I8
SD40	15-溝6	溝	近世	I8
SD41	15-溝7	溝	近世	I8
SD42	15-溝8	溝	近世?	I9
SD43	16-溝	溝	近世?	K7
SD44	18-No.なし	（欠番）		N7
SD45	19-溝	溝	近世?	N6
SD46	20-溝	（欠番）		
SD47	25-001	溝	近世?	N6
SD48	25-002	溝	近世?	N6
SD49	25-003	溝	近世?	N7
SD50	26-001	溝	近世?	J8
SD51	26-002	溝	近世?	J8
SD52	28-SD02	溝	近世	K6
SD53	28-SD03	溝	近世?	K6
SD54	28-SD05	溝	近世?	K6
SD55	28-SD11	溝	近世	L7
SD56	28-SD12	溝	近世	L7
SD57	28-SD14	溝	近世?	L6
SD58	28-SD15	溝	近世?	L6
SD59	28-SD21	溝	中近世	K7
SE01	07-009	井戸	近世	H4
SE02	07-024	井戸	近世	I3

第2章　検出した遺構と遺物

第１節　第7地点

１．概要

遺跡中央部の北側斜面近くの4,000㎡である。全測図を第5図に示す。西側は第12地点，南側は第９地点に接する。地点の大部分は北側に向く谷形斜面である。削り出された斜面と下部の平場全体が近世の台地整形遺構（SX10）である。調査区東端と南端には台地上の平坦部が若干残り，この部分にのみ古代の遺構がみられる。検出遺構は，縄文時代の炉穴１・陥し穴２，古代の土坑７，近世台地整形遺構１・建物跡１・井戸２・土坑９である。古代の土坑のうち，７基は小鍛冶に関わる遺構と推定される。

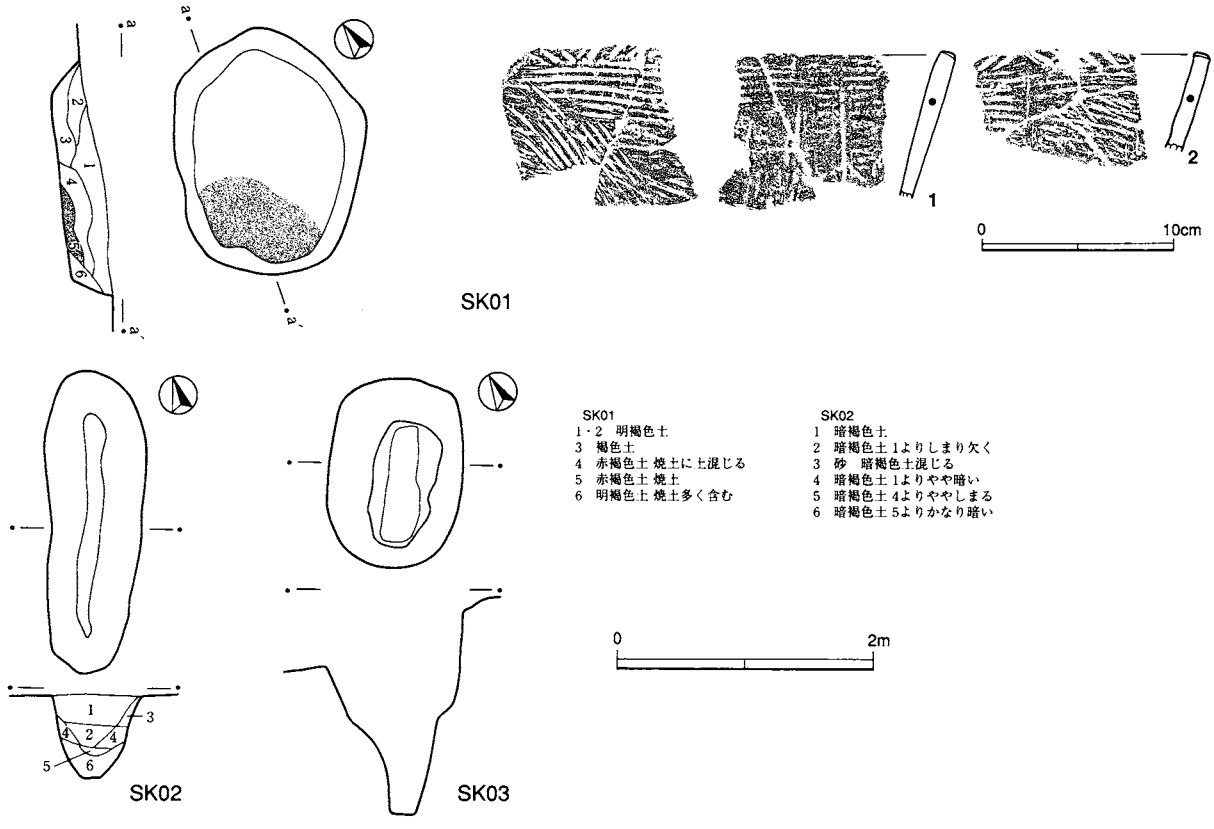
２．縄文時代

(1) 炉穴（第4図）（図版5･6）

SK01（036）　縄文時代早期後葉の炉穴である。楕円形で深さは約30cmを測る。底面はほぼ平坦で，南壁際に焼土が堆積している。焼土中から茅山式土器の細片が出土している。１・２は口唇部に刻み目をもつ内外面貝殻条痕文施文の土器であり，同一個体である可能性が高い。

(2) 陥し穴（第4図）（図版4）

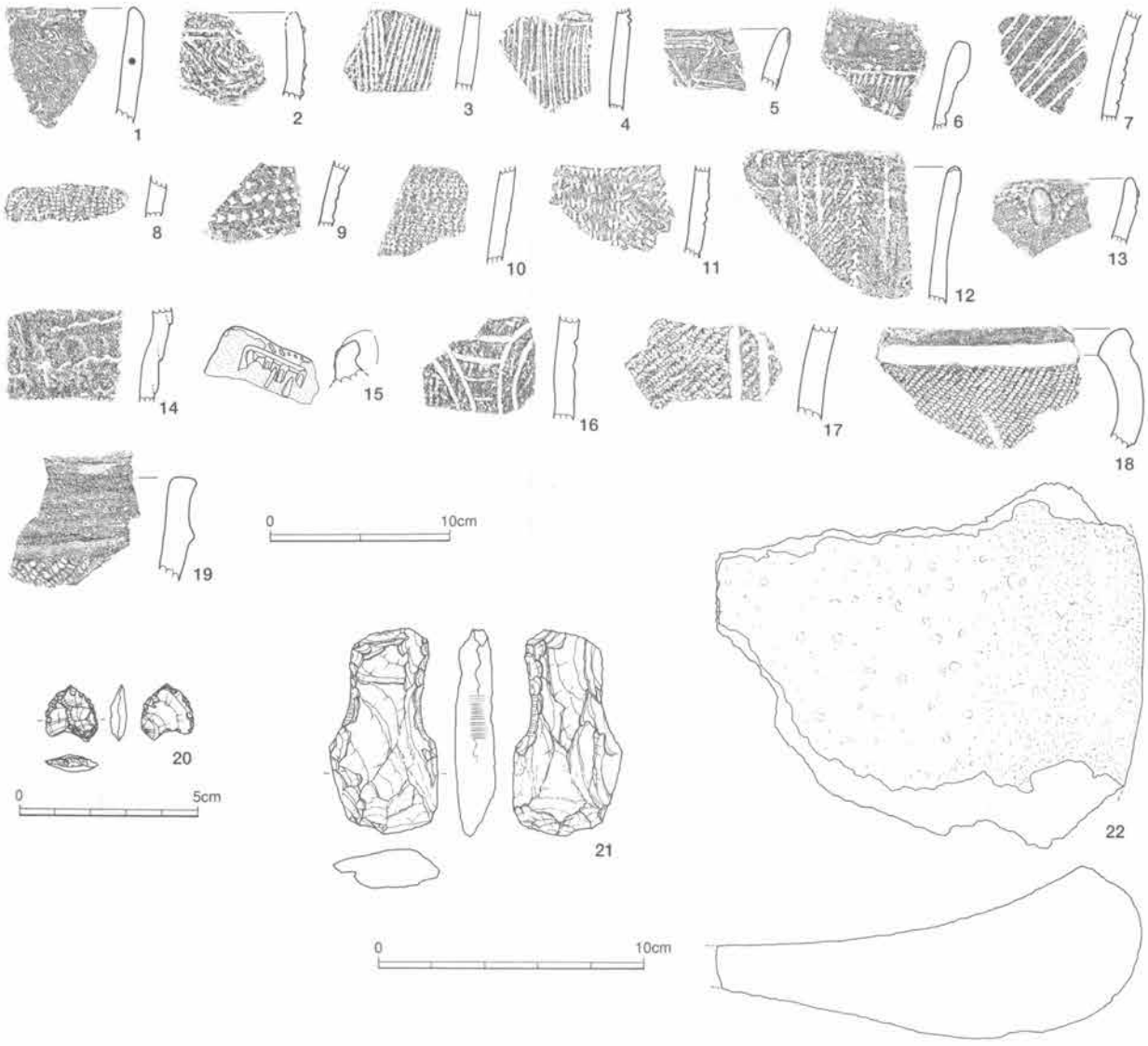
SK02（021）・SK03（026）　いずれも形状から縄文時代の陥し穴であろう。等高線に直交して設置されている。SK02は長軸2.4mの溝型，SK03は下部の長軸１mほどの楕円型である。上部はやや不整形に広がる。出土遺物はない。



第４図　縄文時代遺構（SK01～03）

1
2
3
4
A
B
C
D
E
F
SK19
SK18
SK01
SK17
SK10
SB01
SK09
SK06
SK14
SK07
SK05
SK08
SK04
SE02
SK03
SD03
SE01
SK15
SK13
SK12
SK11
SK16
SK02
20m
0

第5図　第7地点全体図



第６図　縄文時代遺構外出土遺物

(3) 遺構外出土遺物（第６図）（図版６）

早期後葉・前期後葉・中期中葉の土器19点と石器３点を掲載する。１は無文の繊維土器である。子母口式などが考えられる。２～11は前期後葉の土器である。２は結節浮文の土器で諸磯ｂ式，３・４は集合沈線文の諸磯ｃ式，５は鋸歯状沈線文の浮島Ⅰ式であろう。８は波状貝殻文，９は三角文の土器で浮島Ⅱ式からⅢ式。10は波状貝殻文を密に施文する。11は刺突による意匠文をもつ土器である。ともに興津式であろう。12は口縁上に縄文圧痕による刻みをもち，外面には縄文結束部の回転圧痕と，同じ原体による羽状縄文を施す前期末の土器である。13は阿玉台Ⅰａ式の口縁，14は阿玉台Ⅰｂ式の胴部である。15・16は勝坂・中峠段階の土器である。17～19は加曽利Ｅ式のキャリパー形土器である。17は加曽利ＥⅠ式，18は加曽利ＥⅡ式，19は加曽利ＥⅣ式であろう。

20は先端の鈍角な黒曜石製小型石鏃である。21は粘板岩製の打製石斧である。撥型と分銅形の中間的な形状をしており，幅の広いほうが刃部であろう。括れた部分には装着痕と思われる剥離の潰れがみられる。22は安山岩製の石皿片である。かなり大形で擦り面は両面にある。

3．平安時代

(1) 土坑（第7図）

SK04（010）（図版3・7） 径1.2mの土坑から約9.3kgのスラグ・小鉄塊と羽口が出土している。廃滓坑であろう。1・2層が土坑の堆積土であり，部分的に焼土がみられた。周囲の掘り込みは遺構とは思えない。出土遺物はほかに灰釉瓶，土師器椀，甕，土玉，砥石がある。他に近世の焙烙が流れ込んでいた。

SK05（011）（図版3） スラグが出土した円形土坑である。製鉄に関係する遺構であろう。

SK06（012）（図版3） 円形の土坑である。SK04·SK05に近接しており，同様に製鉄に関係する遺構であろう。

SK07（013） 不整形の掘り込みからスラグが出土した。製鉄関連の遺構の可能性があるものとみて掲載した。

SK08（030）（図版5） スラグが出土した円形土坑である。製鉄に関係する遺構であろう。

SK09（031） 擂り鉢状の掘り込みからスラグと土師器小片が出土した。製鉄関連の遺構の可能性があるものとみて掲載した。

SK10（016）（図版4・7） やや歪な円形に近い土坑である。底面はかなり傾斜しており，壁・底とも凹凸がある。ただし，6・7層は底面下の可能性がある。土師器の長頸壷（1·3）と甕（2）が暗褐色土中から出土した。

(2) 遺構外出土遺物（第8図）

1～8は平坦面の南側斜面から出土した。近世の台地整形に伴って多くの遺構が破壊され,一部の遺物が斜面に堆積した可能性が高い。8は灰釉の手付瓶である。このほかに遺構に伴わないスラグ・小鉄塊が多量に出土している。とくに多いのは近世に記載したSX10の斜面部の約5.3kg，SX10下部平場の0.8kgであり，台地上から斜面に存在した古代の製鉄関連遺構が近世に破壊され，斜面に流れ込んだものと考えられる。そのほかでは2E区で0.3kg，3F区で0.9kg出土した。4D区でも若干出土している。

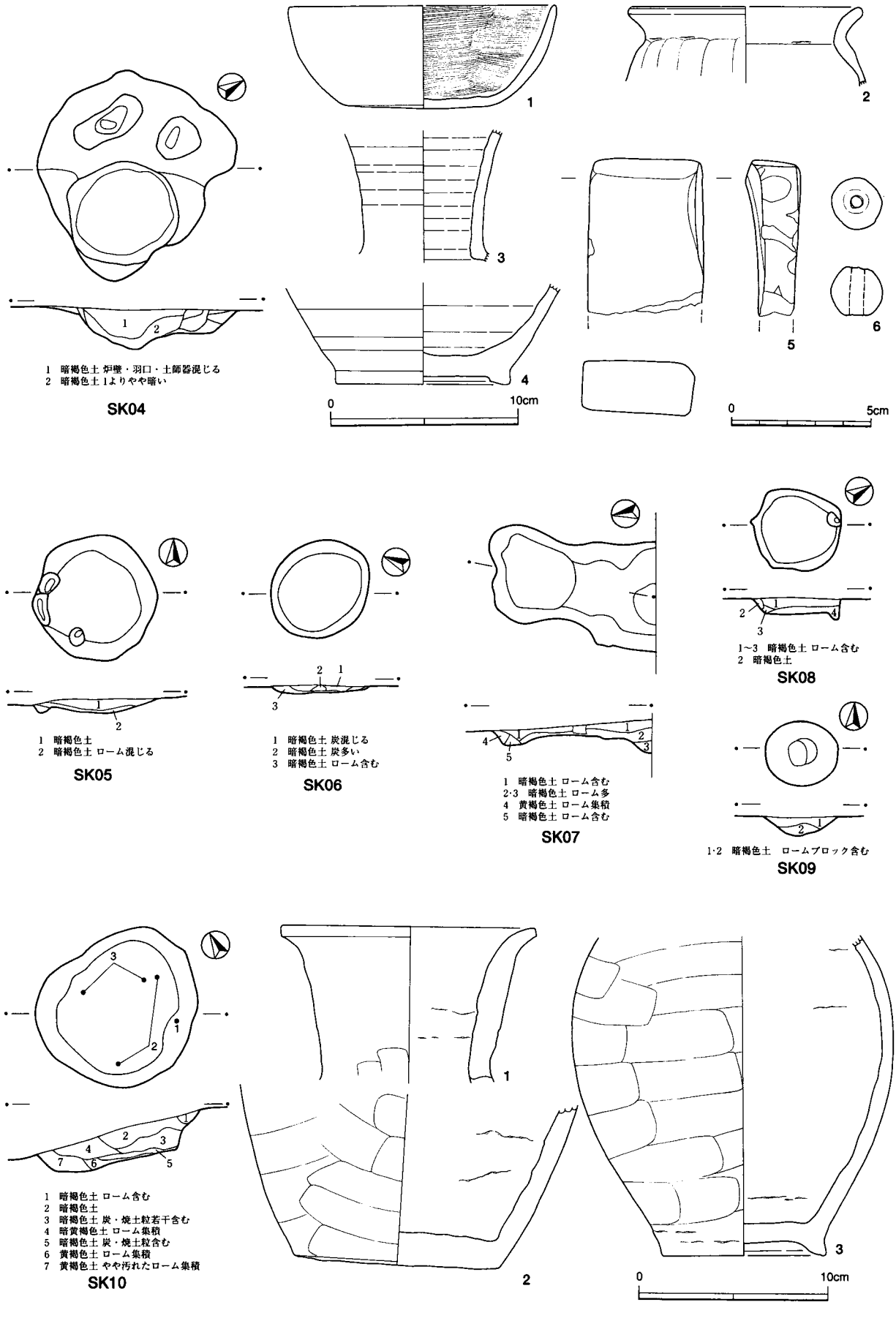
4．近世

近世の遺構と時期不明の土坑を取り上げる（第7～14図）。

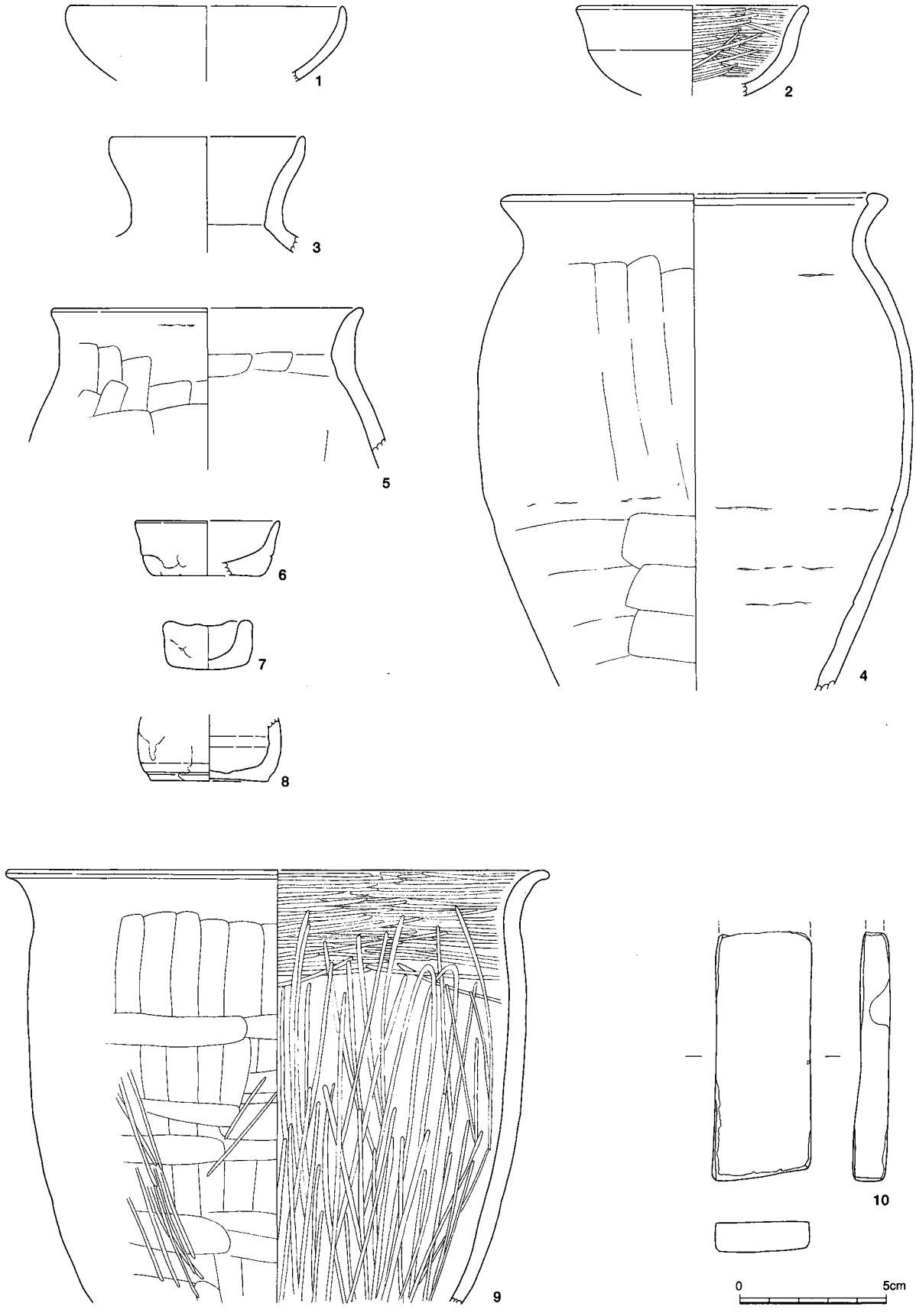
SB01（032）（図版5） 5本の柱穴を検出した。南北に並ぶ3本は浅く,ほかの2本は深い。出土遺物は皆無であり,近世とする理由もない。建物の可能性は低そうである。

SK15（020）（図版4） 擂り鉢状の穴に多数の陶磁器が入っていた。掲載したのは，堺擂り鉢（1），瀬戸・美濃染付端反碗2点（10·11）・陶器香炉（2）・徳利（3），肥前青磁鉢（15）・染付猪口3点（5～7）・鉢（14）・碗蓋（8）・端反碗（9）・小皿2点（12・13）・水滴（16），陶器徳利（4），土師質土器鉢（17）・焜炉（18）である。17世紀から18世紀の遺物が中心であり，19世紀のものもみられる。3は17世紀後半～18世紀前半，5～7は18世紀代，12・13は18世紀代，8は18世紀後半，9～11・14・15は19世紀代に比定される。土坑の位置は斜面の途中であり，上部から流れ込んだものが多かったと考えられるほか，断面図にみえる大きな攪乱に紛れ込んだものもあると思われる。遺構の性格は不明といわざるを得ない。

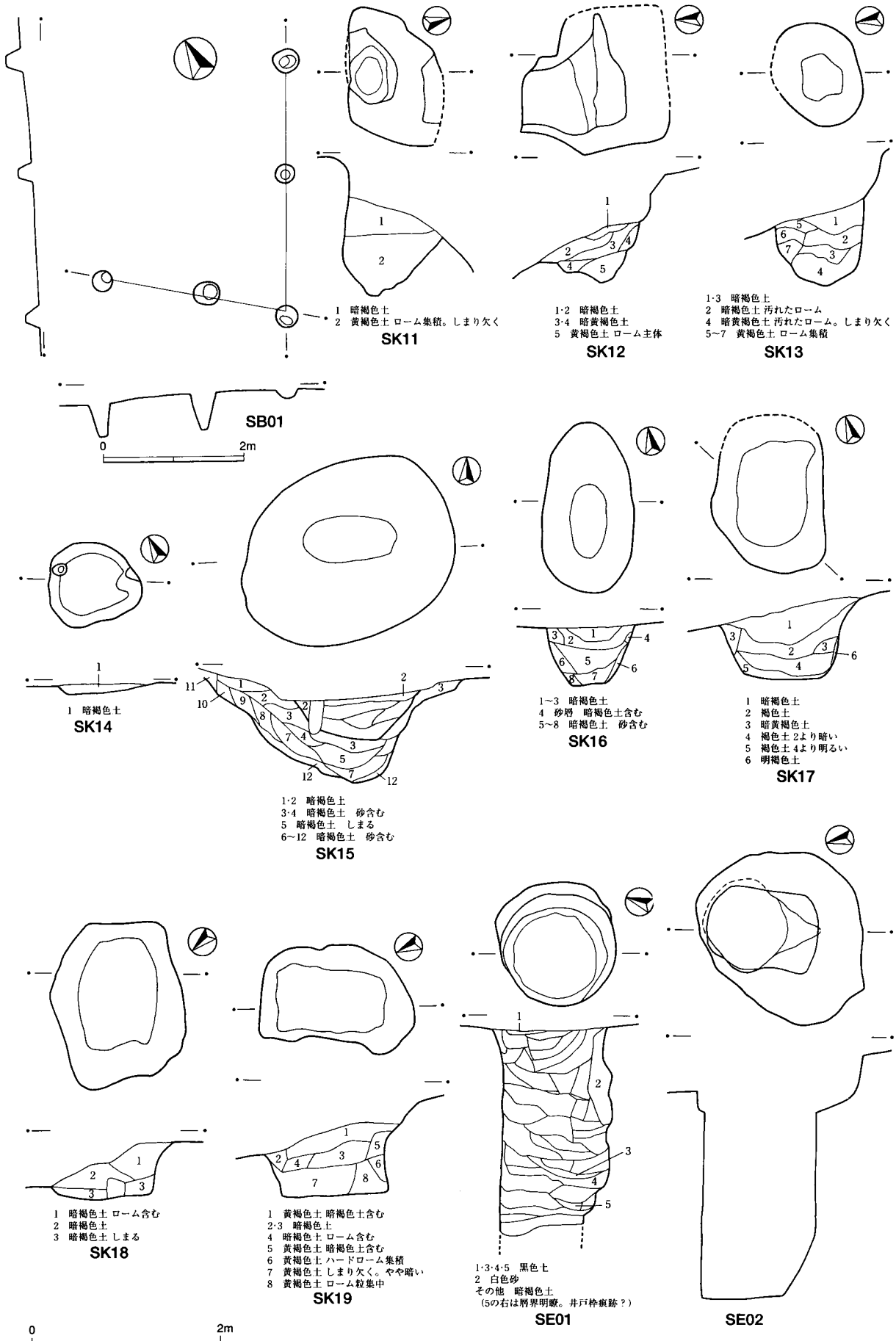
SE01（009）（図版3） 円筒形に掘り込まれた井戸である。深さ2.5mまで調査したが,底に達していない。さらに1mほどありそうとの所見がある。覆土下部にはアサリ主体にバカガイ・オオタニシを含む貝層が形成され,多くの陶磁器を伴う。調査した最下部に近かったと思われる。覆土は，ほとんどが暗褐色土であ



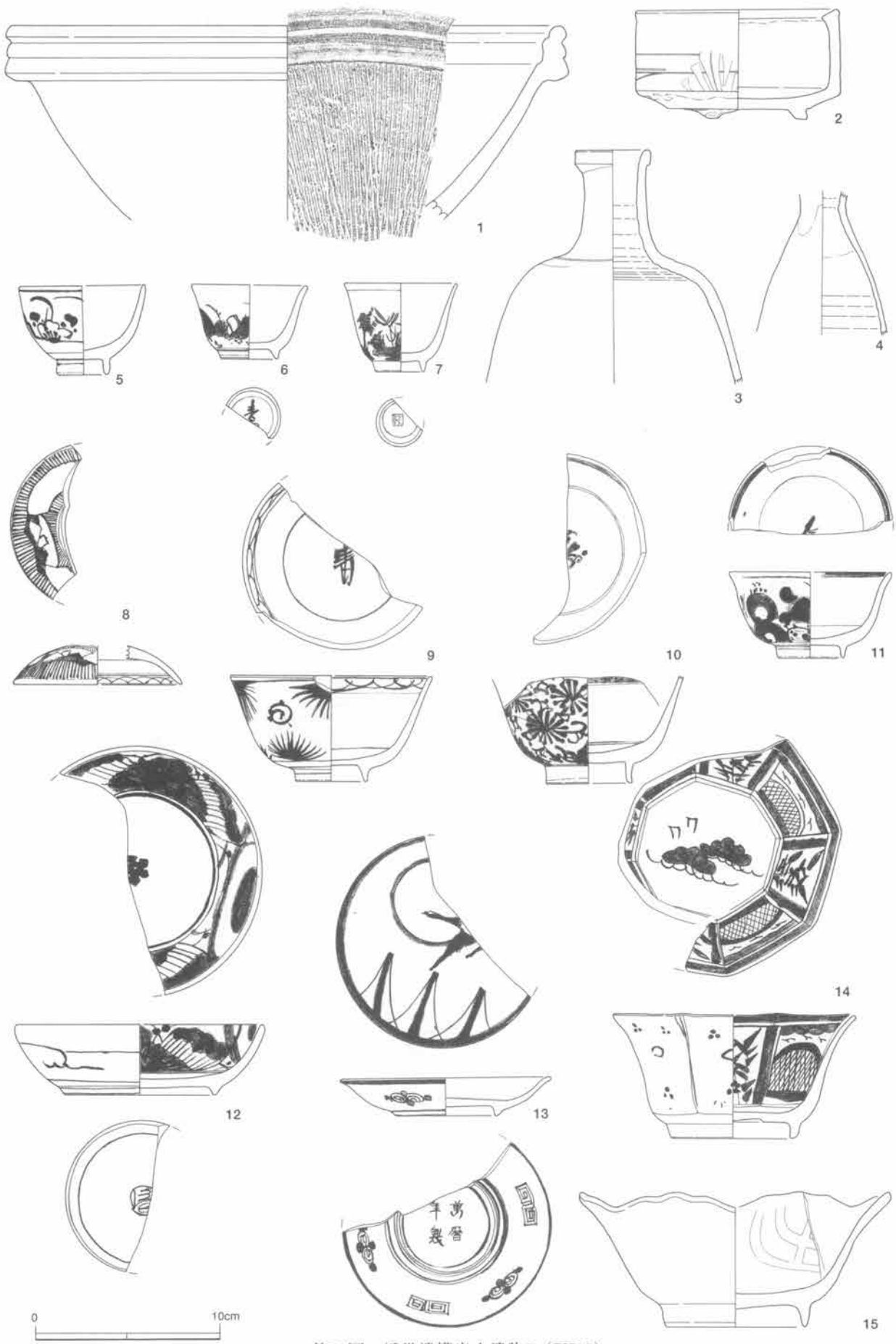
第7図　古代遺構（SK04～10）



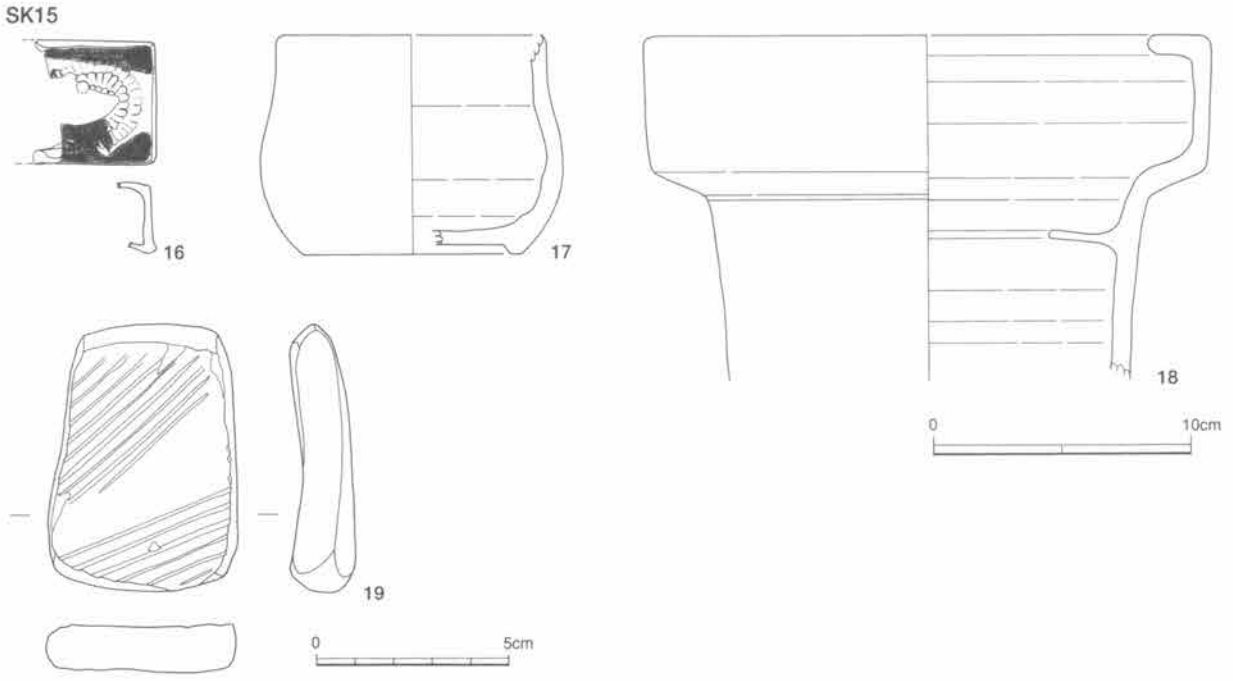
第８図　古代の遺構外出土遺物

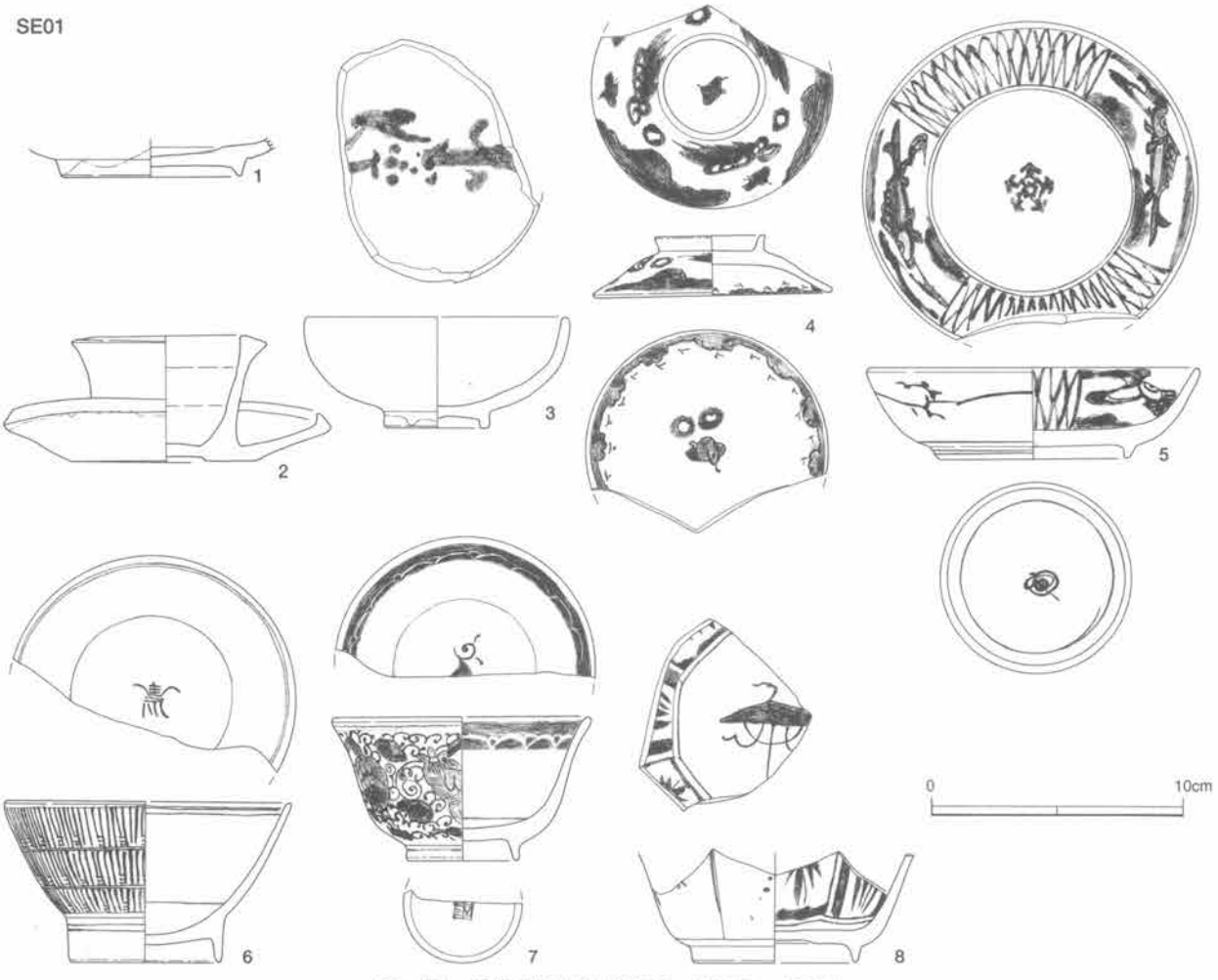


第9図 近世遺構（SB01，SK11~19，SE01・02）

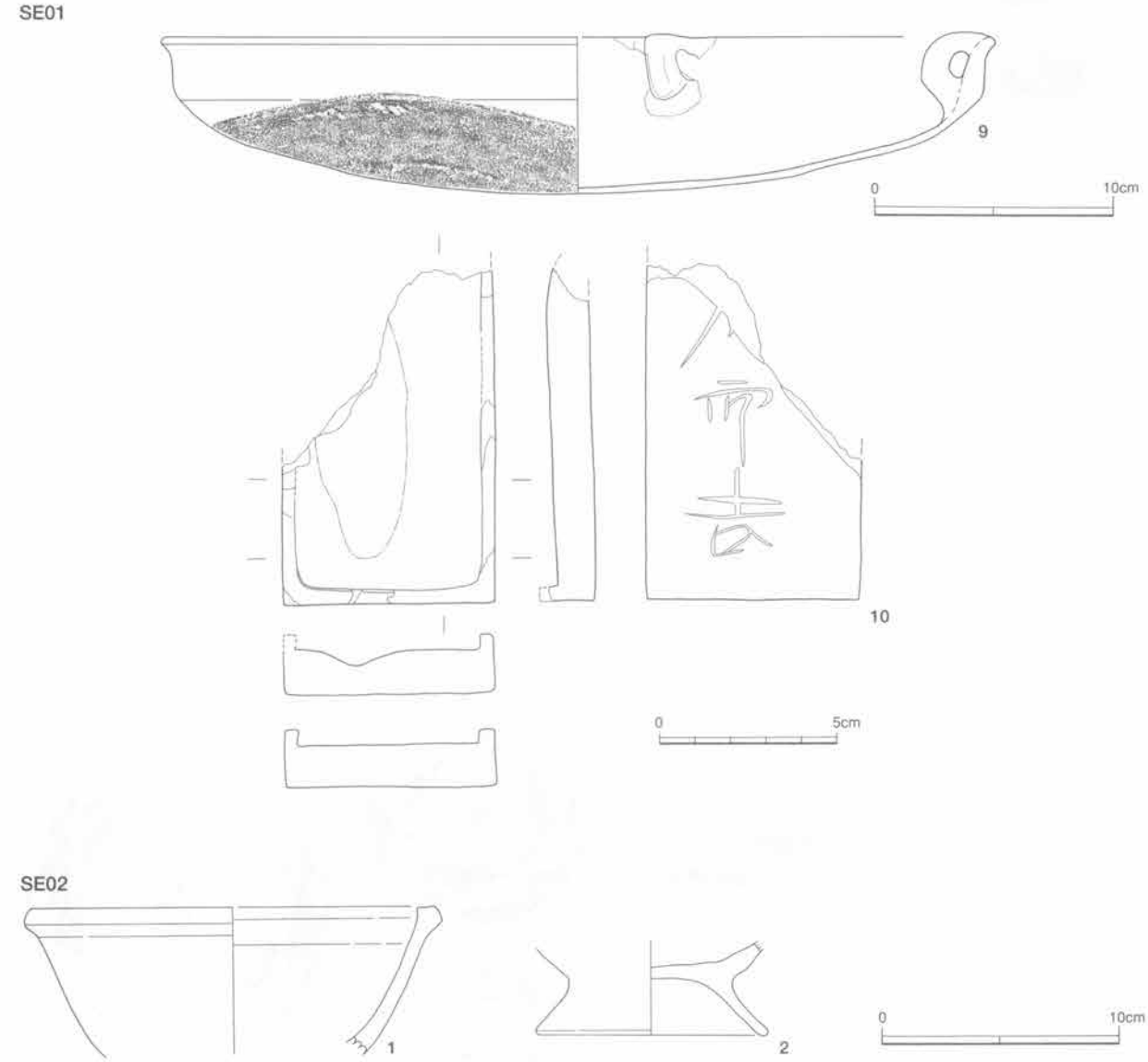


第10図　近世遺構出土遺物1（SK15）





第11図　近世遺構出土遺物2（SK15・SE01）



第12図　近世遺構出土遺物3（SE01・02）

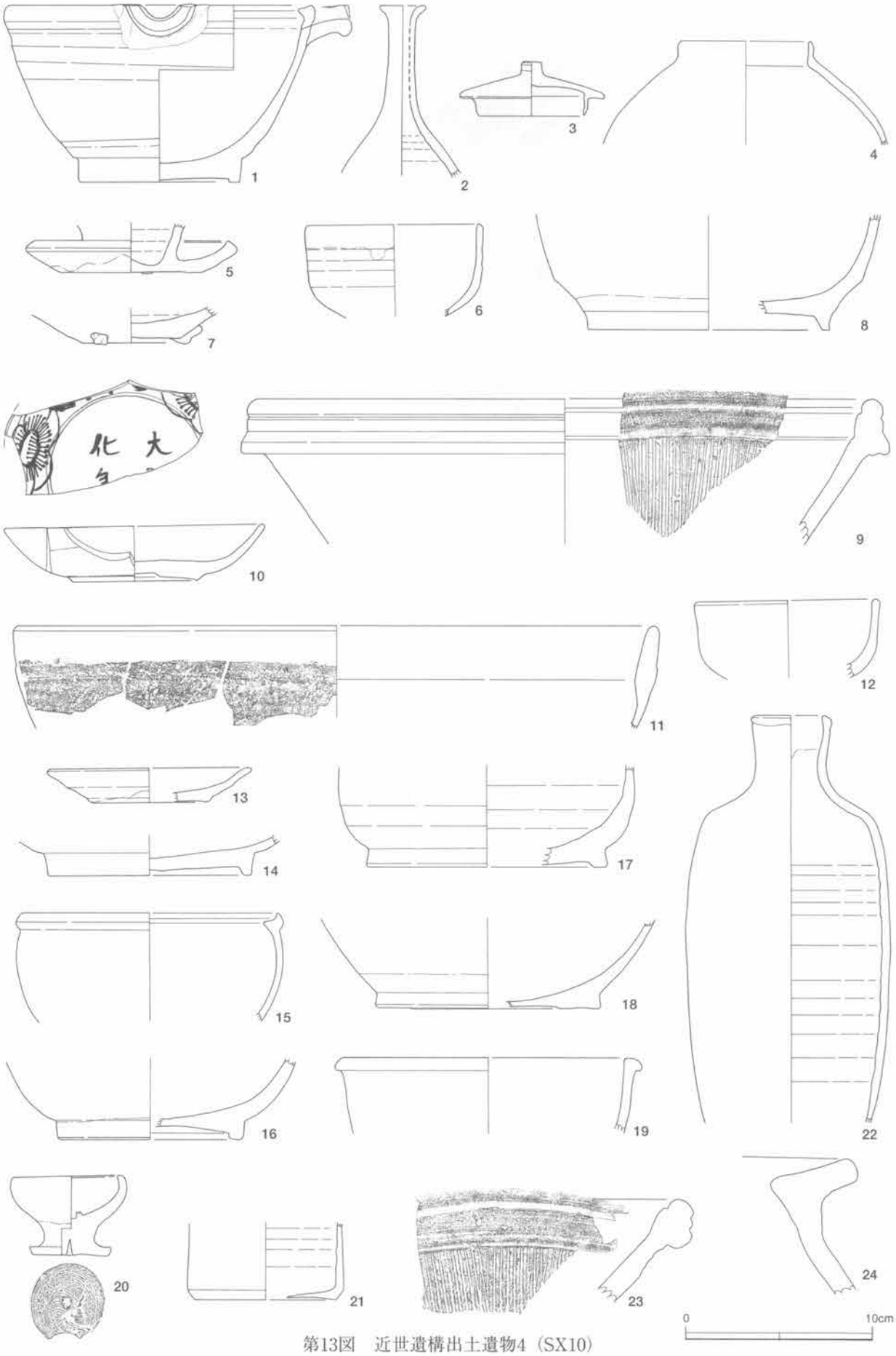
り，それ以外の部分を注記で示した。下半の地山は白色砂層である。掲載遺物は瀬戸・美濃陶器灯明具（2）・皿２点（1･3），染付磁器端反碗（7），肥前染付八角鉢（8）・蓋（4）・広東碗（6）・小皿（5），焙烙（12）である。２は18世紀前半，3･4･6は18世紀後半，1･5･8も18世紀代，７は19世紀代に比定される。

なお，台地上のSX01から斜面に向かう溝SD03は，SEO1の部分で途切れており，井戸に降りるための道，階段として機能していたものと考えられる。

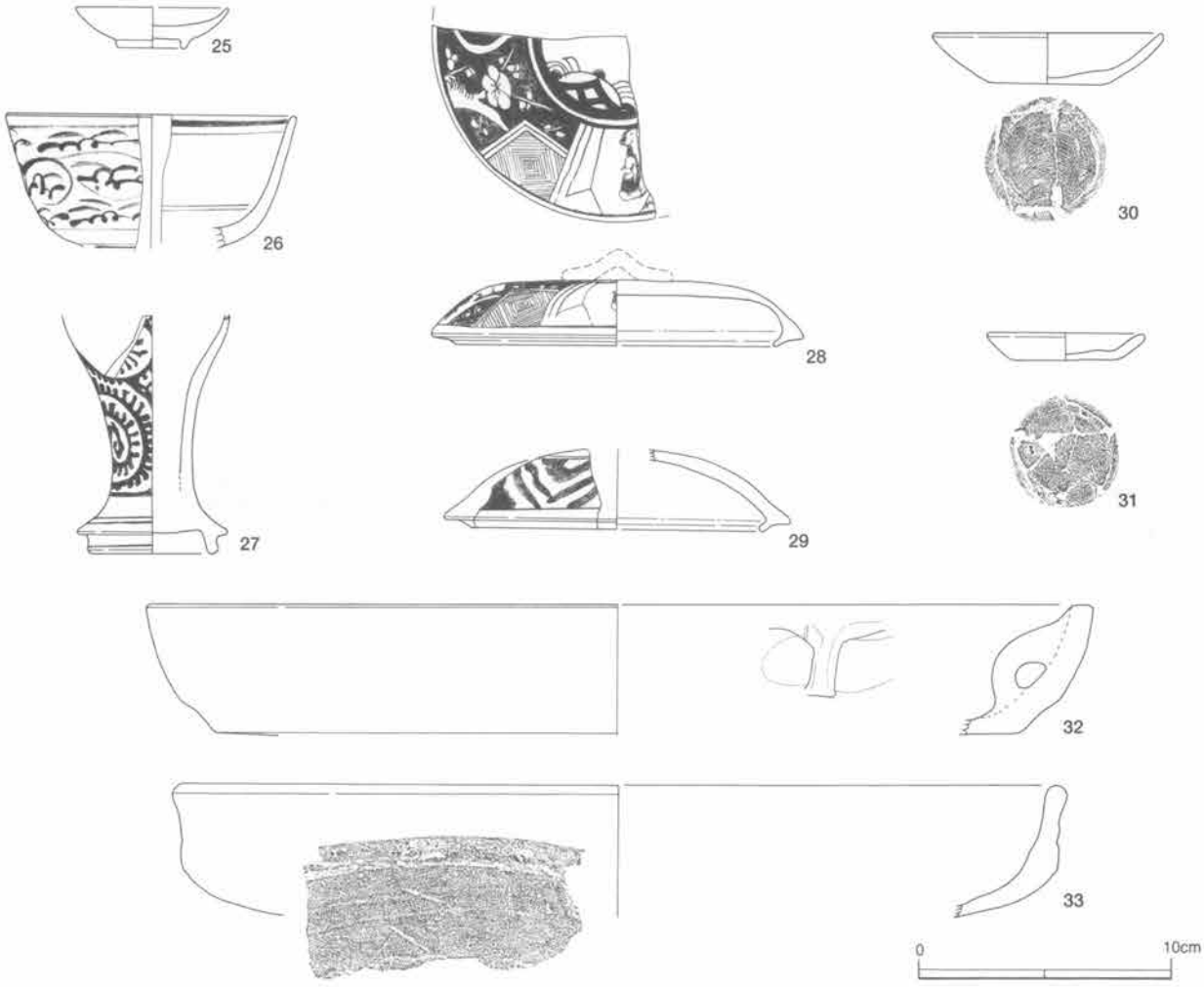
SE02（024）（図版４・７）　深さ2.5ｍの円筒形に掘りこまれた井戸である。地山が砂層で，覆土には砂や暗褐色土が入る。上面出土の骨は現世のものと判断した。瀬戸･美濃陶器片口は18世紀後半のものである。

SK14（019）　ごく浅く小さな掘り込みである。覆土に焼土・炭が混じる。位置から古代の製鉄関連遺構であった可能性がある。

SK19（035）（図版５）　掘り込みは長方形に近く底は平坦である。土師器小片とスラグが出土した。製鉄関連の遺構の可能性もあるが，ごく新しい掘り込みに遺物が流れ込んだ疑いもつよい。



第13図　近世遺構出土遺物4（SX10）



第14図　近世遺構出土遺物5（SX10）

SK11（001）・SK12（002）・SK13（003）・SK16（022）・SK17（033）・SK18（034）　出土遺物がなく，時期・性格とも不明である。掘り込みは人為的なものと認められ，古代の遺構とされる可能性が残るものを念のため掲載した（図版３～５）。

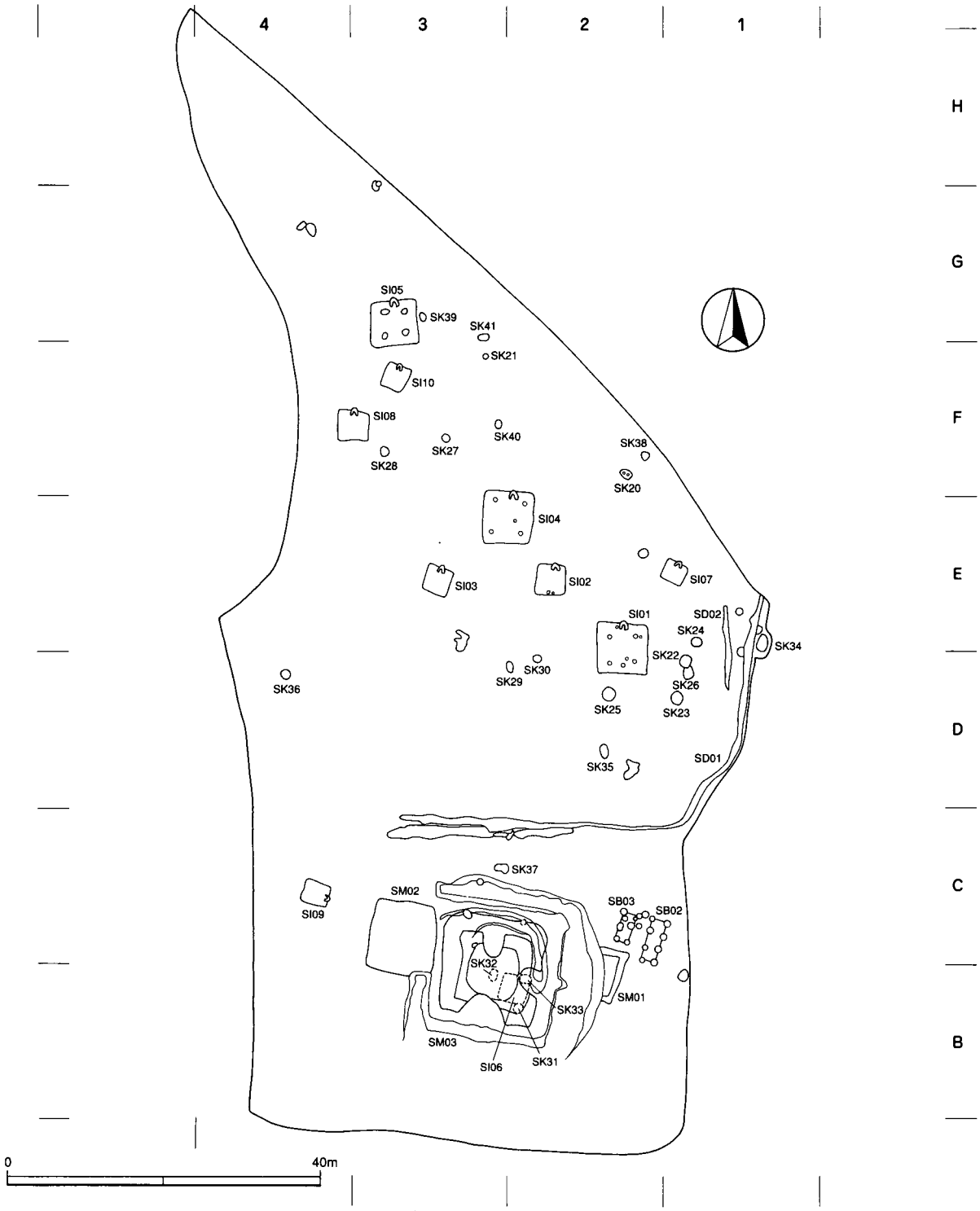
SX10（図版２・７）　斜面部に幅40m，奥行き25mほどの平場を形成した台地整形遺構である。調査時には遺構ナンバーをもっていなかったが，削り出した急斜面も含めてSX10というナンバーを付した。このなかには井戸や土坑があり，個別のナンバーをもつものについてはすでに記載した。

ここでは，整形遺構の概要と，個別に記載した遺構以外の平場や斜面の覆土から出土した多量の陶磁器について取り上げる。整形は，元からあった谷形斜面の内部を削ったものであろう。斜面は著しく急になり，谷の中に緩やかに傾いた平場を形成している。掲載遺物（第13図1～第14図33）は，瀬戸・美濃系では染付碗（26），陶器御室茶碗（12）・湯呑（６）・片口（1・16）・土瓶蓋（3）・半胴（8）・皿（13･14）・練鉢（17･19）・行平（15）・徳利（22）・秉燭（20）・灯明具（5）・香炉（7）がある。肥前系では白磁瓶（2）・皿（25）・色絵磁器段重蓋（28）・染付皿（10）・段重蓋（29）・徳利（27），陶器土瓶（4）・練鉢（18）・徳利（21）がある。また，堺産擂鉢（9・23），常滑産甕（24），土師質の小皿（30･31），焙烙（11･32･33）がある。17世紀から18世紀のものが中心だが，19世紀のものも混じっている。7・10・13・14は17世紀，1・6・9・12・17・20は18世紀代に比定される。

第２節　第８地点

調査区の西端にあたり，旧字名を井戸尻と呼ばれていた地点である。南側に泉支谷から別れた小支谷が入る。台地の南西側先端部はすでに削平されていた。北側は12地点，東側は第9地点と接する。なお，第９地点との間の未調査区は泉蔵寺と墓地である。

遺構の中心は古代の集落と近世遺構である。古代の住居跡は馬の背状の高い部分に点在し，墓地・泉蔵寺の地下にも続いている可能性が高い。近世の塚，土坑，建物跡は寺に関連するものであろう。



第15図　第8地点全体図

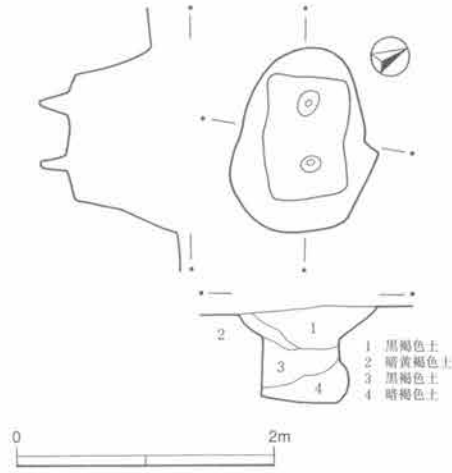
1．縄文時代

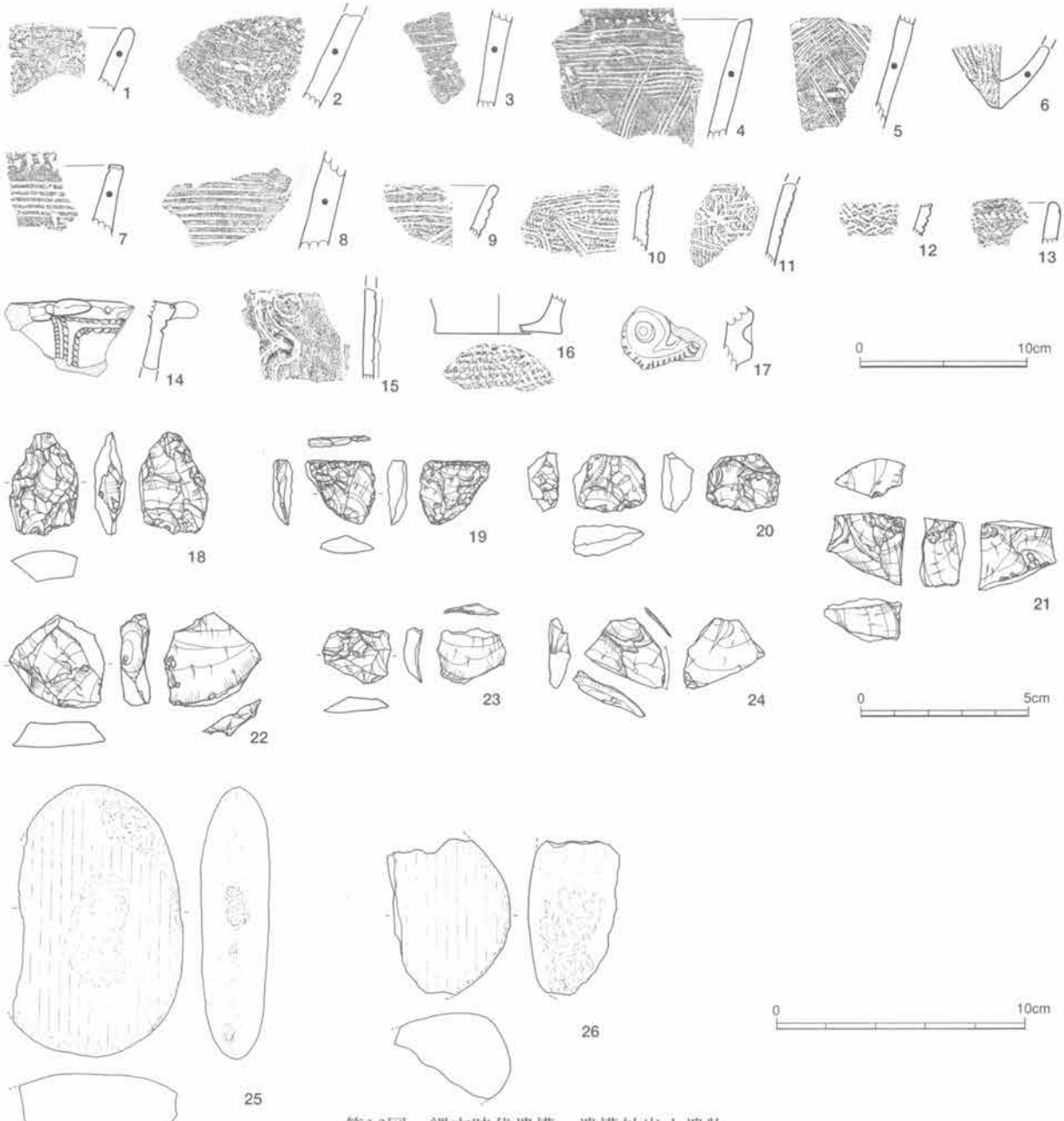
(1) 陥し穴（第16図）

SK20（D19）（図版16）　長方形の底面に2穴をもつ。

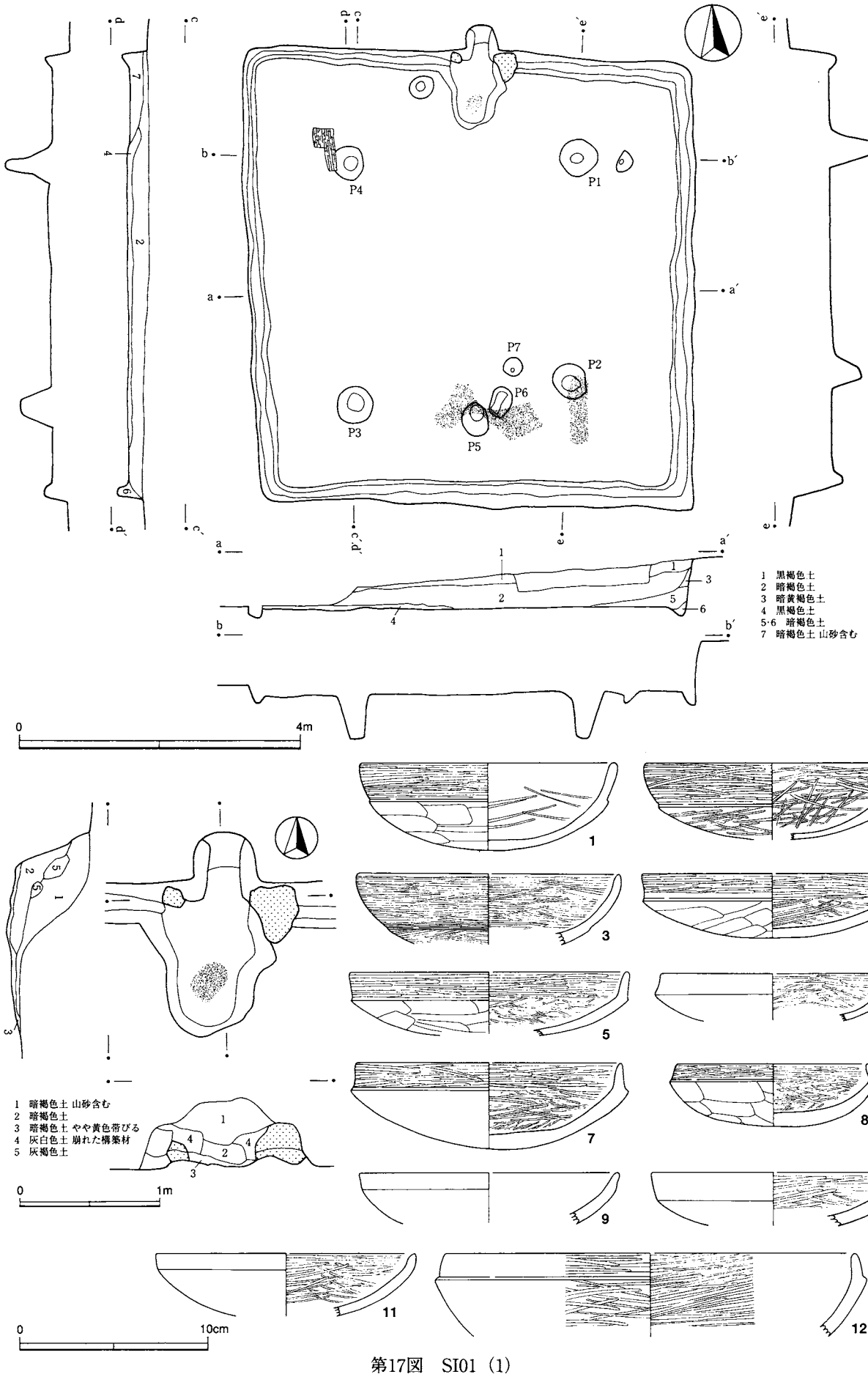
(2) 遺構外出土遺物（第16図，図版18）

1～8は早期後葉の繊維土器である。1～3は子母口式，4・5は鵜ヶ島台式であろう。9～11は前期後葉の諸磯式(9·10)，浮島式(11)である。12は中期五領ヶ台式，13～17は阿玉台式でⅠb式(13～15)とⅢ式(17)がある。18～24は黒曜石製。18は石鏃の未成品か。19·20は楔形石器，21は石核，22～24は剥片である。25は安山岩，26は砂岩製磨石である。

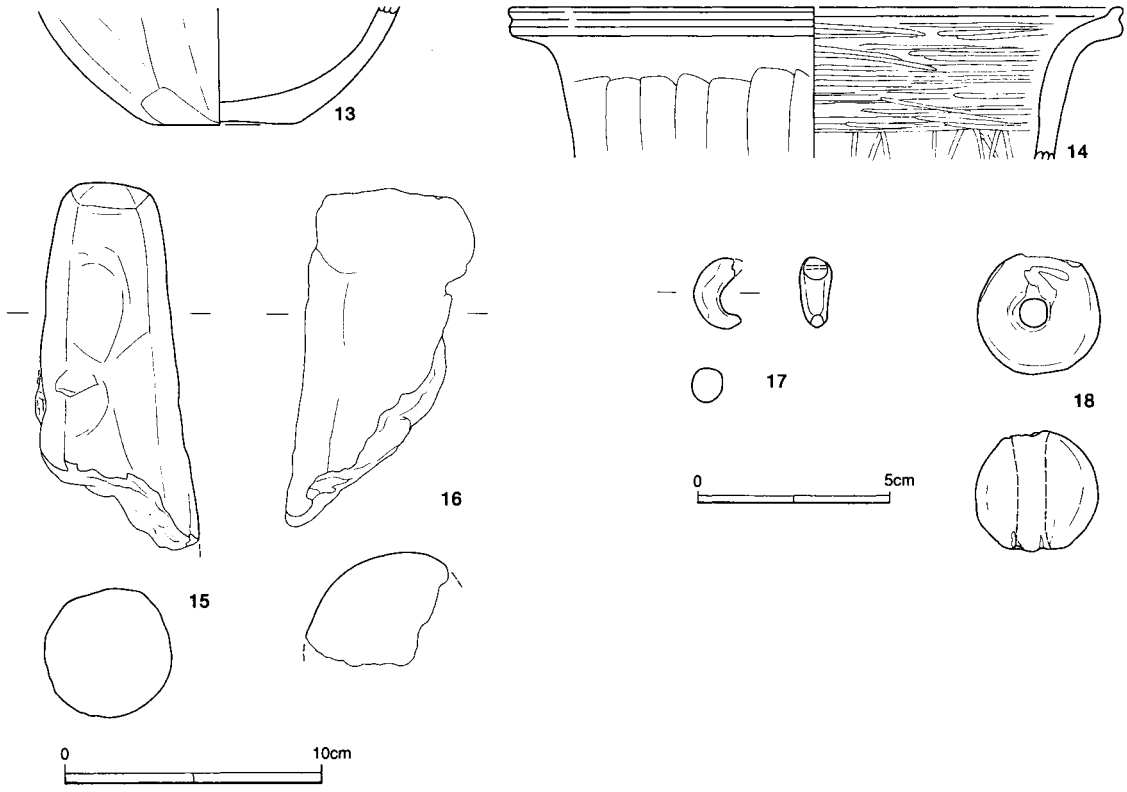




第16図　縄文時代遺構，遺構外出土遺物


P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
1 黒褐色土
2 暗褐色土
3 暗黄褐色土
4 黒褐色土
5·6 暗褐色土
7 暗褐色土 山砂含む
0 4m
1 暗褐色土 山砂含む
2 暗褐色土
3 暗褐色土 やや黄色帯びる
4 灰白色土 崩れた構築材
5 灰褐色土
0 1m
0 10cm

第17図　SI01（1）



第18図　SI01（2）

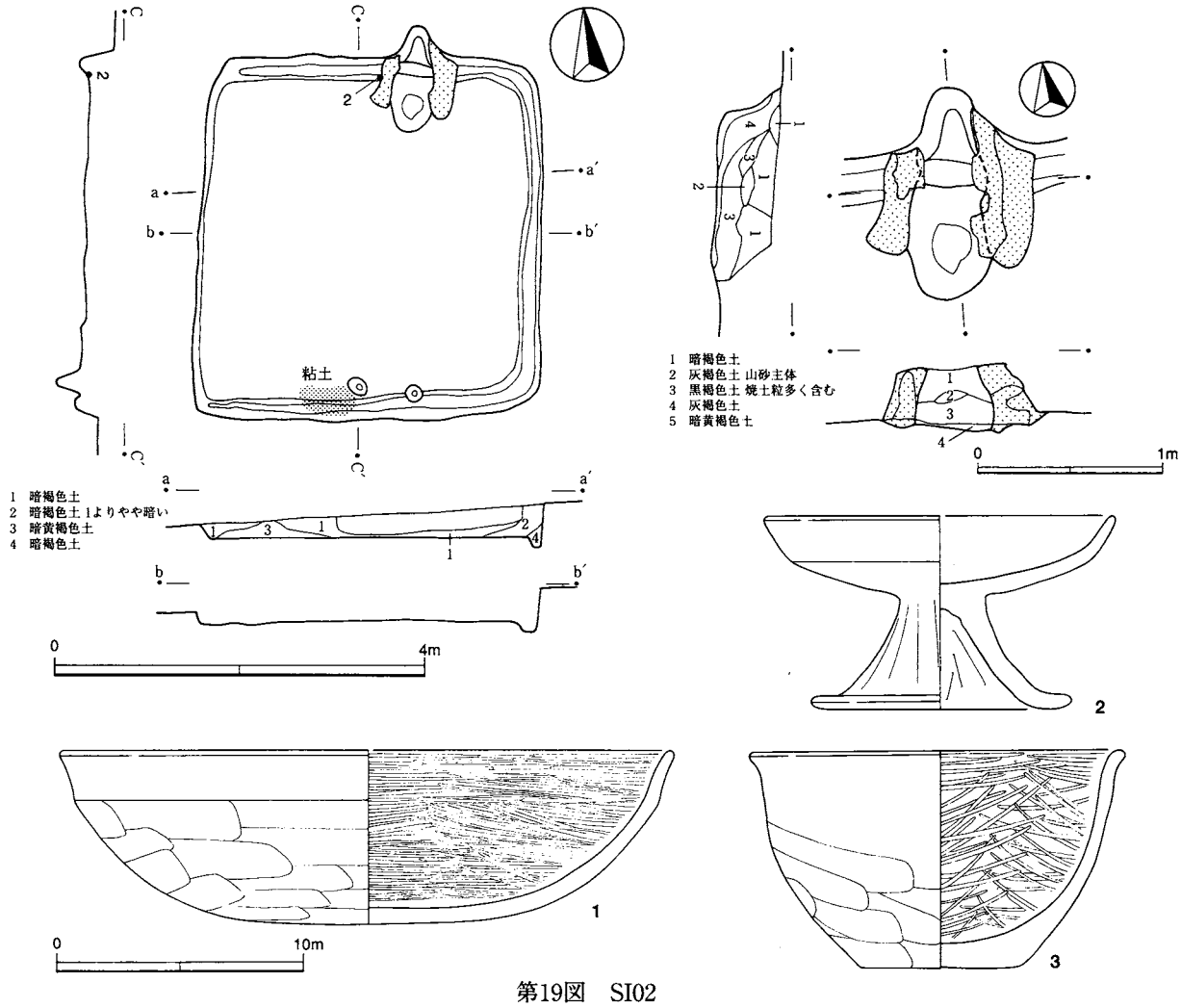
2．古墳時代

古墳時代後期の住居跡を5軒検出した（第17～25図）。

SI01（003）（図版8・19・23）　ほぼ正方形で，北壁中央にカマドをもち，南側に出入り口を設けた住居跡である。東壁は40cmあり，壁溝は全周する。主柱穴は4本である。上場が若干広がっており,廃絶時に柱材が抜かれた可能性が強い。一方，南壁側のP5は65cm，P6・P7は20cm未満の深さであり，P5とP6，あるいはP7も含めて出入り口施設であろう。カマドは袖のほとんどが失われていた。床面近くには焼土，炭化材がまばらにみられた。掲載遺物は土師器甕，杯12点，甑，支脚2点，土製勾玉，土玉，スラグである。完形土器は，1がP3付近の覆土下層，2が出入り口付近の覆土中層で出土した。支脚2点も出入り口付近である。破片資料が多く，床面付近出土の遺物が少ないことから，住居廃絶後に投棄されたものが多かったと考えられる。スラグは小片3点で14.9gある。

SI02（004）（図版9・19）　小型の住居跡である。カマドは北壁の中央よりやや東に寄った位置にある。袖の残りは良く，上部は遺構確認時に削ったものである。床面は平坦であるが全体に軟質で，カマド付近のみ若干踏みしめがみられた。壁溝は谷側にあたる西壁で欠くが，本来全周していたものであろう。ピットは小さく，深さ20～30cmと浅いものが南壁中央部に2つ検出されたのみで，主柱穴をもたない。なお，左側のピットの床面近くには灰白色粘土ブロックがみられた。土師器杯，高杯，鉢が出土している。1は大形の杯の破片資料，2は高杯の破片資料である。3は8割程度が遺存する鉢で，内面は磨かれ黒褐色を呈す。出土位置は特定できない。

SI03（005）（図版9・19・20・23）　小型の住居跡で主柱穴はみられない。カマド付近を中心に多くの出土遺物がある。カマドは北壁中心にあり比較的残りが良い。壁溝は谷側の西～南壁で欠く。これ以外の施

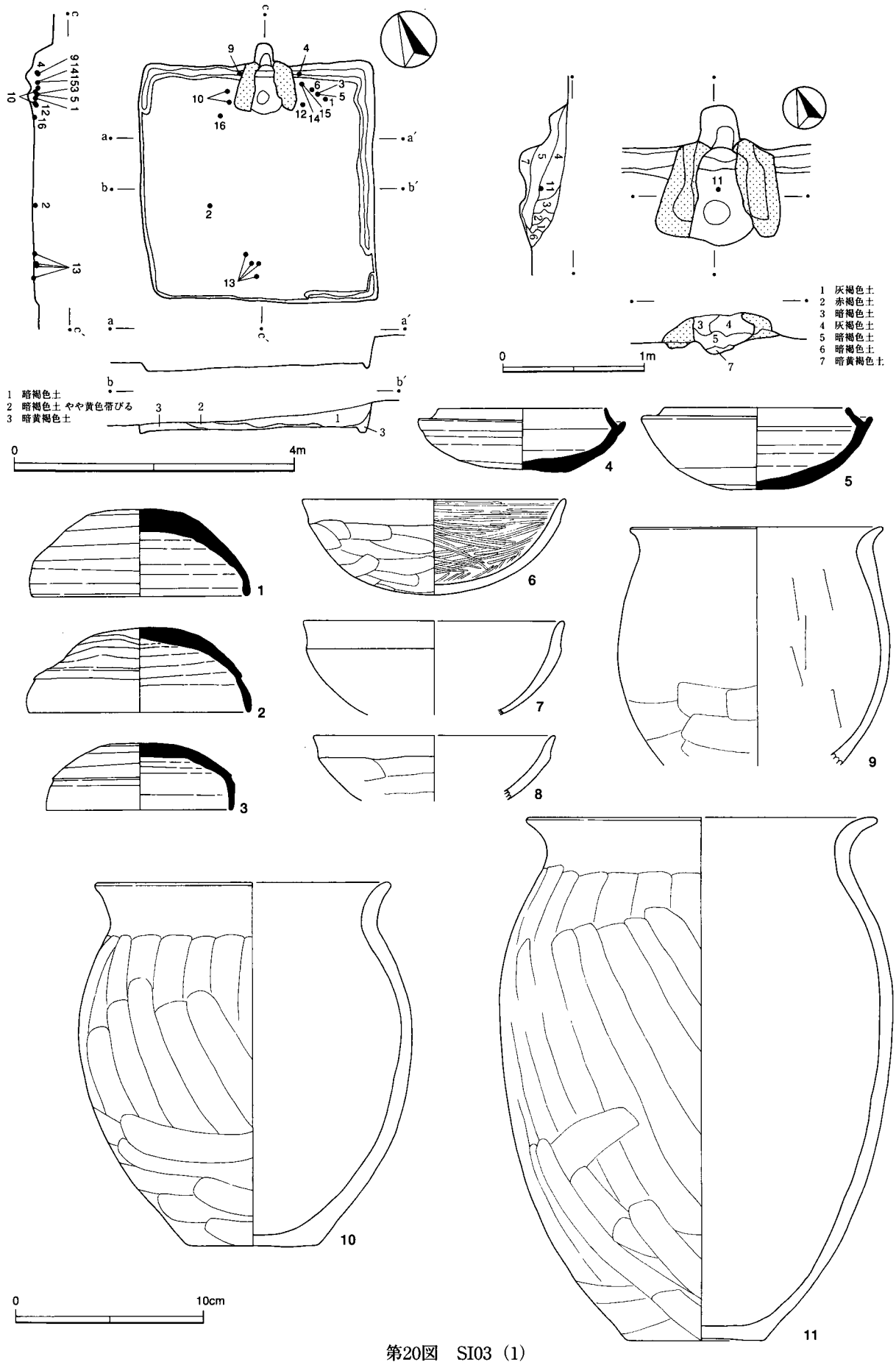


第19図　SI02

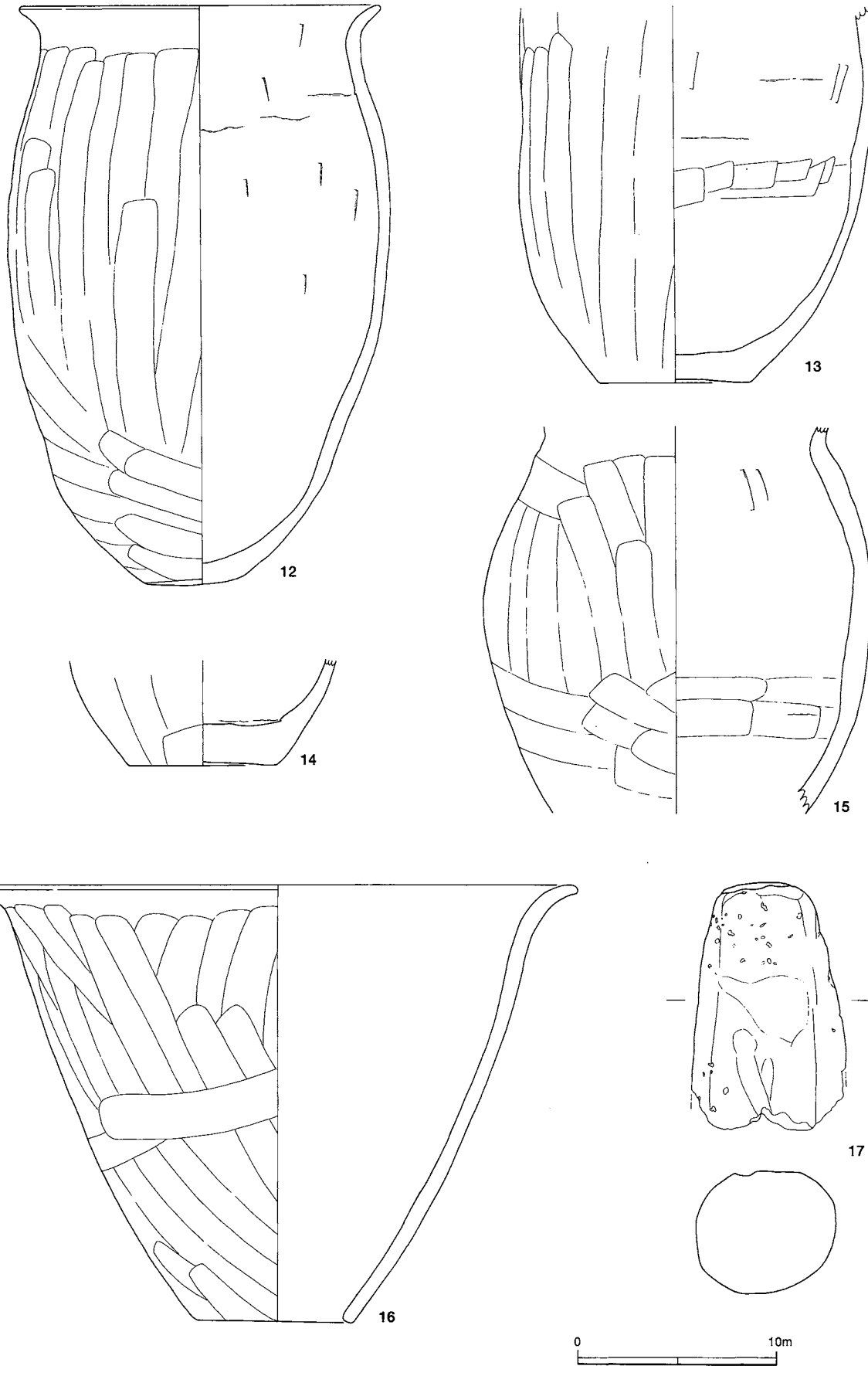
設は見つかっていない。床面が台地の傾斜に合わせて傾いているのは踏みしめが弱く,軟弱であったためであろう。遺構からは土師器甕7点，杯3点，甑，須恵器杯2点，蓋3点，支脚が出土している。カマド内に完形の甕（11）が入っていた。カマド右脇には完形の杯と杯蓋（1･3～6），完形の甕（12），破損した甕（14･15）が並んで出土した。3は5の上に逆さに重なっていた。14は15の下にあったが，別個体である。カマド左脇では完形の甑（16）と破損した甕（9･10）が出土した。

SI04（006）（図版9･20･21）　北壁のわずか東寄りにカマドをもつ住居跡である。4本の主柱穴と貯蔵穴をもつ。踏みしめや出入り口施設は不明である。壁溝は一部途切れているが，本来は全周していたものとみられる。土師器甕4点，杯8点，高杯4点，須恵器杯3点，蓋2点，支脚，軽石，スラグが出土している。このうち，須恵器（1～4）は東壁中央の壁際床面付近にまとまっていた。1～3は割れていたが完形に近く復元された。14は完形に近い高杯である。そのほかは，点数は多いものの破片資料であり，出土位置も分散的である。遺棄された可能性が高いものと，埋没中に廃棄されたものの両者が認められる。スラグは小片2点で13gである。

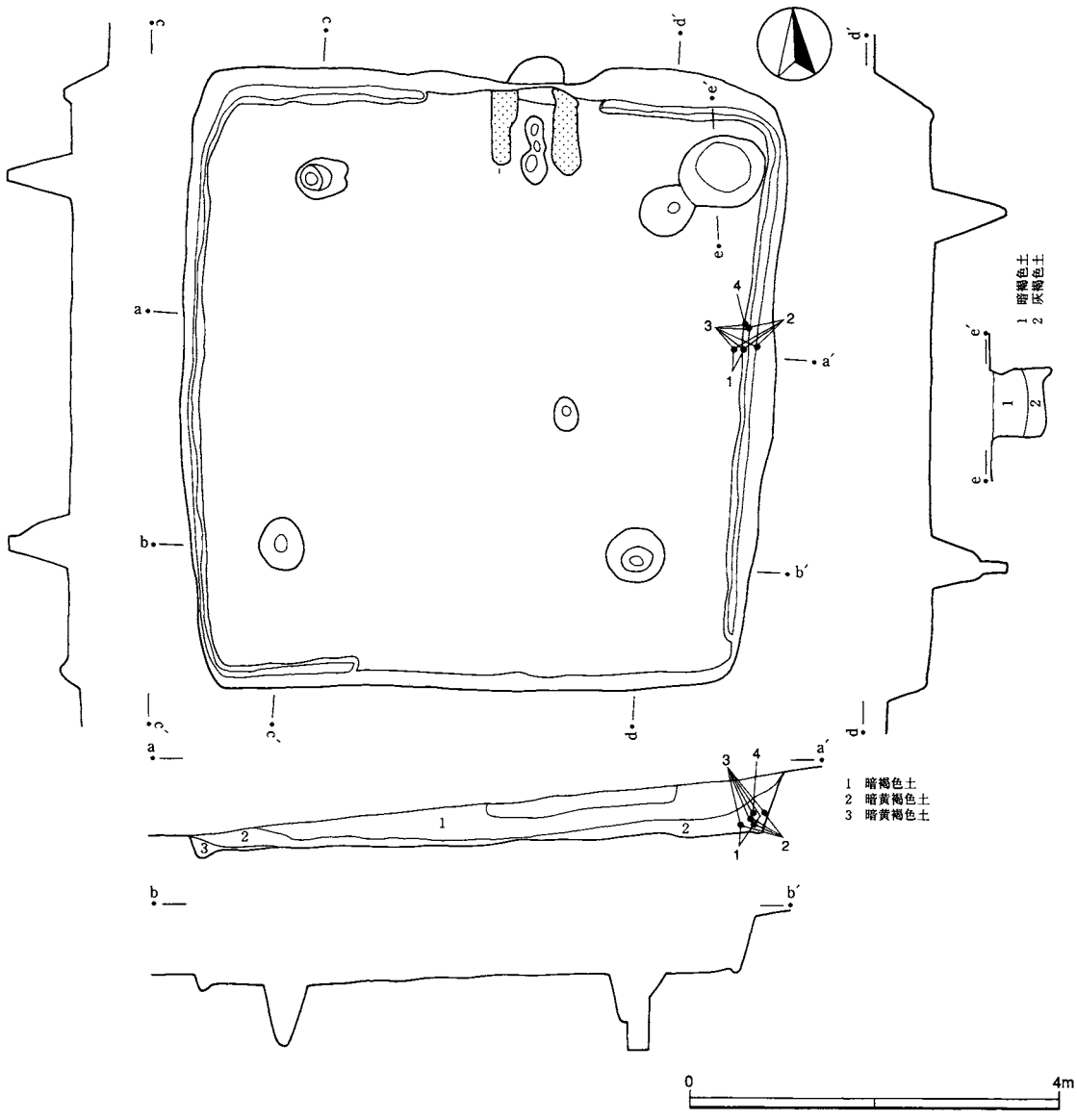
SI05（010）（図版11･21･23）　北壁中央にカマドをもつ住居跡である。4本の主柱穴と貯蔵穴をもつ。壁溝は全周する。主柱穴は底面付近の直径が20cmであるのに対して，上部が著しく広がっている。これは柱が抜き取られた痕跡であろう。出土遺物は比較的多く，土器14点，支脚1点，軽石1点を掲載した。完

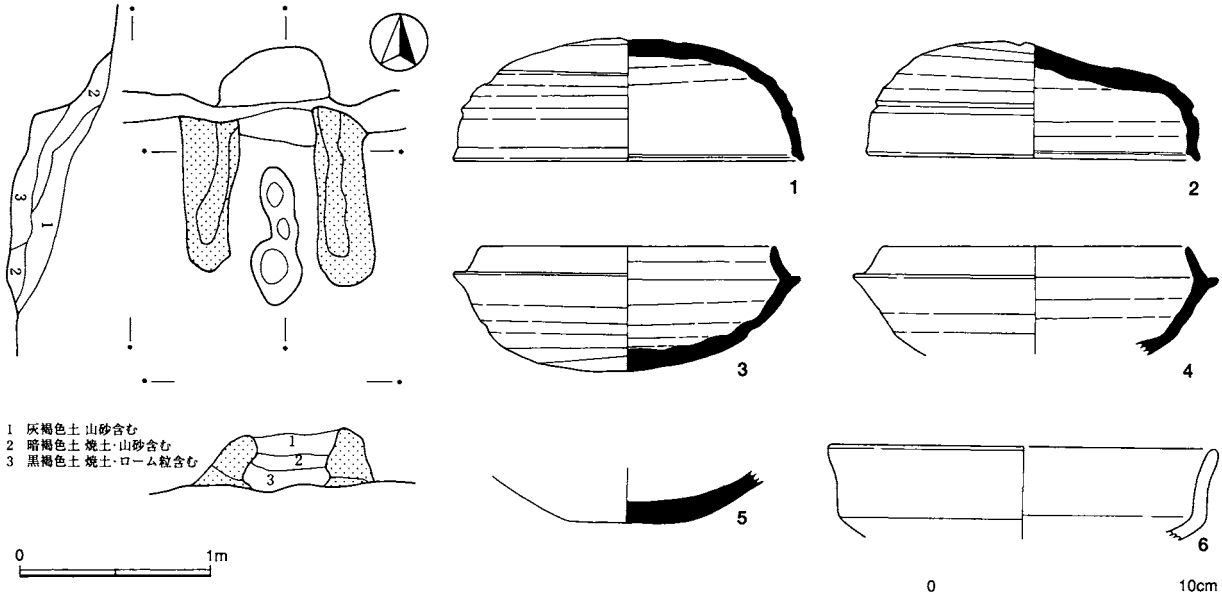

1 暗褐色土
2 暗褐色土 やや黄色帯びる
3 暗黄褐色土
0
4m
1 灰褐色土
2 赤褐色土
3 暗褐色土
4 灰褐色土
5 暗褐色土
6 暗褐色土
7 暗黄褐色土
0
1m
0
10cm

第20図　SI03（1）

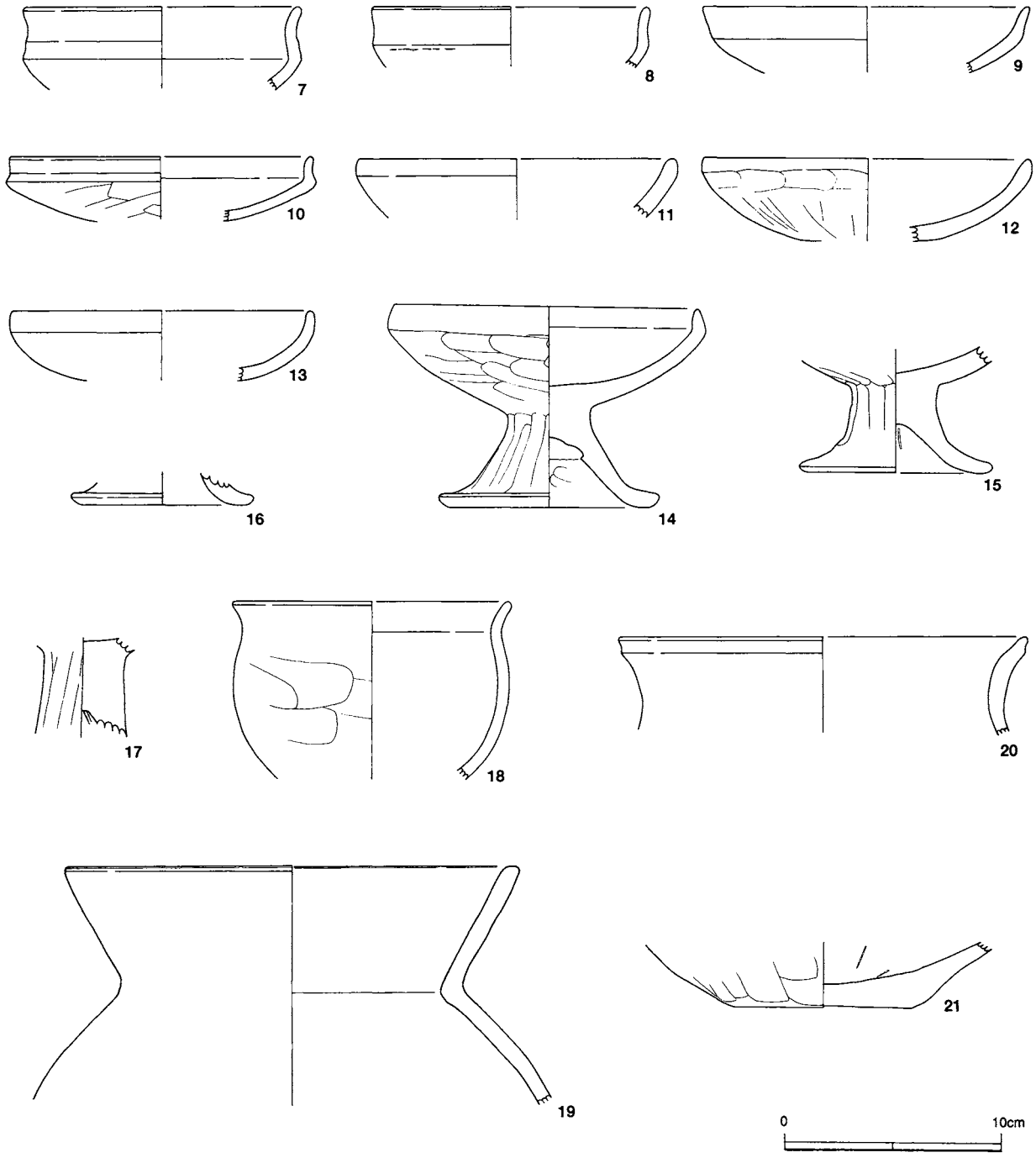


第21図　SI03（2）


1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
3 暗黄褐色土
0
4m

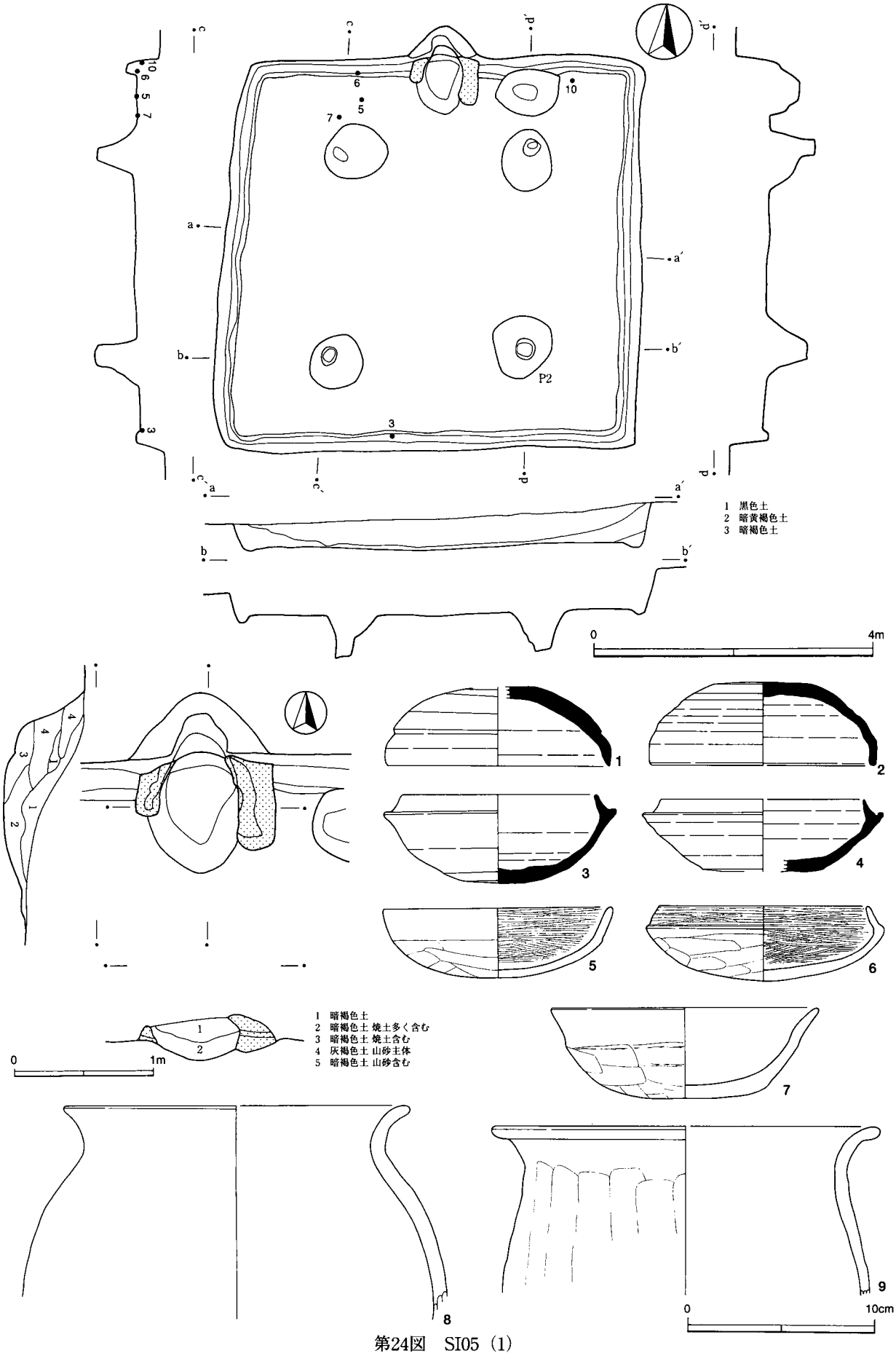

1 灰褐色土 山砂含む
2 暗褐色土 焼土・山砂含む
3 黒褐色土 焼土・ローム粒含む
0
1m
1
2
3
4
5
6
0
10cm

第22図　SI04（1）

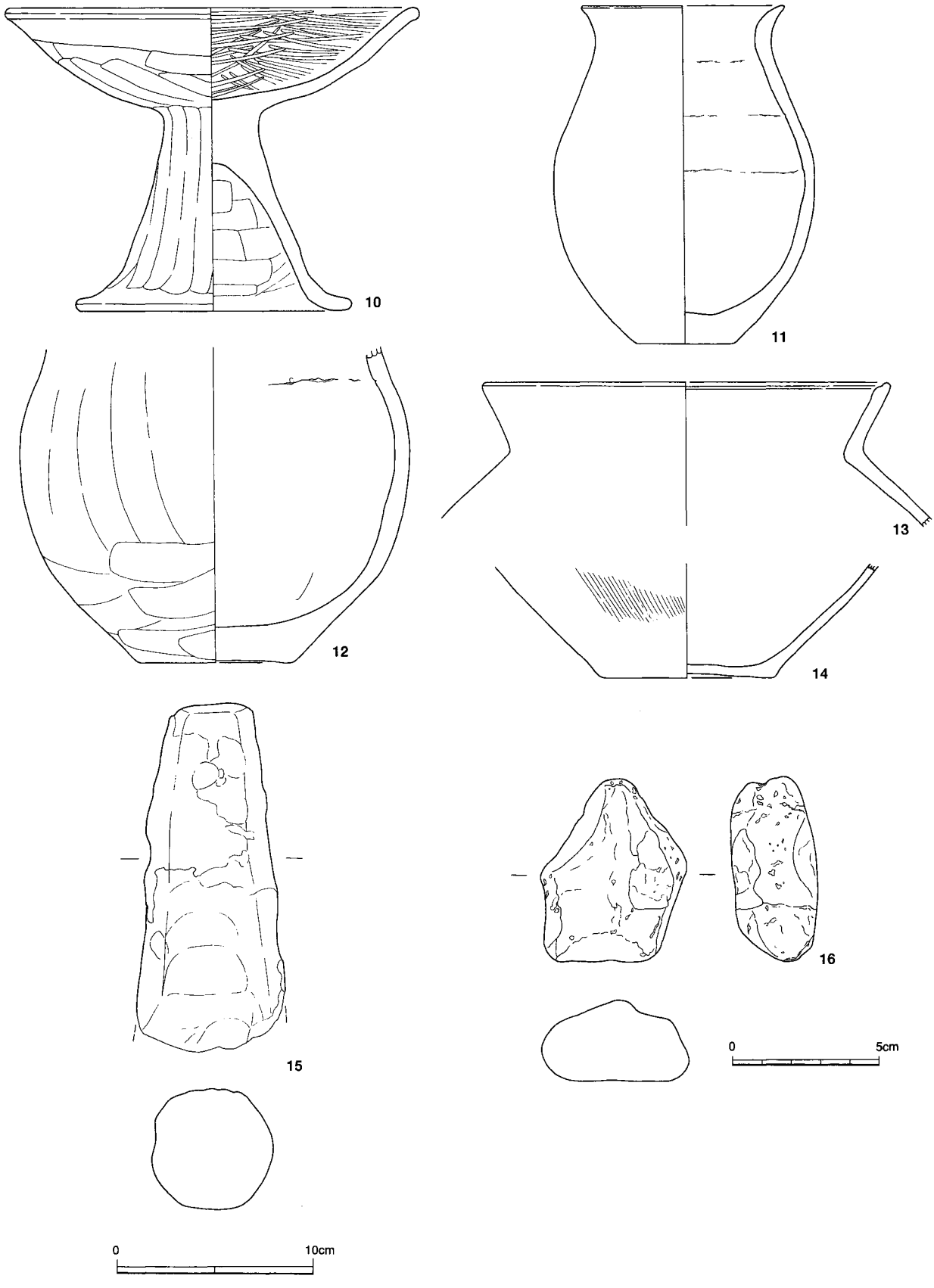


第23図　SI04（2）

形の土師器杯2点（5・7）と7割程度遺存している杯（6）はカマドの左側床面上で，完形の土師器高杯（10）は貯蔵穴の右側で出土した。また，完形の須恵器杯（3）は南壁ぎわの床面で出土した。そのほか，土師器甕6点，須恵器杯，蓋2点が出土している。15は側面に面取りをもつ支脚である。16は軽石である。使用によって変形したものとみられるが，明確な使用痕は認められなかった。


P2
1 黒色土
2 暗黄褐色土
3 暗褐色土
0 4m
1 暗褐色土
2 暗褐色土 焼土多く含む
3 暗褐色土 焼土含む
4 灰褐色土 山砂主体
5 暗褐色土 山砂含む
0 1m
0 10cm

第24図　SI05（1）



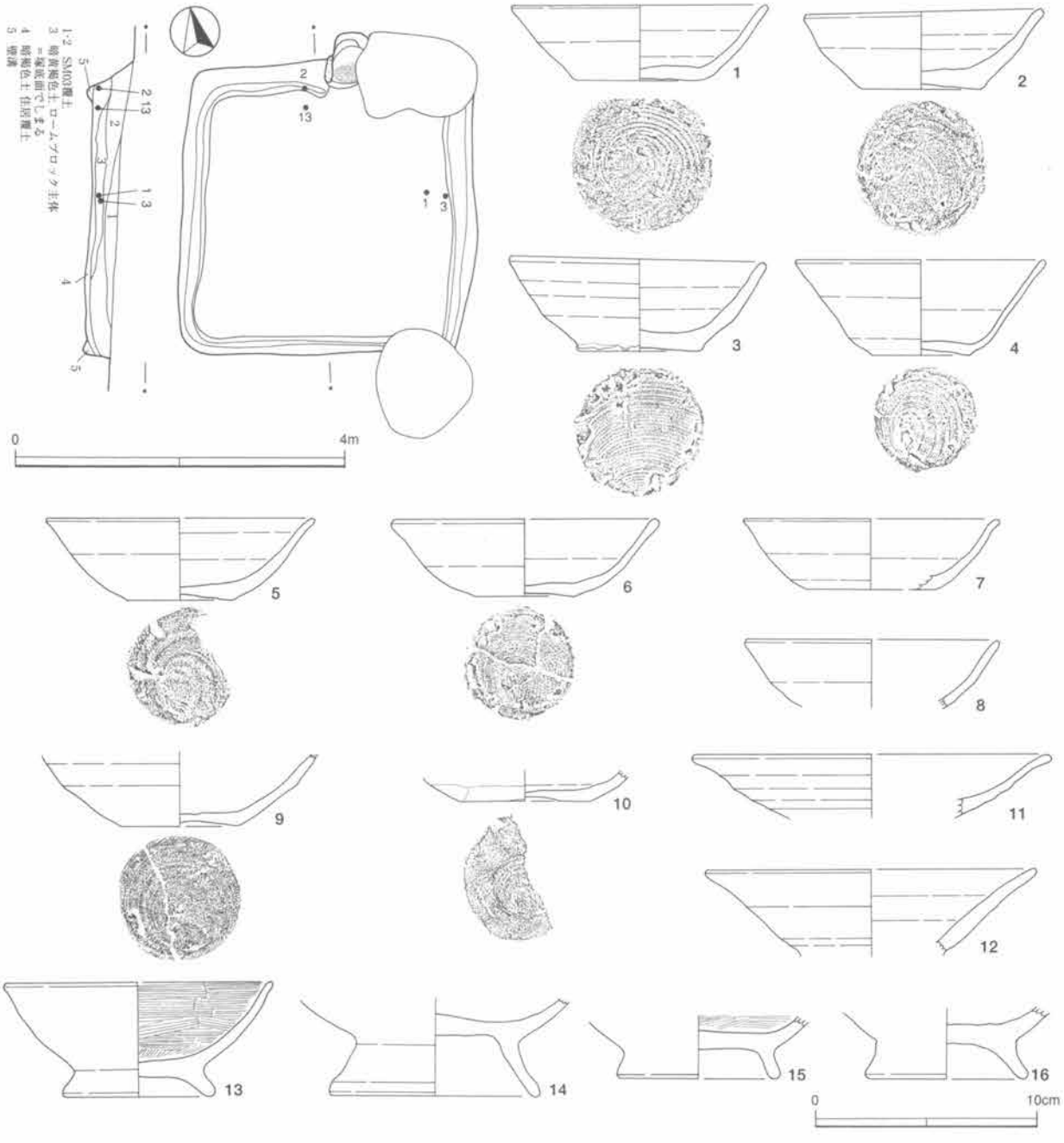
第25図　SI05（2）

3．奈良・平安時代

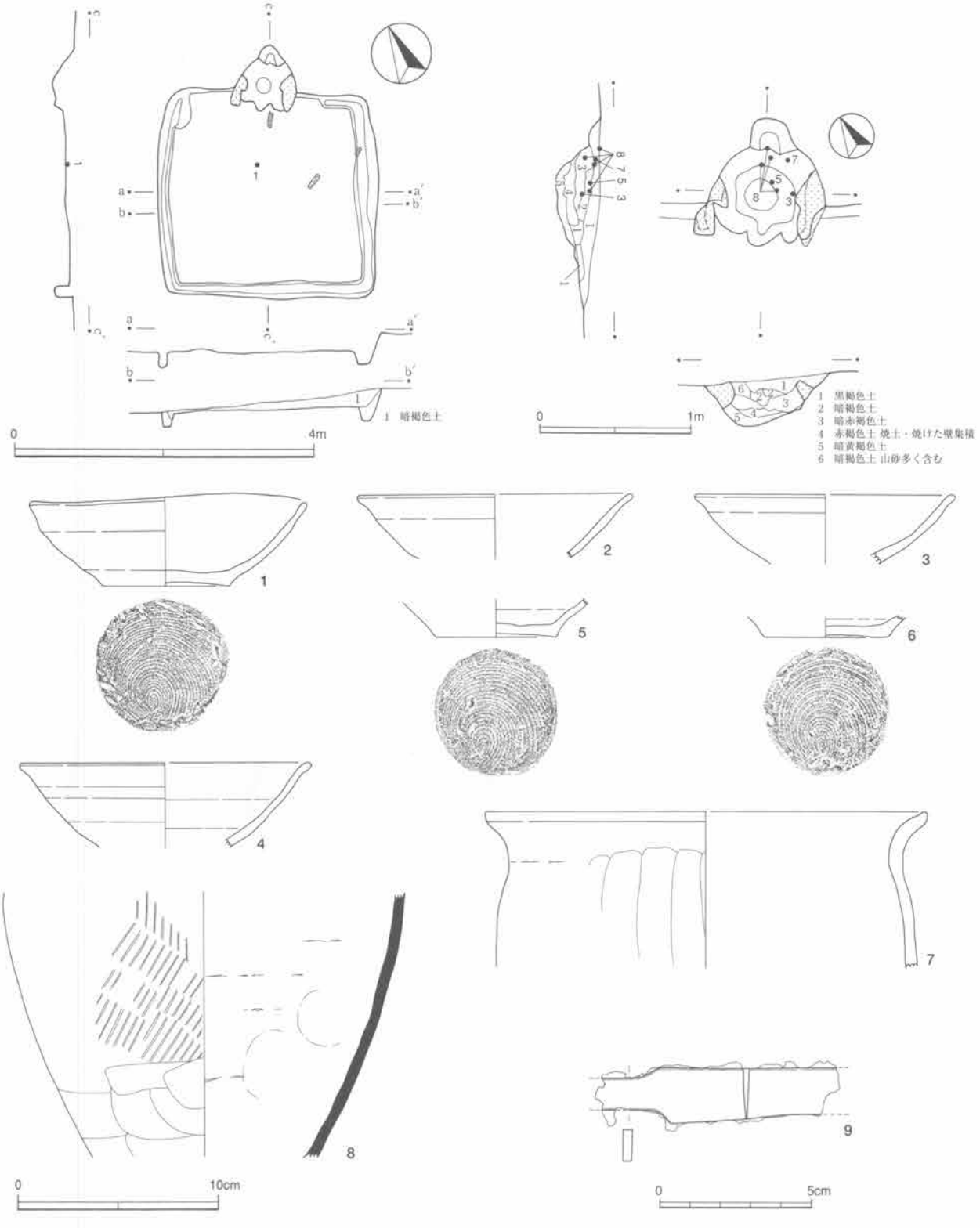
平安時代の，いずれも主柱穴をもたない小型住居５軒と，土坑10基を検出した。製鉄に関わる遺構･遺物が目立っている。

(1) 住居跡

SI06（001）（図版8･22）　SM3（塚）の下で検出した。壁溝が全周する。出土遺物は多く，掲載資料は土師器杯10点，高台付杯，高台付椀３点，椀と皿各1点である。このうち１～３は完形である。２・13はカマド左脇から，１・３は東壁中央の壁際，床面よりやや上の位置から出土している。

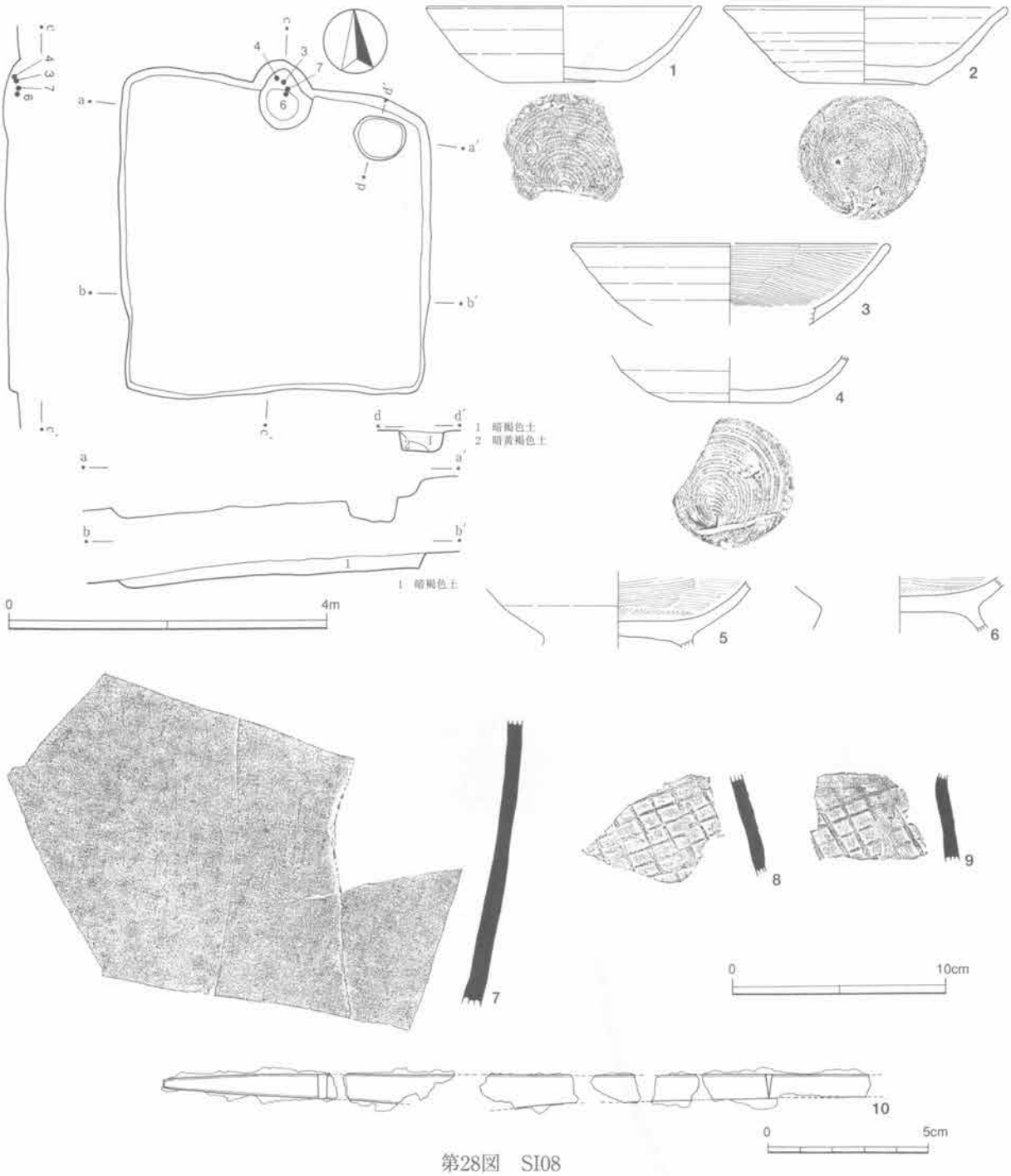


第26図　SI06



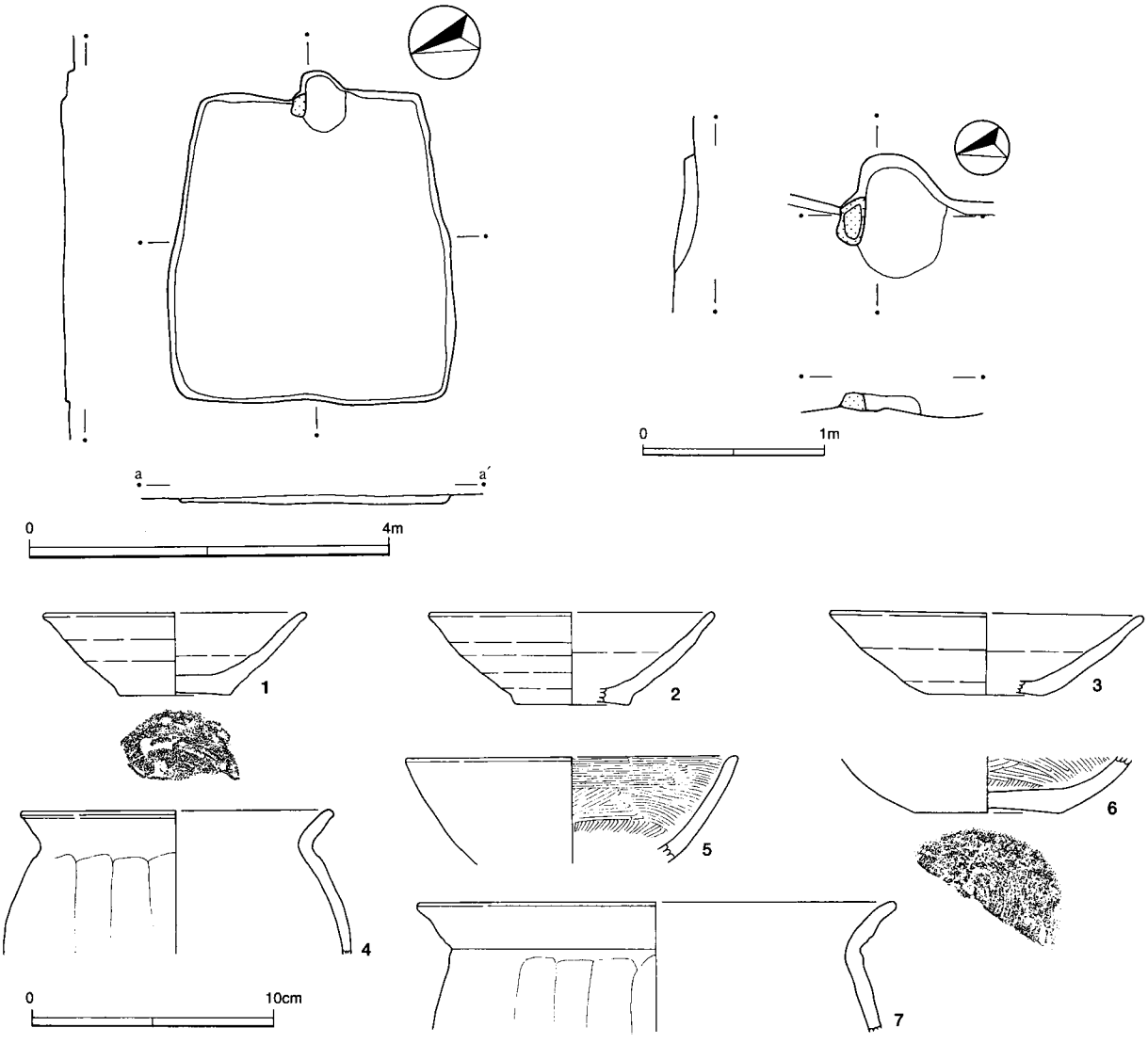
第27図　SI07

SI07（002）（図版8·22·23）　壁溝がほぼ全周する。カマドは北壁に深く切れ込む。柱穴をもたない。土師器甕，杯6点，須恵器甕，刀子，炭化材が出土した。完形の杯（1）は床面，3・5・7・8はカマド内出土。



第28図　SI08

SI08（007）（図版10·22·23）　床面付近のみ遺存する。斜面に近い西側では推定の床面レベルより下がっており,記録された住居のプランはそれほど確かなものではない。柱穴はなく，貯蔵穴のみをもつ。遺物はカマドからまとまって出土しているが，いずれも破片である。土師器杯４点，高台付杯２点，須恵器格子目タタキ甕３片が出土した。また，20ｃｍを優に越える長い刀子状の鉄製品，小鉄塊３点（合計20.2ｇ）もみられる。



第29図　SI09

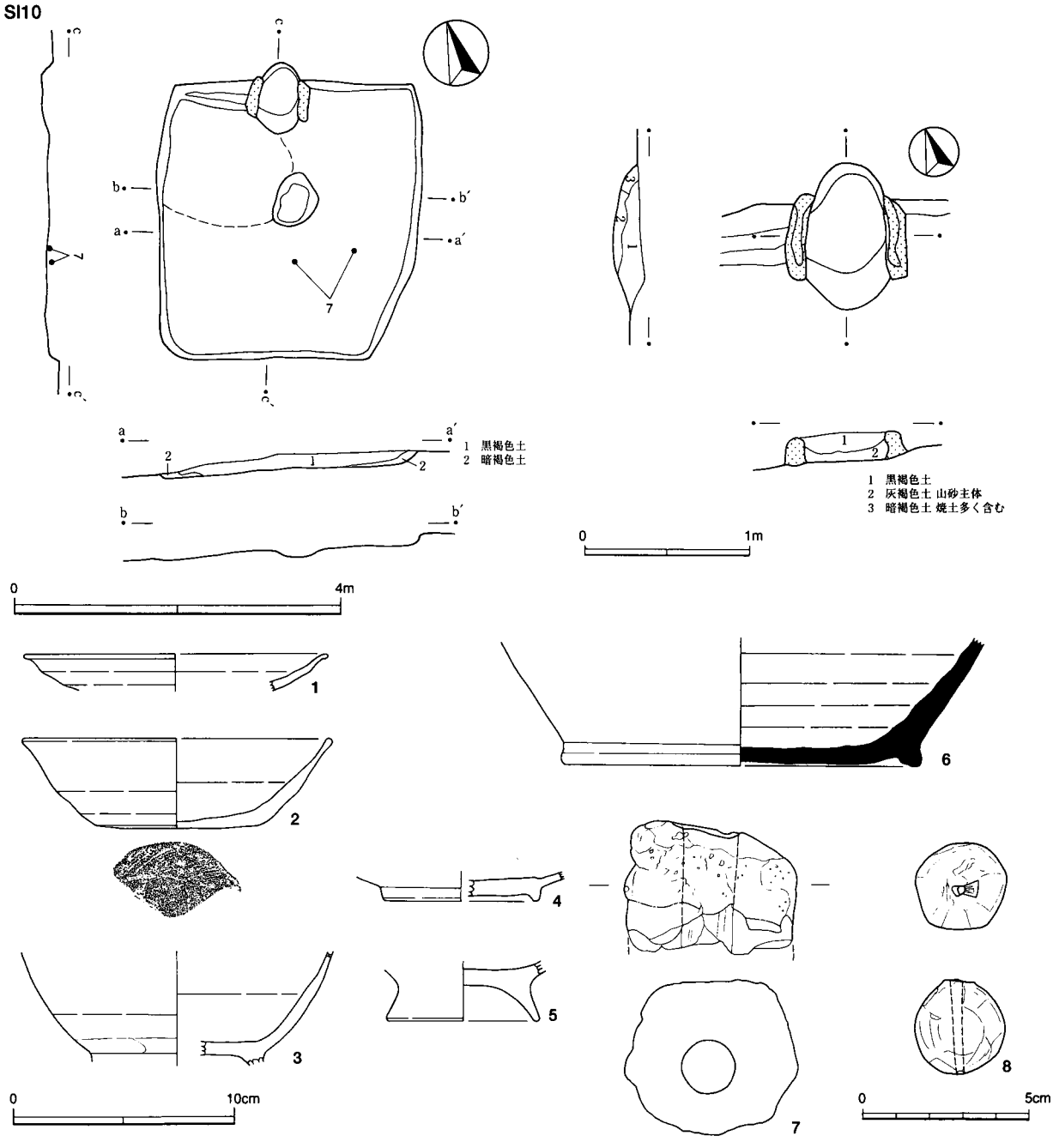
SI09（008）（図版10）　床面付近のみ遺存する。やや歪で台形に近い長方形の掘り込みを検出したが,本来の形状を捉えているかどうかは疑わしい。遺構とカマドの覆土は暗褐色土である。土師器甕２点，杯５点が出土している。いずれも破片である。

SI10（009）（図版10・22・23）　床面付近のみ遺存し，柱穴をもたない。中央のピットからは多量のスラグ・小鉄塊が出土しており,廃滓坑であろう。カマドとピットの間から西壁付近には踏みしめ硬化面がある。７は床面近くから出土した羽口片である。他に土師器杯，高台付椀２点，灰釉陶器長頸壷，皿２点，土玉が出土している。土器はいずれも破片である。鍛冶工房であった可能性が高い。

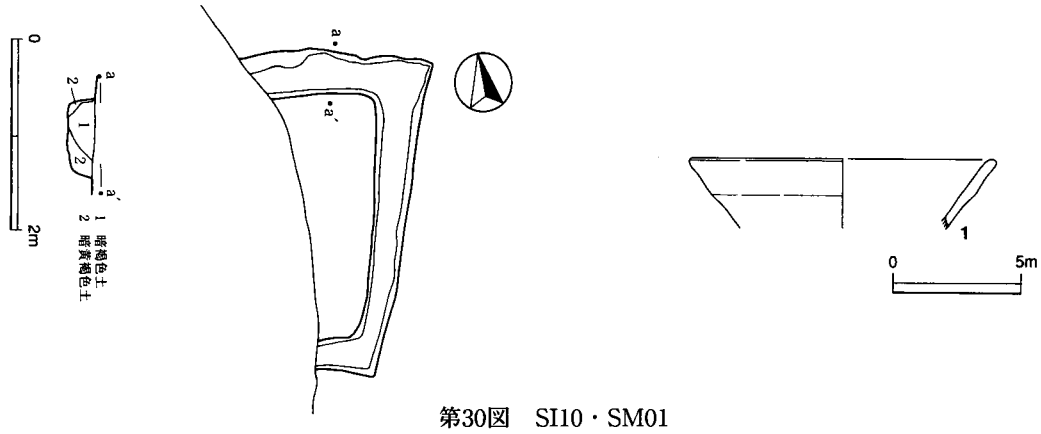
(2) 墳墓（第30図）

SM01（M03）（図版13）　終末期方墳である。周溝のみ検出した。隅が角張っており,形状は歪が大きい。１の土師器杯片が時期を示すとすれば,平安時代である。

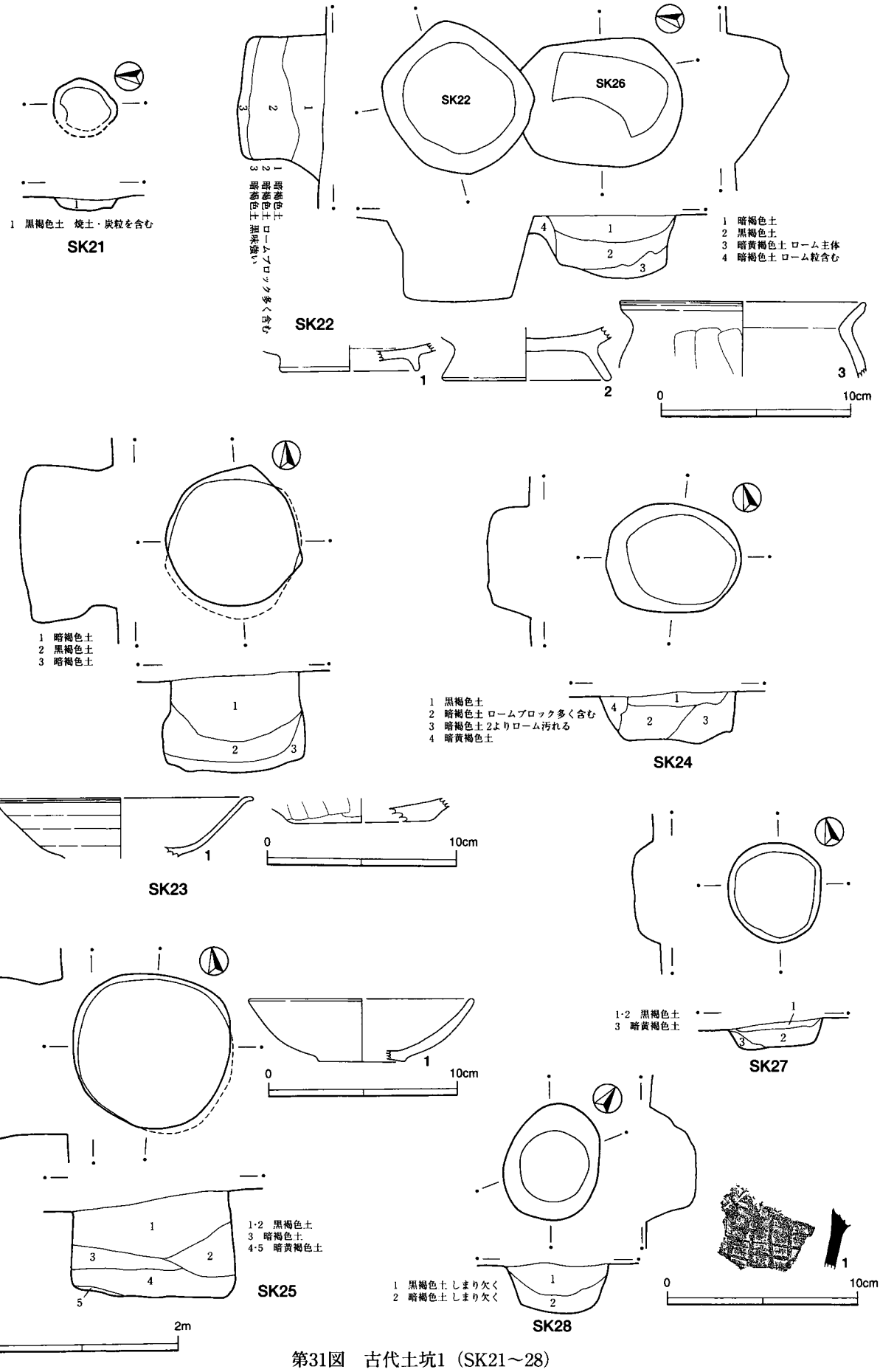
SI10



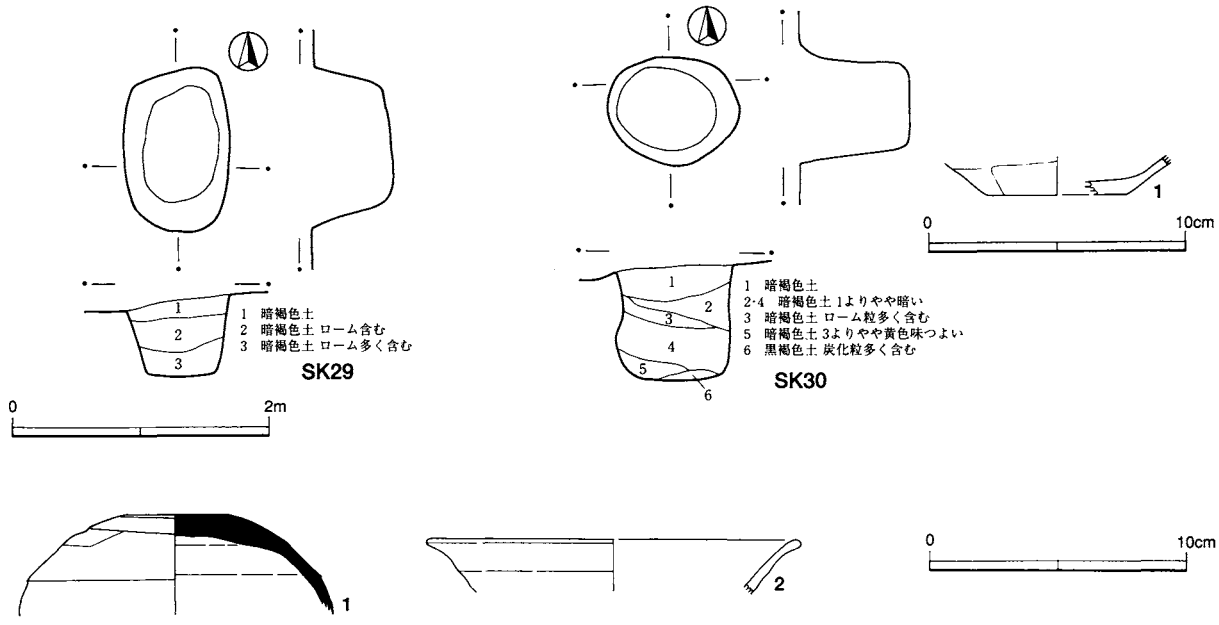
SM01



第30図　SI10・SM01



第31図　古代土坑1（SK21～28）



第32図　古代土坑2，遺構外出土遺物

(3) 土坑（第31·32図）

SK21（D33）（図版17）　ごく小さく浅い掘り込みに過ぎないが，焼土とスラグ·小鉄塊242点（2.0kg），炉壁が入っていた。廃滓坑とみられる。

SK22（D09）（図版14）　比較的整った平面円形，断面円筒形の土坑である。土師器甕，高台付椀，須恵器高台杯皿の破片が出土している。

SK23（D10）（図版15）　比較的整った平面円形，断面円筒形の土坑である。壁は若干オーバーハングしている。土師器甕，高台付椀の破片とスラグ3点（79g）が出土している。

SK24（D11）（図版15）　楕円形の土坑である。掲載遺物はないが，遺存の良い土師器の甕底部片1点が出土している。比較的整った形状と，古代土坑の集中地点に位置することから，この遺構についても古代の土坑である可能性が高い。

SK25（D12）（図版15·22）　整った平面円形，断面円筒形の土坑である。壁は若干オーバーハングが認められる。土師器杯片が出土している。

SK26（D16）（図版15）　底が小さく凹凸の目立つ形状から，人為的な掘り込みであるかどうか疑わしい。SK22との新旧は不明であり，出土遺物はない。位置から古代の土坑の可能性が残るため掲載した。

SK27（D25）（図版16）　小さな円形の土坑である。土師器小片が出土している。

SK28（D30）（図版17）　小さな土坑である。検出面では楕円，底では円形に近い。須恵器甑片を掲載したが，ほかに非掲載の中近世陶磁器1点が出土しているため，時期は不明確である。

SK29（D31）（図版17）　小判型の土坑である。土師器小片が出土しており，古代土坑の可能性がある。

SK30（D32）（図版17）　円筒形の深い土坑である。土師器甕底部片が出土している。

(4) 遺構外出土遺物（第32図）

グリッド一括資料2点を掲載した。1は須恵器杯蓋，2は土師器杯である。

4．中・近世

(1) 建物跡（第33図）

建物跡と柱穴群各1か所である。時期不明であるが,現在の泉蔵寺に隣接していることから，近世の建物であった可能性が高いと考え，ここに掲載した。

SB02（1･2号掘立柱）（図版11）　掘立柱建物跡である。柱穴の一部に柱痕跡が認められる。掲載遺物はなく，時期決定は困難である。

SB03（3号掘立柱）（図版11）　柱穴が集中している。いくつかは柱痕跡が認められる。規則的な配置は想定できなかったので，柱穴群とすべきである。掲載遺物はなく時期決定は困難である。

(2) 塚（第34・35図）

大小の方形の塚が2基連なる。西の塚をSM02，東の塚をSM03とする。いずれも古代の土器が出土しており,古墳から造り替えた可能性が高い。残念ながら確証は得られなかった。

SM02（1号塚）（図版12・21）　旧表土（Ⅱa層）の上にローム主体の土と黒褐色土を交互に，ほぼ水平に積み上げて墳丘をつくる。平面図には現れていないが,断面図（a,b）のように浅い周溝をもつ。

掲載遺物は18世紀の陶磁器と砥石である。2は瀬戸・美濃陶器擂鉢，3・4は肥前染付皿である。

SM03（2号塚）（図版13，22）　SM02とは違い，一度整地された後に盛土がなされている。塚の中央にあるSK32はローム層から掘り込まれている。塚に伴う施設の可能性が強い。ローム層上には暗褐色土があり，そのなかに宝永火山灰の集積層を挟む。この上にローム主体の盛土が行われている。塚は内側の周溝をもったものから，外側の周溝をもったものに造り替えられている。元はSM02と同程度の塚であったろう。造り替えに際して，外側の周溝はSM02にかかる部分を避けている。

掲載遺物は17･18世紀の陶磁器と燧石である。7～11は瀬戸・美濃の陶器で，7は灯明皿，8は輪禿皿，9は腰錆茶碗，11は鉄釉の徳利である。12は肥前染付碗である。

塚から出土した古代の土器　SM02の1は須恵器杯である。SM03の1～3は土師器杯，4・5は高台付杯，6は甕である。遺構に伴わないものであり，本来遺構外として古代の部分に掲載すべきであるが，2つの塚が古墳から造り替えられた可能性を検討する材料としてここに掲載した。

(3) 溝（第38図，図版17）

SD01（M01）・SD02（M02）　いずれも幅の狭い溝である。出土遺物はない。時期･性格とも不明である。

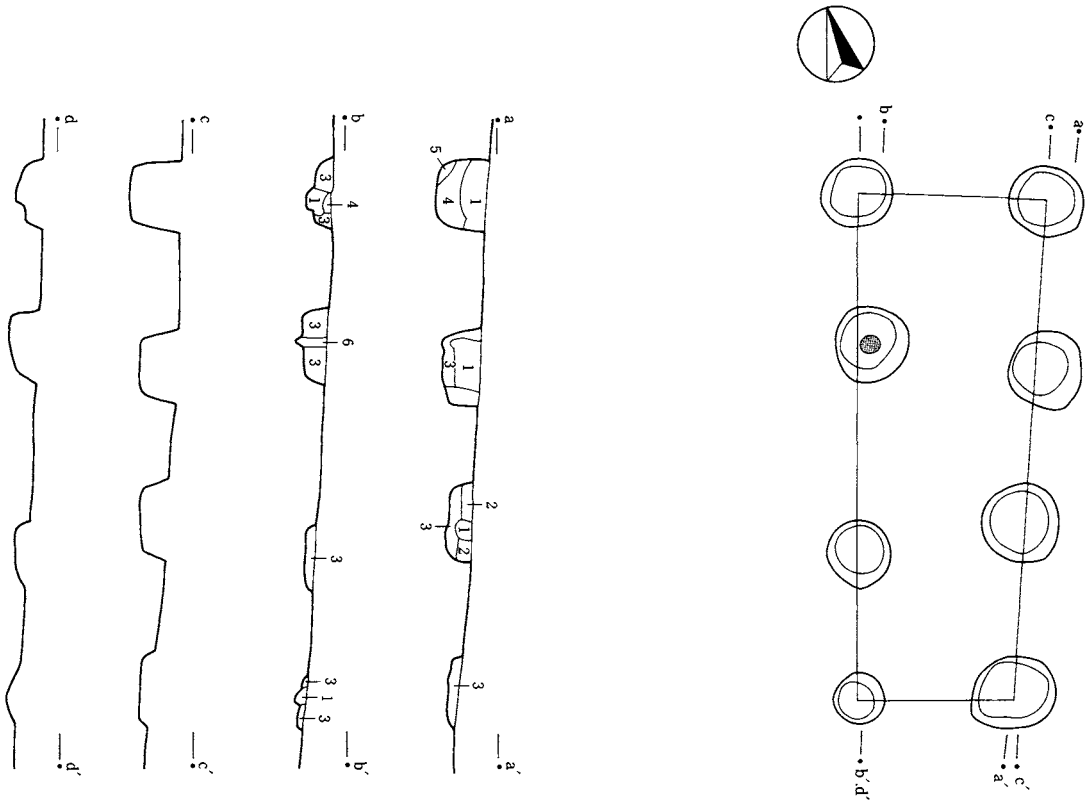
(4) 土坑（第36・37図）

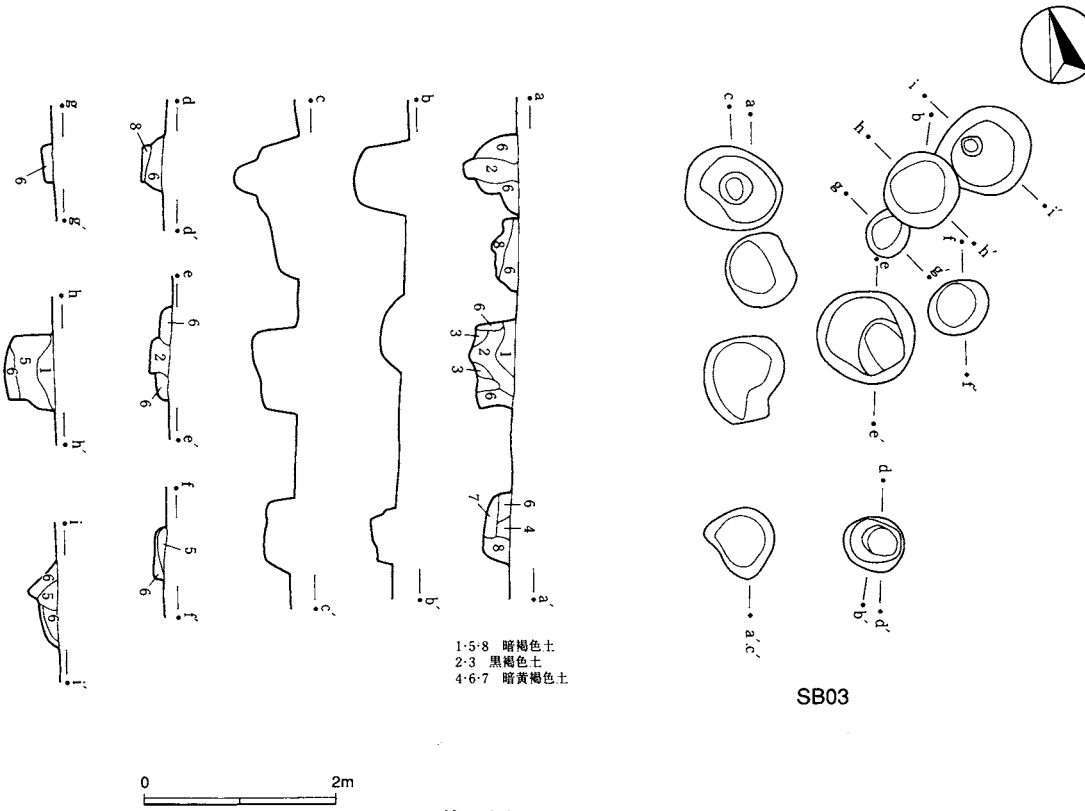
中･近世の土坑と，時期不明の土坑をここに掲載する。

SK31（D02）（図版14）　SM03塚の盛土下で検出した土壙墓である。造り替え前の塚に伴う施設であった可能性も否定できない。土坑は径2m，深さ2.7mほどあって，墓壙としてはきわめて大きい。遺体は底近くにあり，円形の棺に入っていたように強く丸まっている。おそらく円筒形の棺桶であろう。遺体の解剖学的分析は実施できていないが，頭蓋の縫合が完全に失われており,歯がすべて脱落して歯槽が吸収されていることから，高齢であったことは間違いない。遺体には布が付着しており,そのほかに漆製品，数珠玉，釘が出土している。

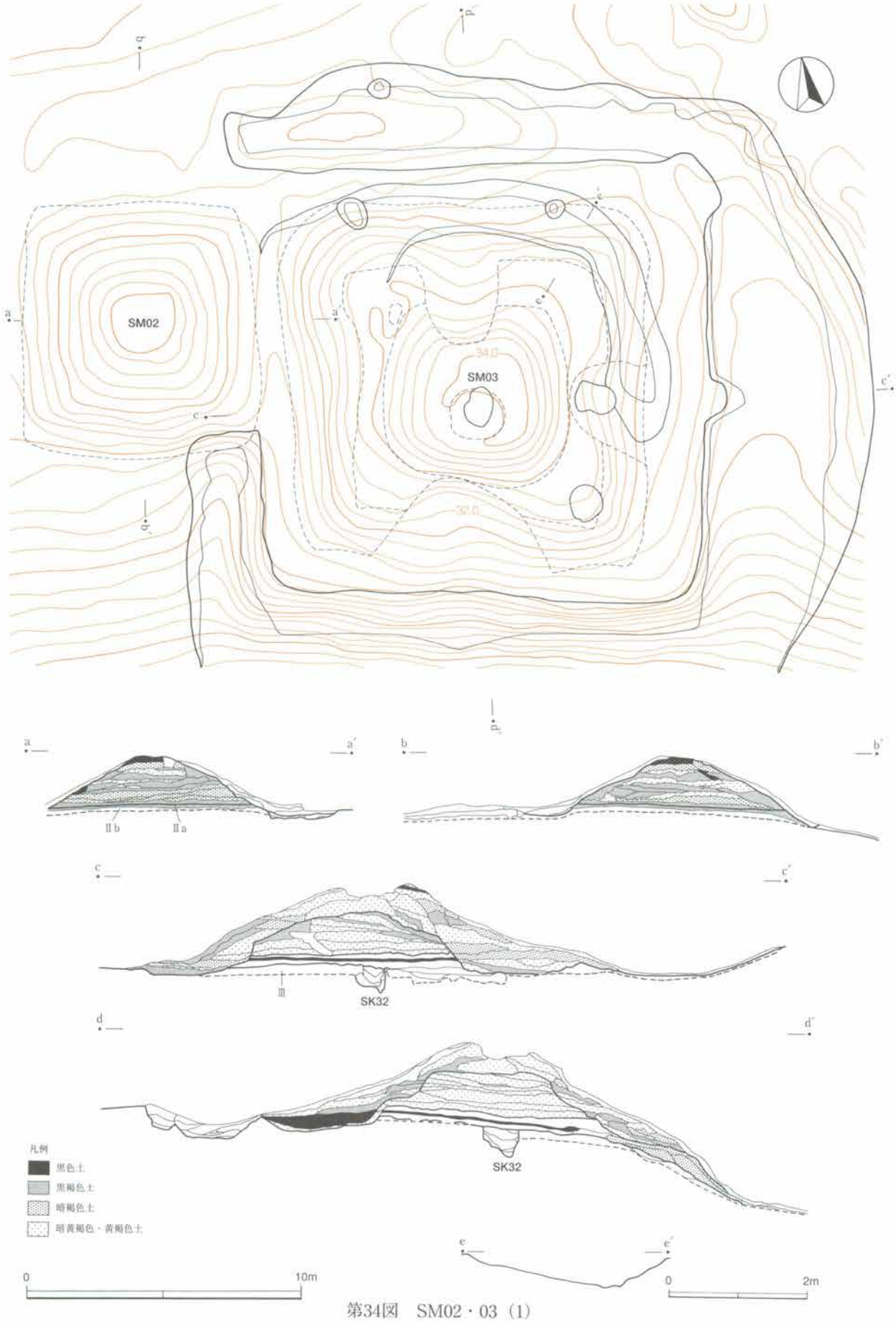
SK32（D01）（図版14）　SM03塚の中央に位置する。塚の施設の可能性が高い。形状は地下式壙に似る。出土遺物は土師器小片のみである。

SK33（D03）（図版14）　SM03塚の盛土下で検出した楕円形の浅い土坑である。土師器小片が出土した。

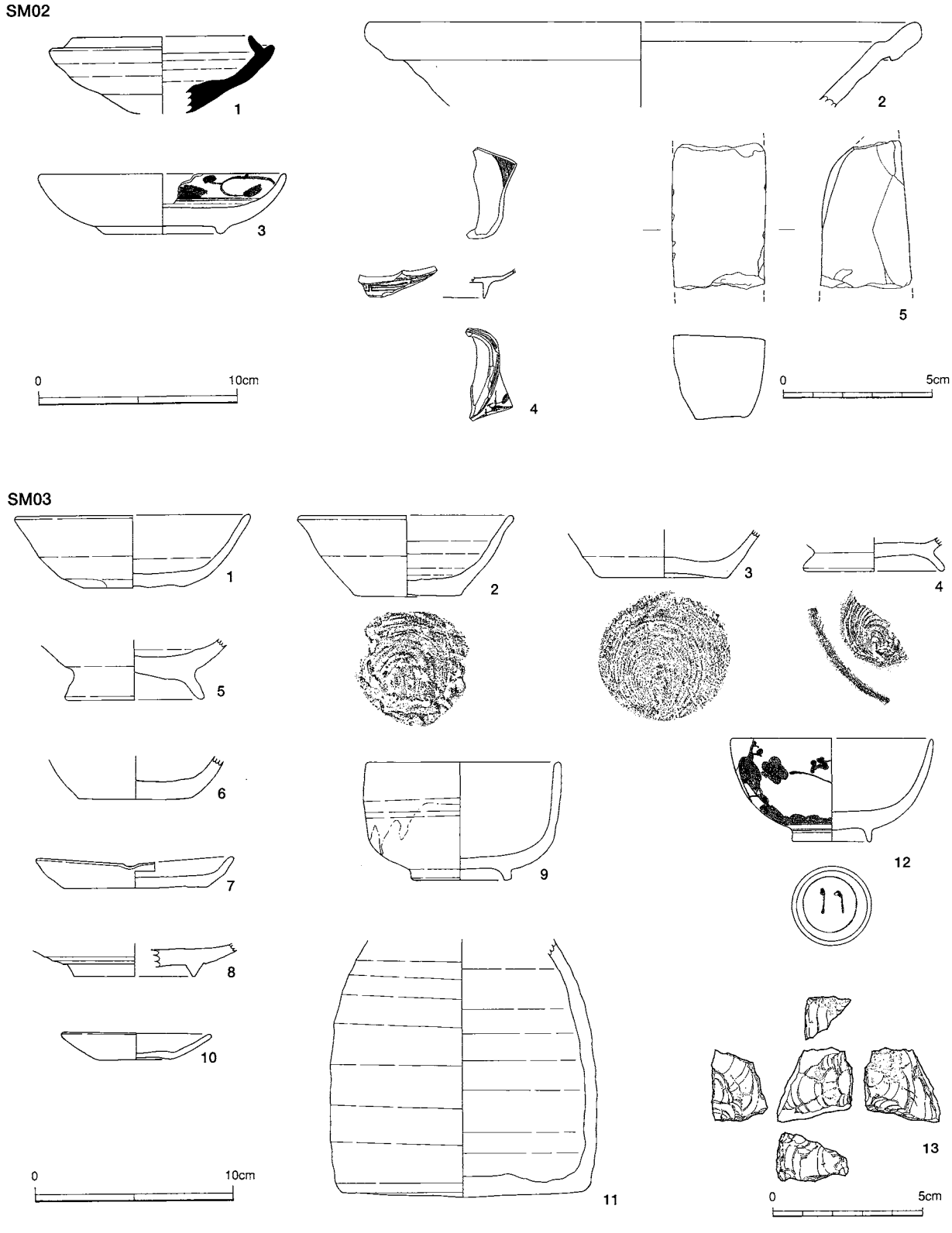

SB02
1 暗褐色土
2 暗褐色土 やや黄色味つよい
3 暗黄褐色土 ロームブロック主体
4 黒褐色土 ローム小ブロック含む
5 黒褐色土 ローム粒含む
6 黒褐色土 砂質


SB03
1·5·8 暗褐色土
2·3 黒褐色土
4·6·7 暗黄褐色土
0
2m

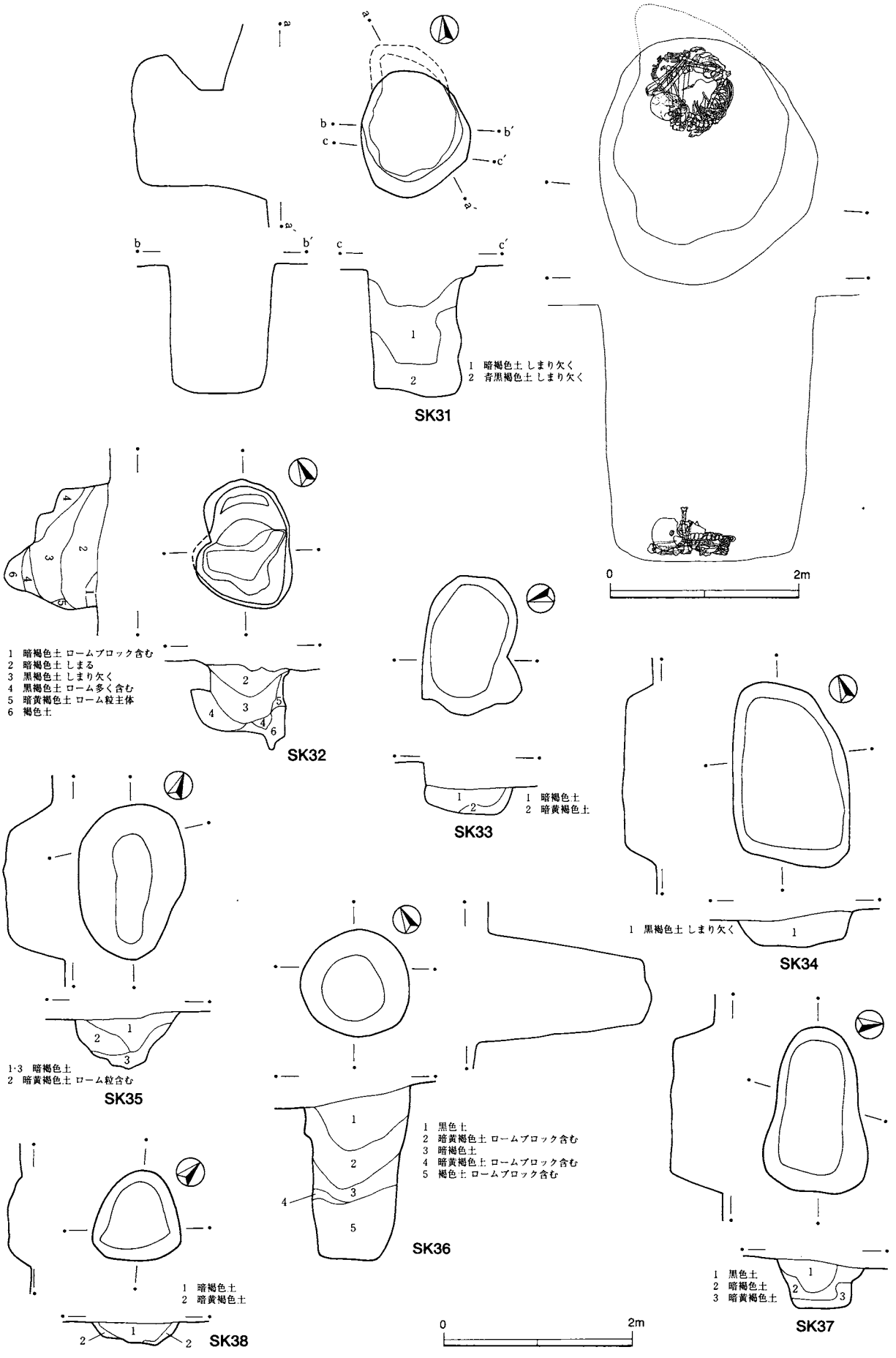
第33図　SB02・03



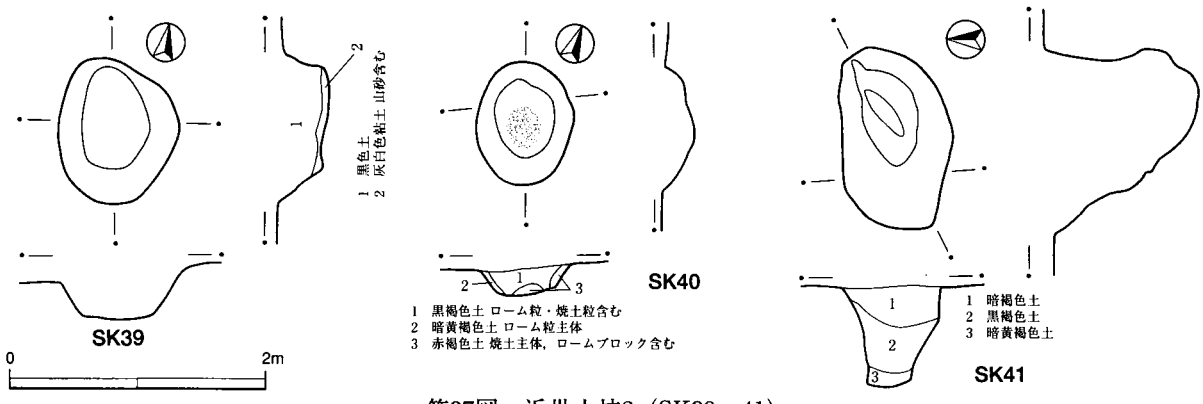
第34図　SM02・03（1）



第35図　SM02・03（2）



第36図　近世土坑1（SK31～38）



第37図　近世土坑2（SK39～41）

SK34（D06）（図版14）　不正楕円形の土坑である。比較的垂直に掘り込まれ，底は平坦なので人為的であろう。出土遺物はない。

SK35（D15）（図版15）　底がやや凹凸だが人為的な掘り込みであろうか。出土遺物はない。

SK36（D18）（図版16）　円形で深い土坑である。出土遺物はない。

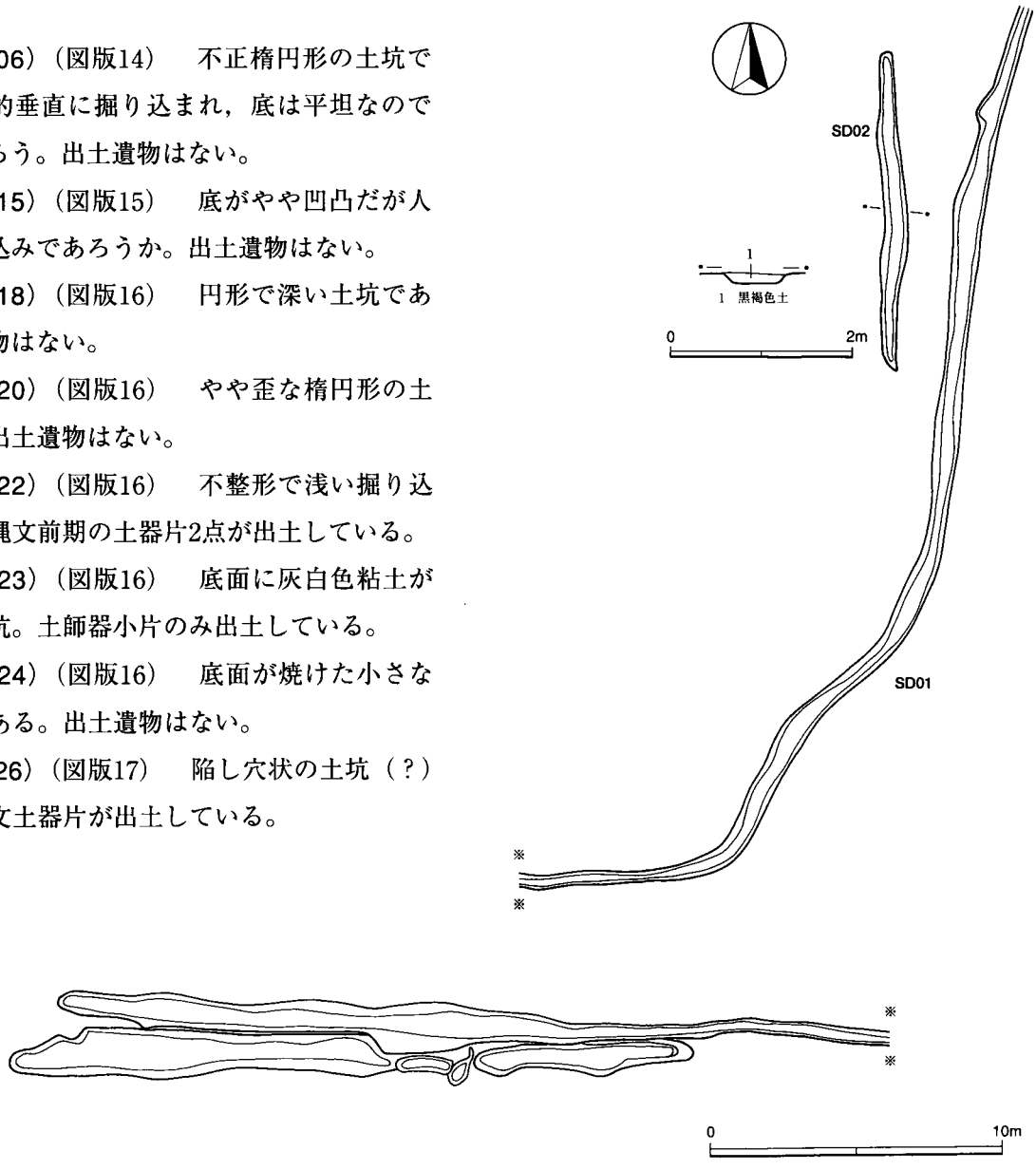
SK37（D20）（図版16）　やや歪な楕円形の土坑である。出土遺物はない。

SK38（D22）（図版16）　不整形で浅い掘り込みである。縄文前期の土器片2点が出土している。

SK39（D23）（図版16）　底面に灰白色粘土が張られた土坑。土師器小片のみ出土している。

SK40（D24）（図版16）　底面が焼けた小さな掘り込みである。出土遺物はない。

SK41（D26）（図版17）　陥し穴状の土坑（？）である。縄文土器片が出土している。



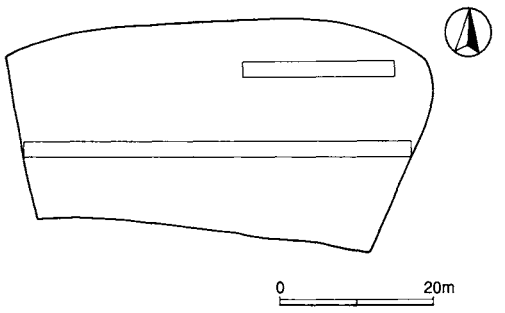
第38図　SD01・SD02

第３節　第９・10地点

第９地点（第40図）　東西に250mほど，面積15,100㎡ともっとも大きな調査区であり，第12地点と並んで遺構分布の中心でもある。西側は第８地点，北側は第12地点・第７地点，東側は第13地点と接している。南側は近世有吉集落の中心部の調査対象地域外で，台地が大きく削り取られて平坦面が造られており，造成以前の遺構は失われている。遺構の中心は，古代の集落と近世の台地整形遺構であり，そのほかに縄文早期の炉穴，中期の住居跡・土坑，古墳などがある。

当遺跡が中世「有吉城」であったかどうかを検討するにあたって，本地点は重要な位置を占めている。城郭の中心部と推定されてきた近世以降の有吉集落の中心部は調査対象外であり，もし調査が及んでも近世に再び削り取られた可能性が高いからである。本地点には土塁や平坦地があり，これらは城郭説に結びついていたものと思われる。しかし，調査の結果，土塁や溝は郭を区画したものであるとは考えにくく，台地整形区画は18世紀以降の集落であった可能性が高い。

第10地点（第39図）　遺跡の中央部に位置する。近世有吉集落の造成面の一部であり，近世以前の遺構はすべて削り取られたものと思われる。２本の確認トレンチを設定して調査したが，出土資料は皆無であった。



第39図　第10地点全体図

１．縄文時代

炉穴の時期が子母口式の可能性があること，近接する有吉南貝塚と同じ，中期加曽利E式前半期の住居跡が検出されたことは特筆すべきであろう。

(1) 炉穴（第41図）

I4区付近で１群４基（SK42），D5付近で3群4基（SK43～45）の早期後葉の炉穴を検出した。第12地点のもの（SK61～63，66）も含めて，北側の赤塚支谷に向かう緩斜面から台地の縁辺部にかけて散漫な分布が認められる。

SK42（FP1・2）（図版37）　掘り込みの形状から炉穴４基が重複していると判断した。燃焼部は３か所ある。Aとした燃焼部がもっとも深く，確認面から60cmほどある。１は外面のみ条痕を施し，口唇に刻みをもつ土器であり，子母口式であろう。根拠は乏しいが，この土器が炉穴の時期を示し，本遺跡の炉穴の時期がこの時期まで遡る可能性を示す資料と評価できよう。

SK43（FP3）（図版37）　燃焼部のみ遺存した炉穴であろう。２基の重複が認められる。出土遺物はない。

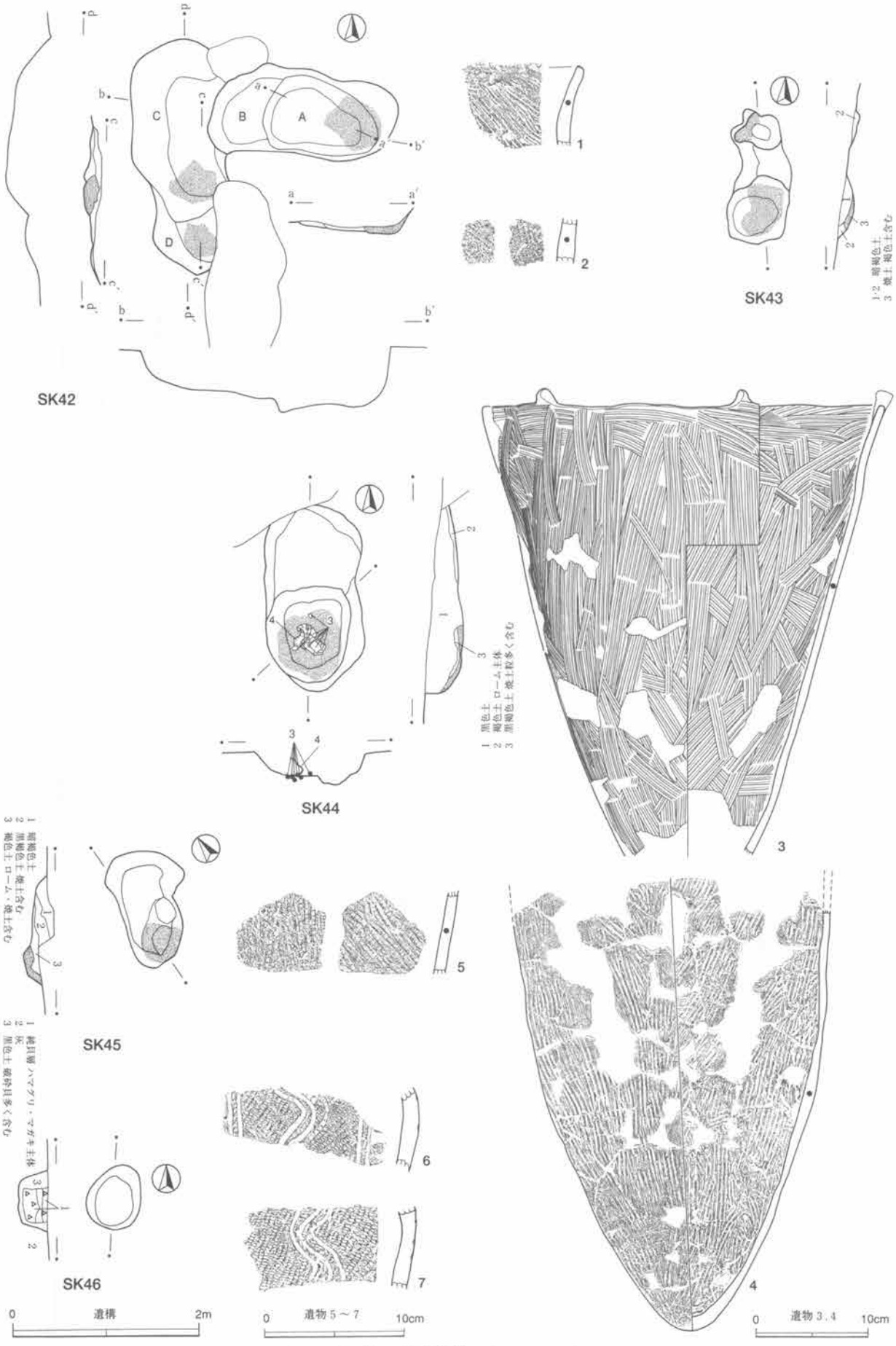
SK44（FP4）（図版37･39）　単独の炉穴である。燃焼面に３・４の土器が潰れて入っていた。いずれも内外面に貝殻条痕をもつ無文の尖底土器である。茅山下層式か。

SK45（FP5）　単独で検出された炉穴である。内外面条痕をもつ土器片（5）が出土している。

(2) 土坑（第41図）

SK46（P01）（図版38）　底面の径40cmほどの小さな土坑あるいは柱穴である。貝層・灰層を形成している。貝層は純貝層でハマグリ・マガキ主体とされているが，採取した貝サンプルを紛失したため詳細は不明である。６・７は同一個体の深鉢破片で，加曽利EⅠ式であろう。

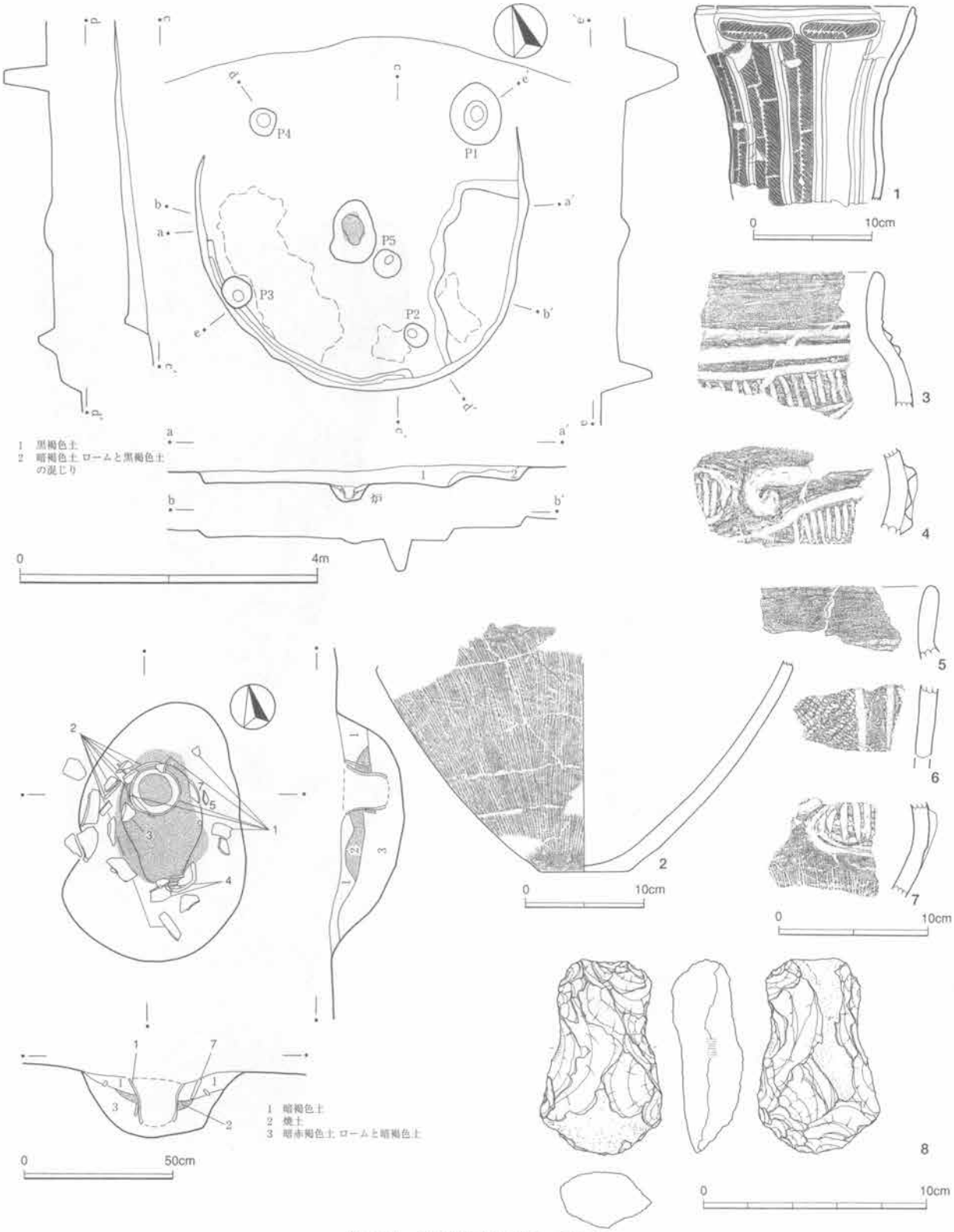
第40図　第9地点全体図



第41図　縄文時代遺構1（SK42～46）

(3) 住居跡（第42図）

SI11（J30）（図版29·39）　中期加曽利EⅡ式期の竪穴住居跡である。SM04古墳の墳丘下で検出した。墳丘は北側ほど下まで削られていたため，住居跡の北壁は遺存していなかった。残りのよい南壁では壁溝がみられた。4本の主柱穴をもち，南北にやや長い円形の竪穴が想定できる。



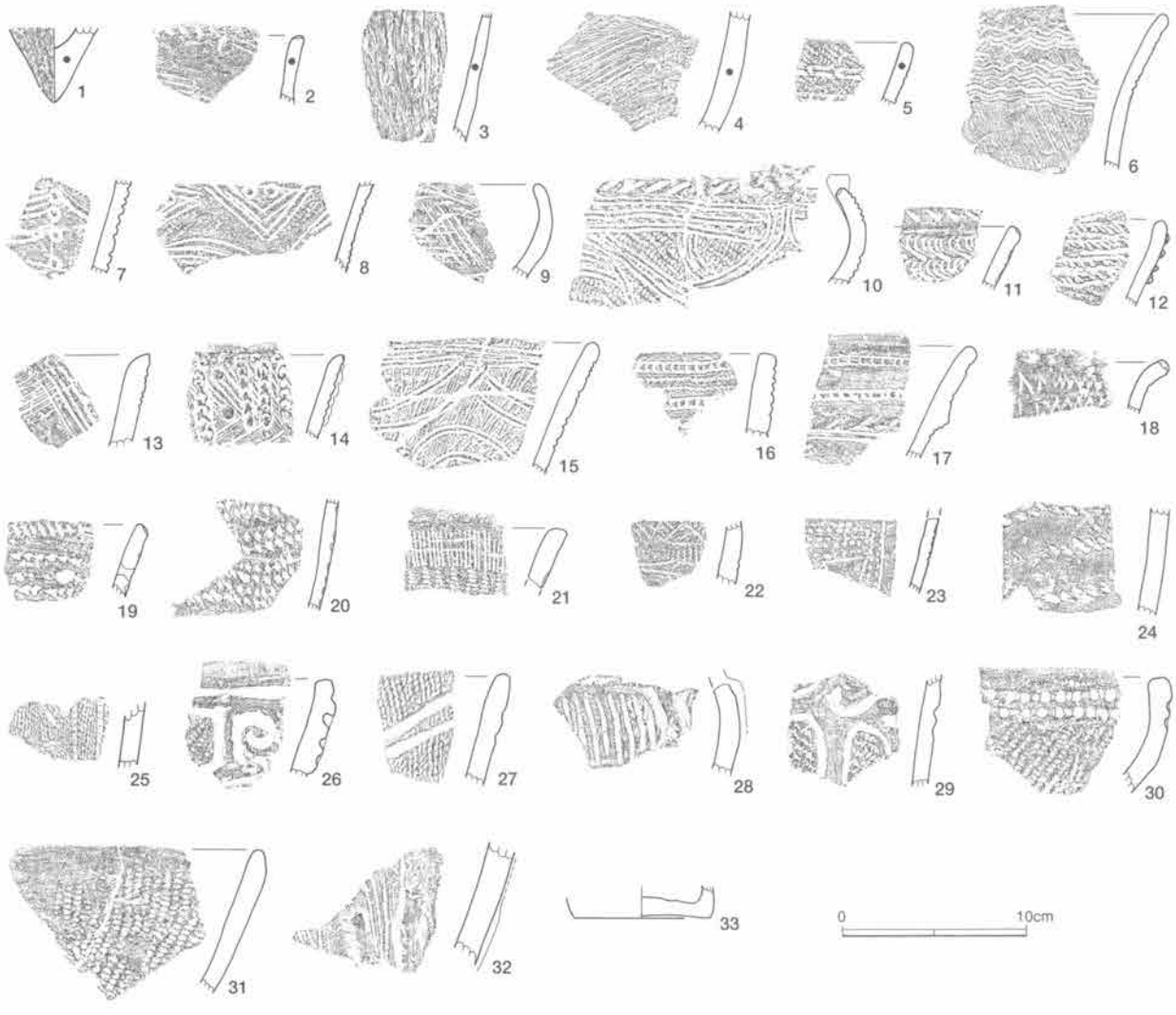
第42図　縄文時代遺構2（SI11）

炉は中心よりやや南に寄った位置にあるので，出入り口施設はP2とP3間の南側に設けられたであろう。炉には，炉体土器と土器片囲いを伴う。炉体土器は，炉と燃焼面の中心より奥側に設置されている。１の深鉢を用いており，この土器の破片は土器片囲いにも混じっていた。２～７の土器は囲いに使用されたものである。本来は焼土の範囲の周囲に並んでいたものであろう。

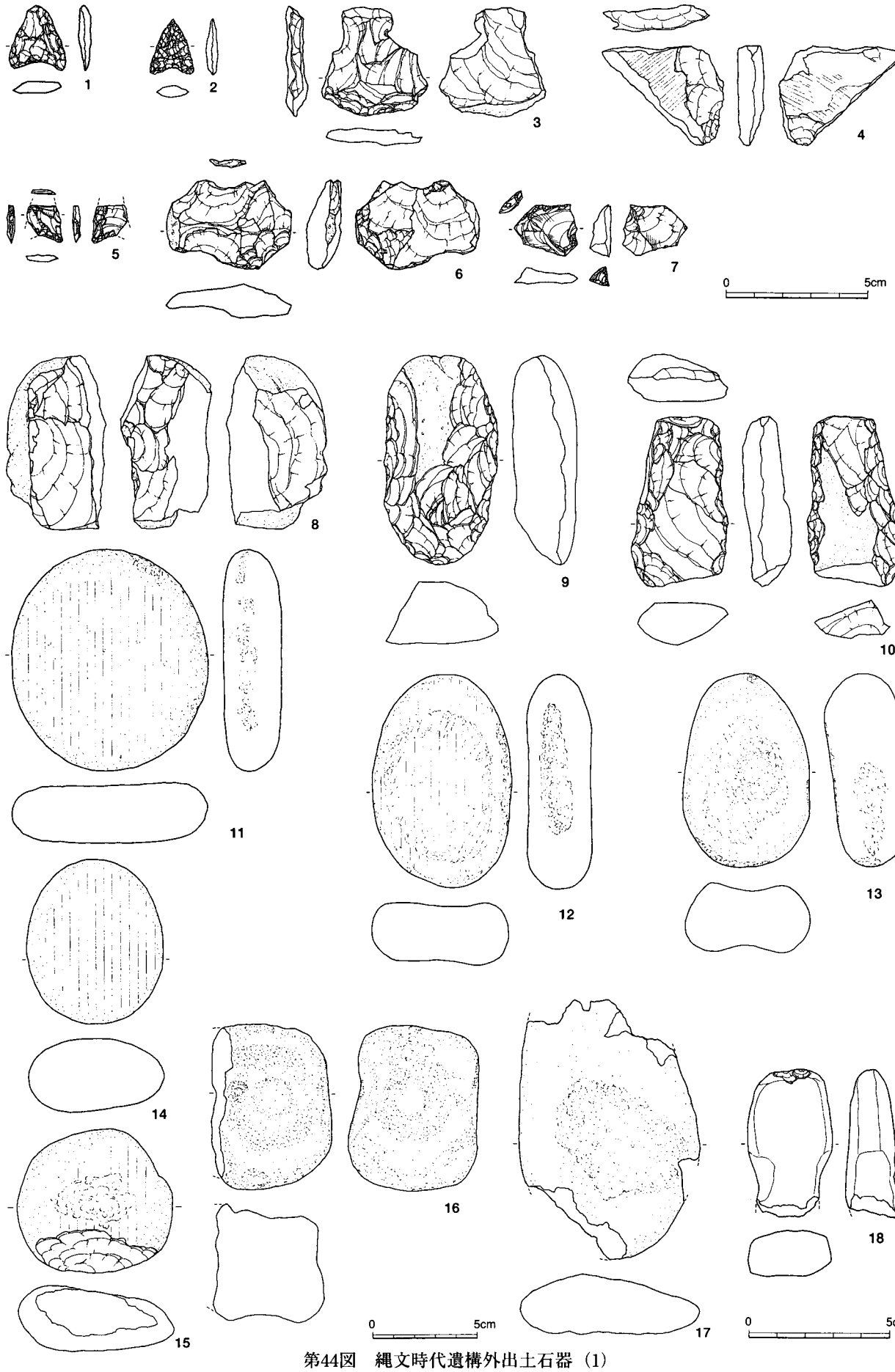
１は口縁部文様帯の隆帯区画を失った段階のキャリパー型土器である。このような土器は加曽利EⅡ式新段階からEⅢ式まで長くみられるが，胴部の無文帯が狭いので加曽利EⅡ式であろう。なお，実測図は右半分の縄文を省略している。２～５，７は加曽利EⅡ式に伴う鉢形土器である。主文様の背割り状隆帯はEⅢ式まで下らないであろう。８は砂岩製の打製石斧である。撥型に近いがややくびれた部分に着柄の痕跡がある。両面に自然面を残しており,扁平な川原石を素材としたものとみられる。

(4) 遺構外出土土器（第43図，図版40）

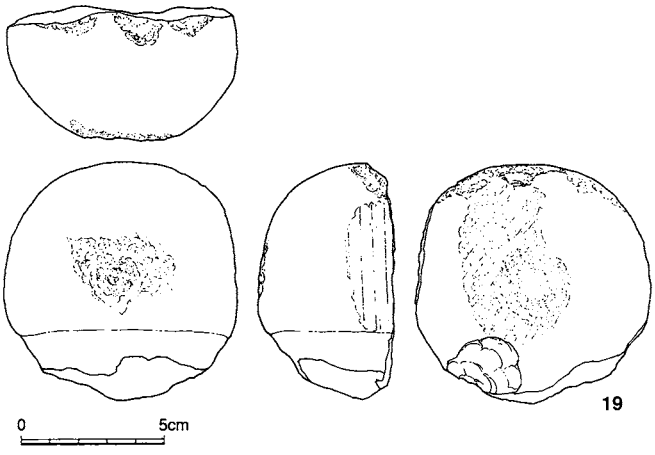
縄文土器は，遺構分を合わせても整理箱３箱にすぎない。調査面積が約15,000㎡あり，遺構出土の割合が高いことからみて,遺構外出土資料は少ないといえる。そのなかでは，前期後葉と加曽利E式がやや目立っている。１～５は胎土に繊維を含む。１は無文の尖底土器で田戸上層式か。２は内外面条痕，口唇に絡状体



第43図　縄文時代遺構外出土土器



第44図　縄文時代遺構外出土石器（1）



第45図　縄文時代遺構外出土石器（2）

圧痕文（図版40）をもつ子母口式である。3・4は外面に条痕をもつ土器で，3は田戸上層式から子母口式か。4は条痕文系である。5は縄文地文上に半截竹管による有節平行沈線文を施した黒浜式である。6～23は前期後葉の土器である。6は波状沈線の土器，7は肋骨文，8は菱形文に円形刺突を伴う土器で，以上は諸磯a式であろう。9は集合沈線，10は入組弧線文，11は爪形文と連続刺突，12は結節浮文の土器で，諸磯b式であろう。14は棒状浮文をもつ諸磯C式であろう。15は弧状沈線の浮島Ⅰ式，16・17は爪形文・変形爪形文，18は波状貝殻文の浮島Ⅱ式，19・20は三角文の浮島Ⅲ式であろう。21～23は興津式であろう。24は縄文原体の圧痕文をもつ前期末葉の土器である。25～32は加曽利E式である。25は磨消をもたない胴部片でEⅠ式か。26～30，32はEⅡ式であろう。28は口縁部が屈曲して開く鉢の胴上半部であろうか。29は胴部に意匠充填文をもつキャリパー型であろう。31は口唇部の無文体下が若干肥厚する縄文のみの土器であり，加曽利E式後半のものであろう。

(5) 遺構外出土石器（第44・45図，図版41）

1は頁岩，2は黒曜石製の石鏃である。5は黒曜石で石鏃の未成品であろうか。3は頁岩，7は黒曜石の調整剥離をもつ剥片である。4は緑泥片岩で器種は不明である。6は安山岩の楔形石器または両極石核，8は安山岩の石核である。9は砂岩，10は粘板岩製の打製石斧である。11～17は磨石類である。11は安山岩，12～14は砂岩，15はチャート製である。16は分厚い凹石であり，安山岩製。17は流紋岩製の台石である。19も結晶片岩製の磨石であるが，大型石棒の頭部が転用されている。18も結晶片岩製で石棒に似ている。

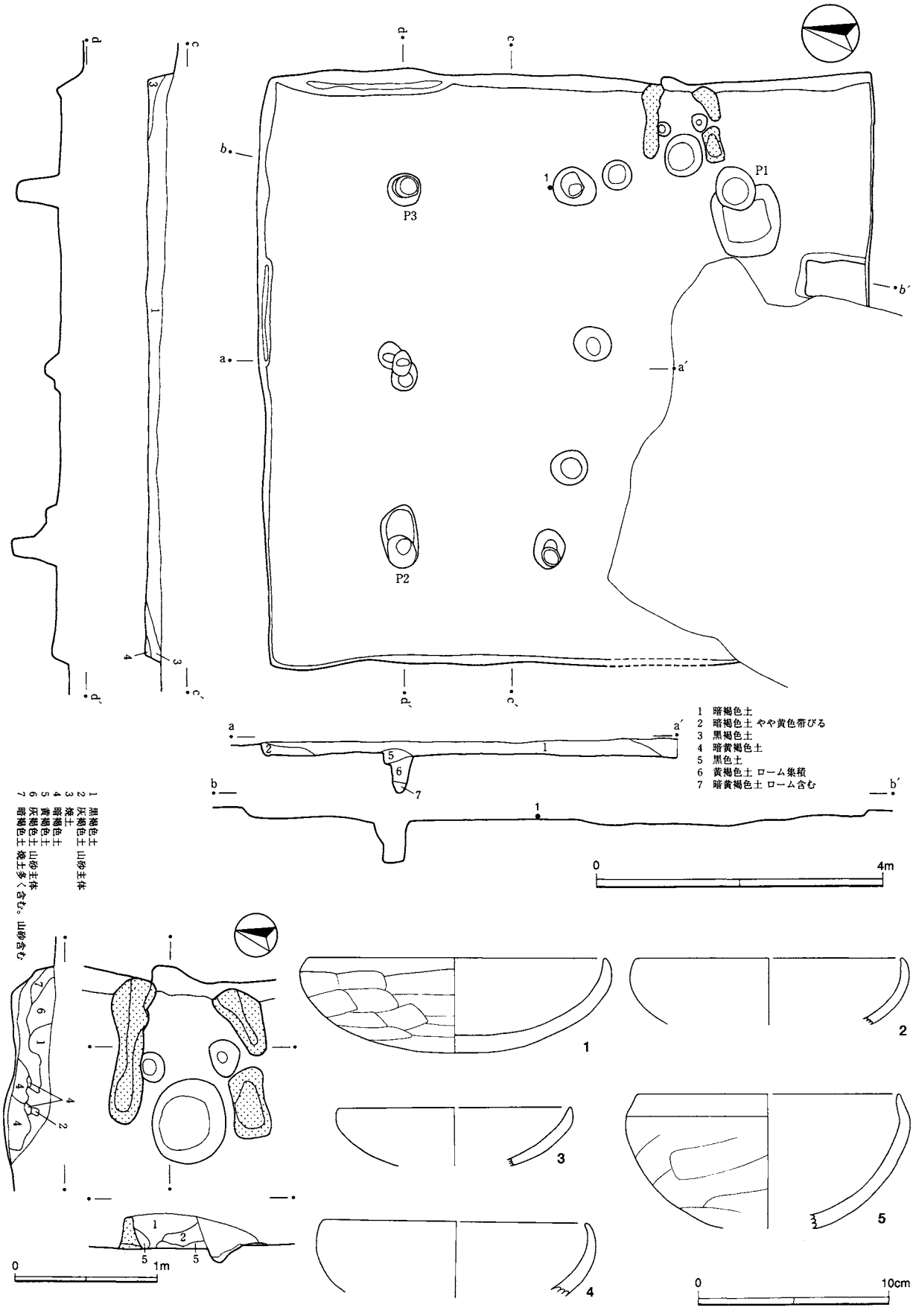
2．古墳時代

住居跡17軒と古墳1基について記載する。

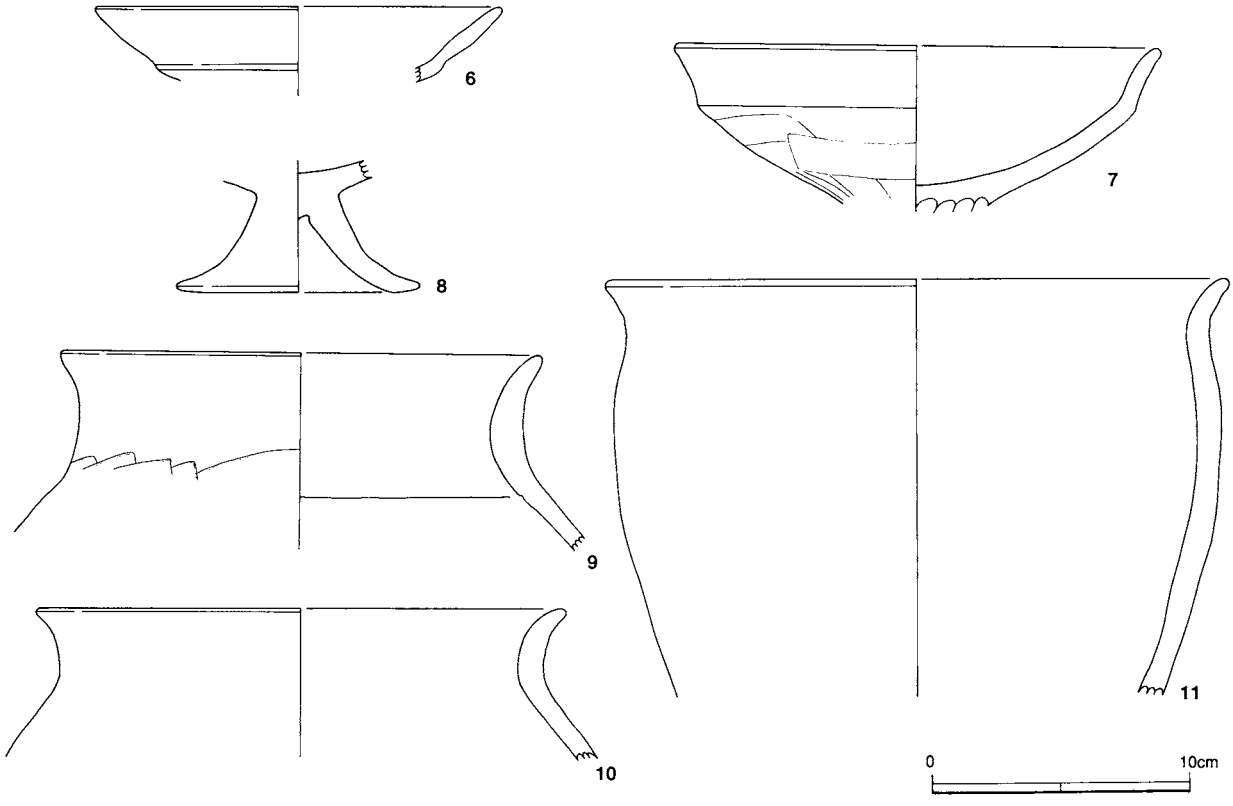
（1）住居跡（第46～68図）

ここで記載する17軒には，時期のはっきりしないもの，住居跡としてよいか迷うものが含まれている。第12地点も含めると，この付近は古墳時代後期の集落の中心部分といえる。しかし，ほとんど重複がなく，とくに集中することもなく緩斜面の広範囲に展開している。本来は第9地点の南側の近世削平部分に集落が連続していたはずである。また，近世の台地整形（SX01・SX02）の部分も失われた可能性がある。

SI13（J01）（図版24･42）　住居跡の南西部は大きく攪乱を受けている。P1～P3が主柱穴であり，もう1本は攪乱部分に入る。主柱穴間には細く浅い柱穴をもち，このほかにいくつかのピットがみられる。P1・


P1
P2
P3
1 暗褐色土
2 暗褐色土 やや黄色帯びる
3 黒褐色土
4 暗黄褐色土
5 黒色土
6 黄褐色土 ローム集積
7 暗黄褐色土 ローム含む
1 黒褐色土
2 灰褐色土 山砂主体
3 焼土
4 暗褐色土
5 黄褐色土
6 灰褐色土 山砂主体
7 暗褐色土 焼土多く含む。山砂含む
0
4m
1m
10cm

第46図　SI13（1）



第47図　SI13（2）

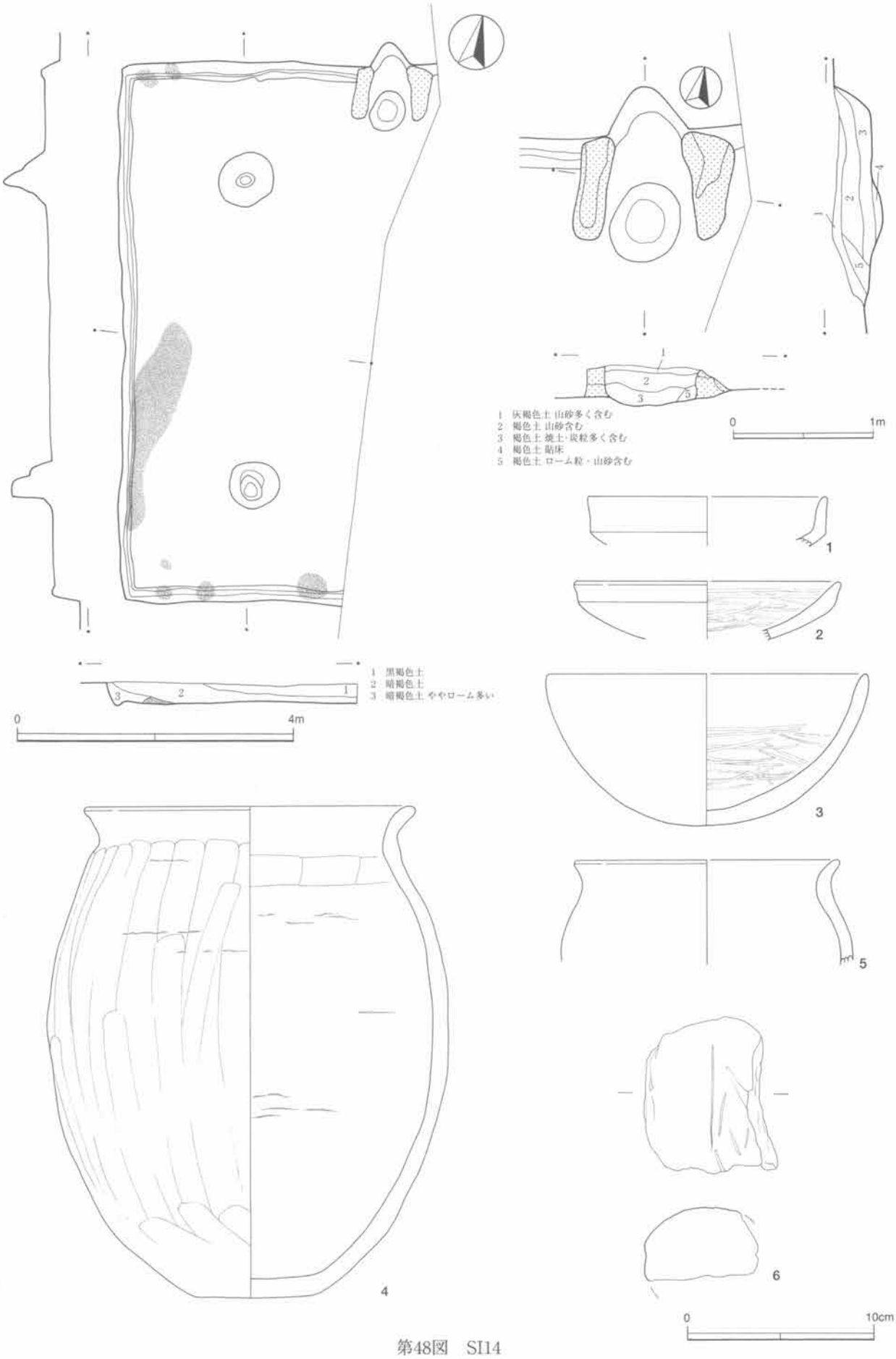
P2の上部の広がりは，柱の抜き取り痕の可能性がある。壁や床面の遺存状態が悪かったこともあって，第46図a断面をみるとP3の覆土５層が床面レベルより上にまであるように，本来の床面は掘り抜かれているようである。壁溝が部分的であるのもこのためであろう。カマドは東壁の南よりにある。南壁には床面の若干の高まりが認められた。詳しい記録はなく，構築時からの施設であるか，頻繁な踏みしめによって後から高まりができたのか不明である。これが本来の床面レベルとも考えられる。いずれにせよ，強く踏みしめられた出入り口部の可能性がある。南東隅から中央付近に土間をもつ南北主軸の住居が想定できよう。

土師器甕３点，杯４点，高杯３点，鉢１点，およびスラグ６点計137ｇが出土している。１は完形で，P1とP3の間の柱穴付近の床面から出土している。そのほかは破片である。

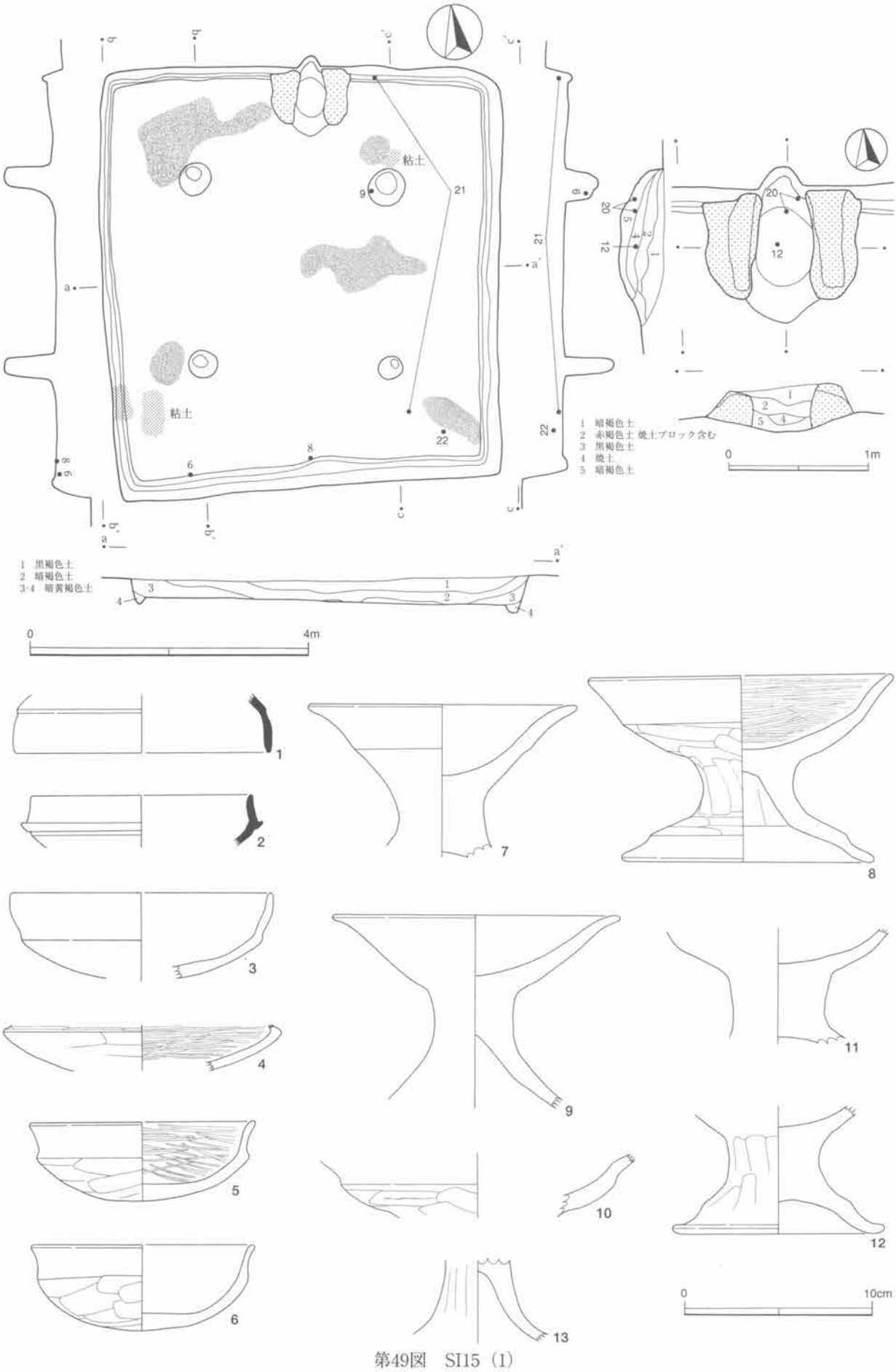
SI14（J02）（図版24･42）　住居跡の東半分は台地が削られて失われていた。北壁の中央にカマドをもち，４主柱穴，壁溝をもつ住居と推定できる。主柱穴は上部が広がっており，柱が抜き取られた可能性がある。南西部の床面に焼土が堆積していた。土師器甕２点，杯２点，鉢１点および，支脚，スラグ・小鉄塊が出土している。スラグ･小鉄塊は7点で約１kgあり，大きなスラグが目につく。遺構の形状は一般の住居跡と変わらない点からみて,廃絶後の住居跡が排滓場となったか，未検出の遺構が存在した可能性が考えられる。

SI15（J03）（図版24･42･43）　４本の主柱穴と全周する壁溝をもつ。若干南東壁が張り出しているせいか，主柱穴の軸と掘り込みの軸はややずれている印象がある。カマドは北壁の中央である。

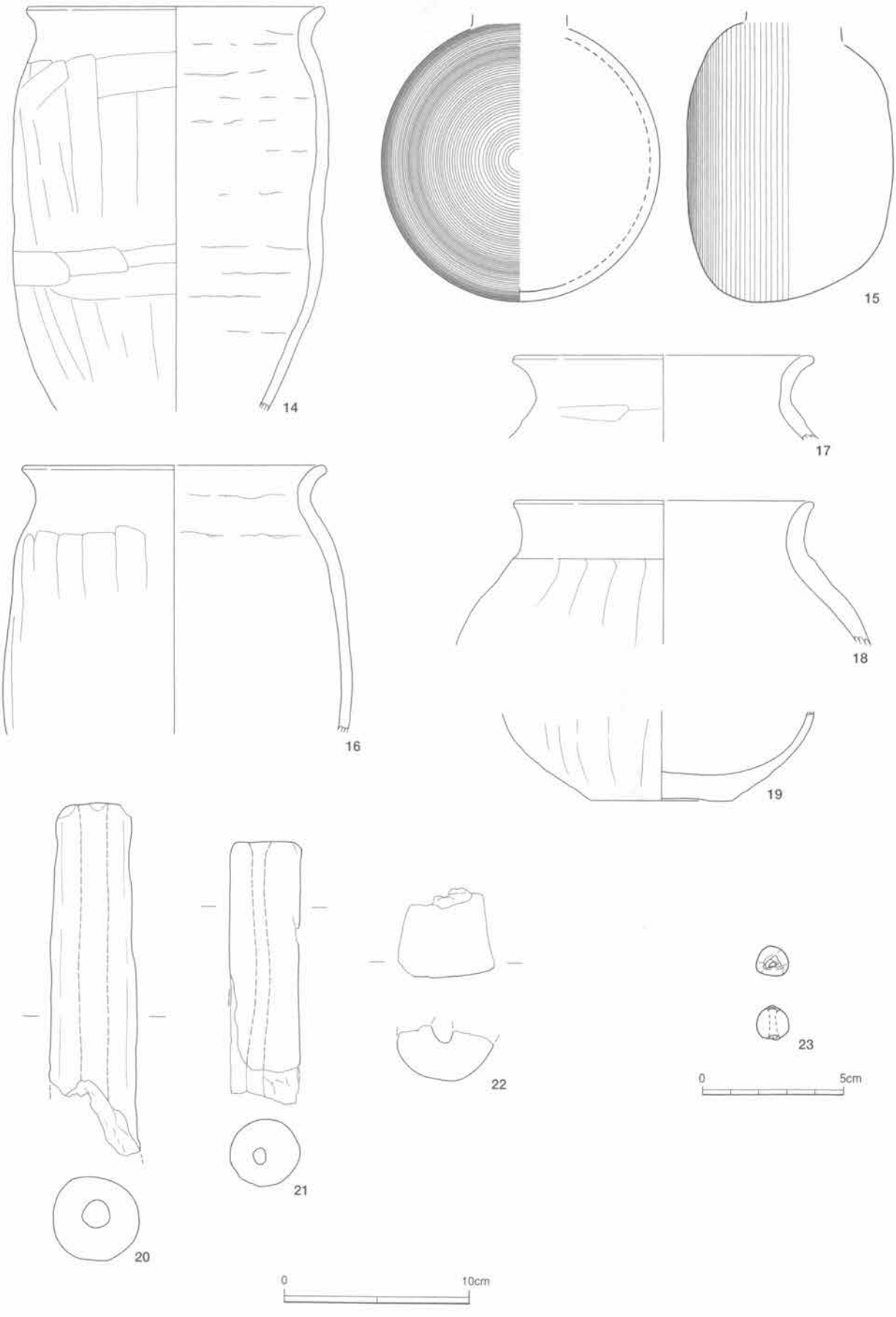
出土遺物は豊富であるが，完形に近いものはない。土師器甕５点，杯４点，高杯７点，須恵器杯・杯蓋・提瓶各１点，細型羽口３４点，土製小玉が出土している。やや残りがよい高杯（8）は南壁中央の床面，高杯（9）は北東の主柱穴内で出土している。羽口としたもののうち，カマドから出土した20は支脚として使われたものであろう。21･22は覆土中から出土した破片である。円筒形の中央に孔が貫通しているところ


1 黒褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土 ややローム多い
0
4m
1 灰褐色土 山砂多く含む
2 褐色土 山砂含む
3 褐色土 焼土・炭粒多く含む
4 褐色土 貼床
5 褐色土 ローム粒・山砂含む
0
1m
1
2
3
4
5
6
0
10cm

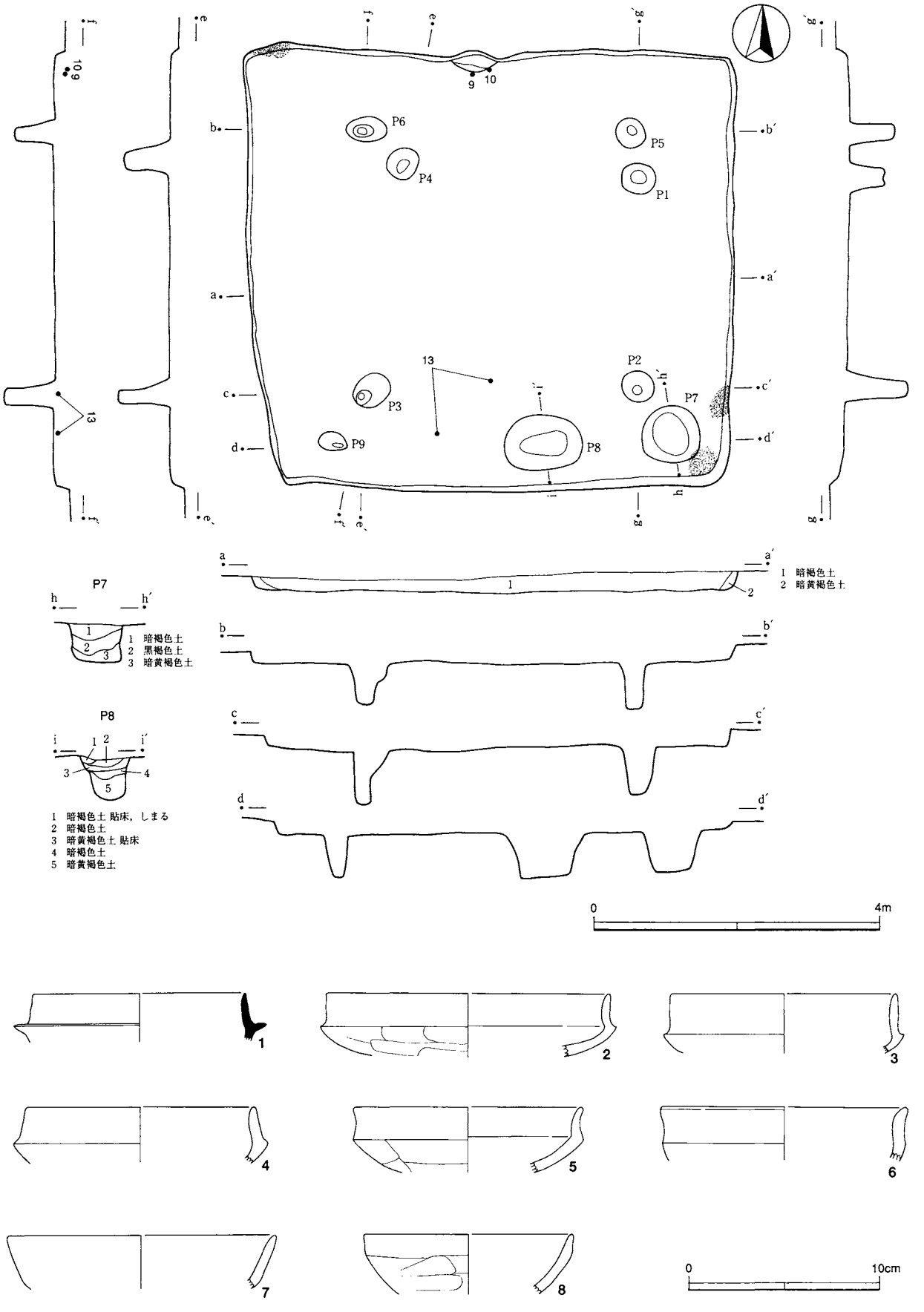
第48図　SI14


粘土
粘土
1 暗褐色土
2 赤褐色土 焼土ブロック含む
3 黒褐色土
4 焼土
5 暗褐色土
0 1m
1 黒褐色土
2 暗褐色土
3・4 暗黄褐色土
0 4m
0 10cm

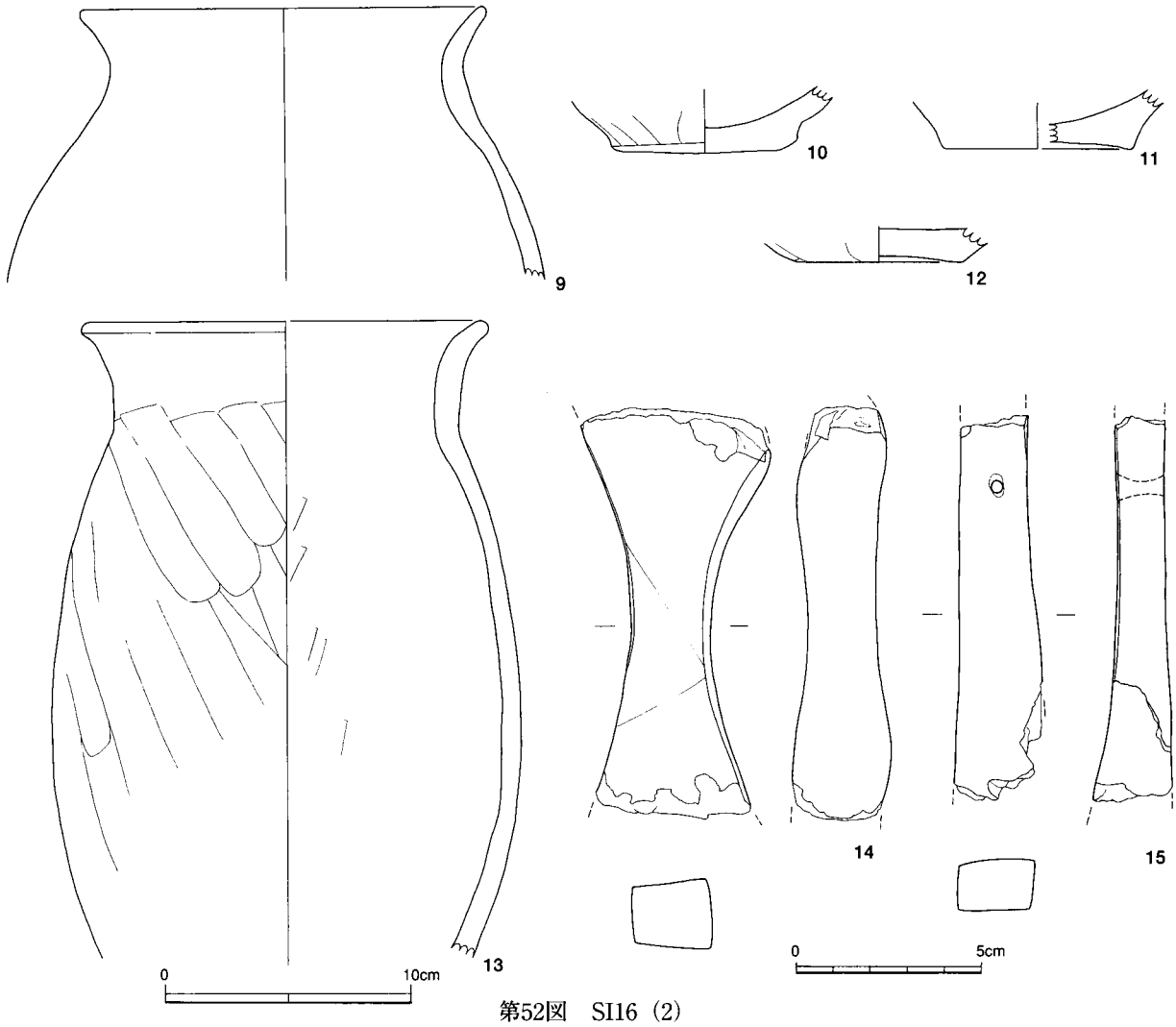
第49図　SI15（1）



第50図　SI15（2）


P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
13
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 暗黄褐色土
1 暗褐色土 貼床，しまる
2 暗褐色土
3 暗黄褐色土 貼床
4 暗褐色土
5 暗黄褐色土
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
0
4m
0
10cm

第51図　SI16（1）

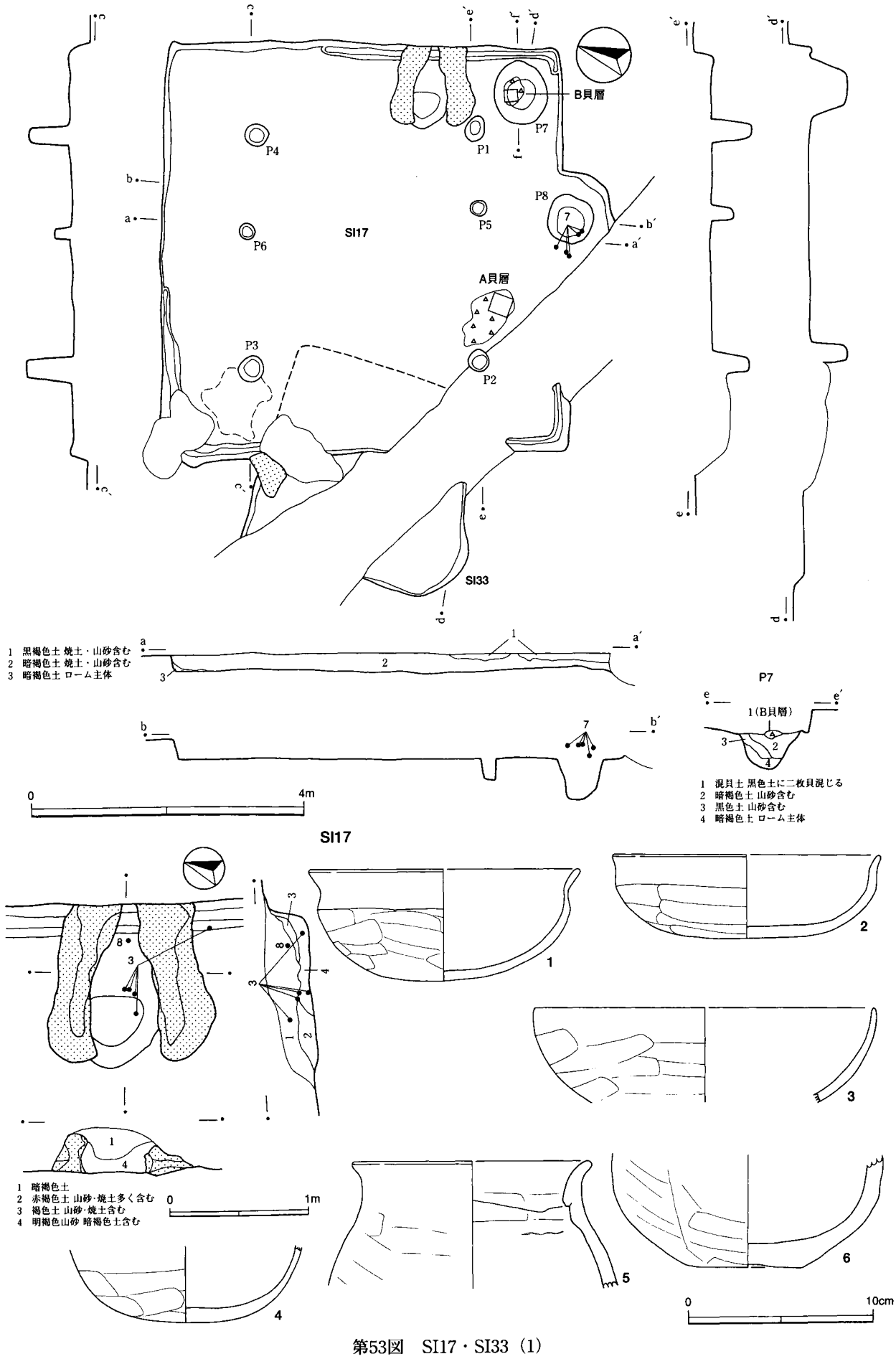


第52図　SI16（2）

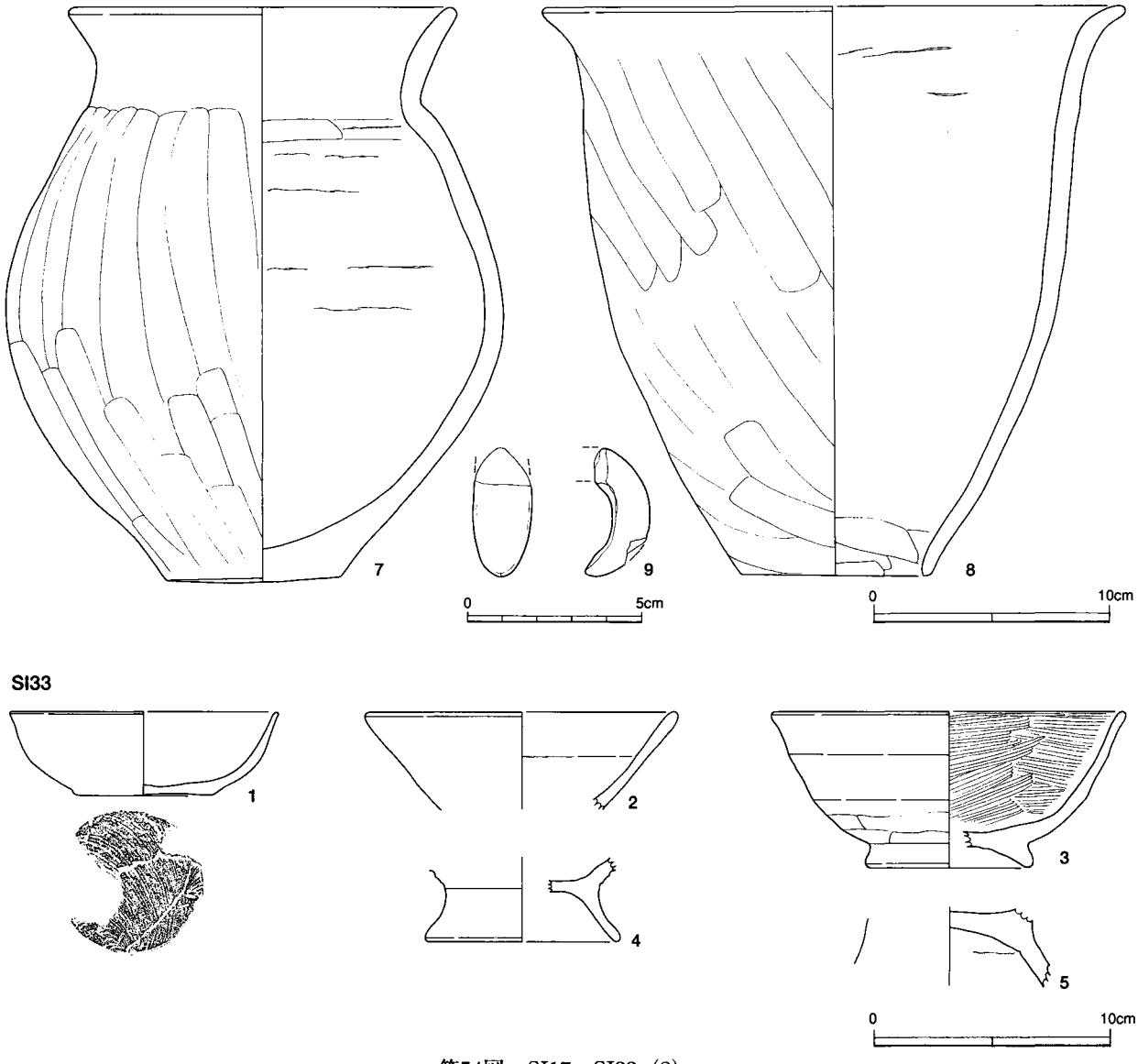
から羽口としたが，溶解や鉄分の付着など，製鉄に使われた証拠は得られていない。平安時代の通常のものより細く,長いため細型羽口とした。このタイプは第12地点のSI61でも出土しており,全面に炉壁状の付着を有するが，出土した住居跡は平安時代である。

SI16（J04）（図版25･43）　後期の住居跡であり，カマドが存在したはずであるが位置を特定できない。北壁中央にはそれらしい壁の張り出しと底面の段・窪みがあるが，それだけである。床面が遺存していれば，若干なりカマドの構築材が残るはずであるが記録されてはいない。貯蔵穴（P7）の位置からすると，カマドは東壁の南寄りにあった可能性も捨てきれない。出入り口の方向は南側が候補となるが，決め手となる施設はない。北カマドとみた場合の南北方向を主軸とすると，掘り込みは主軸のほうが短いことになる。廃絶時の主柱穴はP1～P4であり，P5・P6・P8・P9は貼床面下で検出した。壁際には若干の焼土が堆積していた。土師器甕５点，杯７点，須恵器杯１点，砥石２点が出土している。破片ばかりであって，住居跡の廃絶後に投棄されたものが主体とみられる。砥石2点のうち，15は穿孔されている。

SI17（J07）（図版25･26･43）　南壁の張り出しと柱穴（P8）は出入り口施設であり，東壁の南寄りにカマド，南東隅に貯蔵穴をもつ。南東隅から中央付近が土間となる間取りを想定できる。柱穴は4本の主柱穴のほかに，東西軸の主柱穴間に浅く小さな柱穴2本をもつ。壁溝は一部に認められる。貝の小ブロックが2か所見つかっている。Ａ貝層は100×50cm、厚さ10cm、Ｂ貝層は貯蔵穴上の床面レベルにあり、80×60cm、



第53図　SI17・SI33（1）



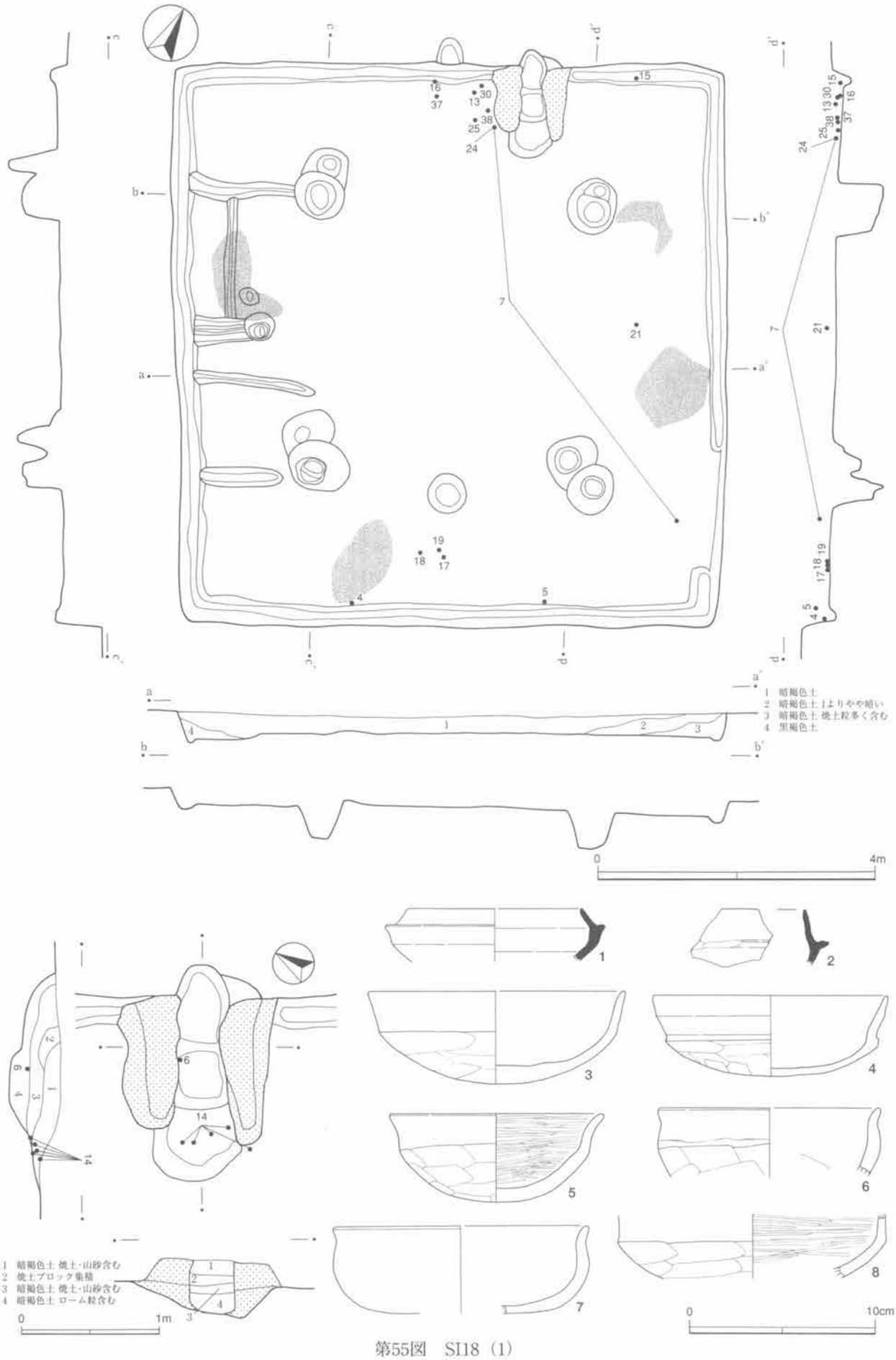
第54図　SI17・SI33（2）

厚さ20cmほどである。両ブロックから一部をサンプルとして採取した。内湾砂底種のハマグリを主体とし，比較的多くの内湾砂底～干潟種を含む。分析の詳細は第3章第2節に記した。掲載遺物は土師器甕3点，杯4点，甑1点，勾玉状の土製品1点である。完形に近い甕（7）は張り出し部のP8の上から出ている。

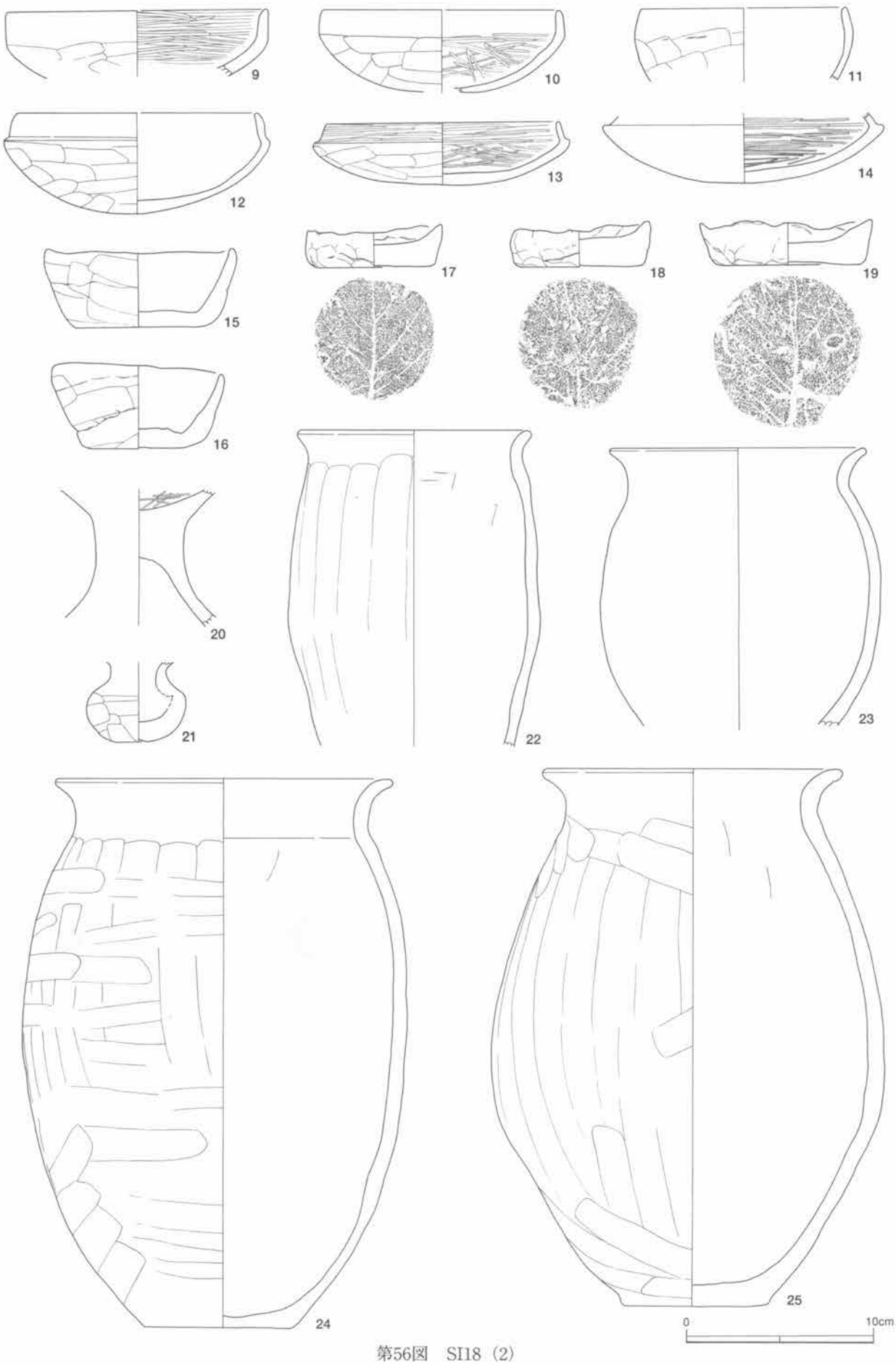
なお，当遺構は南壁でSI33と重複する。SI17が切られているが，調査は逆の順で行っている。SI33は平安時代の住居跡であるため，次項で説明する。

SI18（J10）（図版26・43～45）　カマド・主柱穴・根太溝に建て替えの痕跡が認められる。カマドは北壁の中央よりやや東側にあるが，中央部の張り出しも古いカマドの痕跡であろう。主柱穴は4本ともそれぞれ造り替えた痕がある。また，西壁から伸びる根太溝のうち，中央付近のものにも重複がみられる。出入り口の施設とみられるピットは南壁側の中央付近，主柱穴の中間あたりにあるが，建て替え前後のいずれに属するかはわからない。壁溝はほぼ全周する。壁際の床面近くには焼土の堆積がある。

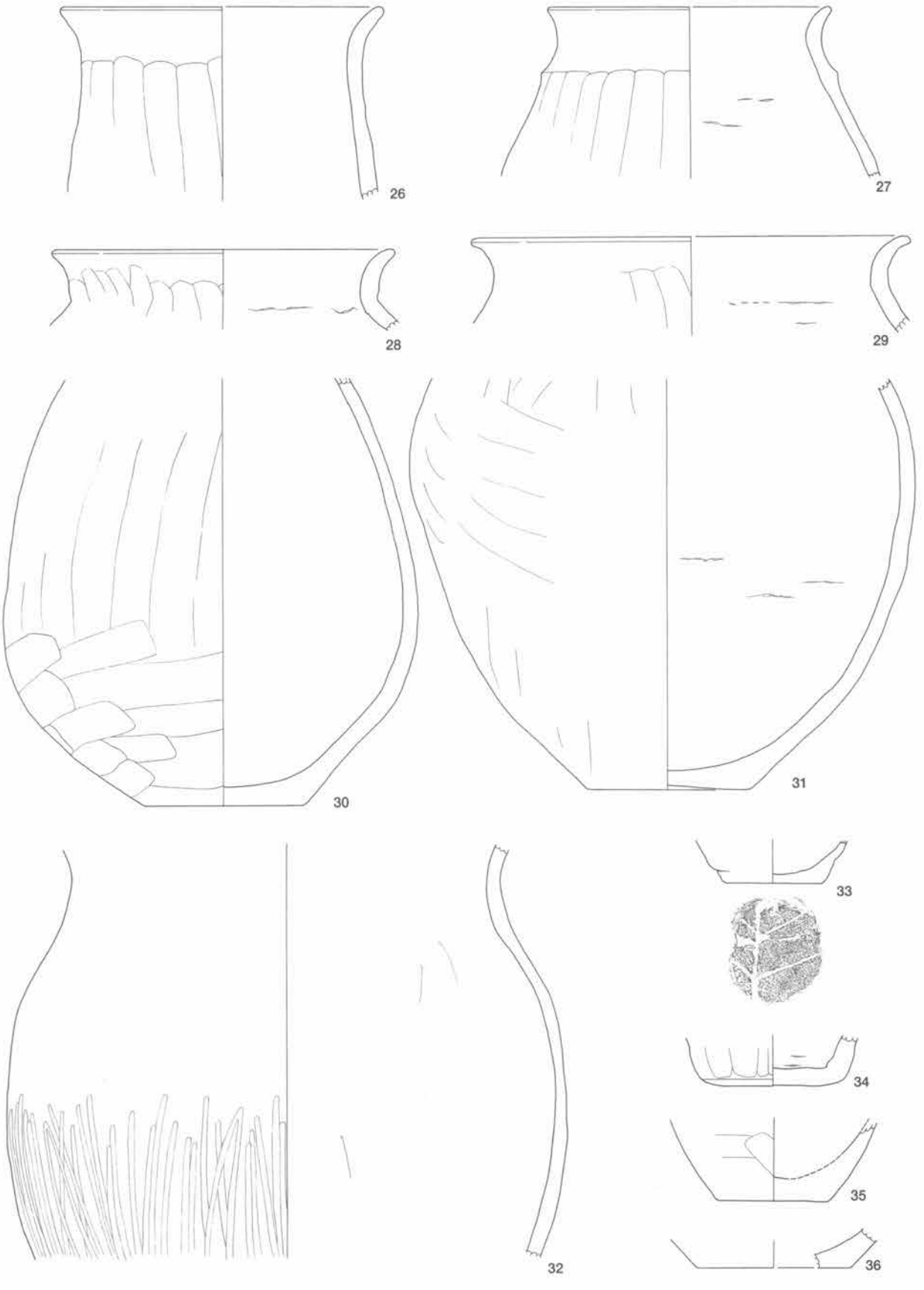
出土遺物は豊富で，内容は興味深い。住居跡の廃絶に伴う祭祀を示す可能性がある。掲載遺物は土師器甕15点，杯12点，高杯・甑1点，手捏ね土器6点，須恵器杯2点，支脚，土玉，土製小玉各1点，砥石（？）


1 暗褐色土
2 暗褐色土 1よりやや暗い
3 暗褐色土 焼土粒多く含む
4 黒褐色土
0 4m
1 暗褐色土 焼土・山砂含む
2 焼土ブロック集積
3 暗褐色土 焼土・山砂含む
4 暗褐色土 ローム粒含む
0 1m
0 10cm

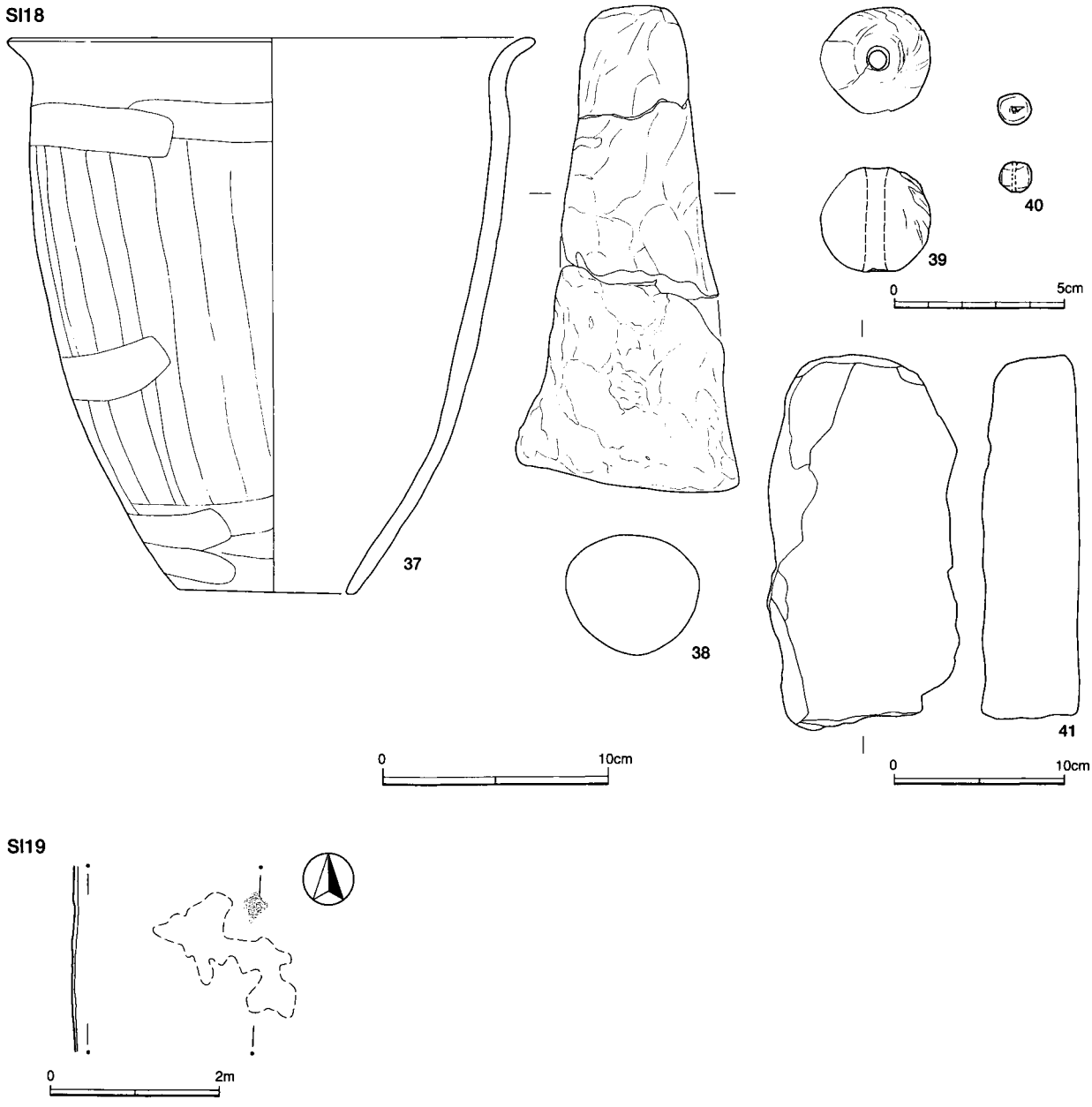
第55図　SI18（1）



第56図　SI18（2）



第57図　SI18（3）

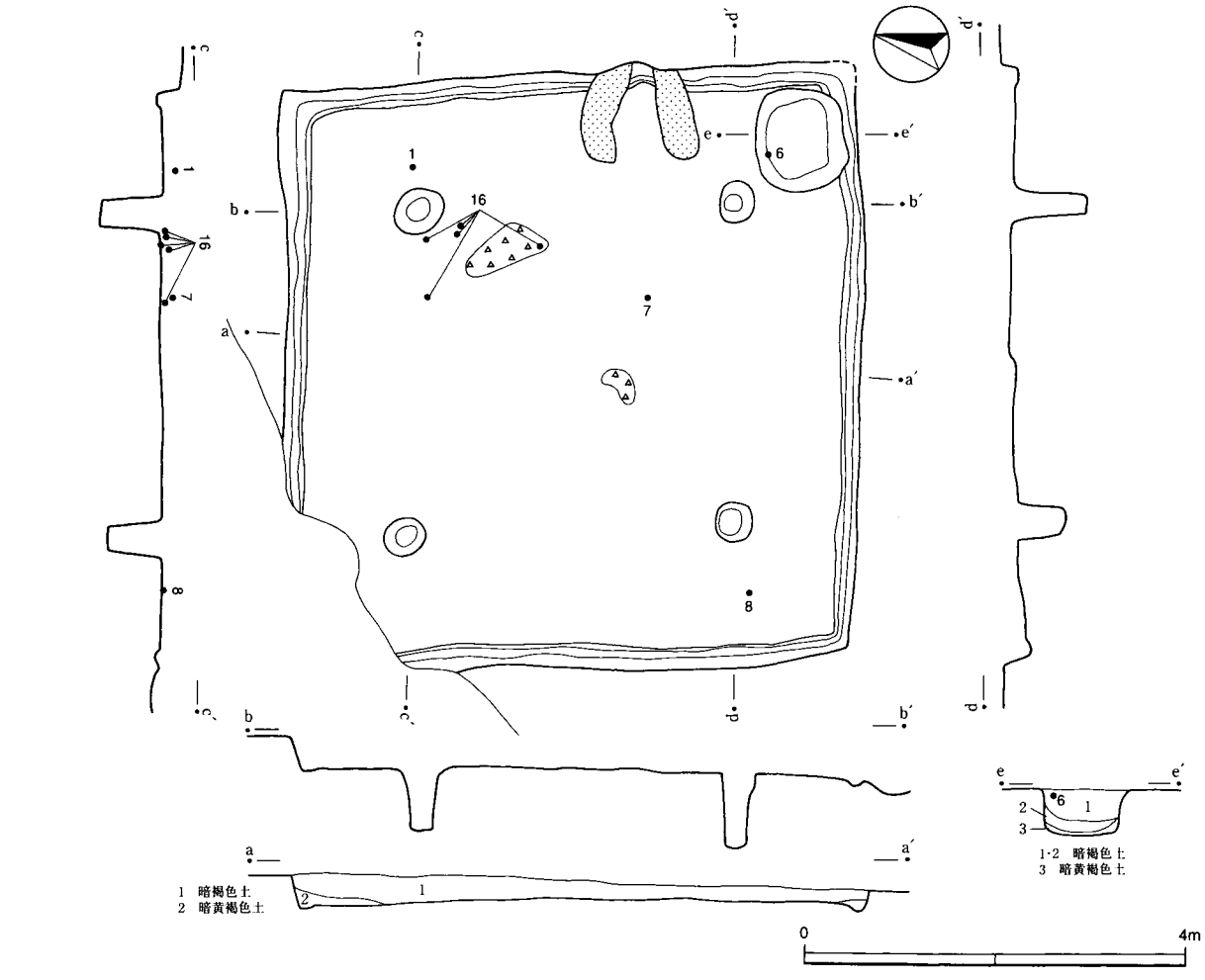


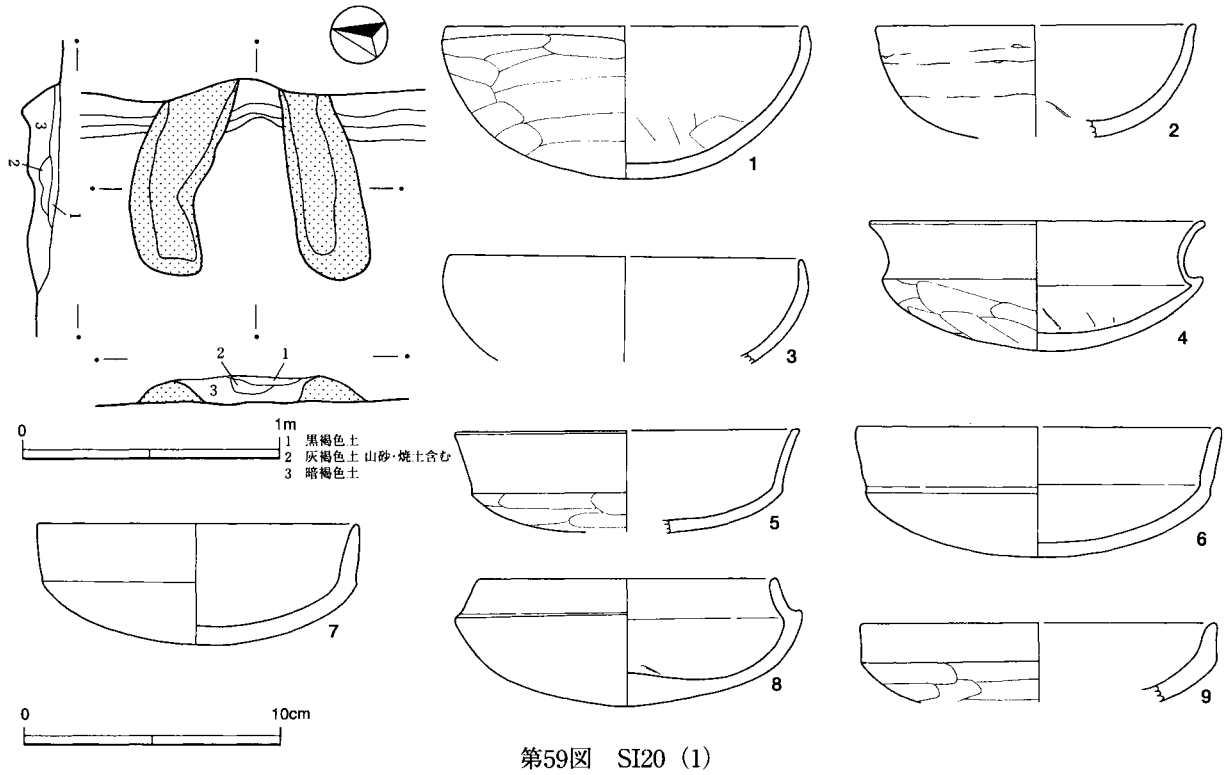
第58図　SI18（4）・SI19

1点である。南壁際からは杯（4・5）が出土した。5は床面からかなり浮いている。出入り口状の穴と南壁の間からは手捏ね土器3点（17・18・19）が出土した。カマドからは杯（14）が，カマドの左脇からは甕（24·25），甑（37），杯（13），手捏ね土器（16），支脚（38）が出土した。カマド右脇からは手捏ね土器（15）が出土した。これらは完形またはそれに近いものである。住居跡の廃絶に伴い，祭祀等の目的で置かれた可能性がある。置かれた位置になんらかの意図，目的があったことが予想できる点も興味深い。

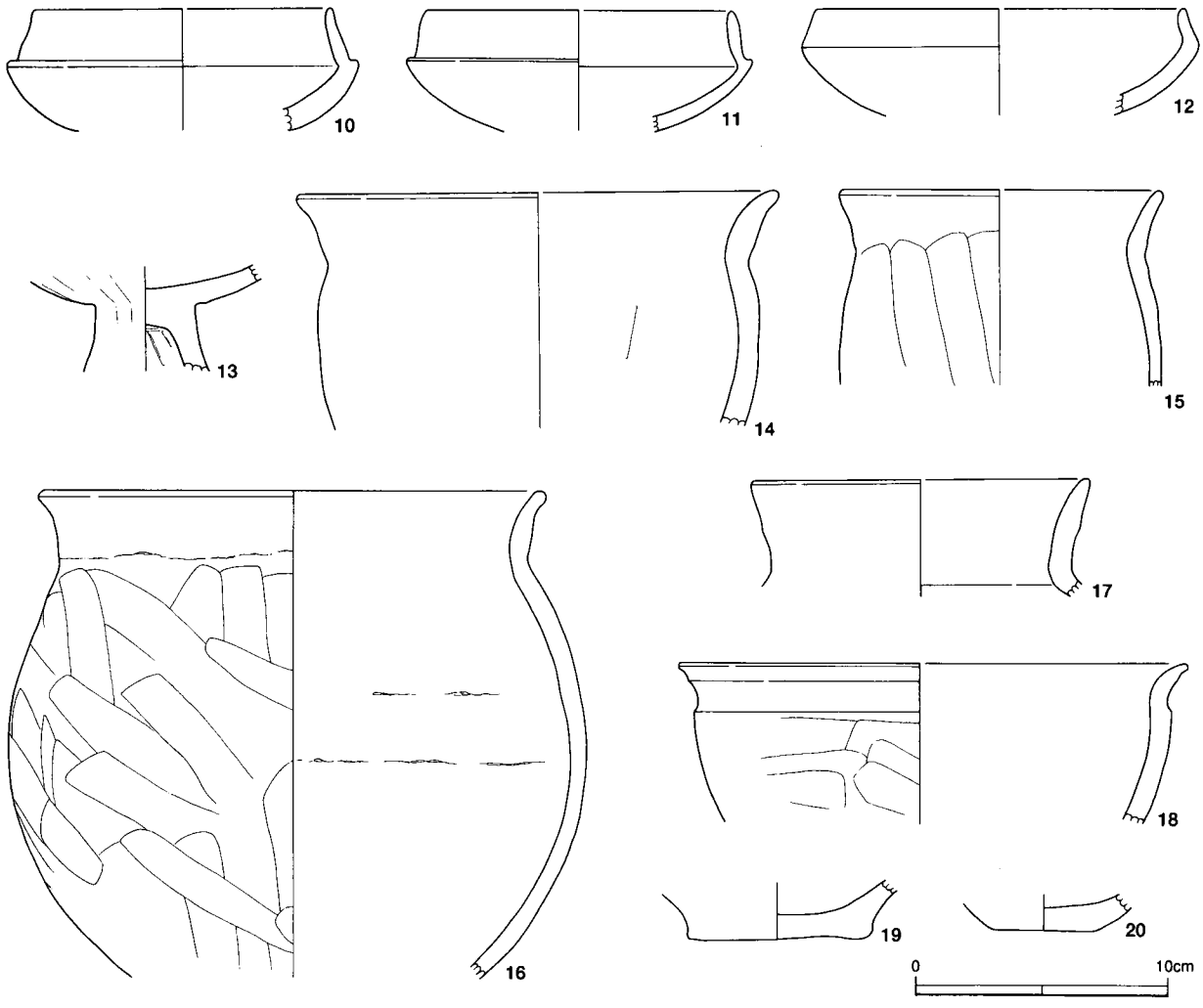
38は完形の支脚である。39は土玉，40は土製小玉である。41は1面に人工的な摩滅が認められるもので，砥石の可能性がある。

SI19（J12）　SI17の調査中に焼土と硬化面を検出し，住居跡の可能性がある遺構として記録された。焼土には山砂ブロックが混じっており，カマドの残骸と思われた。硬化面は淡褐色山砂と暗褐色土ブロックが硬く踏みしめられる。周囲は攪乱が多いため全体に遺存が悪い。出土遺物は土器小片のみであった。


1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
1·2 暗褐色土
3 暗黄褐色土
0
4m


1 黒褐色土
2 灰褐色土 山砂・焼土含む
3 暗褐色土
0
1m
0
10cm

第59図　SI20（1）

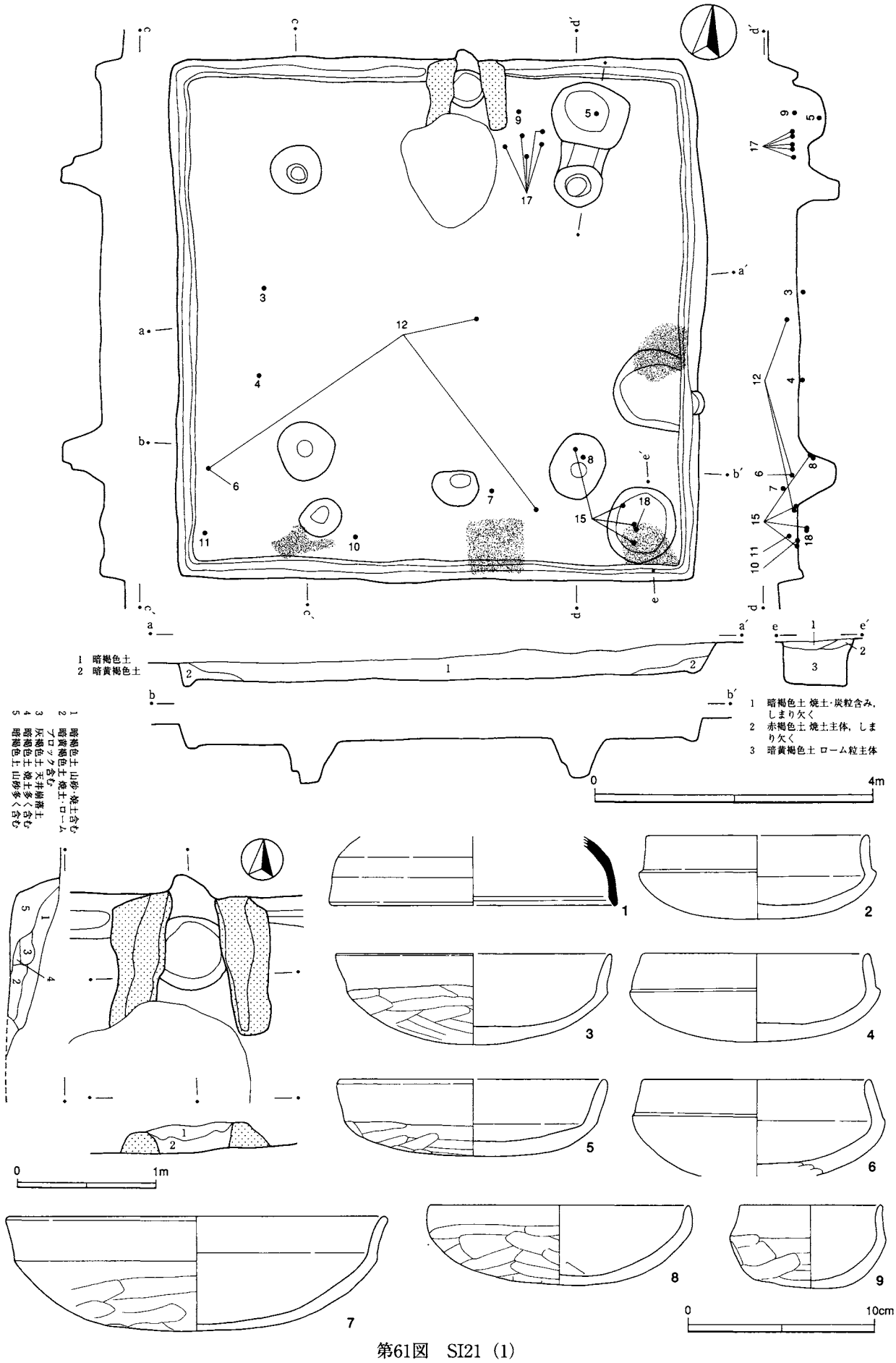


第60図　SI20（2）

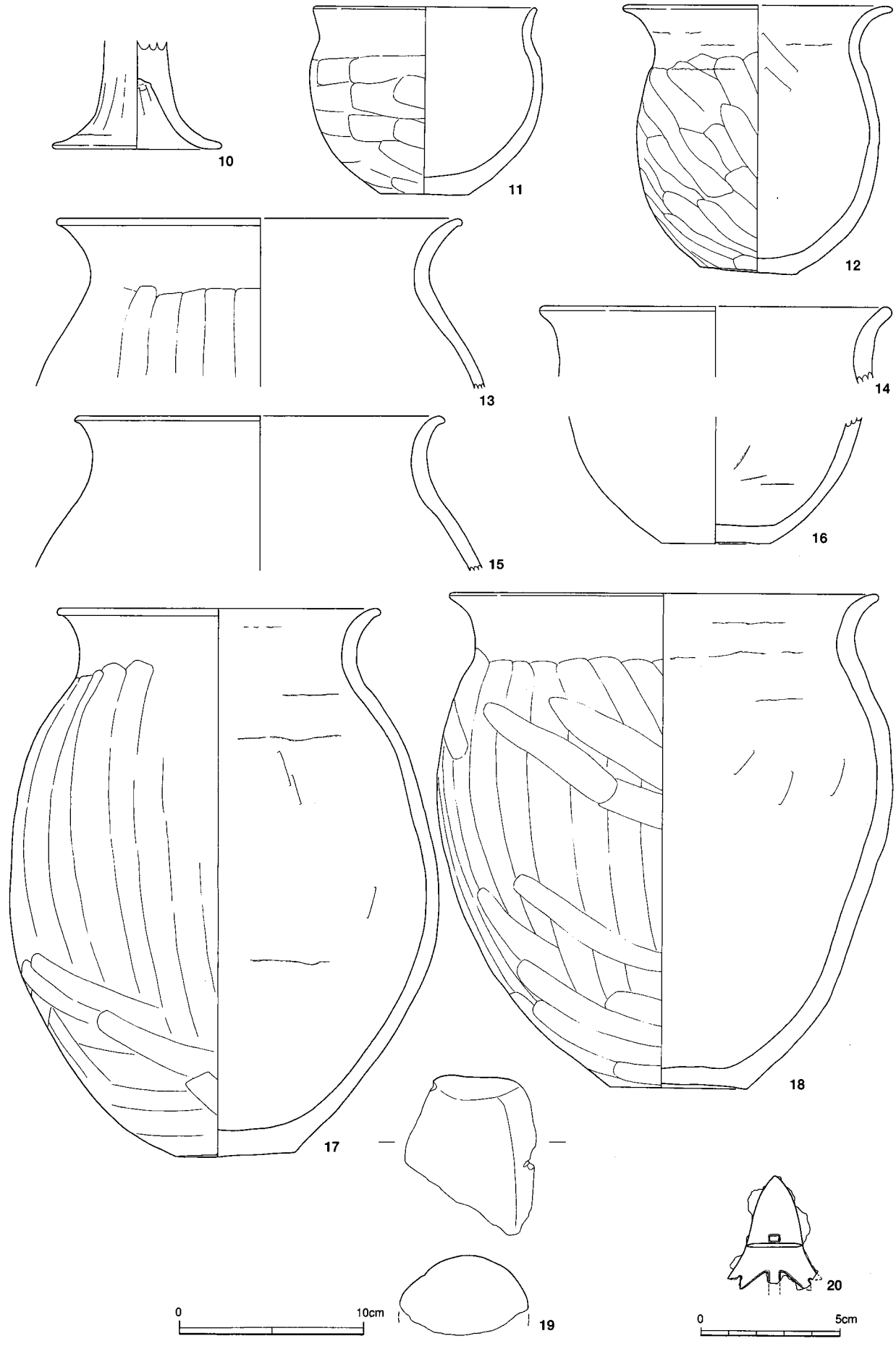
SI20（J13）（図版26·45）　4本の主柱穴，全周する周溝，カマド，貯蔵穴を検出した。覆土中には貝ブロックが入っていた。カマドは東壁の中央よりやや南寄りにあり，貯蔵穴は南東隅にあって壁溝を切る。出入り口が南壁に設置され，主軸を南北にもつ住居であった可能性が高い。主柱穴は柱を抜き取った痕跡がなく，焼土ブロックなども検出されていないなど，廃絶に伴う行為の痕がみあたらない。貝ブロックは2か所あり，マガキ・ハマグリ・アサリ・マテガイ・シオフキがそれぞれ少数混じっていた。分析の成果を第3章第2節に示した。掲載遺物は土師器甕7点，杯12点，高杯1点がある。数は多いが破片が多く，完形に近い4（カマド一括）・7・8も別々に出土してまとまりがない。おそらく貝殻と同様に，住居廃絶後の窪みに投棄された破片が中心であろう。

SI21（J14）（図版27·45·46）　2か所の貯蔵穴とカマドが造り替えられているので，建て替えが行われたことがわかる。東壁の中央より南側にカマドをもち，南東隅に貯蔵穴を設けた住居から，北壁中央にカマドをもち，北東隅に貯蔵穴を設けた住居に建て替えたものであろう。出入り口のピットは南側にある。4本の主柱穴には建て替えの痕跡はみられない。周溝は全周する。壁際の底面付近には焼土がみられる。

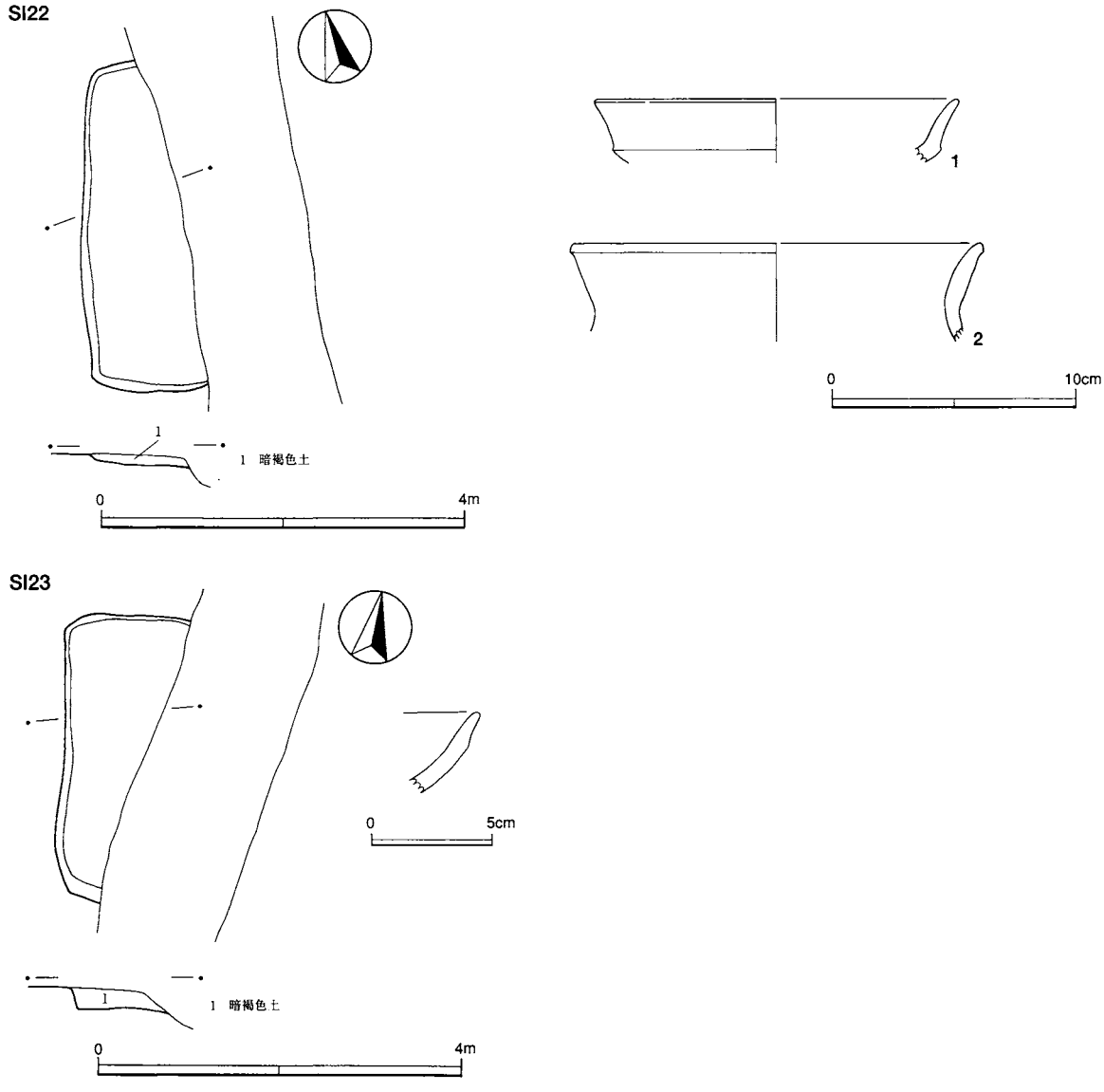
掲載遺物は土師器甕7点，杯8点，高杯・椀・須恵器蓋1点，鉄鏃，支脚がある。土師器の杯（4～9）と甕（11・12・17・18）は比較的残りがよいものであるが，出土位置はまとまりがない。廃絶時ないしその後に遺棄されたものもあると思われるが，判断は難しい。


1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
1 暗褐色土 焼土・炭粒含み，しまり欠く
2 赤褐色土 焼土主体，しまり欠く
3 暗黄褐色土 ローム粒主体
0
4m
0
1m
0
10cm

第61図　SI21（1）



第62図　SI21（2）

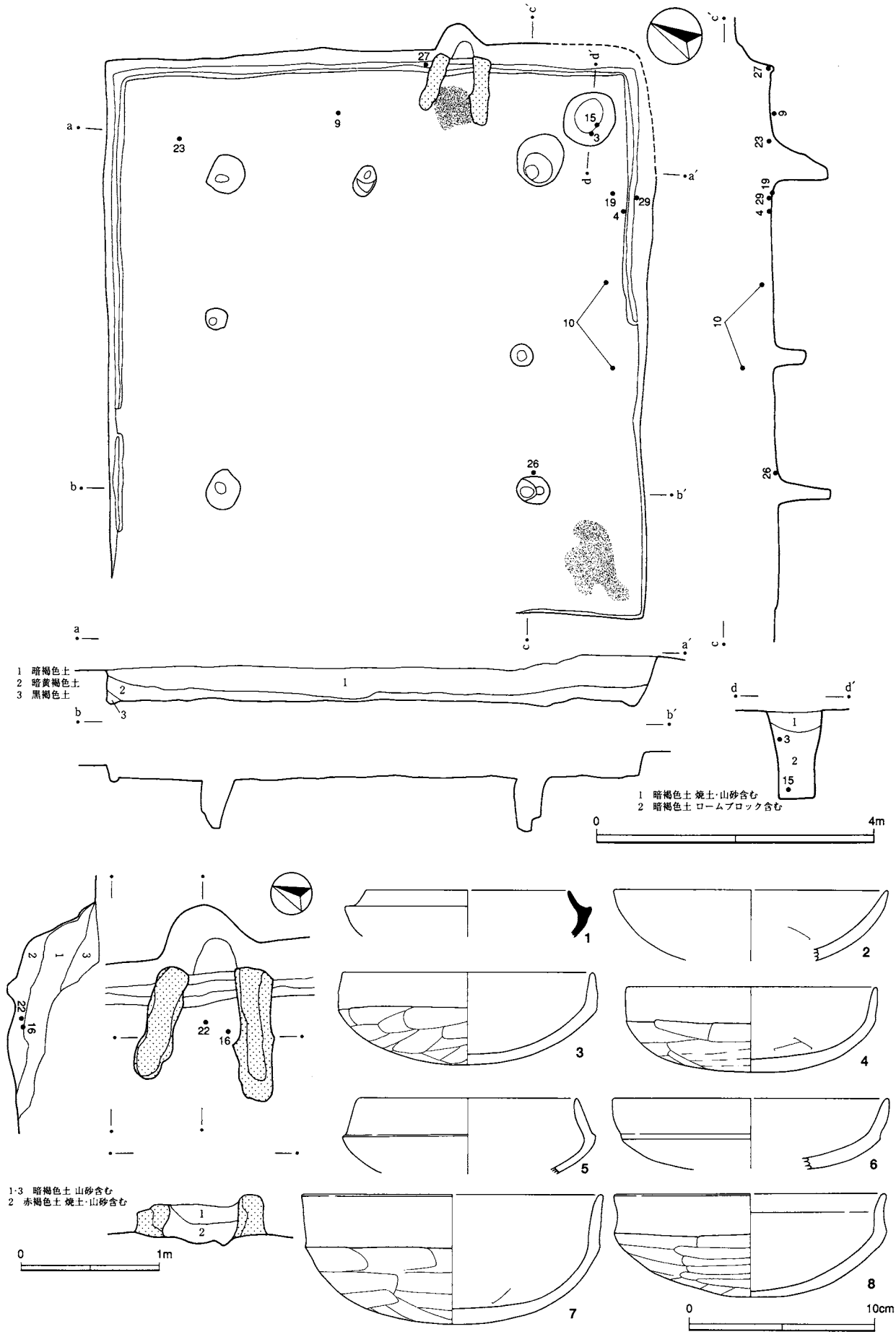


第63図　SI22·SI23

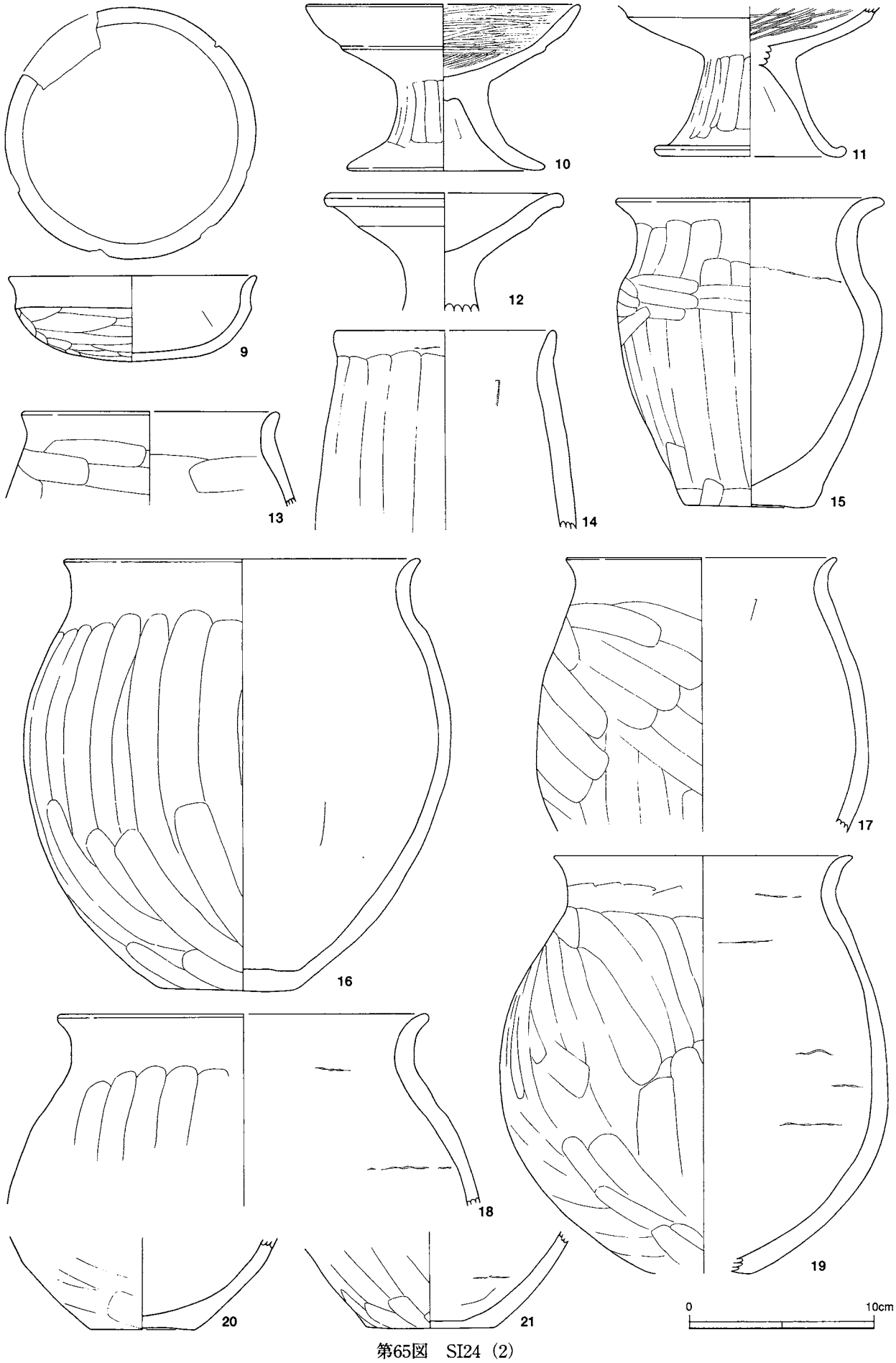
SI22（J18）（図版46）　一辺3.6mほどの方形の掘り込みを検出した。竪穴住居跡の可能性があるが，大部分はSD10によって破壊されたようである。底面はソフトロームの下部で，踏みしめは認められない。土師器甕，杯の破片が出土している。

SI23（J19）　一辺3.2mほどの方形の掘り込みを検出した。竪穴住居跡の可能性があるが，大部分はSD10によって破壊されたようである。底面はソフトロームの下部で，踏みしめは認められない。土師器杯の破片が出土している。

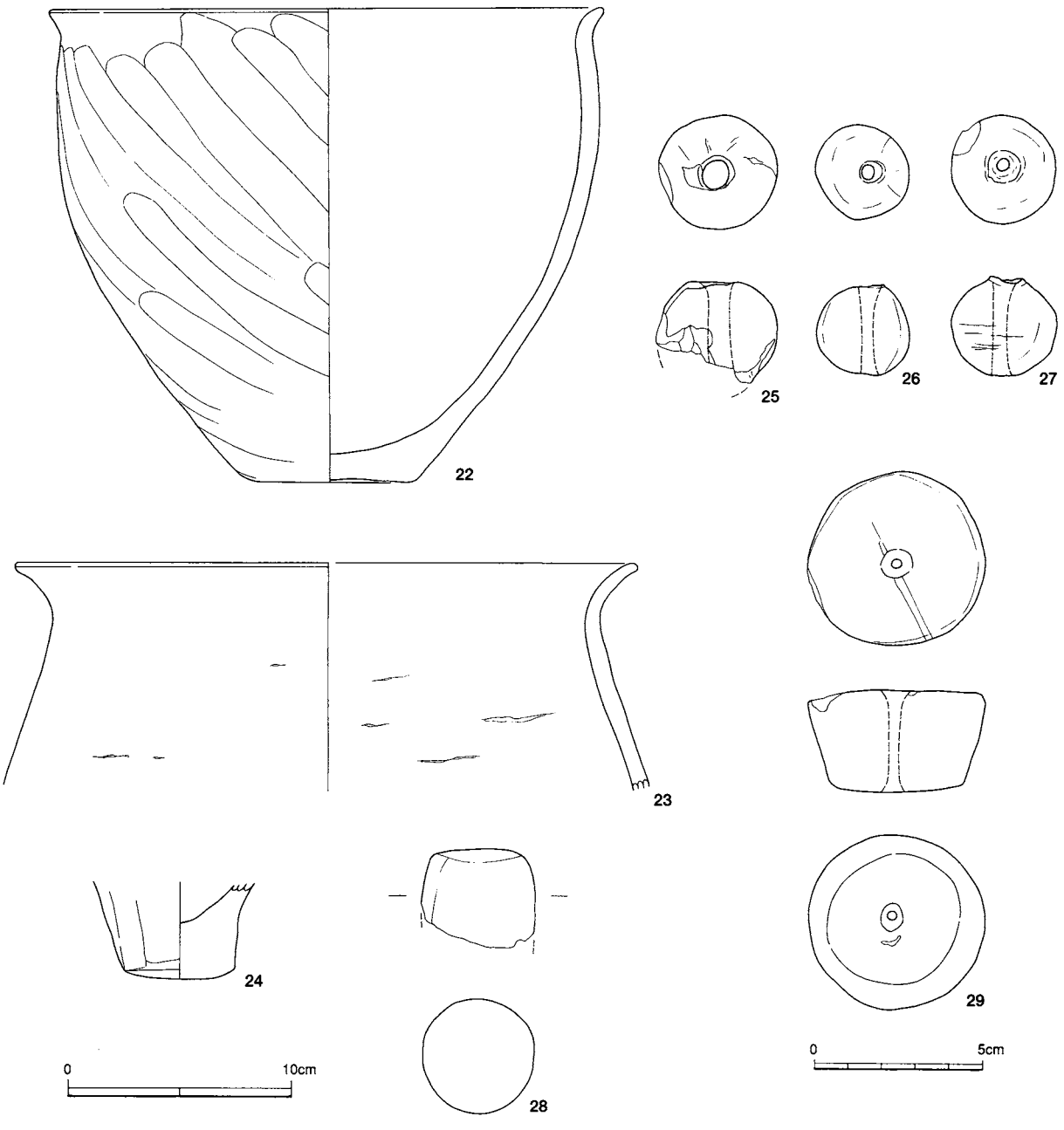
SI24（J20）（図版27·46·47）　西壁の北半は別の住居（SI37）に切られていた。南東隅には土坑（SK60）があり，新旧は不明である。カマドは東壁のやや南寄りにあり，南東隅に貯蔵穴をもつ。4本の主柱穴間のほかに，主柱を結ぶ位置にも柱穴がある。主柱穴よりは小さめで浅い。南西隅には焼土が堆積していた。西側は斜面に近く壁，床の残りが悪い。そのためか，壁溝は全周しない。掲載遺物は土師器甕12点，杯8点，高杯3点，須恵器杯，紡錘車，土玉3点，支脚と豊富である。このうち，杯（3）と甕（15）は南東の貯蔵穴内から出土した。そのやや西側の壁際床面では杯（4），甕（19），紡錘車（29）が出土した。厨房の近くに多いといえそうである。そのほか，残りのよい土器，土製品の出土位置を示した。


1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
3 黒褐色土
1 暗褐色土 焼土・山砂含む
2 暗褐色土 ロームブロック含む
0 4m
1・3 暗褐色土 山砂含む
2 赤褐色土 焼土・山砂含む
0 1m
0 10cm

第64図　SI24（1）



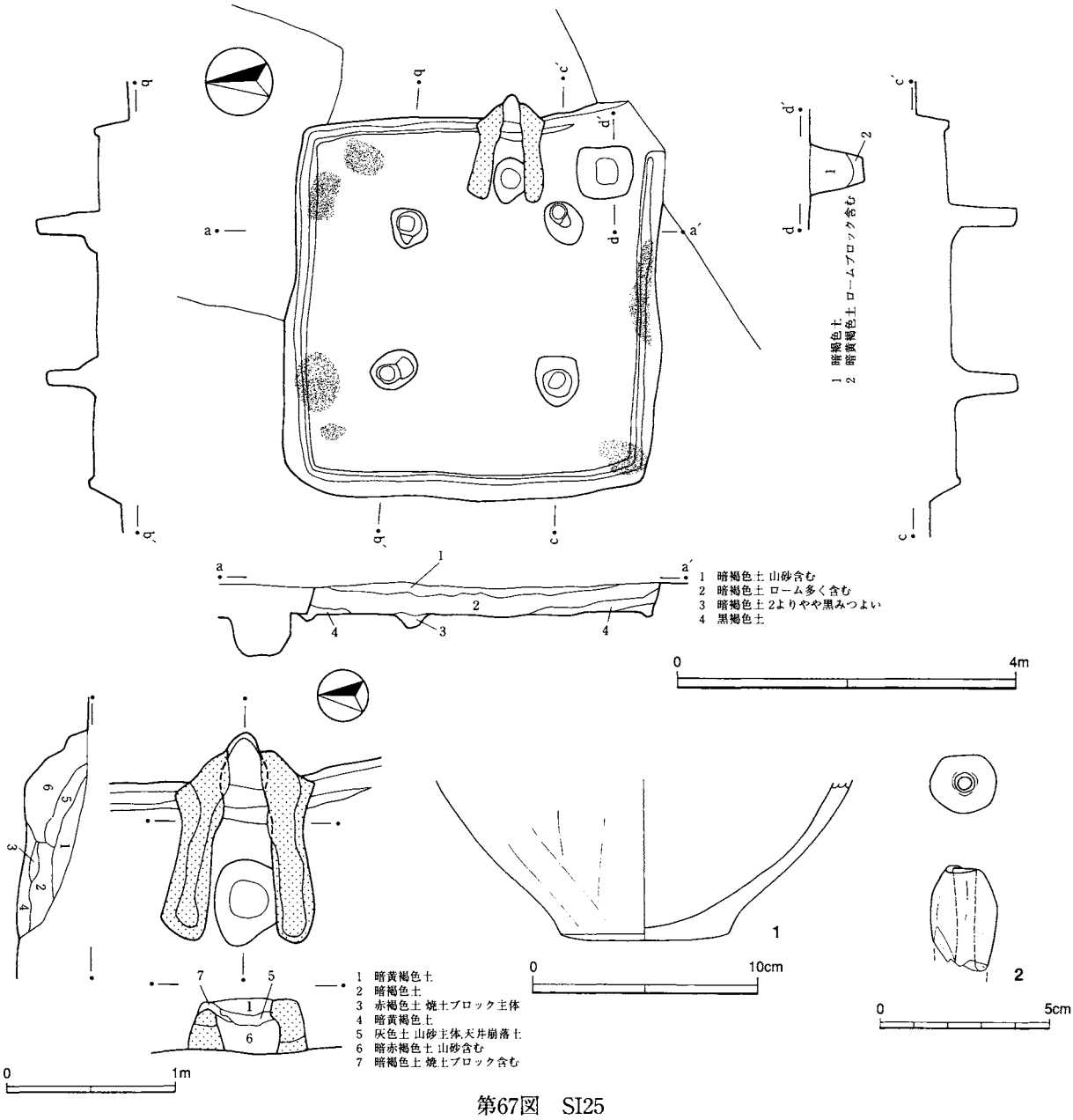
第65図　SI24（2）



第66図　SI24（3）

SI25（J23）（図版27）　東壁の中央やや南寄りにカマド，南東隅に貯蔵穴をもつ。壁溝は全周する。4本の主柱穴に柱の抜き取りの痕跡があり，壁際の床面には焼土が堆積していた。上屋の焼却を示すものであろう。南東隅の壁は溝と重複するために掘り過ぎたものである。土師器甕片と管状土錘が出土している。

SI26（J28）（図版28･47）　焼却または焼失住居である。東壁はSI35に切られるが，当遺構が深いため下部は遺存する。カマドを東壁中央，貯蔵穴を南東隅に設ける。出入り口の方向は南と西のいずれかであろう。主柱穴には柱の抜き取りによる掘り方の拡大がみられない。上屋を残して焼却したか，または焼失したものであろうか。炭化材の分布には規則性があり，上屋構造を示す可能性がある。主柱穴間を結ぶ位置にある太い材は梁材，壁際に放射状に分布する細い材は垂木であろうか。土師器杯が3点出土している。



第67図　SI25

SI27（J11）　カマドと床面の痕跡らしいものを検出した。出土遺物はない。

SI28（09+13-J27）（図版92･93）　第９地点と第13地点にまたがる住居跡であり，第13地点に掲載した。

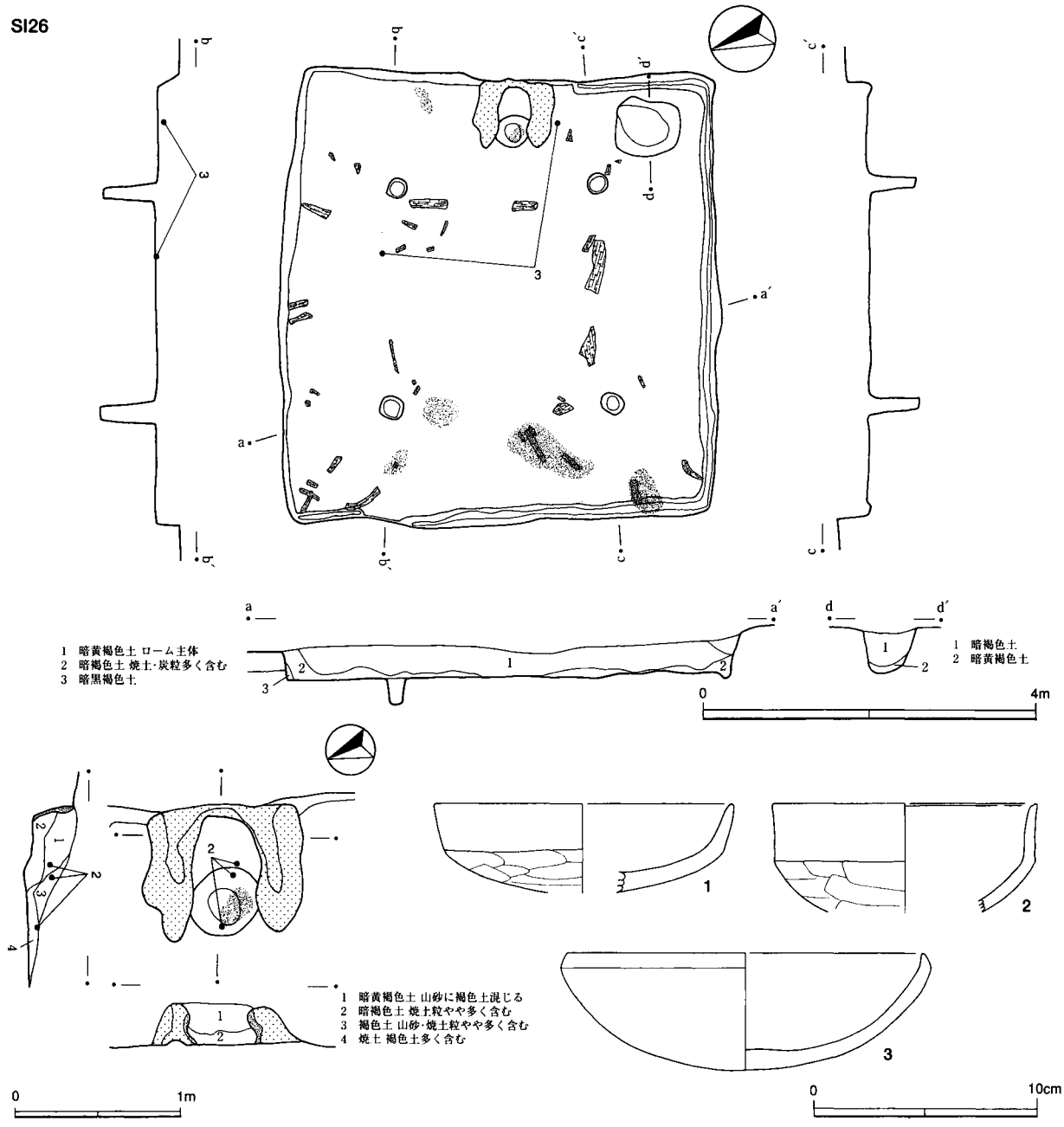
SI29（J17）　遺構確認時に踏みしめたような平坦な硬化面を検出した。ソフトローム上にローム粒と黒褐色土ブロックが踏みしめられている。住居跡であろうか。

（２）古墳（第69･70図）

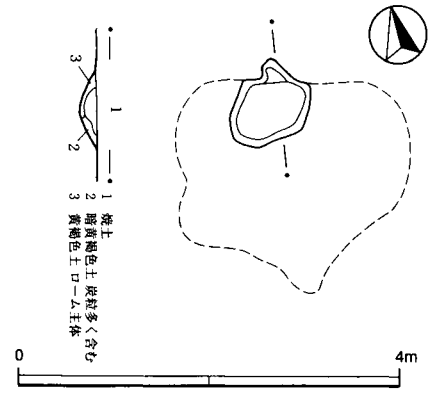
SM04（1号墳）（図版30～32）　古墳時代後期の円墳である。墳丘は失われ，周溝の一部と主体部のみが遺存する。主体部は南南東に開口する横穴式石室である。掘りかたは周溝から掘り込まれ，主軸は墳丘の中心から若干東に振れている印象がある。掘りかたの底面は，羨道の半ば付近に段があり，その手前はやや底面に凹凸があり，奥はやや低く底面は平坦である。

石室は単室構造の両袖型で，石材は未固結の軟質砂岩の截石を用いている。玄室は側壁に大小の石材を組み合わせて4ないし5段積み上げている。奥壁は，側壁の持ち送りに合わせた台形の大型石材を用いる。

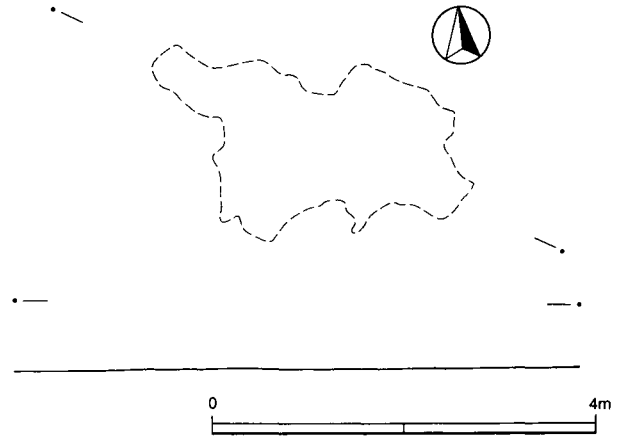
SI26



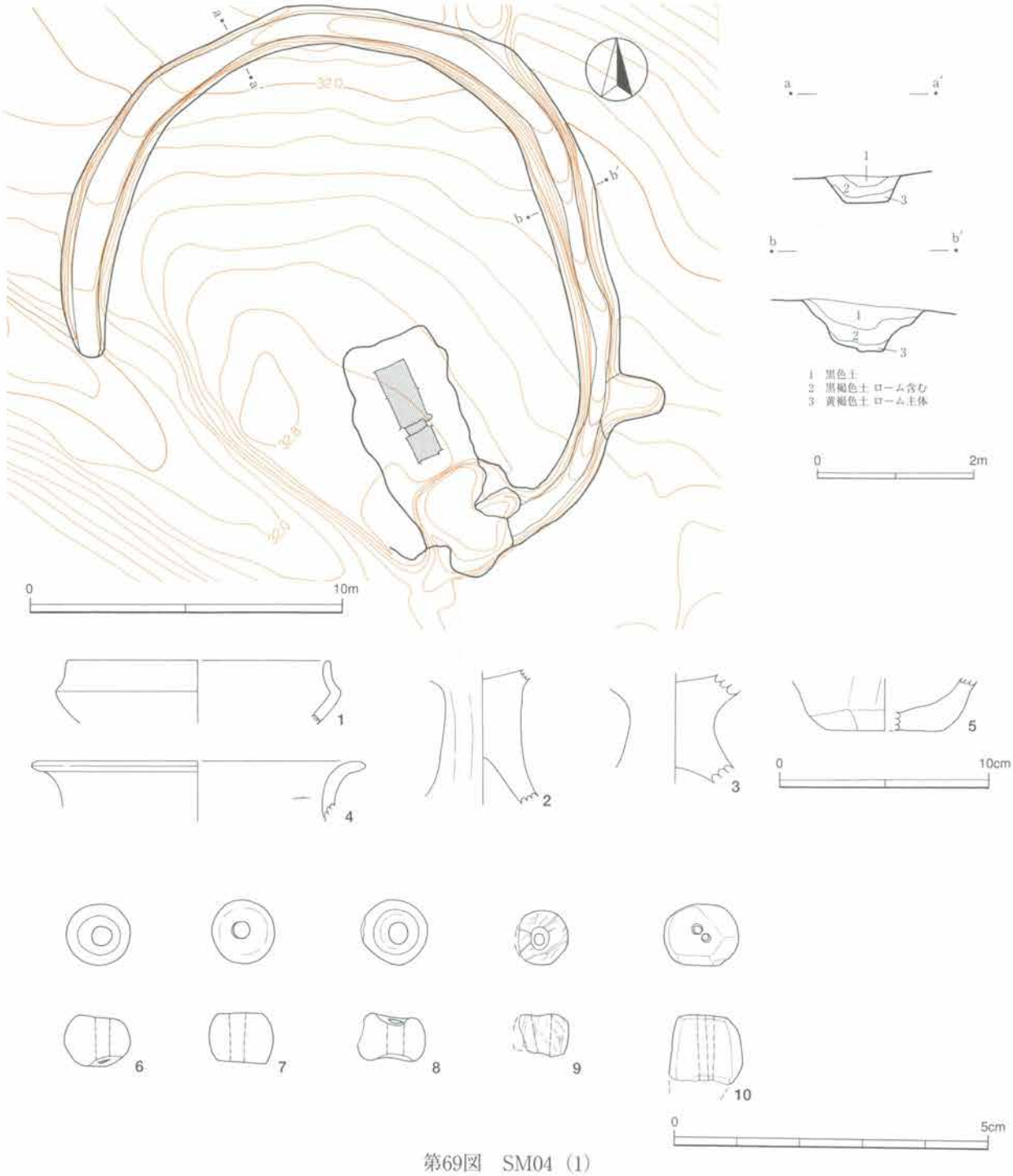
SI27



SI29



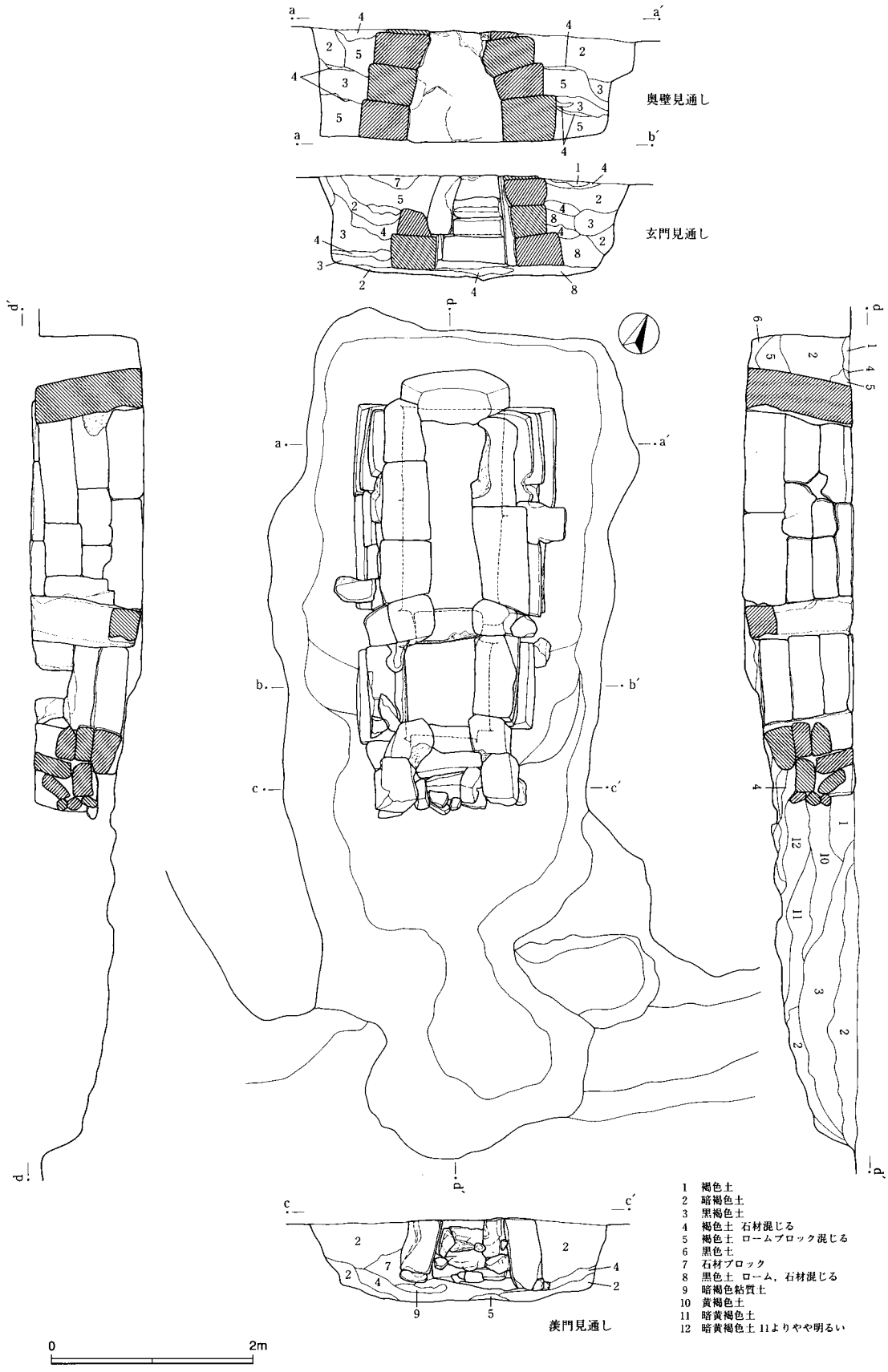
第68図　SI26



第69図　SM04（1）

羨道の側壁は比較的大きさの揃った石材を3段積みしており，やはり持ち送りがみられる。玄室・羨道ともに天井石は遺存せず，敷石はない。羨門には左右各2個の門柱石間をやや不整形の截石多数で閉塞している。ただし，崩れている可能性もある。玄門は左右に角柱状の門柱石を配し，間に3段の截石を置く。現状で高さ20cmほどの隙間が開いていた。

掘り方に不自然な段があって羨道の側壁が底面から浮いていること，羨門付近の裏込め土に石材ブロックが入っている（c断面）ことなどから，羨門は後から付け足されたか，または造り替えられた可能性があるのではないか。掲載遺物は土師器甕・杯・高杯の破片と丸玉5点である。丸玉は石室の床面で出土した。

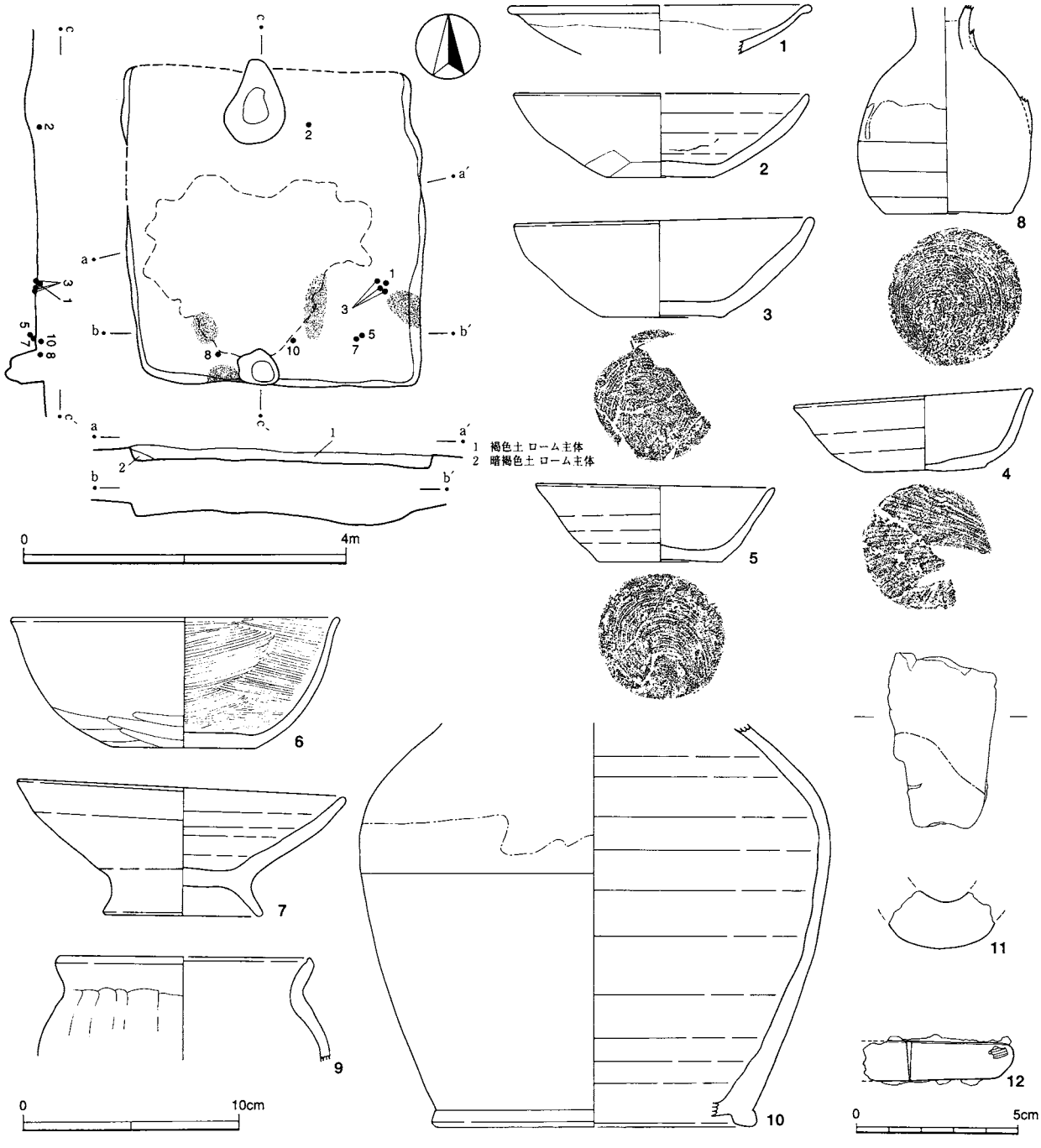

奥壁見通し
玄門見通し
羨門見通し
1 褐色土
2 暗褐色土
3 黒褐色土
4 褐色土 石材混じる
5 褐色土 ロームブロック混じる
6 黒色土
7 石材ブロック
8 黒色土 ローム，石材混じる
9 暗褐色粘質土
10 黄褐色土
11 暗黄褐色土
12 暗黄褐色土 11よりやや明るい
0
2m

第70図　SM04（2）

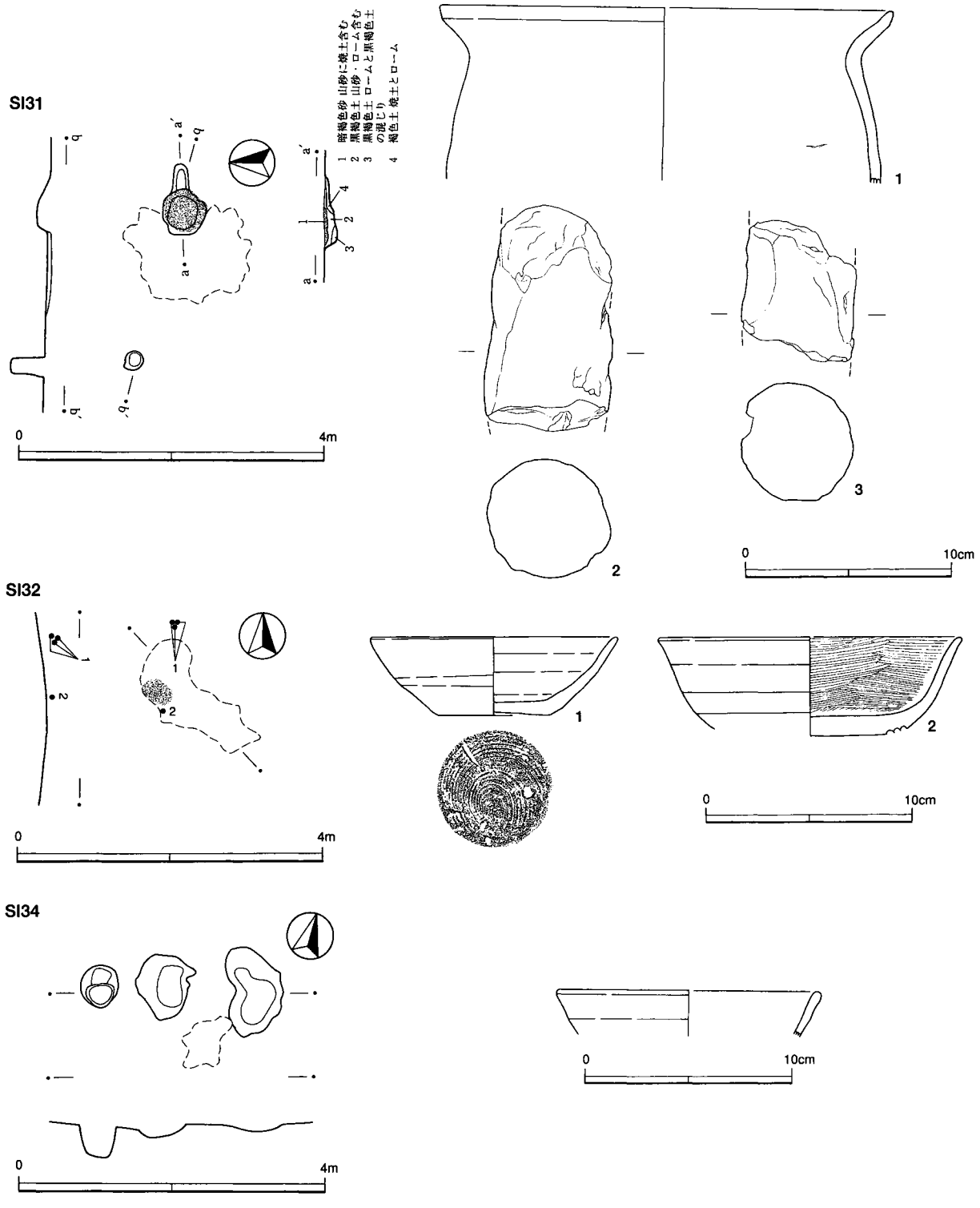
3．奈良・平安時代

(1) 住居跡（第71～75図）

SI30（J06）（図版25･48）　方形の掘り込み，カマドの痕跡，硬化面，ピット１個を検出した。ピットは内側に傾斜している。前面が硬化していることからみて，出入り口施設であろう。覆土中には，焼土と炭化材が多量に混じっていた。掲載遺物は土師器甕，杯4点，高台付杯，椀，灰釉甕，手付瓶，皿，羽口，刀子，スラグ，小鉄塊，炉壁と，豊富である。完形またはそれに近いのは３・５・７・８で，いずれも出入り口付近で出土している。スラグは５点162.5ｇ，小鉄塊は18点85ｇ出土した。製鉄関連の遺構といえる。

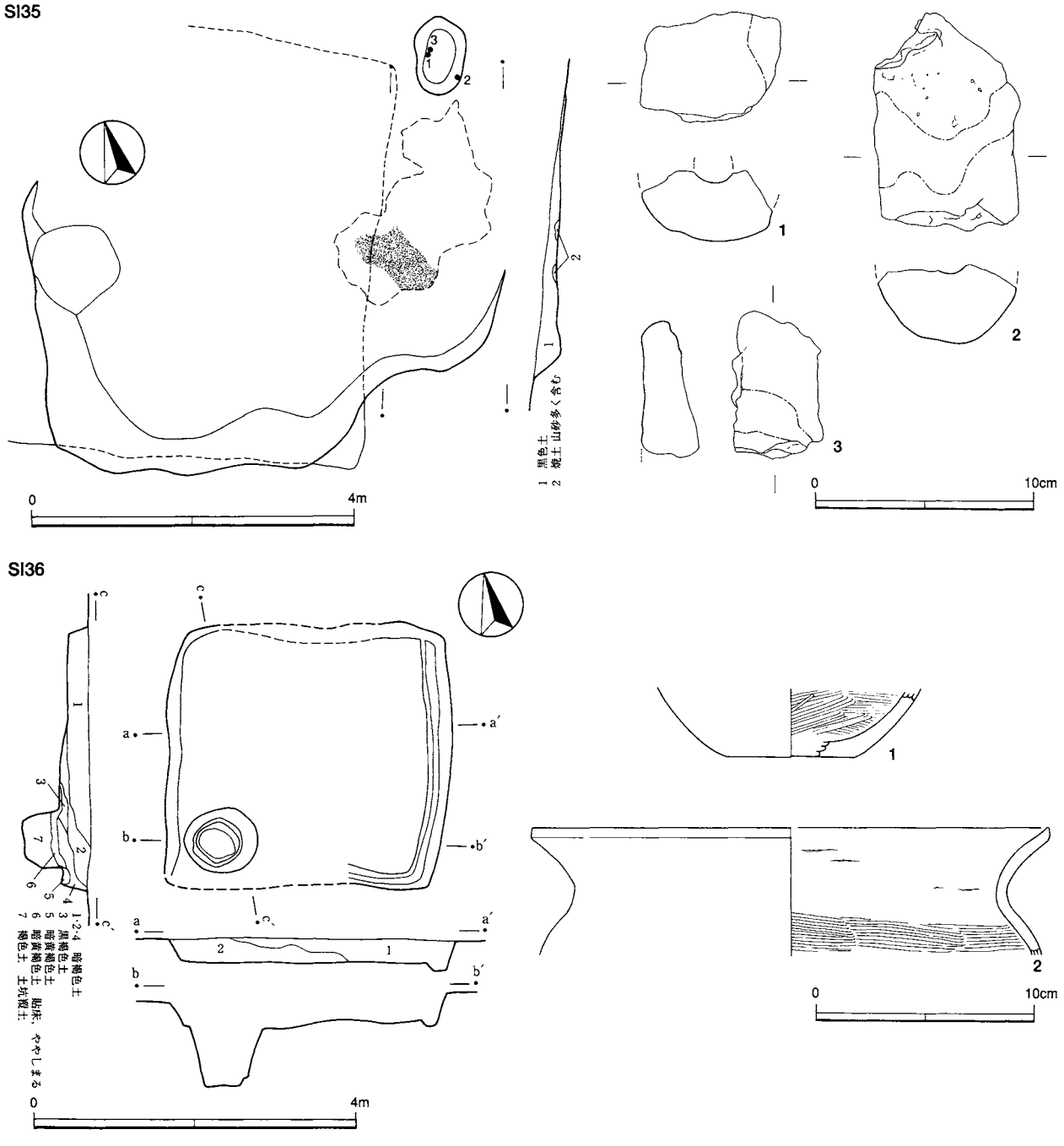


第71図　SI30



第72図　SI31・SI32・SI34

SI31（J08）（図版48）　大木の根を撤去した際に支脚と甕片が出土したため，周囲を精査したところ，焼土混じりの山砂が入った浅い窪みと，床面らしい硬化面を検出した。このとき，周囲はすでに床面より下がっていたものと思われる。スラグ２個（61ｇ）が出土しており，窪みはカマド，または鍛冶炉であろう。土師器甕１点，支脚２点を掲載した。



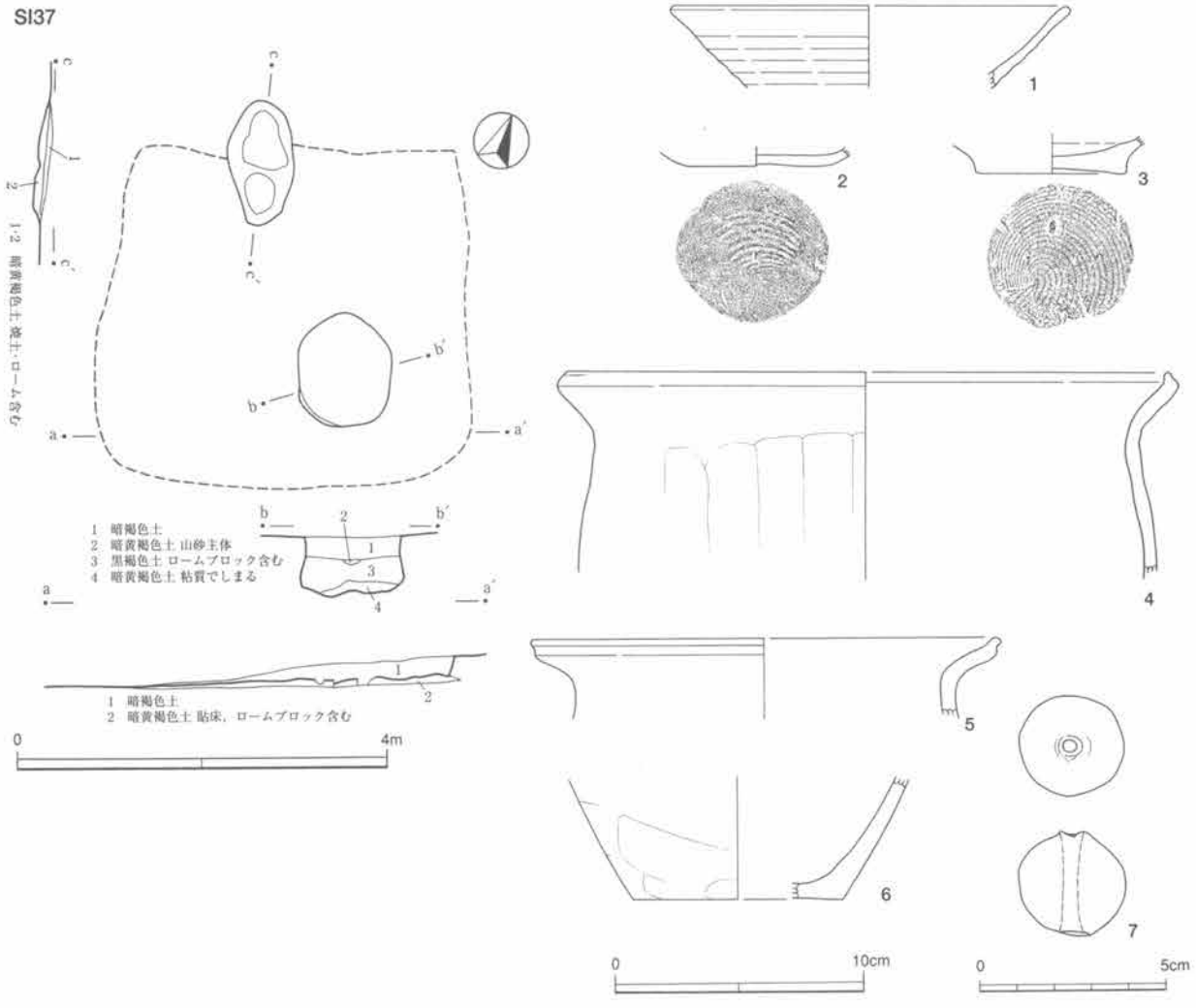
第73図　SI35・SI36

SI32（J09）（図版48）　硬化した床面らしい平坦面をかろうじて検出した。攪乱と竹の根により遺存が極端に悪い。床面には山砂が薄く付着しており，一部は焼けていた。住居跡の可能性がある。土師器杯，高台付杯が出土している。1は硬化面上に潰れていたもので，完形に近い。

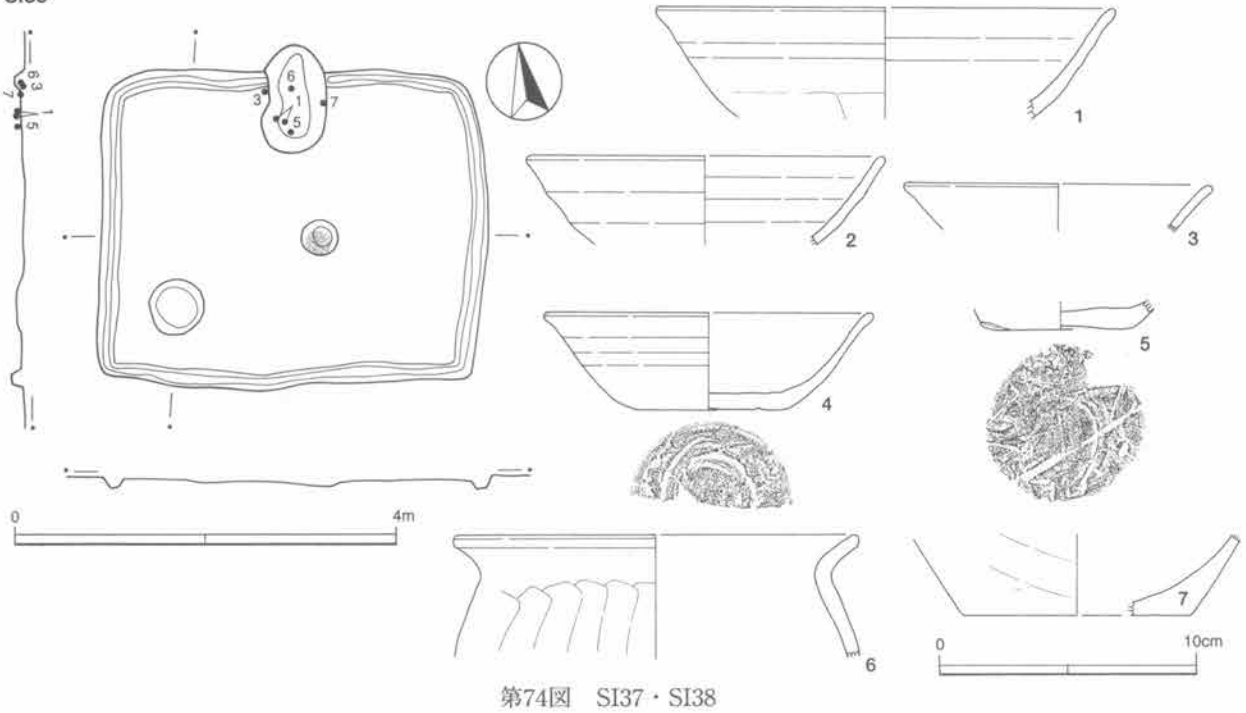
SI33（J16）（図版48）　SI17と重複する。SI17を切るが調査は逆の順で行っており，当住居の東半分は失われた。SI17はすでに古墳時代の部分に記載した。当住居跡の図も第53図にある。カマドの痕跡と貼床面の位置関係から，北側にカマドをもつ方形の住居跡と推定される。土師器杯破片5点が出土している。

SI34（J21）　3つの穴とごくわずかな硬化面を検出した。住居跡と判断するのは無理があるが，スラグ

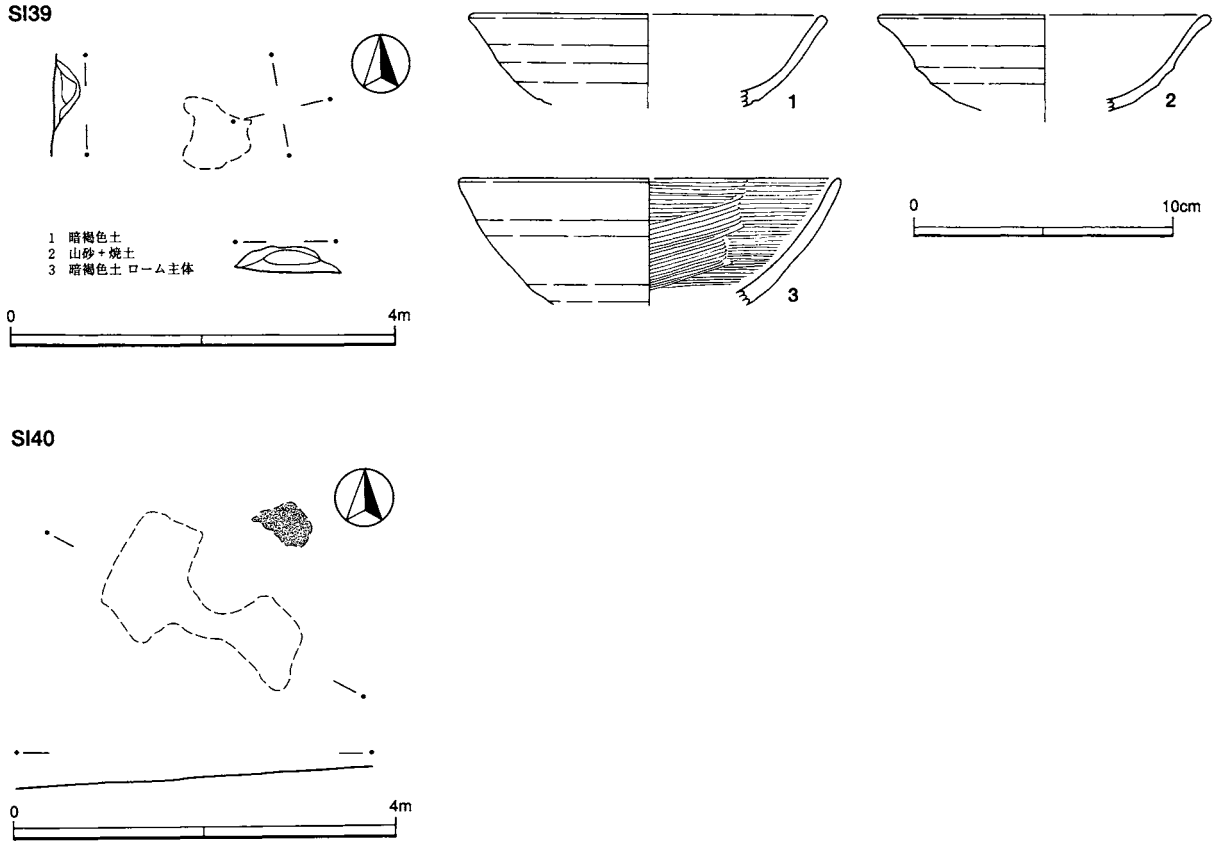
SI37



SI38



第74図　SI37・SI38



第75図　SI39・SI40

1 点（50ｇ）と土師器杯片が出土しているため，掲載した。

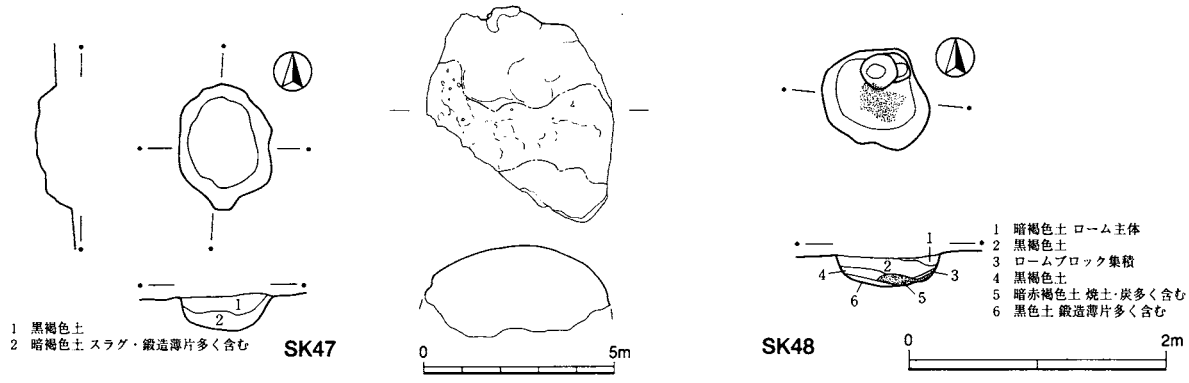
SI35（J22）　黒色土の分布範囲を掘り下げたところ，不整形の掘り込みが現れた。底には一部硬化面があり，焼土・山砂・炭化物が付着していた。北東の窪みには黒色土・山砂・焼土とともに羽口の破片がまとまって入っており，小鍛冶関連の工房の可能性が高い。羽口３点，スラグ７点（290ｇ）が出土している。

SI36（J24）（図版28）　小型の方形竪穴である。南西隅にピットをもち，一部に壁溝がみられる。土師器甕，杯片が出土している。

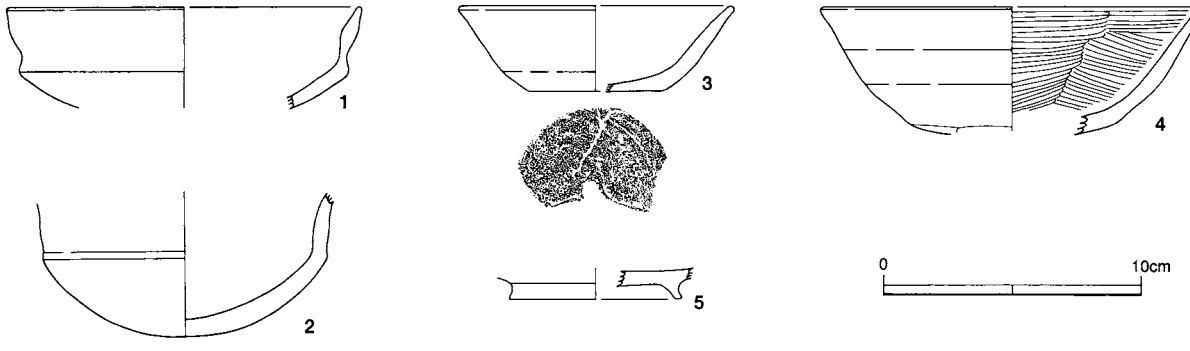
SI37（J25）（図版48）　SI24の一部にカマドの痕跡と床面らしい平坦面を検出した。図に示した径１ｍ，深さ60cmほどの土坑には山砂が入っていた。当住居跡のカマド構築材が入り込んだ可能性がある。土師器甕３点，杯３点，土玉が出土している。

SI38（J2）（図版28･48）　3.3ｍ×4.1ｍの横長の住居跡である。確認面から床面までは浅く，覆土は暗褐色土であった。床面は比較的しまっていた。北壁に切り込んだ窪みはカマドの痕跡であろう。ほかに２か所の窪みがあり，中央のものには焼土が入っていた。遺物はカマドの窪みに集中しており，土師器甕2点，杯5点が出土している。

SI39（J31）（図版48）　遺構確認時に山砂・焼土の堆積と，ごく小さな平坦面により，住居跡の可能性があるものと判断した。面上には山砂が薄く分布し，硬くしまっている。土師器杯３点が出土している。



第76図　SK47・SK48



第77図　古代の遺構外出土遺物

SI40（J15）　遺構確認時に平坦な硬化面と焼土の堆積を検出した。周囲は竹の根が多く，硬化面はさらに広がっていた可能性が高い。近くの推定床レベルで平安時代の土師器杯が出土している。

(2) 土坑（第76図）

SK47（D03）（図版37）　やや不正な楕円形の窪みである。約4.3kgのスラグ，鍛造剥片，羽口，炉壁が出土している。椀形滓も混じる。底面や壁面が焼けた痕跡は認められなかったので，廃滓坑であろう。10cmメッシュで土壌サンプルを採取した。詳細な分析はできなかったが，内容は第2章第11節に記載した。

SK48（D11）（図版38）　やや不正な円形の窪みである。焼土・炭化物が堆積し，約3.5kgのスラグ，鍛造剥片を検出した。炭化物を含む焼土層は4層であり，鍛造剥片は最下層に集中していた。廃滓坑であろう。

(3) 遺構外出土遺物（第77図）

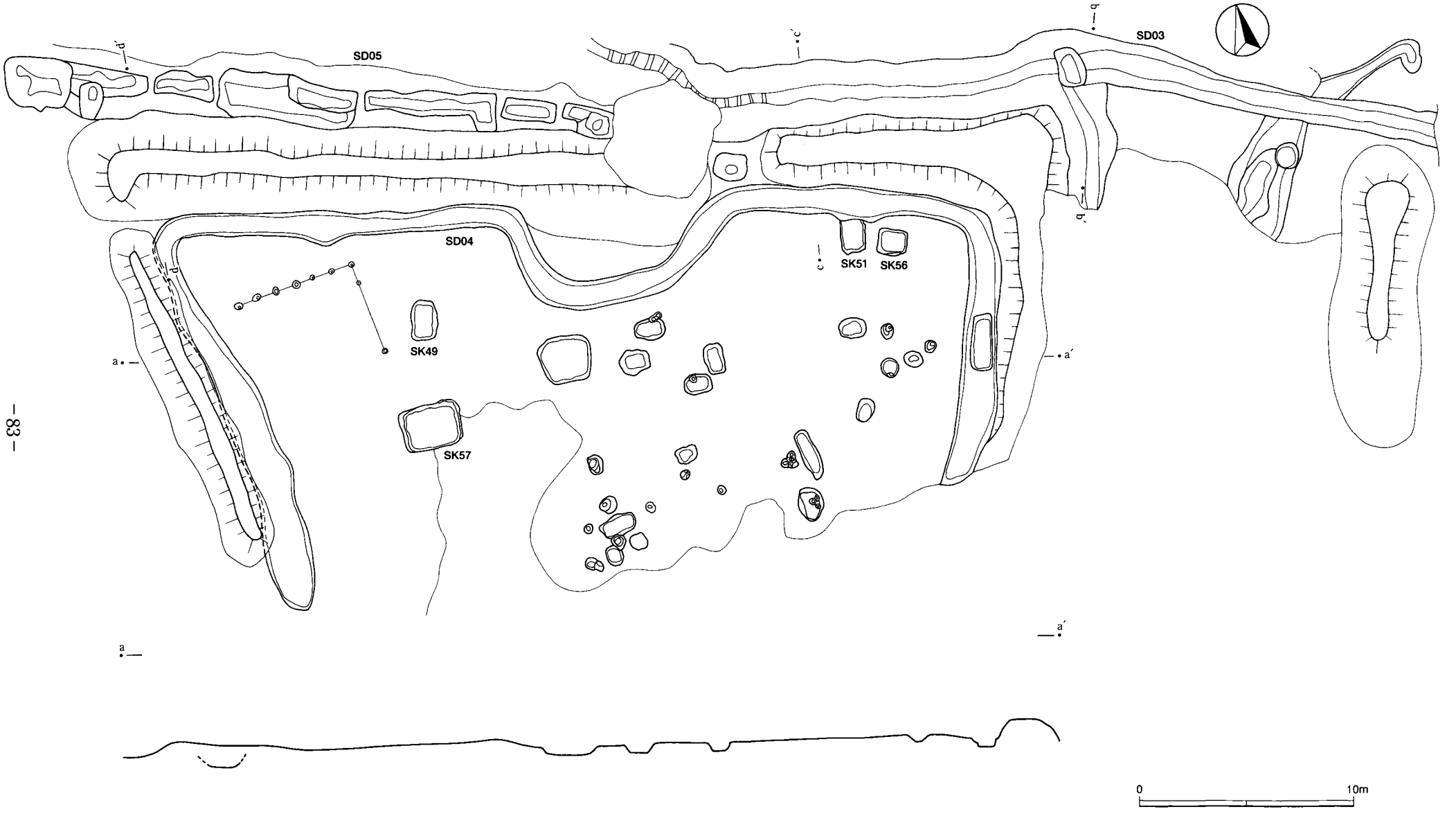
土師器杯4点と緑釉高台付皿1点を掲載した。

4．近世

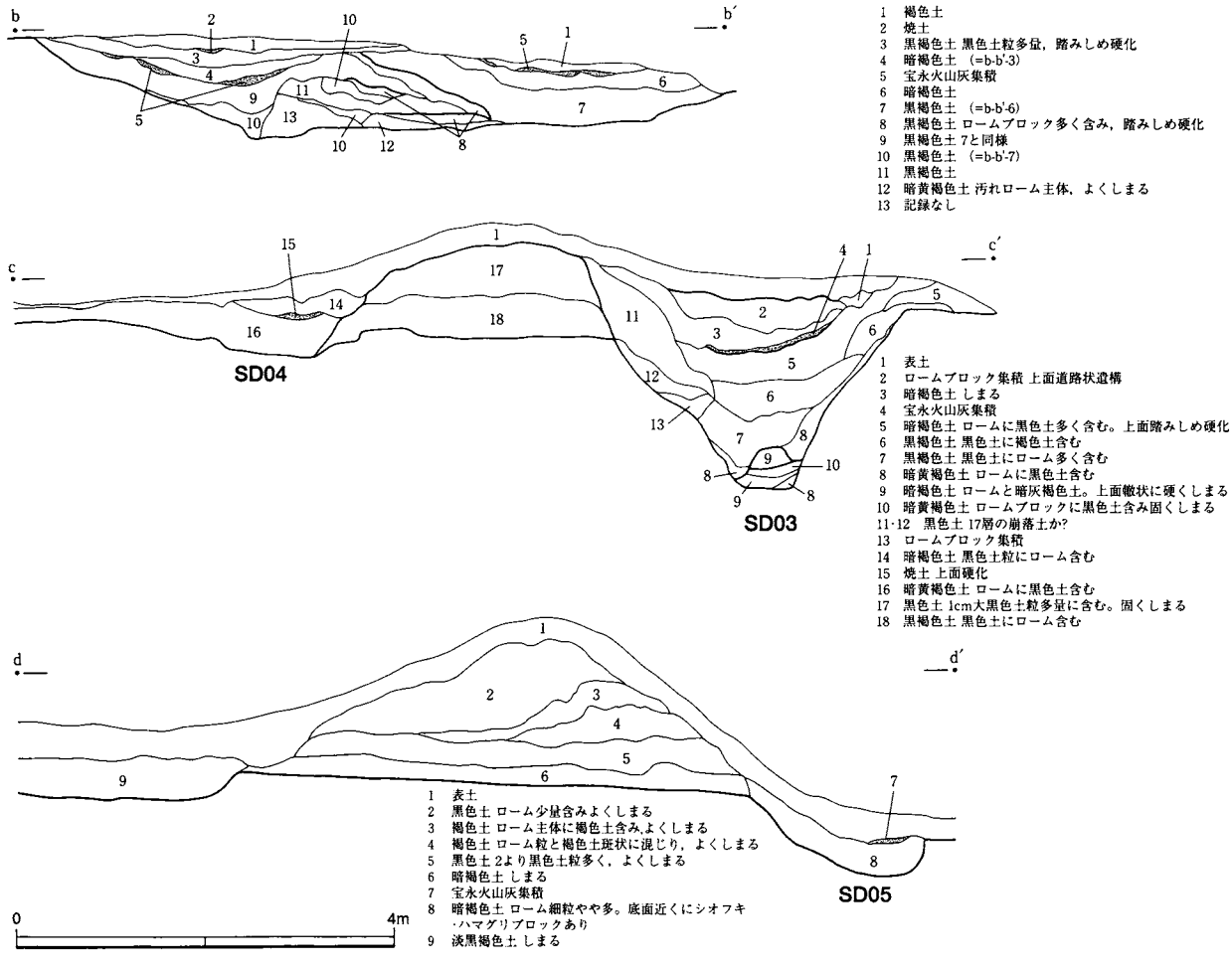
この箇所のみ，基本的に遺構と遺物の図を別にレイアウトした。遺物の記載は最後にまとめた。

(1) SX01と遺構群（第78～80図）

SX01（整形1）（図版32～34）　溝と土塁によって区画された近世の台地整形面と遺構群である。現世とわかるものや，出土遺物がなく構造に特徴のないものについては個別の番号をつけず，全体図（第78図）に示すにとどめた。例えば，SD04に囲まれた範囲の北西端にある掘立柱建物のような柱穴列は，調査前の地形図に示されていた仮設建物である。



第78図　SX01（1）全体図



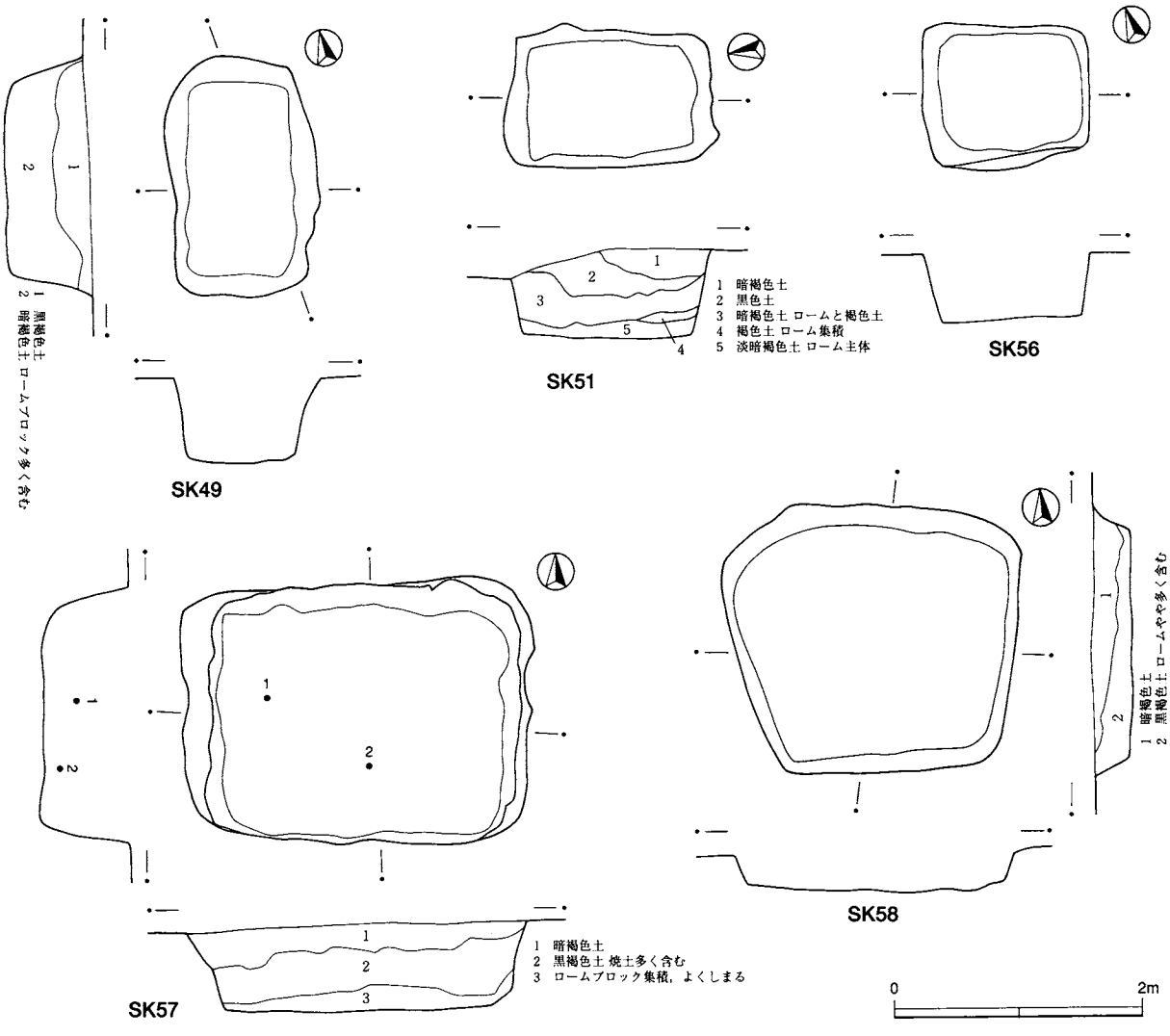
第79図　SX01（2）SD03～05断面図

溝と土塁に囲まれた部分は人為的に平坦化されており，長方形の土坑がいくつも掘り込まれている。北側は斜面であり，肩の部分に溝（SD03・SD05）が配される。SD03は途中で斜面に向かう階段となっている。南側は近世有吉集落の中心部であり，崖になっている。SX01東端部の平坦面と，SD04に伴う土塁はこの崖に切られており，東端の土塁は逆に崖を切って造られている。このことから，SX01は少なくとも近世有吉集落のもっとも大きな平坦面の造成よりは古い段階のものといえる。掲載遺物は18世紀後葉～19世紀前葉のものが多い。東端の土塁は現在の屋敷に伴うごく新しいものであろう。

SD03（M03）（図版5·33·34）　斜面肩に東西に走る溝であり，西端部は階段となって斜面の第7地点に向かう。途切れた部分にはSE01井戸がある。井戸に降りるための通路であった可能性が高い。19世紀の陶磁器多数，泥人形が出土している。第78図bおよびc断面のように溝が埋まった後に宝永火山灰が堆積しているので，掲載遺物の多くは溝が埋まった後のものかもしれない。あるいは長く，19世紀まで使われていたのかもしれない。c断面には轍状の硬化面がみられる。低い部分の中心間は60cm強ある。

SD04（M04）　溝と土塁が並列する。溝は屈曲する部分がある。掲載遺物はない。土塁はロームと黒色土を台地の中心側から積み上げたようである。

SD05（M21）（図版33）　障子堀状を呈する。d断面のように埋まった後に宝永火山灰が集積している。18・19世紀の陶磁器，哺乳類四肢骨片？，泥人形，砥石が出土した。



第80図　土坑（SK49・51·56·57）

SK49（D08）（図版38）　長方形の土坑で，底は平坦である。近世陶磁器片が出土している。

SK51（D32-3）　長方形の土坑で，底は平坦である。出土遺物はない。土層観察によれば，SD04より新しい。出土遺物はない。

SK56（D06）（図版37）　長方形の土坑で，底は平坦である。出土遺物はない。

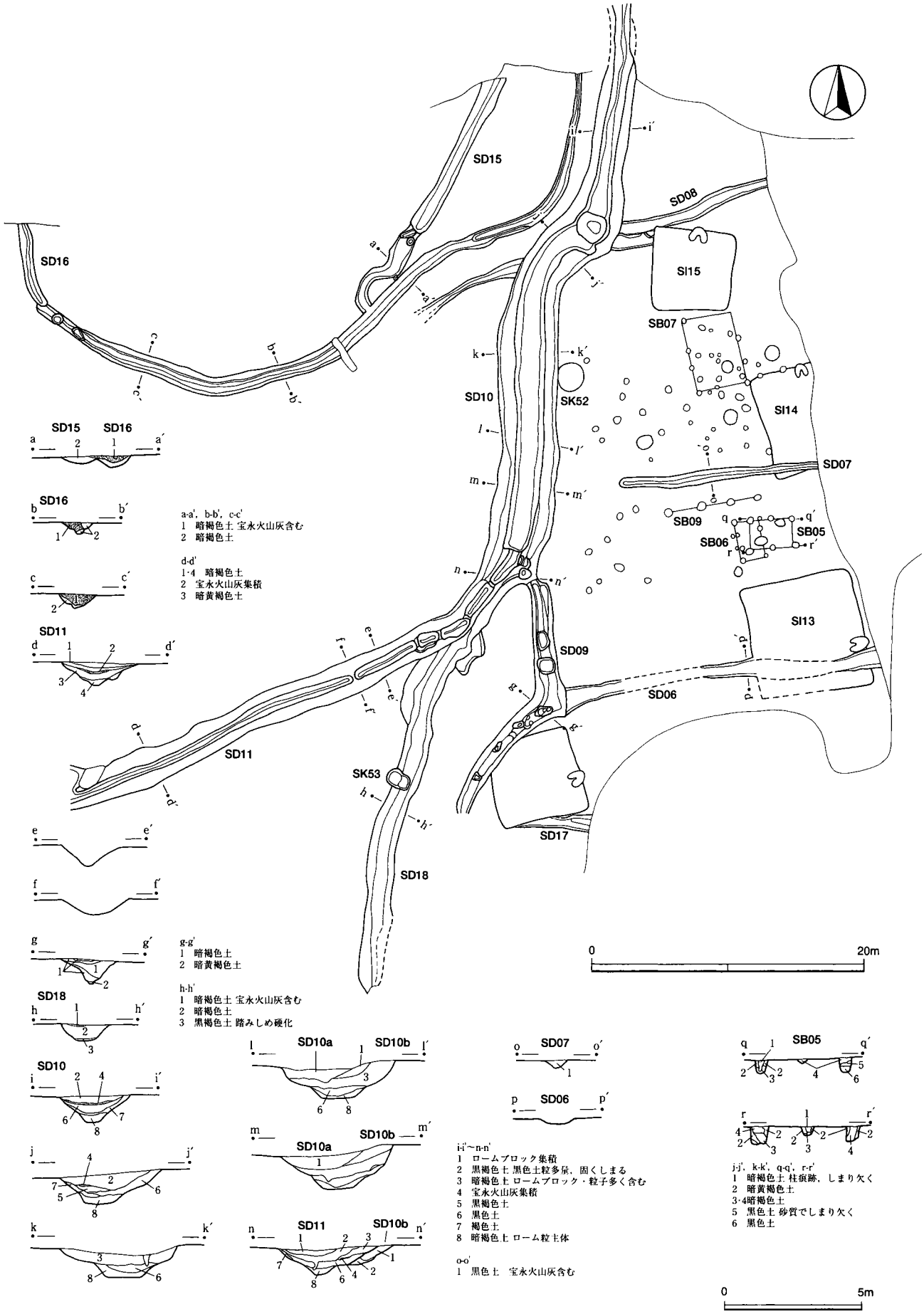
SK57（D07）（図版38）　長方形の土坑で，底は平坦である。15世紀後半の古瀬戸小皿が出土している。

SK58（D10）（図版38）　方形に近い土坑である。掲載遺物はない。

(2) SX02と周辺の遺構群（第81図）

SX02（整形2）　溝によって区画された台地整形面と遺構群である。多くの溝が重複している。そのうち，SD06・07・08は平行に並び，SD09はそれに直交する。4本の溝によって区画された範囲内は平坦で，小ピットが多数存在する。このなかには現世のものも混じっていると考えられるが，明らかなもの以外は排除しなかった。第81図には周辺の溝もいっしょに示した。記載もここで行う。

SD06（M01）　ごく浅い溝である。掲載遺物はない。



a-a', b-b', c-c'
1 暗褐色土 宝永火山灰含む
2 暗褐色土

d-d'
1·4 暗褐色土
2 宝永火山灰集積
3 暗黄褐色土

g-g'
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土

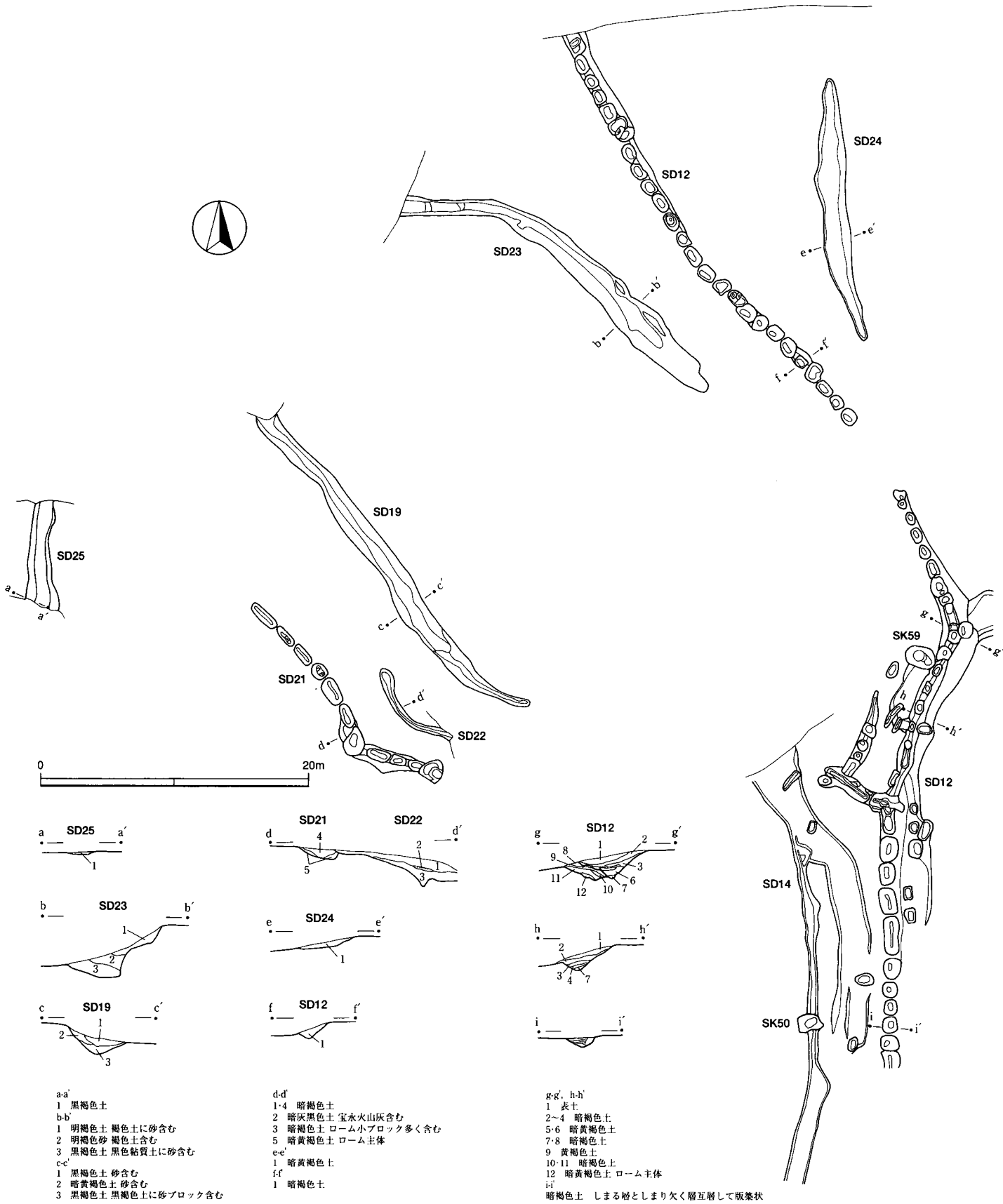
h-h'
1 暗褐色土 宝永火山灰含む
2 暗褐色土
3 黒褐色土 踏みしめ硬化

i-i'～n-n'
1 ロームブロック集積
2 黒褐色土 黒色土粒多量，固くしまる
3 暗褐色土 ロームブロック・粒子多く含む
4 宝永火山灰集積
5 黒褐色土
6 黒色土
7 褐色土
8 暗褐色土 ローム粒主体

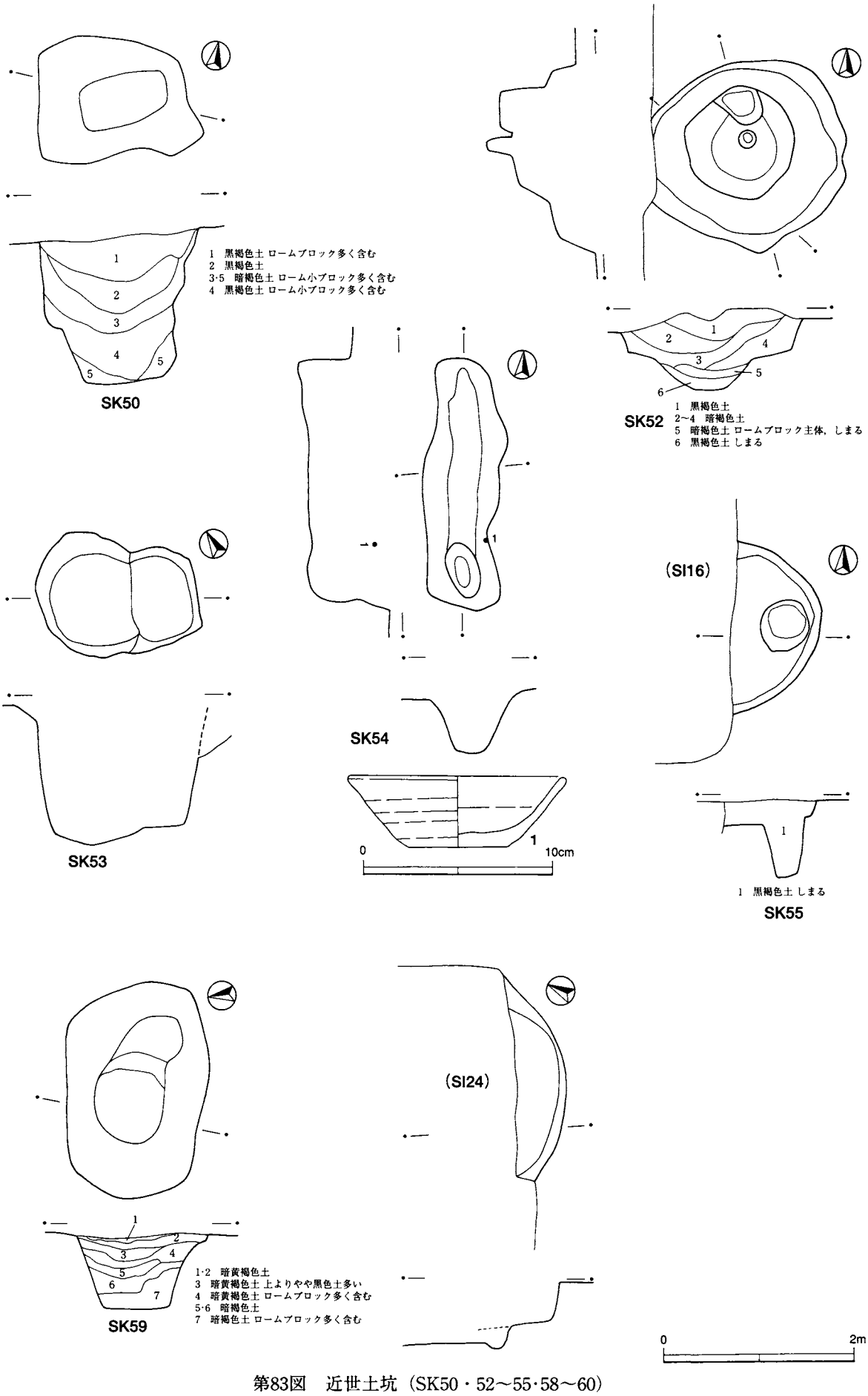
o-o'
1 黒色土 宝永火山灰含む

j-j', k-k', q-q', r-r'
1 暗褐色土 柱痕跡，しまり欠く
2 暗黄褐色土
3·4暗褐色土
5 黒色土 砂質でしまり欠く
6 黒色土

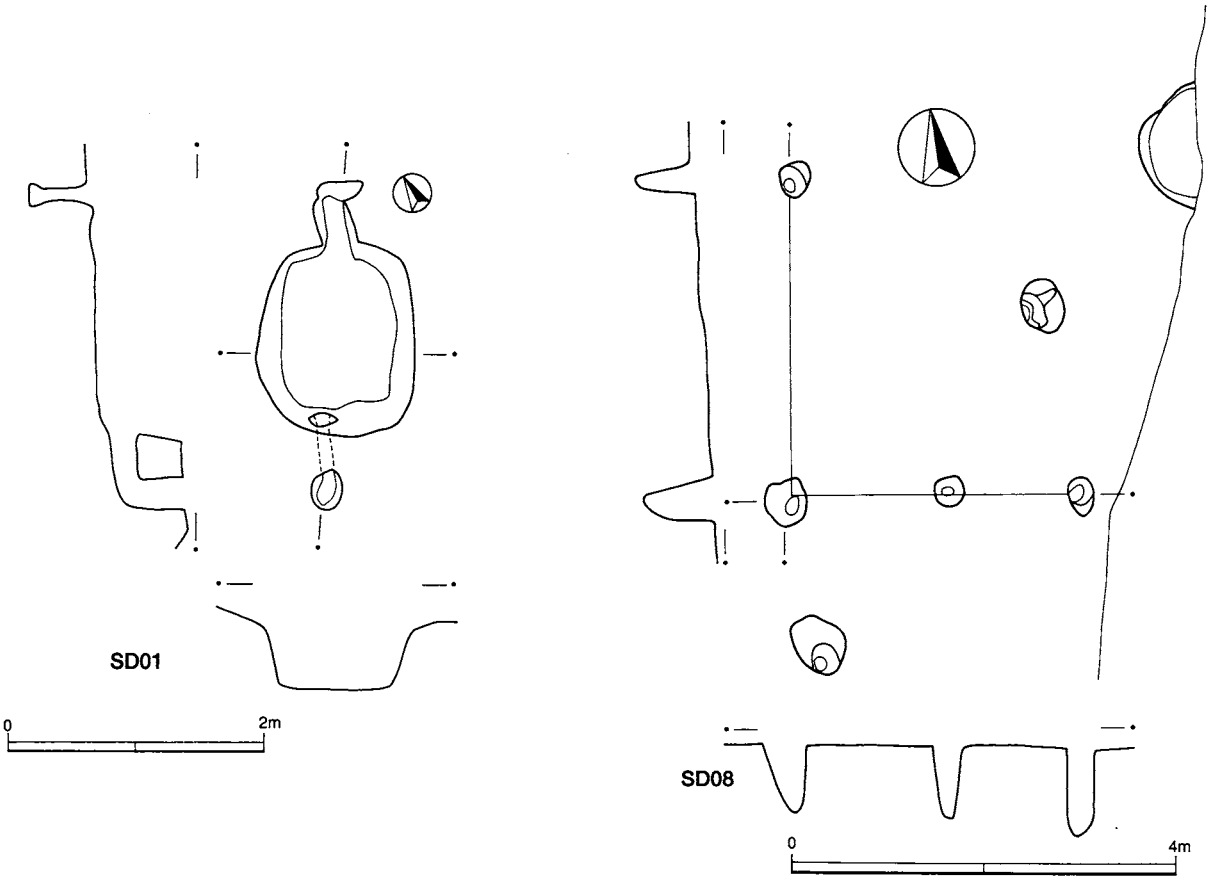
第81図　SX02と周辺の溝



第82図　近世溝（SD12·14·19·21～25）



第83図　近世土坑（SK50・52～55・58～60）



第84図　近世炭窯（SO01），建物跡（SB08）

SD07（M02）　ごく浅い溝である。掲載遺物はない。

SD08（M05）　ごく浅い溝である。出土遺物はない。

SD09（M07）　ごく浅い溝である。掲載遺物はない。

SB05（1号掘立柱）（図版29）　桁行２間×梁行１間の建物跡である。柱穴には柱痕跡がみられ，６本が整然と並んでいる。掲載遺物はない。

SB06（2号掘立柱）　桁行３間×梁行１間の建物跡であろうか。柱穴は列に乱れがあり，形状も一様でない。出土遺物はない。

SB07（3号掘立柱）　掘立柱建物跡の可能性があるが，柱穴は列に乱れがあり，形状も一様ではない。出土遺物はない。

SB09（一）　４本の柱穴が並ぶ。出土遺物はない。

SK52（D31）　円形の土坑であり，下部の段は貼床状に埋められていた。下段は別の土坑である可能性と，１基の土坑の下部施設である可能性が考えられる。中心にはさらに小ピットが存在する（詳細は第83図）。出土遺物はない。

SD10（M06）（図版35）　南北に走る幅の広い溝である。SD11に切られる。SD08・SD18とも重複するが，新旧は不明である。また，北半ではSD10自体を掘り返している。幅の広いものが古く，狭いものが新しい。一部の場所では，ほぼ埋まった後に宝永火山灰が堆積している。その上の土は固く踏みしめられており，道として利用された可能性が高い。18世紀後葉中心の陶磁器が多数出土しており，溝の時期を示すものであろう。ほかに管状土錘，砥石，温石が出土している。

SD11（M08）　SD10を切っている。底はV字状の部分が多い。d断面にはほぼ埋まった後に宝永火山灰

が堆積している。18・19世紀の陶磁器が出土している。

SD15（M12）（図版35）　溝の底近くのみを検出したものとみられる。SD16に切られる。磁器1点、土製碁石1点が出土している。

SD16（M13）（図版35）　SD15を切る。底より若干上の層に宝永火山灰を含む。掲載遺物はない。

SD17（M14）　ごく一部を検出した。出土遺物はない。

SD18（M15）（図版36）　SD10の幅狭で新しいほうの溝と同一の可能性が考えられる。h断面の3層は踏みしめられており，道として利用されたらしい。1層は宝永火山灰堆積層である。出土遺物はない。

(3) 溝（第81・82図）

SD12（M09）（図版34）　障子堀状の溝である。掲載遺物はない。斜面を横走りする。

SD13（M10）　SX01の東側，SD03につながった位置にある溝である。掲載遺物はない。

SD14（M11）　南北に走る溝2本である。出土遺物はない。

SD19（M16）（図版36）　谷頭を縦に区切るように位置する溝である。掲載遺物はない。

SD20（M17）　SD13と交わる溝である。掲載遺物はない。

SD21（M18）（図版36）　SD19の斜面下側で平行する溝である。底は障子堀状。出土遺物はない。

SD22（M19）　SD19とSD21の間にわずかに検出された溝である。上層に宝永火山灰がみられる。出土遺物はない。

SD23（M20）　SD19と同じ谷頭の反対側に位置する。18世紀の磁器が出土している。

SD24（M22）　検出したのはごく短い。出土遺物はない。

SD25（M23）　斜面に直行する溝である。ごく一部を検出した。掲載遺物はない。

(4) 土坑（第83・84図）

時期不明の土坑も取り上げる。

SK50（D32-1）　長方形に近い掘り込みで，底はやや傾斜する。SD14を切る。出土遺物はない。

SK53（D05）（図版37）　土壙墓である。2基の円形土坑が重複しているようである。土葬人骨の全身の一部（第3章第1節），寛永通寶，鉄が出土している。遺体と寛永通寶は西側の円形の範囲で出土しているので，2基の土坑が重複しているとすれば，墓壙は西側の掘り込みである。

SK54（D01）（図版48）　溝型陥し穴のような形状である。杯（1）はSI40の土器が流入または混入した可能性がある。

SK55（D04）　SI16と重複する。住居跡を先に調査しており，新旧は不明である。形状は縄文中期の小竪穴に似ている。出土遺物はなく時期は不明である。

SK59（D30）（図版38）　上部では楕円形，下部は段があって最も低い部分は円形である。人為的な掘り込みであろうが，出土遺物はなく時期・性格とも不明である。

SK60（D32-2）　SI24と重複する。住居跡を先に調査しており，新旧は不明である。円形の土坑であろう。出土遺物はなく，時期・性格とも不明である。

SO01（K01）（図版38）　炭窯である。出土遺物はないが形状から近世のものであろう。

(5) 柱穴列（第84図）

SB08（5号掘立柱）（図版29）　4本の柱穴が並ぶ。規則的ではあるものの，建物を構成するような配置は認められなかった。出土遺物はない。

(6) 近世遺構出土土器類(第85～87図，図版50)

SK57　1は15世紀後半の古瀬戸小皿である。

SD03（第85図2～13）　瀬戸・美濃の陶器碗2点（2・3）・紐付蓋（4）・擂り鉢（6），染付中皿（13）・常滑の大甕（7），肥前の陶器土瓶（5），染付蓋2点（8・9）・碗（10）・皿2点（11・12）を掲載した。常滑産大甕（7）は18世紀，肥前の皿（12）は18世紀後半に比定される。瀬戸・美濃碗（2・3）と肥前染付碗は19世紀前半のものである。

SD10（第85・86図14～32）　肥前の陶器紅皿（14），肥前の染付仏飯器（25）・蓋2点（26・27）・鉢（28）・碗（29）・小皿（30），瀬戸・美濃の陶器蓋（15）・香炉（16）・徳利4点（17～20）・鉢（21）・擂り鉢2点（23・24），備前の壺（22），焙烙2点（31・32）を掲載した。23の瀬戸・美濃擂り鉢が17世紀末でもっとも古く，25・26・29･30は18世紀後半から19世紀前半に比定される。

SD11（第86・87図33～36）　瀬戸・美濃の陶器花瓶（33），染付端反碗（34），肥前の染付小皿（35），瀬戸・美濃の染付深皿（36）を掲載した。35の肥前染付皿は18世紀，34の染付碗は19世紀前半に比定されるものである。

SD15（第87図37）　肥前色絵磁器皿がある。

SD23（第87図38）　肥前染付厚手碗がある。18世紀に比定される。

SD05（第87図39～42）　肥前の陶器碗（39），染付茶碗（41），瀬戸・美濃の徳利（40），染付端反碗（42）がある。39は18世紀前半，41は18世紀後半に，40も18世紀に比定されるものである。42は19世紀前半のものである。

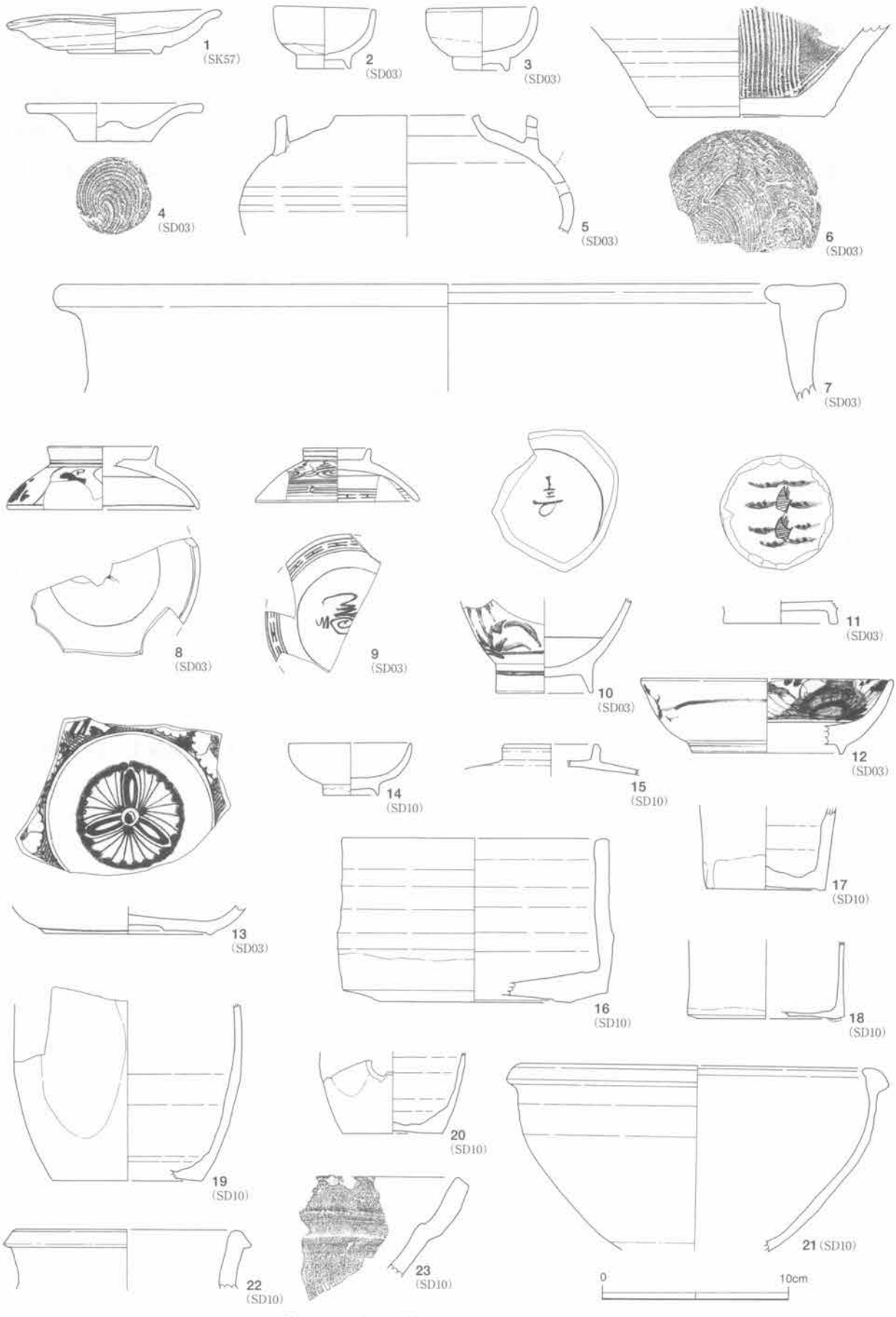
SX01（第87図45～54）瀬戸・美濃の陶器擂り鉢（45），半胴（46），染付蓋（47），端反碗（50），広東碗2点（51・52），小皿（53），肥前染付湯呑碗（48），厚手碗（49），産地不明の鉢（54）がある。45は15世紀末から16世紀でもっとも古く，ほかは18～19世紀のものである。47・48・53は18世紀後半，51・52は19世紀前葉に比定される。44はSX02出土の堺産擂り鉢で，18世紀前半に比定される。

(7) 遺構外の近世遺物（第87図43，図版50）

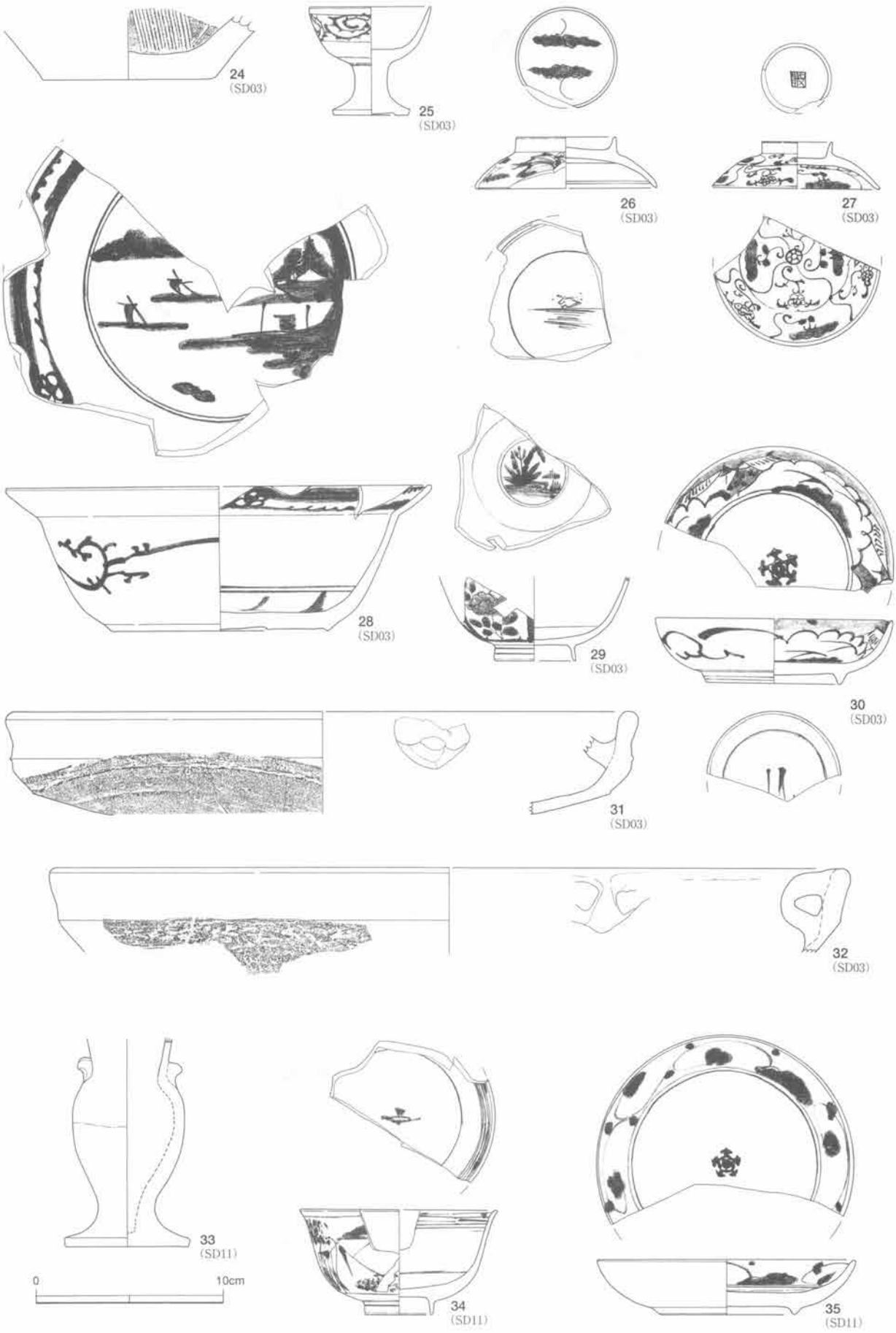
43は肥前の土瓶である。

(8) 近世の土製品・石製品等（第88・89図，図版49）

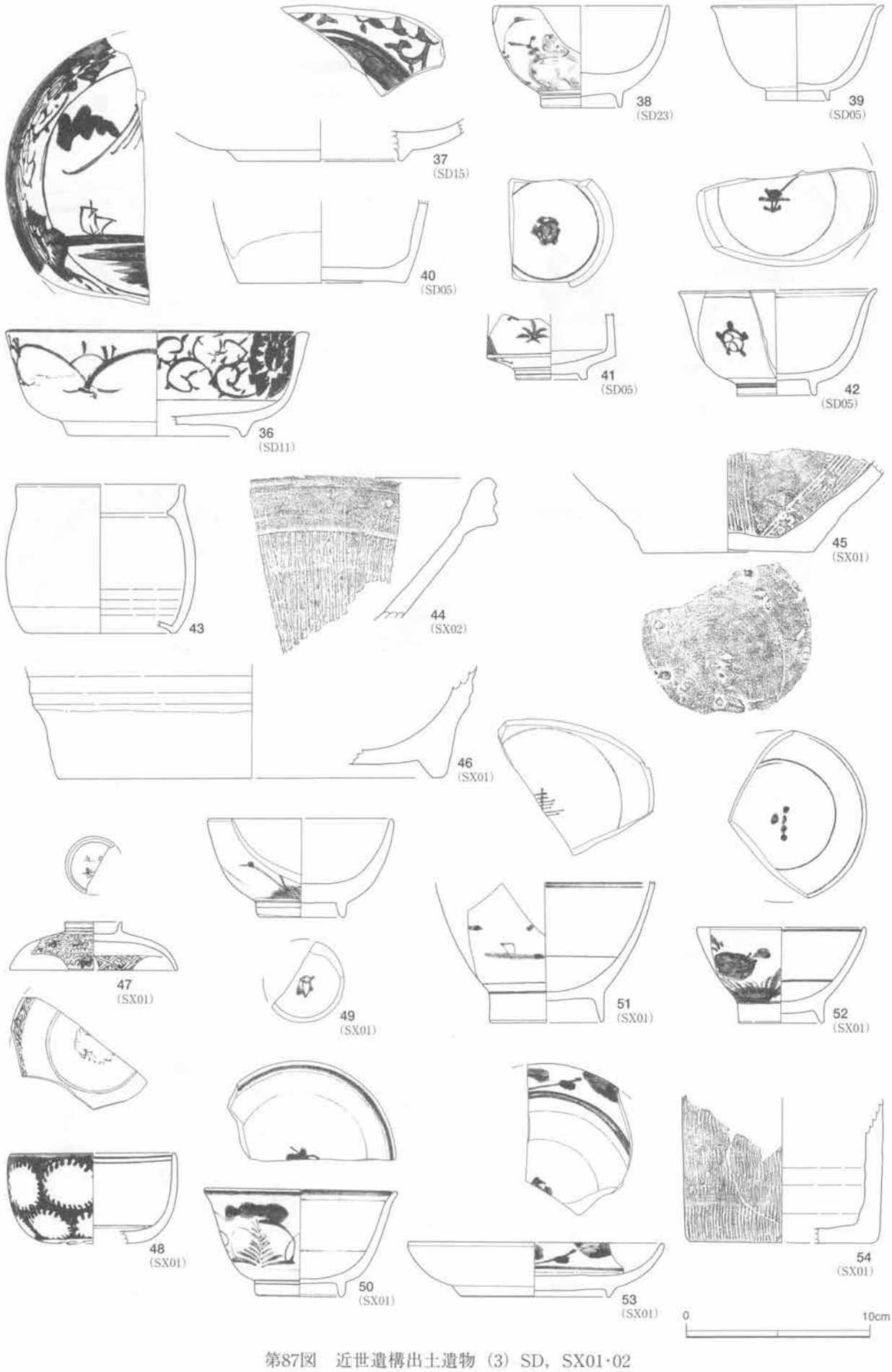
1・2は泥人形，3は土製碁石，4は管状土錘である。5・7は砥石，6は温石である。以上は溝から出土した。8は管状陶錘，9・10は管状土錘である。13は板碑，14～16は五輪塔，17は茶臼の上臼である。以上は近世台地整形・遺構群から出土した。11は砥石である。遺構外で取り上げられたが，SI33から出土した可能性がある。12は線刻をもつ硯である。



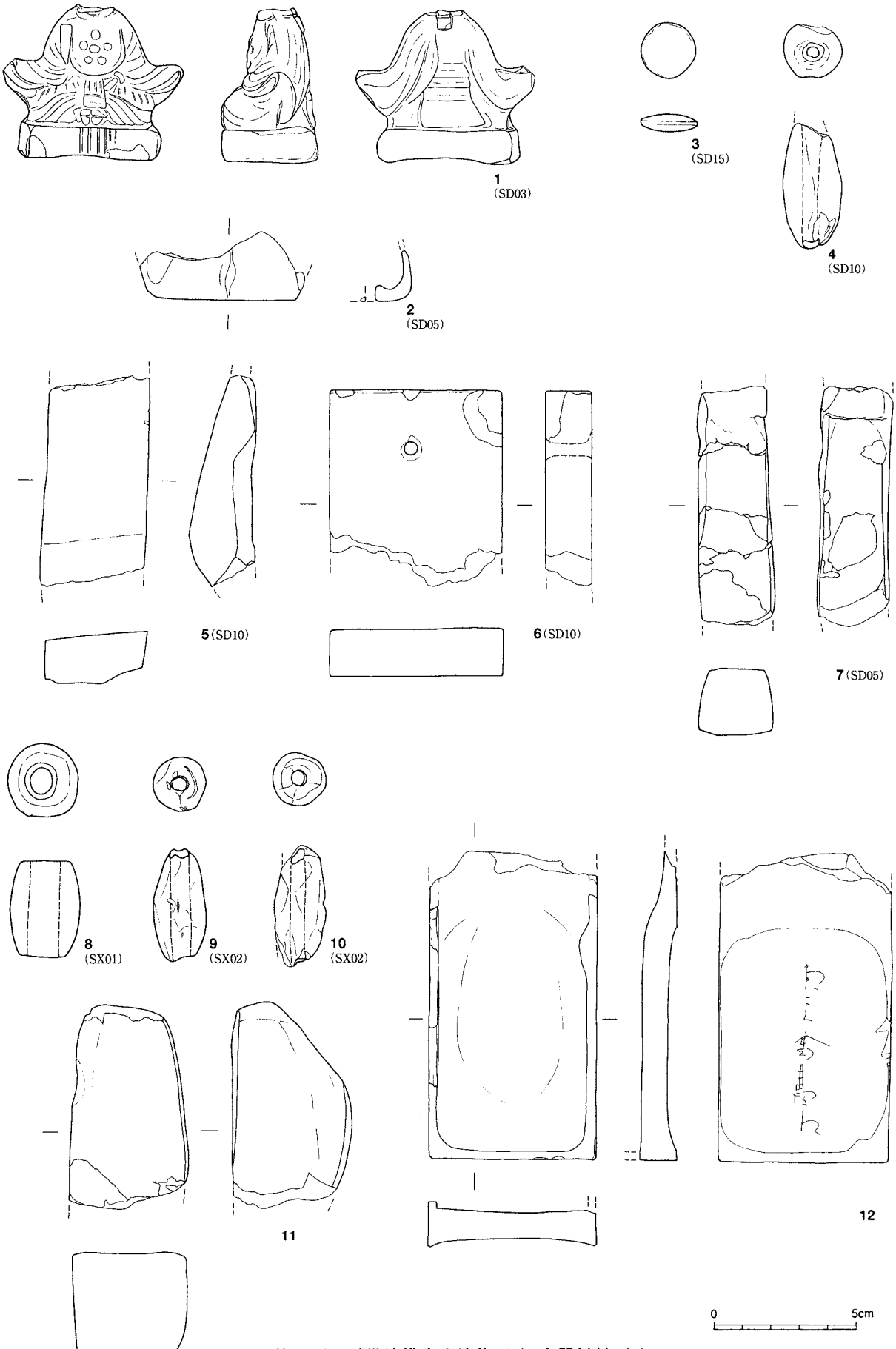
第85図　近世遺構出土遺物（1）SK57・SD



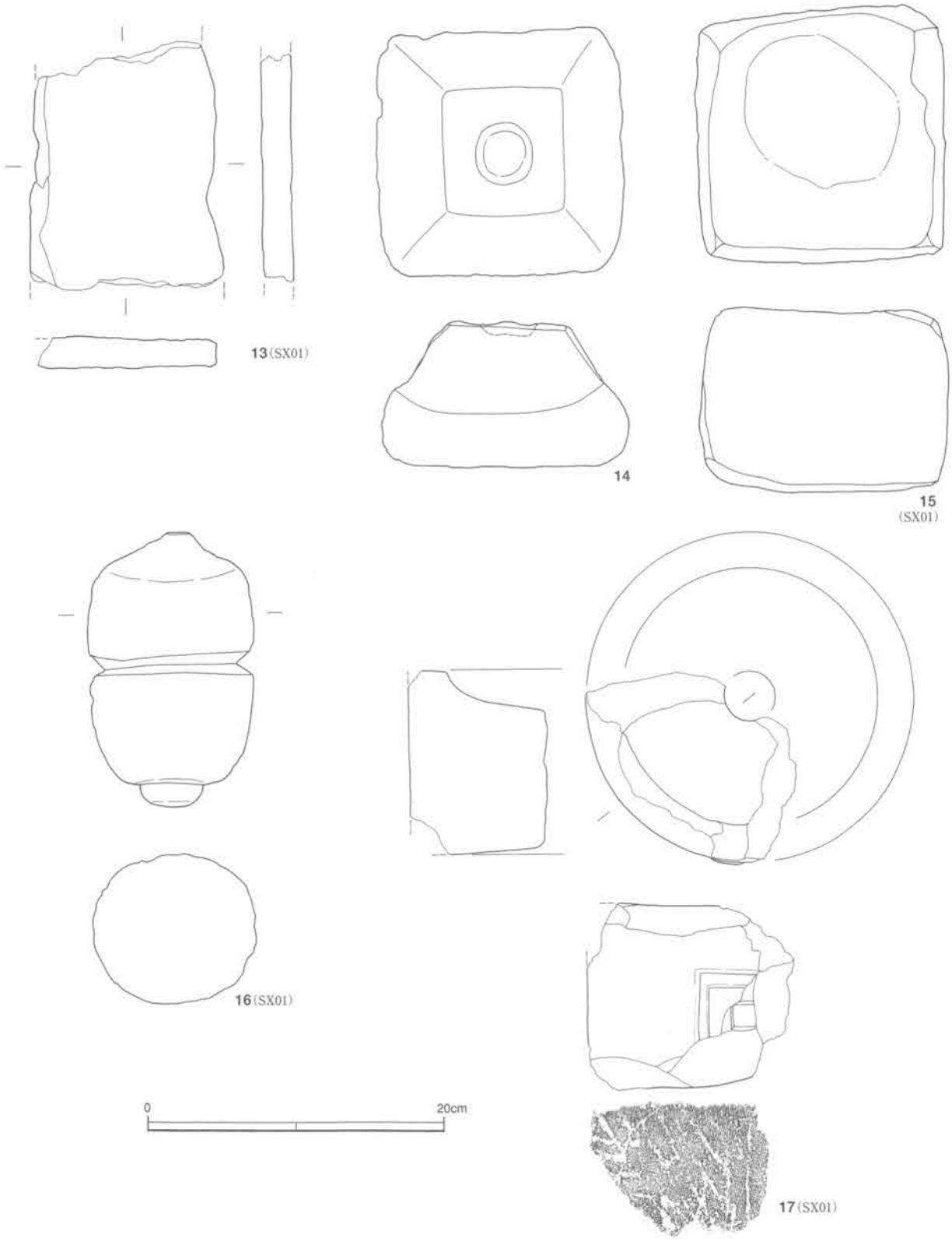
第86図　近世遺構出土遺物（2）SD10・11



第87図　近世遺構出土遺物（3）SD，SX01･02



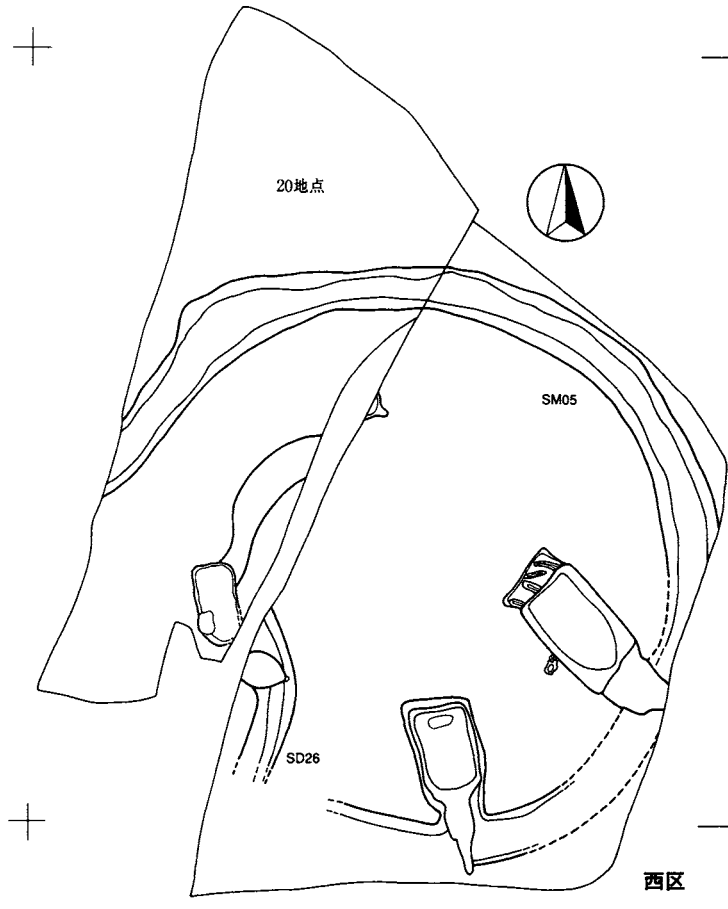
第88図　近世遺構出土遺物（4）土器以外（1）

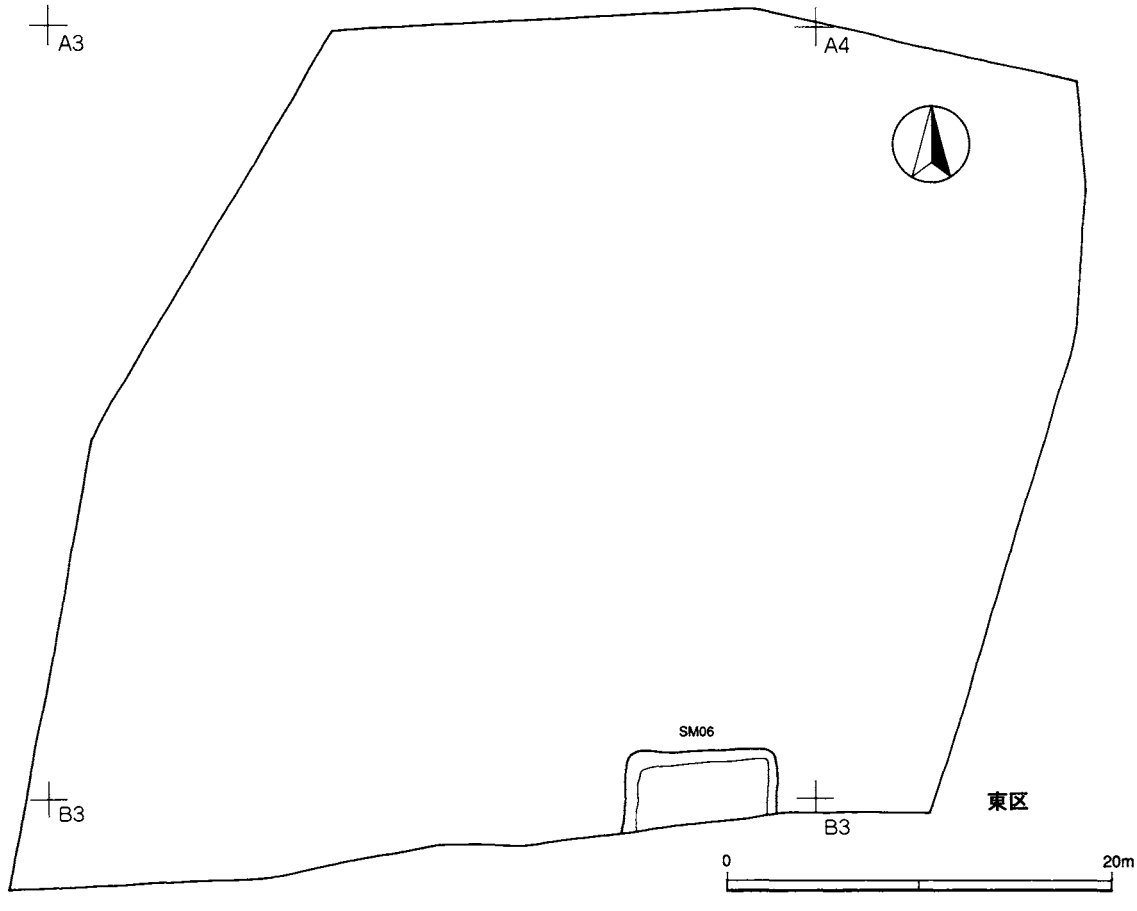


第89図　近世遺構出土遺物（4）土器以外（2）

第4節　第11地点

第11地点は有吉城跡の遺跡・調査区の東端部にあたる。有吉南貝塚との境界部分であり，字としては，有吉南貝塚のある宮前に入る。当地点は道路を挟んで東西2か所に分かれており，西区・東区と呼称する。西区は大型の円墳であるSM05を調査した。古墳の西側の一部は第20地点として調査されているが，遺構の記載は本節でまとめて行う。東区は終末期方墳のSM06のみが検出され，遺構の密度は低かった。地形図の等高線を見るかぎり，近世の台地整形がSM05古墳より東には及んでいないので，有吉城跡と有吉南貝塚の古代の集落はこのあたりで途切れていたことを示すと思われる。





第90図　第11地点全体図

1．縄文時代

(1) 遺構外出土土器（第91図1～20，図版57）

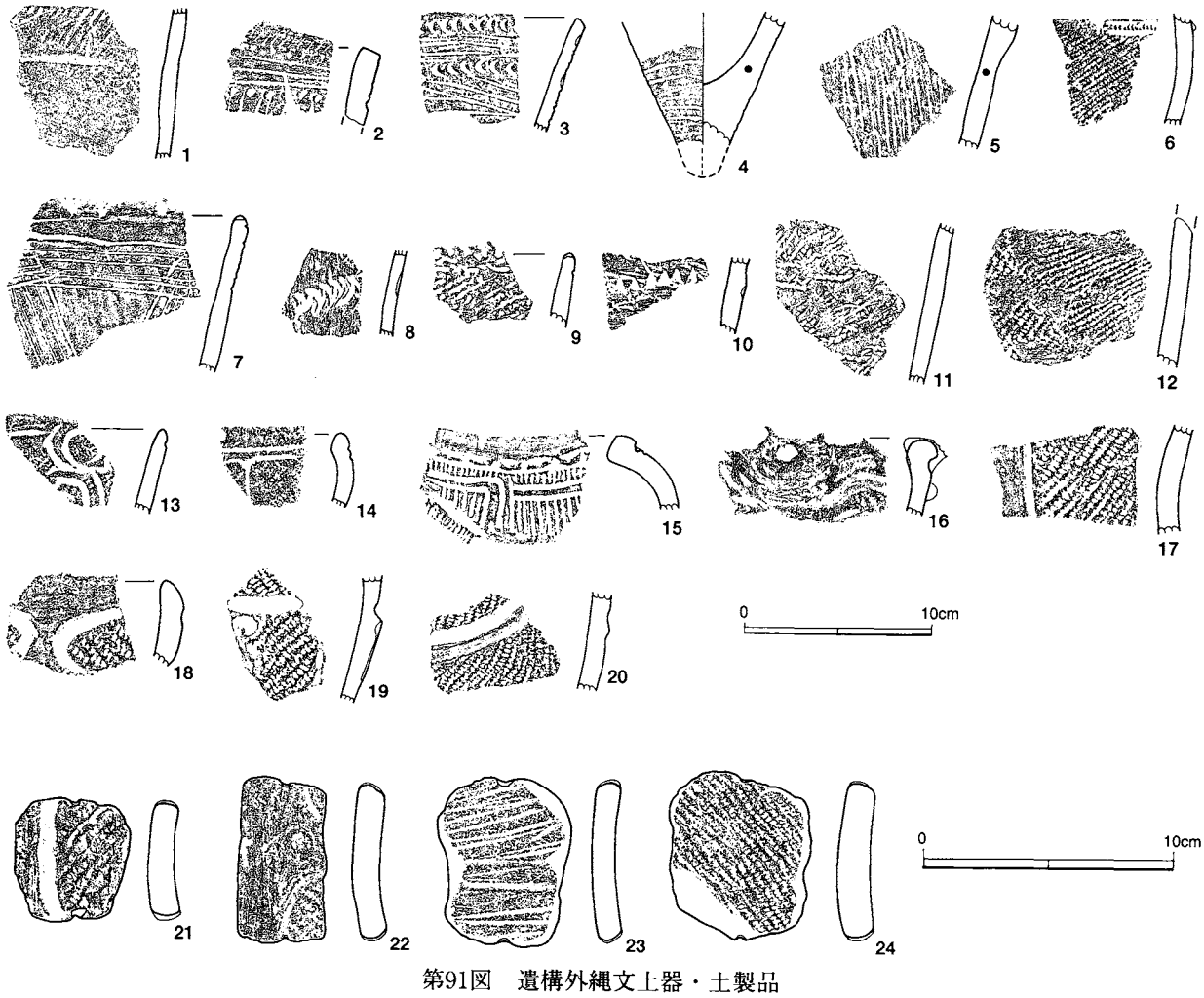
田戸下層式，前期末葉土器，加曽利EⅡ・Ⅲ式がややまとまっている。1は外面をケズリ・ミガキ調整しているが，条痕が残る。三戸式か。2～4は田戸下層式である。2・3は刺突文をもつ。4は天狗鼻状の尖底部である。5は早期後葉の条痕文系土器である。6～12は前期後葉から末葉の土器である。6は刻みの入った浮文をもつ諸磯c式，7は集合沈線文，8は波状貝殻文の浮島式である。9～11は結節回転縄文や口唇上への縄文原体圧痕を特徴とする前期末葉の土器群である。12もこの時期のものであろうか。14は印刻状の意匠をもつ阿玉台1a式，15は中峠段階ないし加曽利EⅠ式であろう。16･17は加曽利E式前半のキャリパー型土器，18・19は加曽利EⅡ式～EⅢ式のキャリパー型土器である。20はEⅢ式の意匠充填系土器であろう。13は堀之内1式である。

(2) 遺構外出土土製品（第91図21～24，図版57）

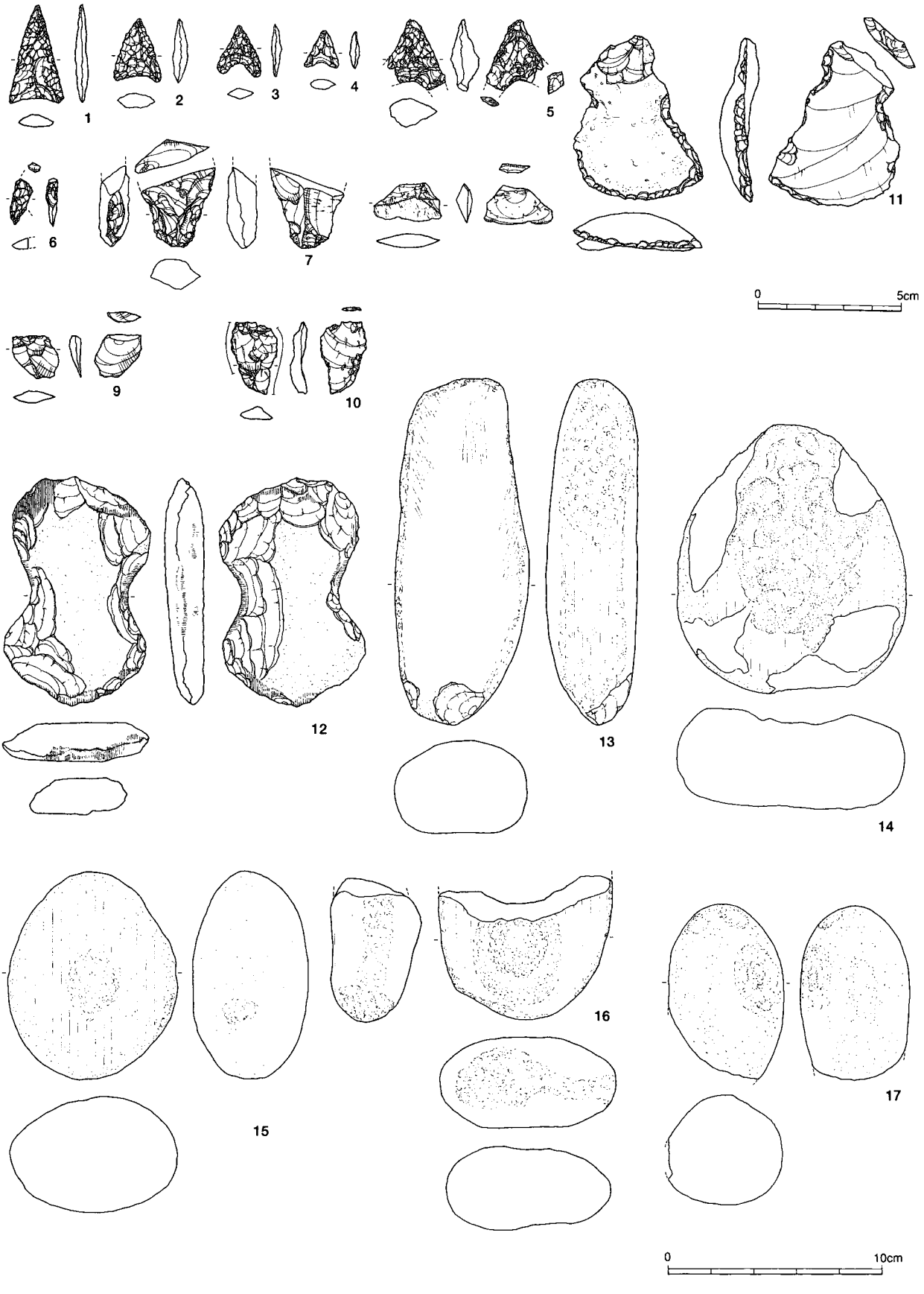
21～24は，加曽利E式土器を再利用した土器片錘である。

(3) 遺構外出土石器（第92・93図，図版57・58）

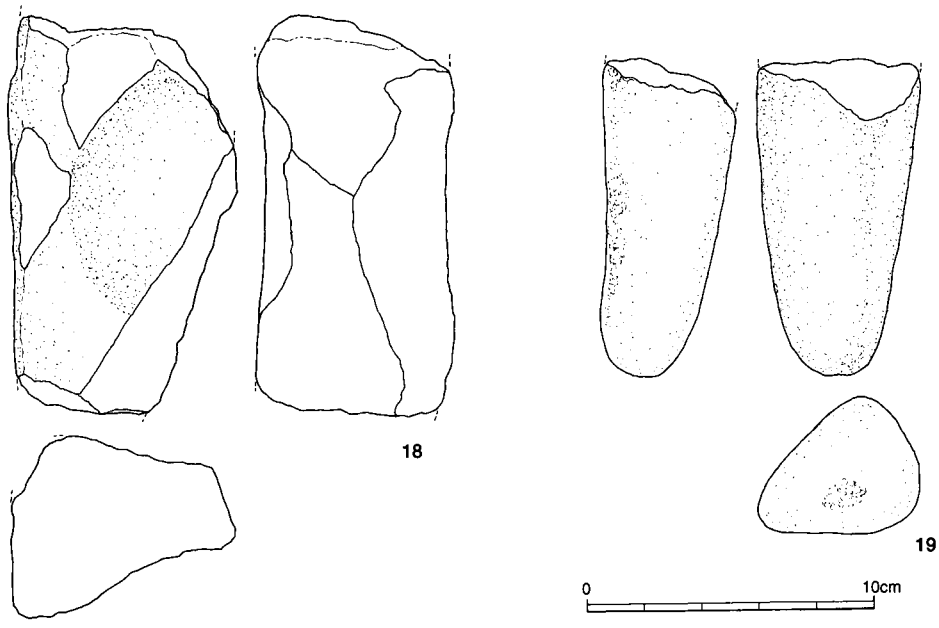
1～6は石鏃（凹基鏃）である。1・3はチャート，2は瑪瑙，4は粘板岩，5・6は黒曜石製である。7は黒曜石製，11は珪質頁岩製のスクレイパーである。8～10は黒曜石の剥片で，10の両側縁に使用痕を認める。12は打製石斧，13は磨製石斧である。14～17・19は磨石類である。14は主に台石，15は磨石，16は磨石・敲石，17・19は敲石として使用されたであろう。18は石皿片である。かなり大きなものであろう。



第91図　遺構外縄文土器・土製品



第92図　遺構外縄文時代石器（1）



第93図　遺構外縄文時代石器（2）

2．古墳時代

(1) 古墳

SM05（11+20-古墳）（第94～104図，図版51·59·60）

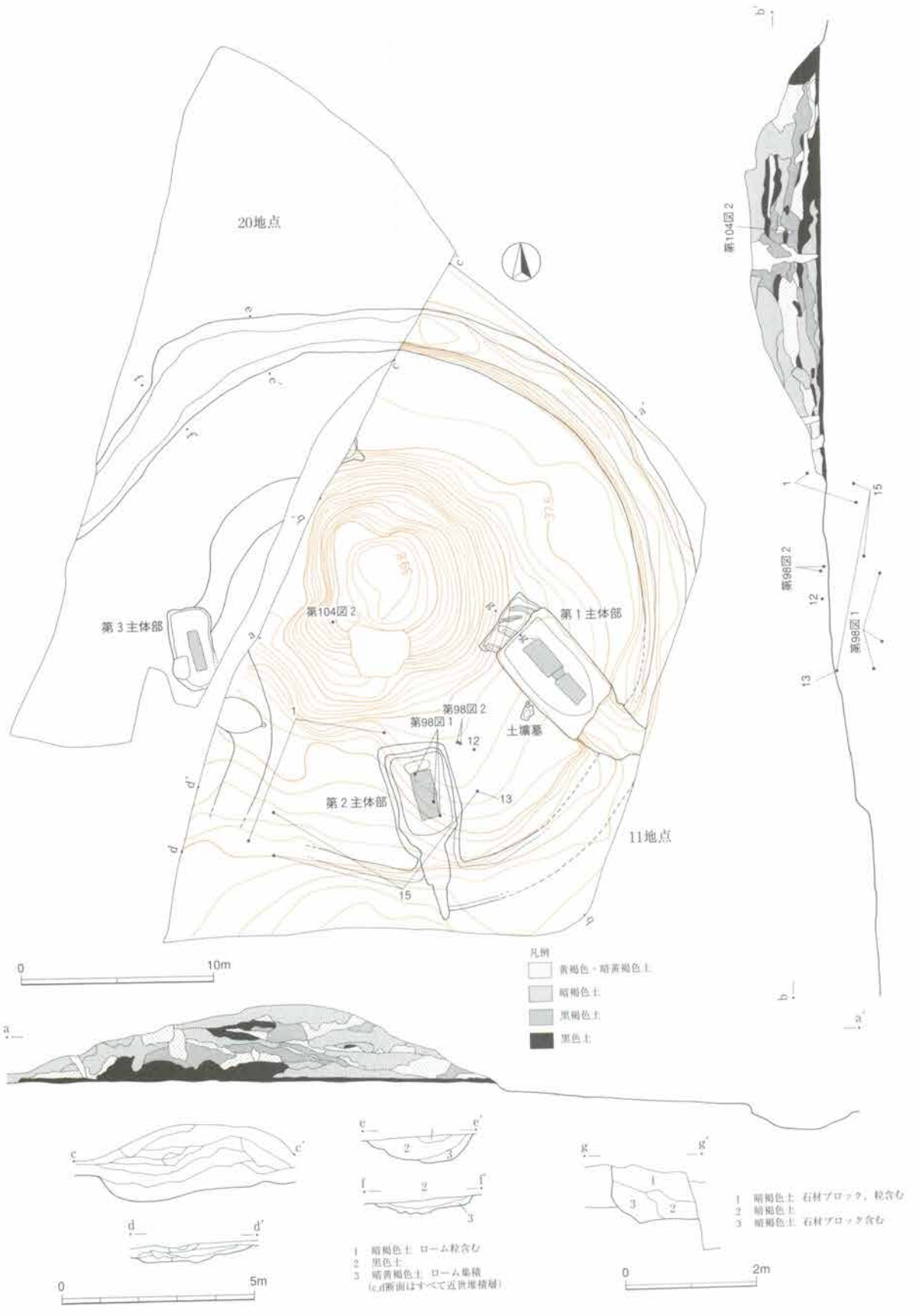
墳丘の径25.5mを測る大型の円墳である。第11地点と第20地点に跨って調査されているが，ここにまとめて掲載する。94図は全体図であり，平面図は300分の1，断面図は150分の1で示す。

墳丘は，第11地点側の（墳丘）中心付近の径13～14mほどのみ残されていた。その周囲では近現代の溝や炭窯が造られており，第94図a・b断面のように旧表土より下まで平坦に削られている。残された墳丘は塚として利用されており，調査前には大木が生えていた。c断面の部分には低い土塁状の高まりがある。周溝の外側壁は崩れており，上に土盛りが行われた。最下部から近世の灯明具が出土している。d断面の部分も周溝は残っていない。また，調査時はすでに移動されていたが，南側裾部には2基の石碑が祀られていた。1基は「富士浅間大神　村講中」，もう1基は正面に「小御嶽石尊　大天狗　小天狗」と記されたもので，いずれも紀年銘はない。石碑があったとされる辺りから寛永通寶（新寛永）が多数出土しているところから，江戸後期には，浅間塚として有吉村の人々の信仰の対象となっていたことがわかる。

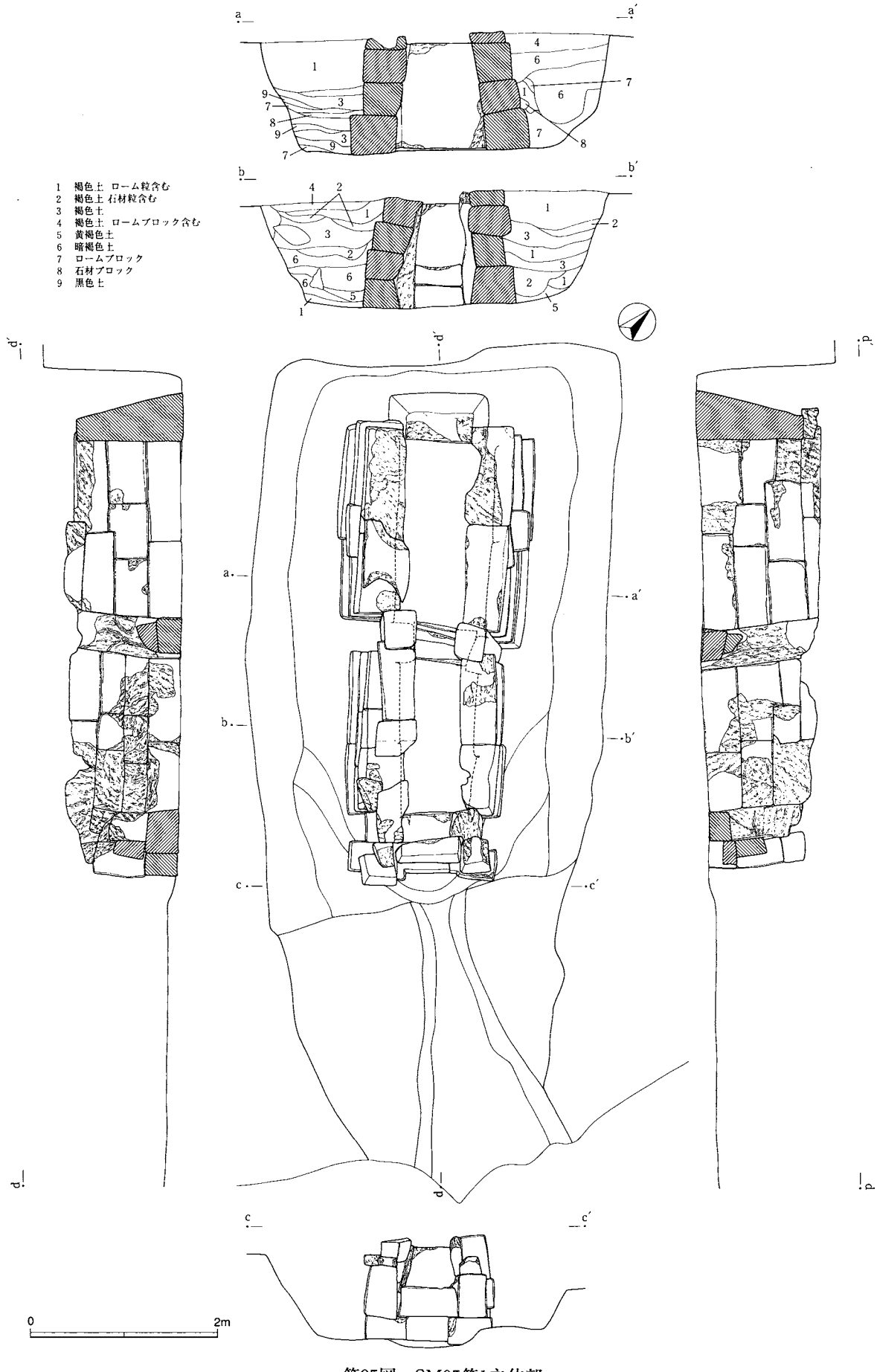
埋葬施設は4か所あり，内訳は横穴式石室2，木棺直葬1，土壙1である。土壙については古墳に伴うものか，奈良・平安時代以降のものであるか，判断が難しいため，主体部の名称を使わなかった。

第1主体部（第95・96図，図版52·53·61）　南東に開口する横穴式石室である。4か所の埋葬施設のなかで，もっとも規模が大きい。掘りかたは周溝から掘り込まれ，主軸は墳丘の中心から若干東に振れている。その底面は，周溝から羨門までの部分では狭い。羨道から玄室の部分はやや低くきわめて平坦である。なお，奥壁の裏込め土に切られた不整形の掘り込みを検出した。底面は図のように溝があるというよりは凸凹という状態である。第1主体部の造営または造り替えなどに関わる可能性もあるが，不明である。

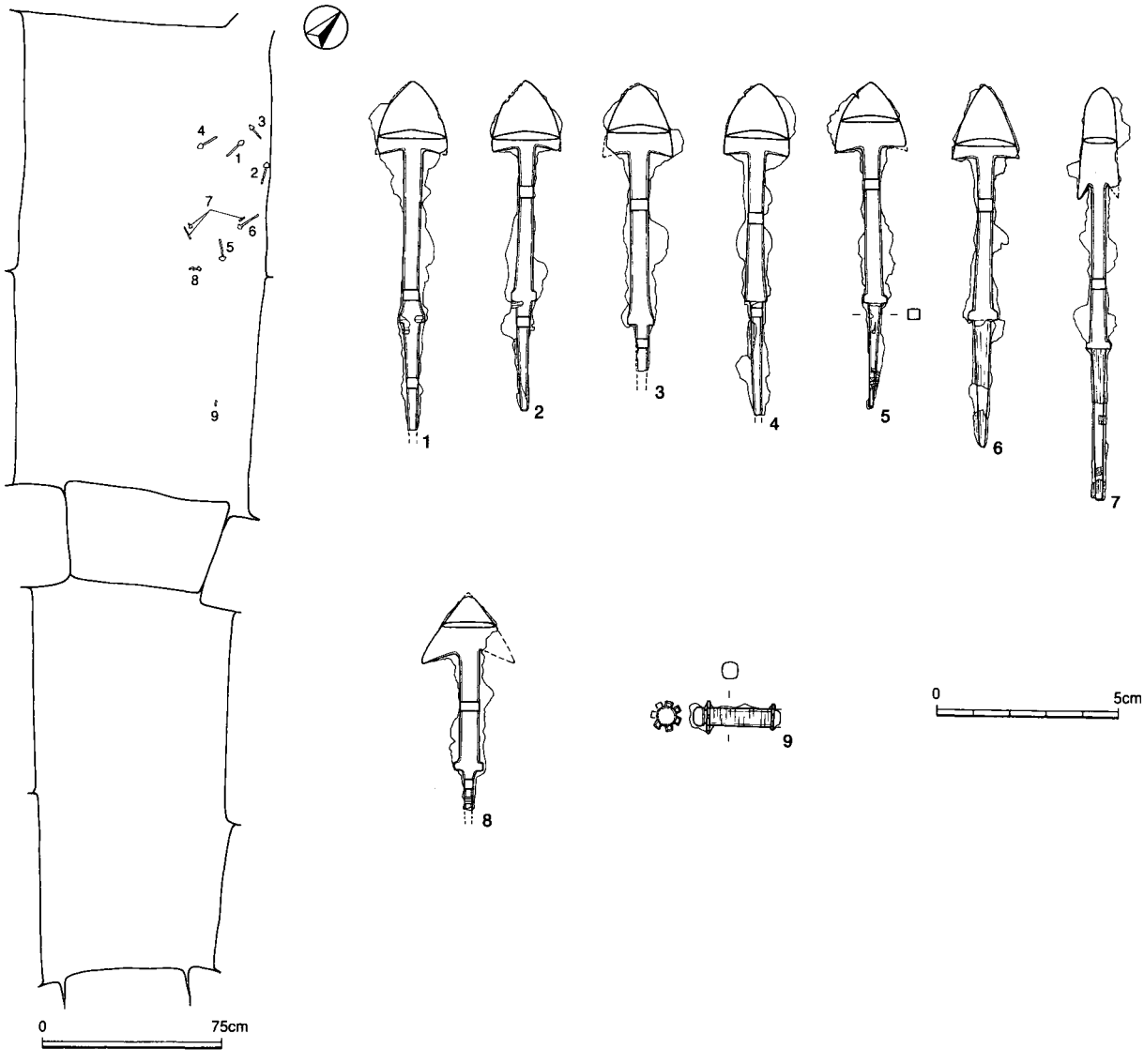
石室は単室構造の両袖型であるが，羨道と玄室の規模がそれほど変わらないため，複室構造に近い印象を受ける。石材は未固結の軟質砂岩の截石を用いている。玄室は側壁に大小の石材を整然と組み合わせて3ないし4段積み上げている。奥壁は，側壁の持ち送りに合わせた台形の大型石材を用いる。羨道の側壁はやや大きさの不揃いな石材を3ないし4段積みしており，やはり持ち送りがみられる。玄室・羨道とも



第94図　SM05全体図



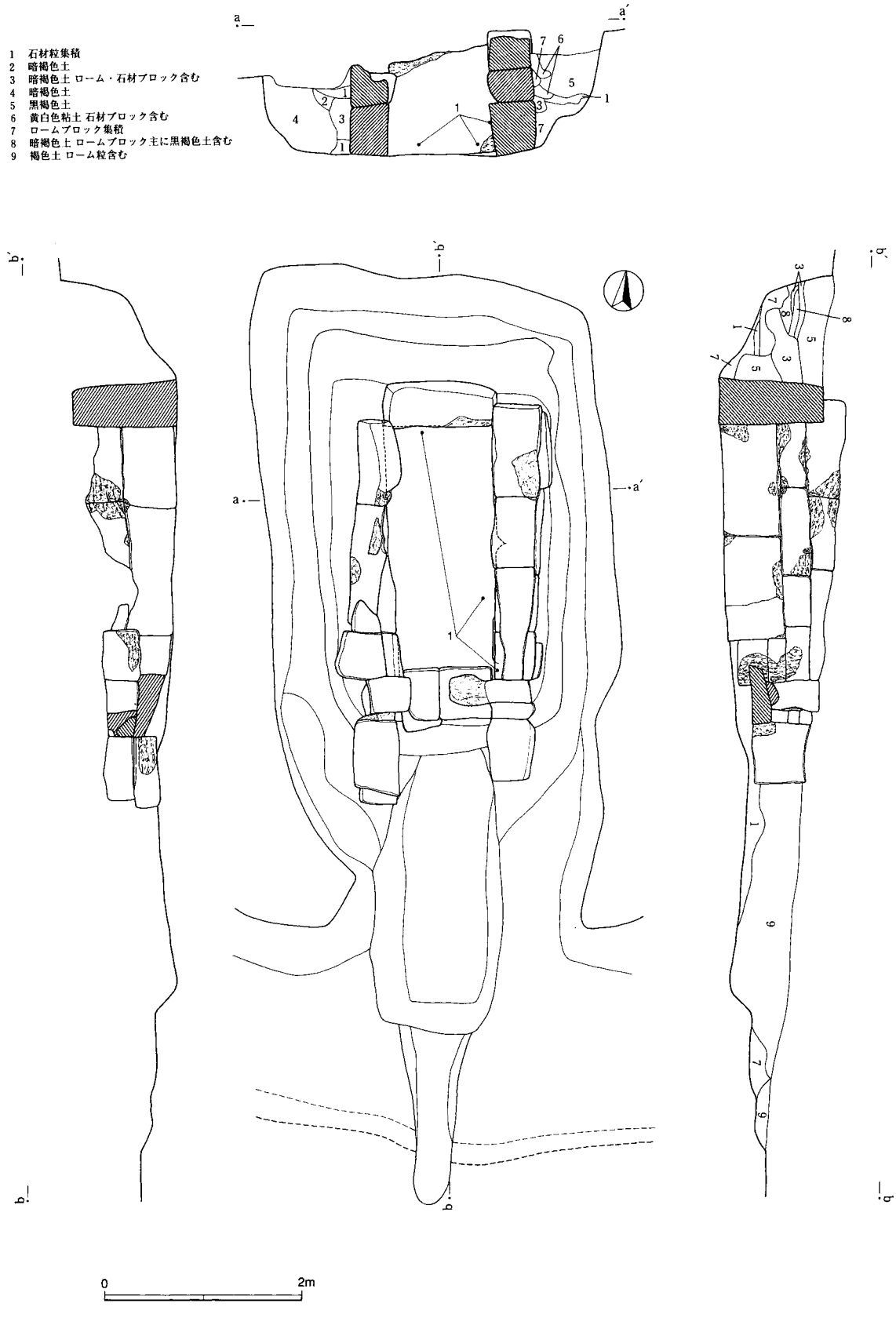
第95図　SM05第1主体部



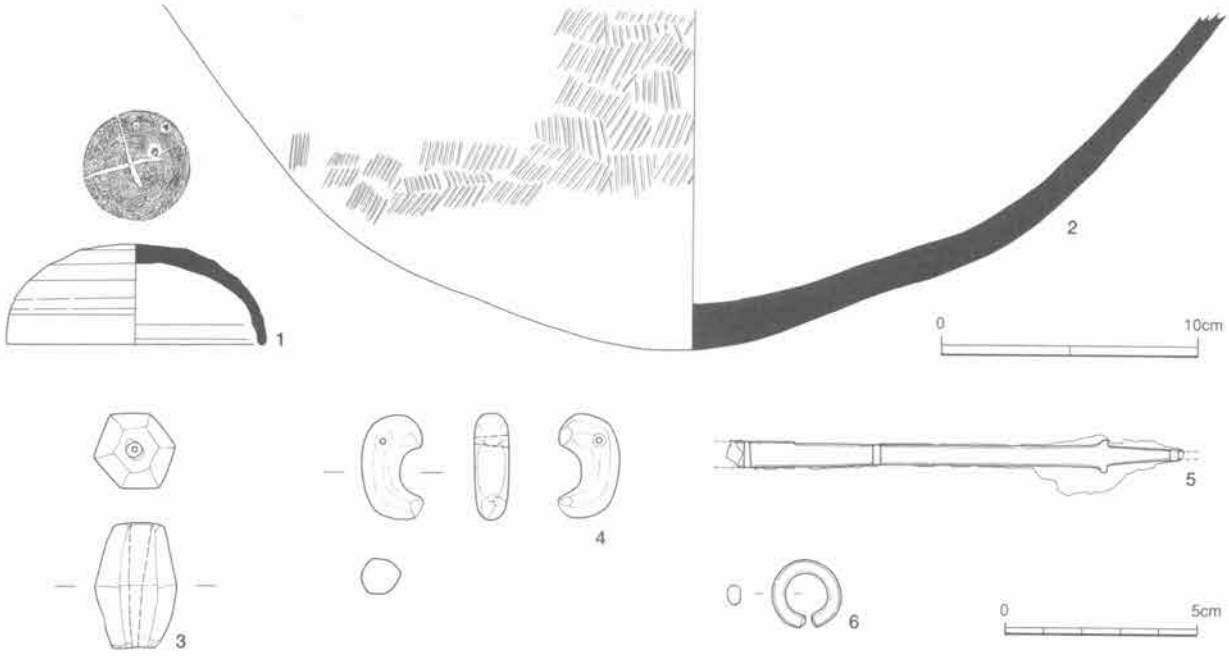
第96図　SM05第1主体部出土遺物

に4段目の一部は奥壁のトップより高い位置にあるので，天井石の可能性がある。敷石はない。羨門は2重になっており，2個の框石を複数の門柱石で挟んでいる。閉塞は小さめの截石が1個使われているが，大きく隙間が開いている。その上にさらに1～2個積んでいたものであろう。玄門は左右に角柱状の門柱石を配し，間に2段の截石を置く。上段の石は小さく，玄門は閉塞されていなかったであろう。なお，石材に掛けたスクリントーンは割れ口を示している。

玄室からは鉄鏃8点と弓金具1点が出土している。遺体が北西頭位で横たえられたとすると，鉄鏃は上半身左脇付近に分布するが，位置はかなり乱されている。弓金具は1点のみで，南側のかなり離れた位置にある。やはり遺体の左側に弓が置かれた可能性を示している。鉄鏃の基部には一部木質が残っており，3や6のように基部が石材側に向いたものは，少なくとも柄が腐朽してから動かされたことを示している。盗掘により主な副葬品は持ち出された可能性が高い。



第97図　SM05第2主体部



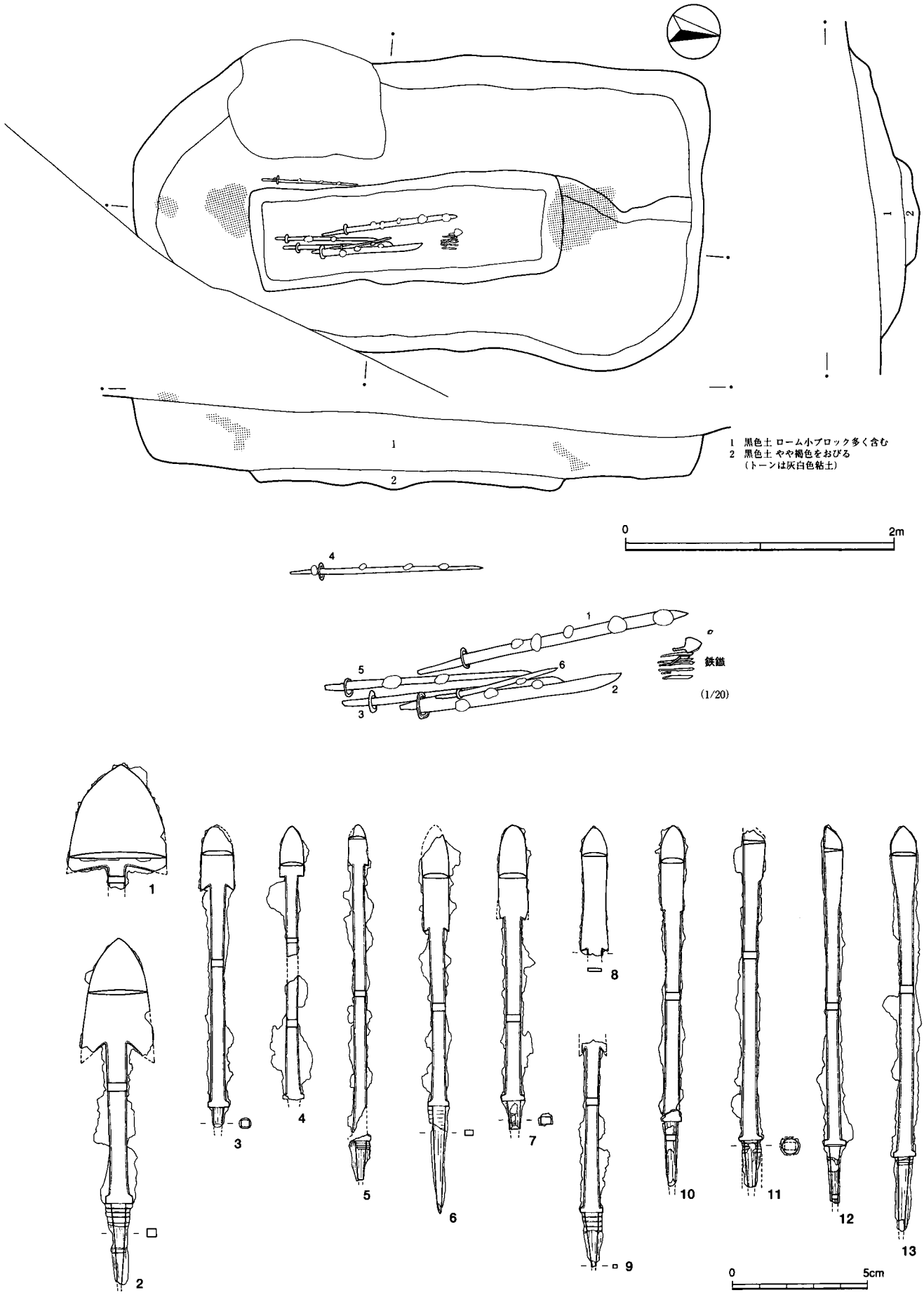
第98図　SM05第2主体部出土遺物

第2主体部（第97・98図，図版53·54·59）　南に開口する横穴式石室である。掘りかたは周溝から掘り込まれ，主軸は墳丘の中心を通る。底面は周溝の途中からやや深くなっており，玄門に向かって緩やかに高まる。これが羨道部にあたると思われる。玄室部はそこから若干低くなり，平坦である。a断面の右側に顕著であるが，掘り込みは2段になっている。

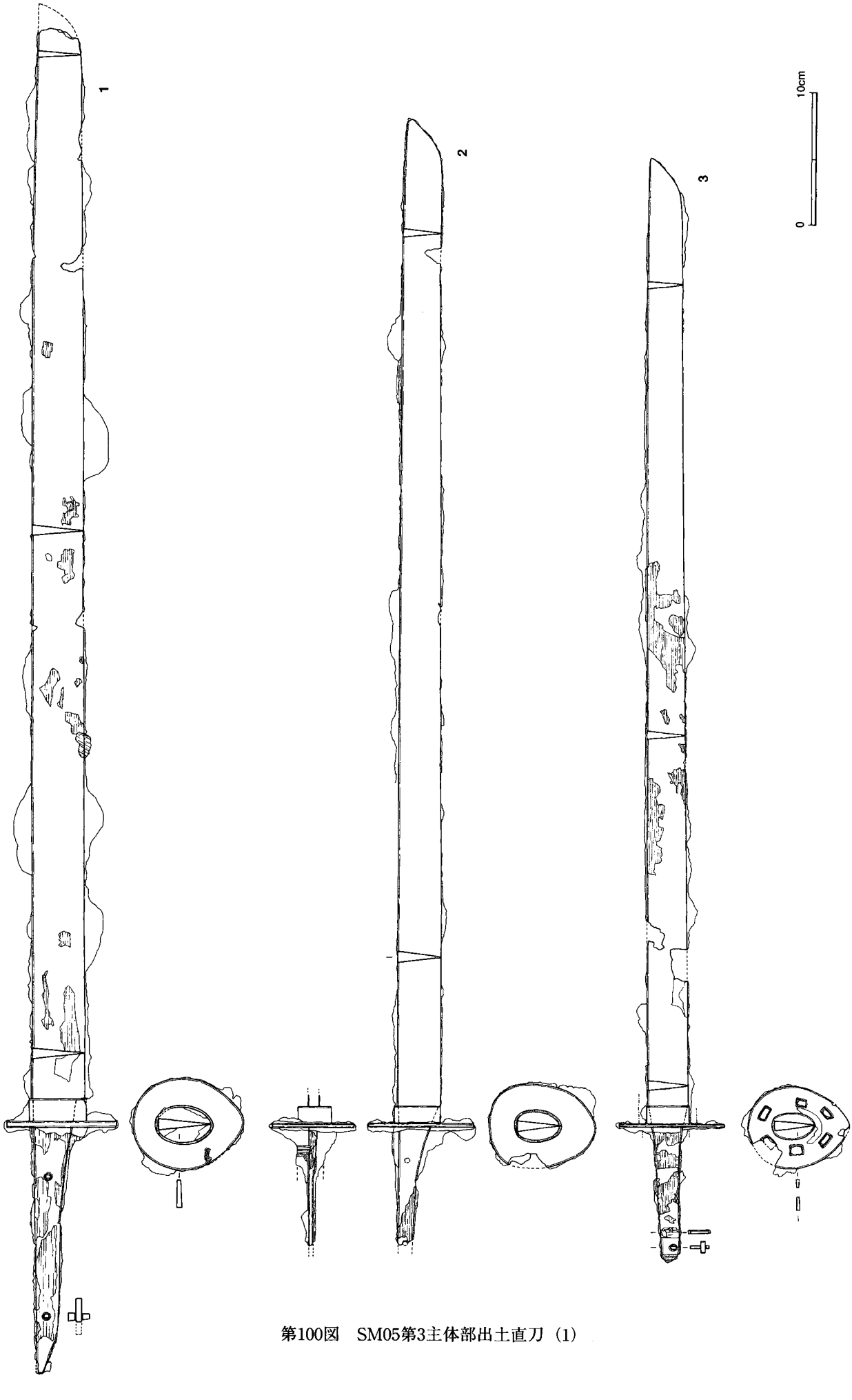
石室は単室構造の両袖型である。羨道が長方形の掘りかた部分全体とみると，側壁はその最奥部だけに付けられたといえる。石材は未固結の軟質砂岩の截石を用いる。玄室は，側壁に大小の石材を垂直に2～3段積み上げる。奥壁は大型の石材1枚である。羨道の側壁は，右側はやや大きめの石を1段，左側は小さめの石を2段に組む。玄室・羨道とも天井石は遺存しない。羨道には元より天井は設けていなかったかもしれない。敷石はもたない。玄門は，2個の框石を門柱石で挟んでいる。左側は角柱状の石材を用い，右側は厚みがない分の隙間を小さな石で埋めている。開口していたが，框石上の小さな石材片は閉塞石の一部であった可能性がある。盗掘を受けたらしく，副葬品は切子玉・勾玉各1個，鉄鏃の残欠，金銅製耳環と土器片のみであった。98図1の須恵器杯は玄室の覆土最下部の3地点から出土した。2は破片1点が玄室内一括で，残りは墳丘中である。いずれも墳丘から流入した可能性が高い。

第3主体部（第99～102図，図版56·60·62）　墳丘の裾部に掘り込まれた木棺直葬の埋葬施設である。掘り方はほぼ南北主軸，すなわち墳丘のコンターに平行な方向である。かなり振れているが，木棺部分は少し振れが小さい。中心は長方形に10cmほど下がっており，これが木棺の置かれた部分であろう。調査時は丸掘りしたが，土層断面の灰白色粘土の位置も木棺の位置を示している。内部には直刀7本，鉄鏃13本が納められていた。比較的整然と並んでおり，盗掘を免れた可能性が高い。直刀と矢は先端を北側に向け，まとめて置かれている。ただし，直刀4は明らかに動いている。また，直刀のまとまる位置が棺の中央に近いことも不自然な感がある。遺体はその西側の狭い範囲に置かれたものであろうか。頭位方向は南であろうか。あるいは，副葬品だけを埋納したものであろうか。

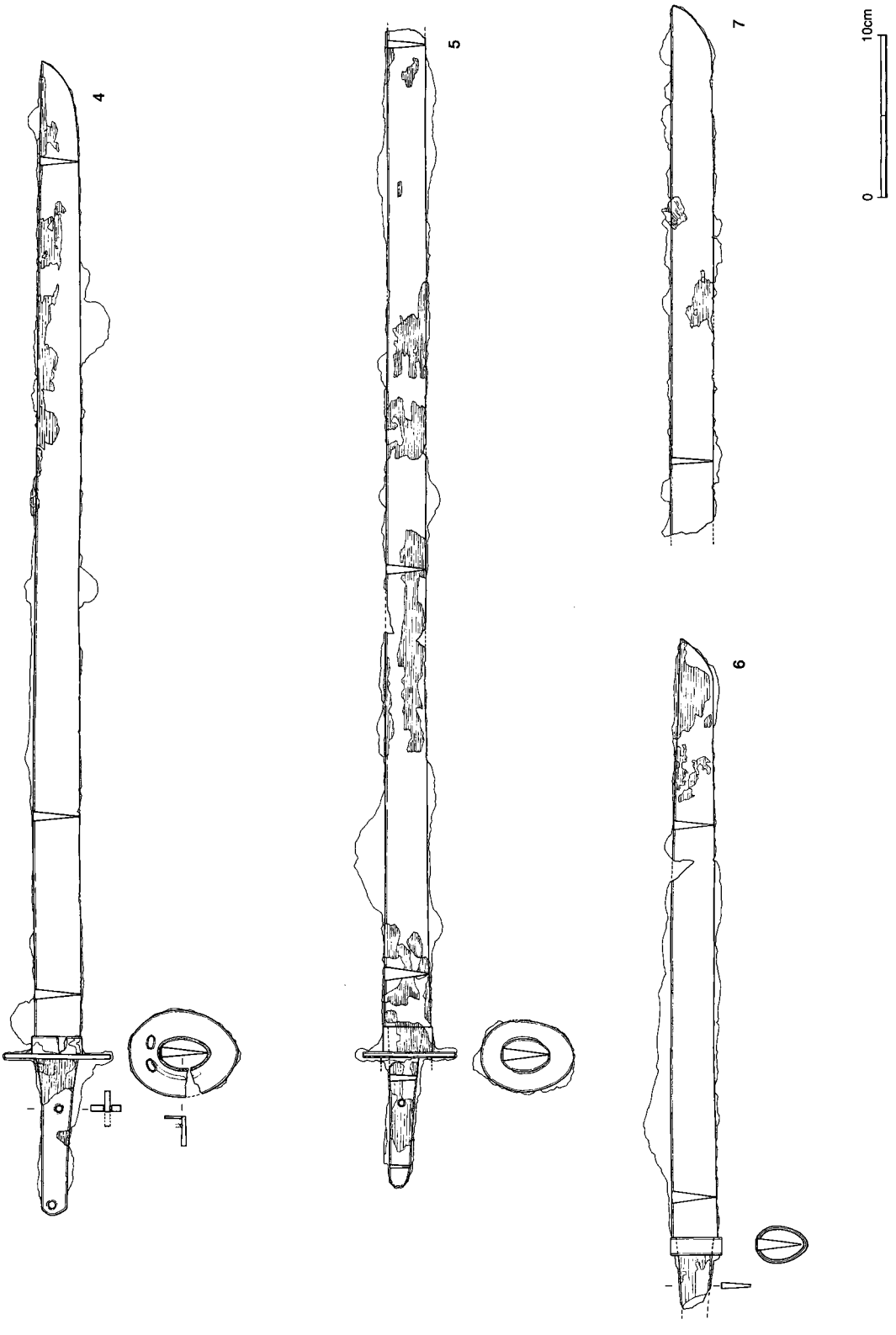
第100・101図は直刀である。鍔や柄木，目釘，鞘などが残り，比較的保存が良いものが多い。1は最大のもので，現存長101.7㎜を測る。2は柄の糸巻き痕が残る。3・4は透かしのある鍔をもつ。6・7は一部



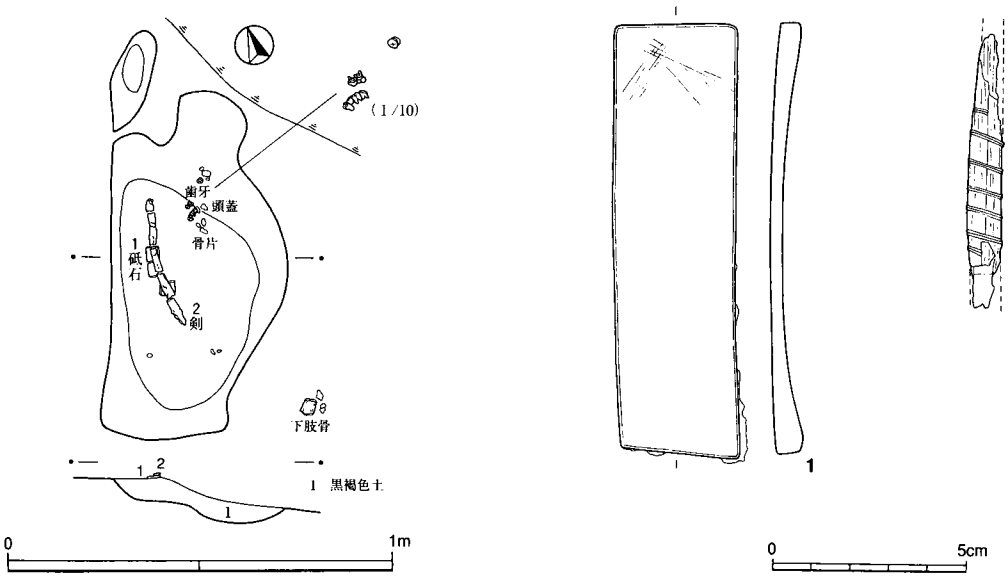
第99図　SM05第3主体部・出土鉄鏃



第100図　SM05第3主体部出土直刀（1）



第101図　SM05第3主体部出土直刀（2）



第102図　SM05出土土器

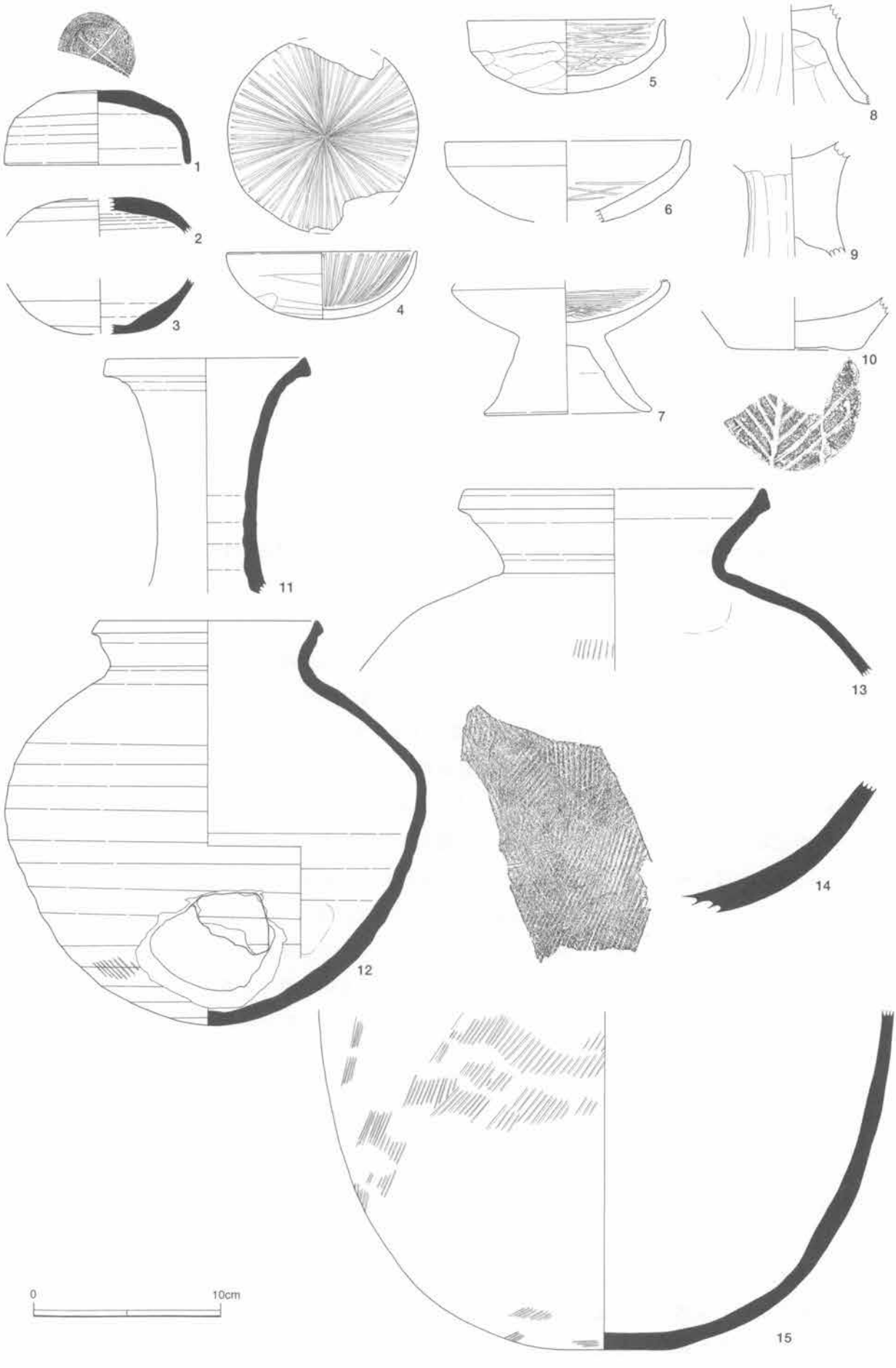
欠損する。第99図1～13は鉄鏃である。2・6・13，3・11・12はそれぞれ3本ずつ錆着していた。1には皮状の，そのほかには柄の木質が付着していた。口巻痕が認められるものも多い。

墳丘上の土壙墓（第102図，図版55･60）　第1主体部の掘りかたの南側にある。墳丘の周囲を掘り下げた際に，鉄製品と砥石が出土して存在に気付いたものである。ヒトの遊離歯と骨片も出土したため古墳に伴う埋葬施設と考えた。しかし，出土遺物から中近世の土壙墓である可能性が高い。おそらく古墳に伴う施設ではなく，古墳が塚として利用され，それに伴うものであろう。

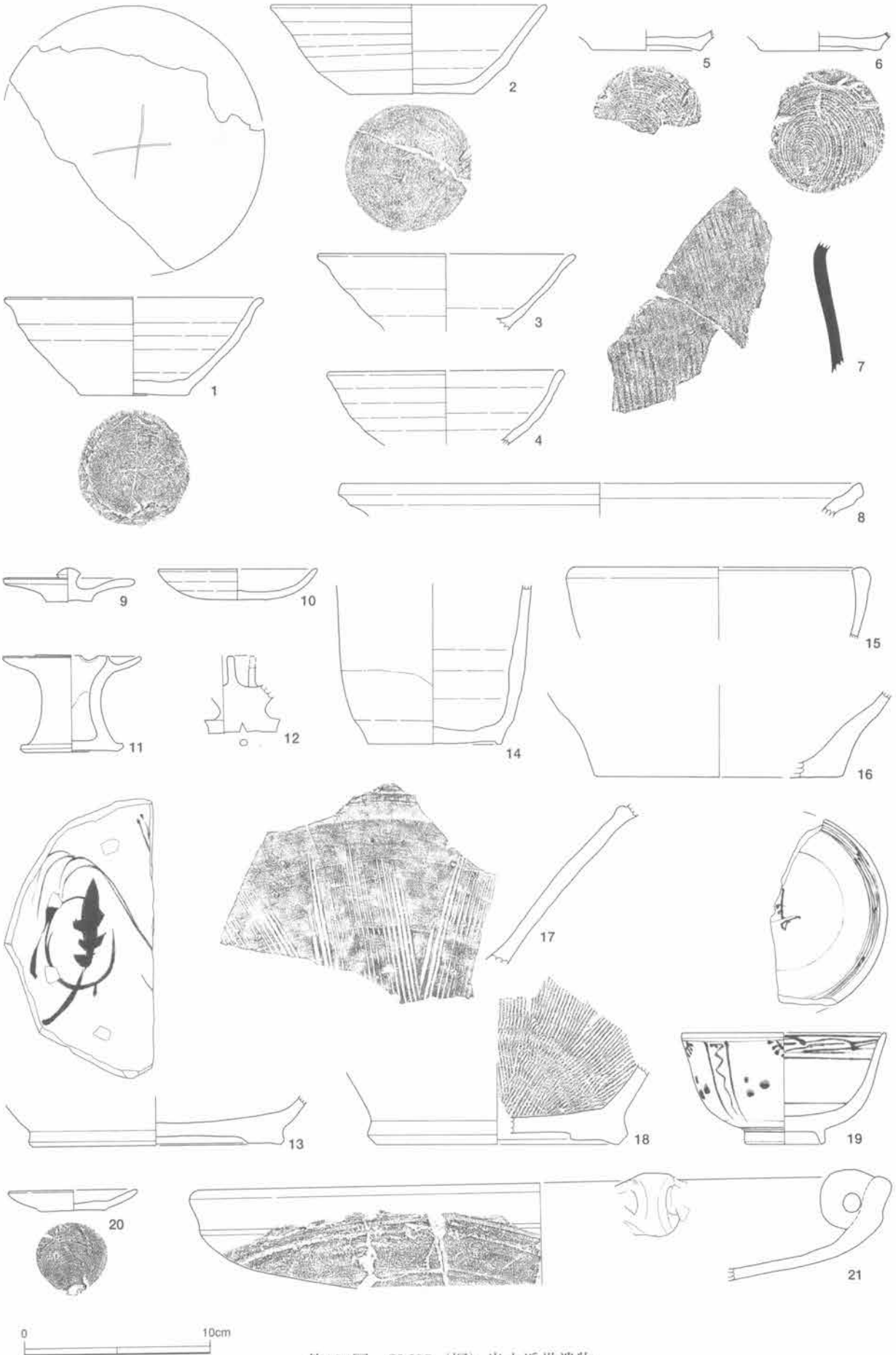
掘り込みが記録されているが，不整形であり，鉄製品・骨の出土レベルが底面に近かったとすれば，施設の形状を示すものとは考えにくい。遺体はほとんどが腐朽して，もっとも残りやすい部位のみが保存されたものと推定できる。歯牙の出土状況図をみると，上顎・下顎が自然位を保っていたものと推定された。しかし，歯種の同定を行って照合したところ，一度動いたものを誤って並べたらしく，頭骨の方向を復元することはできなかった。遺存部位，観察結果は以下のとおりである。

・歯牙　　上顎：右M1・M2，左C・M2，左右不明M1・M3
　　下顎：右P2
　　M2までかなり咬耗が進んでいる。M3は埋伏。
・頭蓋骨　小片
・四肢骨　小片。大腿骨?

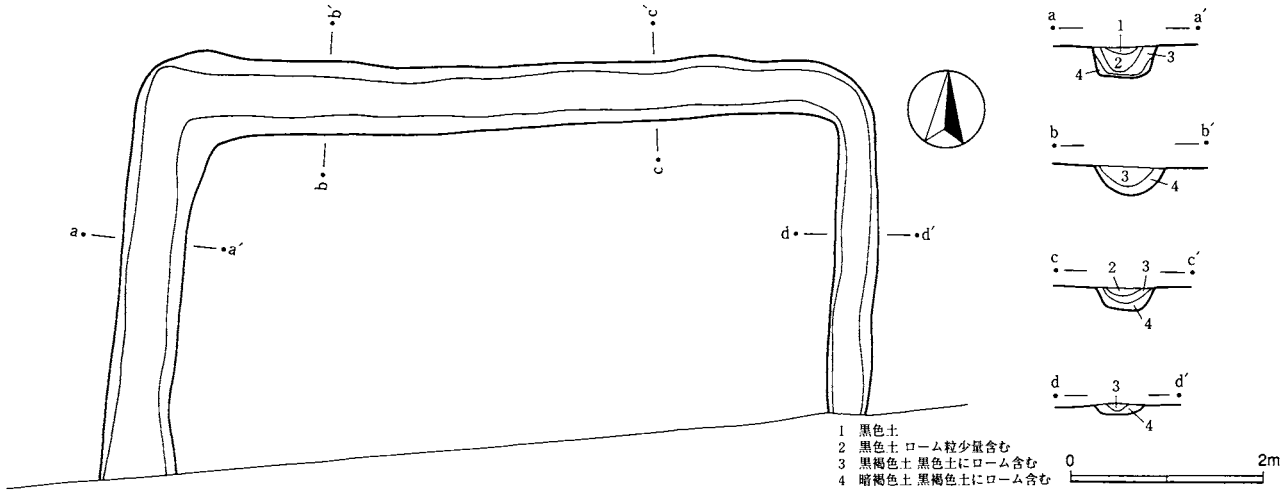
鉄製品は刃部の両側縁が薄くなっており，鞘に収められているなど，古代の剣に似ている。しかし，片面が扁平で鎬を欠き，武器としては貧弱すぎる。儀丈あるいはある種の工具なども可能性を検討すべきであろう。身下部の平坦な側には細長い窪みがあり，鞘には木質上に紐を巻いた痕跡が残る。錆着していた砥石は整った長方形で，2面のみが使われて薄くなっている。このような砥石は古代には少ないであろう。



第103図　SM05第3主体部出土土器



第104図　SM05（塚）出土近世遺物



第105図　SM06

古墳に伴う土器（第103図）　古墳に伴う土器のほかに，平安時代の土器，中近世の土器類が出土している。103図には主体部以外の，墳丘・周溝内などで出土した土器を示す。出土地点が記録されたものは，第94図に位置を示した。多くは主体部のある南半分の地山面付近ないし周溝内で出土している。ある程度墳丘築造以前の祭祀を示す可能性があるが，しかし，近世に動いているものが多いであろう。なお，第２主体部の２点（第98図）は別図としたが，墳丘から流入した可能性が高い。

３．奈良・平安時代

SM05付近出土土器（第104図）

１～８は平安時代の土師器と須恵器である。破片ばかりでそれほどまとまっていたわけではない。古墳・塚の造営に伴って入り込んだものであろうか。第94図のように，2は墳丘内から出土しているが,攪乱のすぐ近くである。

SM06（周溝状遺構）（第105図，図版55）

終末期方墳の周溝のみを検出した。出土したのは縄文土器片のみである。

４．近世

SD26（M01）（第90図）墳丘削平後に掘り込まれた可能性の高い溝である。炭窯に切られている。出土遺物はない。

SM05（塚）出土遺物（第104図，図版62）　９～21は，SM05古墳付近で出土した近世の遺物であり，塚として利用されていたことを物語る。中世の常滑産甕（16）がみられるが，19世紀のものまであって時期的にはまとまりがない。掲載したものには，肥前の土瓶蓋（9），染付端反碗（19），瀬戸・美濃の灯明皿（10），脚台付灯明皿（11），秉燭（12），徳利（14），練鉢（15），擂り鉢（17），産地不明（益子？）の擂り鉢（18），かわらけ（20），焙烙（21）がある。

第5節　第12地点

北側の赤塚支谷に大きく張り出した台地と斜面である。字「突抜」と「西側」に跨る。面積は13,200㎡あり，第9地点についで広い。古代遺構群の集中する地点でもある。第7地点，第9地点と隣接する。

1．縄文時代

(1) 炉穴（第107図，図版72･73）

SK61（FP1）　浅い窪みの底面が焼けている。出土遺物はないが早期後葉の炉穴の可能性がある。

SK62（FP2）　単独で検出した炉穴である。足場に段があるので造り替えた可能性もある。出土遺物はない。

SK63（FP3）　単独で検出された炉穴である。出土遺物はない。

SK66（FP6・7）　炉穴が2基以上重複する。A燃焼部に条痕文土器の尖底部が突き刺さっていた。

(2) 陥し穴（第107図，図版72）

SK67（D07）　長方形の陥し穴状土坑である。中央は方形に浅く窪む。出土遺物はない。

SK68（D08）　溝型陥し穴である。若干オーバーハングがみられる。出土遺物はない。

(3) 住居跡（第108図）

SI41（J25）（図版69･73）　前期初頭，花積下層式の住居跡である。南北方向に長い楕円形の，または円形に張り出しのついた形の掘り込みをもつ。床面は平坦である。中央やや北寄りには炉とみられる浅いくぼみがみられる。焼土が堆積し，下面は焼けている。形状は楕円形で，その長軸は住居跡全体の軸とは若干ずれるものの，おおむね合っている。したがって，南側の張り出しは偶然ではなく，出入り口施設の可能性もあるだろう。ピットはほとんどが小さく浅い。もっとも北側のものは深いが，不整形である。主柱穴構造ではないのだろう。出土遺物は花積下層式深鉢1点と磨石1点である。1は炉の南側に埋設されており，炉に伴うかどうかはわからないが，何らかの施設として利用されたものであろう。

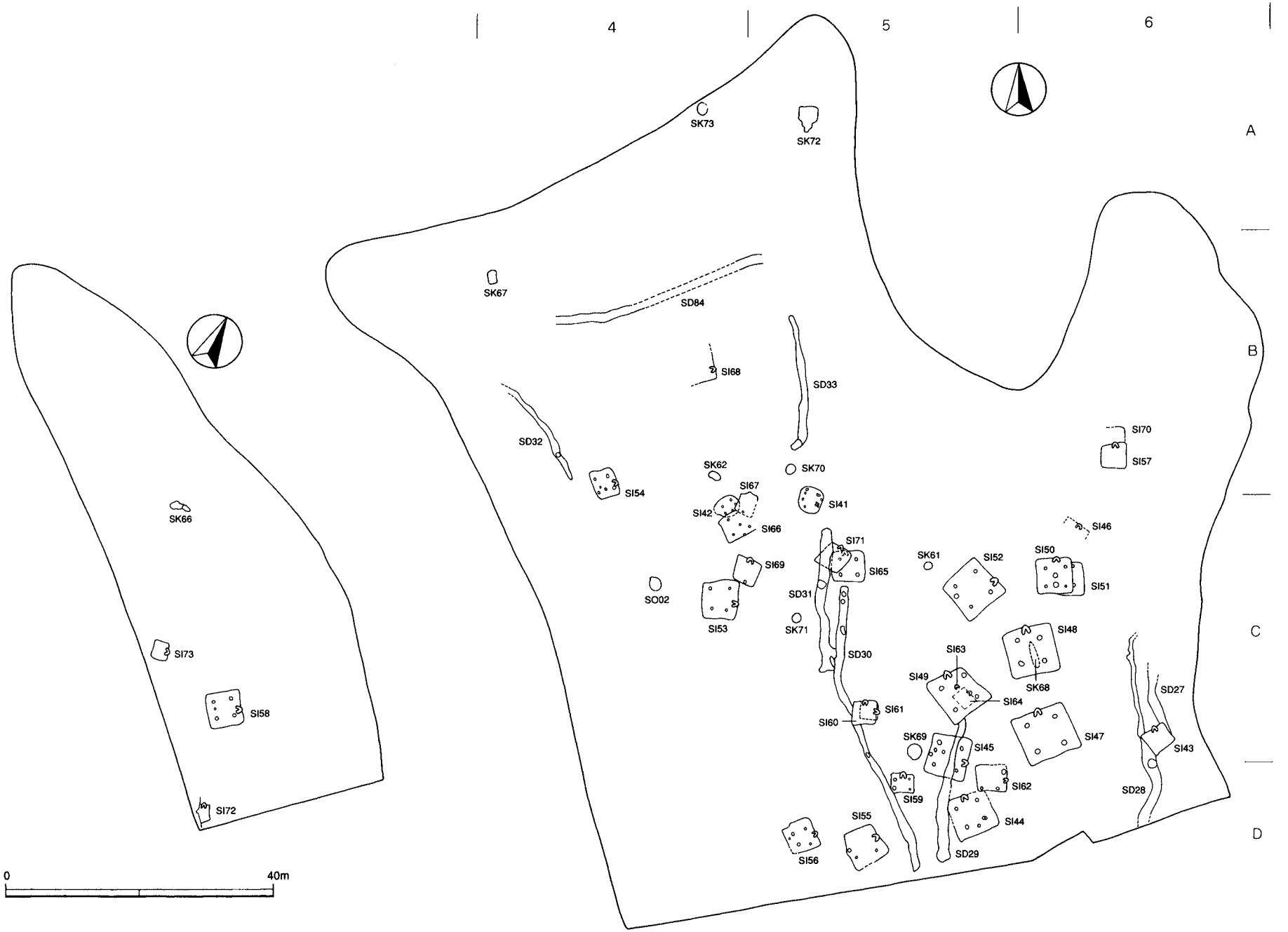
この時期の出土遺物は，東南部ニュータウンあるいは都川・村田川流域全体でも類例が少ない。台地上の遺跡ではほとんどまとまった出土例がないと思われる。一方，低湿地遺跡の神門遺跡では多量に出土しており，不明な点が多い時期である。住居跡の出土例は，きわめて貴重なものといえよう。

SI42（J29）（図版70･73）　中期加曽利EⅣ式の遺構である。平坦な面と炉をもつことから住居跡とした。掘り込みはきわめて浅く，不整形である。記録されたピットも浅すぎて上屋を支える柱を立てたものとは考えにくい。加曽利EⅣ式土器3点，石鏃，楔形石器が出土している。1・2は土器片囲炉に使われていた。微隆帯をもつ。3は一括取り上げで，沈線で横位連繋弧線文を表出する。4は頁岩製の石鏃またはその未成品である。5は安山岩製で両極打法がみられる。

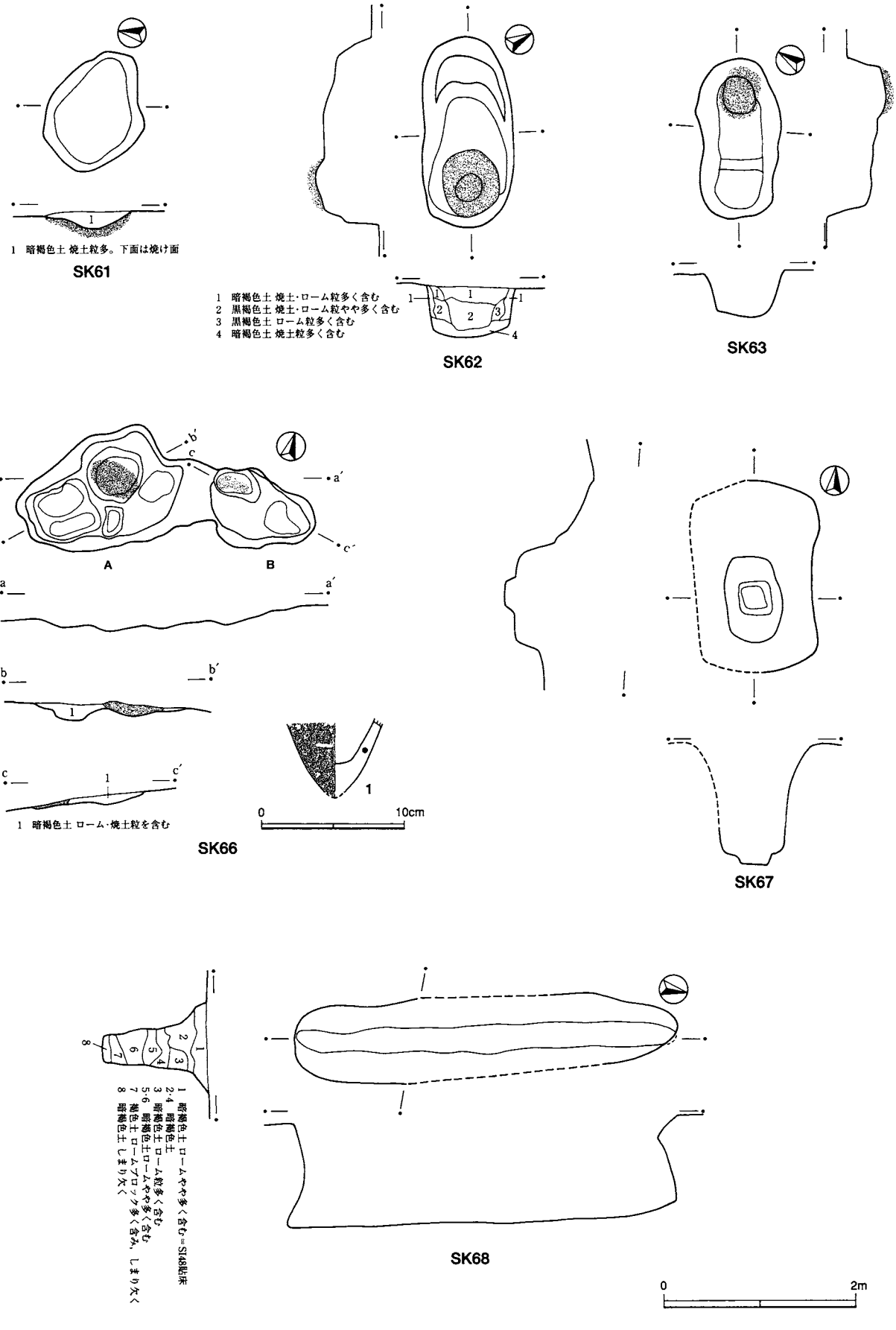
(4) 遺構外出土土器（第109・110図，図版74･75）

非掲載の小片を含めて整理箱5箱程度の縄文土器が出土した。これは地点別にみて最多であるが，面積15,100㎡からすればとくに多くはない。時期的にみても各時期が少しずつ出ている状況である。

1は早期前葉撚糸文土器の小片である。2～11は早期中葉沈線文土器である。2・6は横方向の沈線区画を多段にもち，斜格子文や鋸歯文を充填する。3は細い，4・5・8・10・11は太い集合沈線を施す。9は尖底部で，外面に灰が付着している。12・13は子母口式，14～16もこの時期の土器か。12は口唇上に絡状体圧痕をもつ。痕跡は明瞭で，図版40のように原体は縄ではないことがわかる。原体の節と節の間をつなぐ細い突起がみられる。13は口唇上に刺突を施す。17～24は早期後葉条痕文土器である。17は沈線による

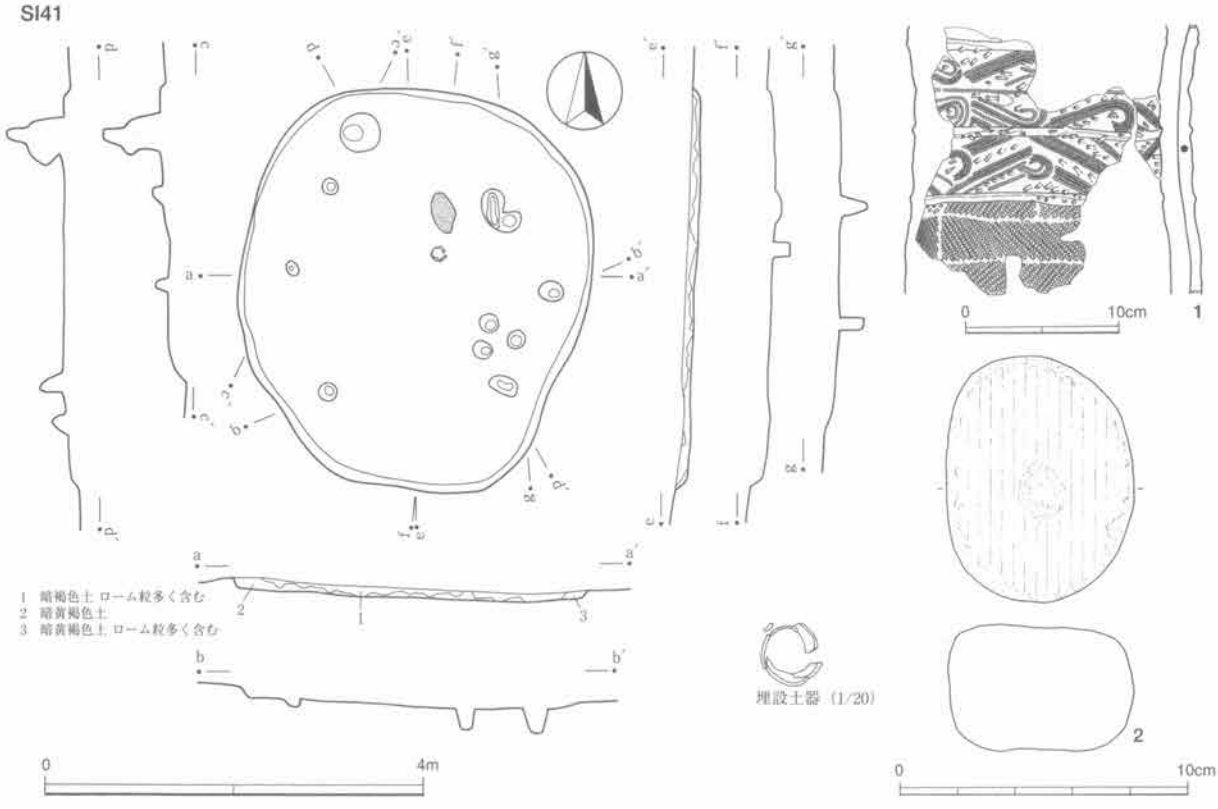


第106図　第12地点全体図

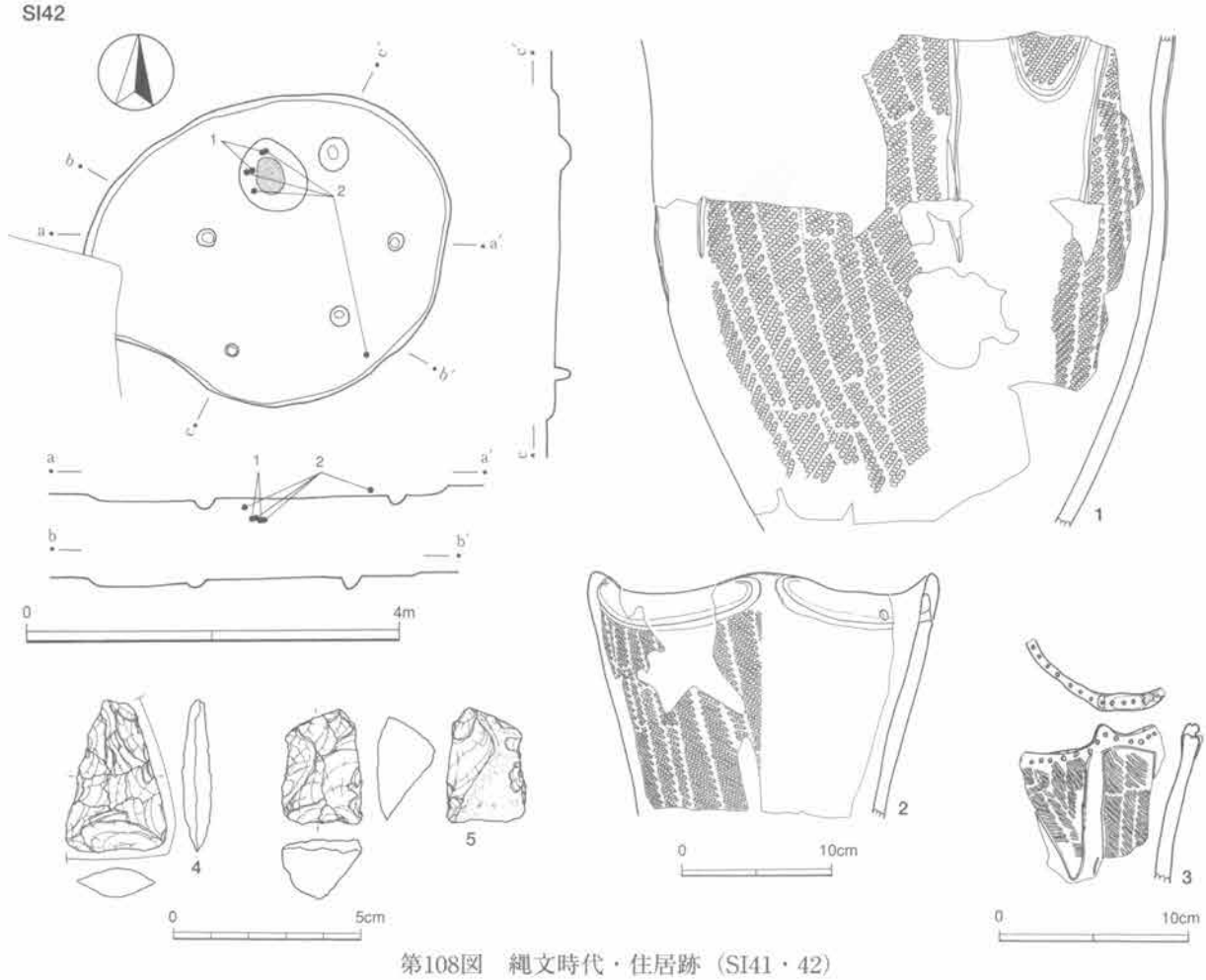


第107図　縄文時代・炉穴，陥し穴

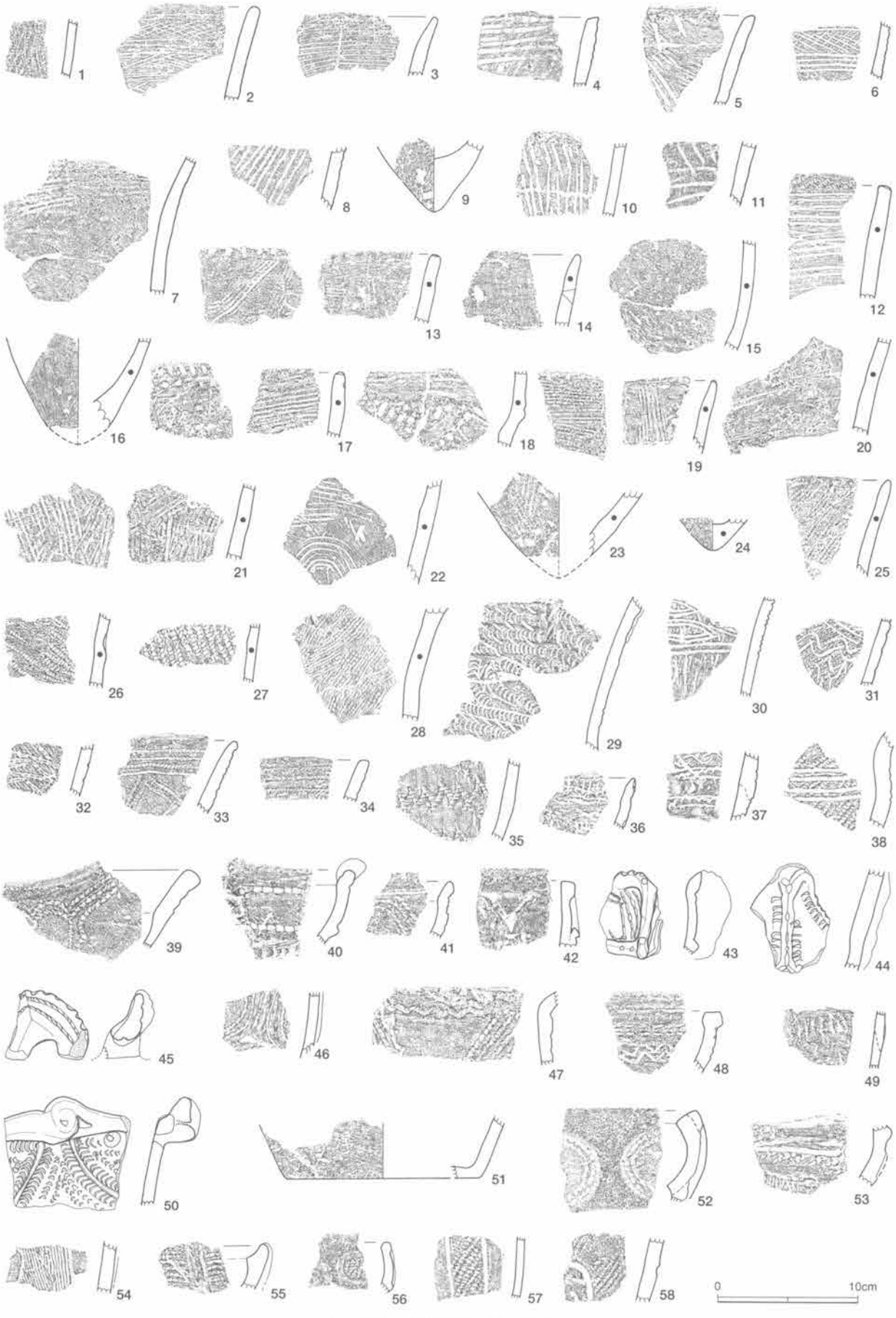
SI41



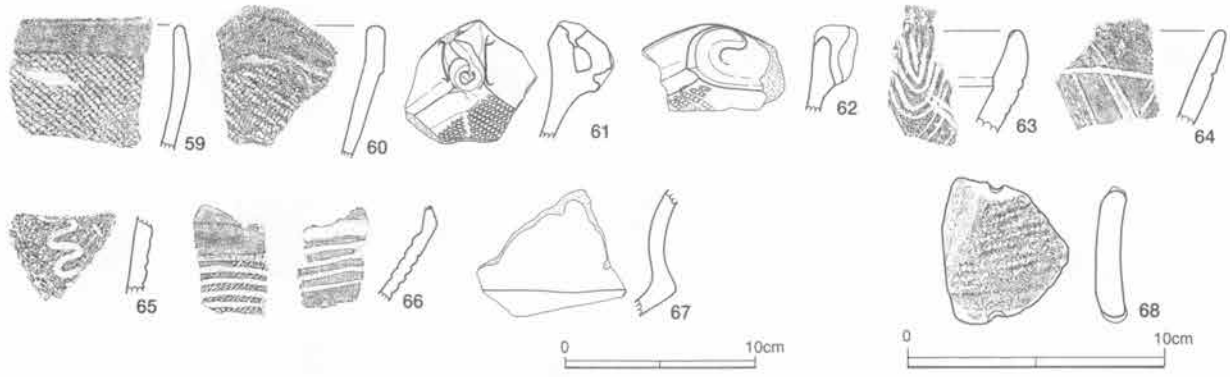
SI42



第108図　縄文時代・住居跡（SI41・42）

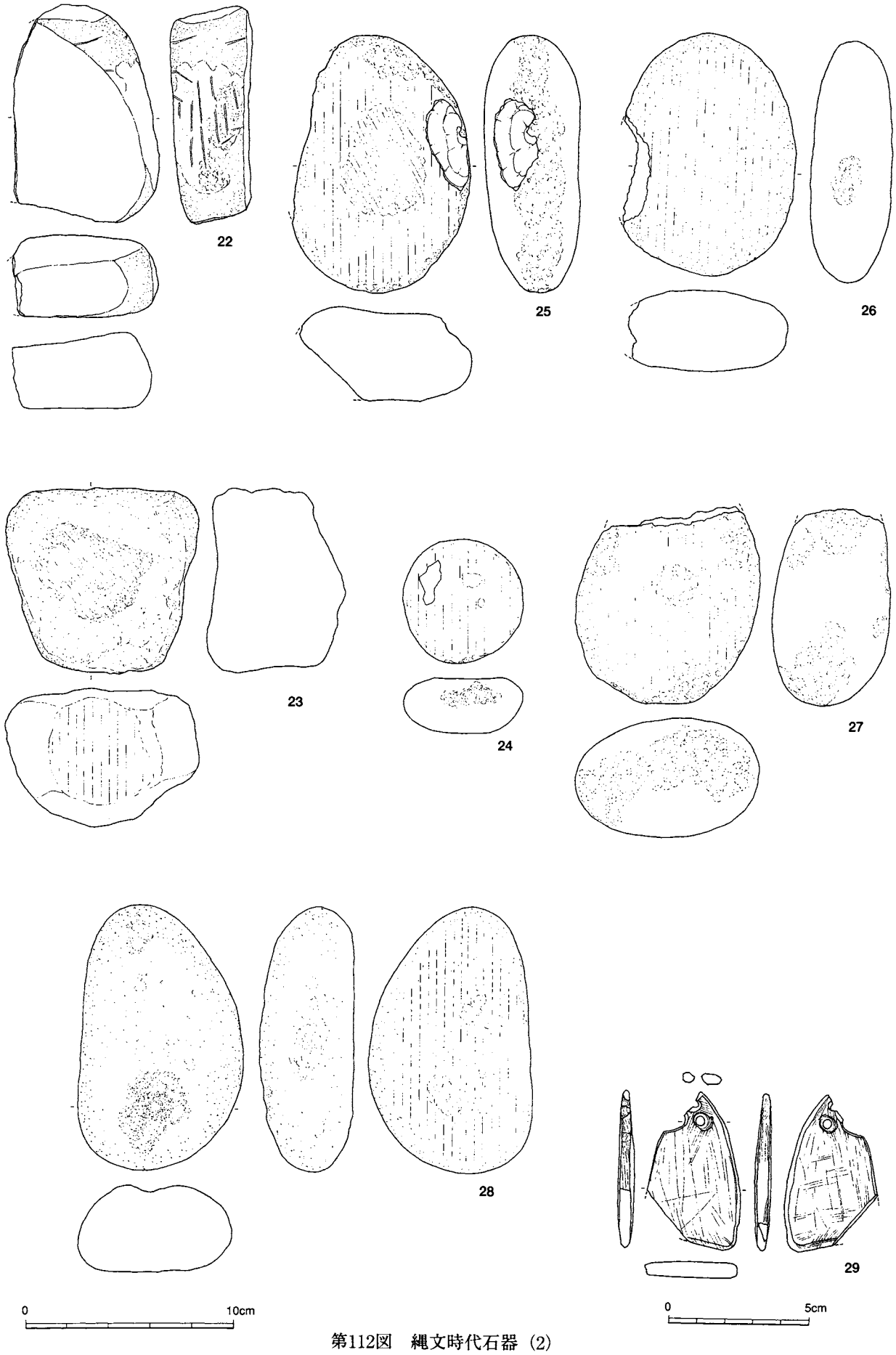


第109図　遺構外縄文土器（1）



第110図　遺構外縄文土器（2）・土製品

第111図　縄文時代石器（1）



第112図　縄文時代石器（2）

区画と刺突を，18は微隆帯区画内に沈線を充填する。この２点は鵜ヶ島台式であろう。ほかは特徴が乏しいが,21の密で深い条痕，22の器面調整後に条痕で意匠を描く土器は茅山上層式であろうか。

25～26は縄文地文のみの繊維土器であり,前期中葉黒浜式。29～36は前期後葉の土器である。32は地文縄文上に幅の狭い爪形文により，鋸歯状帯が多段構成となる諸磯a式，29は幅の広い爪形文で蕨手状などの文様を描くもので，諸磯b式である。30・31は撚糸文の地文上に木の葉状，波状の平行沈線文を施す浮島Ⅰ式。33～35は変形爪形文や波状貝殻文が特徴となる浮島Ⅱ式である。36は口縁部の条線帯である。37は粘土の接合痕が明瞭に残り，結節回転文をもつ前期末葉の土器である。

38は雲母が目立つ。五領ヶ台式末期の土器か。39～51は中期前葉阿玉台式土器である。阿玉台Ⅰa式からⅢ式がみられる。52は低く丸みのつよい隆帯による楕円区画に２列の角押文が沿うものであり，この時期のものか。53～63は加曽利E式である。53は加曽利EⅠ式のキャリパー型，54・55と63は曽利系の古い段階のものであろうか。EⅠ式からEⅡ式に伴うものであろう。56・57はEⅡ式のキャリパー型土器である。58はEⅢ式，60～62はEⅣ式の横位連繋弧線文，59もEⅣ式の口縁部である。

64・65は称名寺Ⅱ式から堀之内1式に伴う粗製土器，65は堀之内1式である。66は加曽利B1式である。

(5) 遺構外出土土製品（第110図）

68は加曽利EⅣ式土器を利用した土器片錘である。

(6) 遺構外出土石製品（第112図，図版77）

29はけつ状耳飾の半欠品である。

(7) 遺構外出土石器（第111・112図，図版76･77）

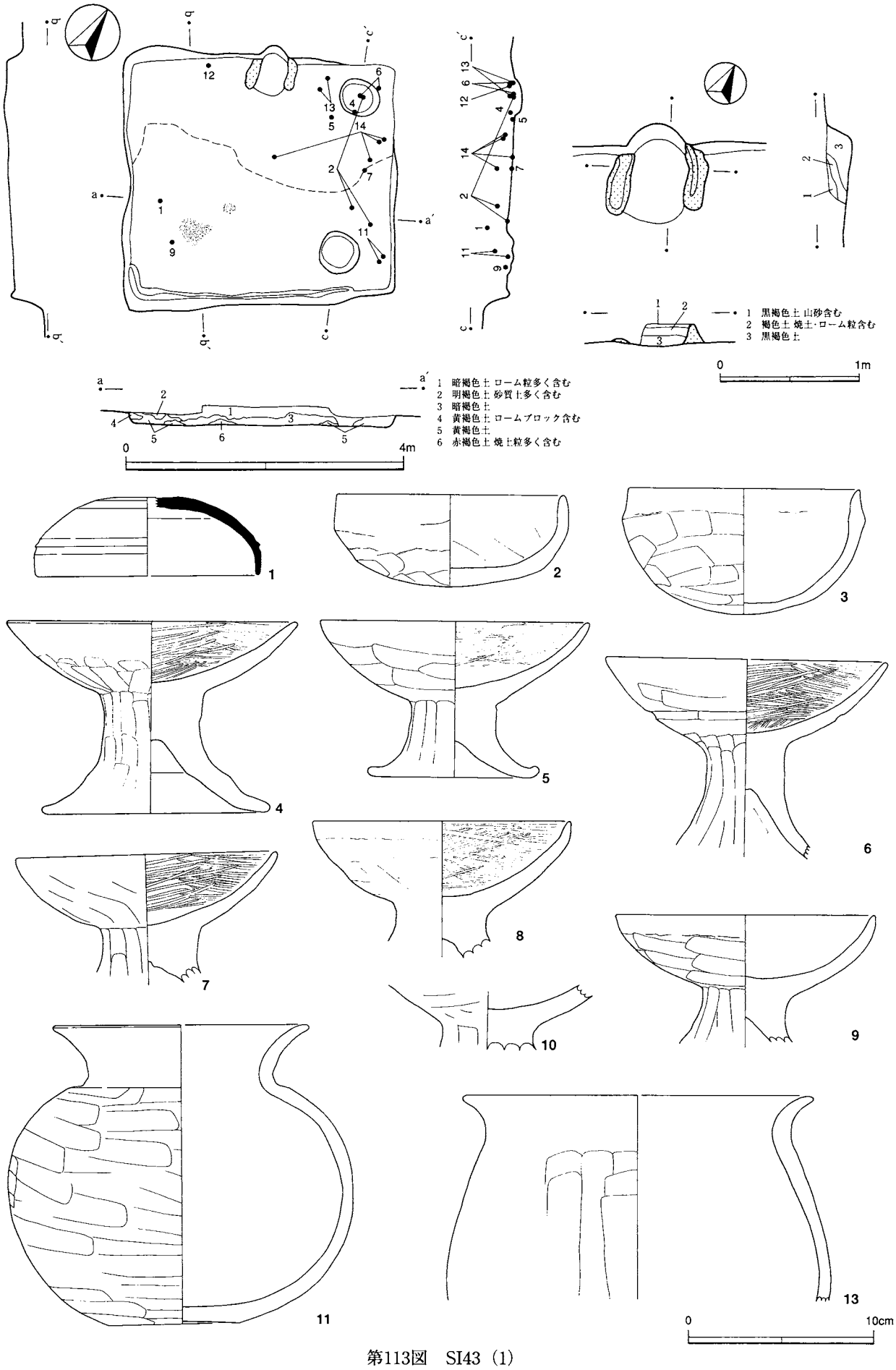
縄文時代の石器36点を掲載する。これは各地点のなかで最多である。が，多いのは土器と同様に面積が広いことによるものであろう。土器は早期から中期の各時期が出土しており,石器の時期を特定するのは難しい。１～６は石鏃である。１・５はチャート，２・４は安山岩，３は黒曜石製である。７はチャートで，石鏃未成品と思われる。８～10・12は両極打法による石核・剥片類である。10・12は楔形石器，８・９は両極石核か。11・13は黒曜石の石核である。14～17は剥片で，14・16は黒曜石，15・17は珪質頁岩製。14・15には調整剥離がみられる。18～20は打製石斧である。18は砂岩，19・20は安山岩製である。21は砂岩製の磨製石斧である。22は砂岩製の砥石である。23～28は磨石類である。23は台石。24～27は磨石・敲石として使われている。このほか，図示しなかった石皿１点，砥石７点については第18表に示した。

２．古墳時代

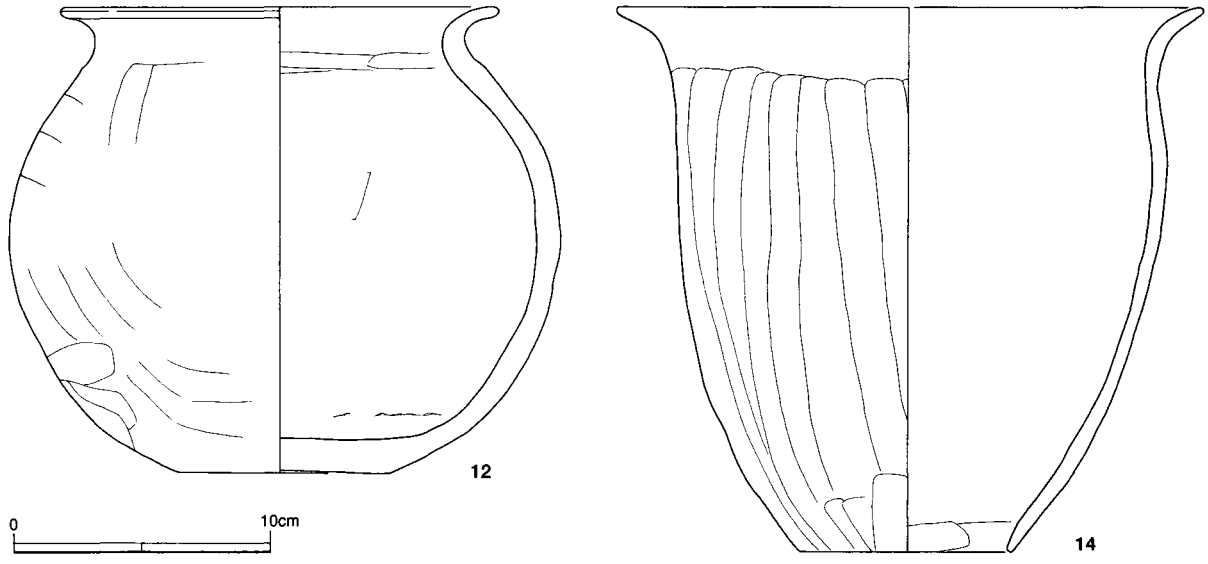
(1) 住居跡（第113～114図）

第12地点で検出した33軒のうち，16軒が古墳時代後期のものである。このほかは，ほとんどが平安時代のものであるから,両者には時間的な隔たりがある。古墳時代の住居跡は，どちらかというと台地の中央寄りに多く，斜面側にいくと少なくなっている。遺構の密度は高いが,重複する例はそれほど多くはない。北にカマド，南に出入り口を配するものと，東にカマド，西に出入り口を配するものが半ばする。

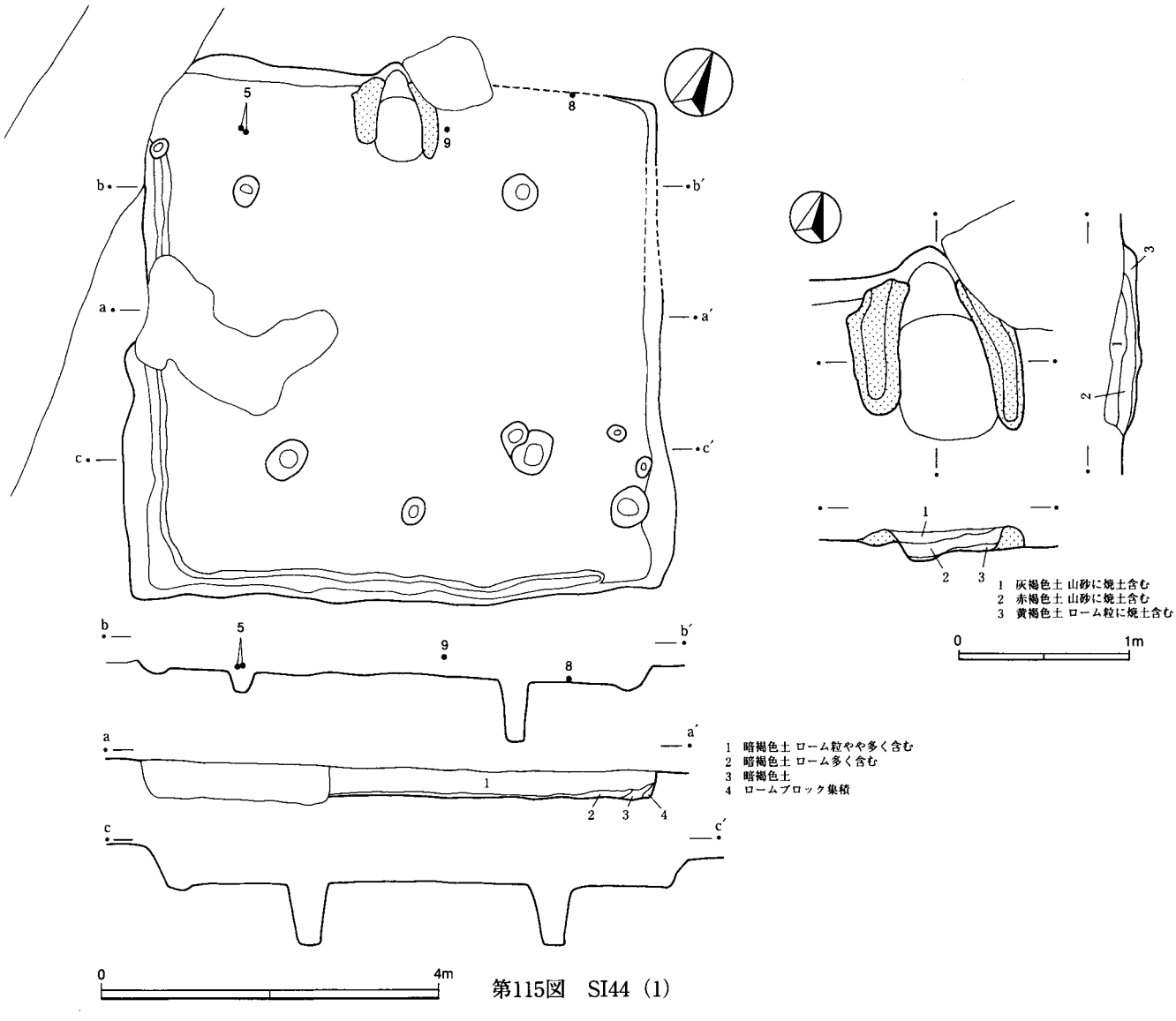
SI43（J01）（図版63･78）　主軸方向が若干短い方形の住居跡である。北壁中央にカマド，北東隅に貯蔵穴をもつ。南東の窪みは底が凸凹であり貯蔵穴ではないであろう。柱穴はみられない。比較的残りのよい南半では床の硬化面や壁溝が遺存する。土師器杯２点，高杯７点，甑，須恵器蓋が出土している。７は高杯の身が伏せた状態で，その上に14が破損した状態で乗っていた。


1 黒褐色土 山砂含む
2 褐色土 焼土・ローム粒含む
3 黒褐色土
0 1m
1 暗褐色土 ローム粒多く含む
2 明褐色土 砂質土多く含む
3 暗褐色土
4 黄褐色土 ロームブロック含む
5 黄褐色土
6 赤褐色土 焼土粒多く含む
0 4m
0 10cm

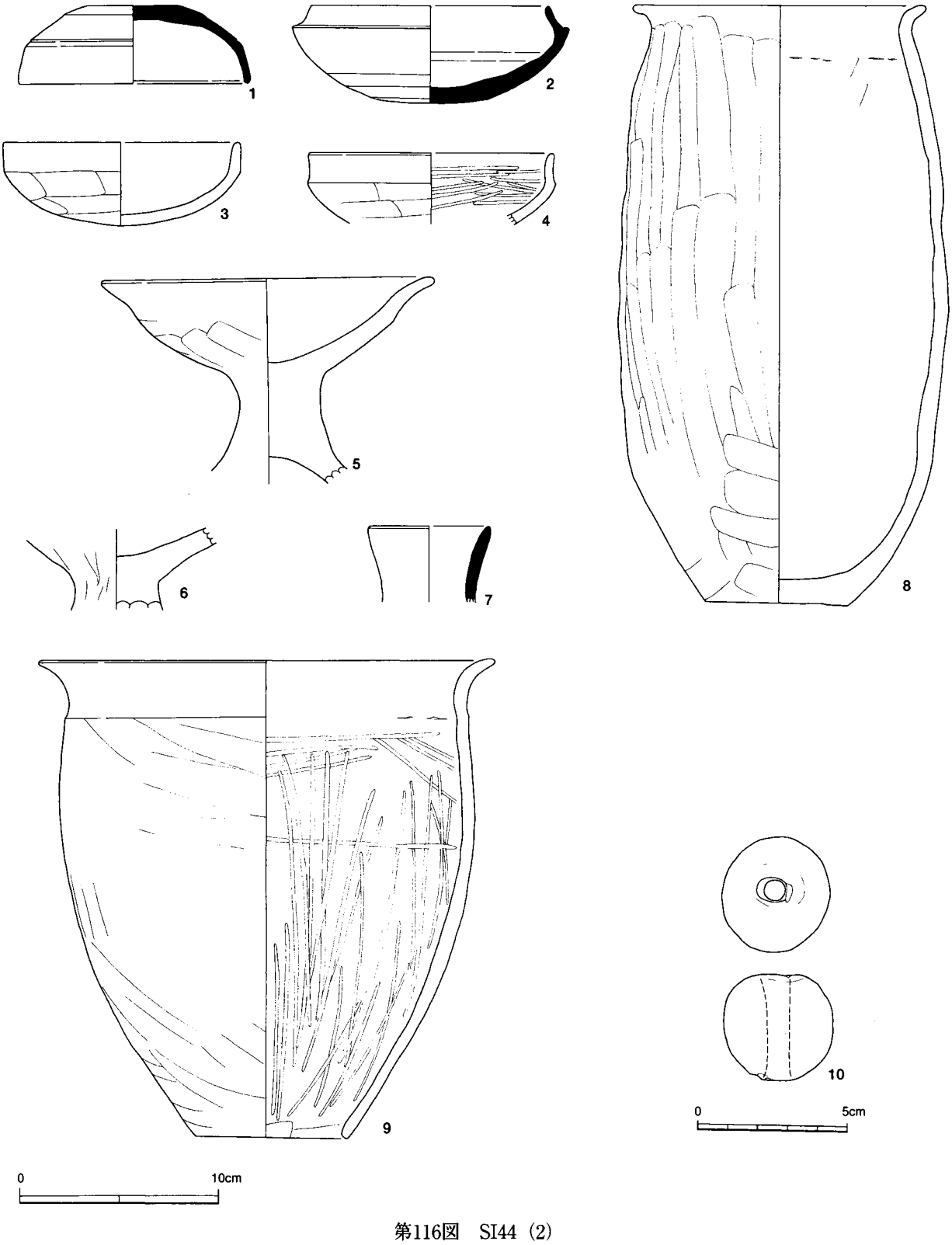
第113図　SI43（1）



第114図　SI43（2）

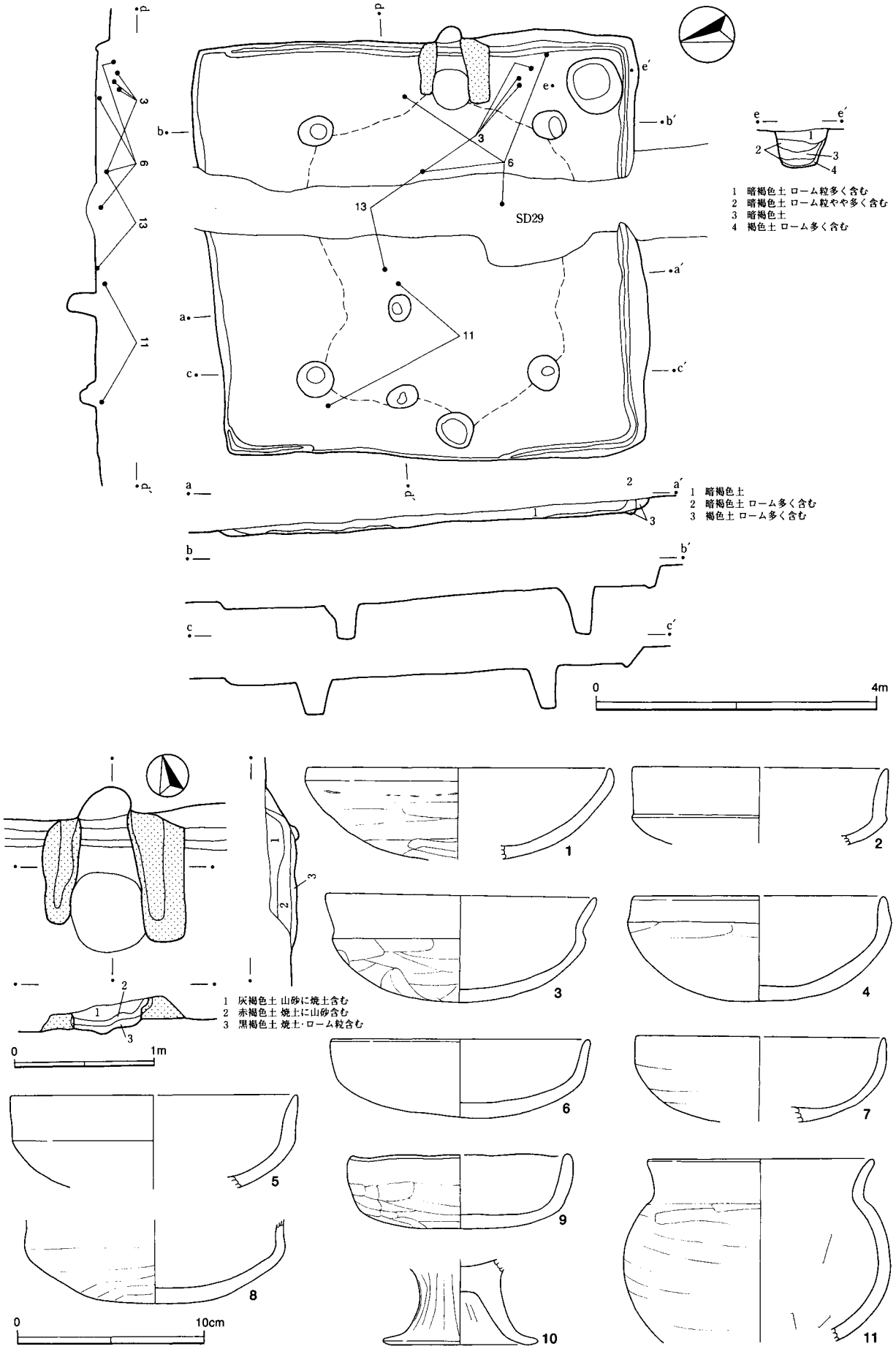


第115図　SI44（1）

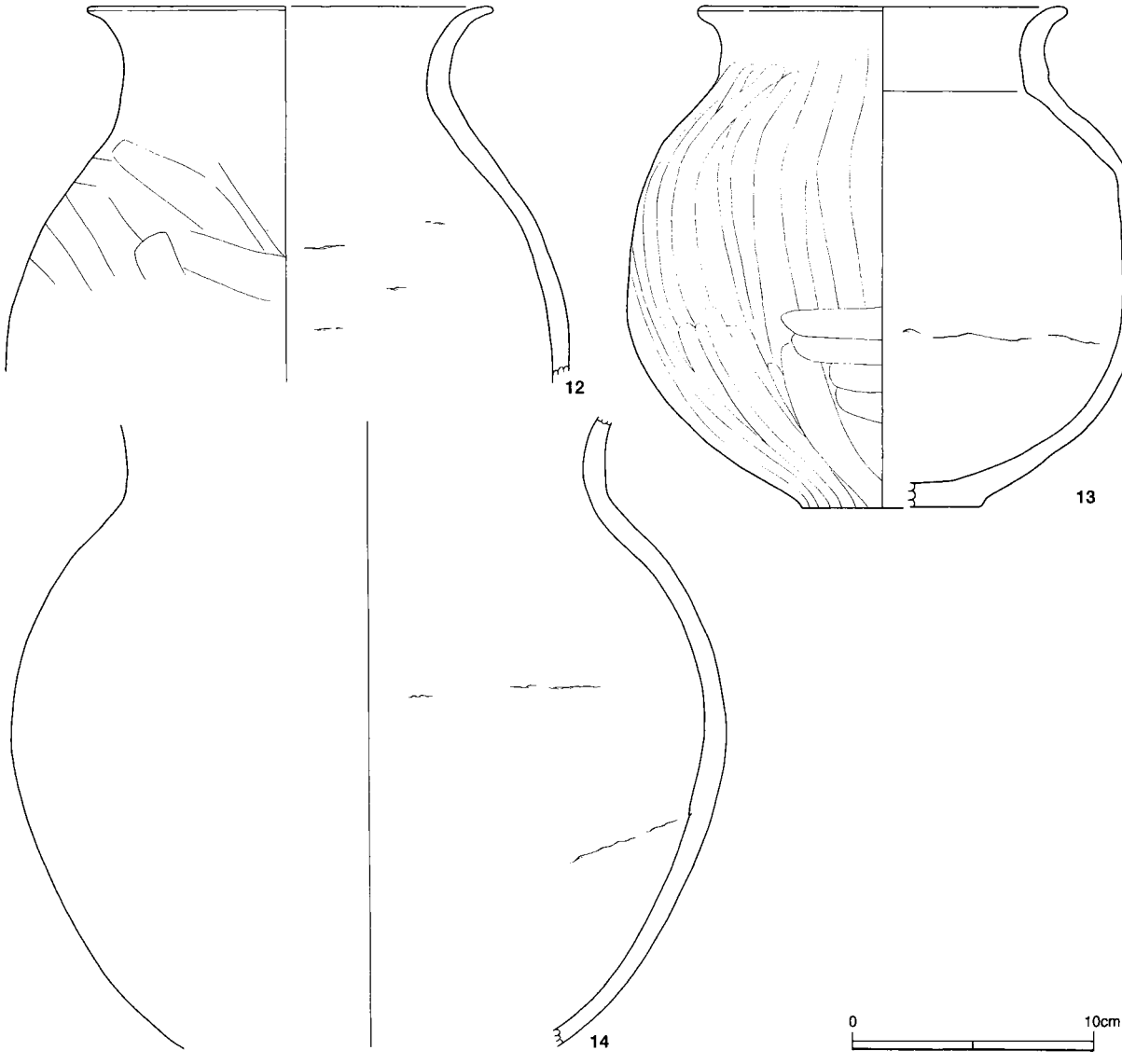


第116図　SI44（2）

SI44（J05）（図版64·78·79）　北にカマド，南に出入り口ピットがある。4本の主柱穴のほかに小ピットがいくつかみられる。壁の遺存のよい部分では壁溝が認められる。床面は全体に凹凸があるが堅緻である。カマドの右脇に甑（9）が潰れていた。甕（8）はその右側の壁際，5はカマドと西壁の中間付近で出土している。そのほかには土師器小片，土玉が出土している。


SD29
1 暗褐色土 ローム粒多く含む
2 暗褐色土 ローム粒やや多く含む
3 暗褐色土
4 褐色土 ローム多く含む
1 暗褐色土
2 暗褐色土 ローム多く含む
3 褐色土 ローム多く含む
0 4m
1 灰褐色土 山砂に焼土含む
2 赤褐色土 焼土に山砂含む
3 黒褐色土 焼土・ローム粒含む
0 1m
0 10cm

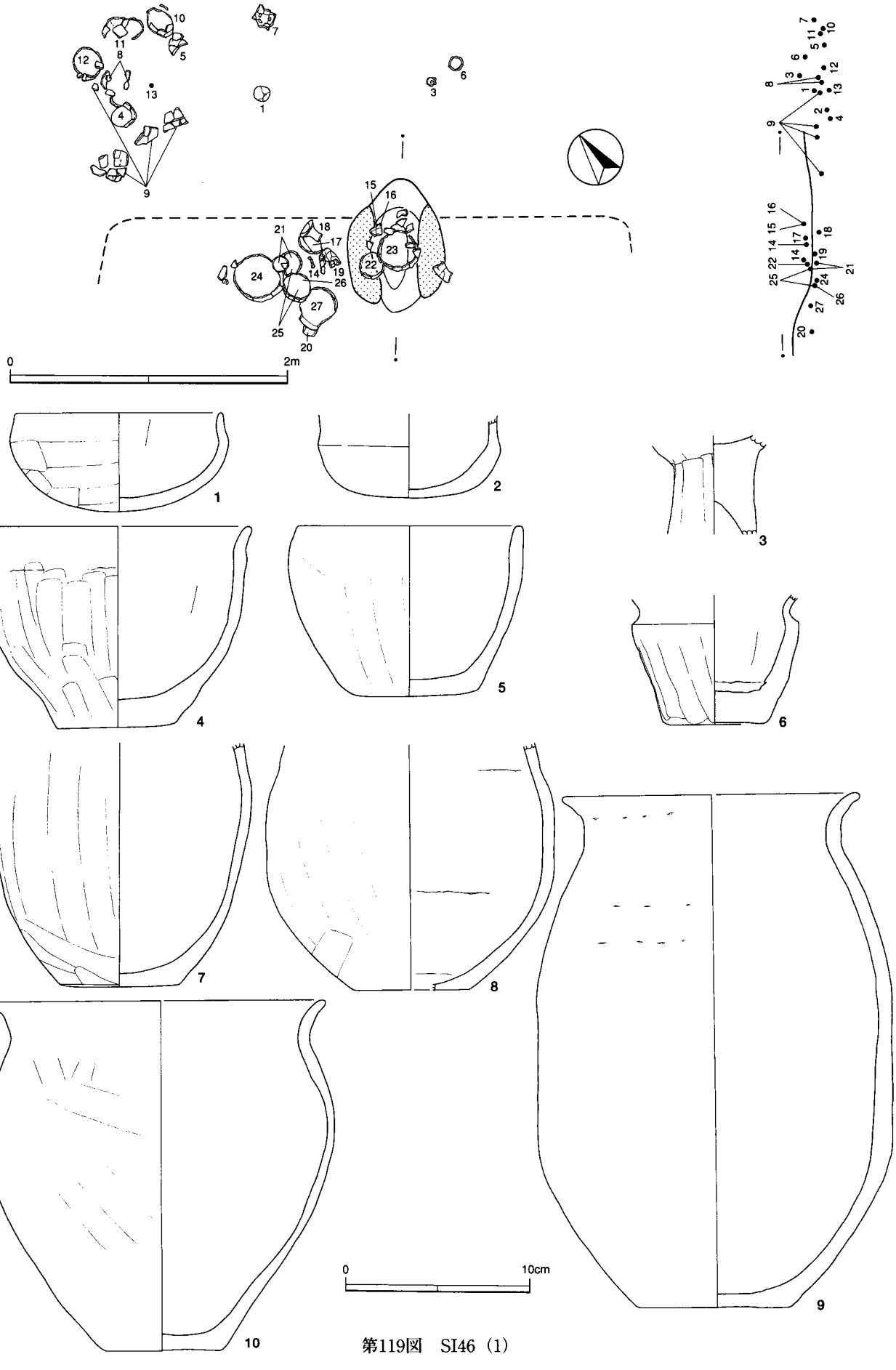
第117図　SI45（1）



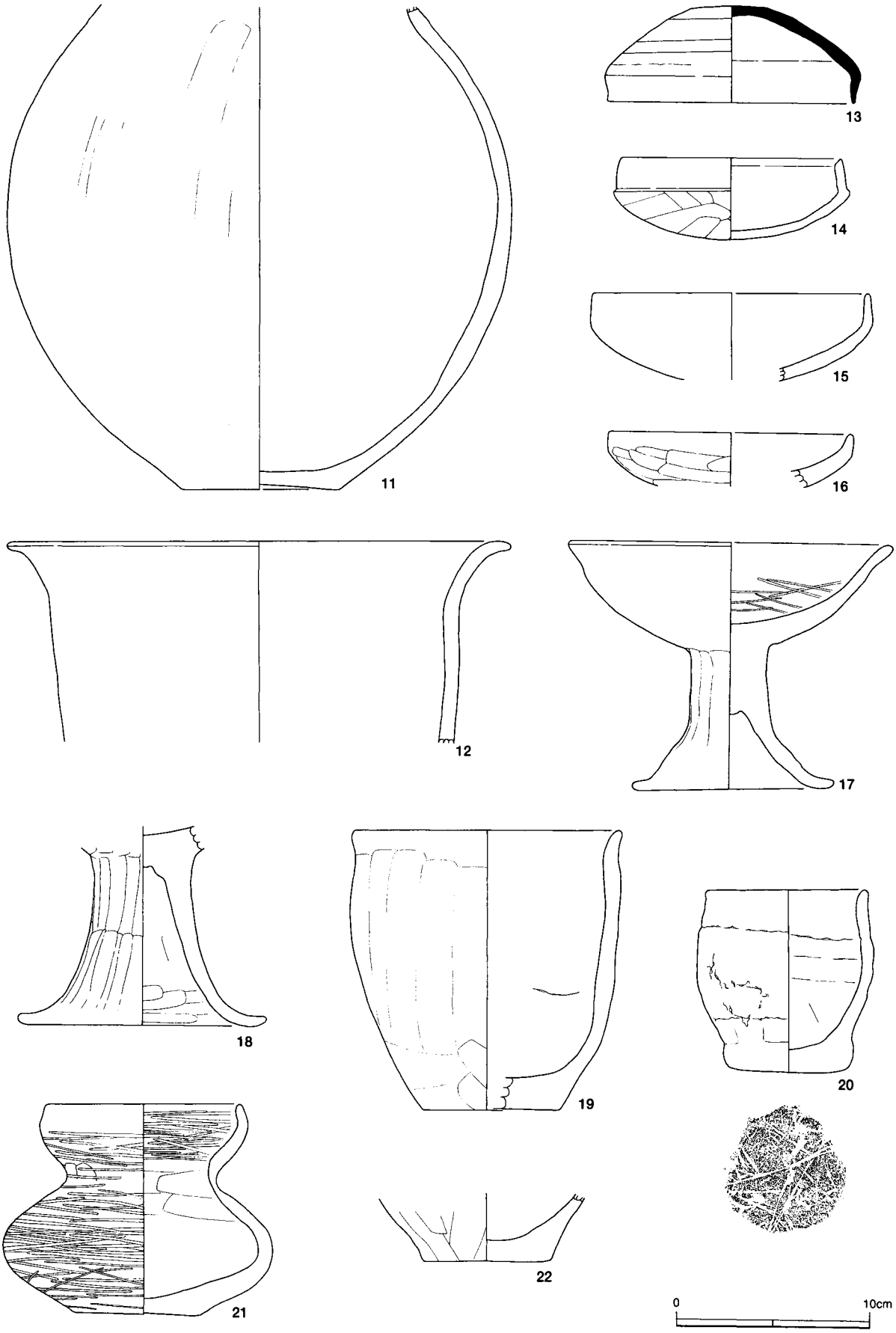
第118図　SI45（2）

SI45（J07）（図版65･79）　東にカマド，西に出入り口ピットがある。出入り口ピットは2つ合わせて機能していた可能性がある。4本の主柱と出入り口を結ぶ範囲内は踏みしめられている。北側は床面を若干掘りぬいている可能性が高く，壁溝は切れている。カマドの位置は中央より若干南に寄っており，南東隅に貯蔵穴をもつ。土師器甕4点，杯9点，高杯1点，スラグ1点（11g）が出土している。比較的遺存の良い3・6・13も含めて覆土中でまとまりなく出土したものである。

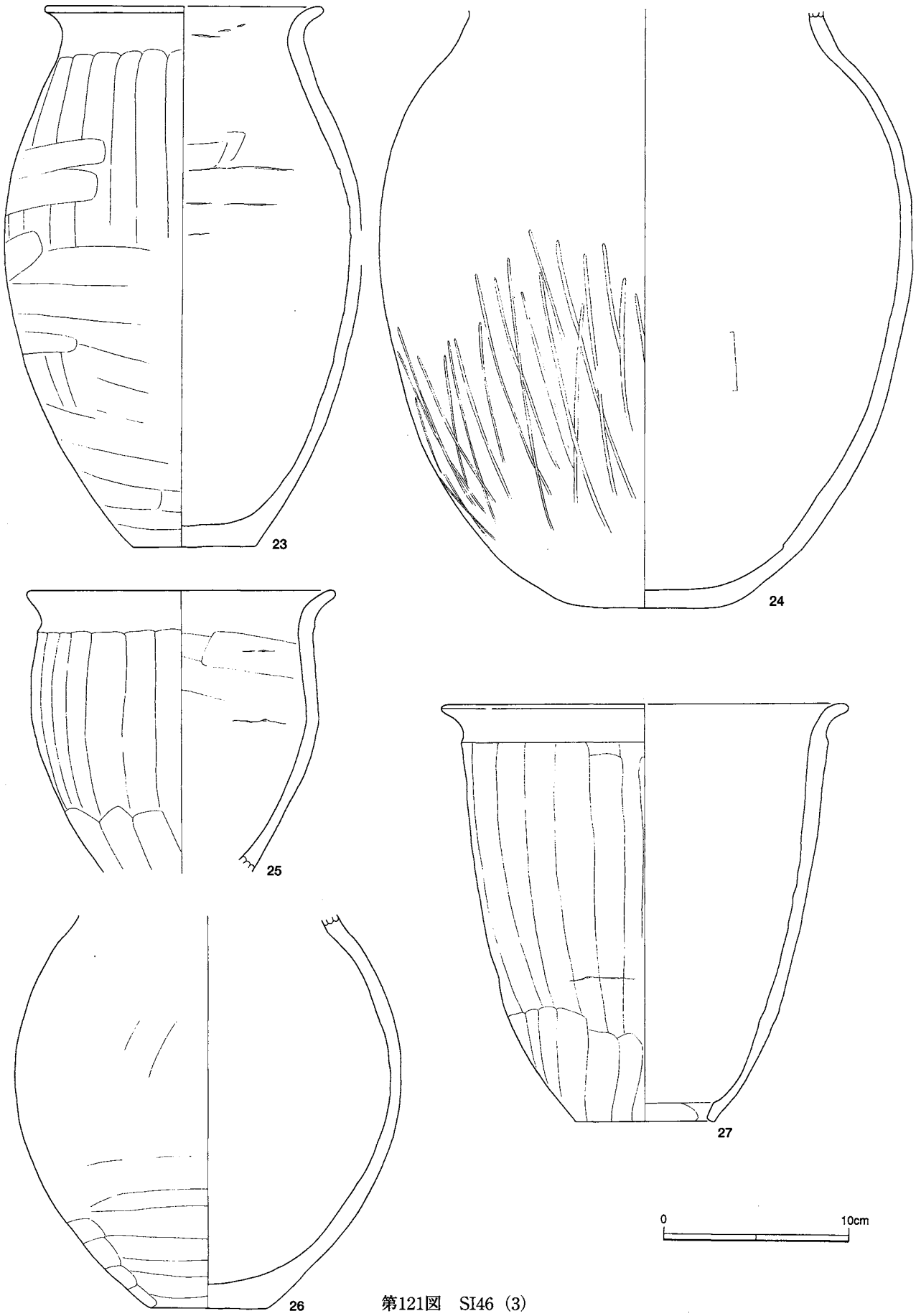
SI46（J08）（図版80･81）　竪穴住居跡のカマド付近が辛うじて遺存したものであろう。出土遺物は極めて多く，正立したものも多い。ただし，カマドから推定される住居跡の輪郭からはみ出すものもあって2つの遺構が重複していることは明らかである。掲載遺物をみると時期はごく近接しているらしく,両者に完形土器や正立状態の土器があって，区分は簡単ではない。とりあえず遺構推定ラインの内外で分けて並べた。1～14が外側，15～27が内側の土器である。杯や小型土器は遺存率の高いものが多い。甕・甑は確認面以上が失われて遺存率が低いが，正立するものが多いので,完形品がいくつも遺棄された可能性が高い。



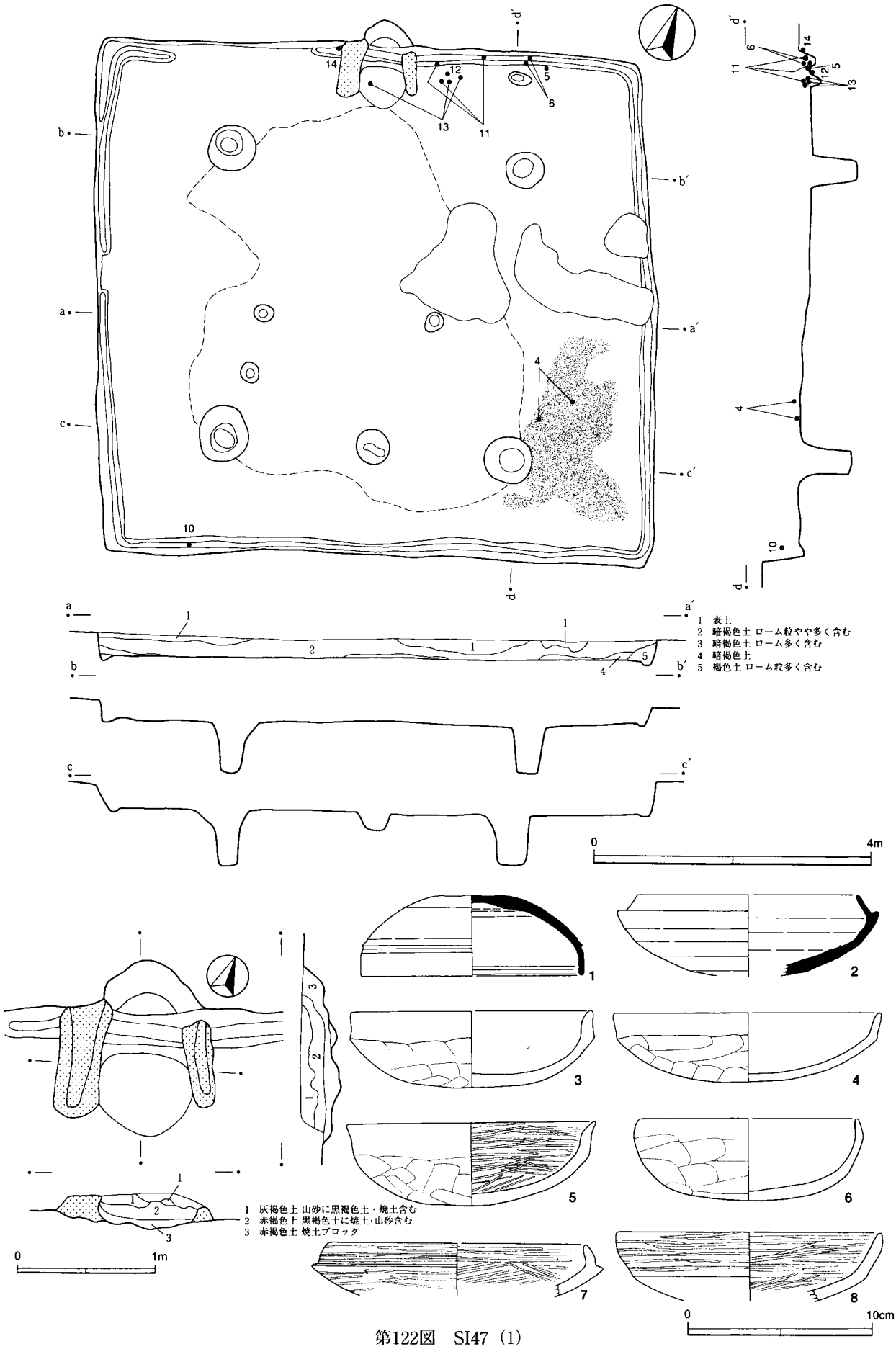
第119図　SI46（1）



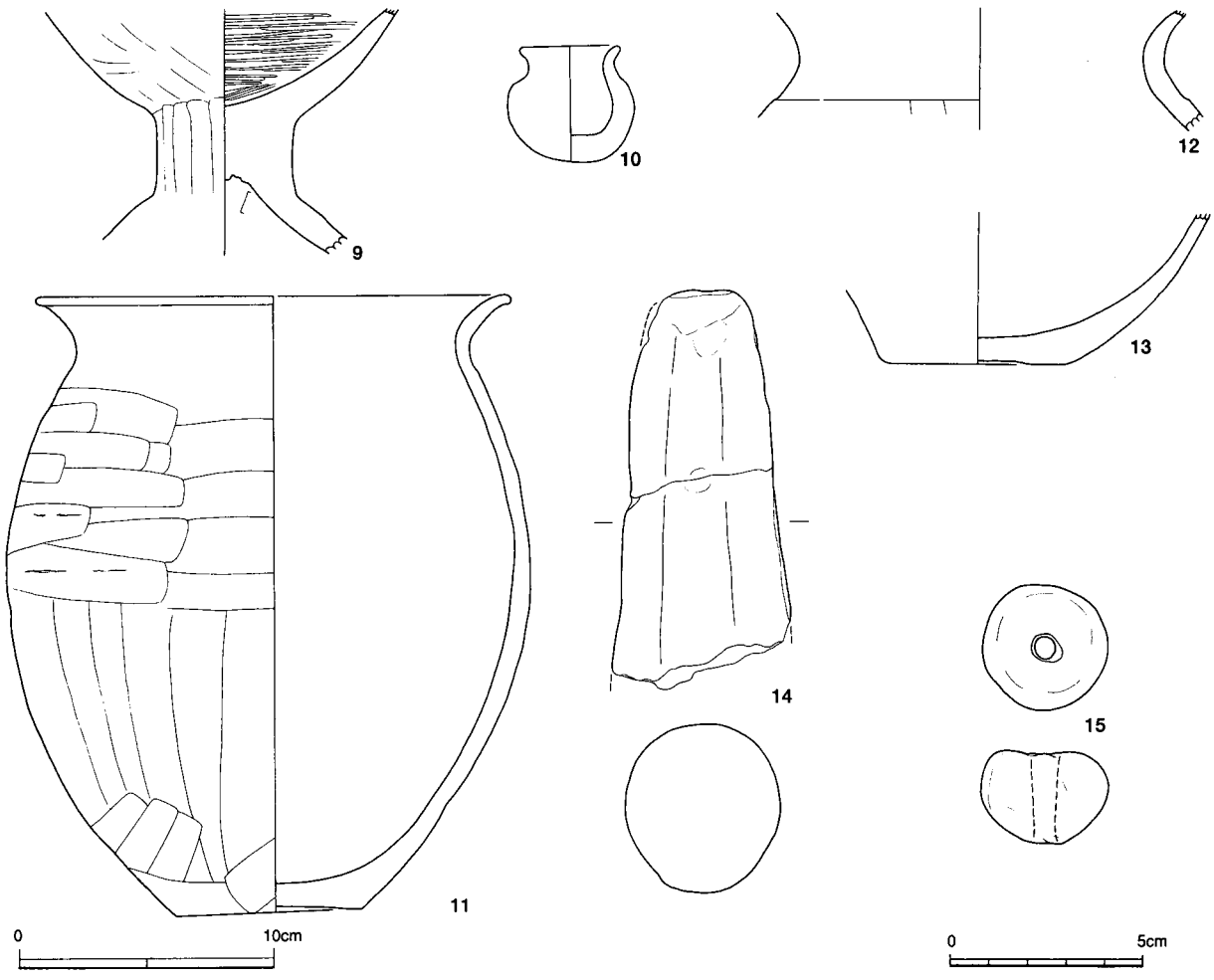
第120図　SI46（2）



第121図　SI46（3）


1 表土
2 暗褐色土 ローム粒やや多く含む
3 暗褐色土 ローム多く含む
4 暗褐色土
5 褐色土 ローム粒多く含む
0 4m
1 灰褐色土 山砂に黒褐色土・焼土含む
2 赤褐色土 黒褐色土に焼土・山砂含む
3 赤褐色土 焼土ブロック
0 1m
0 10cm

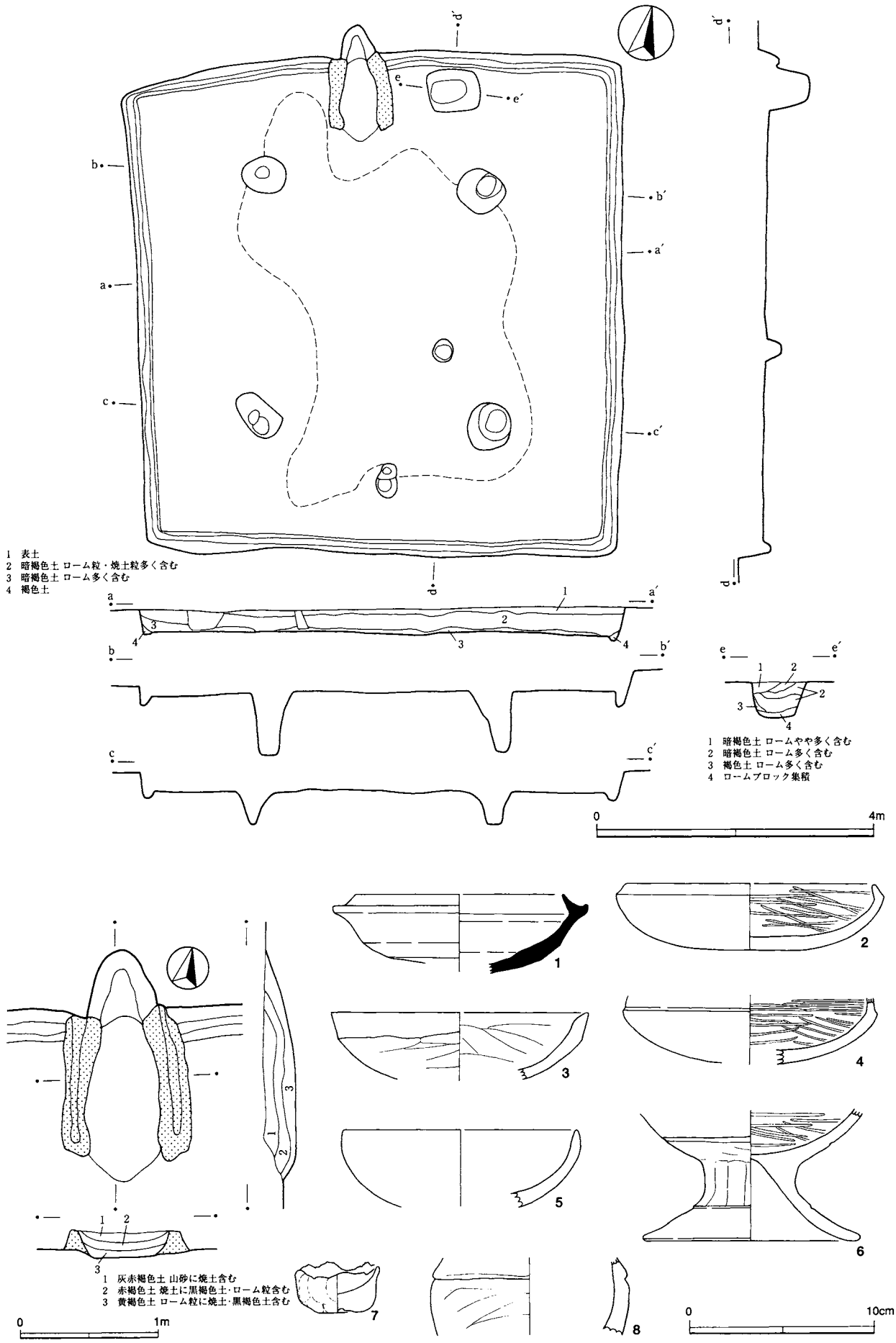
第122図　SI47（1）



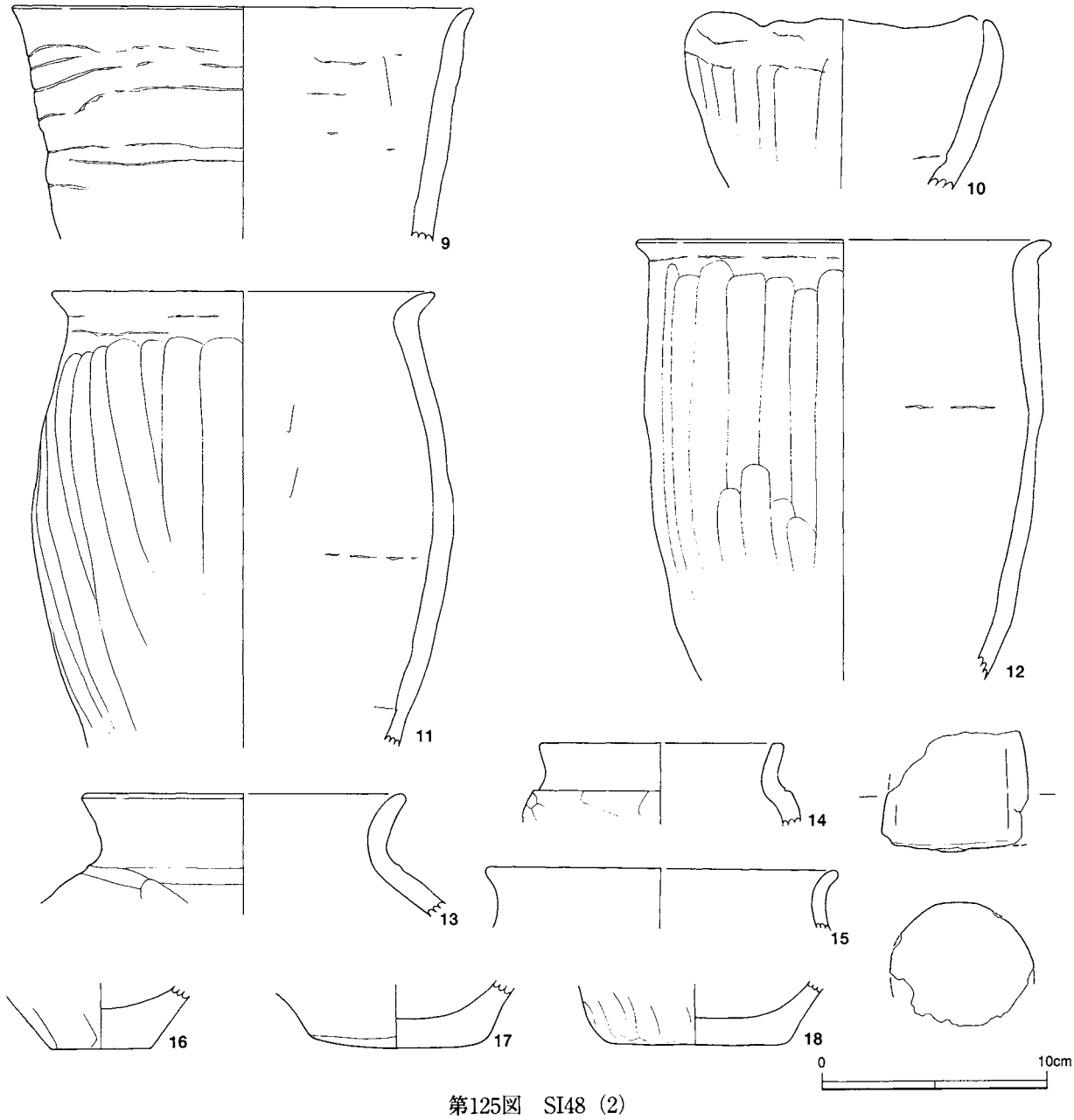
第123図　SI47（2）

SI47（J09）（図版65･81･82）　北壁中央にカマドをもつほぼ正方形の住居跡である。主柱穴は4本あり，深さはみな80cmほどで揃っている。出入り口施設は，南側中央の浅いピットが候補となる。壁からかなり離れているが，底面が斜めに2か所窪む例は他にもみられる。4主柱間の空間から若干南北にはみ出した硬化面の範囲も，南北軸を支持する。このほかにごく小さいピットが4基ある。2基は中央付近で東西対称の位置にある。壁溝はほぼ全周する。南東隅付近には焼土があり，a断面の4層（暗褐色土）に焼土が混じっていたらしい。土師器甕3点，杯6点，高杯，手捏ね土器，須恵器杯，蓋のほか，支脚，土玉，スラグ3点（27g），炉壁?が出土している。残りの良い土器は5・6・11をはじめとしてカマドの右脇にまとまっていた。貯蔵穴をもたないが，食器を置く空間であったろう。甕または壷型の手捏ね土器（10）は南壁際，支脚（14）はカマド左脇から出土した。4も残りが良く，南東隅の焼土付近で出土している。

SI48（J10）（図版65･82）　若干南北に長い方形の住居跡である。北側にカマド，その右脇に貯蔵穴，南側に出入り口ピットを配す。4本の主柱穴は掘りかたの上部が広がっており,柱を抜き取った可能性がある。他に1基の小ピットがある。床面中央部は踏みしめられている。壁溝は全周する。カマドは袖が長い。出入り口ピットの左脇と，北東の主柱の右脇床面には白色粘土が堆積していた。土師器甕9点，杯5点，高杯，甑，手捏ね土器，須恵器杯のほか，支脚，粘土塊，スラグ2点（18g）が出土している。小片がほとんどで，完形に近いものはなく，覆土中に廃棄されたものが多いであろう。


1 表土
2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒多く含む
3 暗褐色土 ローム多く含む
4 褐色土
1 暗褐色土 ロームやや多く含む
2 暗褐色土 ローム多く含む
3 褐色土 ローム多く含む
4 ロームブロック集積
1 灰赤褐色土 山砂に焼土含む
2 赤褐色土 焼土に黒褐色土・ローム粒含む
3 黄褐色土 ローム粒に焼土・黒褐色土含む
0 4m
0 1m
0 10cm

第124図　SI48（1）

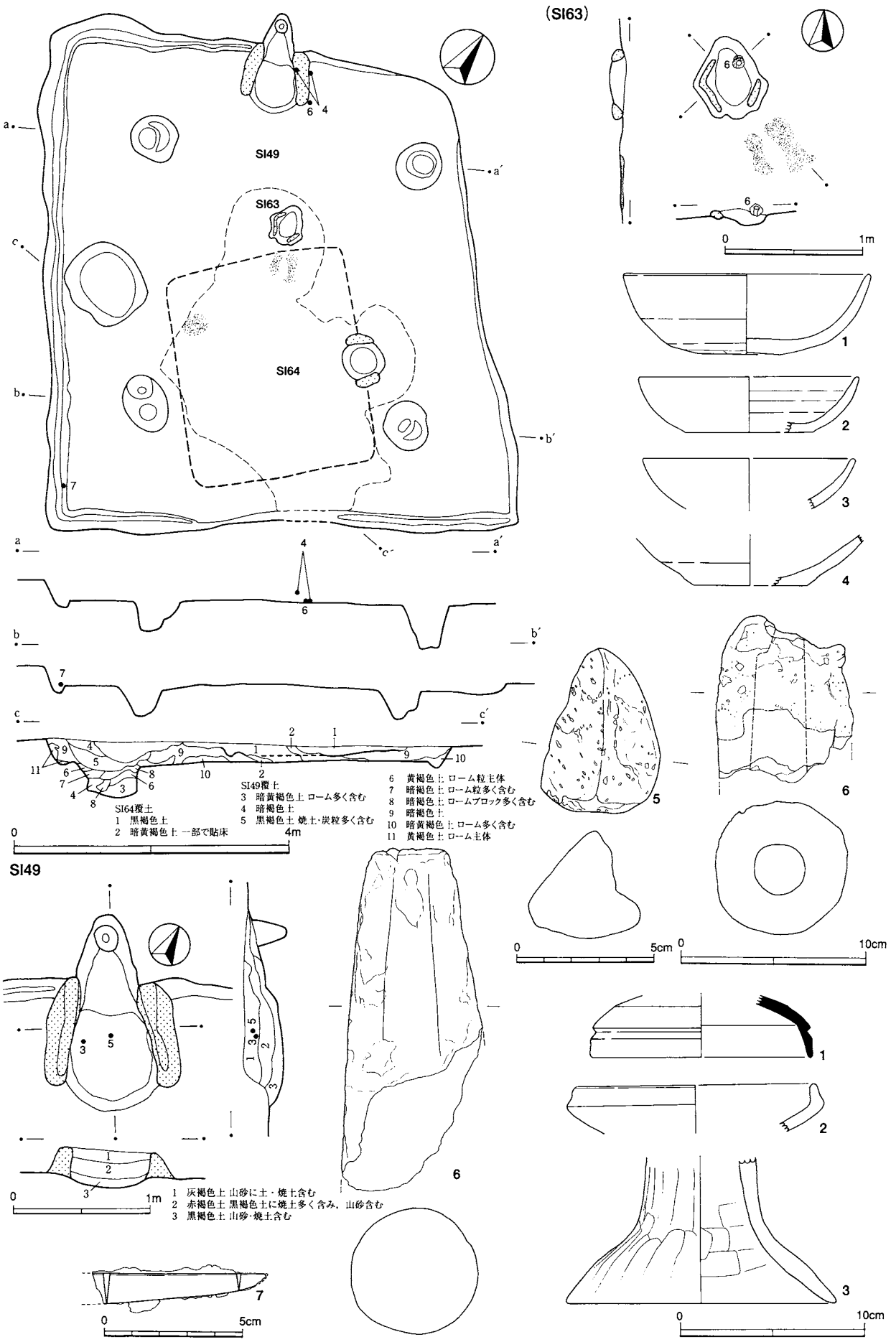


第125図　SI48（2）

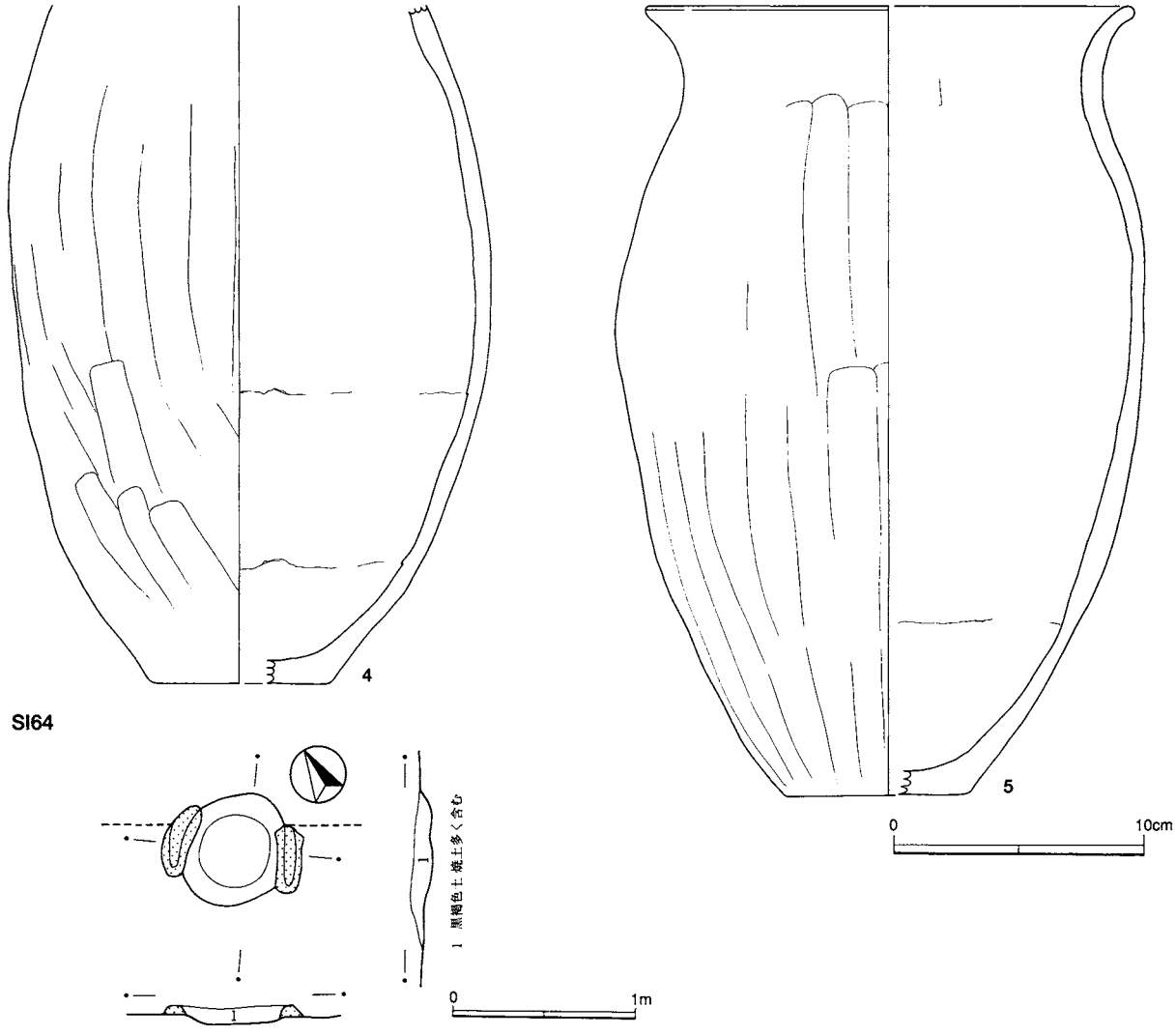
SI49（J12）（図版66·82·83）　3軒の住居跡が重複している。当住居跡を掘り下げている際にSI63・SI64のカマドを検出したものであるが，いずれも当住居より新しい。奈良·平安時代の方に記載する。

SI49は北にカマド，4本の主柱穴，壁溝をもつ住居跡である。硬化面はSI63のものと区別がつかないが，推定されるSI63のプランより南側に伸びているのは，当住居跡の出入り口付近の硬化を示す可能性がある。東壁は不整形である。本来の壁を検出できていないと思われる。土師器片（甕2点・杯5点・高杯），須恵器蓋，支脚，刀子，支脚，スラグ2点（19g）が出土している。3・5はカマドの覆土，4は右脇，支脚は左脇で出土している。

SI50（J14）（図版66·67·83·84）　SI51を切っている。北にカマド，その右脇に貯蔵穴をもつ。柱穴は4本の主柱穴のほかに，中央のP5，出入り口施設とみられるP6・P7などがある。P5は径が小さく深い穴であり，ちょうど中央にあるので住居跡に伴う施設と考えられる。踏みしめ硬化面は出入り口からカマド付近にまで形成している。壁溝は全周する。P1の右側の浅い掘り込みは貼床でふさがれていた。SI51のカマド



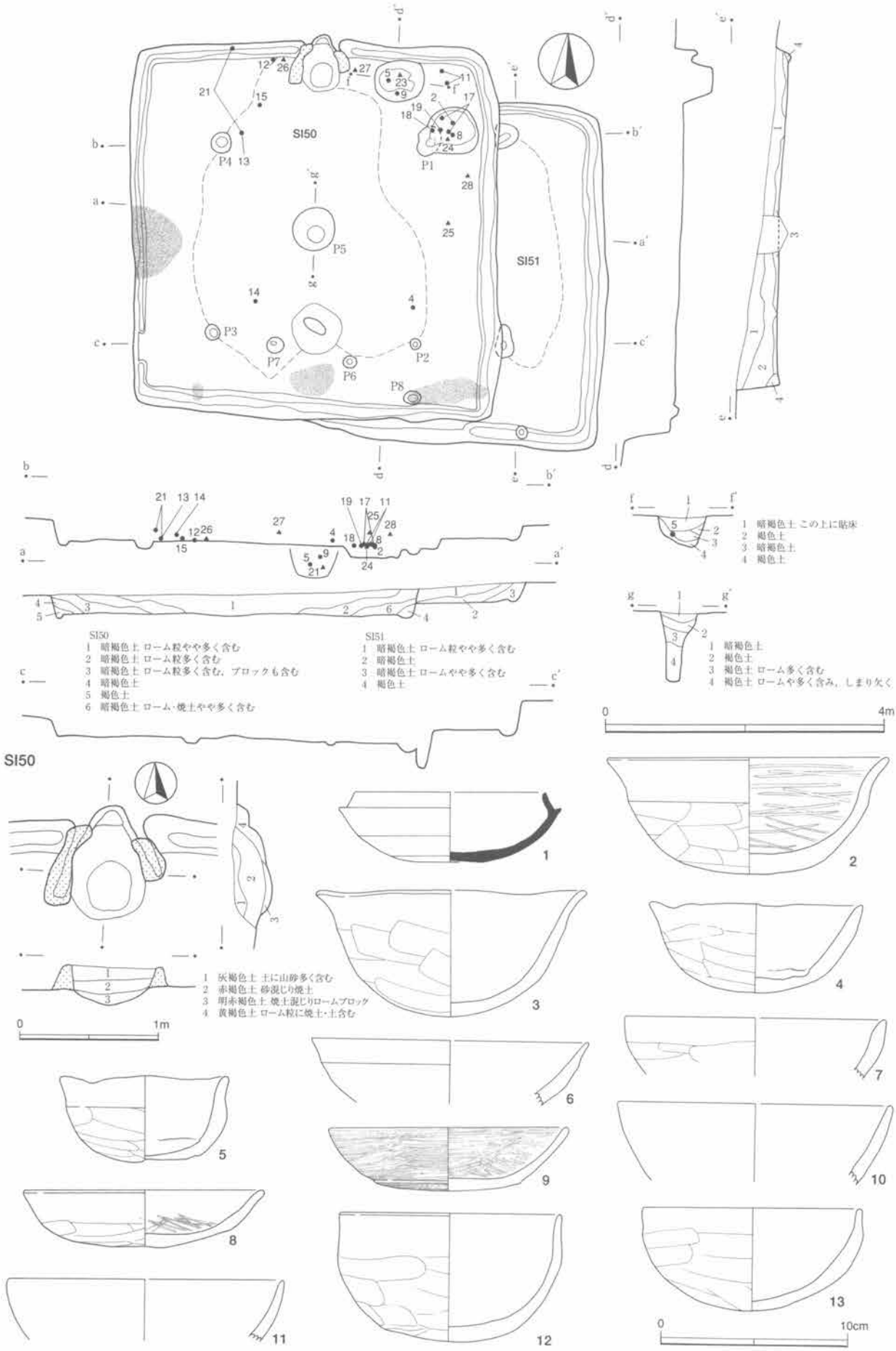
第126図　SI49・63・64（1）



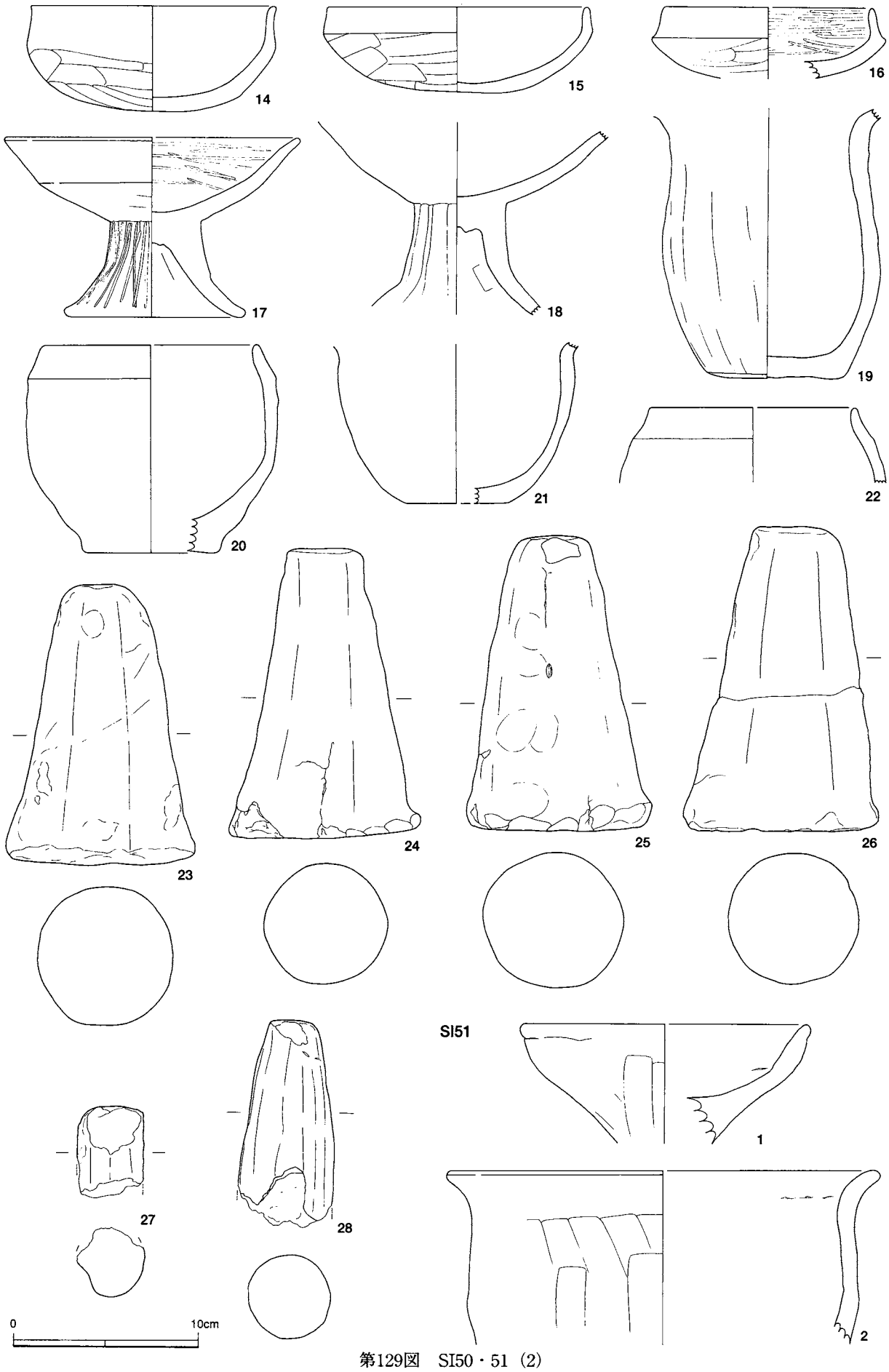
第127図　SI49・63・64（2）

の痕跡であろう。壁際には部分的に焼土がみられる。土師器甕，杯14点，高杯，鉢3点，小型甕，須恵器杯，支脚6点が出土している。完形またはそれに近い土器が多く，2・8・17～19はP1付近の床面，5・9は貯蔵穴，12・15はカマド左脇付近で出土している。23～26はほぼ同一規格で作られた支脚である。下部径10cm，上部径4cm，高さ15～16cmある。焼成状態はきわめて悪く，色調は素地粘土の色そのものに近く，おそらく生焼けの状態である。支脚といえば赤っぽくよく焼けたもの，繰り返し火を受けて脆くなったものが想起されるが，これらは二次焼成によるもので，製作時にはそれほど焼かないのかもしれない。おそらく未使用で保管されていたものが，何らかの理由で廃棄されたものであろう。底面は未調整でモミ痕が多数付いている。側面はナデ調整されているが，25にはモミ痕が残っている。出土位置は，23が貯蔵穴中，26はカマド左脇など，かなりばらついている。一方，二次焼成を受けたものでは27がカマド右脇の覆土上層で出土している。なお，P1付近の土器はすべて床面より上のレベルで出土しており，当住居跡に伴う。

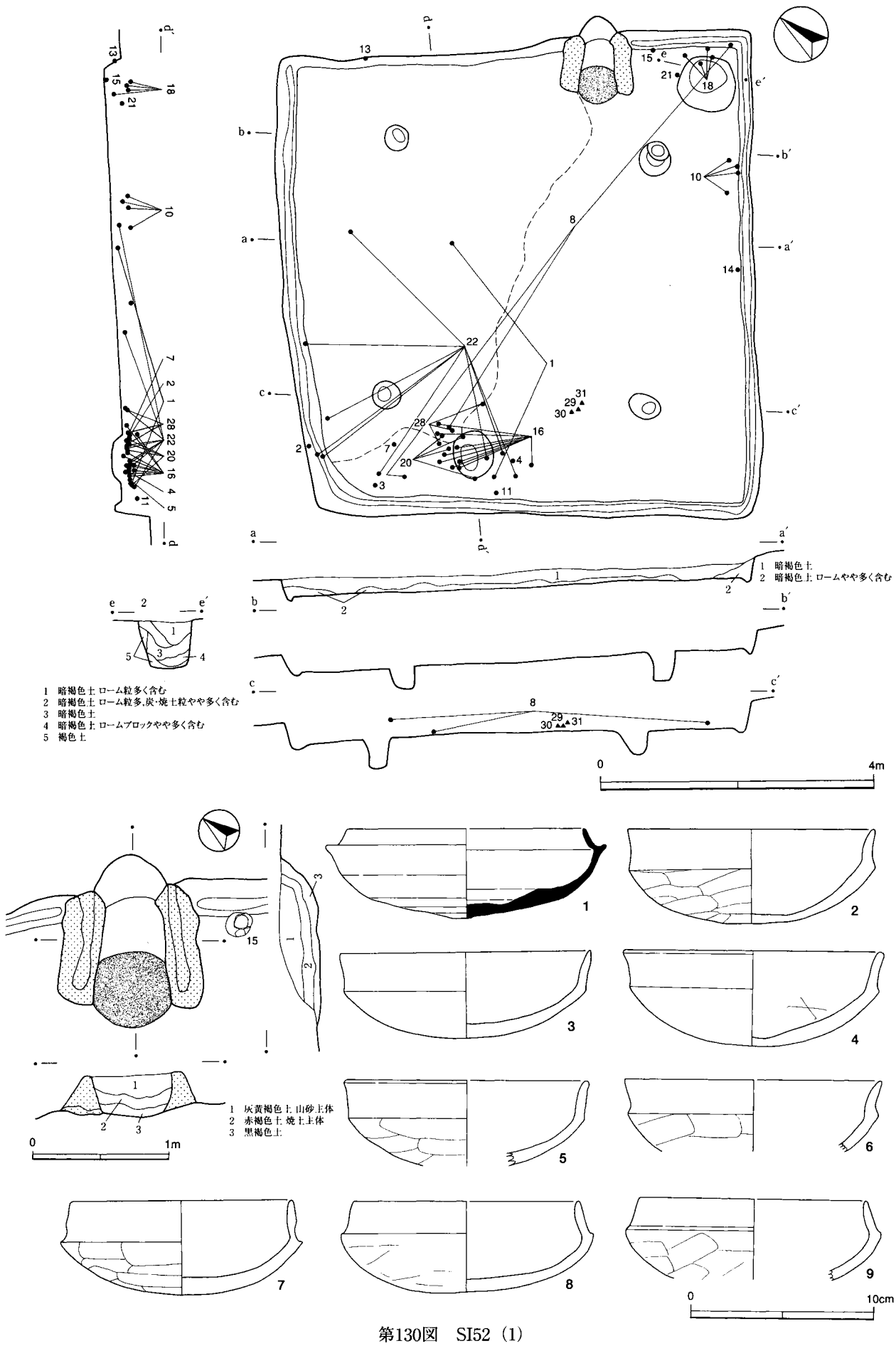
SI51（J15）（図版67・84）　SI50に切られる。2本の柱穴と硬化面，壁溝がみられる。SI50のP1に切られた窪みは当住居のカマドの痕跡であろうが詳しい構造は復元できない。土師器甕，高杯が出土している。



第128図　SI50・51（1）

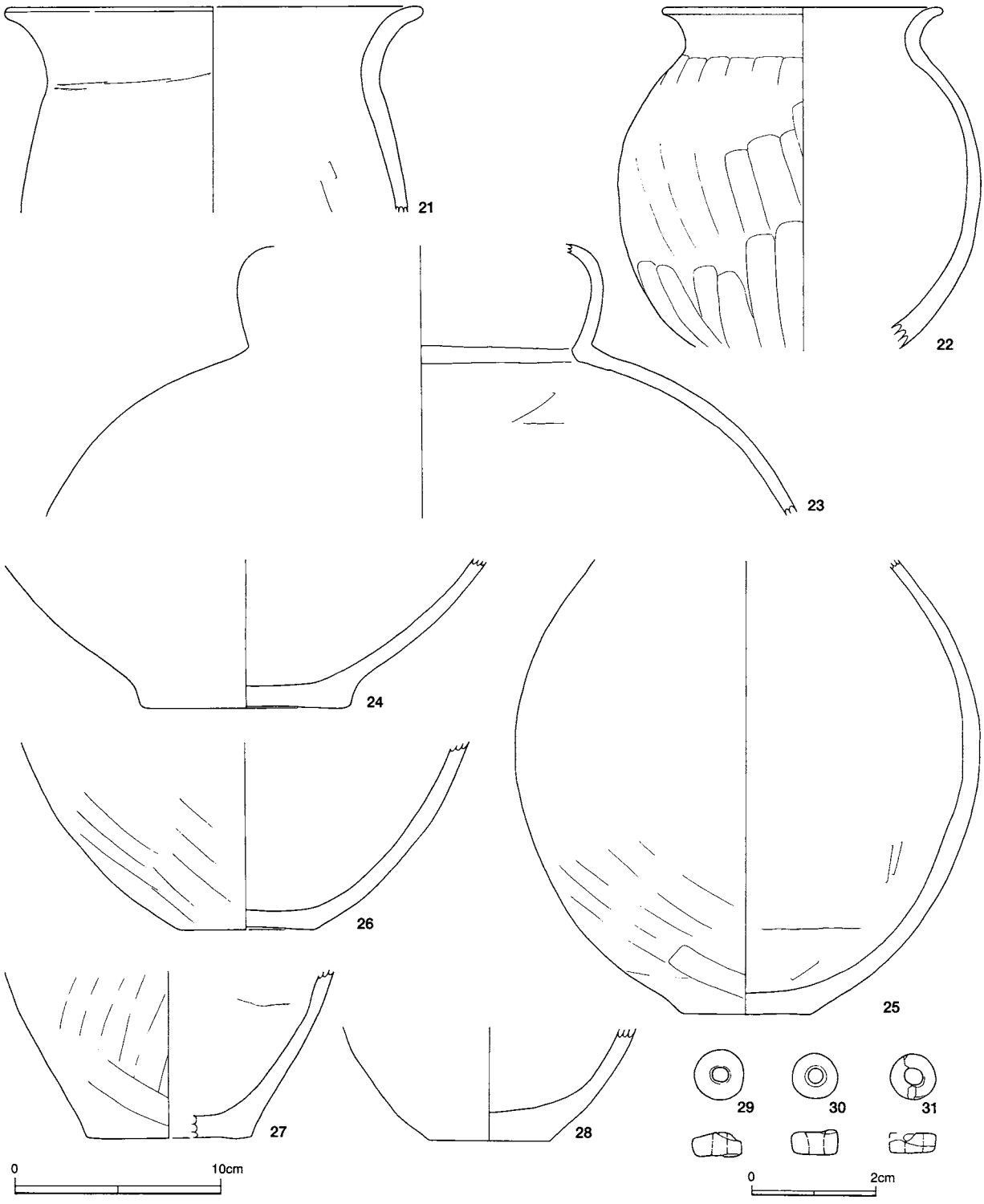


第129図　SI50・51（2）


1 暗褐色土
2 暗褐色土 ローム粒多く含む
3 暗褐色土
4 暗褐色土 ロームブロックやや多く含む
5 褐色土
1 暗褐色土
2 暗褐色土 ロームやや多く含む
0 4m
1 灰黄褐色土 山砂土体
2 赤褐色土 焼土土体
3 黒褐色土
0 1m
0 10cm

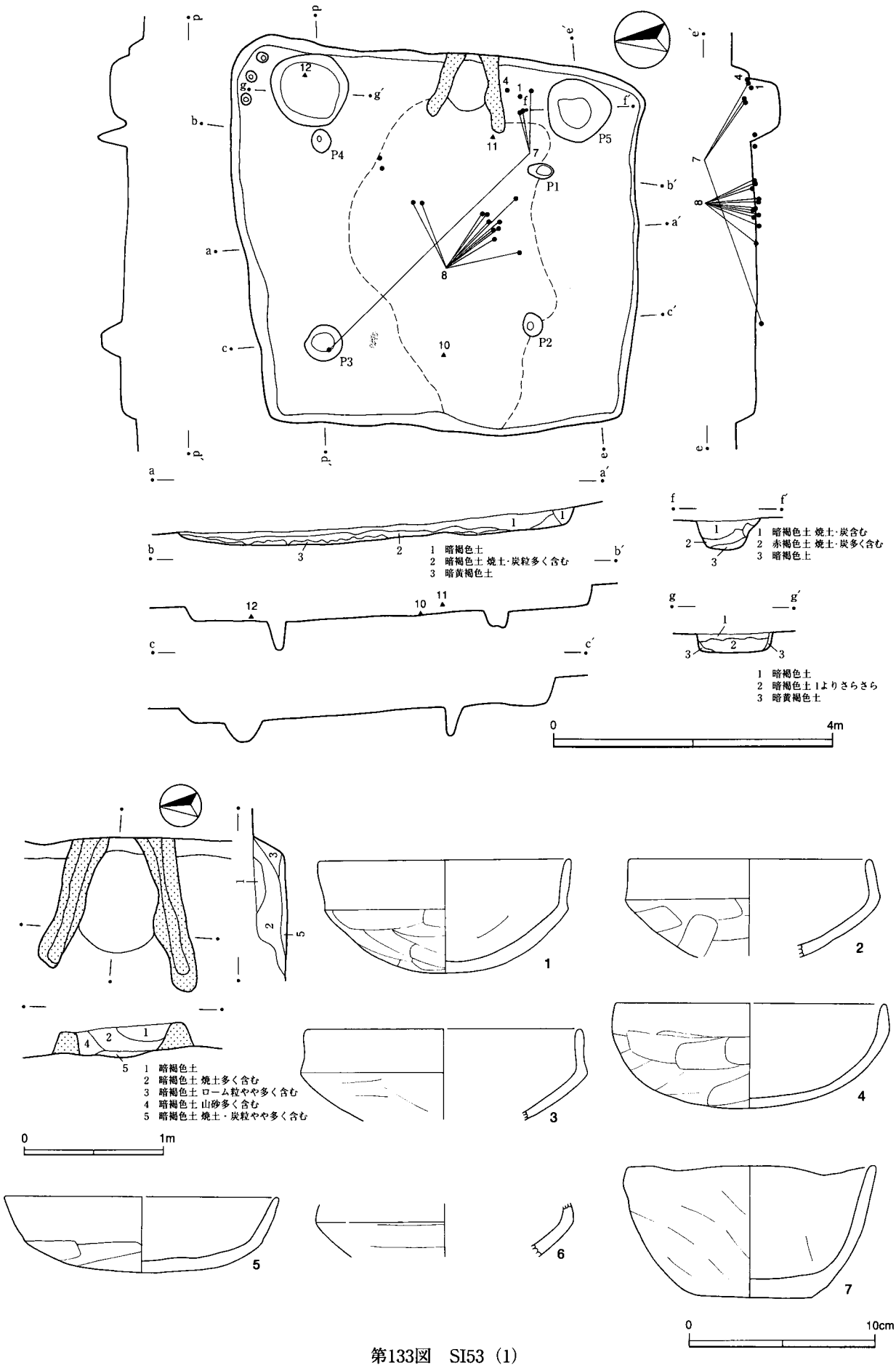
第130図　SI52（1）

第131図　SI52（2）

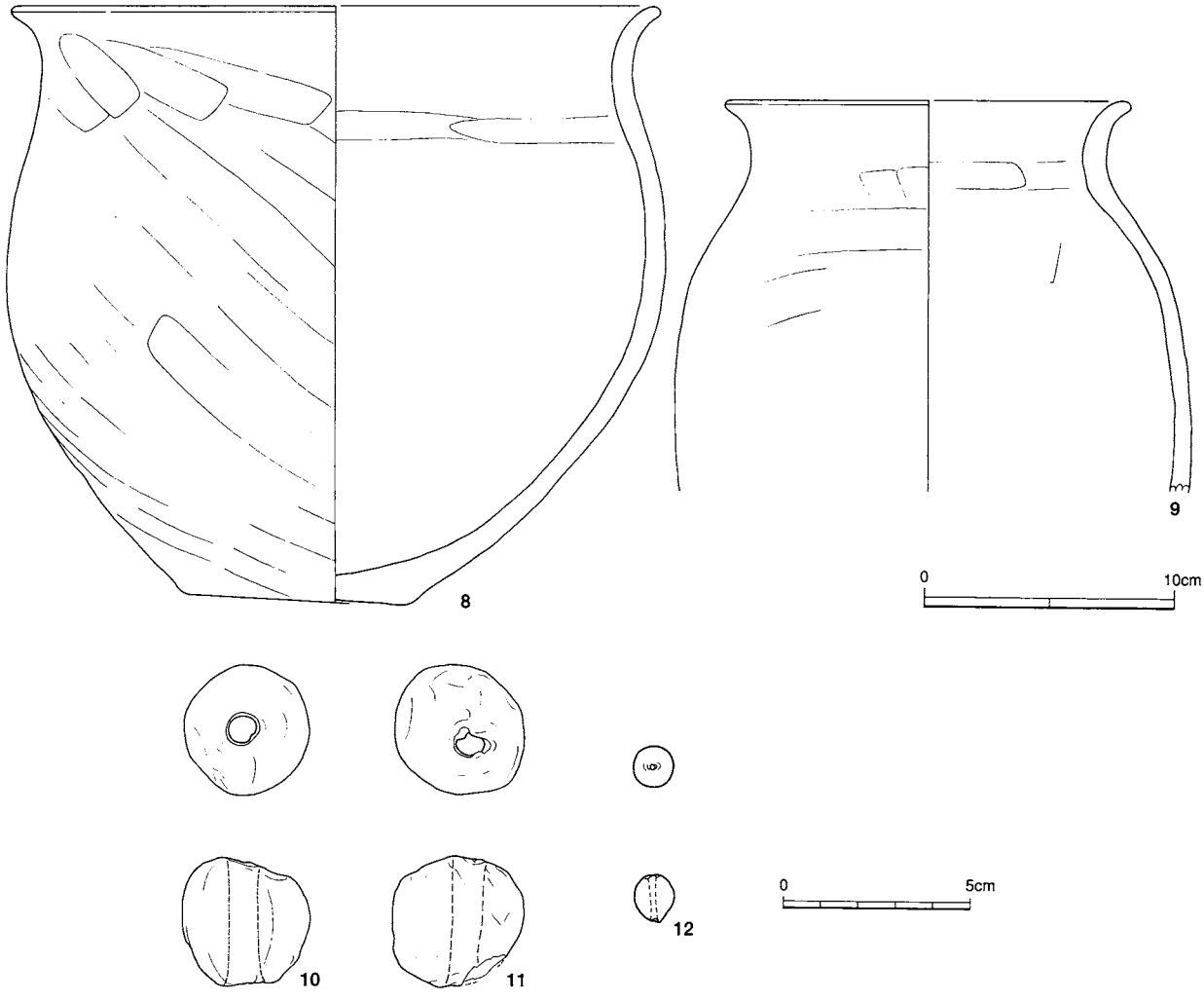


第132図　SI52（3）

SI52（J16）（図版67･84･85）　ほぼ正方形の住居跡である。東壁の南寄りにカマド,南東隅に貯蔵穴，出入り口は南壁に設けられた可能性が高いが，証左は得られなかった。破線より南半分は，硬化面というより床の遺存した範囲である。土師器甕14点，杯11点，高杯，鉢，小型壷，甕。小玉３点，土製小玉，土玉２点と多くの掲載遺物がある。15は焼成前に胴部上半に窓を開けた甕である。カマド右脇で，窓を住居の中心側に向け，正立した状態で出土した。18・21は小片である。ミニチュア土器（13）は北壁で，10と14


P1
P2
P3
P4
P5
1 暗褐色土
2 暗褐色土 焼土・炭粒多く含む
3 暗黄褐色土
1 暗褐色土 焼土・炭含む
2 赤褐色土 焼土・炭多く含む
3 暗褐色土
1 暗褐色土
2 暗褐色土 1よりさらさら
3 暗黄褐色土
0 4m
1 暗褐色土
2 暗褐色土 焼土多く含む
3 暗褐色土 ローム粒やや多く含む
4 暗褐色土 山砂多く含む
5 暗褐色土 焼土・炭粒やや多く含む
0 1m
0 10cm

第133図　SI53（1）

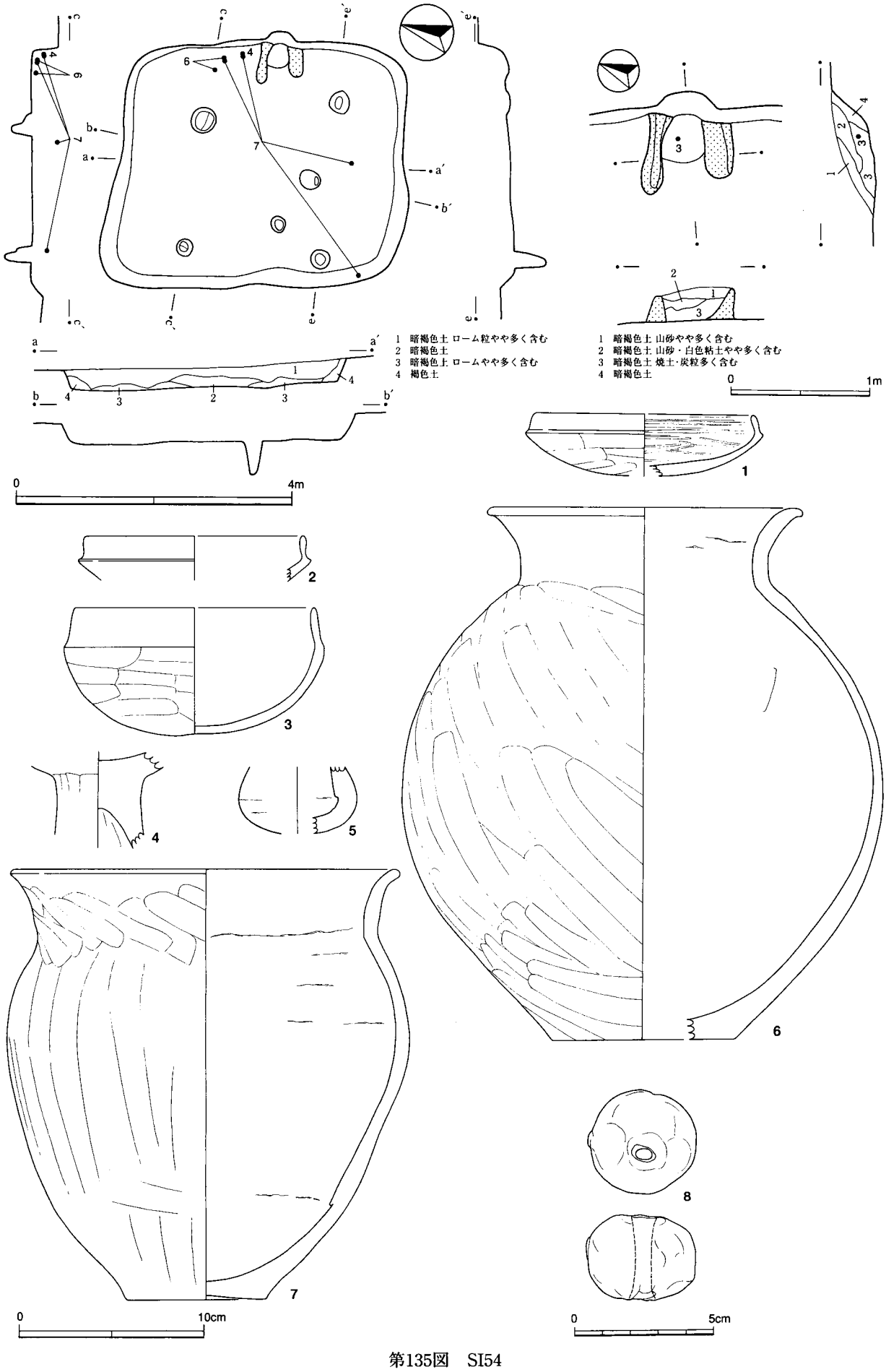


第134図　SI53（2）

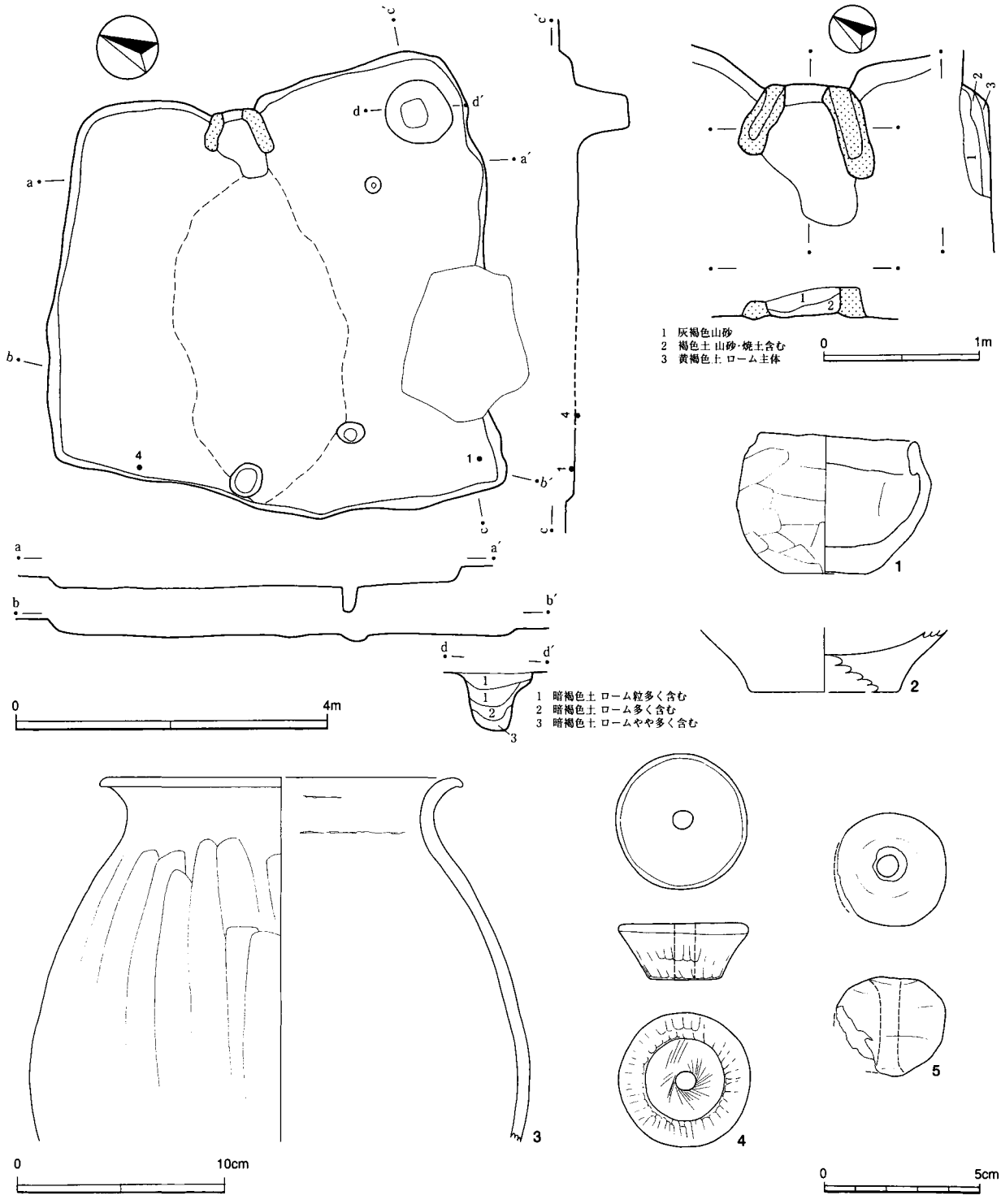
は東壁で出土した。これらを除いた大半は出入り口付近にまとまっている。1～4・7・11は残りが良い。小玉（または臼玉）3点もまとまって出土している。

SI53（J18）（図版68･85）　床硬化面の状態から，西側に出入り口，東側にカマドをもつ住居であろう。主柱穴は4本あり，ほかに北東隅に小穴をもつ。北半は床面の遺存状態が悪く，掘りすぎているため，床面は大きく傾斜している。北東隅は小ピットが壁溝内のものであったとすると掘りかた全体の形状がそれほど歪でなくなる。カマドは袖が長くかなり開く。土師器甕2点，杯14点，高台付杯，台付杯2，鉢，スラグ1点（11g）が出土している。残りが良いものでは，1・4・7がカマド右脇で，8は住居の中央床面で潰れて出土した。なお，当住居内では平安時代の土器も多数取り上げられている。本来存在した平安時代の遺構を検出できなかった可能性が高い。土器は明らかに当住居に伴うものではないため，遺構外出土土器（第156図12・13・16・20～22・24～28）に示した。スラグも平安時代の可能性を考慮すべきであろう。

SI54（J22）（図版68･85･86）　古墳時代後期としては小型の住居跡である。隅は丸みが強い。4本の主柱穴構造とみられるが，南側の主柱穴2本は壁に近接しており，南東の1本はごく浅いものであった。床面は平坦であるが，全体に軟弱で，壁溝は検出されなかった。カマドは袖の構築材が壁についていない。土師器甕2点，杯3点，高杯，手捏ね土器，土玉が出土している。残りのよい3はカマド内，6・7はカ


1 暗褐色土 ローム粒やや多く含む
2 暗褐色土
3 暗褐色土 ロームやや多く含む
4 褐色土
1 暗褐色土 山砂やや多く含む
2 暗褐色土 山砂・白色粘土やや多く含む
3 暗褐色土 焼土・炭粒多く含む
4 暗褐色土
0 4m
0 1m
0 10cm
0 5cm

第135図　SI54

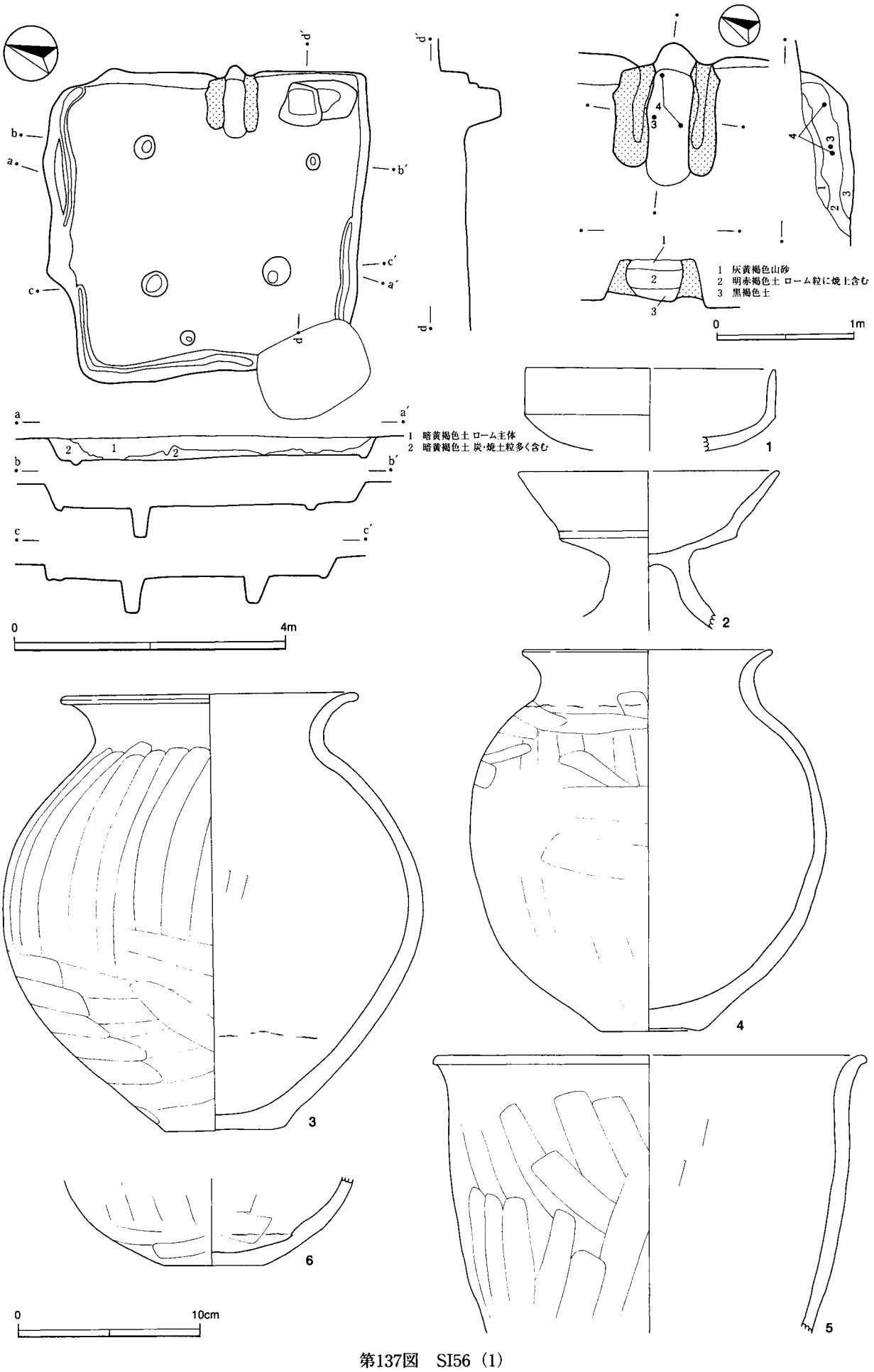


第136図　SI55

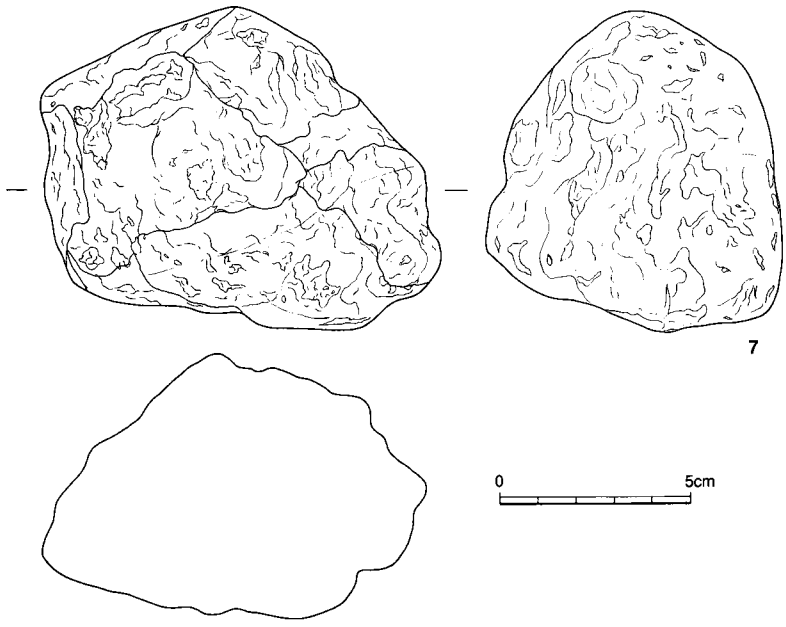
マド左脇を中心に出土している。7は覆土中の破片と接合している。

SI55（J23）（図版69・86）　浅く，攪乱が多いため遺存が悪い。西側に出入り口，東にカマドを配した住居跡である。貯蔵穴と出入り口ピットをもつが，深い柱穴は南東側の1本だけである。土師器甕2点，小型土器，紡錘車，土玉が出土している。小型土器は南西隅から出土した。

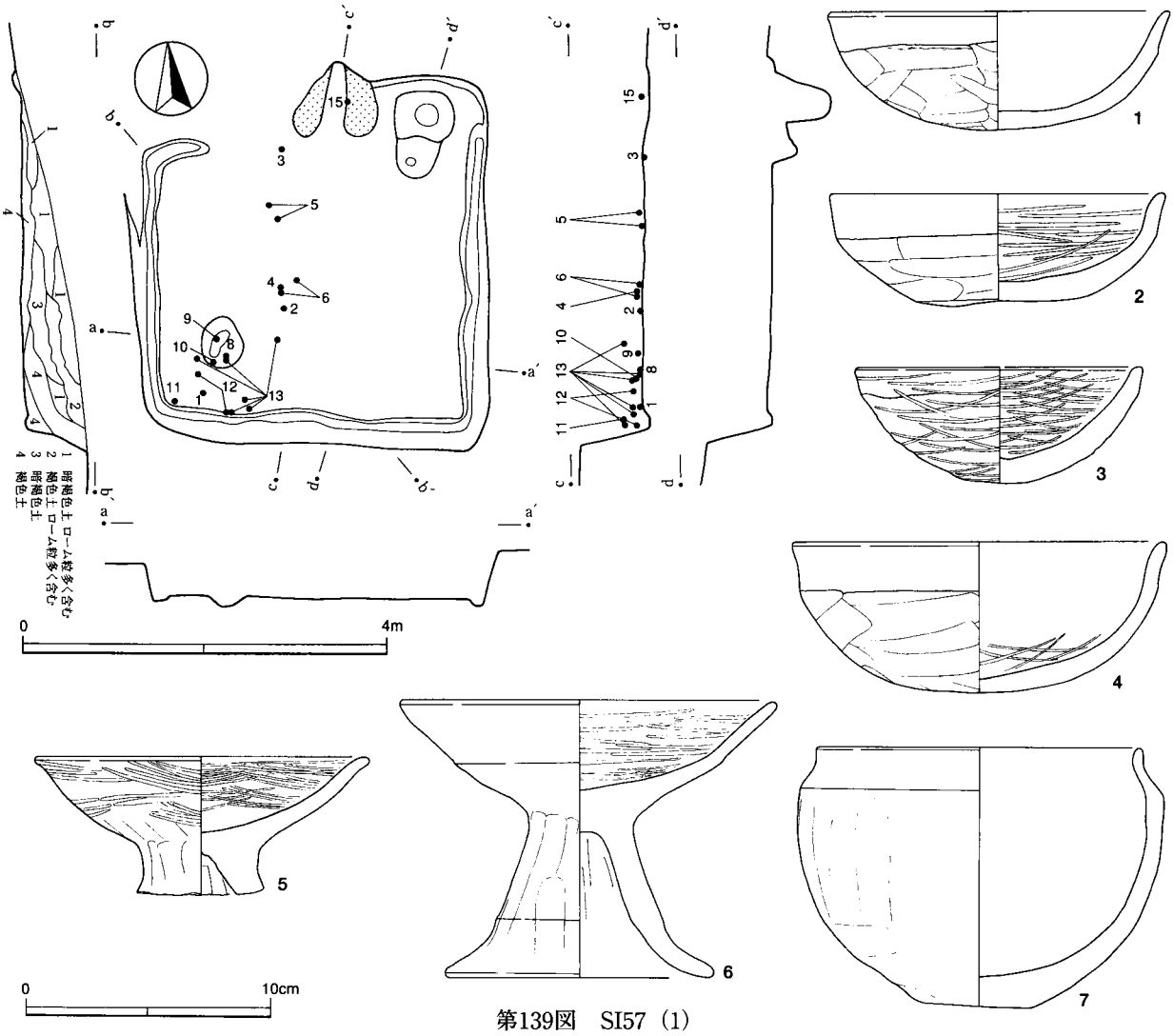
SI56（J24）（図版69・86）　4本の主柱穴，貯蔵穴，壁溝をもつ住居である。床面は堅緻だが攪乱が多い。


1 暗黄褐色土 ローム主体
2 暗黄褐色土 炭・焼土粒多く含む
0 4m
1 灰黄褐色山砂
2 明赤褐色土 ローム粒に焼土含む
3 黒褐色土
0 1m
1
2
3
4
5
6
0 10cm

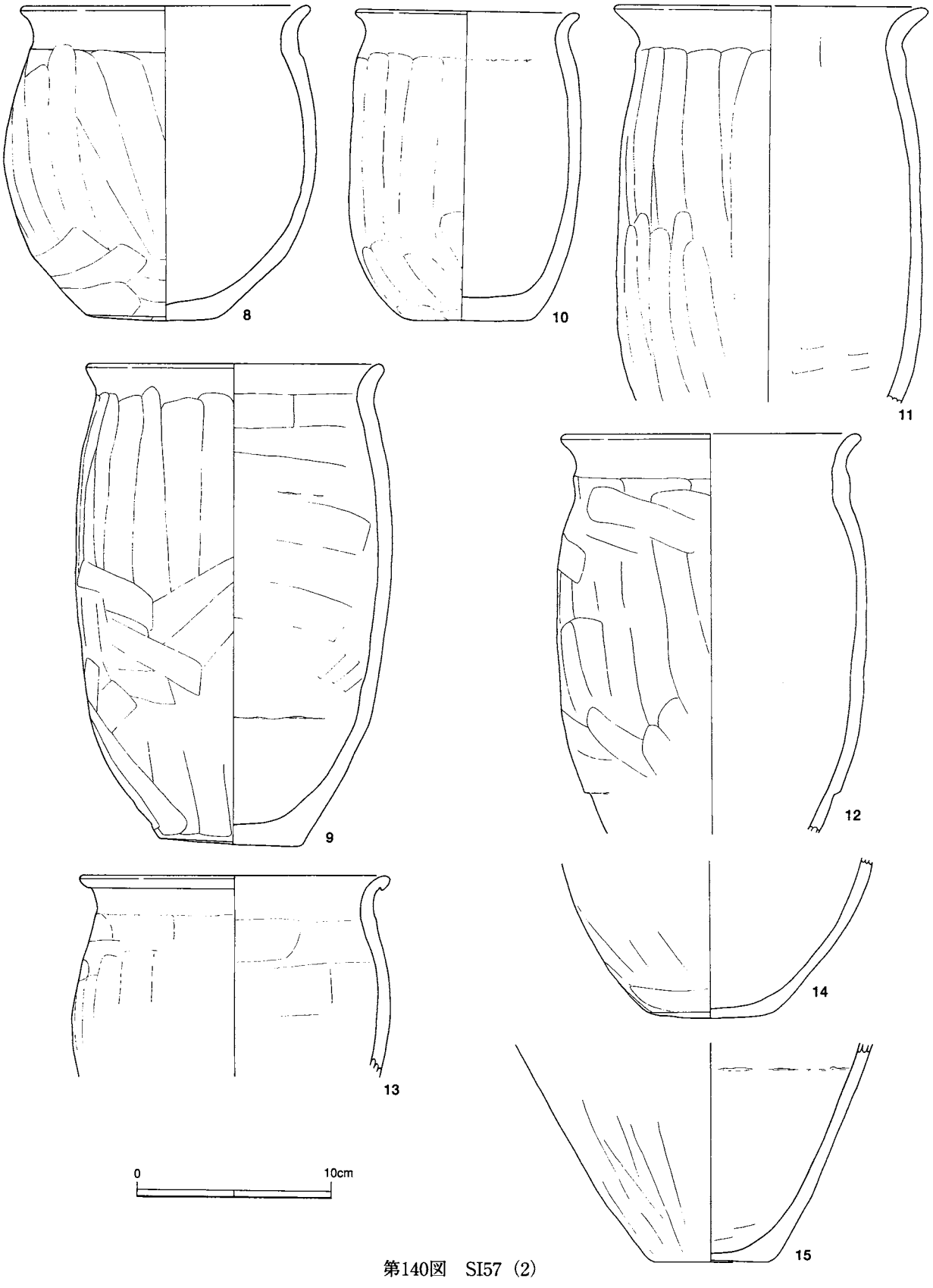
第137図　SI56（1）



第138図　SI56（2）



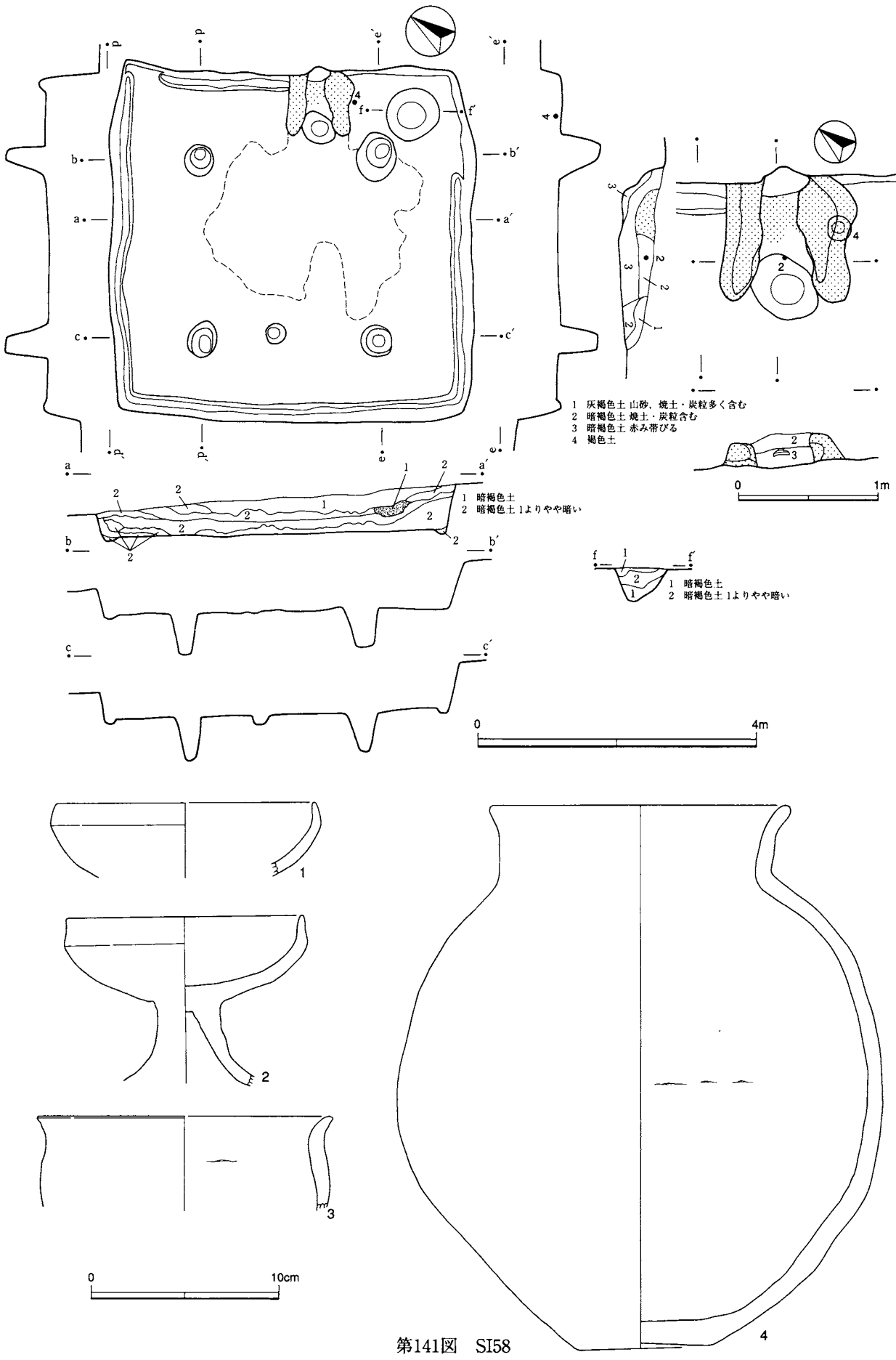
第139図　SI57（1）



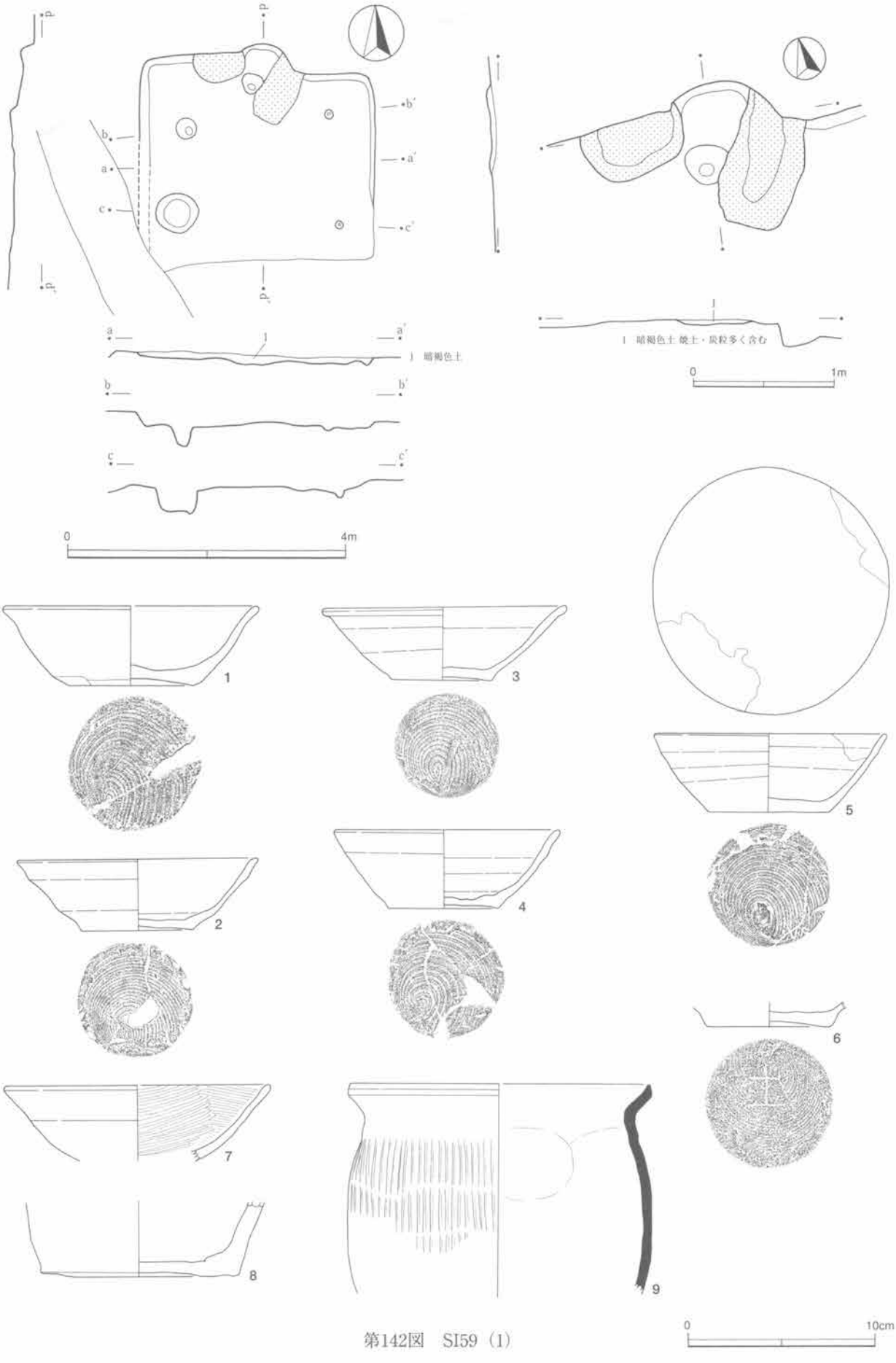
第140図　SI57（2）

西壁近くの小ピットは出入り口施設であろうか。土師器甕4点，杯，高杯，軽石が出土している。甕（3・4）はカマドに入り込んでいた。

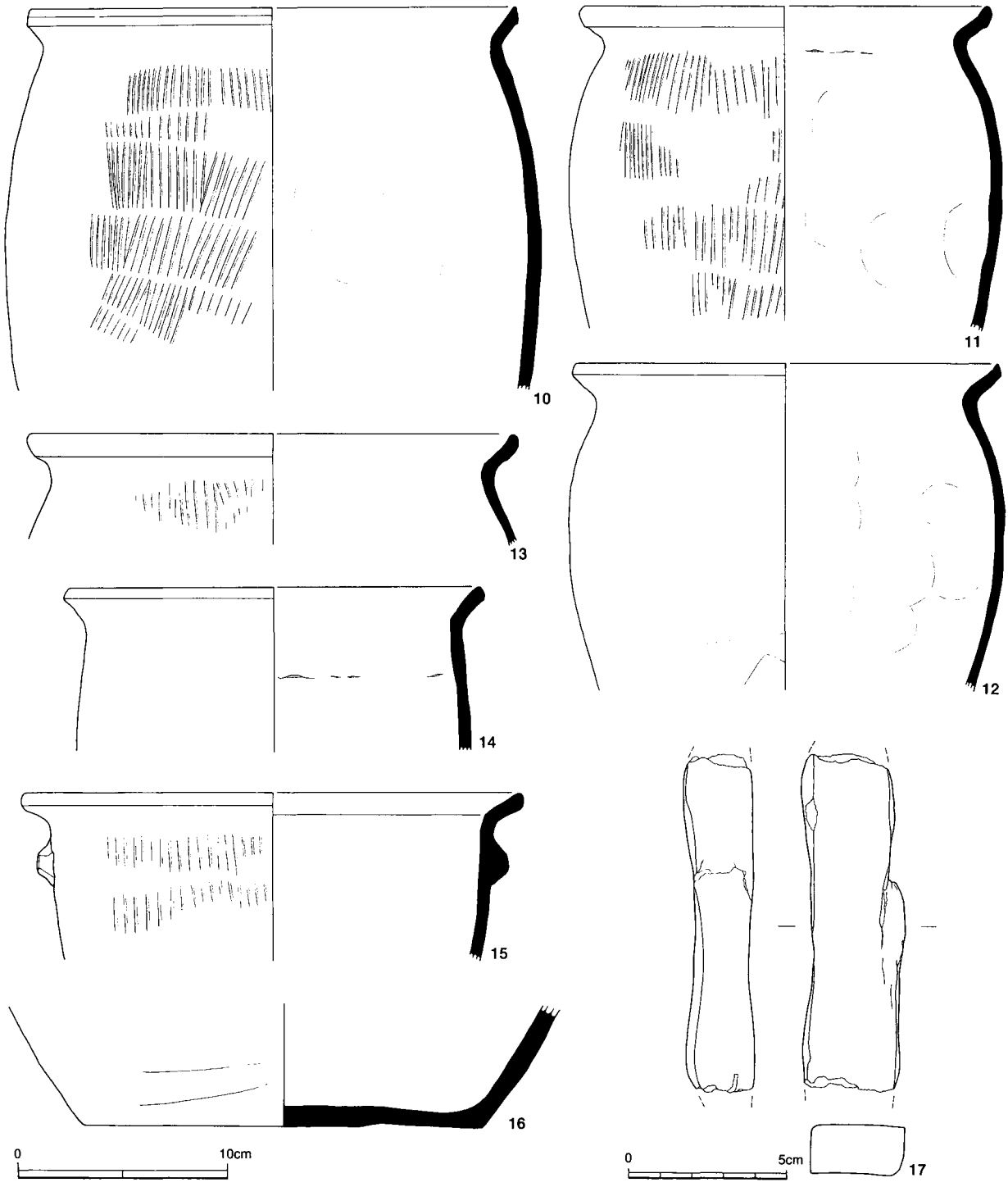
SI57（J27）（図版70·86·87）　カマド・貯蔵穴・壁溝をもつ小型住居である。主柱穴は検出されない。


1 灰褐色土 山砂，焼土・炭粒多く含む
2 暗褐色土 焼土・炭粒含む
3 暗褐色土 赤み帯びる
4 褐色土
1 暗褐色土
2 暗褐色土 1よりやや暗い
1 暗褐色土
2 暗褐色土 1よりやや暗い
0 1m
0 4m
0 10cm

第141図　SI58



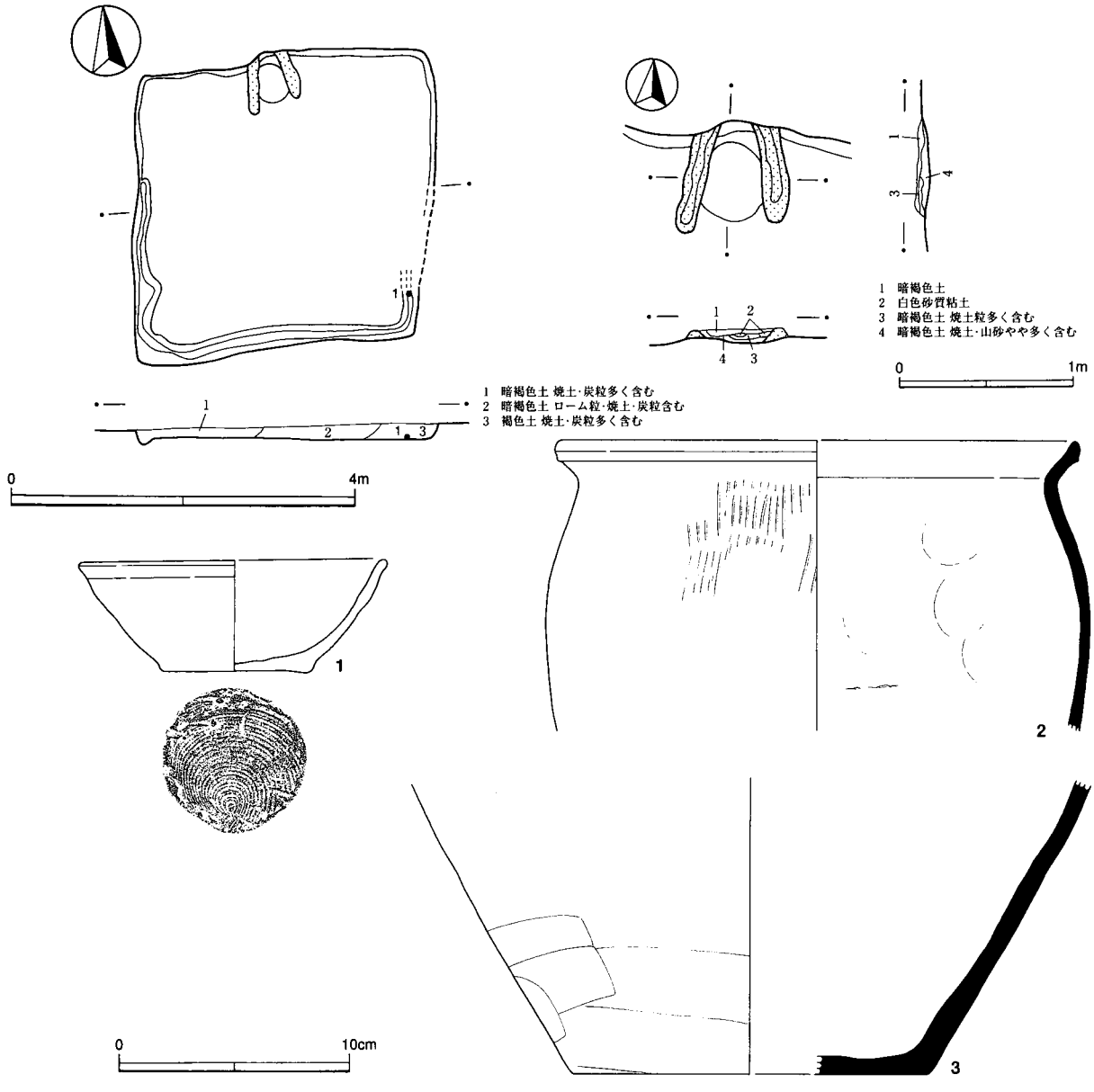
第142図　SI59（1）



第143図　SI59（2）

土師器甕８点，杯４点，高杯２点，鉢が出土している。残りのよいものでは，１・８～10は南西隅，２・４～６は中央付近，３はカマド近くで出土した。それ以外は破片である。

SI58（J32）（図版71·87）　カマド，４主柱穴，貯蔵穴，出入り口ピット，壁溝をもつ住居跡である。カマドから住居中央付近は踏みしめられていた。カマドは，上部を壊されているものの天井の一部が残っていた。a断面の網掛け部分には，多量のスラグ，炭化材，焼土粒を含んでいた。直径１ｍの範囲に集中することから，住居がかなり埋まった段階で別の土坑に廃棄された可能性もある。掲載遺物は，土師器甕３点，



第144図　SI60

杯3点，高杯，須恵器瓶，灰釉高台付杯，スラグ・小鉄塊75点（218ｇ），炉壁である。甕（4）はカマド右脇から，高杯（2）はカマド中で身部を伏せた状態で出土している。なお，当住居内では平安時代の土器も多数取り上げられている。本来存在した平安時代の遺構を検出できなかった可能性が高い。土器は明らかに当住居に伴うものではないため，遺構外出土土器（第15図）に示した。

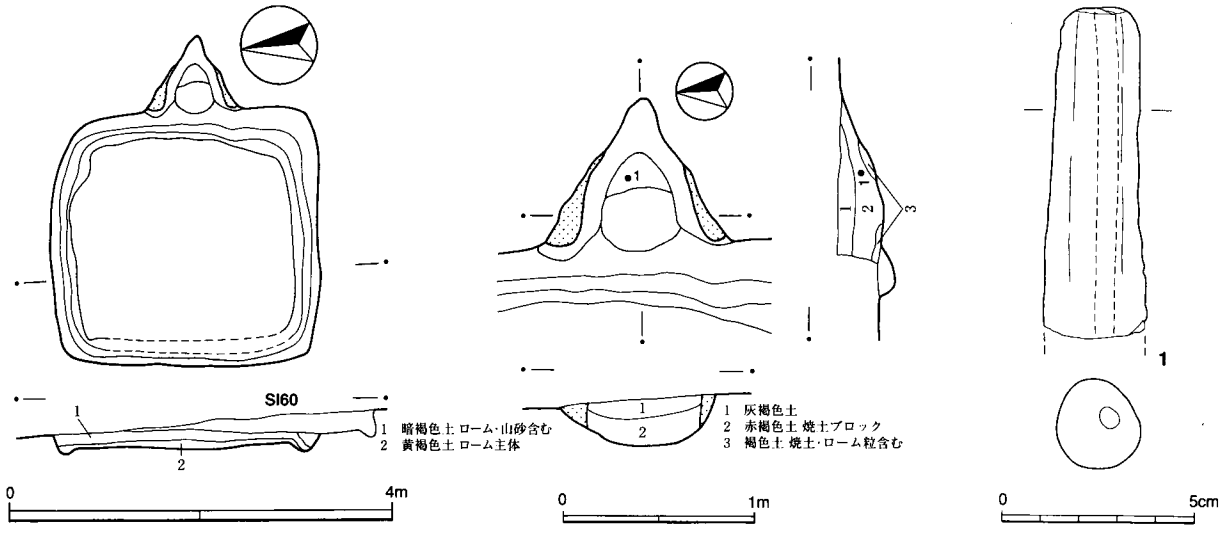
(2) 遺構外出土遺物（第155図１～９）

１・９は平安時代のSI65住居跡から出土したものである。2～8は遺構外で取り上げられた小片である。

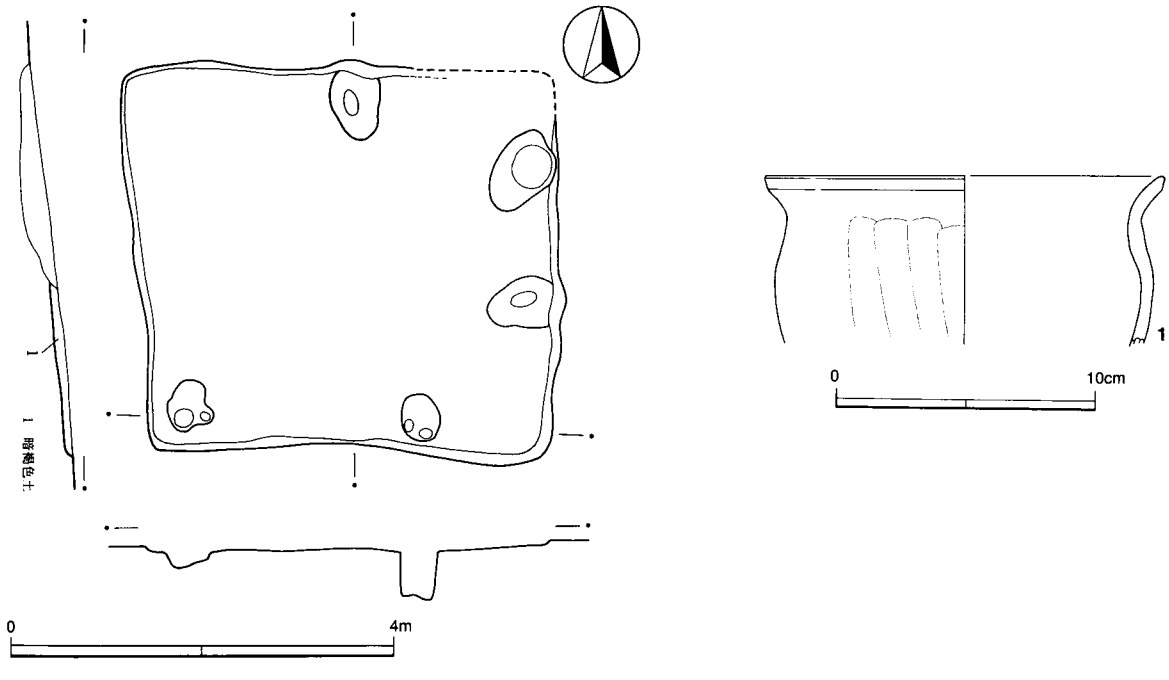
３．奈良・平安時代

(1) 住居跡（142～152図）

SI59（J02）（図版63･88）　攪乱により住居跡の一部しか残っておらず，カマドのある北壁も斜面側にあって残りが悪い。カマドは袖の基部と思われるロームの高まりを検出したのみである。カマド右袖の北側



第145図　SI61



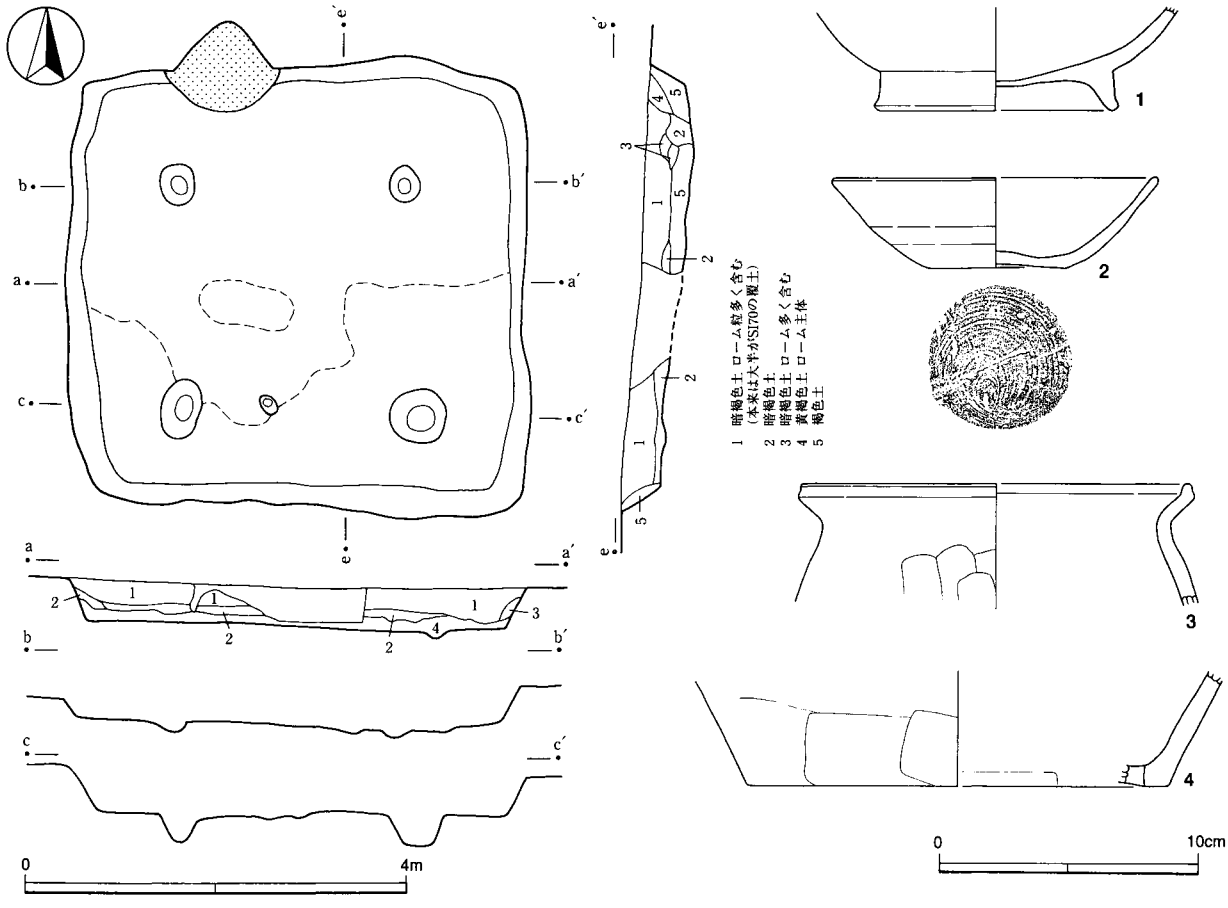
第146図　SI62

遺構外に遺物の集中が見られたが，攪乱中に落ち込んだものと思われた。土師器甕，杯7点，須恵器甕8点を掲載した。砥石が出土している。杯1～5は遺存率が高い。6は「土」と読めるヘラ書きをもつ。

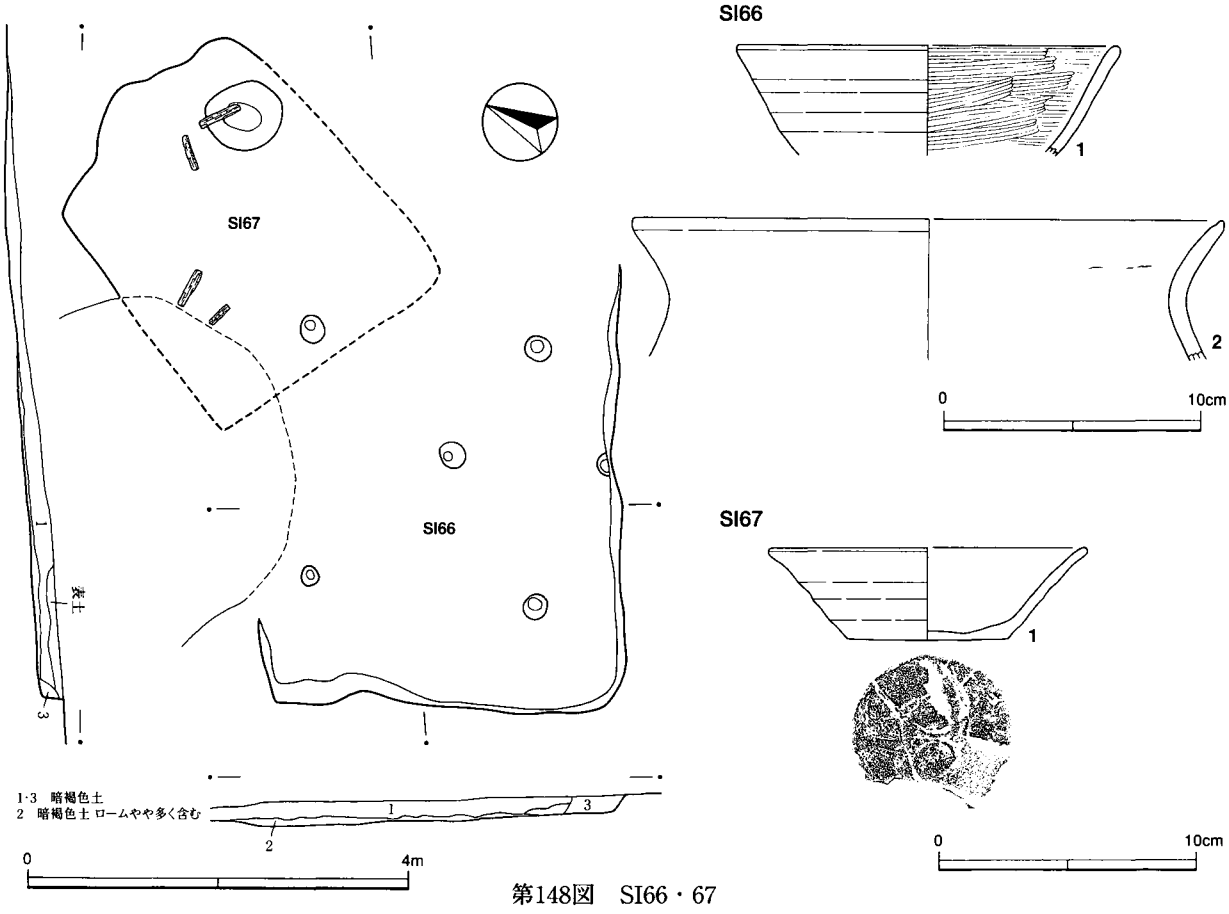
SI60（J03）（図版64･88）　カマドと壁溝をもつ住居跡である。柱穴は確認できなかった。SI61を切っており，当遺構のほうが浅いため，重複部分は貼床をしている。北壁･東壁はSI61でも利用されたようである。土師器杯，須恵器甕2点が出土している。1は完形に近い。

SI61（J04）（図版64）　SI60に切られた住居跡である。カマドと壁溝をもつ。カマド内で細型羽口が出土している。支脚として利用されたものであろう。

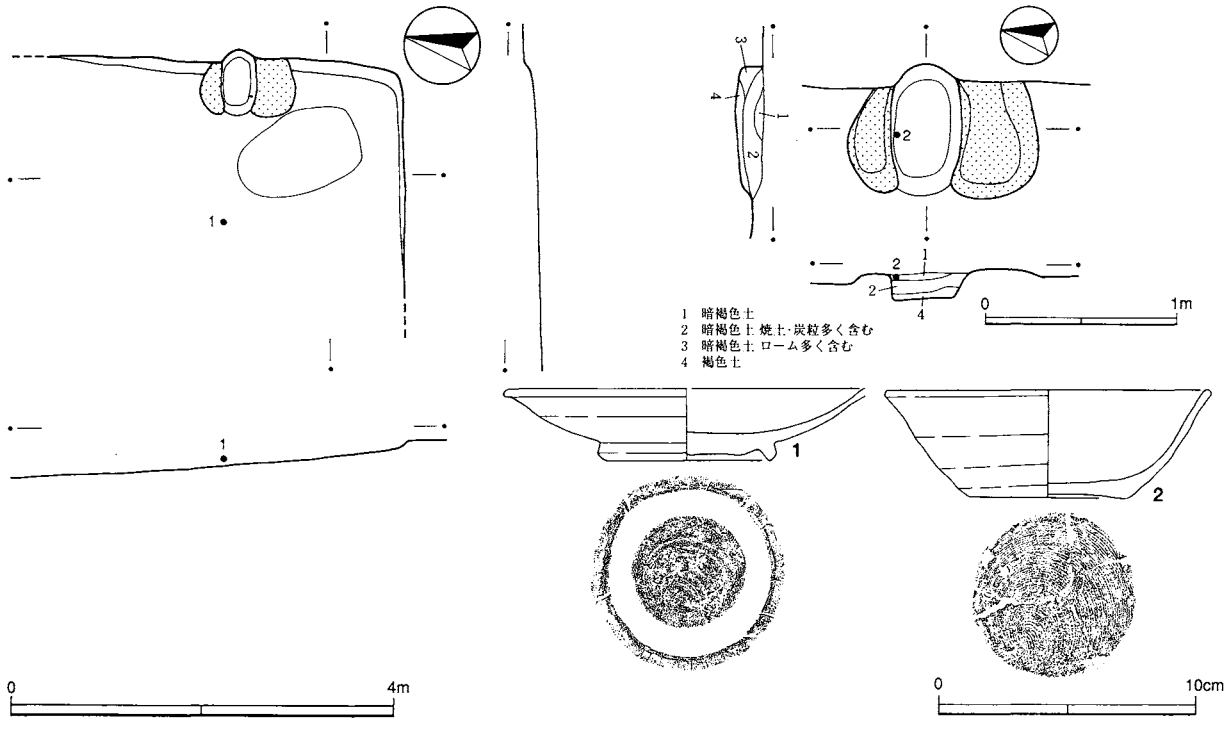
SI62（J06）（図版64･88）　辛うじて方形の掘り込みを検出できた。西壁はSI44との重複により不明瞭，



第147図　SI65



第148図　SI66・67



第149図　SI68

北壁から中央部には大きな木の攪乱がある。床面の踏みしめは弱い。カマドは基底部のみ遺存する。土師器甕，スラグ6点（68ｇ）が出土している。

SI63（J11）（図版66･88）　遺構図を第126図に示す。鍛冶工房である。SI49の調査中に，小鍛冶炉と周辺の踏みしめ硬化面を検出した。土師器杯4点，軽石，羽口，スラグ・小鉄塊289点（2.6kg），炉壁が出土している。土器は硬化面より，羽口は鍛冶炉中より出土した。

SI64（J13）（図版66）　遺構図を第126図に示す。SI49の調査中にカマドと床面を検出した。SI63との区別はできなかったが,SI63の鍛冶炉と当住居のカマドは軸がずれており,同一遺構ではない。

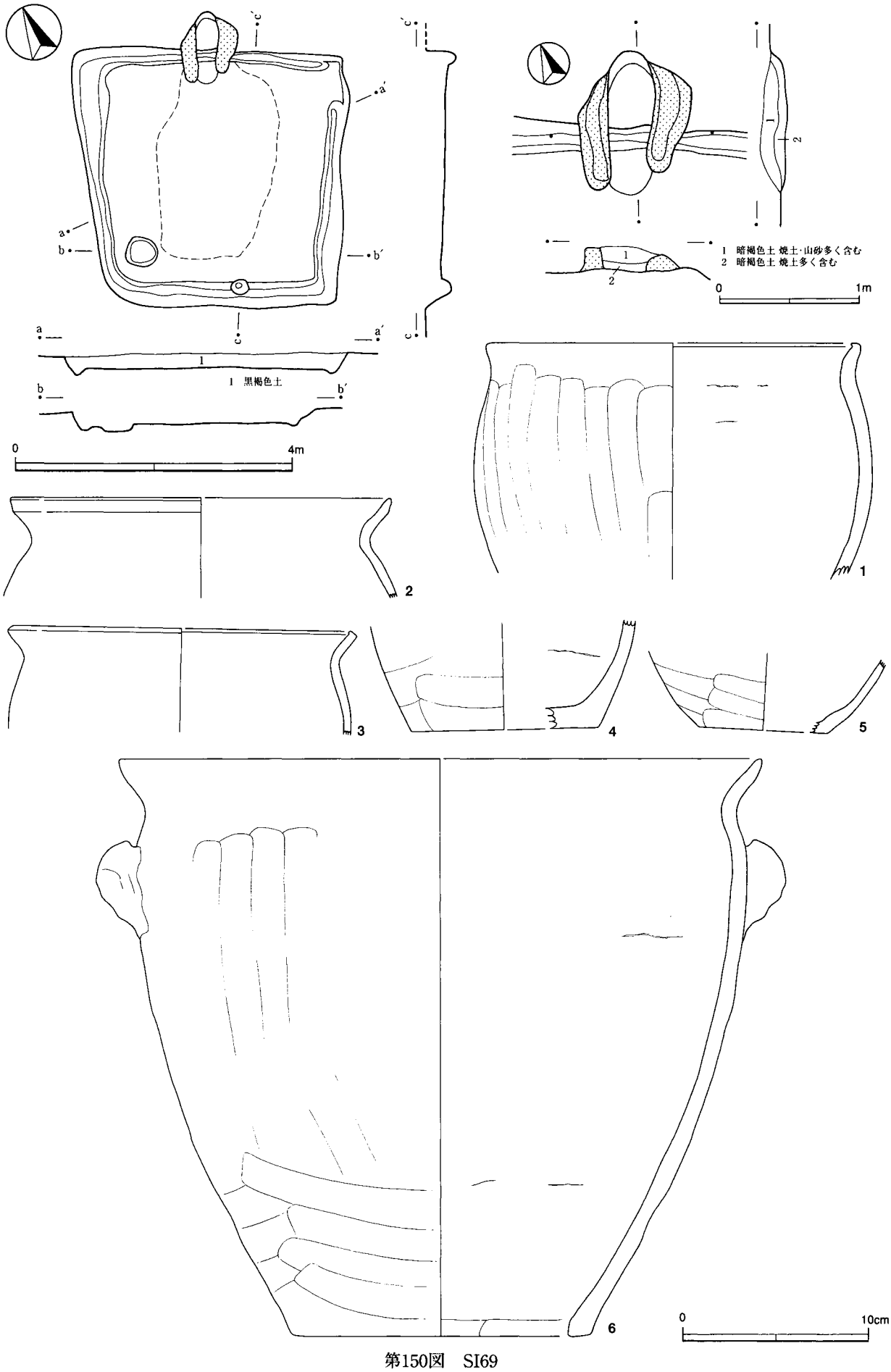
SI65（J17）（図版67･88）　カマドと4主柱穴をもつ住居跡である。掘りかたは正方形に近い。現地の観察ではSI71に切られており，カマドと掘りかたの北西3分の1程度の覆土は遺存しない。ただし，図では重複関係がわからない。土師器甕，甑，杯，高台付杯が出土している。

SI66（J19）（図版68）　方形の可能性がある掘り込みと平坦面からとりあえず住居跡とした。断面図にはほぼ垂直の壁らしい立ち上がりがみられる。ピットが5基と東に長く伸びる南壁が記録されているが，規模・構造は不明である。掲載遺物には土師器甕，杯がある。

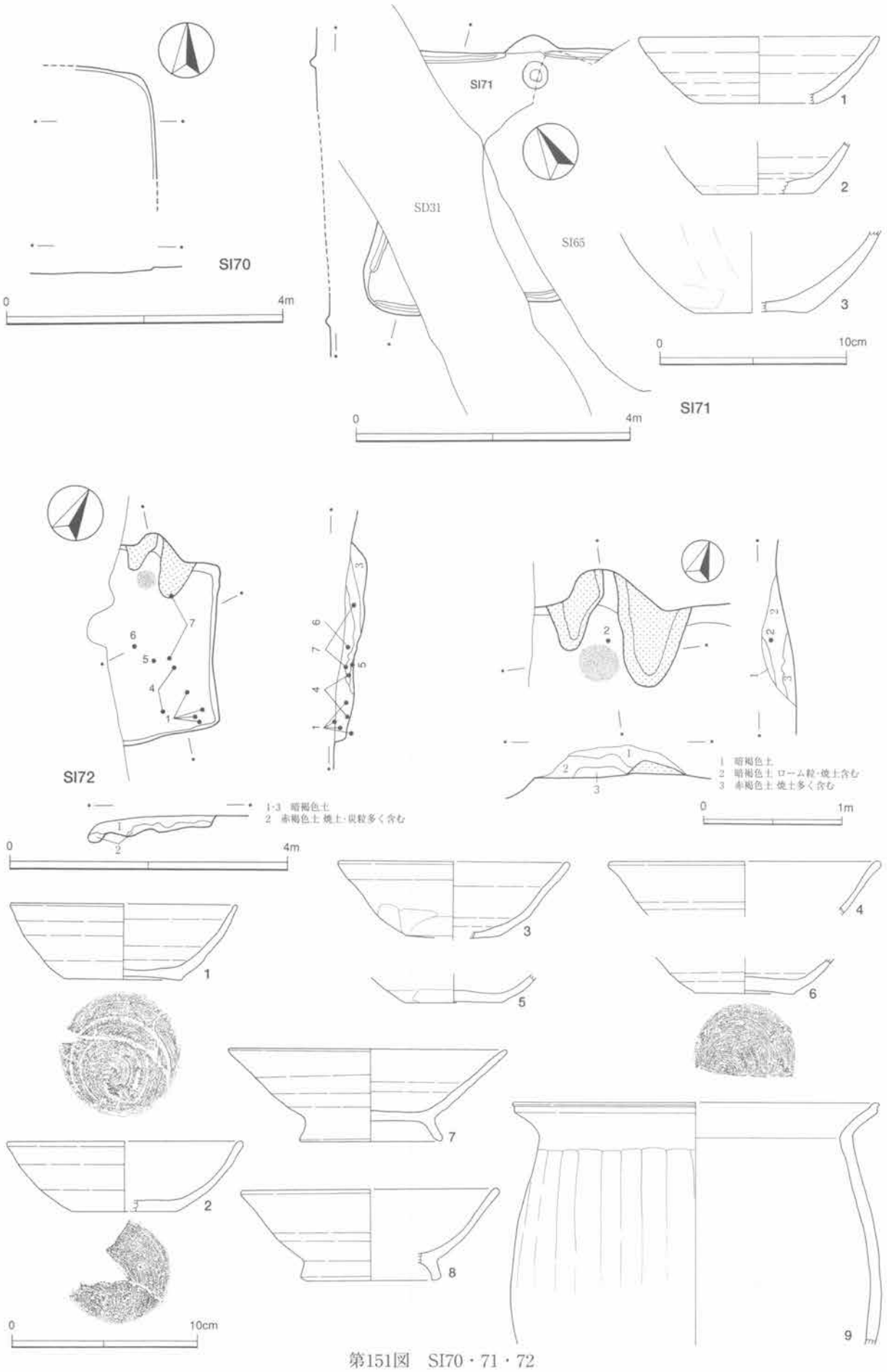
SI67（J20）（図版68･88）　SI66に隣接する。とりあえず住居跡の項で取り上げたが,住居跡と判断する材料はほとんどなく，無理があるかもしれない。覆土中に炭化材がみられる。土師器杯が出土している。

SI68（J21）（図版88）　カマドと掘り込みの一部を検出した。土師器高台付皿，杯が出土している。1は床面付近，2はカマド中から出土した。

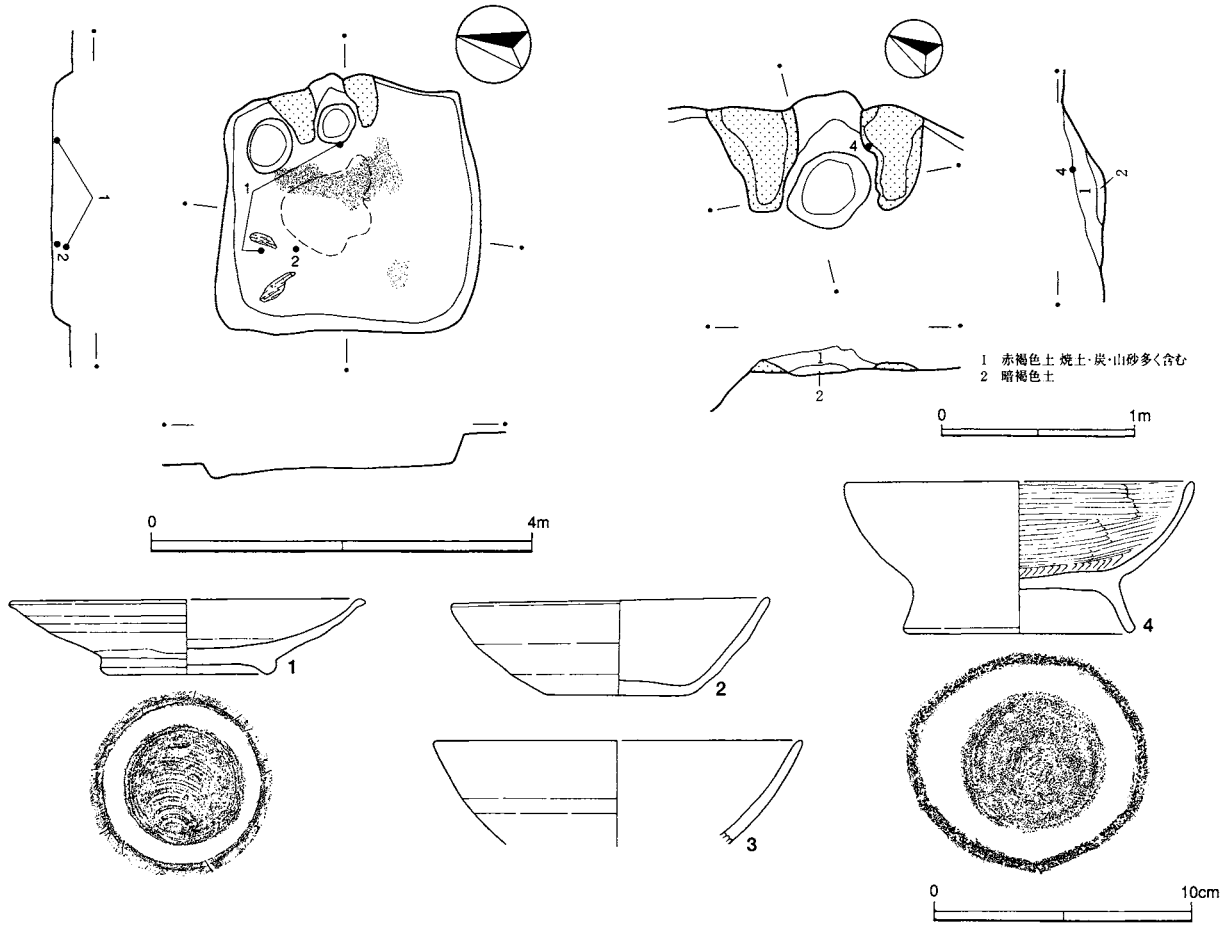
SI69（J26）（図版70･88･89）　カマドと壁溝をもつ住居跡である。ごく浅いピットが記録されているが，ごく浅いもので柱穴や貯蔵穴とは認められない。掘りかたは北側が広がっているが,壁溝が広い北西隅が本



第150図　SI69



第151図　SI70・71・72



第152図　SI73

来の掘り込みより広くなっている可能性がある。土師器甕5点，甑，スラグ・小鉄塊56点（322ｇ），炉壁が出土している。土器はみな破片である。

SI70（J28）　1個体の土器が集中していたため住居跡として調査したものであるが,認定には無理があった。掲載遺物はない。

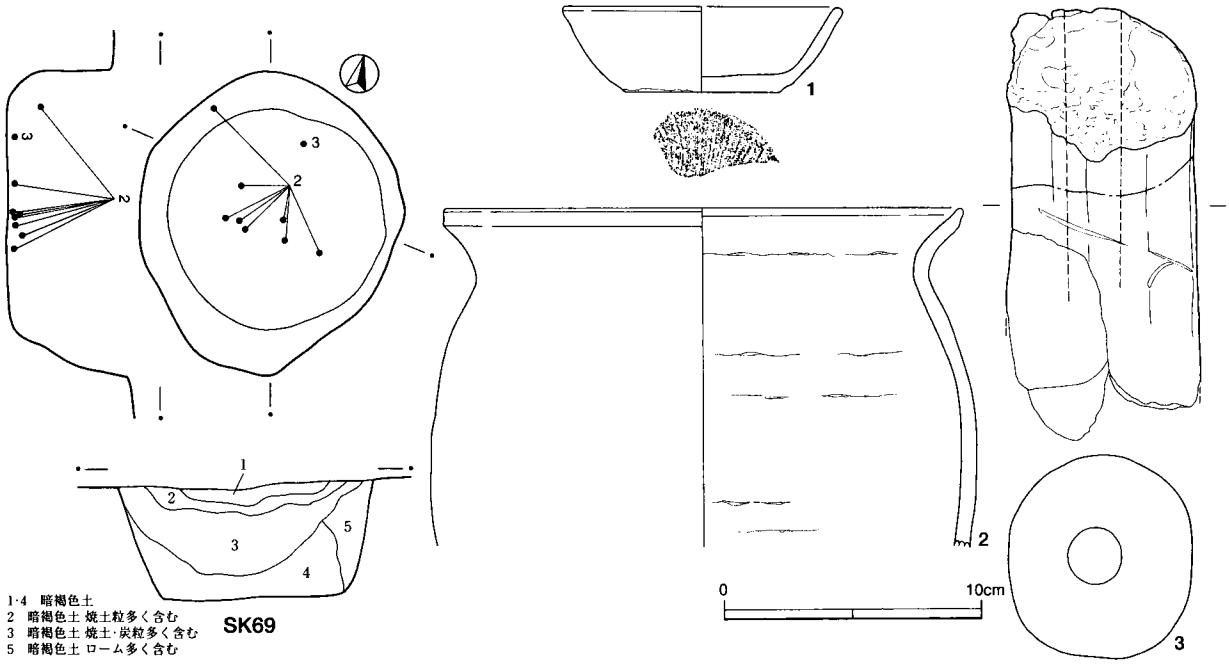
SI71（J30）　やや歪な掘り込みと壁溝から住居跡である。現地の観察ではSI65を切っているが，調査はSI65の完掘後に行っている。カマドは北壁の切り込みと床の若干の窪みが検出されている。土師器甕，杯2点が出土している。

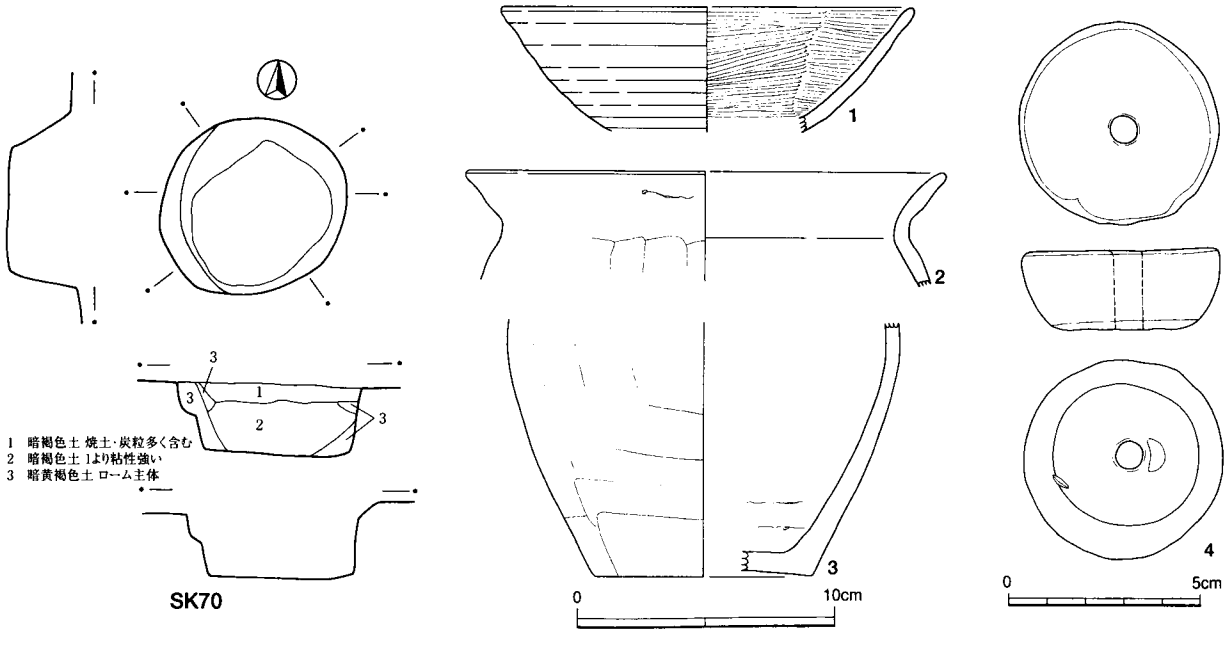
SI72（J31）（図版89）　カマドと掘り込みを検出した小型の住居跡である。掘りかたはやや不整形で，床面は凹凸が目立つ。カマドは基部がわずかに確認できた。遺構の遺存状態がきわめて悪い。しかし，出土遺物は豊富である。出土位置を示したもののうち，1と7は残りが良い。残りは破片である。土師器甕，杯6点，高台付杯2点，スラグ2点（11ｇ）が出土している。

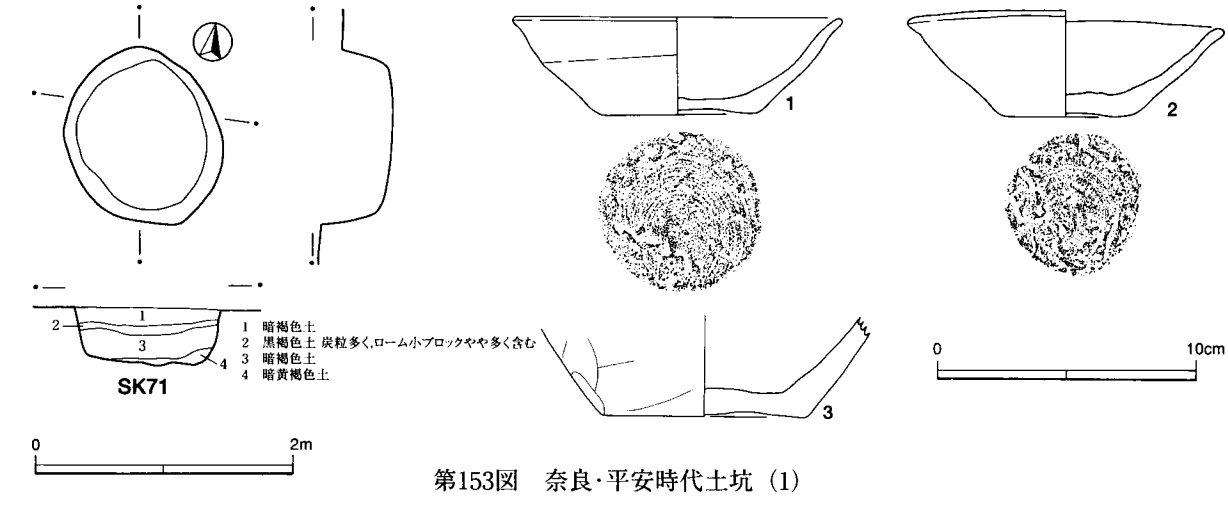
SI73（J33）（図版71･89）　小形の住居跡である。カマドは辛うじて基部が遺存しており，覆土中には焼土と炭化材がみられる。中央付近には踏みしめ硬化面があるが，一部は掘りすぎて低くなっている。土師器杯2点，高台付杯，灰釉高台杯皿が出土した。1・2は床面，4はカマド内である。

(2) 土坑（第153・154図）

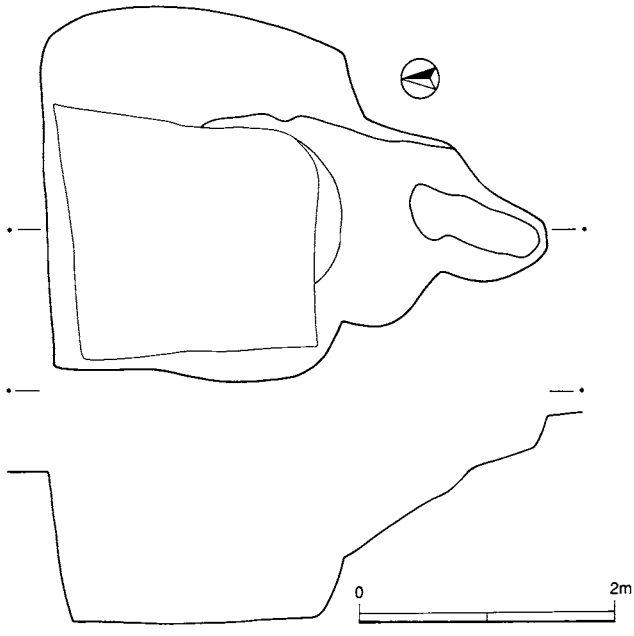
円筒形の土坑3基はいずれも古代の製鉄関連遺構と考えられる。3基の位置は離れているが，尾根に近



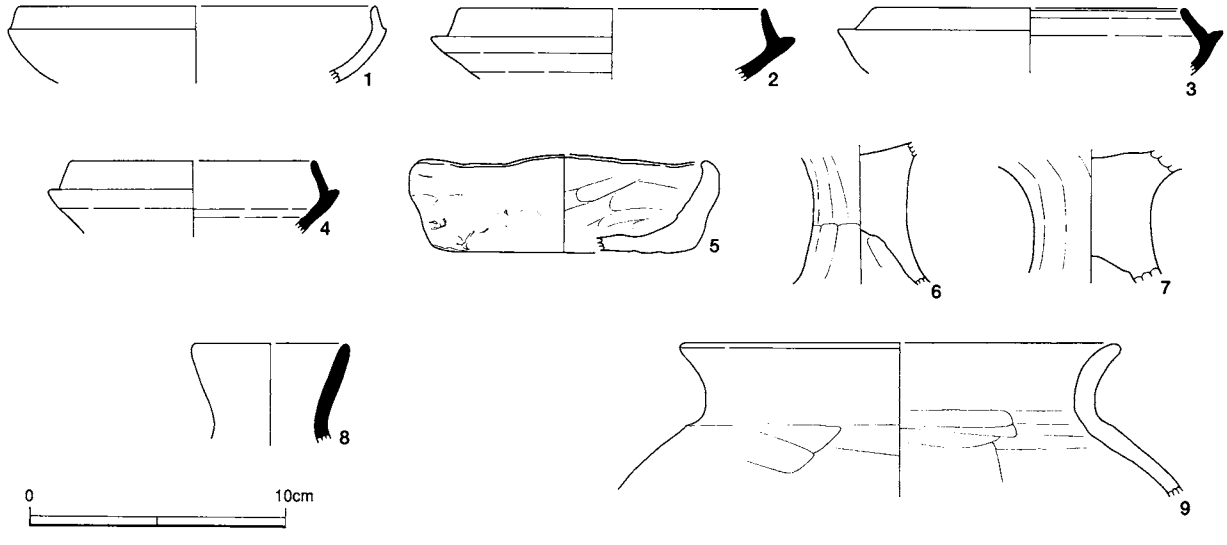




第153図　奈良·平安時代土坑（1）



第154図　奈良·平安時代土坑（2）



第155図　遺構外土器（1）古墳時代

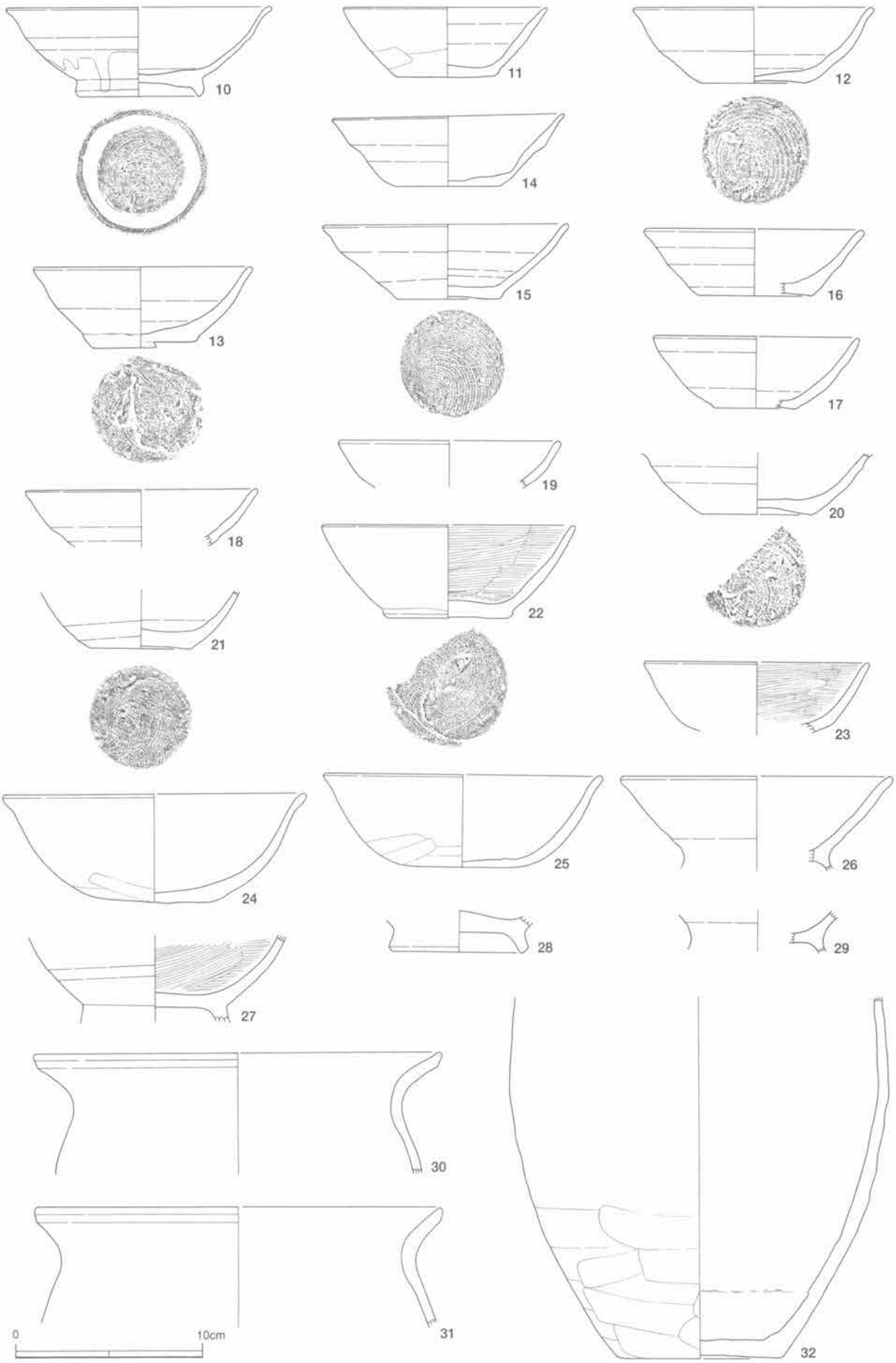
い部分に1列に並ぶ。もう1基は性格不明の落ち込みであるが,やはり製鉄関連遺物が多数出土しており，同様の遺構が存在した可能性がある。

SK69（D04）（図版72·90）　円筒形に近い掘り込みの小鍛冶に伴う廃滓坑である。羽口，スラグ・小鉄塊78点（1.3kg）が出土している。

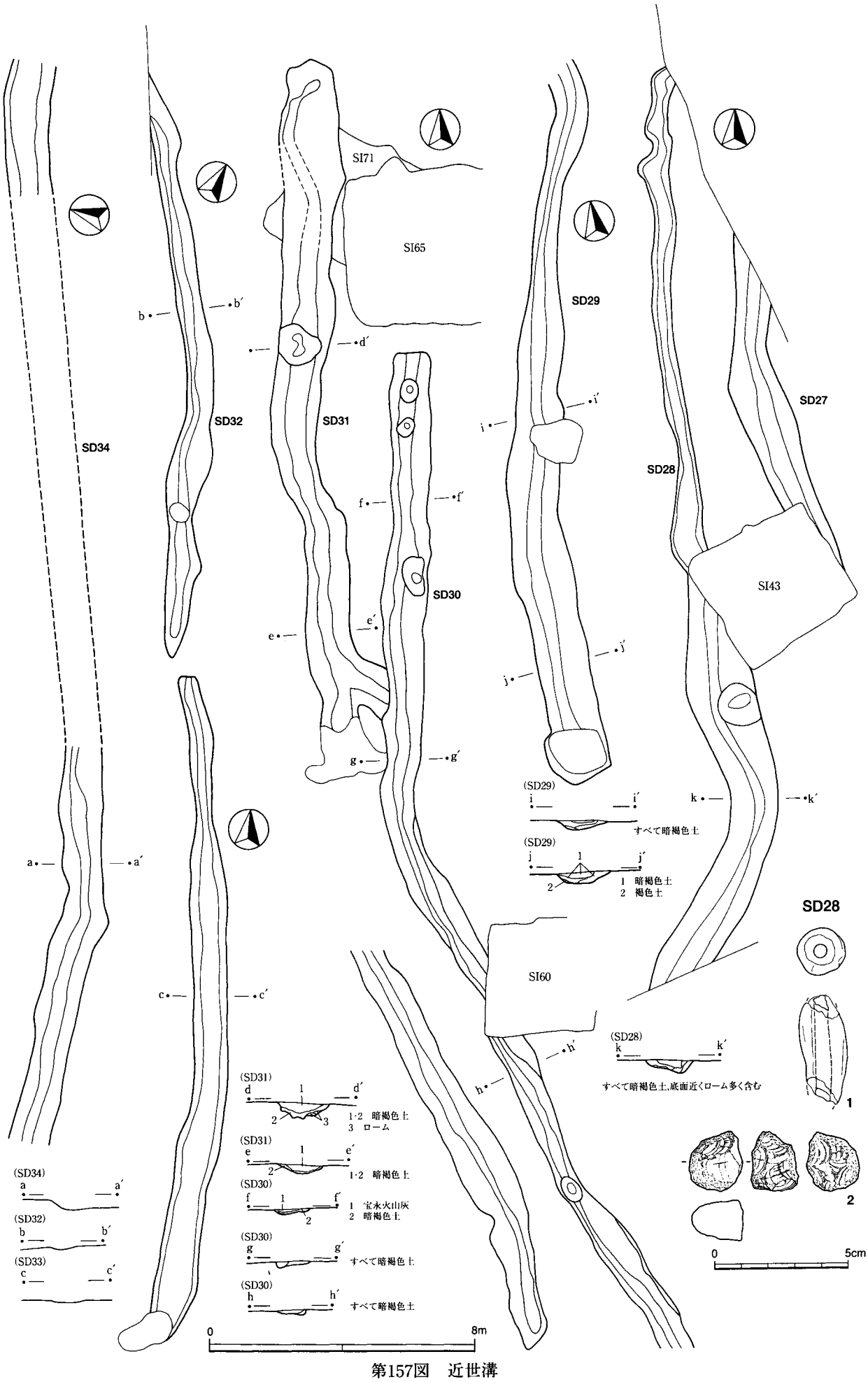
SK70（D01）（図版89）　ほぼ円筒形で底の平坦な土坑である。土師器杯，甕2点，紡錘車（4）が出土している。

SK71（D02）（図版72·89）　円形の土坑である。土師器杯，甕，椀形滓を含むスラグ4点（2.2kg），炭化材が出土している。

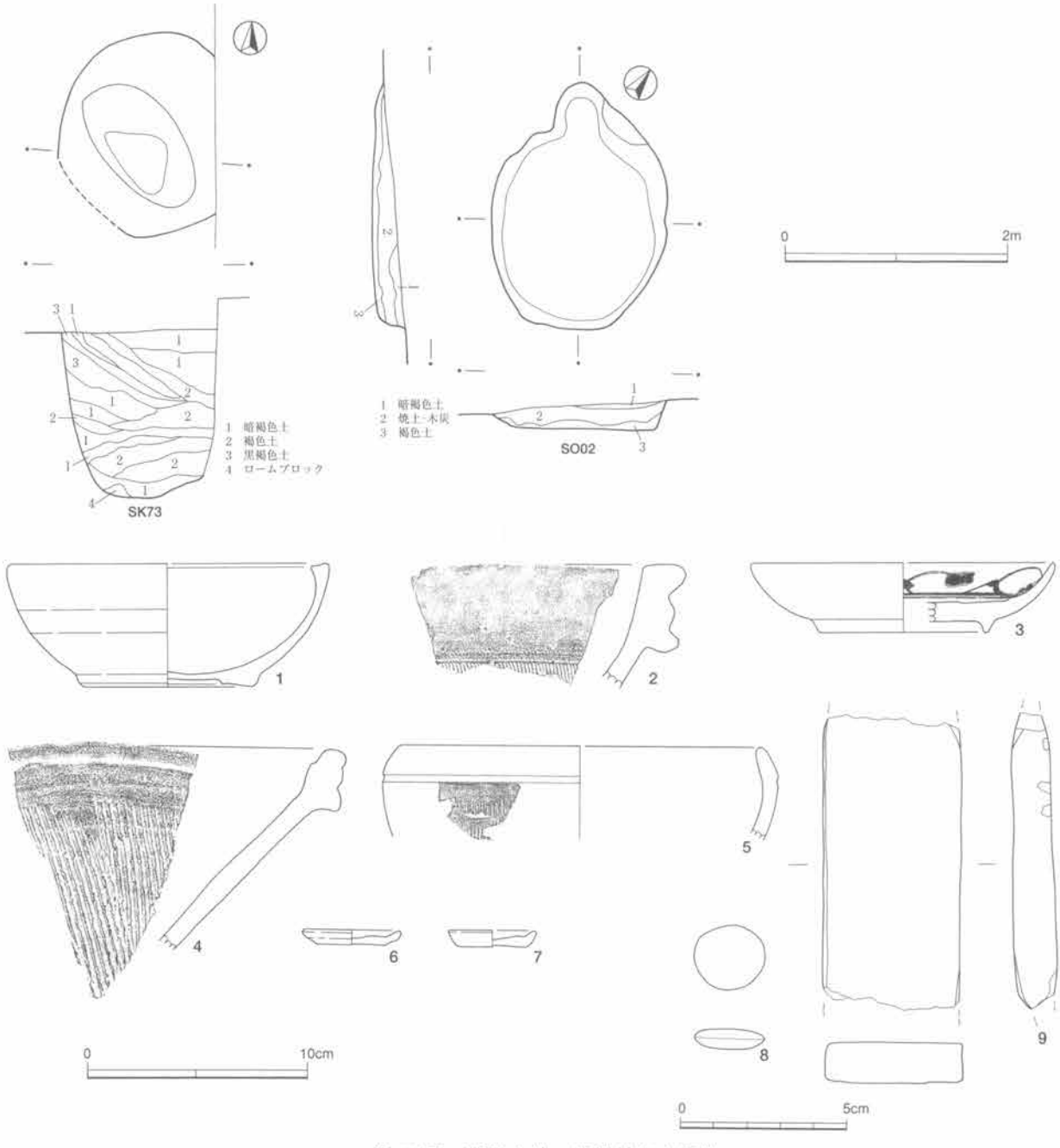
SK72（D05）　掘り下げ中の一括遺物に多量のスラグと小鉄塊が混じっていた。大きな攪乱があって遺構の形状は不明であるが，製鉄に関わる遺構が破壊されたものであろうか。スラグ・小鉄塊173点（1.0kg）が出土している。



第156図　遺構外土器（2）奈良・平安時代


SI71
SI65
SD29
SD27
SD28
SD32
SD31
SD34
SD30
SI43
SI60
(SD29)
すべて暗褐色土
1 暗褐色土
2 褐色土
(SD28)
すべて暗褐色土,底面近くローム多く含む
(SD31)
1·2 暗褐色土
3 ローム
(SD30)
1 宝永火山灰
2 暗褐色土
(SD34)
(SD32)
(SD33)
0 8m
0 5cm

第157図　近世溝



第158図　近世土坑・遺構外出土遺物

(3) 遺構外出土遺物（第156図10～32）

10・11・14・30～32は古墳時代のSI58住居跡の土器として取り上げられた，12・13・16・20～22・24～28は古墳時代のSI53住居跡の土器として取り上げられたものである。いずれも平安時代の比較的時期の揃った資料群である。残りのよい土器がまとまっているところからみて，本来重複していた平安時代の遺構を検出できなかった可能性が高い。

残りの15・17～19・23・29は遺構外で取り上げられたものである。

4．近世

多くの遺構は時期を知る手がかりがないが，便宜的にここに記載する。全体的な傾向からみて，近世の遺構が中心と考えられる。

(1) 溝（第157図）

SD27（M01）　調査区の東端を南北に，SD28と並行して走る溝である。底面の幅は50cmほど,調査した長さは13mほどである。出土遺物はない。

SD28（M02）　調査区の東端を南北に，SD27と並行して走る溝である。底面の幅は広いところで1mほどあるが，ばらつきが大きい。調査した距離は35mある。管状土錘，燧石が出土している。

SD29（M03）（図版71）　調査区の南端中央を南北に走る溝である。底面の幅は50cmほど，調査した距離は25mである。掲載遺物はない。

SD30（M04）　調査区の南端中央を南北に走る溝である。覆土中に宝永火山灰の集積がみられる。掲載遺物はないが，近世の溝であろう。底面の幅は50cmほど，調査した距離は40mある。

SD31（M05）　調査区の中央を南北に走る溝である。掲載遺物はない。底面の幅が１mと広い。調査した距離は25mである。

SD32（M06）　調査区の西端を南北に走る溝である。底面の幅はごく狭く，調査した距離は22mである。掲載遺物はない。

SD33（M07）　調査区の中央を南北に走る溝である。出土遺物はない。底面の幅が１mと広い。調査した距離は25mである。

SD34（M08）　調査区の北西端にあり，唯一東西に走る溝である。底面の幅は広いところで１mほどある。長さは40m以上あるが,調査できたのは一部である。掲載出土遺物はない。

(2) 土坑（第158図）

SK73（D06）　検出面では円形，底面は小さくやや不整形である。暗褐色土，褐色土，黒褐色土が互層をなし，埋め戻されたものと思われる。出土遺物はなく，時期・性格とも不明である。

(3) 炭窯（第158図）

SO02（D03）（図版72）　楕円形の炭窯である。出土遺物はない。

(4) 遺構外出土遺物（第158図）

１は18世紀後半の瀬戸・美濃練鉢，２は産地不明の擂り鉢，３は肥前産の染付皿，４は18世紀前半の堺産擂り鉢，５は火鉢，６と７は小皿である。８は土製の碁石，９は砥石である。これらの近世遺物は，この地点も主に近世に利用されており,溝などの遺構が中世まで遡らない可能性が高いことを示している。

第６節　第13地点

第９地点の東側の1,900㎡である。ほぼ全体が近世有吉集落中心部の大規模な造成地内であり,近世以前の遺構はほとんどすべて削平されている。ただし，第９地点との境界に若干高い地形面があり，高い崖を形成していた。第９地点でごく一部を調査したSI28の残りを調査することができた。また，SI74を検出した部分も幅４～５ｍの狭い範囲のみ掘削を逃れた部分である。

１．縄文時代

遺構外出土遺物（第160図，図版93）

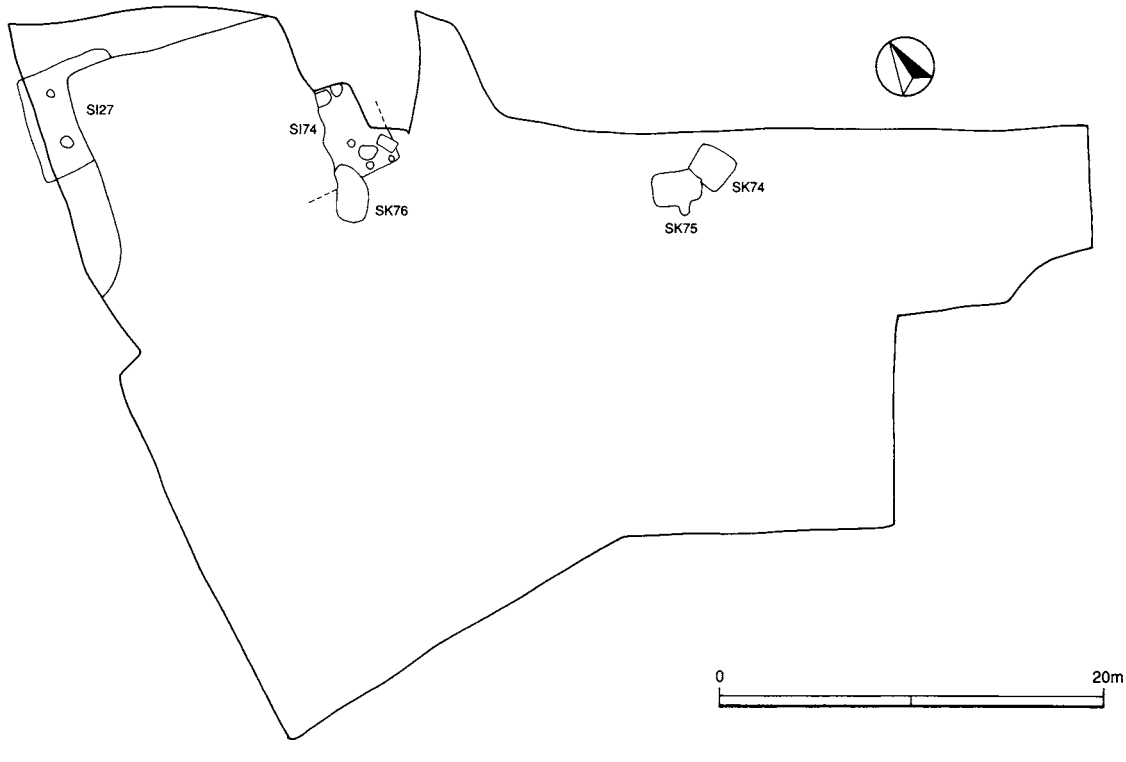
１は縄文地に押引文を施文した諸磯a式，２は浮島Ⅲ式の三角文の土器である。３は加曽利EⅡ式の，４はEⅡ式～EⅢ式のキャリパー型土器である。５はかなり大きな石皿の小片である。

２．古墳時代

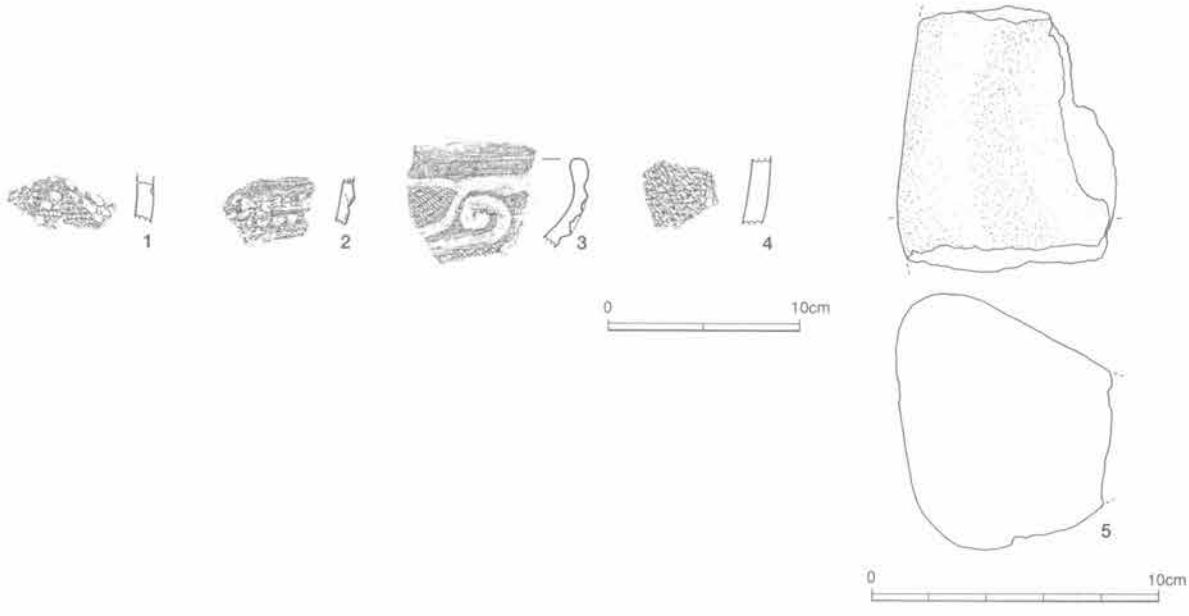
住居跡（第161・162図，図版92）

SI28（09+13-J27）　第９地点と第13地点にまたがる住居跡であり，こちらで記載する。やや歪んだ方形の掘り込みと，主柱穴２本を検出した。半分近くは近世に削平されているが，北東壁・北西壁にカマドの痕跡がないのはやや不可解である。北隅の小さな貝ブロックは，黒色土にシオフキガイが混じっていた。土師器杯２点，甕２点，甑２点，土玉６点が出土している。出土遺物はほとんどが一括で取り上げられた。

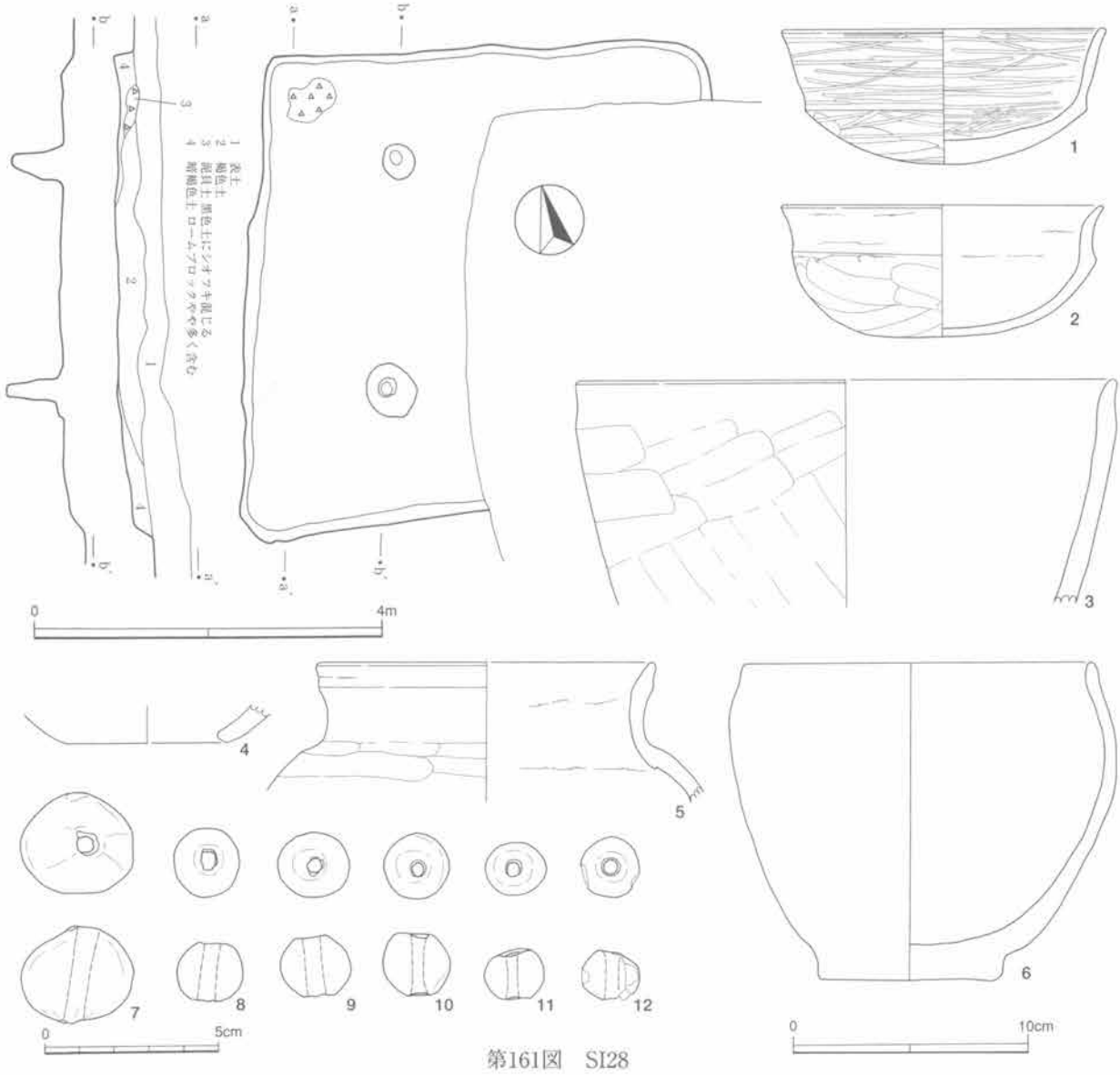
SI74（006）　近世の大規模な削平を免れた部分で検出した方形の掘り込みのコーナー部分と，平坦な床面を検出した。施設の配置は復元できない。土師器杯２点,須恵器杯が出土している。みな破片である。



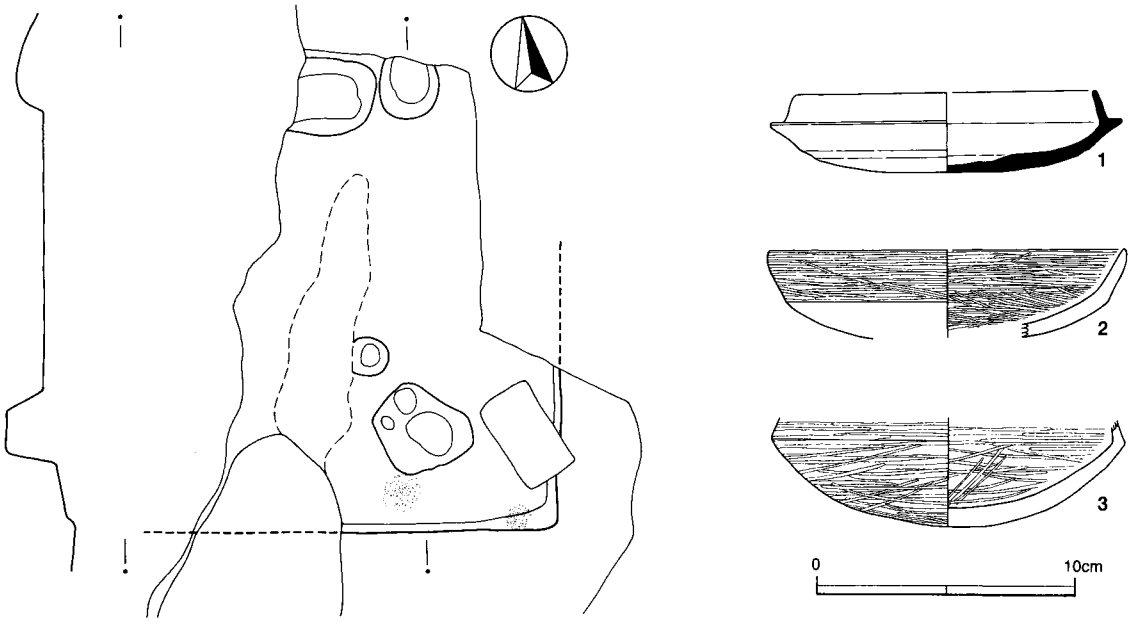
第159図　第13地点全体図



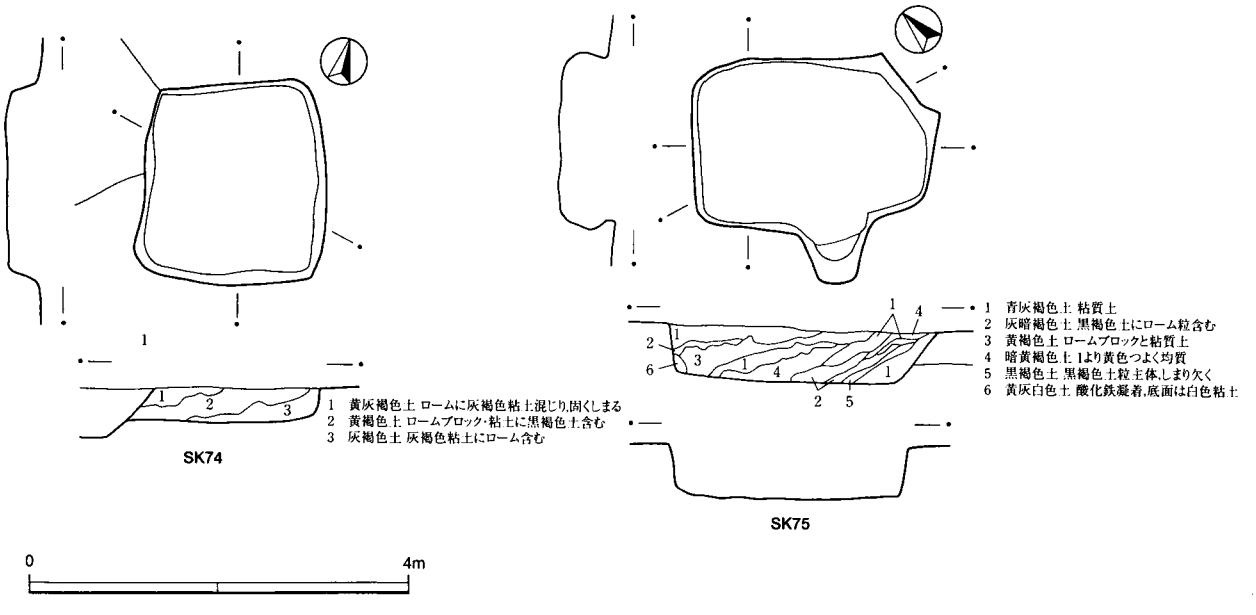
第160図　遺構外出土縄文土器・石器

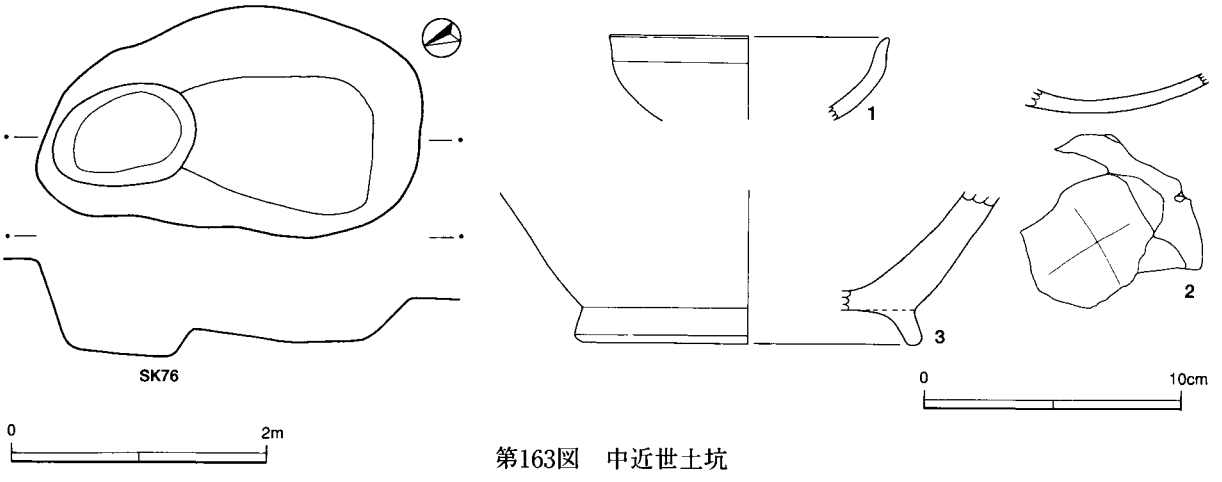


第161図　SI28



第162図　SI74





第163図　中近世土坑

3．中近世

(1) 土坑（第163図，図版92）

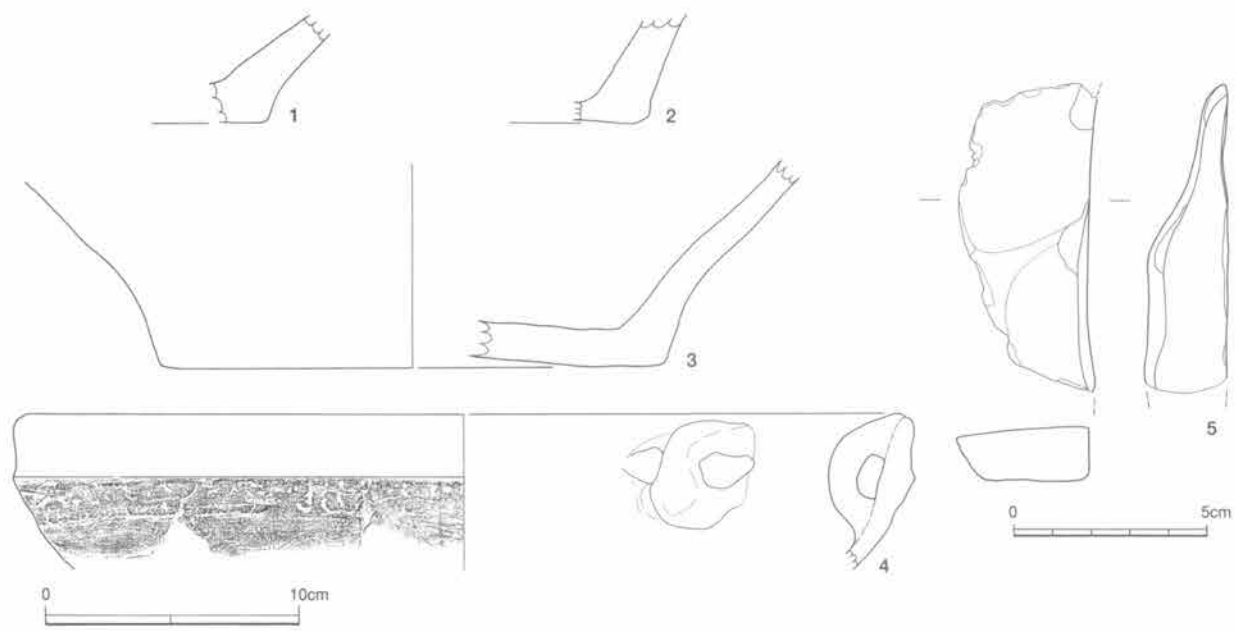
SK74（001）　近世の平坦面に位置する方形の土坑である。地山が粘土層に近いため，覆土に入っている。掲載遺物はないが，陶器片が出土している。

SK75（002）　近世の平坦面に位置する方形の土坑である。底面に露出した地山面は白色粘土である。出土遺物はない。

SK76（003）　近世の大規模な削平を免れた部分で検出した。SI74と重複する。土師器杯２点（１・２）と13世紀の陶器１点（3）が出土した。したがって，時期は決めがたい。２は底面に「×」の線刻をもつ。３は常滑の片口鉢底部である。

(2) 遺構外出土遺物（第164図，図版93）

１～３は常滑産の鉢・甕の破片である。４は焙烙である。数が少ないとはいえ，中世の遺物がまとまっていたことは注目される。５は砥石である。



第164図　遺構外出土中近世遺物

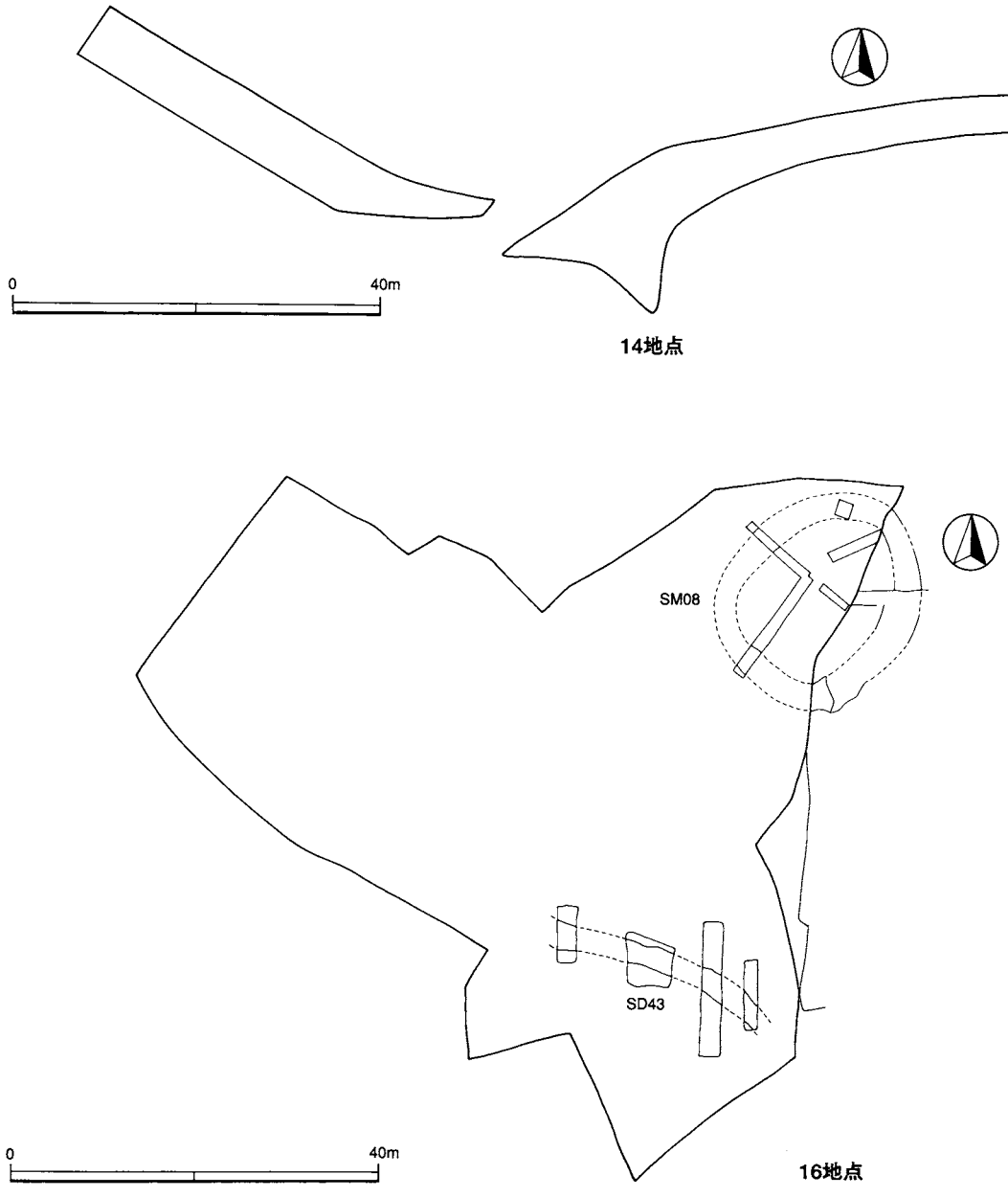
第7節　第14・15·16地点

第14・15·16地点の調査は平成元年度に実施した。近世有吉集落の中心部の東から南東側にあたる。各地点とも近世に台地が整形されており,検出した遺構は近世が中心である。おそらく古い遺構は削られたものが多かったであろう。各地点の概要は次のとおり。

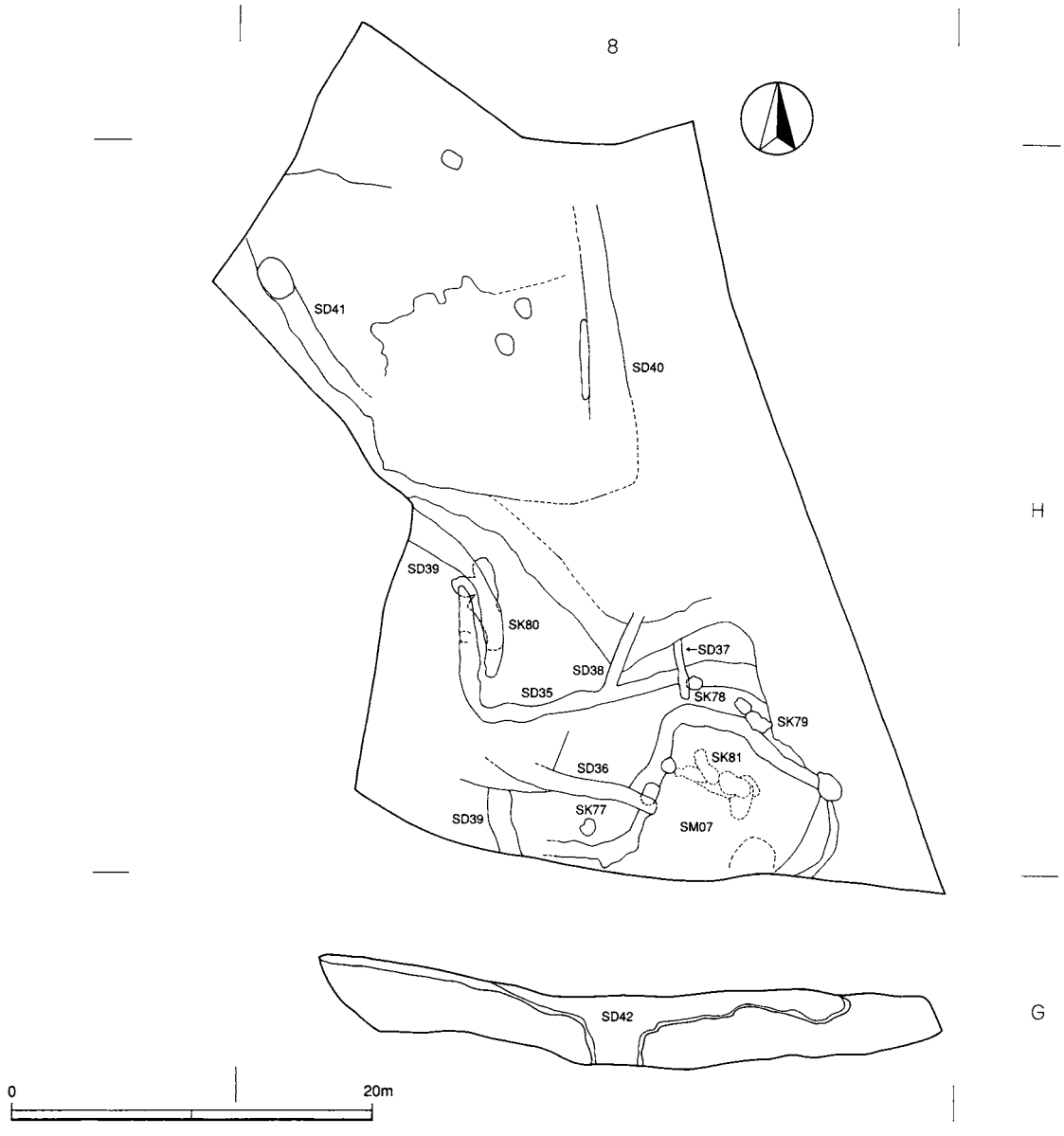
第14地点　道路の下570㎡を調査したが，全体が武蔵野ロームまで削られていたため，遺構·遺物を検出できずに終了した。

第15地点　1,130㎡の調査を実施し，近世の塚・屋敷跡・溝などをもつ整地面を検出した。また，塚の下では遺存状況のよい縄文早期後葉の炉穴群，早・前期の包含層を調査した。

第16地点　3,500㎡の調査を実施した。神社跡地·畑地（上段）と，宅地（下段）に分けることができる。神社は古墳を造り替えた近世の塚をさらに転用したものである。下段は成田層まで削られていた。



第165図　第14地点・16地点全体図



第166図　第15地点全体図

第15地点

1．縄文時代

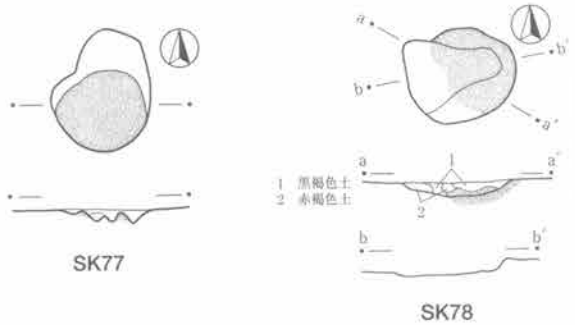
(1) 炉穴（第167・168図，図版95～97）

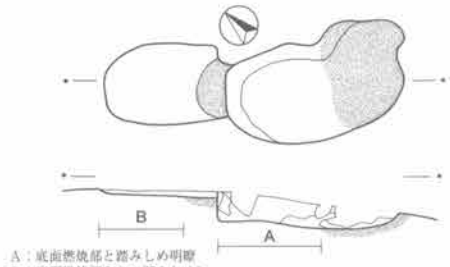
SK77（FP1）　攪乱が多く判然としないが，トーンの部分は地山が焼け付いているようであった。炉穴の燃焼部のみが遺存したものであろう。出土遺物はない。

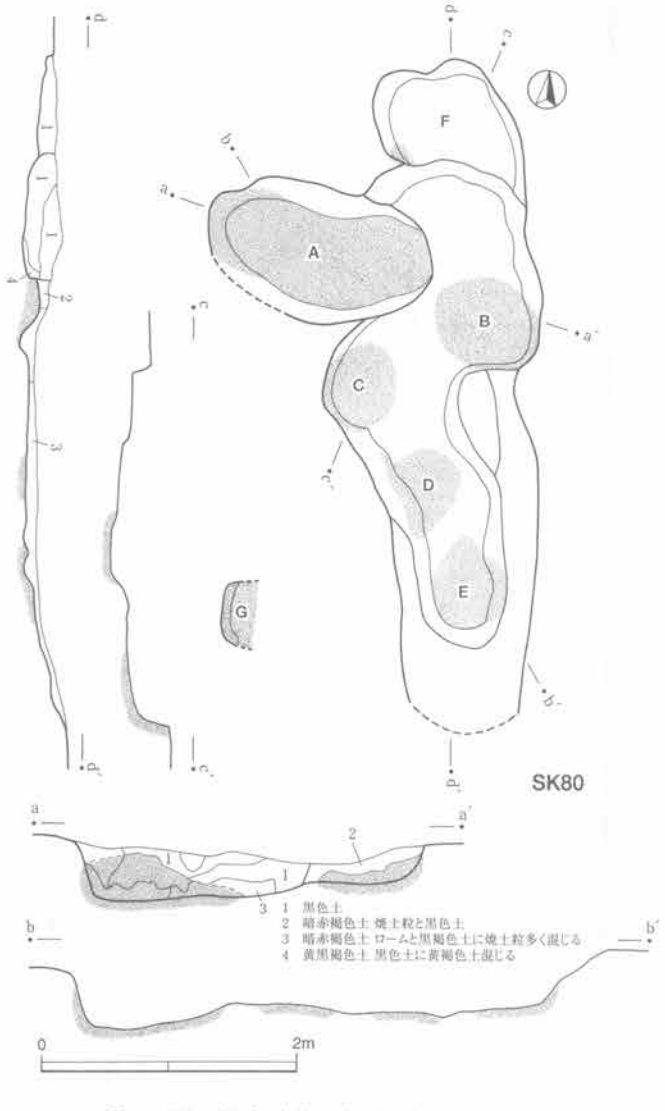
SK78（FP2）　焼土が堆積し，その下はロームの焼け面が良好に遺存していた。炉穴の燃焼部であろう。出土遺物はない。

SK79（FP3）　炉穴が2基重複している。いずれも燃焼部と足場を有する。新旧関係はB→Aの順である。Aは足場の硬化と焼け面が良好に遺存していた。Aから土器小片が出土した。

SK80（FP4･5）　若干離れて検出されたGも含めると，掘り込み・燃焼部から7基まで数えられる。Aは







第167図　縄文時代・炉穴（1）（SK77～80）

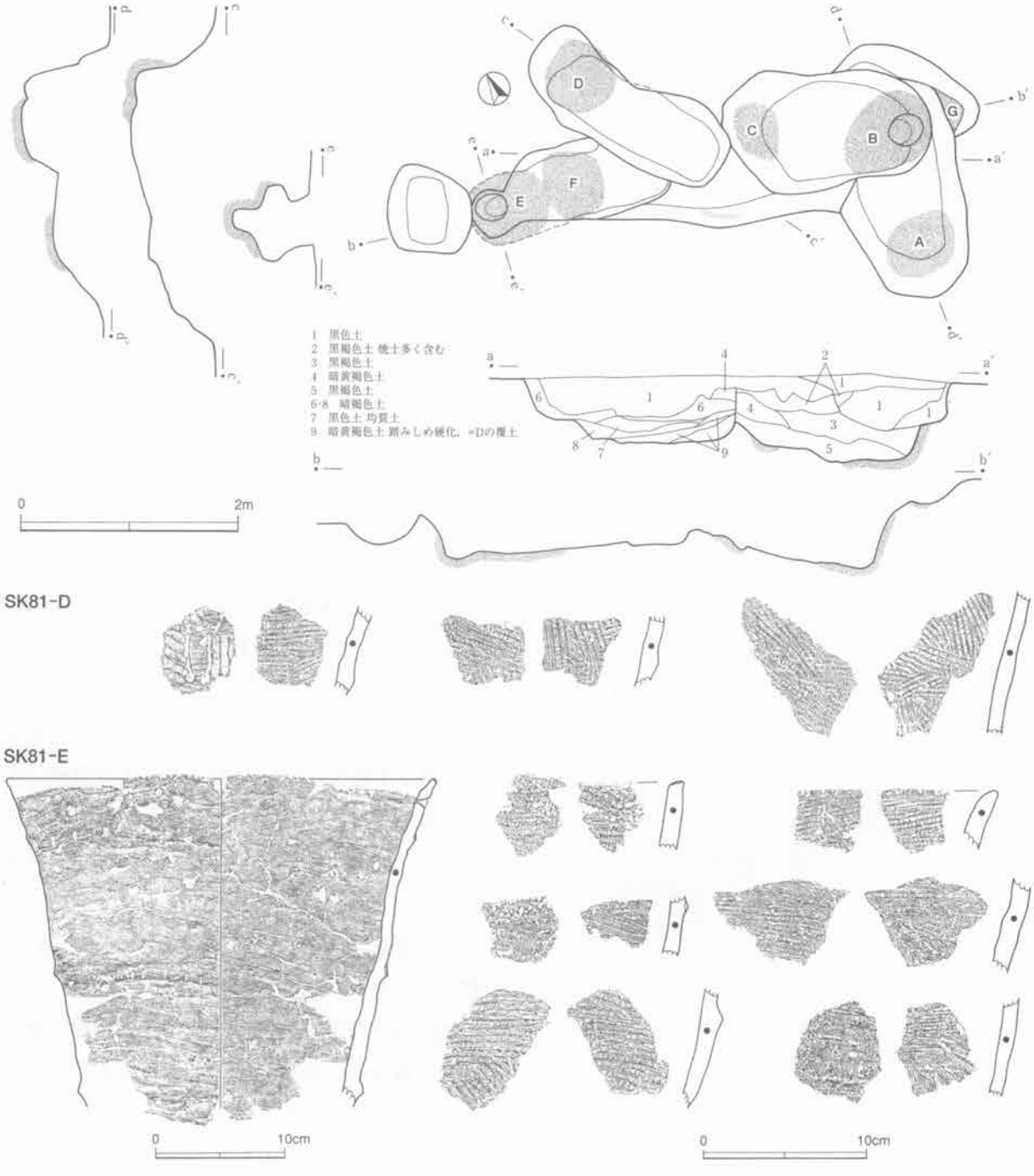
もっとも深く，焼土が厚く堆積していた。新旧関係は土層観察からC・D・E→A，F→B→Aとされる。C・D・Eについては，新旧は不明であるが，直線的に穴を拡張していったのではないだろうか。出土遺物はない。

SK81（FP6）　燃焼部が7か所みられる。B・D・Eは確認面から80cmほどの深さがあり，良好な状態で保存されている。注目されるのは，Eの側壁が湾曲していて，一部天井部分が残っていたことである。Eは沿道部ではなく，Fとは別の燃焼部とみられる。したがって，上部が小さく開口していたのは土器の掛け口となっていたことを示すのではないだろうか。土層の観察から，H→G・B・C→Aとか，B·C→D→F・Eという順に新しい。土器はDとEの燃焼面から出土している。1～3はDから出土したもので,有文の1は鵜ヶ島台式である。4～10はEから出土したもので，茅山下層式～上層式であろう。DよりEが新しいのは土層観察の結果と矛盾しない。ただし，遺構の周囲は条痕文土器を多量に包含しているので，鵜ヶ島台式土器は古い土器が流れ込んだ可能性も考慮すべきである。

(2) 包含層と遺構外出土土器（第169～171図，図版97～100）

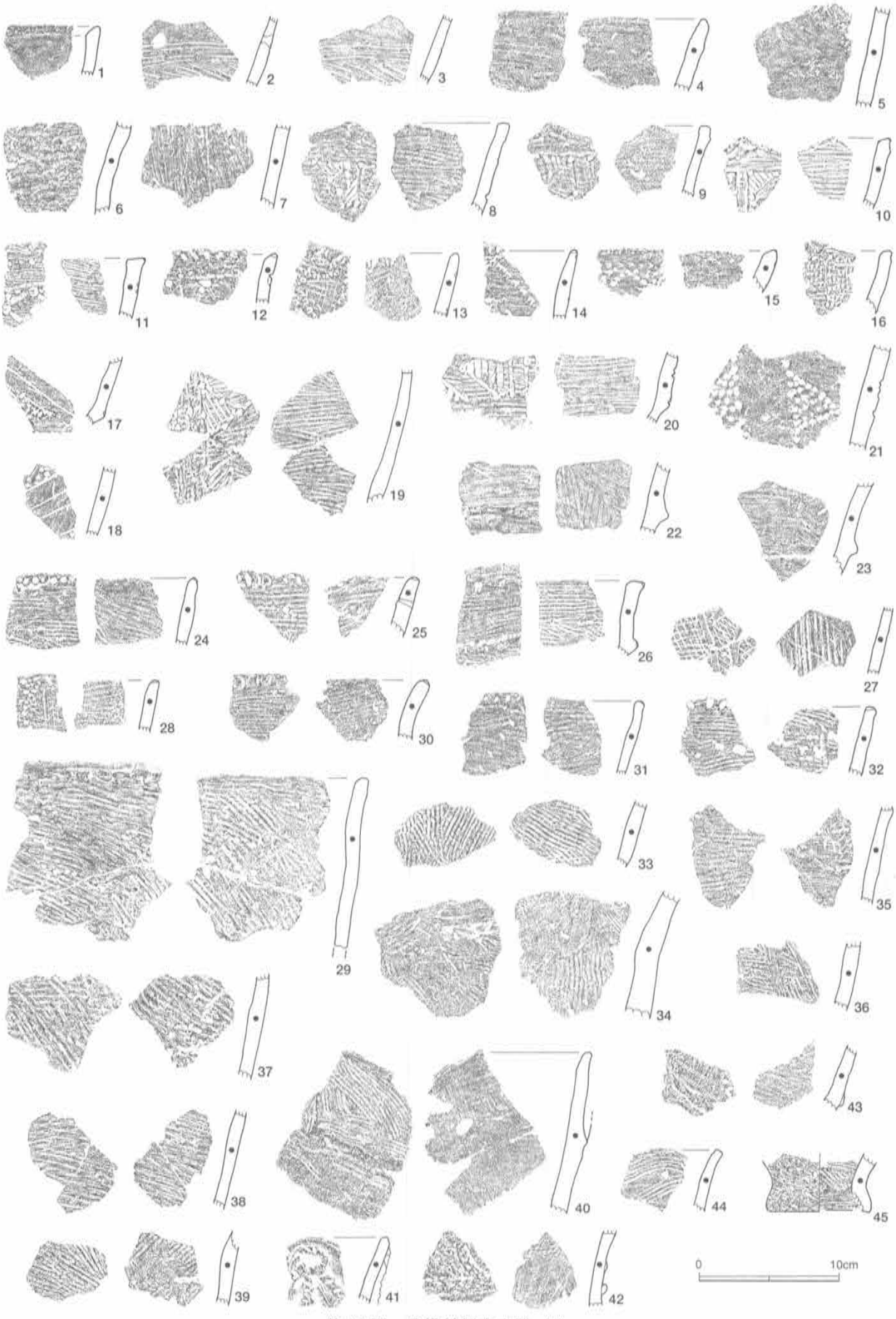
SM07塚の下層には新期テフラ層が良好に遺存しており,縄文早・前期の土器が多数出土した。遺跡全体のなかでも，もっとも縄文土器の出土数が多かった。包含層から出土したのは阿玉台式までであり，加曽利E式は遺構外で出土した。なお，Ⅱb層の上面には硬化面が認められた。住居跡と認定するには至らなかったが，なんらかの生活の痕跡である可能性は高い。

1～3は早期中葉の沈線文土器である。1は無文，2・3は集合沈線の土器でみな三戸式であろう。4～7は無文の土器で，子母口式であろう。7は内外面とも条痕がナデ調整によって消されている。8～46は早期後葉の条痕文土器である。

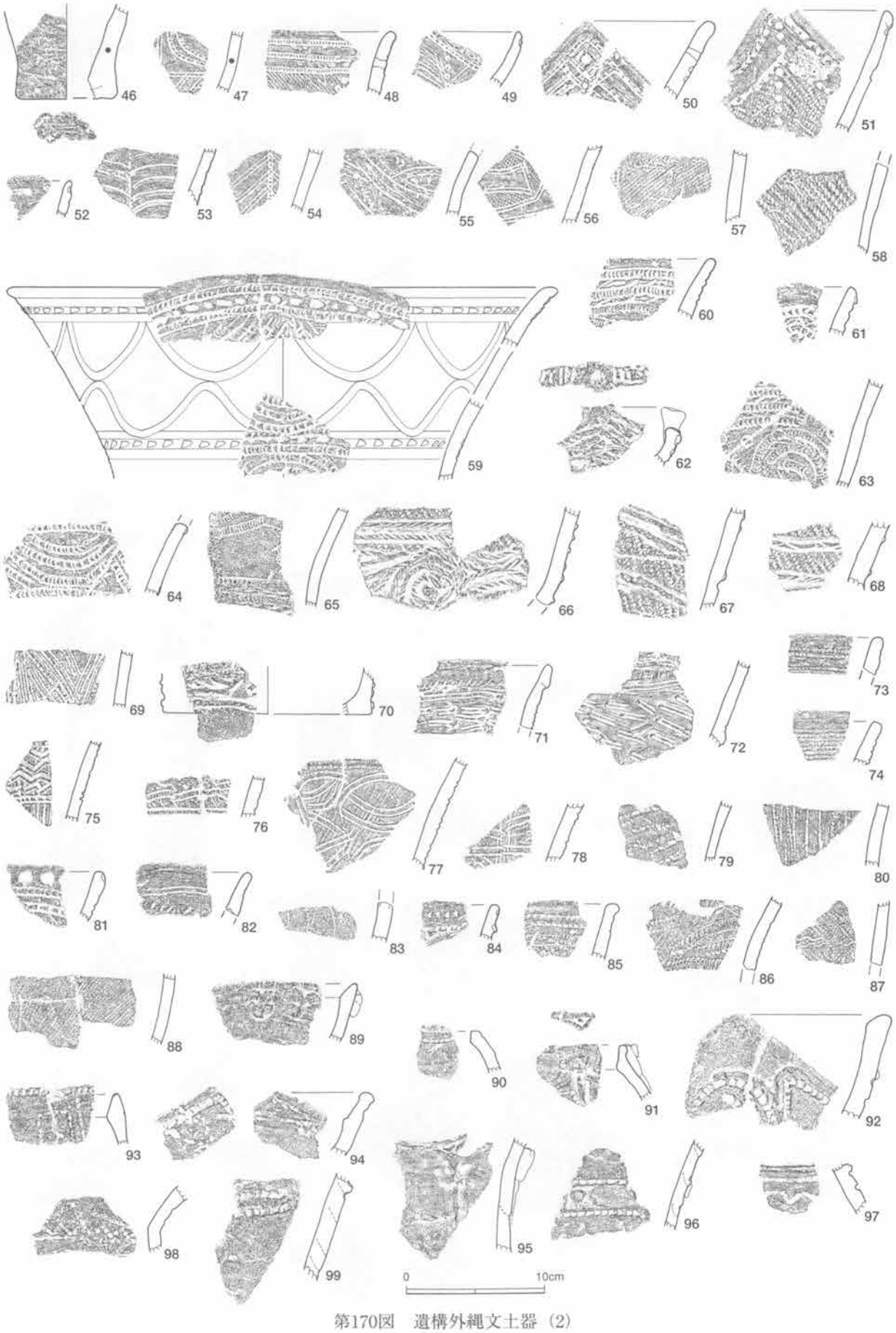


第168図　縄文時代・炉穴（2）（SK81）

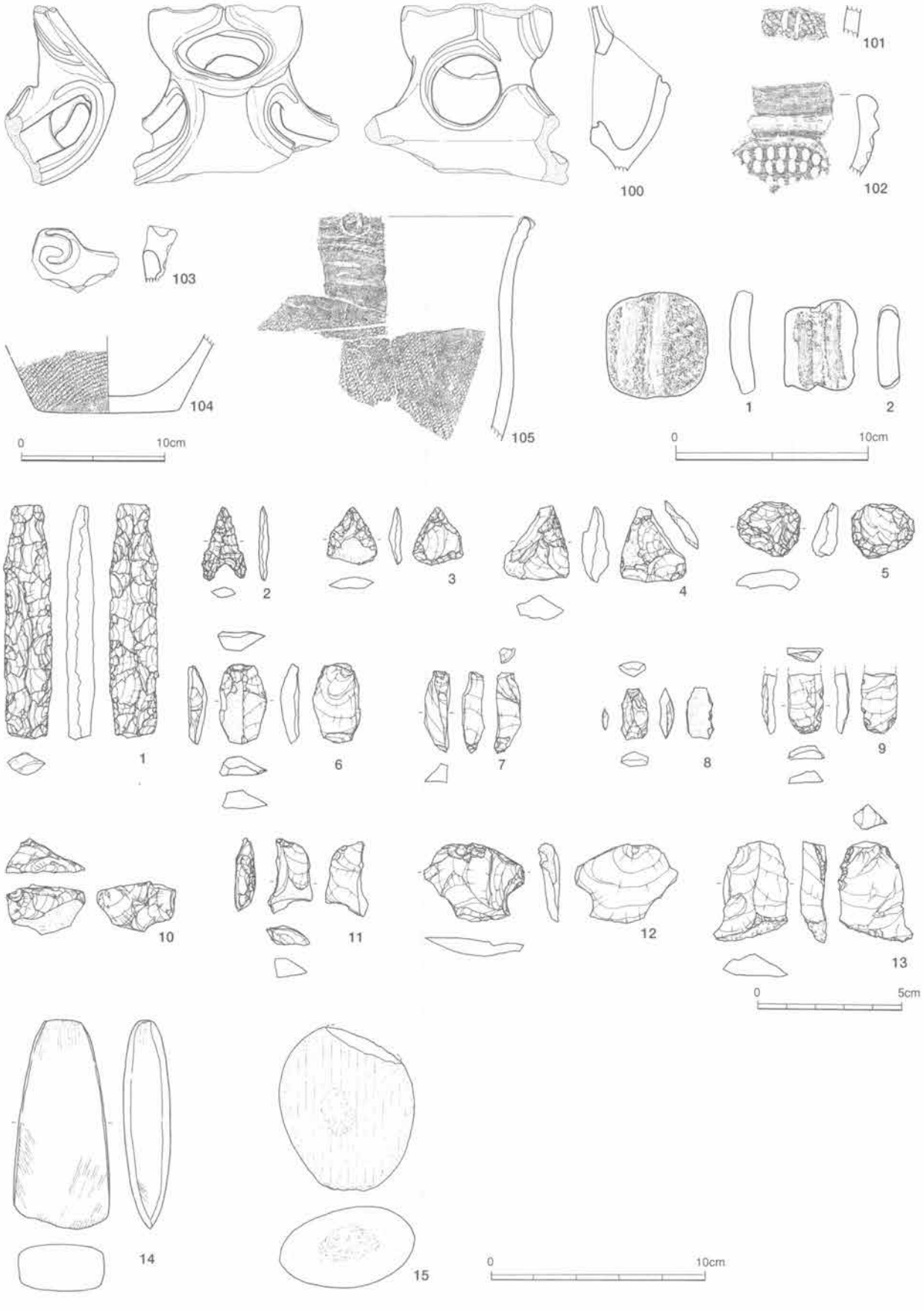
有文の土器をみると鵜ヶ島台式が多く，茅山上層式も混じる。8～10・19は微隆線区画内に沈線を充填し，微隆帯の交差部などに円形刺突を施す。17・18・20・27は沈線区画内に沈線や刺突を充填するものである。27は竹管の外側による幅広沈線で区画し，格子状の細沈線を充填する。11～16・21は区画をもたないが，沈線や刺突により意匠文を描くものである。これらは鵜ヶ島台式後半を中心とした資料であろう。22～26，29～39は意匠文をもたない土器である。30～39は口唇上に刻みをもつ。40は微隆帯によって幅の狭い口縁部文様帯を形成する。内面にドングリ圧痕が付いている。ドングリが入ったまま焼かれたようである。殻表面の皺まで明瞭であり，形状はミズナラなどコナラ亜属に似ている（図版97）。41・42は刻み隆帯による口縁部文様をもつ。42・43は絡状体圧痕をもつ。これらは茅山上層式ないし早期末葉の土器であろう。



第169図　遺構外縄文土器（1）



第170図　遺構外縄文土器（2）



第171図　遺構外縄文土器（3）・土製品・石器

45・46は平底の条痕文土器である。47は繊維土器であり，前期中葉・黒浜式であろう。48～88は前期後葉から末葉の資料である。47～51・57は幅の狭い爪形文，52～56は幅の狭い平行沈線の諸磯a式である。円形刺突，肋骨文，木の葉文がみられる。59～61，63～65はやや幅の広い爪形文，62･66～68・70は結節浮線文の土器で諸磯b式であろう。弧状や蕨手状のモチーフがみられる。71～86は浮島式である。71・72は平行単沈線，73～77は平行沈線または有節平行沈線で区画した文様帯を平行沈線による弧状・鋸歯状のモチーフで埋めている。浮島Ⅰ式であろう。79・80は撚糸文のみである。85・86は変形爪形文の土器で浮島Ⅱ・Ⅲ式であろう。87・88は前期末葉の土器であろう。

89～99は阿玉台式である。89～94は狭い口縁部文様帯，左右非対称のモチーフなどが特徴で阿玉台Ⅰa式であろう。96～99は隆帯に1条の角押文が沿う阿玉台Ⅰb式である。100～103は加曽利E式である。

(3) 土製品（第171図，図版97）

中期の土器片錘が2点出土した。

(4) 石器（第171図，図版101）

1は縦長の石匙であろう。2～4は石鏃またはその未成品である。5～9は両極打法によるもので，5は楔形石器，6～9は両極石核・剥片と判断した。10は石核である。11～13は剥片で，13は調整剥離がみられる。剥片石器類の素材はチャートと黒曜石が半々であった。14は磨製石斧，15は磨石類である。

2．中近世

(1) SX03（整形区画）（第172～179図）

近世遺構群である。台地を削りだして上下2段の平坦面とその間の斜面を形成している。上段（SX03U）には塚と溝がある。塚の周囲の平坦面は畑として利用された形跡がある。下段（SX03L）は土間とみられる平坦面や火床があることから，屋敷地であろう。斜面では昇降に使われた道を検出している。第172図の中央よりやや南側の崖が斜面であり，その北側は下段，南側は上段である。

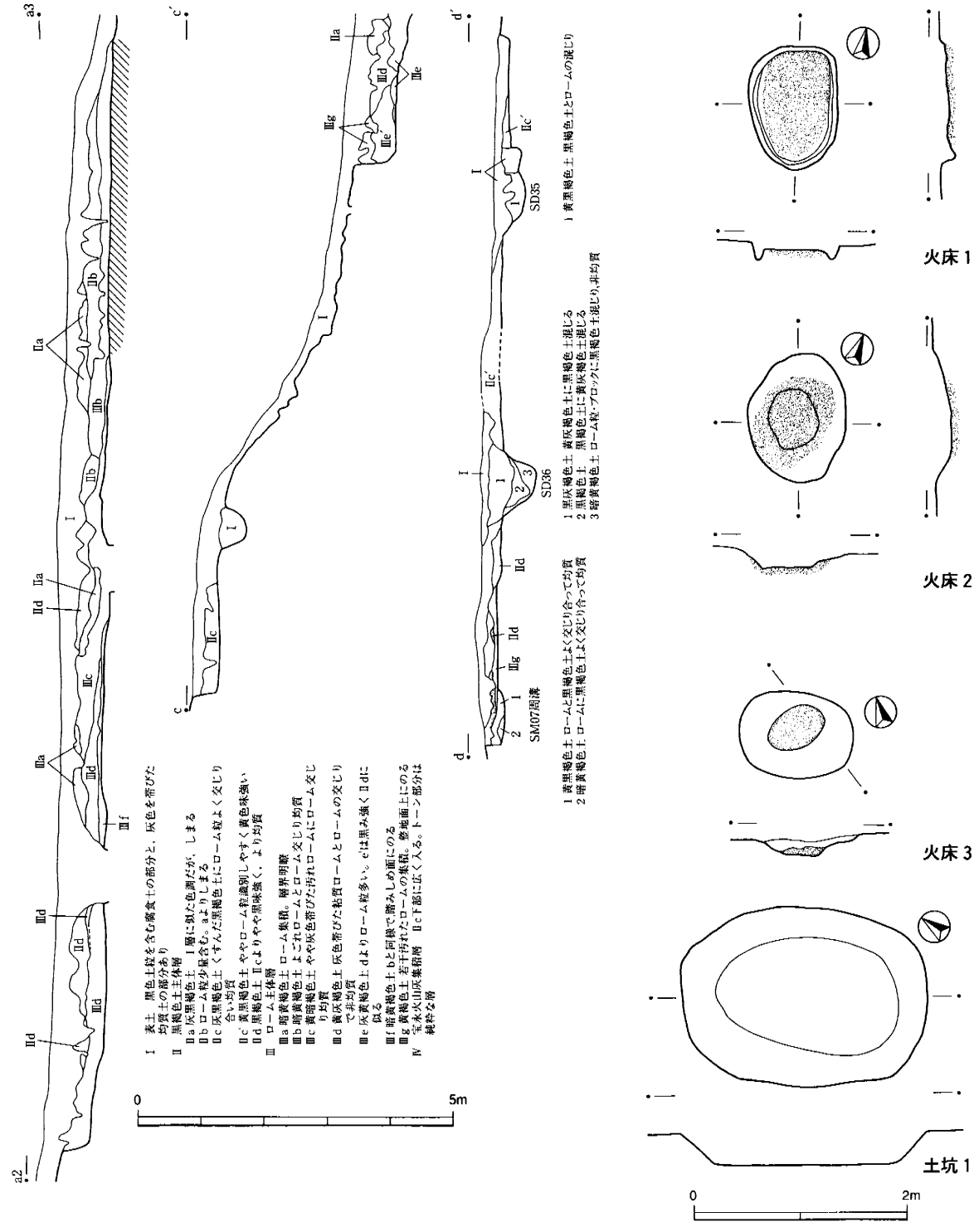
SX03L（整形区画-下段）（図版94･96）

下段のうち，方形に区画された部分が屋敷地であろう。全体が平坦に削りだされ，一部は硬く踏みしめられていた。区画は，南側では斜面から降りた部分にさらに作られた段となっており，東側では平坦に削りだした範囲の限界として把握したものである。区画の東側に沿うSD40はごく浅く凸凹で雨落ちの痕であろうか。溝として表現した部分から南北にかなり同様の若干の凸凹・窪みが続く。硬化面は南側の端は本来の範囲を示す可能性が高いのに対して，北側は現道に下りる斜面となって削られていたもので，範囲は残存部分を示すものである。このほかに，火床と推定される施設3基，屋敷に伴う可能性のある溝，土坑が存在する。

火床1　下段平坦面より若干低い平坦な焼け面を形成する。周囲にはU字状のくぼみをもつ。焼け面の周囲は境界がはっきりしているので，この部分を囲む何らかの施設を伴っていたものと思われる。例えば，縄文時代の石囲い炉や古墳時代の囲い施設をもった炉の状況とよく似ていた。なお，焼け面の縁辺には紫灰色の斑が顕著であった。また，北西側に砂の染みつきがみられた。

火床2　下段平坦面に若干の窪みを検出した。ほぼ底の範囲が焼け付いている。その外縁には紫灰色の染みつきがみられる。砂鉄のような光沢がある。なお，窪みの北西側に砂の染みつきがみられた。火床1との共通点が多い。

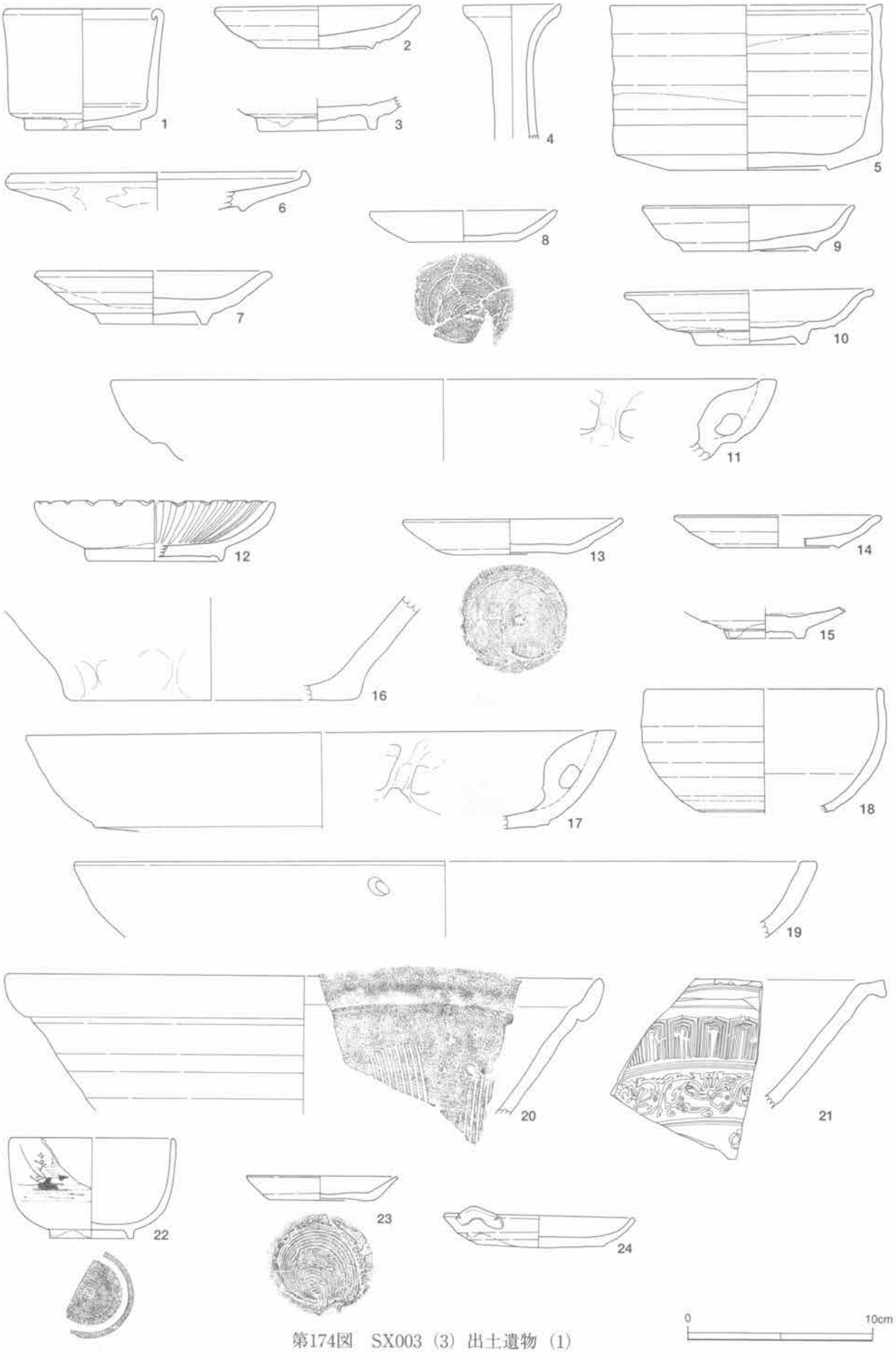
第172図　SX003（1）全体図



第173図　SX003（2）断面図・火床・土坑

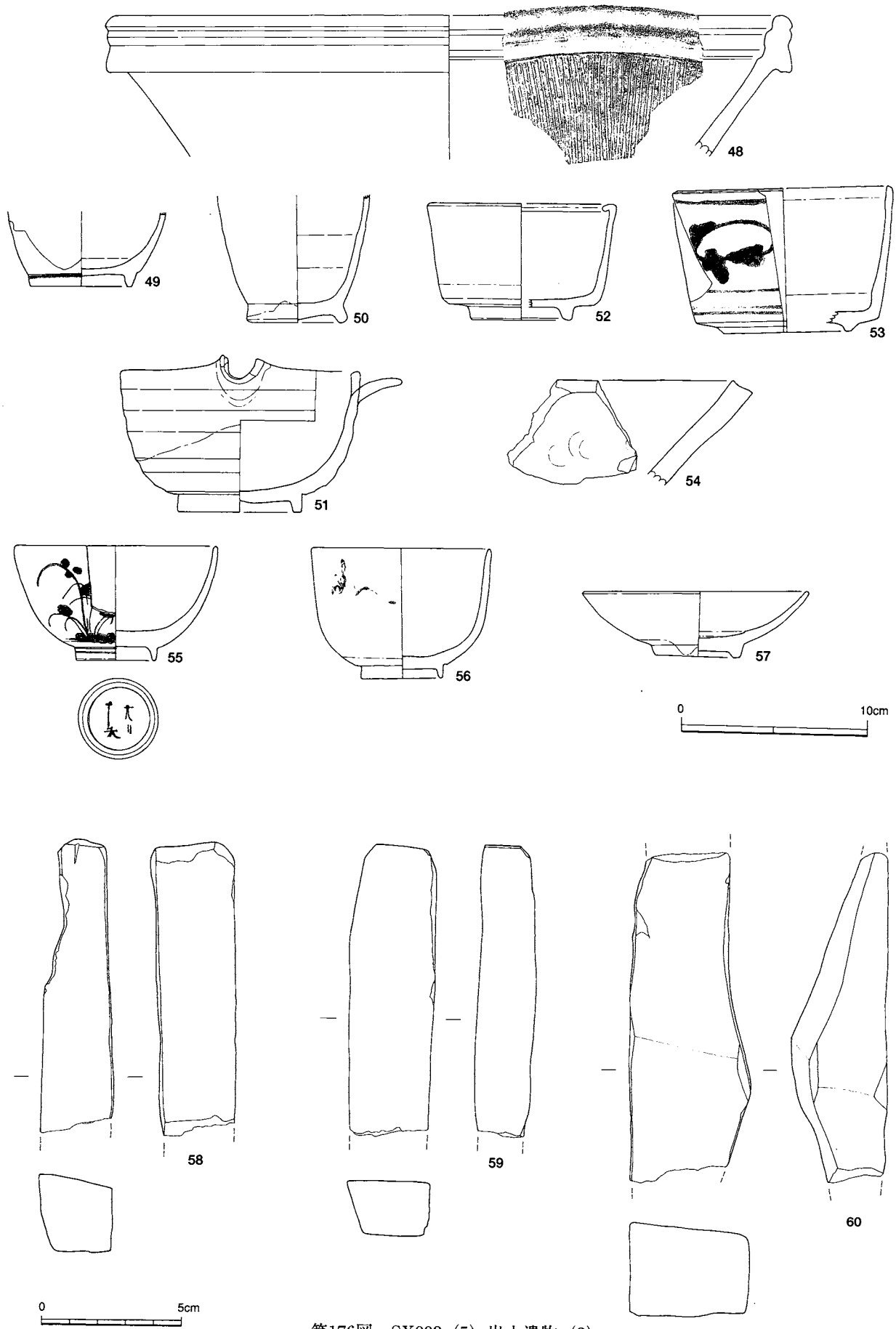
火床3　下段平坦面の途切れた付近にあり，浅い窪んだ部分に焼土が堆積している。覆土は平坦面を広く覆う暗黄褐色土である。この部分の地山はⅡc層（ローム漸移層）であるが，その10cmほど下のローム層のトップに紫灰色の斑状の凝着がみられた。確認トレンチにかかっていたため断ち割った状態で観察されたものである。

SD41　下段平坦面の西側を区画する段に沿った窪みである。この段と溝の延びる方向は東側や南側の区

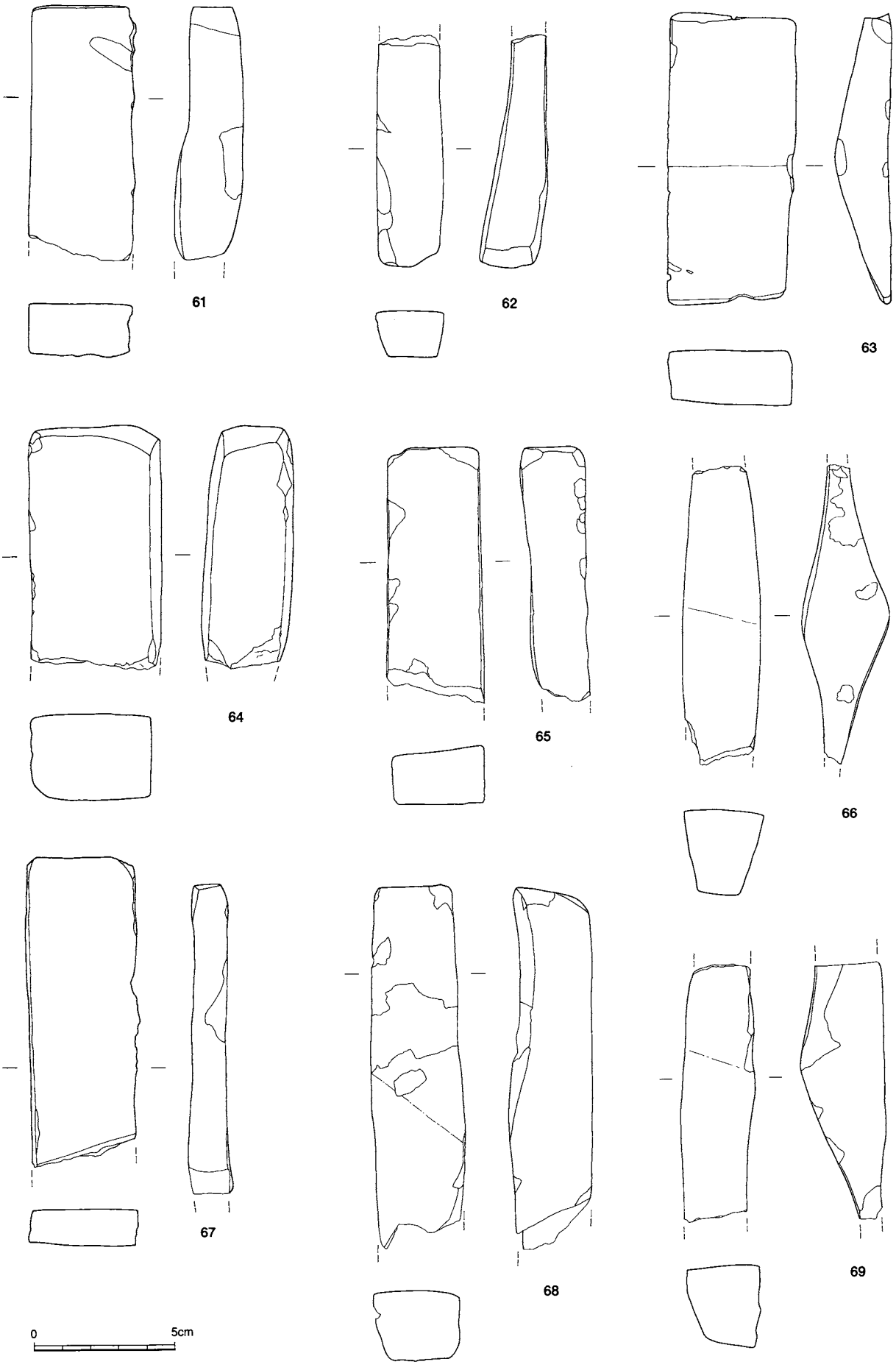


第174図　SX003（3）出土遺物（1）

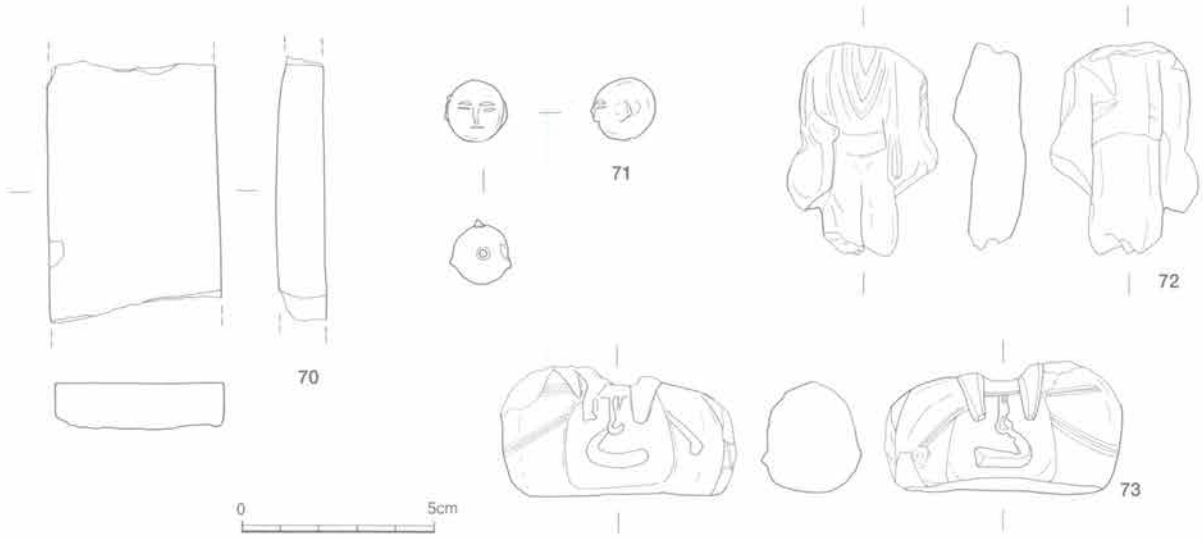
第175図　SX003（4）出土遺物（2）



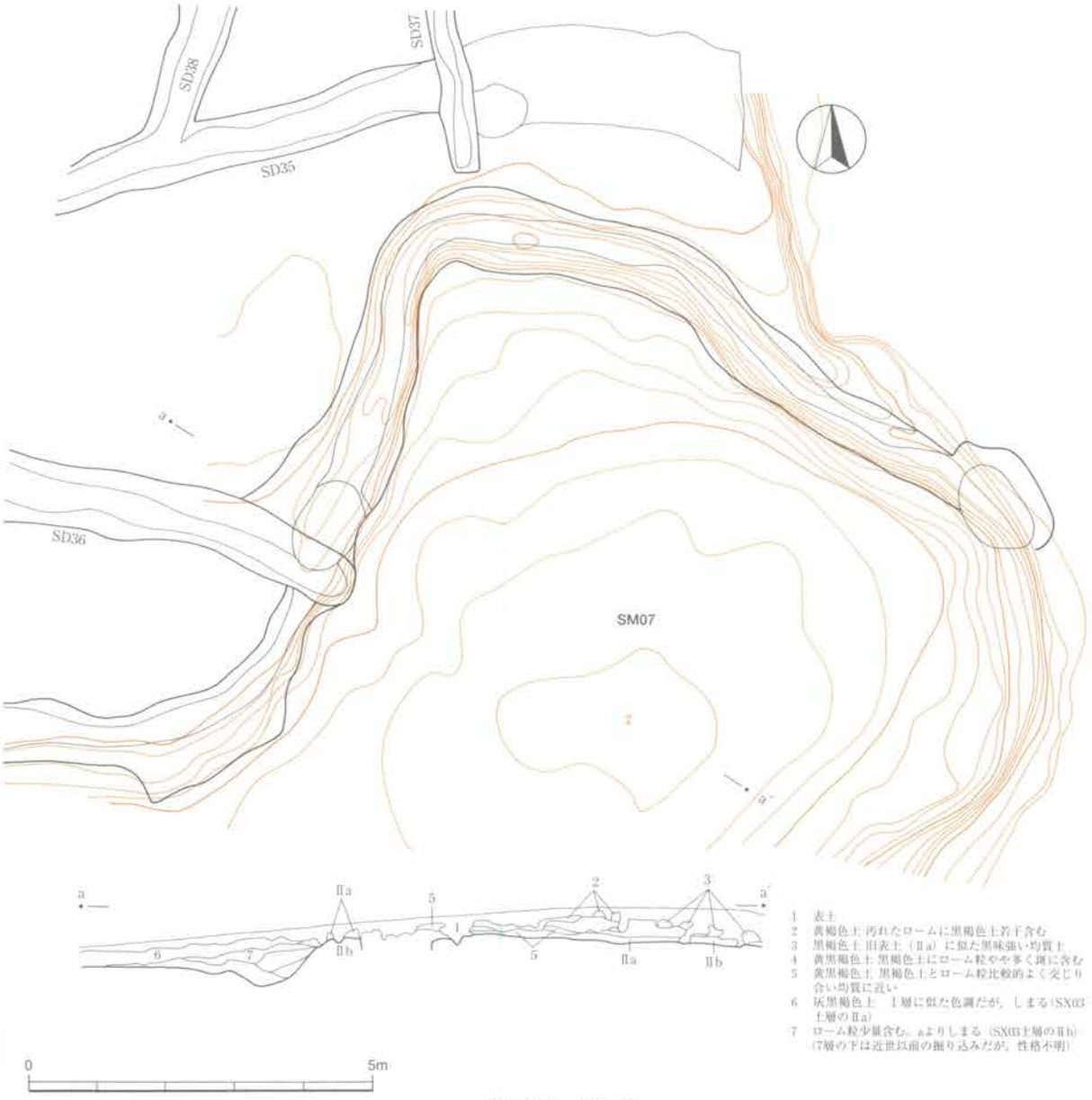
第176図　SX003（5）出土遺物（3）



第177図　SX003（6）出土遺物（4）

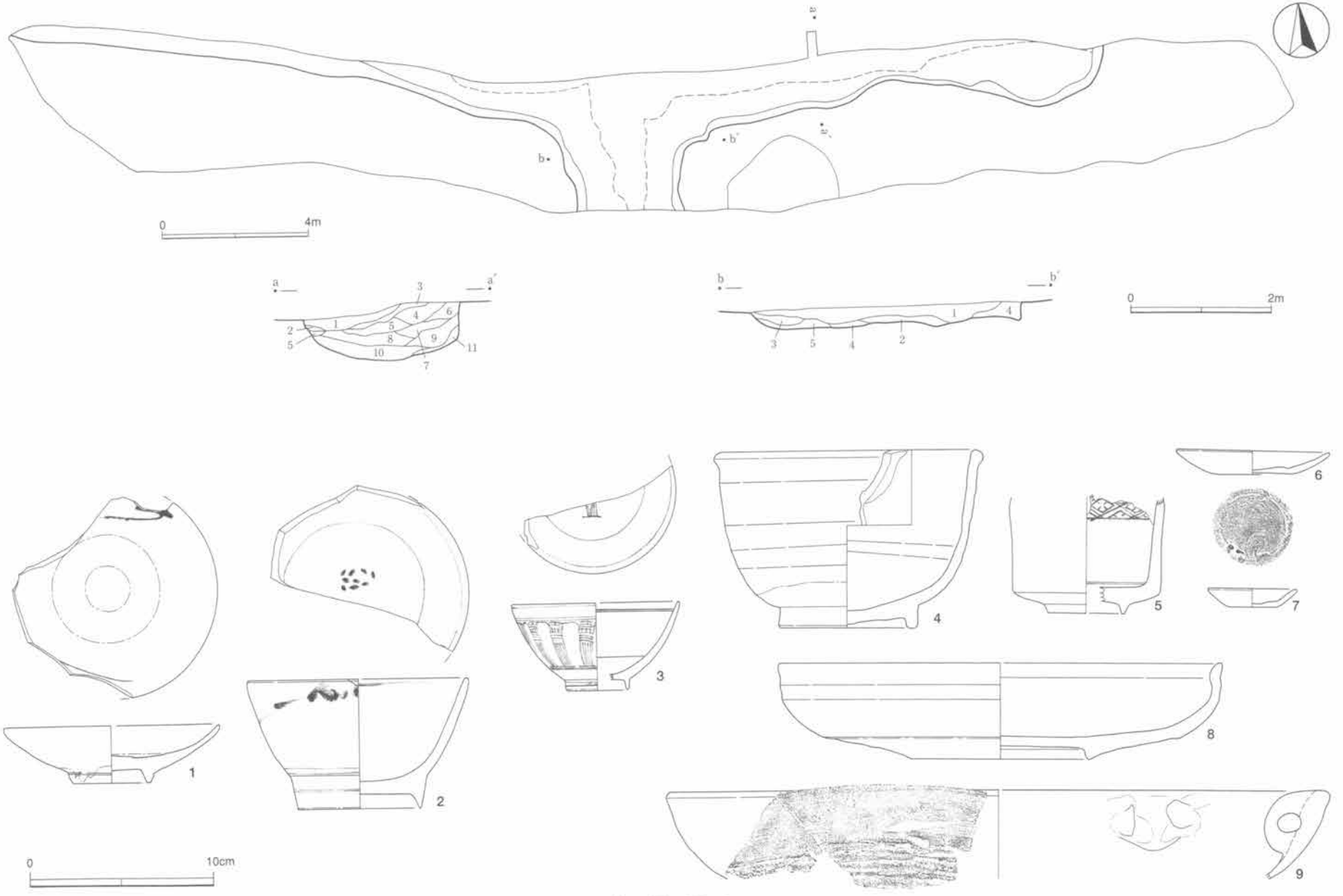


第178図　SX003（7）出土遺物（5）

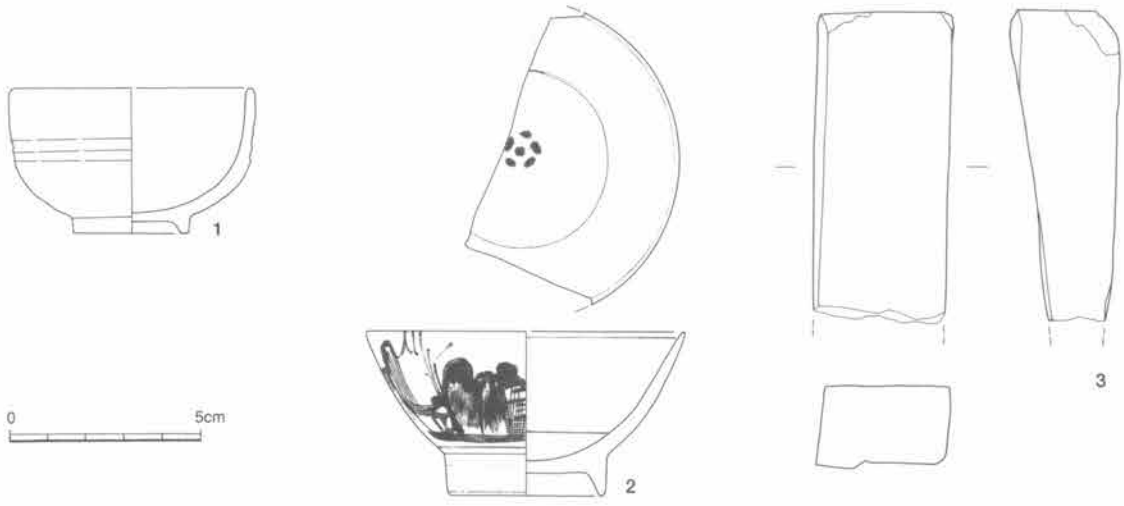


1　表土
2　黄褐色土 汚れたロームに黒褐色土若干含む
3　黒褐色土 旧表土（Ⅱa）に似た黒味強い均質土
4　黄黒褐色土 黒褐色土にローム粒やや多く斑に含む
5　黄黒褐色土 黒褐色土とローム粒比較的よく交じり合い均質に近い
6　灰黒褐色土　1層に似た色調だが、しまる（SX03土層のⅡb）
7　ローム粒少量含む、aよりしまる（SX03土層のⅡb）
（7層の下は近世以前の掘り込みだが、性格不明）

第179図　SM07



第180図　SD42



第181図　遺構外出土近世遺物

画と軸が合わない。

土坑１　SD41の途切れる部分にある楕円形の掘り込みである。深さは約30cmあり，底は平坦である。覆土中にはハマグリ（左殻：10，右殻：８）とアサリ（左殻：５，右殻：３）が入っていた。貝殻は現地で処分した。

下段の緩斜面　東～東南部の緩やかな崖マークの部分は屋敷地外とみられる。出土遺物をみても新しく，現世にまで使用された大きなごみ穴が存在した。

下段出土遺物（第174～176図，図版102）　１～53が下段出土遺物である。15世紀後半から19世紀のものまで見られる。このうち，屋敷地とみられる平坦面に伴うものに絞ると，ほとんどが17世紀～18世紀前半のものとなる。18世紀後半以降のものは東～東南の緩斜面の屋敷地外から出土したものがほとんどである。平坦面で取上げられたのは2～8,10～19,23,35～43である。このなかには18世紀後半のものも含まれる（37･38）が，35～38は下段調査時に一括で取上げられたものであって，正確な帰属は不明である。遺構群の時期はおおむね17世紀代で，18世紀前半には埋まり始めたとみることができそうである。器種では瀬戸・美濃系の各種皿が目立つ。そのほかには，瀬戸・美濃の香炉，徳利，擂り鉢各３点，瓶２点，堺の擂り鉢３点，肥前の染付皿４点，陶器皿３点，碗２点，かわらけ４点，焙烙３点などが複数出土した器種である。土器以外では砥石がまとまっている。平坦面から出土したことが確認できるのは59～62，65である。そのほかは緩斜面で出土した。泥人形のうち，71の仏像頭部と73の馬の胴体が平坦面で出土した。72は仏像の体部であり，平坦面と緩斜面の境界付近で出土している。

SX03U（整形区画-上段）（図版94）

上段には塚，その周囲の平坦な整形面，溝がある。

SM07（塚）（179図，図版95）　塚である。旧表土（Ⅱa層）上に若干の盛土が残る。周囲は溝が巡り，その周辺は旧表土よりかなり低く平坦化されているため，盛土が少ない割りには高く盛り上がって見える。なお，古墳の造り替えの可能性を検討したが，とくにその可能性を示す証左は得られなかった。旧表土下は縄文時代の包含層と炉穴がよく残っていた。出土遺物は第176図55～57である。３点が17世紀後半から18世紀のものであり，ある程度塚の時期を示しているであろう。下段整地面より若干時期が下るが，塚の造

られた年代が17世紀であったとしても矛盾はない。

上段平坦面の溝（179図，図版95）　SD35（溝1），SD36（溝2），SD37（溝3），SD39（溝5）がある。SD39で古墳後期の土師器杯（非掲載）が出土したほかには遺物は見られなかった。

平坦面覆土　第173図cおよびd断面のように，Ⅱc，Ⅱc'とした灰黒褐色土ないし黄黒褐色土が平坦面を広く覆っている。耕作によって均質化し，灰色を帯びたのではないだろうか。Ⅱc層の下部には広い範囲で宝永火山灰が分布していた。比較的量が多かったのはSM07の周溝上である。

SD38（溝4）　道路跡である。上段、下段遺構群の昇降用,掲載出土遺物はない。

(2) 南端部の調査区（第180図）

SD42（溝8）　溝の内部に踏みしめをもつ道路跡である。全体の形状は不明である。踏みしめは底面から10層までの間とa断面の5層上面の，大きく分けて2時期ある。5層上には破砕貝が踏み込まれている。平面図では破線の範囲が上部の踏みしめ面である。出土遺物は17世紀から19世紀までばらついていて，遺構の時期は決めがたい。

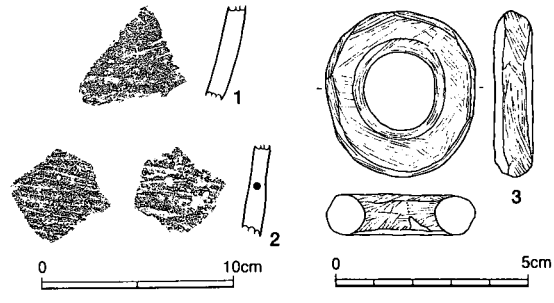
(3) 遺構外近世遺物（第181図，図版102）

瀬戸･美濃系の碗2点と砥石1点を図示した。

第16地点

1．縄文時代（第182図）

SM08古墳･塚の下層で若干縄文土器が出土している。無文で時期不明の土器1点，早期後葉の条痕文土器1点と，環状の石製品1点が出土している。石製品は蛇紋岩製であり，粗い整形痕が全面にみられる。盛土に設定したトレンチのかなり深い位置から出土しているので，旧表土下の縄文時代の堆積層から出土した可能性が高い。



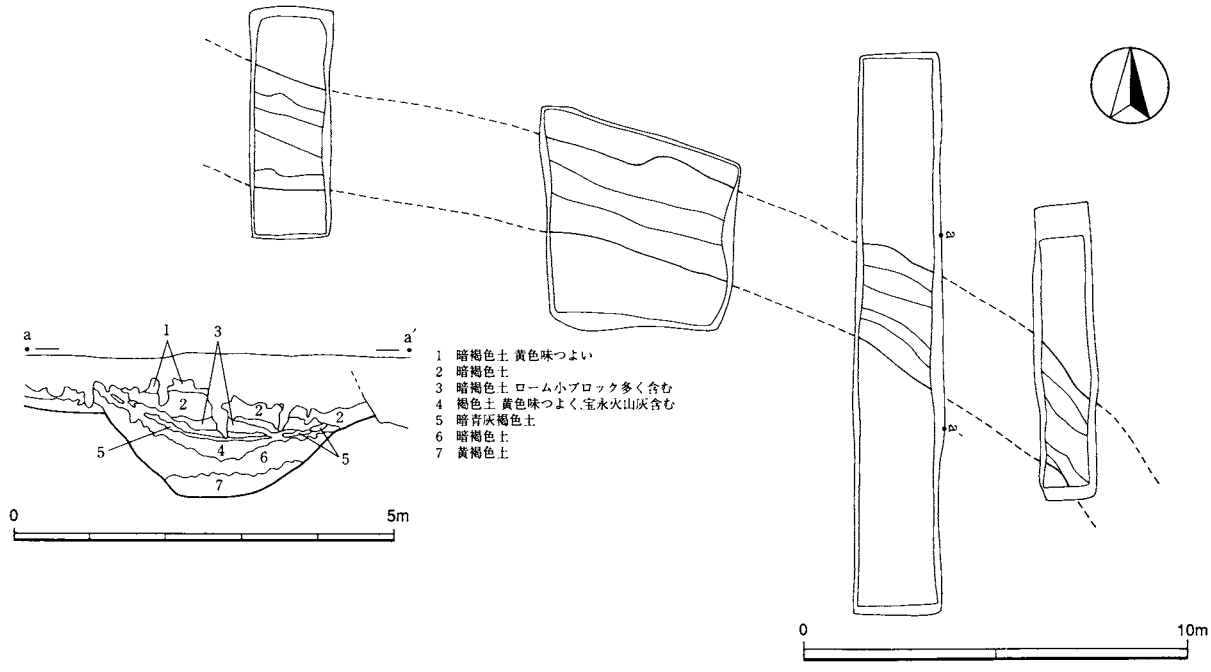
第182図　遺構外出土縄文遺物

2．古墳時代（第183図）

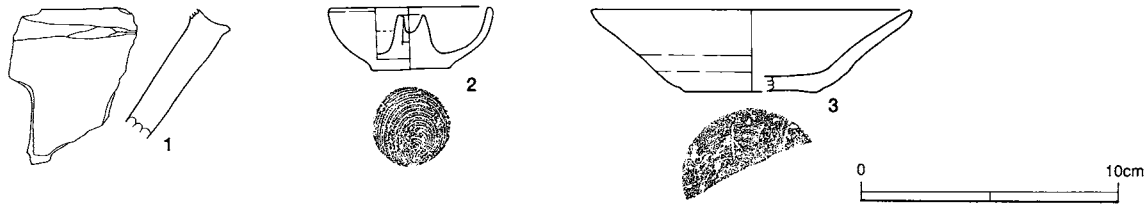
SM08（古墳）（図版105）　古墳が塚に改変されたものである。調査以前は塚状部分の中央部には社が置かれ，斜面に階段が作られていた。大木が生えていたために調査は限定的に行わざるを得なかった。古墳の造り替えであるかどうかを検討していたところ，塚状の中心部分に旧表土と盛土が遺存することを確認することができた。さらに，東側で周溝を検出したため，古墳であったと判断した。少ないとはいえ，須恵器杯片（1）も出土した。周溝のカーブを信頼すると，墳丘径17～20m，周溝外側で径25m～28mクラスの大型円墳であったことになる。これは第11地点･20地点のSM05をやや下回る程度，第28地点のSM10と同程度の規模である。墳丘断面図a・bの左側では，墳丘を大きく削り込んだ崖面に多量の土が崩落した様子が伺える。薄いトーンの部分は暗褐色土で，盛土が崩落したものかもしれない。それ以外の白抜き部分は表土と同様であった。大木を残しての調査であり,墳丘を全掘することはできなかった。そのためか，埋葬施設は発見できなかった。

a
a'
b
b'
c
c'
0
10m
IIb
IIc
旧表土
凡例
暗黄褐色・黄褐色土
暗褐色土
黒褐色土
黒色土
1
0
10cm
1 暗褐色土
2 黒褐色土 黒色土粒主体
3 黒褐色土 黒褐色土粒主体
4 暗褐色土 ローム粒多く含む
0
5m

第183図　SM08



第184図　SD43



第185図　遺構外出土近世遺物

3．近世

SM08（古墳）　古墳墳丘の周囲を削り，塚または神社としている。すでに記載した。

SD43（溝）　溝である。時期を示す出土遺物はないが，覆土上層に宝永火山灰が混じることから，17世紀代であろう。

第8節　第17·18·19·20·21·22·23·24地点

第17～第24地点は平成2年度に調査を行った。位置は有吉集落の東側から南側にかけて点々としており，いずれも小範囲である。このうち，遺構が検出されたのは第18・19地点，20地点，22地点のみである。それ以外の地点は概要を述べるにとどまる。

1．各地点の概要

(1) 第17地点（図版103）

南の第28地点と北の第14地点に挟まれる。縄文時代の磨石（第186図1）のみが出土した溝を調査したが，現世のものと判明した。1は砂岩製であり，ほぼ円形である。側面の周囲と平らな面の中央が荒れており，平坦面の中央以外は著しく摩滅して光沢をもつ（図版107）。

(2) 第18・19地点

西側は第30地点，東側は第11地点である。現道に沿う土塁を測量し，トレンチを入れて断面を観察した。また，土塁の下で検出した溝も調査した。

(3) 第20地点

第11地点の西側である。11地点で検出したSM05の残り3分の1ほどを調査した。墳丘の径25.5mを測る大型の円墳である。埋葬施設をはじめ，主な出土資料は第11地点で見つかったこともあり，第4節に記載した。

第186図1～5は古墳の調査で出土した縄文土器である。1～3は加曽利E式，5は加曽利B式である。4は堀之内式か。いずれも小片である（図版107）。

(4) 第21地点

現道に沿う土塁にトレンチを入れたところ，土塁の土は表土と同じであり，現世のものであることが判明したため調査を終了した。

(5) 第22地点

第16地点の北側，第28地点の西側に位置する。早期の炉穴と古代の住居跡の可能性のある掘り込みを検出した。

(6) 第23地点

第15地点の東側，第16地点の西側に位置する。出土遺構・遺物は皆無であった。

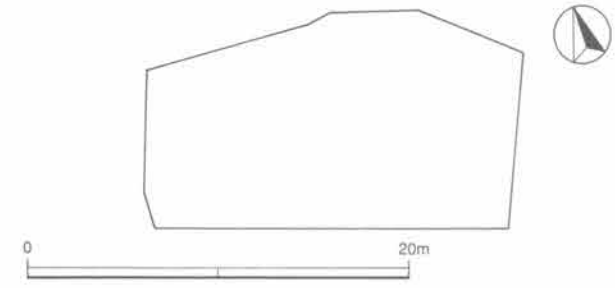
(7) 第24地点

第15地点の西側に位置する。出土遺構・遺物は皆無であった。

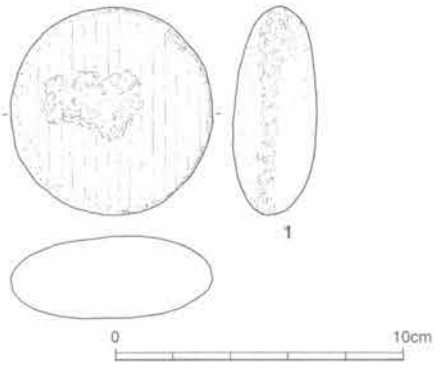
2．第18・19地点（第188・189図，図版103）

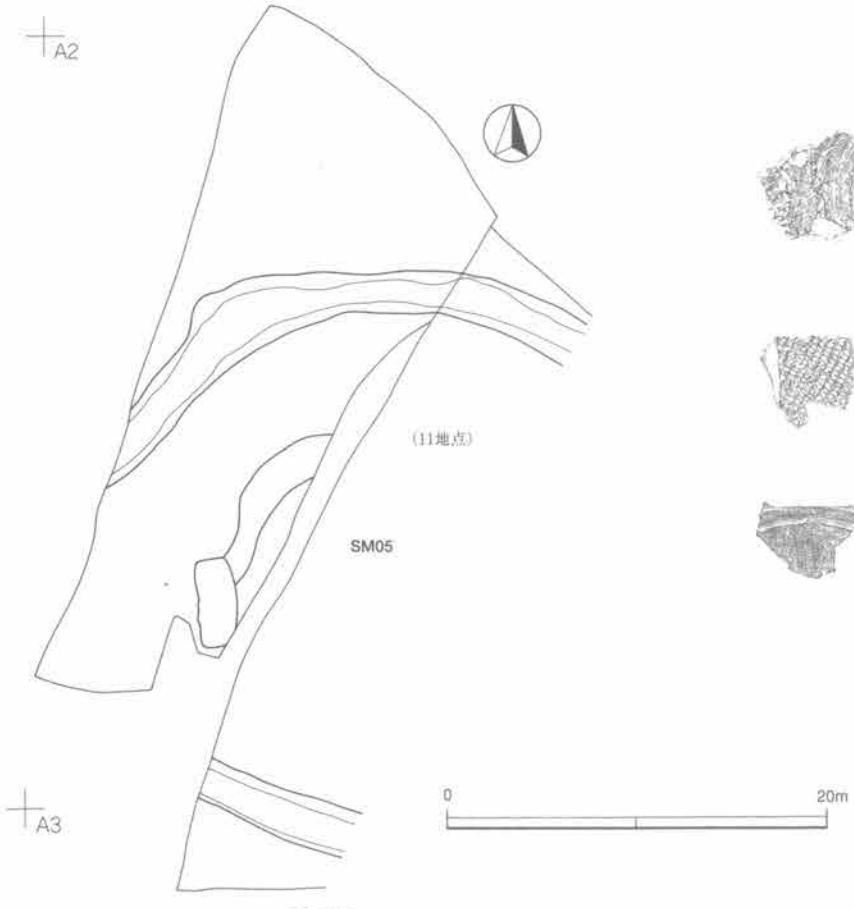
SX04（土塁）　現道に沿って築かれた東西に伸びる土塁（第188図）と，そこから直角に南北に伸びる土塁（第189図）が調査対象となった。現在の住宅地の区画にもなっており,時期がどこまで遡れるかが調査のポイントとなった。

断面をみるとソフトローム層（Ⅲ層）または漸移層（Ⅱc層）まで平坦に削平され，SD44溝が掘られ，埋まった後に土塁が造られている。溝と土塁は平行しているので，おそらく溝の果たしていた区画の機能が土塁に受け継がれたものであろう。土坑も検出されたがごく新しいものと判断した。掲載遺物はないが，

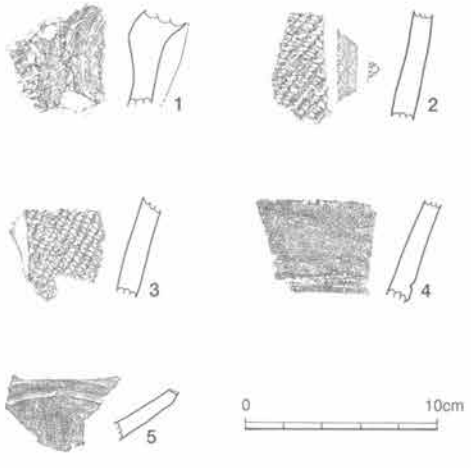


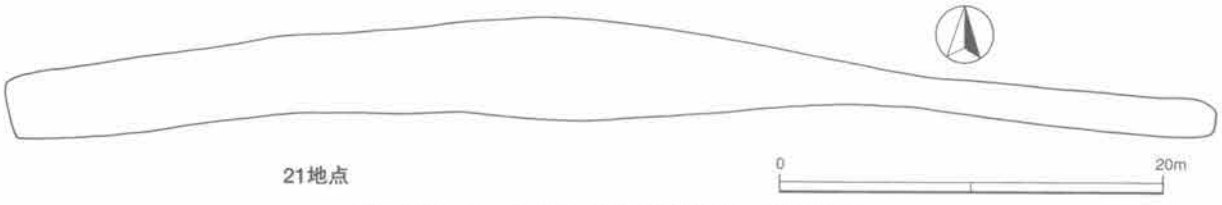
17地点





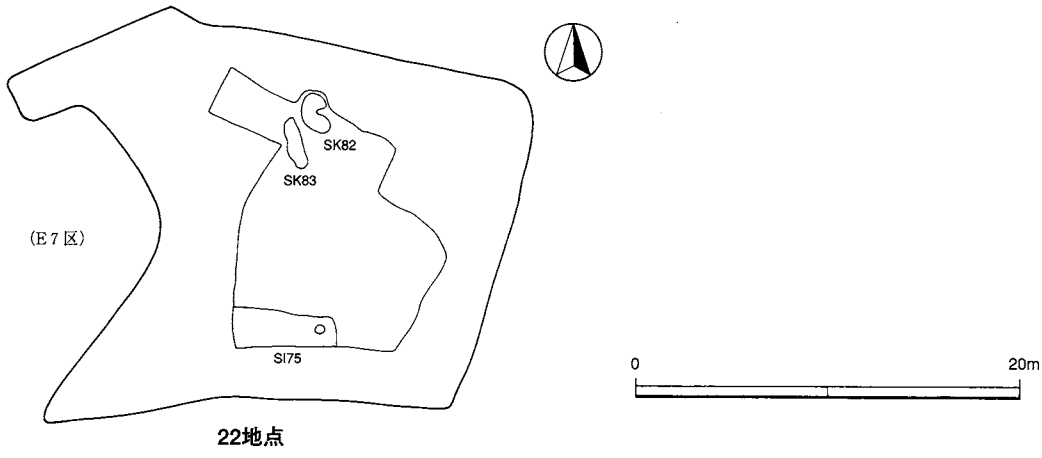
20地点



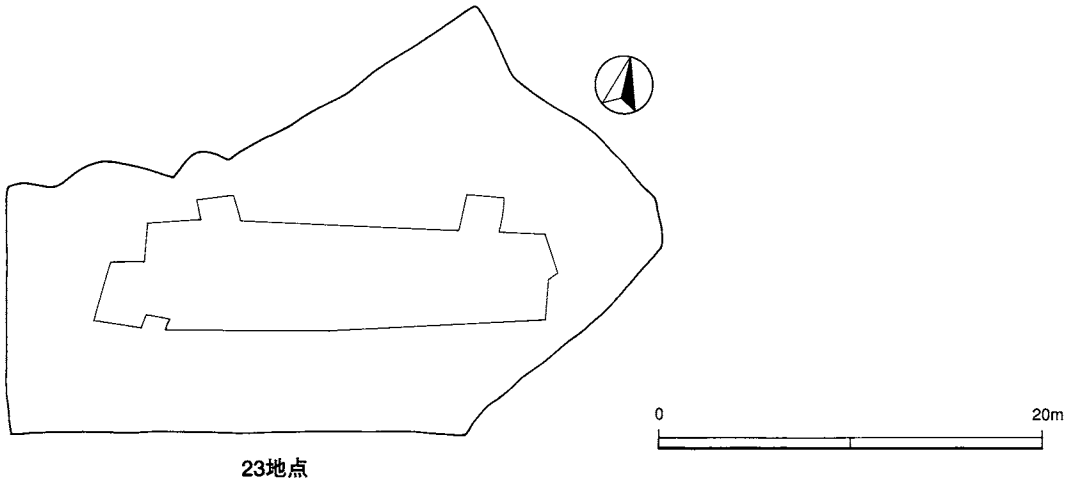


21地点

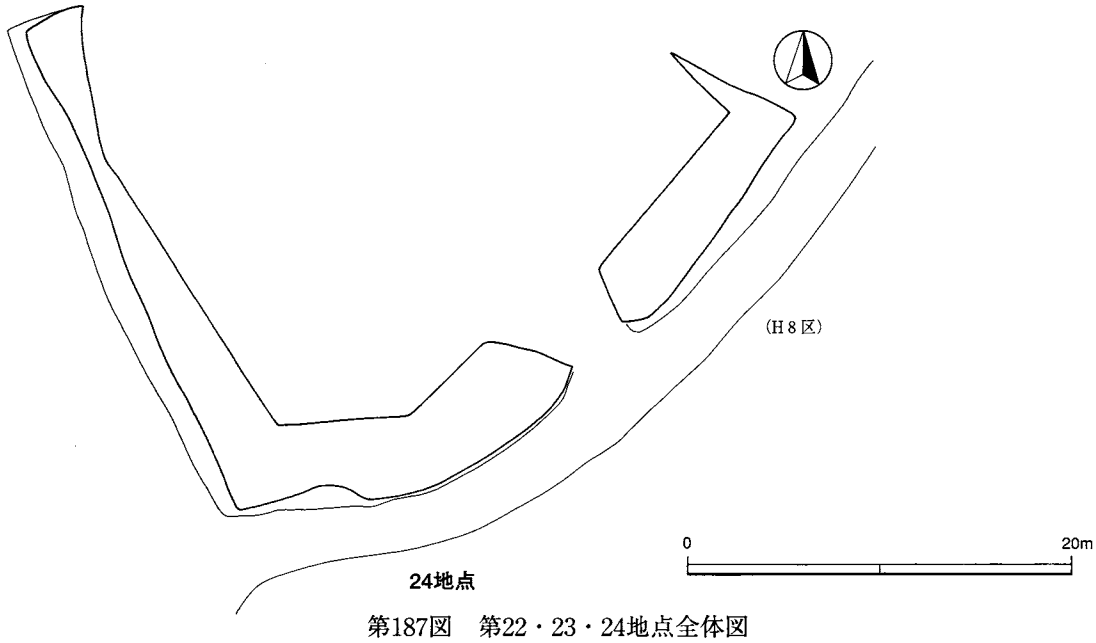
第186図　第17・20・21地点全体図，出土遺物



22地点

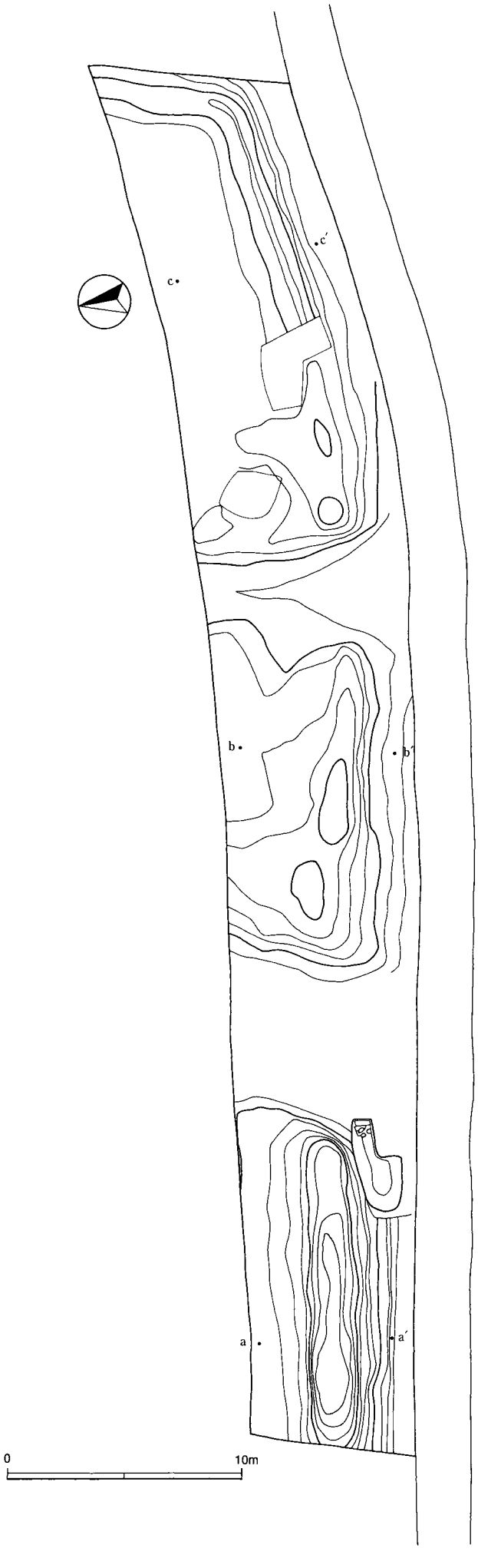


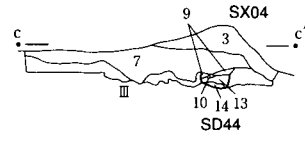
23地点

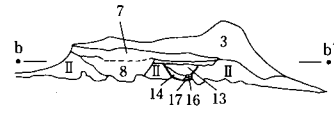


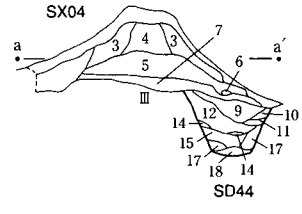
24地点

第187図　第22・23・24地点全体図







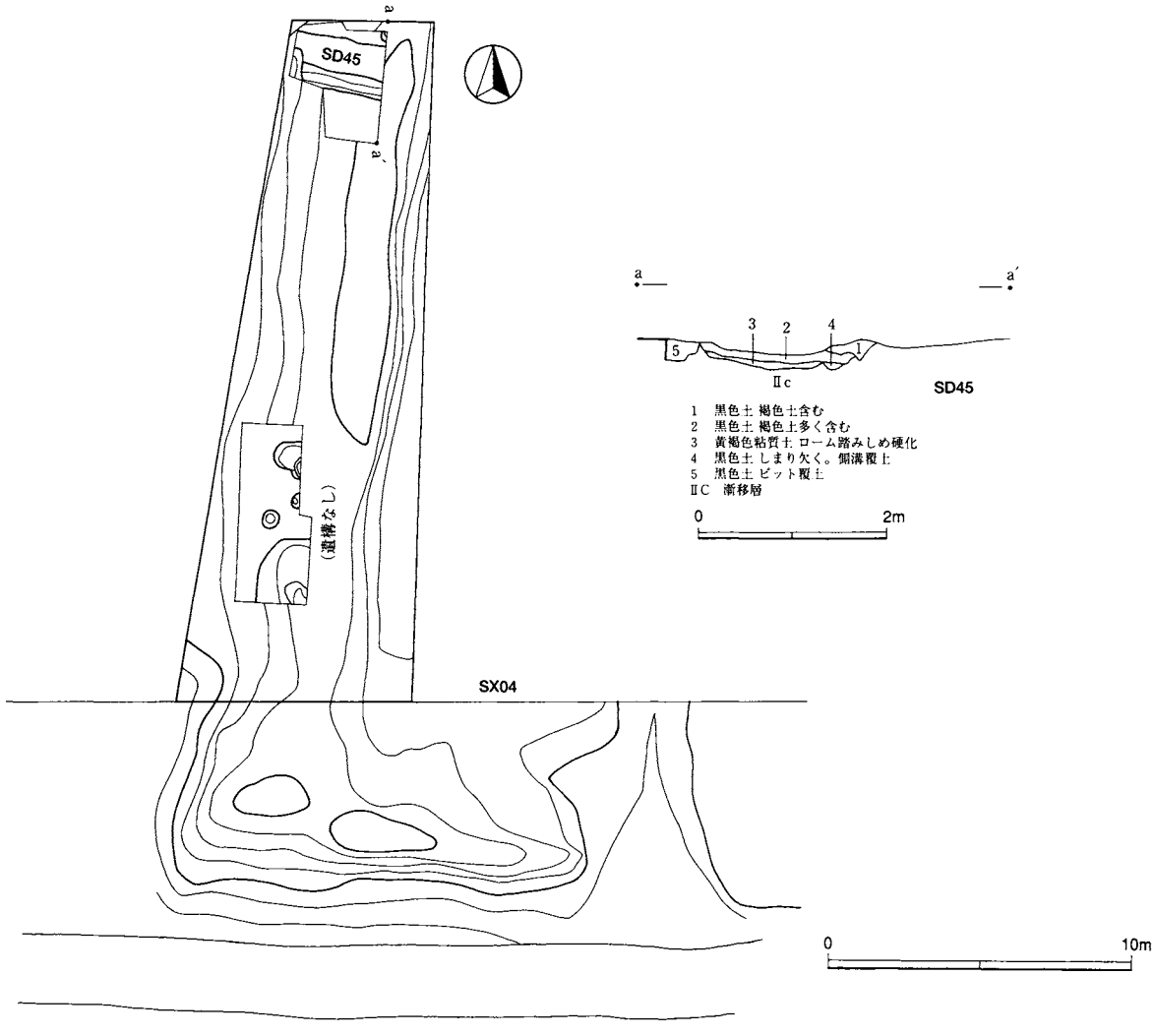


1　暗褐色土＝表土
2　暗褐色土 1よりしまるが表土か
SX04（土塁）
3　褐色土 4よりしまり欠く。やや崩れた土塁
4　褐色土 褐色土と明褐色土斑状
5　淡明褐色土 黄褐色土に褐色土斑状に含む
土塁下の旧表土
6　黒褐色土 しまり欠く
7　暗褐色土 黄褐色土・橙スコリア含む，しまる
8　暗褐色土 Ⅱ層に木の根の攪乱
9　暗褐色土 黄褐色土粒含み，しまる
SD44（溝）
10　暗褐色土 黄褐色土含む
11　黄褐色土 黄褐色土ブロック主体
12　淡褐色土 黄褐色土ブロック含み，ややしまり欠く
13　暗褐色土 宝永火山灰少量含む
14　黒褐色砂土 宝永火山灰多く含む，一部集積層
15　暗褐色土 黄褐色土多く含む
16　黄褐色土
17　暗褐色土 均質でしまる
18　暗褐色土 ロームブロック多く含む

Ⅱc　漸移層，根の攪乱多い
Ⅲ　ローム層

0　4m

第188図　第18地点全体図（1）

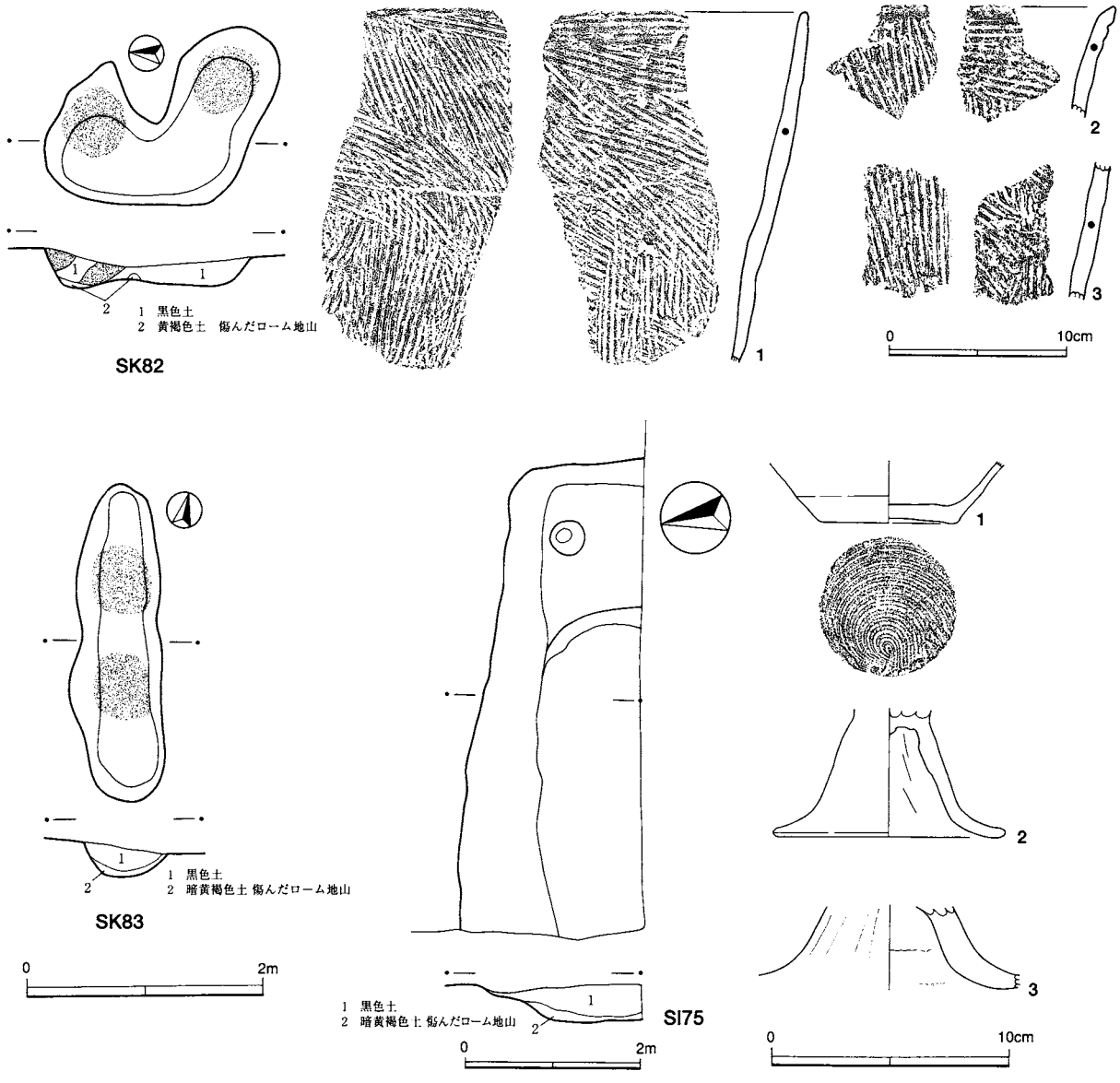


第189図　第18地点全体図（2）

溝の埋まった17世紀前葉以降に造られたことになる。ごく新しい土塁は表土と同様のしまりのない土層でできているのに対して,この土塁はかなりしまっていたので近世の可能性が高いが，それを証明できる情報は得られなかった。遡ったとしても近世の屋敷に伴うものであって，中世の城郭に伴うものではないであろう。なお，土塁の切れているところは住宅の出入り口である。

SD44（溝）　SX04土塁下の溝である。13層は宝永火山灰を含む層，14層は宝永火山灰の集積であり,掲載遺物はないが17世紀前葉には埋まりはじめていたことになる。a～cの各断面で検出されている。底面はやや平らな部分をもち，立ち上がりはかなり急である。a断面をみると，土塁の下面を上場とすると，幅２m，深さ1.5mほどあったことになる。トレンチ調査で断面観察が行われたが，土塁を全掘しなかったため全容はわかっていない。

SD45（溝）　SX04土塁下の道路状遺構である。南北に伸びる土塁の調査区北端に入れたトレンチで検出した。底面から３層までが踏み固められていた。掲載遺物はなく，時期を検討する材料が得られなかった。なお，南北に伸びる土塁の中間付近にもトレンチをいれ，土坑を検出したが,ごく新しいものと考えられた。



第190図　第22地点遺構（SK82・83，SI75）

3．第22地点

(1) 縄文時代（第190図）

SK82（001）（図版107）　早期後葉の炉穴2基である。1・3が出土した。内外面に条痕が施される。主文様をもたないが，口唇の形状から茅山下層式であろう。

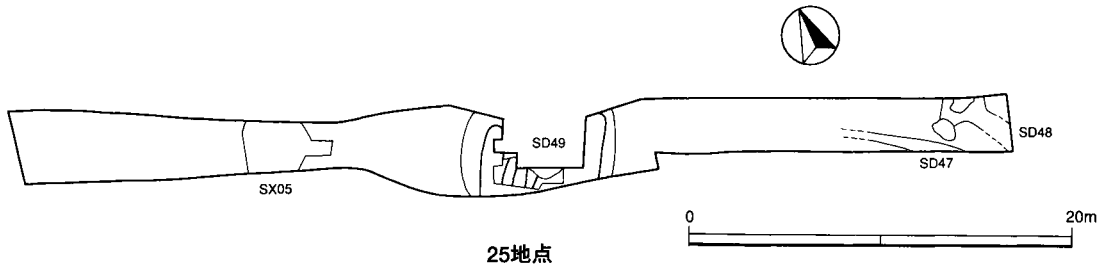
SK83（002）（図版103）　早期後葉の炉穴2基である。2が出土した。内外面に条痕が施される。主文様をもたないが，口唇の形状から茅山下層式であろう。

(2) 古代（第190図）

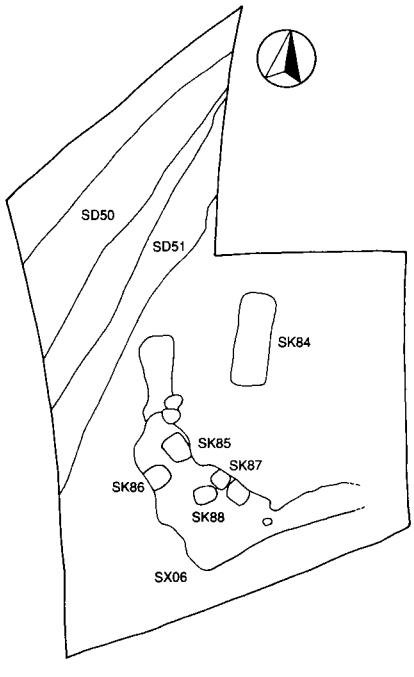
SI75（003）　平面形状から古代の住居跡の可能性があるものとして掲載した。平安時代の土師器杯と,古墳後期の高杯が出土しており，住居跡であったとしても時期は絞り込めない。また，断面図のように壁がはっきりしないこと，古墳後期の大きな住居跡だとすると南側の第16地点にある円墳（SM08）にかかってしまうことから，あるいは住居跡ではないのかもしれない。

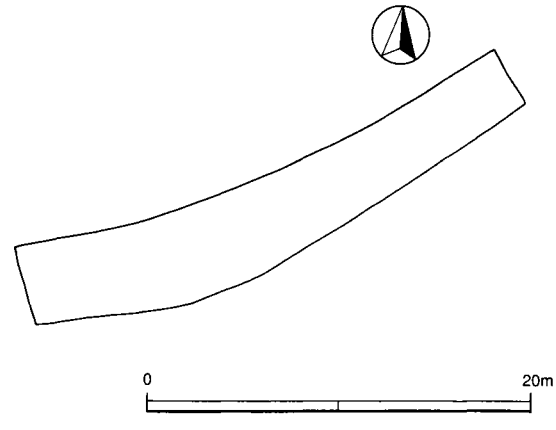
第9節　第25·26·27·28·29·30地点

第25～30地点は，平成3年度から平成9年度にかけて断続的に調査を行った。はじめに各地点の概要を示す。遺構の検出されなかった29地点は概要のみとする。

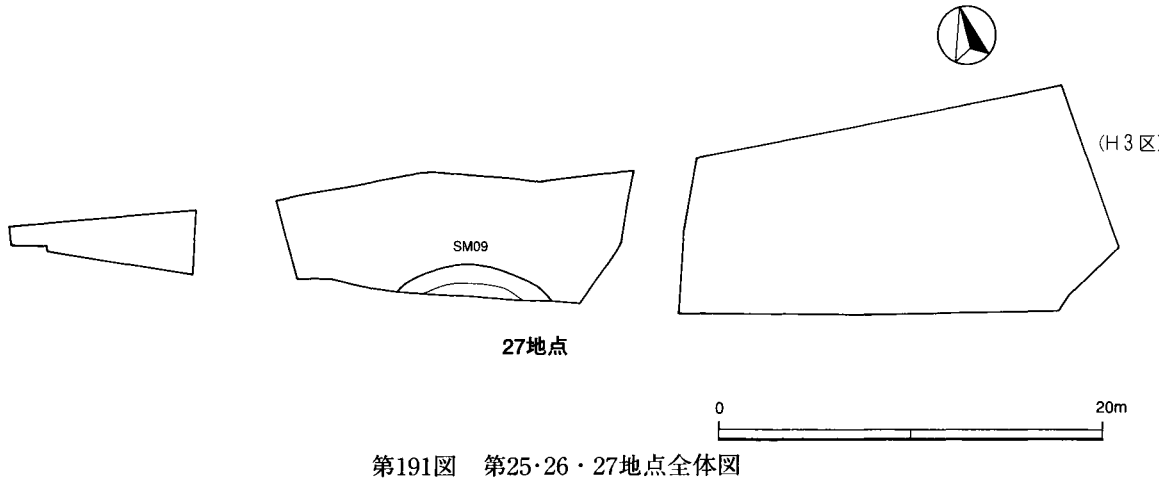


25地点



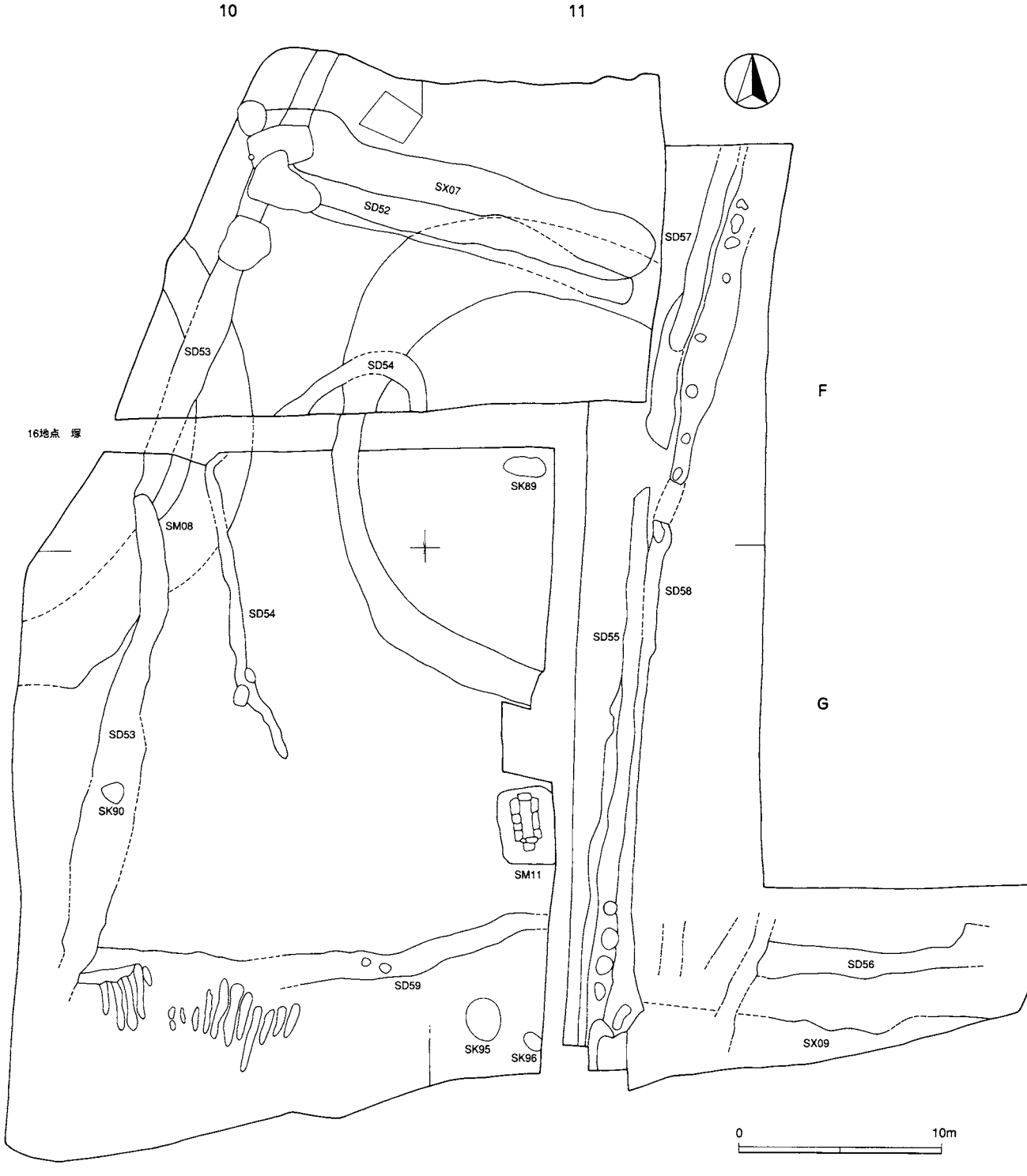


26地点



27地点

第191図　第25·26・27地点全体図



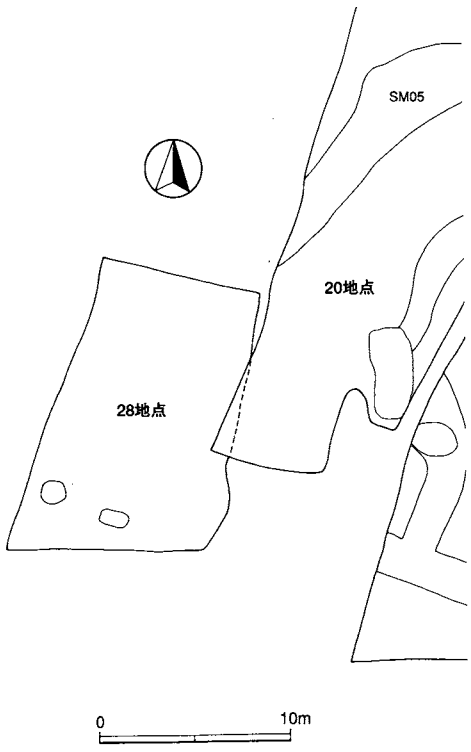
第192図　第28地点全体図（1）

1．各地点の概要

第25地点（図版103）　現道に沿う，第14地点・第27地点の間である。近世の整地面と溝を検出した。

第26地点　現道に沿う，第15地点の東側の小範囲と,その東側で第16点の西側にあたる比較的広範囲がある。西側では遺構・遺物はみられず，東側の広範囲で近世の整地面と火葬土壙群などを調査した。

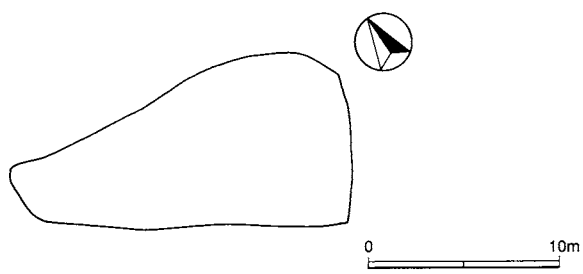
第27地点　第25地点の東の，現道に沿った小範囲である。円墳と思われる遺構を検出した。



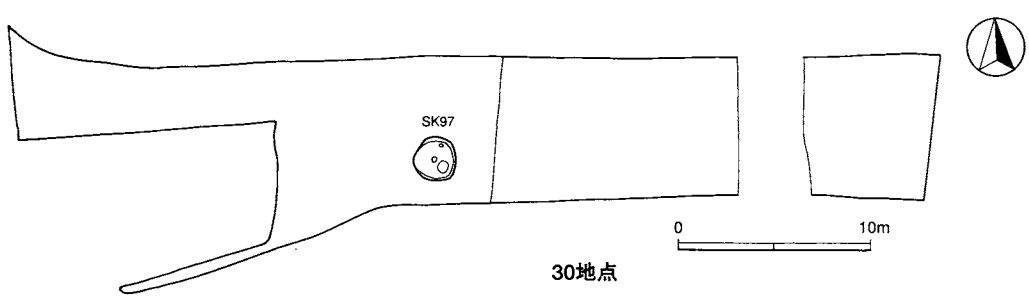
第28地点（図版106）　第16地点の東側に位置する。単独で発見された古墳の埋葬施設,円墳,近世の土塁，溝と火葬土壙を伴う遺構群などを検出した。

第29地点　第27地点の南側の，道路に囲まれた小区画である。遺構・遺物は全く検出できなかった。

第30地点（図版106）　現道に沿った，第28地点の東側である。土塁は現世と考えられた。縄文時代中期の小竪穴を検出した。



29地点



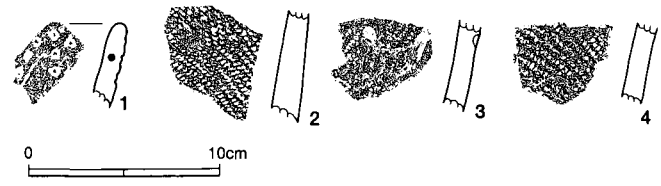
30地点

第193図　第28地点（2），第29・30地点全体図

2．第25地点

(1) 遺構外縄文土器（第194図，図版107）

近世の溝から出土したものである。1は胎土に繊維を含む波状口縁の土器である。円形刺突文を施す。黒浜式である。2～4は加曽利E式の深鉢の胴部片である。3は円形刺突ないし盲孔をもつが，意図は不明である。



第194図　第25地点遺構外出土縄文土器

(2) 近世（第195図，図版103）

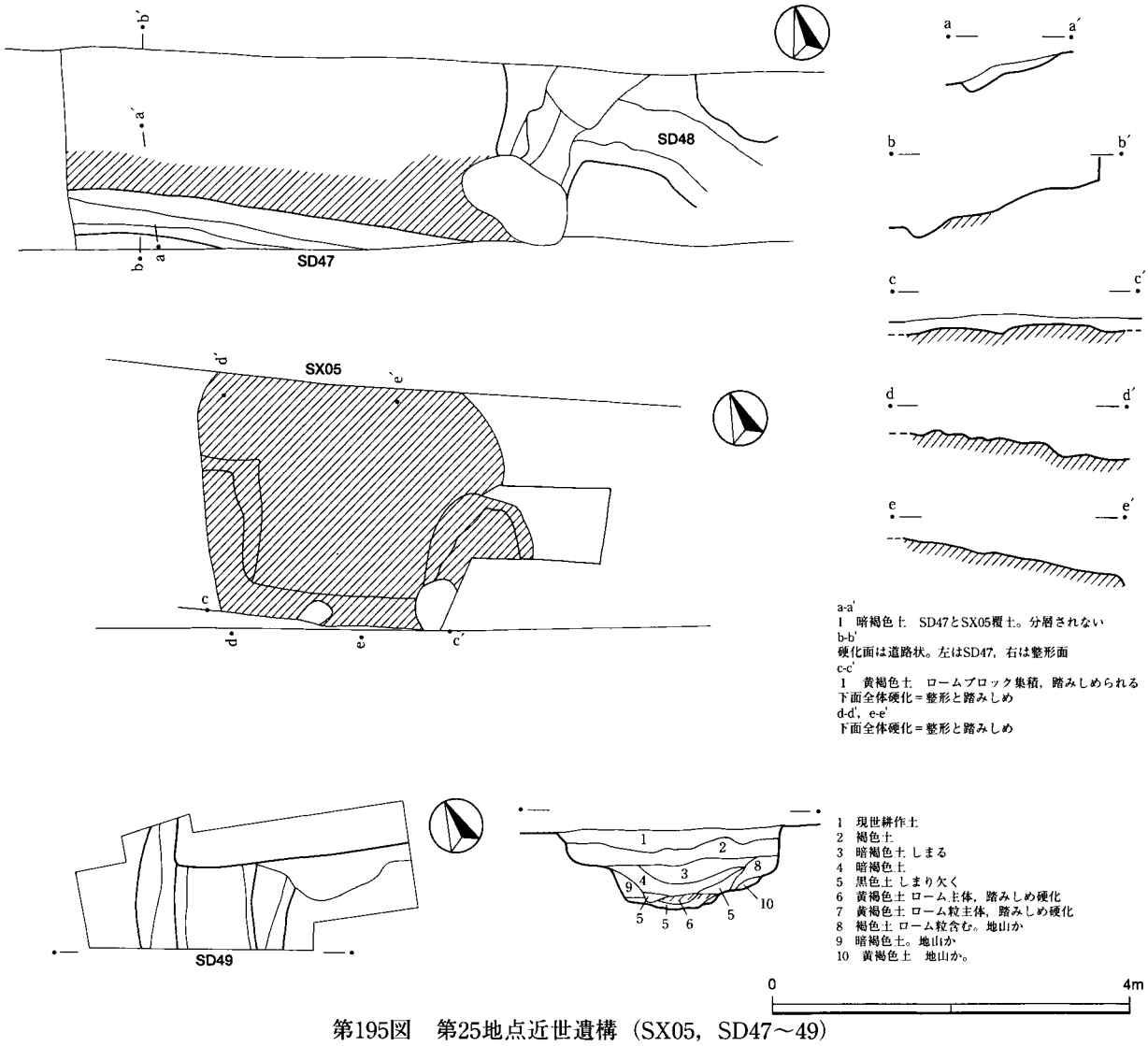
第191図上段のように調査区の3か所を掘り下げた。確認面であるローム面は全体が整形されたようである。整形面，溝ともに出土遺物がなく，時期を示す情報は得られなかった。

SX05（25地点整形）　左側のトレンチ全体が硬化面である。凸凹が目立ち,南側に傾斜をもつ。

SD47（001）　硬化面を切るかまたは硬化面に沿って溝がある。

SD48（002）　底の幅の広い溝である。

SD49（003）　底の幅の広い溝である。断面の6・7層上面が踏みしめられており道として利用された可能性が高い。2条の溝が重複しているようだが，土層断面をみても新旧はわからない。

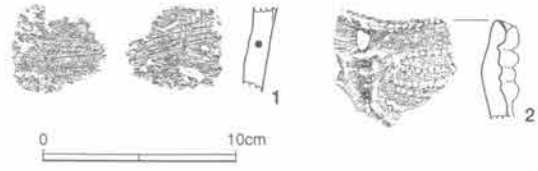


第195図　第25地点近世遺構（SX05，SD47～49）

3．第26地点

(1) 遺構外縄文土器（第196図）

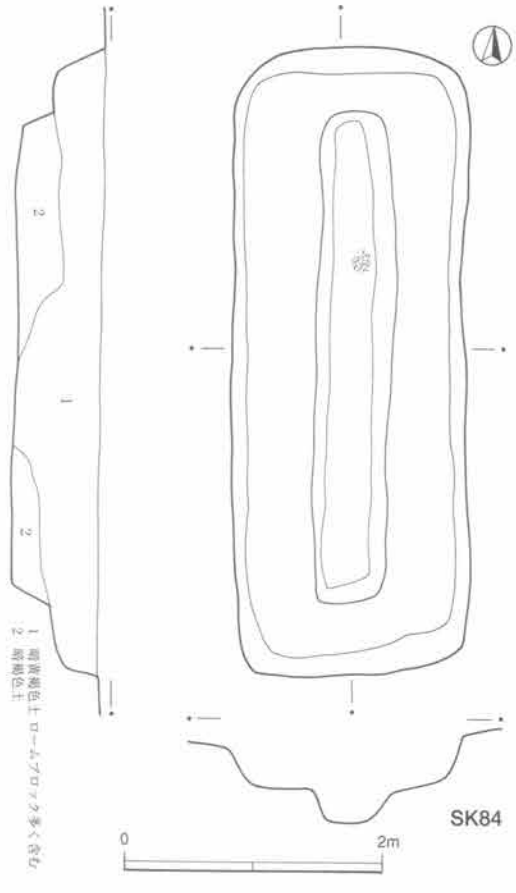
近世の台地整形遺構（SX06）の調査で縄文土器が出土した。1は条痕文系土器である。内外面条痕と縦の連続刺突をもつ。2は隆帯と角押文によって楕円区画文を形成する土器である。つまみ状突起をもち，口唇に連続刺突が施されている。楕円区画の幅が狭いこと，左右非対称のモチーフをもつことから，阿玉台Ⅰa式であろう。



第196図　第26地点遺構外出土縄文土器

(2) 古墳時代（第197図，図版104）

SK84（003）　時期・性格不明の土坑である。平面的な形状から古墳に伴う埋葬施設の可能性が考えられる。下段の細長い部分から炭化物が出ており，一括で板碑片が取り上げられている。中近世の遺構である可能性も考えなければならないが，このような形状の土坑の例があるのかどうか，検討が必要である。



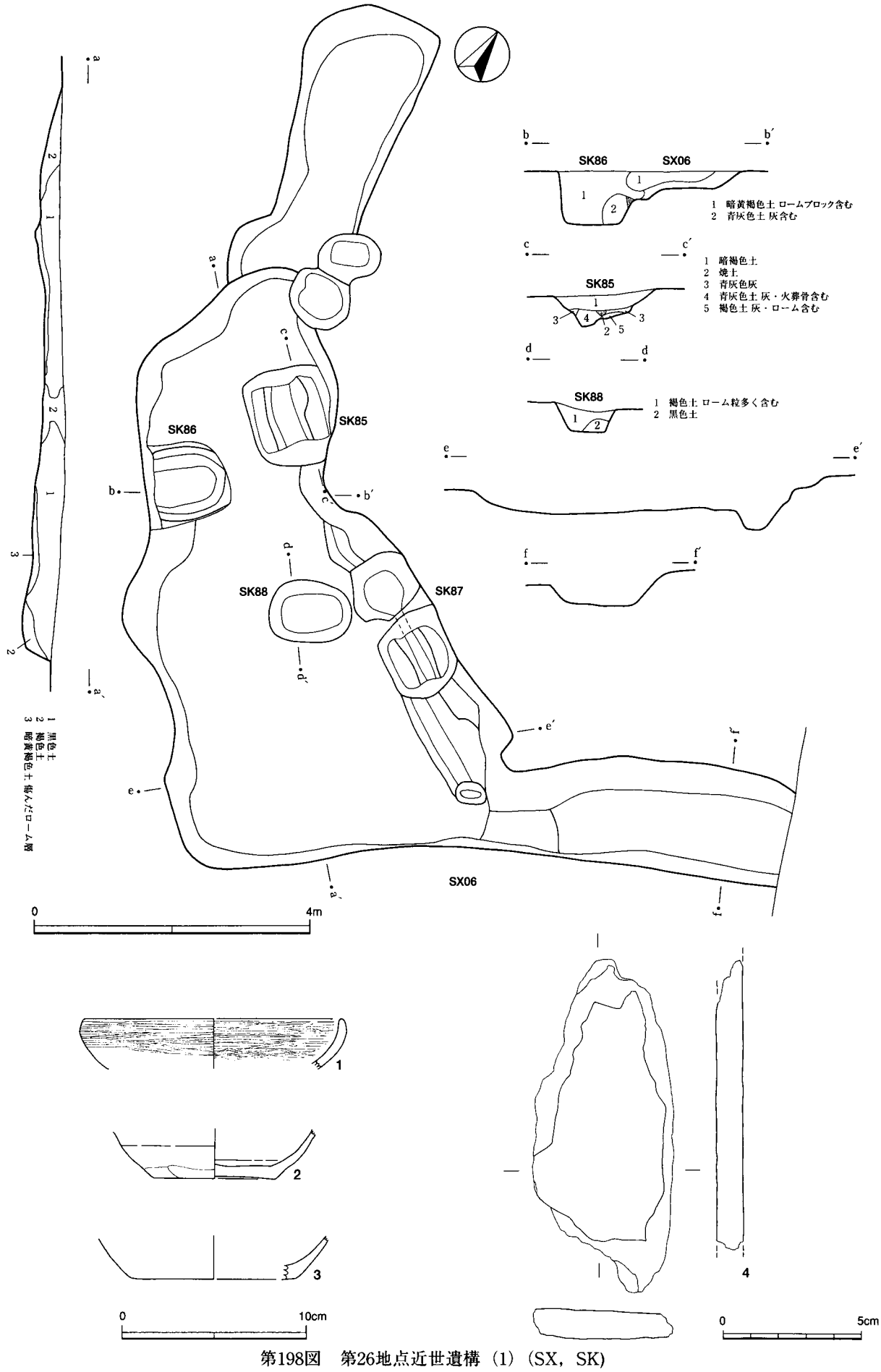
第197図　第26地点古墳時代遺構（SK84）

(3) 近世（第198・199図）

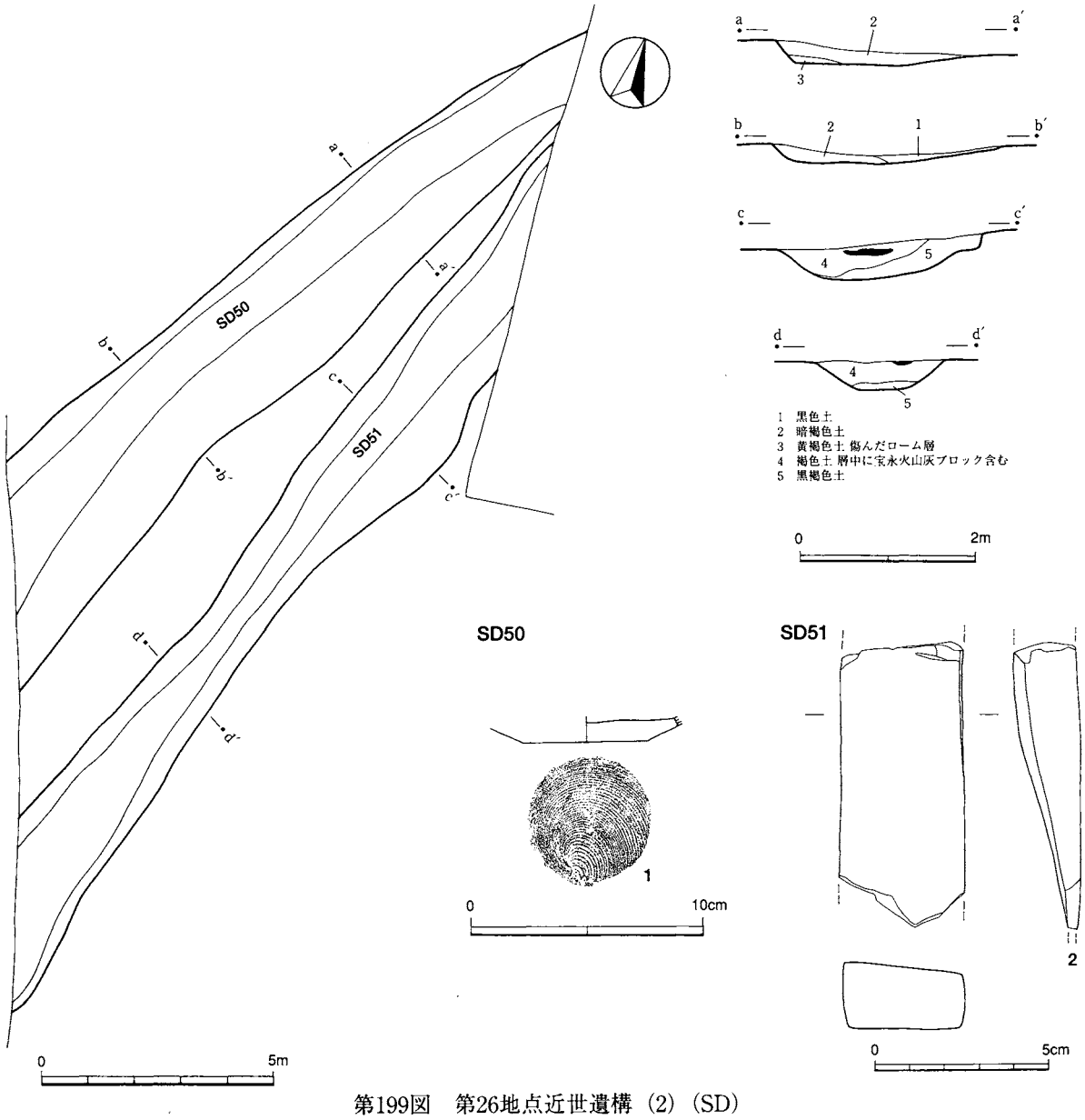
SX06（004）　火葬墓群とその周辺の平坦面を検出した。SK85（旧P3）・SK86（旧P4）・SK87（旧P5・P6）の3基の覆土には焼土や灰を含み，SK85では火葬骨が出土している。高温で焼かれた成人骨1体の全身の一部が出土している（第3章第1節）。SK85とSK87は底に一段低い溝をもち，SK87にはさらに溝によってトンネル状に連結した土坑を伴っている。これらは火葬を行うための通風装置であろう。3つの火葬施設（墓）は平坦な整形面の壁（縁）に位置している。同様の例は多くの遺跡で見つかっているが,遺体がそのまま残される例，銭貨などが副葬される例も多い。今回の場合は，SK86・87で火葬骨がみられないこと，周囲が平坦に造成されていることから，火葬－埋葬に一度だけ使われたものではない可能性も考えるべきであろう。なお，壁から離れた位置にあるSK88（旧P7）には焼土や灰が入っておらず，火葬に直接関係したものではなさそうである。出土遺物は土師器杯3点と板碑片1点があるが，時期を示す可能性をもつのは板碑の方であり,詳細は検討不能である。

SD50（001）　SD51と並行する溝である。検出面から浅いが，底面はほぼ残っている。1mほどの幅が比較的保たれている。15世紀中葉から後葉の古瀬戸緑釉皿が出土した。1点であり，時期決定は難しい。

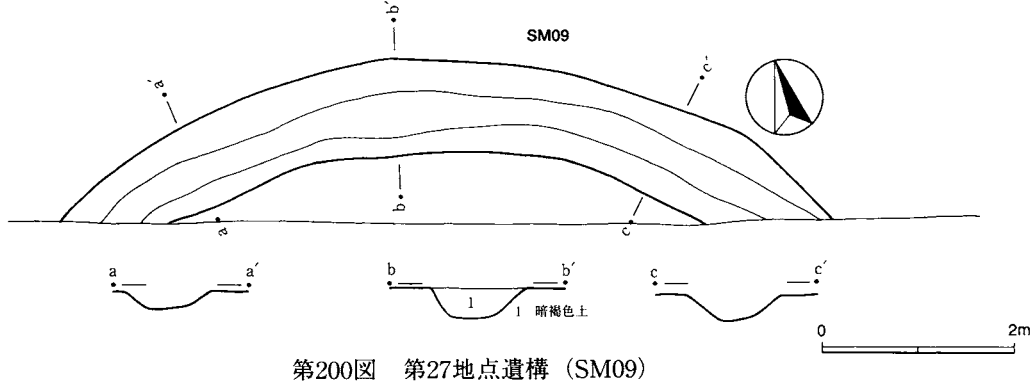
SD51（002）　SD50と並行する溝である。SD50に比べると形状が不安定であり，とくに底の幅はかなりの変化がある。覆土中に宝永火山灰の集積があり，17世紀初頭には埋まっていたことになる。出土遺物は砥石のみであった。



第198図　第26地点近世遺構（1）（SX，SK）



第199図　第26地点近世遺構（2）（SD）



第200図　第27地点遺構（SM09）

4．第27地点（第200図，図版104）

SM09（001）　円墳の周溝と思われる。調査した部分から推定した規模は，周溝の外側で直径12mほどである。出土遺物はなかった。

5．第28地点

(1) 縄文時代遺構（第201図）

SK89（SK51）（図版106）　楕円型陥し穴である。円墳（SM10）の周溝の下で検出した。出土遺物はない。

(2) 遺構外縄文土器（第201図，図版108）

古墳・塚，溝やその周辺の調査で出土したものである。早期子母口式,条痕文系，中期加曽利E式，後期堀之内式がある。1～4は子母口式であろう。1は指頭によるナデが条痕状を呈する。口唇上は平坦で,きわめて浅い刻みが施される。2は口唇が尖り,その下1ｃｍほどの部分に段を有す。口縁部の条痕は波状を描くようである。5～7は貝殻条痕またはナデが残る無文部であり，条痕文系土器である。8は隆帯と結節沈線によって口縁部を区画し,口縁部には波状の平行沈線が施される。口唇は浅く刻まれる。下吉井式またはそれに並行する土器であろう。9は折り返し口縁をもち，平行沈線で意匠を描く前期末の土器である。10～19は中期加曽利EⅡ式である。10～12，14は加曽利EⅡ式のキャリパー型土器，13は同時期の連弧文系土器，19は曽利系土器であろう。15～18はEⅡないし EⅢ式であろう。20は半截竹管の内面で引いた平行沈線をもち，内面にも沈線が施される。堀之内Ⅱ式であろう。

(2) 遺構外縄文石器（第201図，図版107）

安山岩の巨大な石器である。石皿に含まれるものであろうが，窪んだ面はそれほど広くなく，定型的なものとは別の用途をもっていたであろう。

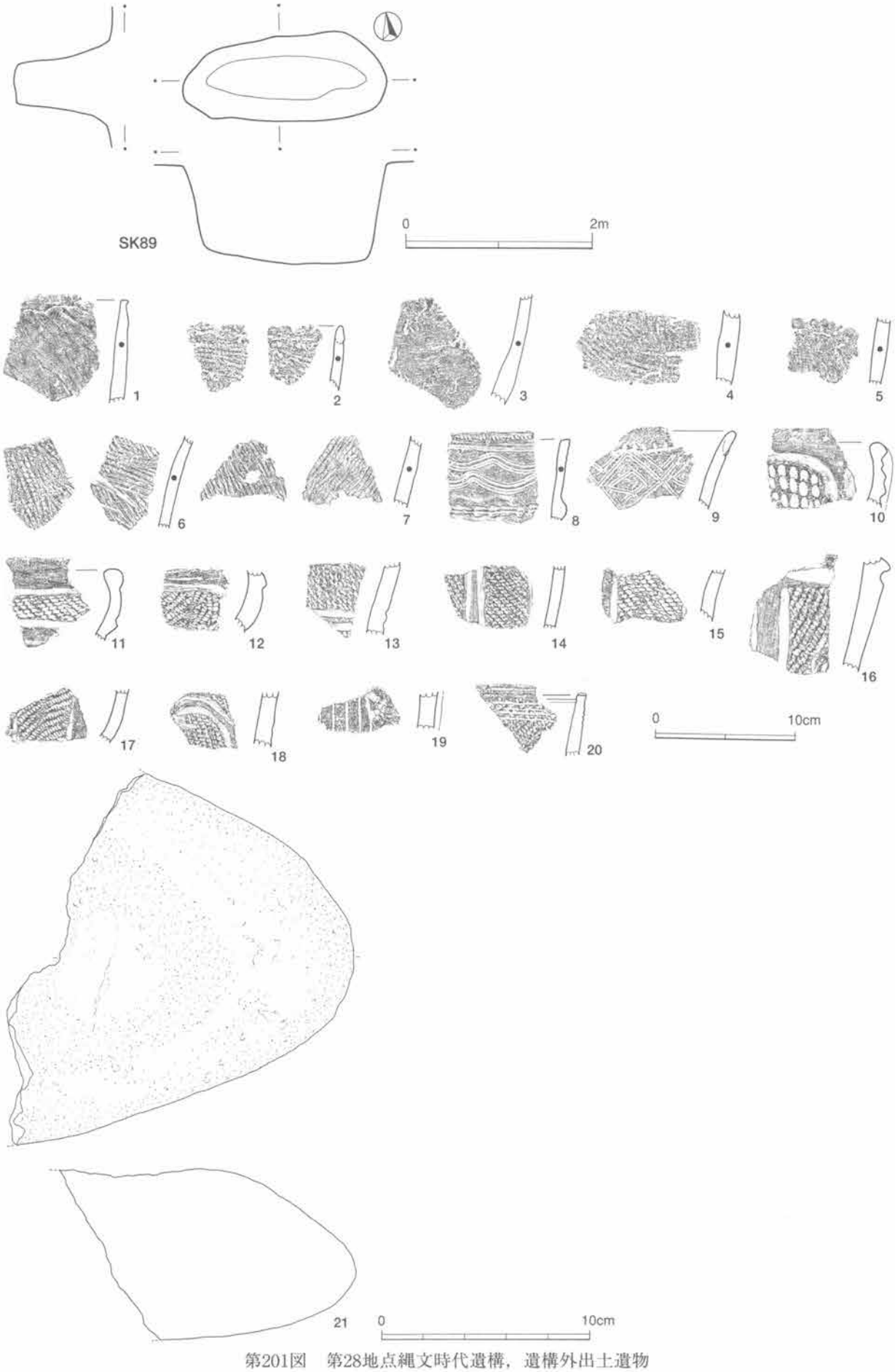
(3) 古墳時代遺構（第202・203図，図版105）

SM10（SD06）　円墳である。墳丘や埋葬施設は遺存しないか，あるいは見つかっていない。形状がかなり歪であるが，墳丘径18m，周溝の外側で径23m前後になると思われる。掲載遺物はない。

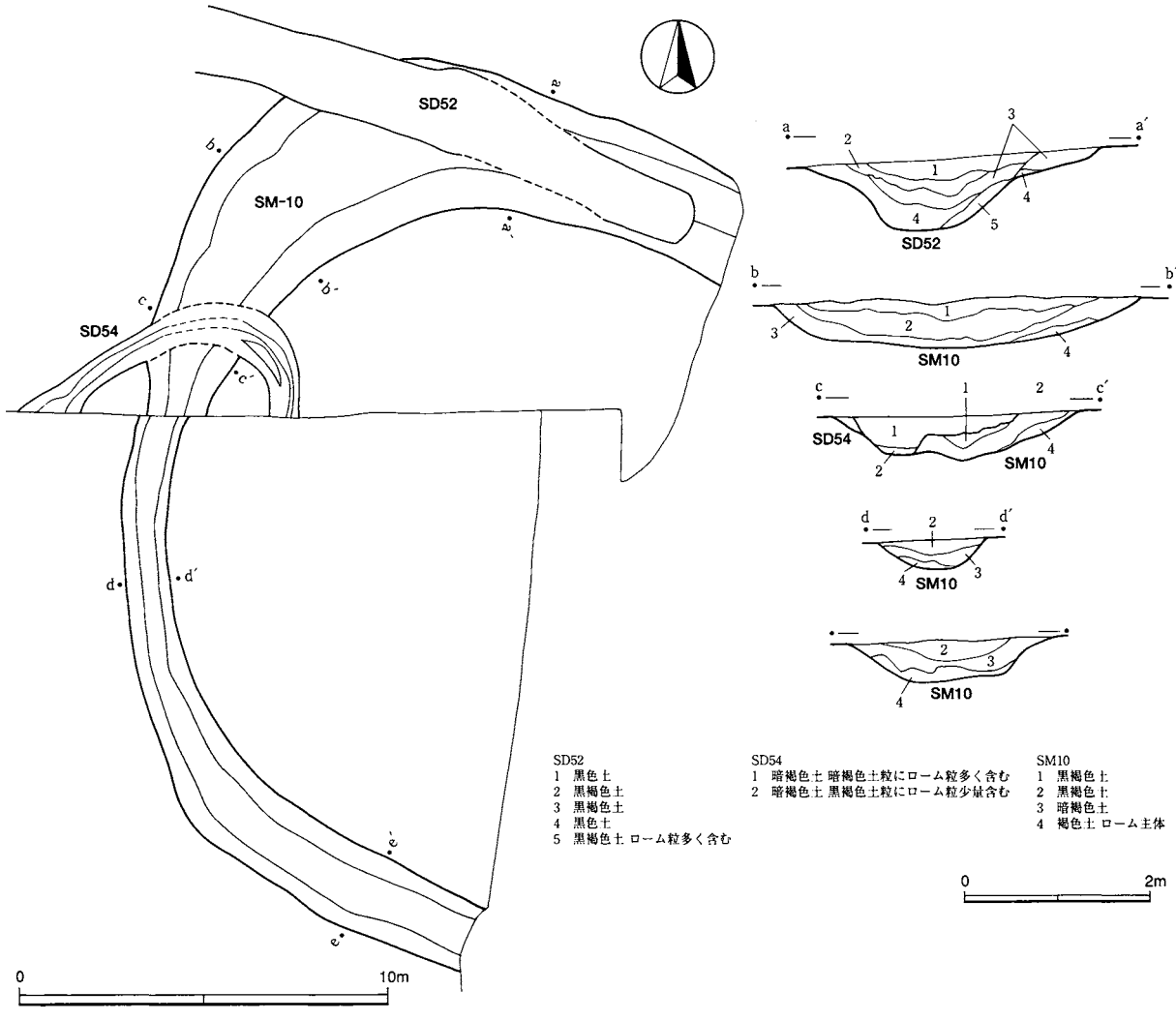
SM11（SX02）　古墳に伴う埋葬施設である。墳丘や周溝は検出されていない。施設の種類は石室の構造に近い石棺とみるか，あるいは石棺に似た石室とみるか判断が難しいところであるが，便宜的に前者として記載していきたい。掘りかたは長さ3.7m，幅は推定3.0mほどあって，羨道にあたる掘り込みはみられない。底はやや凹凸があり，一段低くなった棺底面も同様である。

石棺は横穴式石室に通有な未固結の軟質砂岩の截石を積み上げたものである。掘りかたの中央ではなく，北寄りに置かれている。側壁は2段が確認されていて，1段目は高さ40cm，幅30cmほどで揃った石材を用いる。長さはまちまちである。2段目も幅は30cmほどで同様である。上端は失われていて高さは不明である。わずかに持ち送りになっているのは意識的なものであろう。北側の壁もわずかに底側が幅広くなっている。南北の壁は，横穴式石室の構造を踏襲しており，北側が奥壁，南側が玄門にあたる。南壁は2段×2個，計4つの石材で塞ぎ，2段目には南側にもうひとつ石材を積み，さらに3段目の石材を積んでいる（3段目の石材は断面図にあるが,平面図では取り去っていて入っていない）。2段目・3段目の石材は1段目の石材から飛び出しているので，1段目付近までは裏込め土が埋まった状態でないと積み上げられなかったはずである。これは構築時の作業手順を示している可能性と，2段目の石材を外して追葬，閉塞を行った可能性の2つが考えられよう。南側の裏込め土に石材ブロックが入っていることは後者を支持する情報といえよう。後者であった場合は石室と呼ぶべきということになる。石室であった場合には，垂直ないし斜めに降りる羨道がついていたものであろう。

なお，棺内の覆土には大きな石材ブロックがいくつも入っていた。しかし，遺体や副葬に関わる遺物は全く出土しなかった。



第201図　第28地点縄文時代遺構，遺構外出土遺物



第202図　第28地点古墳（1），近世遺構（1）

(4) 中近世遺構（第204～208図，図版106）

SX09（SD13）　南に向かって傾斜する面を検出した。調査範囲のみでは判断が難しいが，溝とみるには広すぎると考えてSXのナンバーをつけた。若干埋まった後に宝永火山灰が入っている。

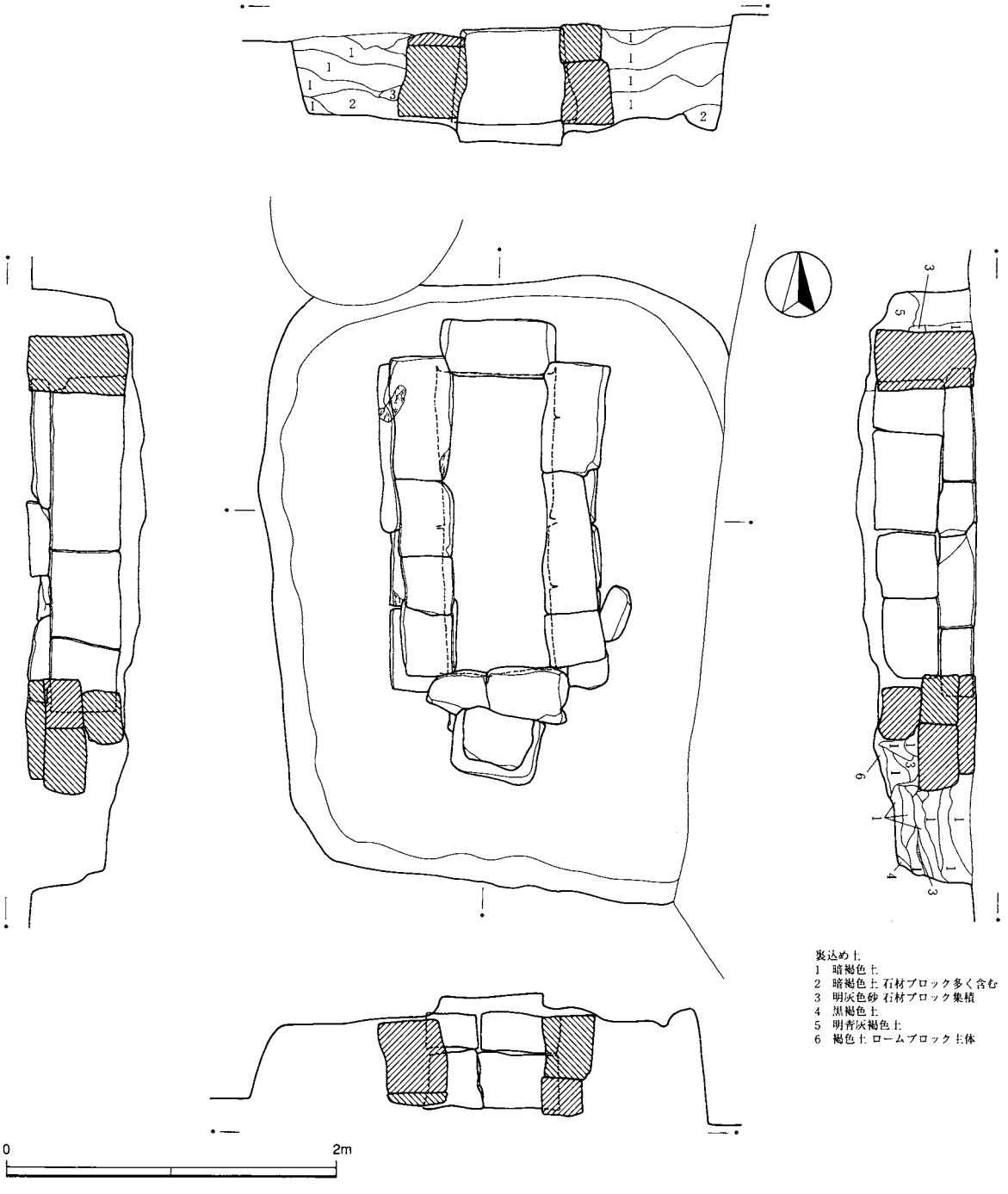
SD55（SD11）南北に走る溝である。b断面にかかる西側の溝も連続と捉えたが,あるいはSD57としたものがSD55と同一である可能性も捨て切れない。一部で底にピットが並ぶ。陶磁器6点と砥石2点を図示した。肥前産陶器釜（1）・土瓶（2），堺産陶器擂り鉢（3），かわらけ（4），瀬戸･美濃系磁器端反碗（5），肥前系染付磁器小皿（6）がある。5は19世紀前半，6は18世紀後半のものである。

SD56（SD12）東西に走る溝である。1は肥前系染付磁器の四足盤，2は肥前系陶器の蓋である。

SD57（SD14）南北に走る溝であり，SD55と同一の可能性がある。

SD58（SD15）南北にSD55･SD57と並行する溝である。重複関係によりSD55より古い。一部で底にピットが並ぶ。調査区の南端では急に深くなっており,別の遺構の可能性が高いがとくにナンバーをつけなかった。

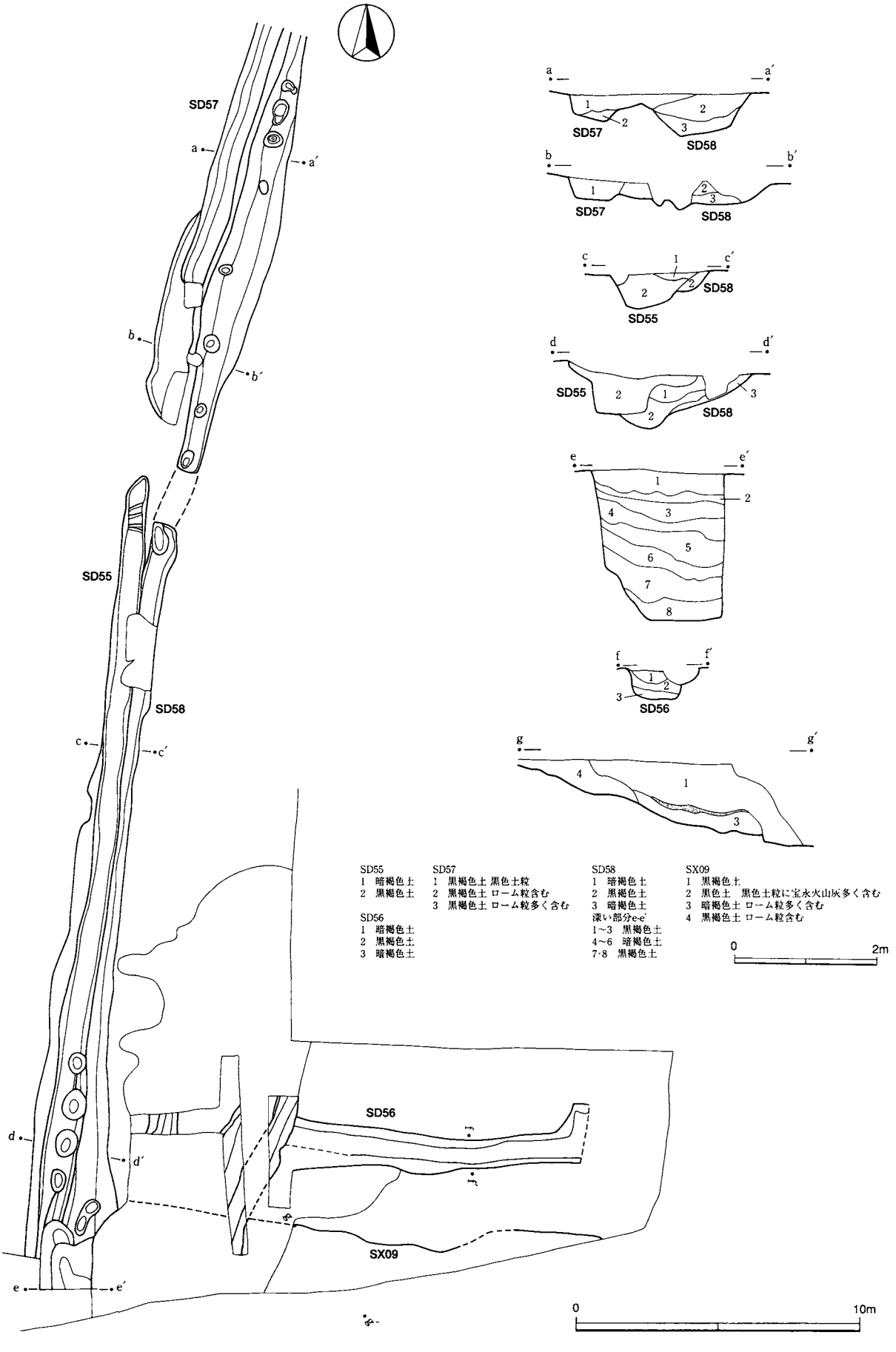
SX07（SX01）ほぼ東西に伸びる土塁である。10層はSD52が埋まった後に地山のローム漸移層（Ⅱb層）に発達した旧表土である。8層も旧表土で，宝永火山灰を含む。土塁を構築する土には旧表土にも，現表土にも混じる黒色土粒を多量に含んでいる。8層の宝永火山灰は，SD52から18世紀後半の遺物が出土して



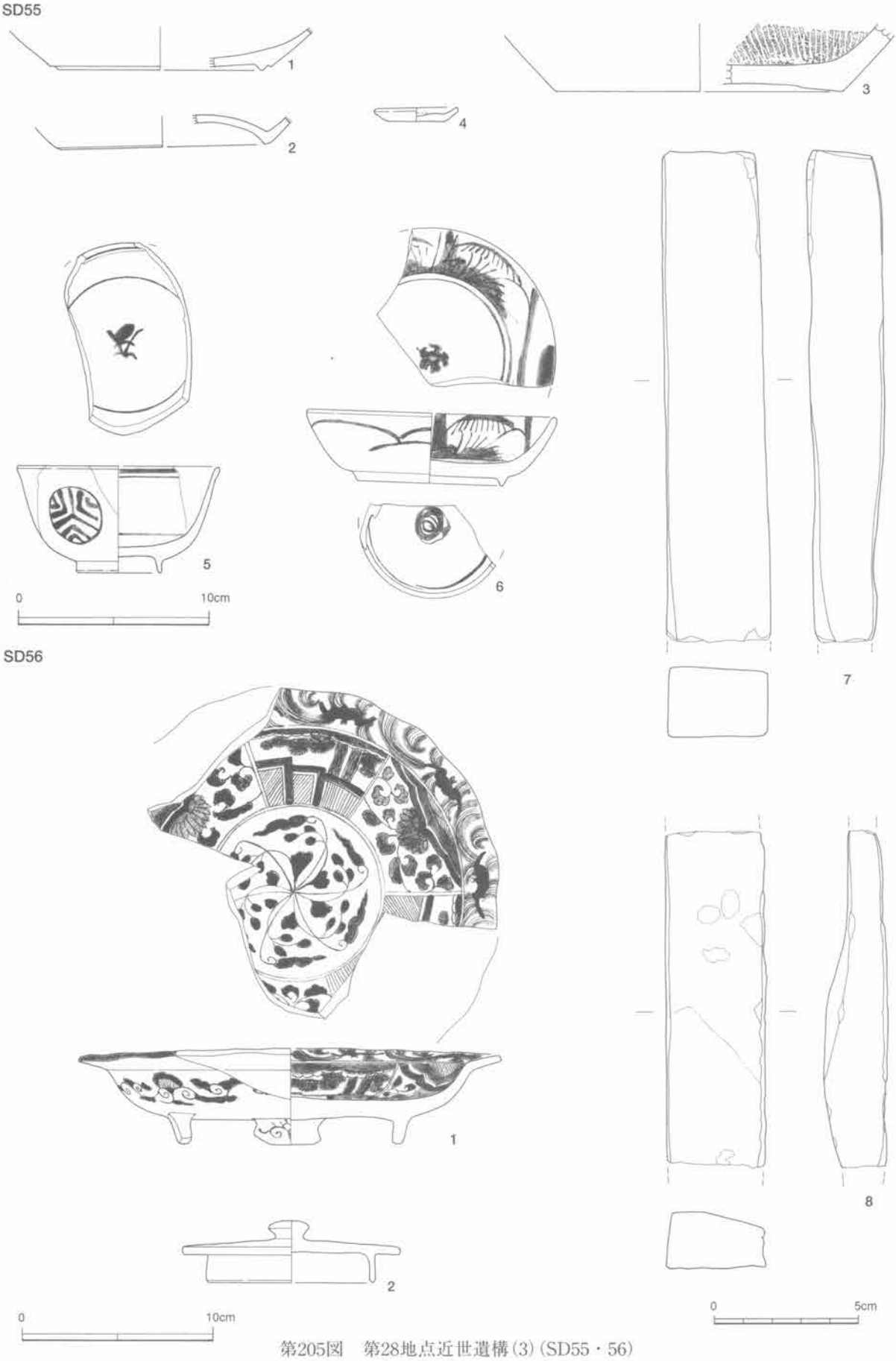
第203図　第28地点古墳（2）

いることから2次的に堆積したものであろう。土塁は18世紀後半以降のもので，かなり新しい可能性がある。なお，西側で接する第22地点には連続していない

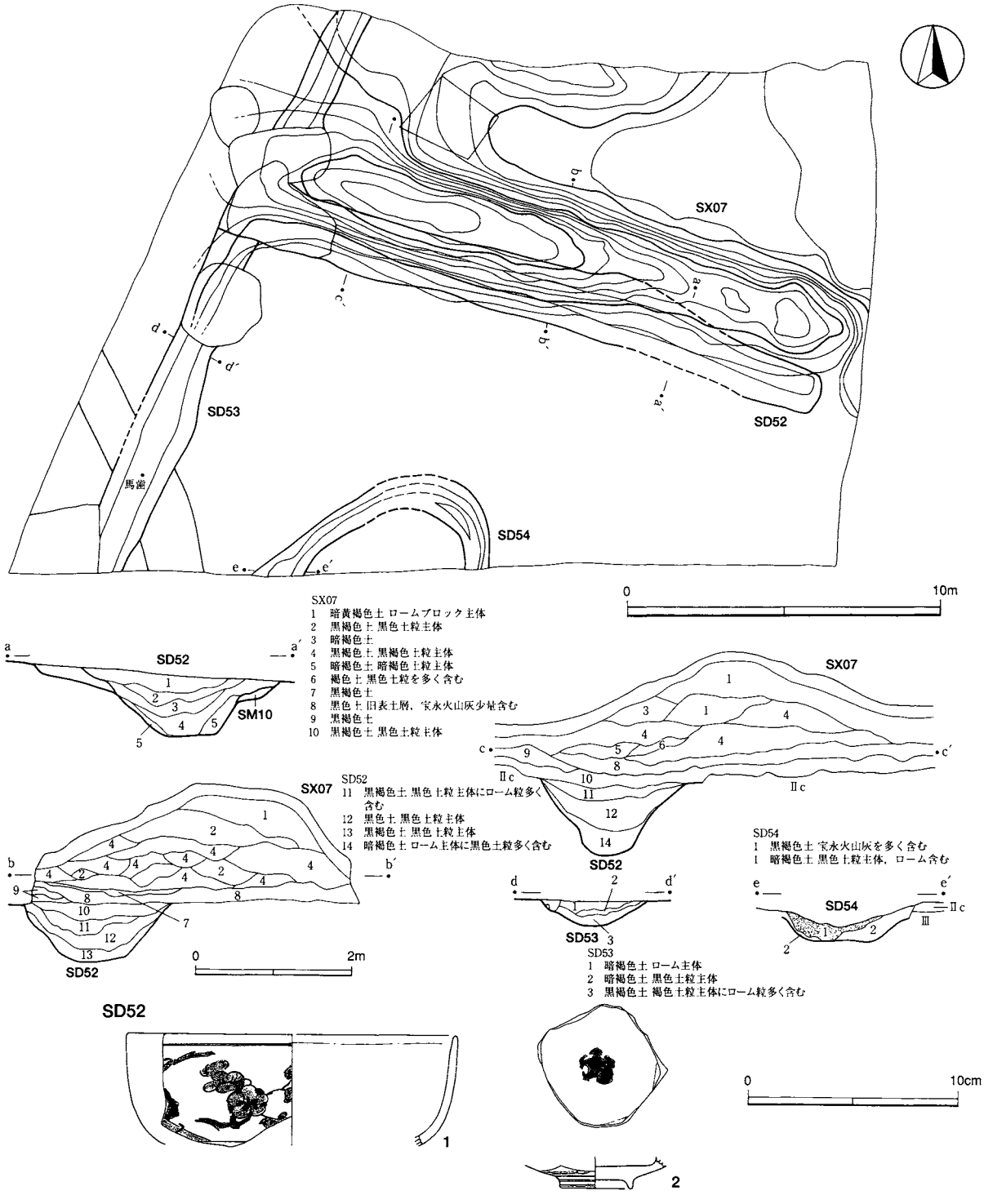
SD52（SD02）　土塁（SX07）下の旧表土の形成前に埋まりきった溝であるが，完全に土塁に平行に位置するのは区画が踏襲された結果であろう。調査区西端付近で南に向かい，SD53と重複するようであるが，関係はわからない。覆土は旧表土と同様に黒色土粒を多く含む。肥前系の染付磁器向付（206図1），肥前系染付磁器筒型茶碗（2）が出土している。後者は18世紀後半のものである。なお，調査区の西端で土塁を切る土坑にSK91～94を付したが，ごく新しいことが明らかになったので欠番とした。



第204図　第28地点近世遺構(2)(SD55～58, SX09)



第205図　第28地点近世遺構(3)(SD55・56)

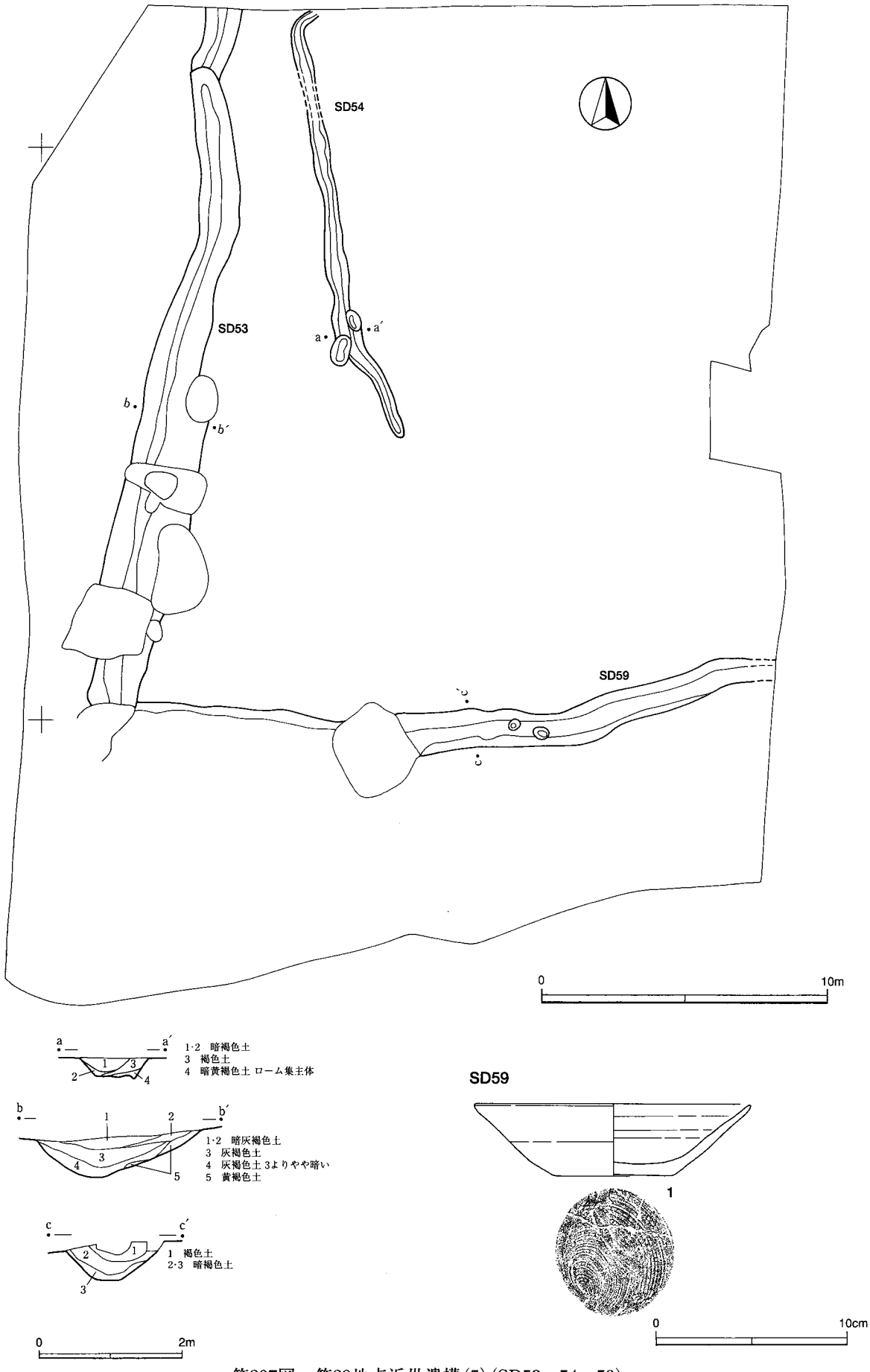


第206図　第28地点近世遺構(4)(SD52～54, SX07)

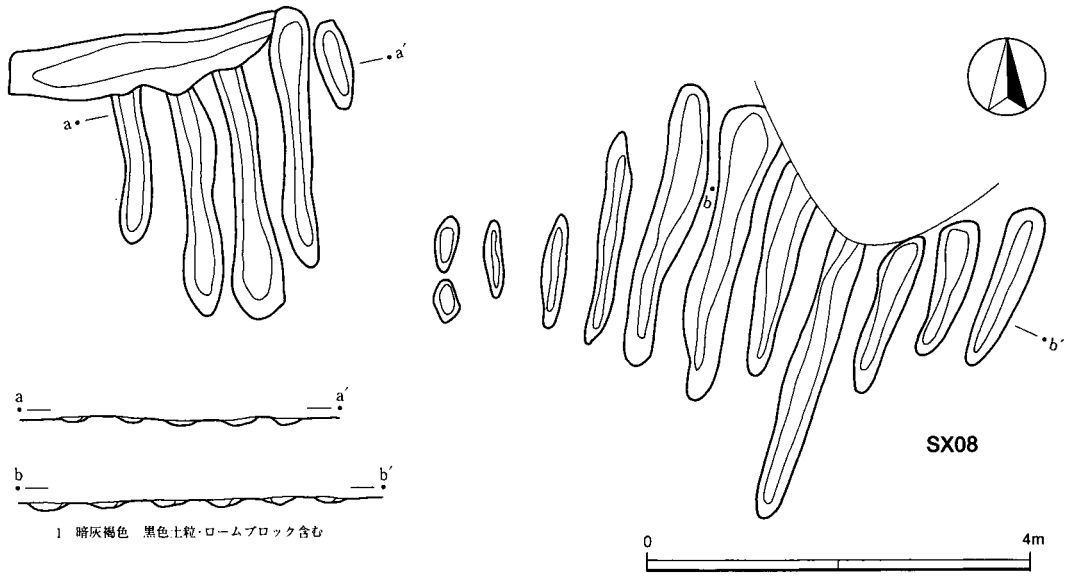
SD53（SD03）　土塁の下に掘りこまれ,南北に走る溝である。南側調査区にまで伸びている。SD52と重複するが，関係はわからない。覆土に黒色土粒を多く含むことからも，かなり新しい時期のものであろう。

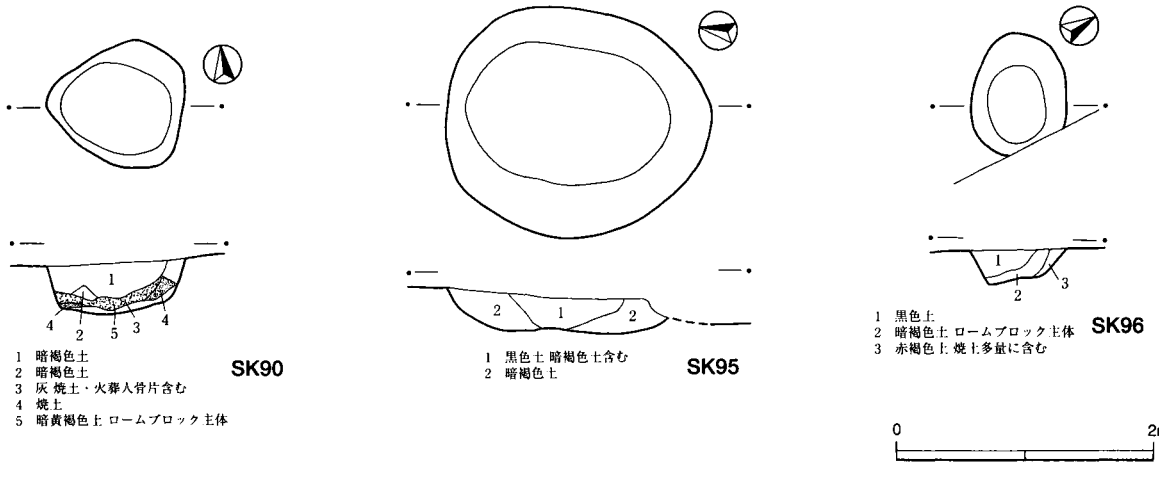
SD54（SD05）　北側調査区から南側調査区にかかる曲がった溝である。覆土に宝永火山灰が多量に入る。

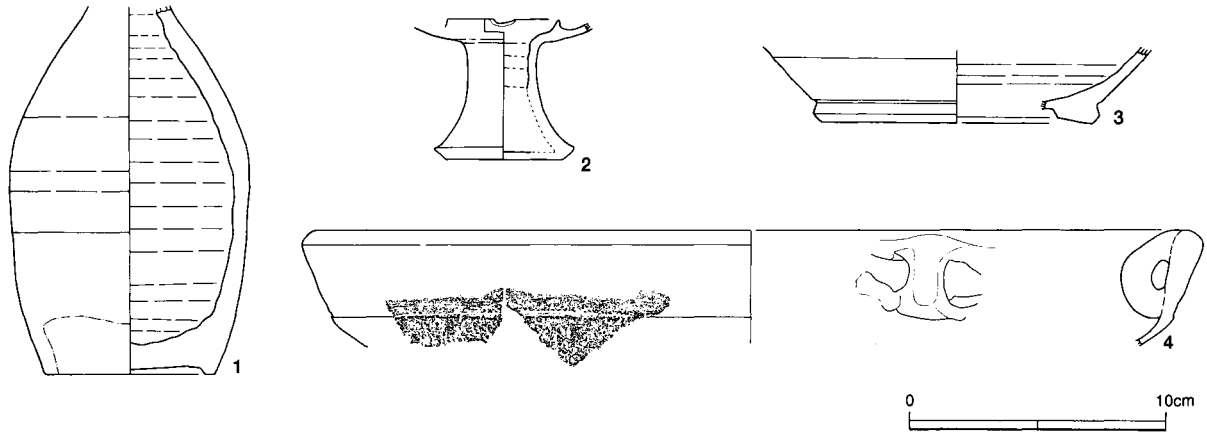
SD59（SD21）　東西に走る溝である。土師質土器の皿が出土している。



第207図　第28地点近世遺構(5)(SD53・54・59)







第208図　第28地点近世遺構(6)(SX08，SK)

SX08（SX03）　畑の畝の跡であろう。時期を検討し得ないが，念のため掲載した。

SK90（SK52）　灰･焼土とともに人骨が出土した。焼けた成人の全身骨の一部が出土している（第３章第１節）。記録からは詳しい検討は不可能だが,火葬をしてそのまま埋葬するタイプの施設とすれば，かなり小さめである。

SK95（SK53）　人為的な掘り込みであろうが，時期・性格は不明である。

SK96（SK54）　底面近くに焼土が多量に混じる。時期･性格は不明である。

(5) 遺構外出土近世遺物（第208図，図版107）

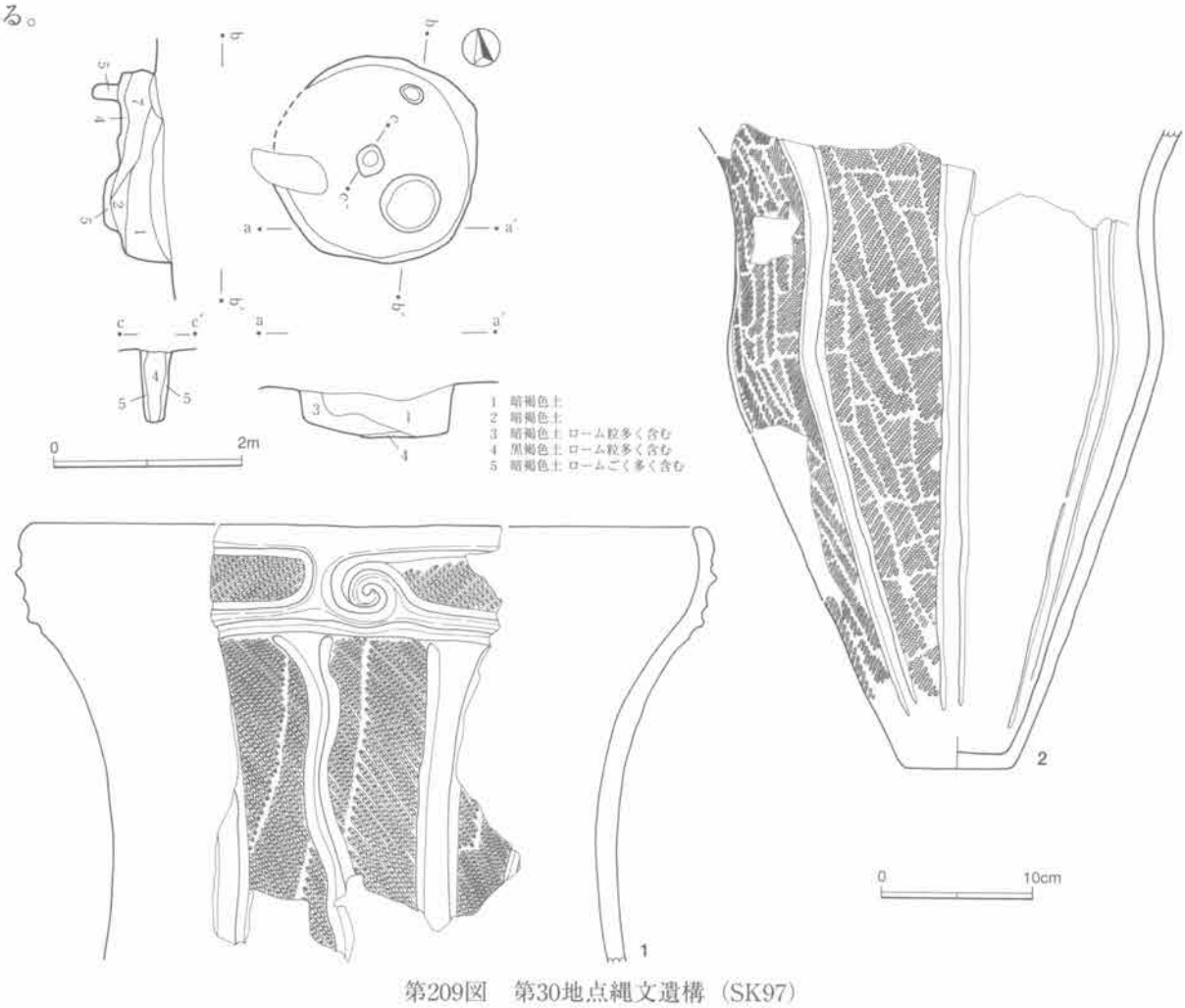
４点を掲載した。１は瀬戸･美濃系徳利，２は肥前系脚台付灯明皿，３は産地不明の練鉢，４は焙烙である。

６．第30地点

現状で家屋の区画となっていた土塁に対して，２か所でトレンチを入れた。表土と同じ黒色土粒の混じる土層が下端まであった。また，土塁の下の焼土もごく新しい時期のものとみられた。したがって，土塁は近世より新しい，調査･報告対象外のものと判断した。一方のトレンチで縄文時代の遺構を検出した。

(1) 縄文時代（第209図，図版106,107）

SK97（SK01）　縄文中期の小竪穴である。直径2.2ｍの円筒形で，深さは50ｃｍほど遺存していた。中央と壁近くにピットをもち,そのほかに浅いくぼみがある。加曽利ＥⅡ式のキャリパー型土器が2点出土している。



第209図　第30地点縄文遺構（SK97）

第3章　動物遺存体

第1節　人骨

中近世の人骨が出土している。中近世の墓は，塚に伴うもの（SK31，SM05墳丘上土壙墓），単独で存在した土壙墓（SK53，SK90），火葬施設と土壙墓の集中（SK85～88）がある。近世村落の中心から離れた場所に点在する。なお，調査区外である泉蔵寺の墓地が中心的な墓域であったと考えられる。遺体はこのうち5か所で見つかった。

SK31（08-D02）

円筒形の棺桶に入った全身骨が出土している。頭蓋の縫合が完全に失われており,歯がすべて脱落して歯槽が吸収されていることから，高齢であったことは間違いない。遺体には綿のような布が付着しており，死装束かもしれない。全身がほぼ完存しており，発掘時は残りも良かったが，カビの進行が著しい。解剖学的な分析が必要であるが，間に合わなかった。別の機会に実施したい。

SK53（09-D05）

全身の一部。残り悪く、カビと腐食が進行している。骨端を欠く四肢骨（大腿骨・脛骨・橈骨）、および以下の破片（頭蓋骨・椎骨・膝蓋骨・指骨）が遺存する。

SK87（26-P5･P6）

白色化とひび割れが著しく、高温で焼かれたことがわかる。すべて小片であり、部位を特定できるものは少ないが、成人骨1体の全身の一部と考えられる。確認できた部位は頭蓋・下顎・上腕骨・橈骨・大腿骨・腓骨である。全部で338gある。

SK90（28-SK52）

白色化とひび割れが著しく、高温で焼かれたことがわかる。すべて小片であり、部位を特定できるものは少ないが、成人骨1体の全身の一部と考えられる。確認できた部位は頭蓋・下顎・椎骨・肋骨・上腕骨である。全部で154gある。

SM05墳丘上土壙墓（11-P001）

円墳の墳丘上で検出した遺構であるが，第2章第4節で述べたように副葬品から中近世の土壙墓と判断した。古墳の墳丘が塚として再利用されていて，塚のマウンド上に埋葬されたものであろう。刀剣と砥石が副葬されている。遺体はきわめて残りが悪く，遊離歯牙と頭骨・四肢骨の小片がある。犬歯1・小臼歯1・大臼歯5。第3大臼歯1本以外は咬耗が進んでおり、成人である。遺構説明中に記載した観察結果を再掲する。

・歯牙　　上顎：右M1・M2，左C・M2，左右不明M1・M3
　　下顎：右P2
　　M2までかなり咬耗が進んでいる。M3は埋伏。
・頭蓋骨　小片。
・四肢骨　小片。大腿骨?

第2節　貝サンプルの分析結果

縄文時代から中近世の遺構に貝殻の堆積が認められた。貝サンプルは9.52㎜、4㎜、2㎜、1㎜メッシュの試験フルイによる水洗分離を経て、選別を行った。貝類の同定は西野雅人が行った。なお、SI17とSK76で微小貝を多量に検出したが、分析を行っていない。貝類のほかにはSI17でムギ大の炭化種子が検出された。報告は右に示す一覧のように時代順を原則とした。

第3表　貝層と貝サンプル

貝層名	旧No.	時期	遺構	ｶｯﾄ数	採取量
SK46	第9地点P01	縄文中期	土坑	－	－
SI17	第9地点J07	古墳	住居跡	1	9.9ﾘｯﾄﾙ
SI20	第9地点J13	古墳	住居跡	1	1.8ﾘｯﾄﾙ
SI28	第9+第13地点J27	古墳	住居跡	－	－
SK76	第13地点003	中世	竪穴状遺構	1	7.3ﾘｯﾄﾙ
SE01	第7地点009	近世	井戸	1	10.0ﾘｯﾄﾙ
SM03	第8地点2号塚	近世？	塚	1	5.5ﾘｯﾄﾙ

（1）出土状況

SK46（09-P01）　縄文中期の小形の土坑にハマグリ・マガキ主体の貝層がみられた。サンプルはない。

SI17（09-J07）　古墳時代の住居跡の床面近くで貝ブロック2か所を検出した。A貝層は100×50cm、厚さ10cm、B貝層は貯蔵穴上の床面レベルにあり、80×60cm、厚さ20cmほどである。サンプルは二つのブロックからそれぞれ一部を採取したが、貝類の個体数が少ないため記載は一括して行う。

SI20（09-J13）　古墳時代の住居跡覆土中で貝ブロック2か所を検出した。大きい方は90×40cm、小さい方は40×20cmほどあり、厚さは不明である。サンプルの採取方法は不明であり、取り上げ後の体積は約1.8リットルときわめて少ない。

SK76（13-003）　遺構は中世竪穴状遺構とされている。貝はそれを切る土坑のセクション図に記録されている。土坑に中世の土器類を伴っているので、貝層の時期を中世？としておく。サンプルは取り上げ後で7.3リットル採取した。

SE01（07-009）　近世の井戸の覆土最上層に貝層を形成していた。範囲は不明であり、厚さ10cm程度で、多くの陶磁器類を伴っている。サンプルは取り上げ後の体積で約10リットルである。

SM03（08-塚2）　約5.5リットルの貝サンプルを採取した。セクションベルト際の塚の表土から採取しているが、詳細は不明である。近世のものとしてよいか不安がある。

このほか、SI28（09+13-J27）（古墳時代住居跡）でも貝層が記録されている。現地で貝種を分類してアサリ・シオフキガイ主体、ウミニナ類・カガミガイが多く、マテガイ、ハマグリ、カワニナを含むという記載があるが、貝自体は紛失した。

（2）貝種組成

SI28のカワニナを入れると19種を検出した。汽水産のヤマトシジミ1個を除くと、ハマグリ・アサリ・シオフキガイ・イボキサゴに代表される湾奥沿岸砂底で採取可能なものばかりである。SI17は多くの貝種から構成されるのに対して、そのほかでは3ないし4種ほどの限られた種を集中的に採取している。村田川河口付近の分析例をみると、中世ごろからハマグリが減り、アサリ・シオフキガイ・バカガイが多くなる傾向にあり、今回もそれを裏付ける結果が得られた。

（3）貝殻のサイズ

今回の分析結果では、中近世より古代の方がどの種でも大きな個体を採取している。一般に古代から中近世に採取された貝は、縄文時代の貝塚出土のものに比べてかなり大きいが、その間の変化は明らかでなく、今後東南部地区を中心に多くの遺跡の試料を検討していきたい。

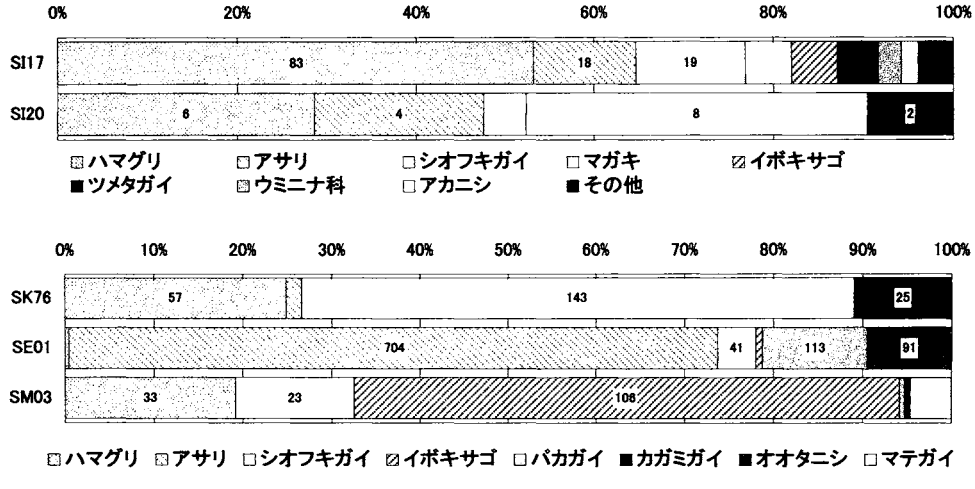
第4表　貝類種名一覧

腹足綱	原始腹足目	ユキノカサガイ科	ツボミガイ	*Patelloida pygmaea lampanicola*
		ニシキウズガイ科	イボキサゴ	*Umbonium (Suchium) moniliferum*
	中腹足目	タニシ科	オオタニシ	*Cipangopaludina japonica*
		カワニナ科	カワニナ	*Semisulcospira libertina*
		ウミニナ科	ウミニナ属	Batillaria spp.
		タマガイ科	ツメタガイ	*Glassaulax didyma*
	新腹足目	アクキガイ科	アカニシ	*Rapana venosa*
		ムシロガイ科	アラムシロガイ	*Reticunassa festiva*
二枚貝綱	ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ	*Crassostrea gigas*
	マルスダレガイ目	バカガイ科	シオフキガイ	*Mactra quadrangularis*
			バカガイ	*Mactra chinensis*
		マテガイ科	マテガイ	*Solen strictus*
		シジミ科	ヤマトシジミ	*Corbicula japonica*
		マルスダレガイ科	カガミガイ	*Phacosoma japonicum*
			アサリ	*Ruditapes philippinarum*
			ハマグリ	*Meretrix lusoria*
	計		13科	16種

第5表　貝種組成

時代	古墳	古墳
種名	SI17	SI20
ツボミガイ	1	
イボキサゴ	8	
オオタニシ		
ウミニナ科	4	
ツメタガイ	7	
アカニシ	3	
アラムシロガイ	1	
マガキ	8	8
シオフキガイ	19	1
バカガイ	1	
マテガイ	1	2
ヤマトシジミ	1	
カガミガイ		
アサリ	18	4
ハマグリ	83	6
合　計	155	21

	中世	近世	近世
種名	SK76	SE01	SM03
ツボミガイ			
イボキサゴ		7	106
オオタニシ		91	
ウミニナ科			
ツメタガイ			
アカニシ			
アラムシロガイ			
マガキ			
シオフキガイ	143	41	23
バカガイ		113	1
マテガイ			8
ヤマトシジミ			
カガミガイ	25		1
アサリ	4	704	
ハマグリ	57	4	33
合　計	229	960	172



第210図　貝種組成

第6表　貝類計測値分布

ハマグリ殻長

mm	SI17	SI20	SK76	SM03
-5.0				
-10.0				
-15.0				
-20.0				
-25.0				
-30.0				
-35.0			3	
-40.0	2		4	1
-45.0	3		3	1
-50.0	3		4	
-55.0				2
-60.0	1	1		1
-65.0	1		1	1
-70.0	2			1
-75.0	1		1	2
-80.0	2			1
-85.0	1	1	3	
-90.0	1	2	2	
-95.0	1	1		
-100.0		1	2	
試料数	18	6	23	10
平均	61.21	83.33	56.44	59.04
標準偏差	17.93	13.73	23.12	12.85
最小	39.12	57.05	30.41	39.14
最大	92.77	95.97	95.48	75.50

シオフキガイ殻長

mm	SI17	SK76	SE01	SM03
-5.0				
-10.0				
-15.0				
-20.0				
-25.0			1	
-30.0		1	10	
-35.0		16	15	
-40.0	1	41	3	
-45.0	2	4		3
-50.0	10			7
-55.0	1			
-60.0				
-65.0				
-70.0				
-75.0				
-80.0				
-85.0				
-90.0				
-95.0				
-100.0				
試料数	14	62	29	10
平均	46.55	36.23	30.99	46.33
標準偏差	3.91	2.46	3.21	1.96
最小	36.27	29.59	23.61	42.97
最大	52.37	41.13	36.48	48.65

バカガイ殻長

mm	SE01
-5.0	
-10.0	
-15.0	
-20.0	
-25.0	
-30.0	
-35.0	5
-40.0	15
-45.0	32
-50.0	3
-55.0	1
-60.0	
-65.0	
-70.0	
-75.0	
-80.0	
-85.0	
-90.0	
-95.0	
-100.0	
試料数	56
平均	40.73
標準偏差	3.84
最小	30.02
最大	50.61

アサリ殻長

mm	SI17	SE01	%
-5.0			
-10.0			
-15.0			
-20.0			
-25.0		2	1.0%
-30.0		63	31.5%
-35.0		121	60.5%
-40.0		10	5.0%
-45.0	3	2	1.0%
-50.0	2	1	0.5%
-55.0	3		
-60.0	6		
-65.0			
-70.0			
-75.0			
-80.0			
-85.0			
-90.0			
-95.0			
-100.0			
試料数	14	200	
平均	50.91	31.13	
標準偏差	5.98	3.22	
最小	40.71	19.75	
最大	58.51	48.37	

カガミガイ殻長

mm	SK76
-5.0	
-10.0	
-15.0	
-20.0	
-25.0	
-30.0	
-35.0	
-40.0	
-45.0	
-50.0	
-55.0	
-60.0	
-65.0	10
-70.0	10
-75.0	6
-80.0	
-85.0	
-90.0	
-95.0	
-100.0	
試料数	26
平均	66.91
標準偏差	2.96
最小	62.18
最大	71.94

イボキサゴ殻径

mm	SM03
-10.0	
-12.0	
-14.0	
-16.0	7
-18.0	24
-20.0	18
-22.0	2
-24.0	
-26.0	
-28.0	
-30.0	
-32.0	
-34.0	
-36.0	
-38.0	
-40.0	
-42.0	
-44.0	
-46.0	
-48.0	
-50.0	
試料数	51
平均	17.72
標準偏差	1.38
最小	14.97
最大	20.74

オオタニシ殻高

mm	SE01
-10.0	
-12.0	
-14.0	
-16.0	
-18.0	
-20.0	
-22.0	
-24.0	1
-26.0	
-28.0	2
-30.0	2
-32.0	5
-34.0	6
-36.0	6
-38.0	7
-40.0	8
-42.0	14
-44.0	11
-46.0	12
-48.0	3
-50.0	6
試料数	83
平均	39.66
標準偏差	5.88
最小	22.16
最大	49.70

第４章　製鉄関連遺物

第１節　概要

おゆみ野には，古代の鉄生産に関わる遺構・遺物が数多く存在した。一部は古墳時代に遡り，平安時代になると集落遺跡の大部分にみられるようになる。未報告の遺跡も多く，当遺跡もまた同様であった。しかし，詳細な分析を実施するには至らず，関連遺物の点数と重量を集計するに止めた。なお，近世遺構や遺構外で出土したものについては古代のものが流れ込んだ可能性，近現代のものである可能性などが考えられる。これらについては第８表に記載するに止める。

第２節　製鉄関連遺構と出土遺物

１．古墳時代後期

11軒の住居跡からスラグや小鉄塊等の製鉄関連遺物が出土している。鍛冶炉等の遺構は見つかっていないものの，SI14やSI58ではスラグ・鉄塊が多量に出土しており，かなり大きなものや椀形滓，炉壁も混じっている。当地に鍛冶遺構が存在したとみてよいであろう。なお，SI15の羽口型の土製品は，溶解や鉄分の付着が見られないので，製鉄関連の遺物とはいえないかもしれない。また，SI14・SI49・SI53のスラグは平安時代のものが流れ込んだか，平安時代の遺構が存在した可能性がある。関連遺物の出土した遺構はC5とF3に集中がみられる。しかし，遺物が多かったSI14とSI58はむしろこれらとは離れた位置にある。

２．奈良・平安時代

古墳時代とは対照的に，鍛冶に関わる直接的な証拠が少なくない。廃滓坑をもち，多量の羽口・スラグが出ているSI10，窪みに羽口片がまとまっていたSI35，炉に羽口が伴っていたSI63の３軒は，鍛冶炉を伴う工房であろう。また，スラグ，小鉄塊，鍛造剥片，炉壁などが出土した円形土坑のうち，廃滓が１kgほどあるいはそれ以上出ているSK04・21・47・48・69・71・72は廃滓坑とみてよいであろう。第７地点の谷（SX10）にも多量のスラグが流れ込んでいた。そのほか関連遺物が出土した遺構を合わせると，住居跡11，土坑15基が見つかっている。遺跡の北側に張り出す３つの台地にそれぞれ分布するが，いずれも北から西向きの斜面にあって，北東から東を向く部分には存在しない（第５章，第213図）。これは奈良・平安時代の遺構全体の特徴ともいえ，集落内に鍛冶遺構が存在するというより,集団そのものないし当時のこの場所自体が製鉄に深く関わっていたものとみられる。

第７表　製鉄関連遺構（１）　古墳時代

地点	新No.	旧No.	遺構	時期	スラグ等g	備考
08	**SI01**	08-003	住居跡	古墳後期	14.9	スラグ
08	**SI04**	08-006	住居跡	古墳後期	13.0	スラグ
09	**SI13**	09-J01	住居跡	古墳後期	136.9	スラグ
09	**SI14**	09-J02	住居跡	古墳後期	976.4	スラグ（大あり），小鉄塊，椀形滓
09	**SI15**	09-J03	住居跡	古墳後期	－	細型羽口3。製鉄関連?
12	**SI45**	12-J07	住居跡	古墳後期	11.3	スラグ
12	**SI47**	12-J09	住居跡	古墳後期	26.7	スラグ，炉壁?
12	**SI48**	12-J10	住居跡	古墳後期	17.5	スラグ
12	**SI49**	12-J12	住居跡	古墳後期	19.2	スラグ。=SI63から流入？
12	**SI53**	12-J18	住居跡	古墳後期	10.9	スラグ=平安の土器混じる
12	**SI58**	12-J32	住居跡	古墳後期	217.9	スラグ，小鉄塊，炉壁

第8表　製鉄関連遺構（2）　奈良・平安時代

地点	新No.	旧No.	遺構	時期	スラグ等g	備考
08	SI08	08-007	住居跡	平安	20.2	小鉄塊
08	SI10	08-009	住居跡	平安	132.4	廃滓坑をもつ。羽口, スラグ, 小鉄塊
09	SI30	09-J06	住居跡	平安	247.5	羽口, スラグ, 小鉄塊, 炉壁
09	SI31	09-J08	住居跡	平安	61.2	スラグ
09	SI34	09-J21	住居跡?	平安	49.7	スラグ
09	SI35	09-J22	住居跡	平安	290.0	小鍛冶炉. 羽口3, 椀形滓
12	SI61	12-J04	住居跡	平安	—	細型羽口
12	SI62	12-J06	住居跡	平安	67.9	スラグ
12	SI63	12-J11	住居跡	平安	2564.8	鍛冶工房。羽口, スラグ, 小鉄塊, 炉壁
12	SI69	12-J26	住居跡	奈良・平安	322.4	スラグ, 小鉄塊, 炉壁
12	SI72	12-J31	住居跡	平安	11.1	スラグ
07	SK04	07-010	土坑	平安	9252.3	廃滓坑。スラグ・小鉄塊多量。椀形滓・炉壁あり
07	SK05	07-011	土坑	古代	?	スラグ
07	SK06	07-012	土坑	古代	—	製鉄遺構に近接し形状似る=関連土坑か
07	SK07	07-013	土坑	古代	?	スラグ。遺構？
07	SK08	07-030	土坑	古代	16.4	スラグ
07	SK09	07-031	土坑	古代	?	スラグ
07	SK19	07-035	土坑	古代	83.7	スラグ
08	SK21	08-D33	土坑	平安	2019.8	廃滓坑。スラグ, 小鉄塊, 炉壁
08	SK23	08-D10	土坑	平安	78.9	スラグ
09	SK47	09-D03	土坑	平安	4266.1	スラグ・椀形滓, 鍛造剥片, 羽口, 炉壁
09	SK48	09-D11	土坑	平安	3460.8	鍛造剥片, スラグ, 小鉄塊
12	SK69	12-D04	土坑	平安	1341.5	廃滓坑。羽口
13	SK70	12-D01	土坑	平安	—	廃滓坑。羽口
12	SK71	12-D02	土坑	平安	2239.9	廃滓坑。羽口, スラグ, 椀形滓
12	SK72	12-D05	土坑	平安	998.0	羽口, スラグ, 椀形滓, 炉壁
01	1号	—	土坑	平安	—	スラグ少。報告済み
02	2号	—	土坑	平安	—	スラグ少。報告済み

第9表　スラグ等集計・計量結果

地点	遺構	種類	個数	重量	備考
07	07-2E	スラグ	3	323.0	台地上
07	07-3F	スラグ	13	940.3	台地上
07	07-4D	スラグ	1	14.4	07-Aトレンチ,台地上
07	07-4D	小鉄塊	1	5.3	台地上
07	07-4D	スラグ	1	8.5	4D-02,台地上
07	SK04	スラグ+小鉄塊	560	9252.3	台地上
07	SK08	スラグ	2	7.2	台地上
07	SK08	小鉄塊	5	9.2	台地上
07	SK19	スラグ	2	83.7	台地上
07	SX10-L	スラグ	7	256.5	2C, 斜面下平場
07	SX10-L	スラグ	4	581.4	SE02
07	SX10-S	スラグ	2	747.5	07-3C.4C,南斜面
07	SX10-S	スラグ	1	169.4	07-4C,(旧004=欠)
07	SX10-S	スラグ	34	368.5	07-4D(旧029=欠)
07	SX10-S	小鉄塊	3	5.4	07-4D(旧029=欠)
07	SX10-S	スラグ	10	1123.7	07-東斜面
07	SX10-S	小鉄塊	1	7.2	07-東斜面
07	SX10-S	スラグ	49	2323.7	07-南斜面
07	SX10-S	小鉄塊	6	26.6	07-南斜面
07	SX10-S	スラグ	1	127.8	07-3B,南斜面
07	SX10-S	スラグ	2	136.8	3D-06,東斜面
07	SX10-S	スラグ	4	210.0	SK15
08	SI01	スラグ	3	14.9	
08	SI04	スラグ	2	13.0	
08	SI08	小鉄塊	3	20.2	
08	SI10	スラグ	35	36.2	
08	SI10	小鉄塊	82	96.2	
08	SK21	スラグ	83	719.9	
08	SK21	小鉄塊	159	1299.9	
08	SK23	スラグ	3	78.9	
08	SM02	スラグ	1	125.2	
08	SM03	スラグ	2	24.7	
09	09-2E	スラグ	1	86.0	09-2E-10
09	09-3F	スラグ	4	48.5	09-3F-02
09	09-3F	スラグ	1	16.0	09-3F-08
09	09-3F	スラグ	7	41.1	09-3F-10
09	09-3F	スラグ	1	44.0	09-3F-16
09	09-H3	スラグ	16	374.5	
09	09-I3	スラグ	34	662.5	09-I3-T1
09	09-I3	小鉄塊	20	52.2	09-I3-T1
09	09-J5	スラグ	5	171.7	
09	09-J5	小鉄塊	6	6.2	
09	09-近世遺構	スラグ	16	455.5	SD03
09	09-近世遺構	小鉄塊	12	170.5	SD03
09	09-近世遺構	スラグ	8	173.8	SD05
09	09-近世遺構	小鉄塊	1	4.5	SD05
09	09-近世遺構	スラグ	2	181.6	SD10

地点	遺構	種類	個数	重量	備考
09	09-近世遺構	スラグ	8	98.3	SD13
09	09-近世遺構	小鉄塊	1	5.6	SD13
09	09-近世遺構	スラグ	1	97.4	SD23
09	09-近世遺構	スラグ	1	20.7	SK49
09	09-近世遺構	スラグ	2	7.7	SK53
09	09-近世遺構	スラグ	1	16.9	SK57
09	SI13	スラグ	6	136.9	
09	SI14	スラグ	5	955.9	
09	SI14	小鉄塊	2	20.5	
09	SI30	スラグ	5	162.5	
09	SI30	小鉄塊	18	85.0	
09	SI31	スラグ	2	61.2	
09	SI34	スラグ	1	49.7	
09	SI35	スラグ	7	290.0	
09	SK47	スラグ	1	7.6	
09	SK47	小鉄塊	1	4.5	
09	SK47	スラグ	28	1314.7	
09	SK47	小鉄塊	73	2939.3	
09	SK48	スラグ	1	55.7	
09	SK48	小鉄塊	17	3405.1	
12	12-C5	スラグ	7	24.0	C5-06
12	12-C5	スラグ	9	80.8	C5-28,SI52
12	12-C5	スラグ	8	49.8	C5-30
12	12-C5	スラグ	1	9.1	C5-34
12	12-C5	スラグ	13	94.1	C5-36,SI52
12	12-C5	スラグ	1	89.4	C5-62
12	12-C5	スラグ	2	48.7	C5-65
12	12-C5	スラグ	9	63.0	C5-68,SI64
12	12-C5	スラグ	14	208.2	C5-76,SI64
12	SI45	スラグ	1	11.3	
12	SI47	スラグ	3	26.7	
12	SI48	スラグ	2	17.5	
12	SI49	スラグ	2	19.2	
12	SI53	スラグ	1	10.9	
12	SI58	スラグ	16	24.1	
12	SI58	小鉄塊	59	193.8	
12	SI62	スラグ	6	67.9	
12	SI63	小鉄塊	205	1993.6	
12	SI63	スラグ	84	571.2	
12	SI69	スラグ	9	121.8	
12	SI69	小鉄塊	47	200.6	
12	SI72	スラグ	2	11.1	
12	SK69	小鉄塊	76	1340.6	
12	SK69	スラグ	2	0.9	
12	SK71	スラグ	4	2239.9	
12	SK72	スラグ	153	926.1	
12	SK72	小鉄塊	20	71.9	

第5章　まとめ

第1節　縄文時代

出土した縄文土器は，全部合わせても17箱にすぎない。第10表により，掲載資料を時期別にみると，鵜ヶ島台式，阿玉台Ⅰ式，浮島Ⅰ・諸磯a・b式，加曽利EⅡ～Ⅲ式がまとまっている。三戸式もやや多い。地点別にみると，第12地点の沈線文土器と阿玉台式，第15地点の条痕文土器と浮島・諸磯式が比較的まとまっている。そのほか，浮島・諸磯式は北西側の各地点，加曽利E式は全体に広く分布していることがわかる。なお，第11表に各地点で出土した石器を器種別に集計した。打製石斧・石鏃類・磨石類は中期の土器が多い地点で多く，ある程度時期的な傾向を示すものであろう。一方，15地点の石鏃，石核・剥片類は早・前期のものであろう。なお，事実記載は時期と型式の名称によって行ったが，掲載資料の分類には大別·小別の分類群を使っている。大別は中野修秀による縄文土器分類大綱（中野2000）により，小別は出土資料に合わせて設定した。第10表に示したものである。

第211図によって遺構の分布をみると，広域に分散していて大きな集中はみられない。近世の攪乱を免れた部分に多い，ということのようである。斜線の網をかけた部分が近世の削平範囲である。そのなかで，1軒に過ぎないが花積下層式期の住居跡は特筆すべきである。この時期の資料は，村田川河口に近い神門遺跡で多量の遺物が出ているが，台地上ではほとんど見つからない。遺構はきわめて珍しい。早期の炉穴は6つの集中箇所がみられ，削平されたものも多かったものと思われる。中期の住居跡と小竪穴は，東側に隣接する有吉南貝塚など中期中葉の集落群と同じ時期のものである。通年定住型の集落の周辺にある一時的な居住・貯蔵の痕跡として，貴重な発見といえるだろう（西野2000)。

第2節　古墳時代

(1) 概要

住居跡39軒と古墳6基を検出した。第212図に分布を示す。斜線網部分は近世に削平された範囲である。住居跡の分布をみると，北側の赤塚支谷に面した緩斜面に集中している。一方，古墳は赤塚支谷と南側の泉支谷との分水嶺である，尾根付近に点々と分布している。墳丘の規模が20mを超える円墳1基，20mに近い円墳2基と，かなり大型の古墳を含んでいる。谷に面した場所が居住地となり,背後の尾根が墓地となっているのは，赤塚支谷の北側の台地や泉支谷の南側の台地でも共通している。とくに，当遺跡周辺の赤塚支谷に面した台地上は，全面に古墳時代後期の集落が広がっていた可能性が高い。第12表に土師器·須恵器の器種別の掲載点数を示した。土師器の甕と杯が1対1の割合であり，高杯がその3分の1程度というのが，平均的なところである。この数値から大きく外れる遺構には，杯の多いSI01・SI50，高杯の多いSI15・SI43，手捏ね土器の多いSI18がある。このうち，SI01とSI15は覆土中に破片が廃棄されたものであり,特定の器種が別の場所で使用されるようなケースが考えられる。SI18・SI43・SI50は残りのよい土器が床面付近で出土しており,遺棄された背後には住居の廃絶に伴う儀礼等があったのではないか。そのほか，未使用の支脚がまとまっていたSI50，窓付きの甕が正立していたSI52，カマド内や脇に残りのよい土器が存在したSI03・SI24・SI44・SI46・SI47・SI49・SI58，須恵器がまとまっていたSI04なども注目に値しよう。

(2) 第8地点住居跡の須恵器と遺構の時期について

今回の報告では，土師器·須恵期の編年に基づいた詳細な遺構時期決定を省略せざるを得なかった。第8地点の須恵器のみ加藤修司が編年の検討を行ったので掲載する。なお，径は最大径（第19表は口径であり，数値は異なる），高は器高の復原値，7C-1/4は7世紀第一四半期を示す。

SI03

1．合子状坏蓋　径11.8，高4.6cm。同心円状回転ヘラ削りによりⅡ期-5前後だが，器高がやや高すぎる。7C-1/4。5の蓋と思われる。

2．合子状坏蓋　径12.0，高4.5cm。渦巻き状回転ヘラ削り。Ⅱ期-3後半～4前後。6C-1/4～7C初前後。

3．合子状坏蓋　径10.0，高3.5cm，渦巻き状回転ヘラ削り（C類）。これを強調すればⅡ期-4が下限（6C末～7C初）であるが径が小さすぎる。径を強調すれば10.0cmという小形はⅡ期-6まで下がる（7C-1/4）が，同心円状回転ヘラ削り（D類）である。やや酸化焔焼成。

4．合子状坏身　径11.1，高3.4cm。同心円状回転ヘラ削りでⅡ期-5～6前後。7C-1or2/4。やや酸化焔焼成。

5．合子状坏身　径12.3，高4.4cm。同心円状回転ヘラ削りで後藤編年湖西Ⅱ期-5，7C-1/4

SI04

1．合子状坏蓋　径13.9，高4.7cm。渦巻き状回転ヘラ削りでⅡ期-1後半～2前後。6C-2/4前後。口唇部に明瞭な段を有する。

2．合子状坏蓋　径13.0，高4.4cm。渦巻き状回転ヘラ削りでⅡ期-2，6C中頃。口唇部に明瞭な段を有す。

3．合子状坏身　径13.7，高4.9cm，渦巻き状回転ヘラ削り，径からⅡ期-3後半まで下がるが，器高が4.8cmと高く，Ⅱ期-2まで上がる。6C中頃～6C-4/4前後か。

4．合子状坏身　径14.4，高5.0cm前後，整形不明。Ⅱ期-2前後。6C中頃。

SI05

3．合子状坏身　径12.7，高4.7cm，渦巻き状回転ヘラ削り，Ⅱ期-4，6C末～7C初頭

4．合子状坏身　径12.8，高4.2cm，渦巻き状回転ヘラ削り，Ⅱ期-4，6C末～7C初頭

以上より，SI04が6世紀中頃から営まれ，その後，6世紀末頃から7世紀初頭にかけてSI05，さらに7世紀第一四半期までにはSI03が営まれたと想定できる。

第3節　奈良・平安時代

住居跡32軒，墳墓2基，土坑22基を検出した。ほとんどは平安時代であり，確実に奈良時代に遡るものはみられない。第213図に奈良·平安時代の遺構分布を示す。斜線網部分は近世に削平された範囲である。遺構の分布をみると，北側の赤塚支谷に面した緩斜面に集中している。第4章で述べたように，住居跡11軒と土坑17基で製鉄関連の遺物が出土しており，小鍛冶の直接的な遺構もみられる。検出遺構に対する，製鉄関連遺物の出土率はきわめて高い。この場所が，鍛冶に関わる集団の居住地となったか，または鍛冶作業の場となった可能性が高い。

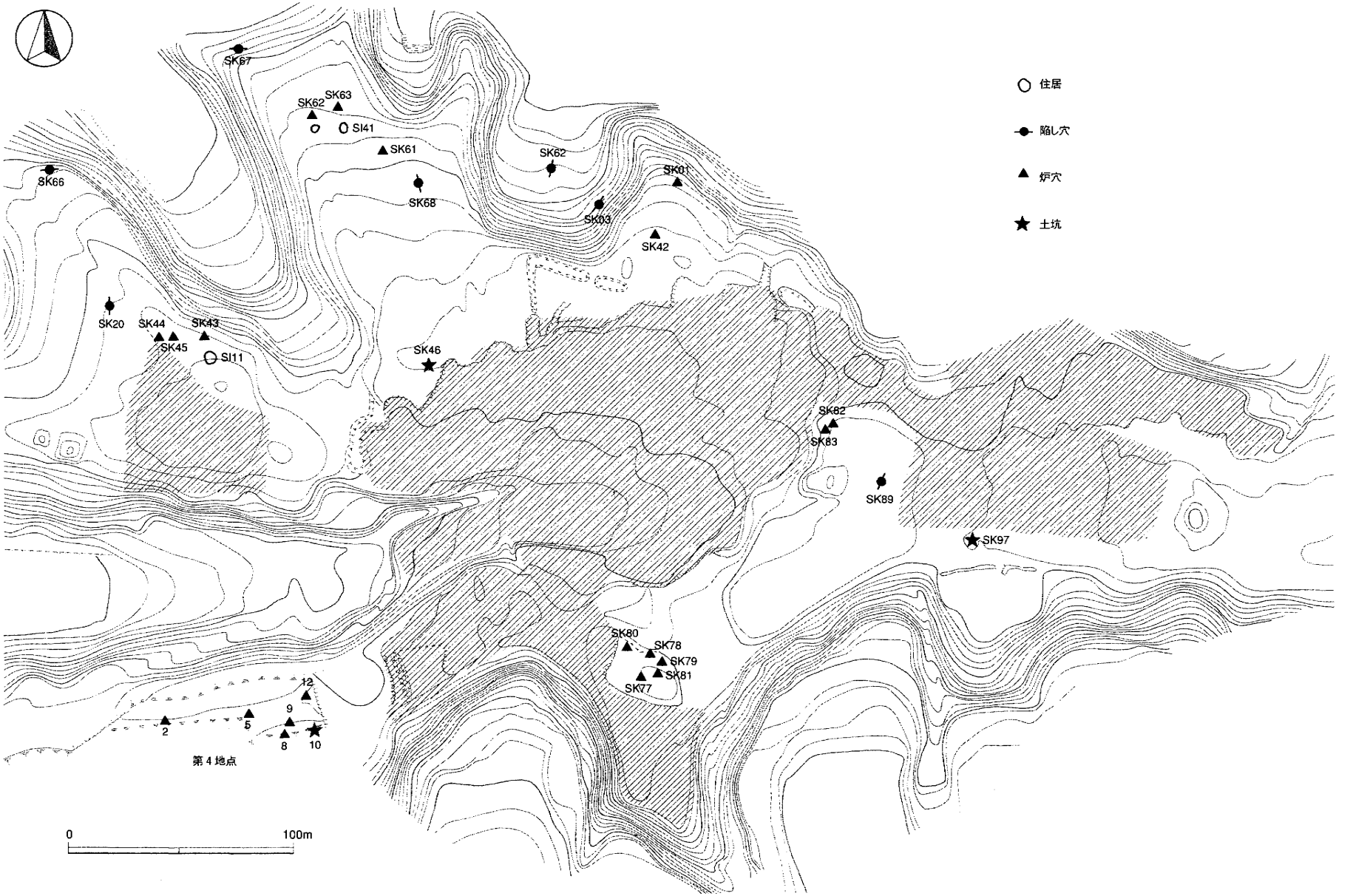
第4節　中近世の遺構・遺物と「有吉城」の存在について

陶磁器の分類，産地・時期同定は君津郡市文化財センター井上哲夫氏の協力を得て,渡邉高弘が行った。

検出した遺構を列挙すると，台地整形8，掘立柱建物跡4，柱穴列4，土塁2，溝57，井戸2，炭窯2，塚3，土壙墓1，土坑17となる。このうち，中世に遡る可能性があるのは，中世の遺物が出土して近世の遺物は混じっていないSK57土坑，SD59溝であるが，出土遺物はいずれも1点であって,時期を限定し得ない。確実に中世に遡る遺構は皆無といえる。焼物の時期別点数（第14表）をみても，まとまって出土した場所は認められない。もっとも多いのは3点というものである。しかし，これは第13地点の遺構外であり，まとまって出土したものではない。したがって，中世の遺構が存在した可能性は否定できないが，多くの遺構は17世紀以降のものと考えるべきであろう。

「有吉城」の郭の中心部と想定されていた場所は，おそらく調査対象範囲外の有吉集落内である。調査しても近世に大きく削平されている可能性が高く，確認はむずかしい。しかし，第9地点の土塁や平坦地も城郭説に結びついていた可能性があり，その帰属時期はある程度決め手となるだろう。調査の結果，出土遺物の時期は18世紀から19世紀であった。このように，遺構と出土遺物の両面から，この地に，軍記物に登場するような長期間重要な城郭として「有吉城」が存在した可能性は否定されるべきである。

なお，細尾根でつながった西側には城ノ台遺跡がある。発掘調査により，虎口，土塁，腰曲輪といった城郭に伴う遺構を確認することができた（未報告）。しかし，土塁は台地の縁の一部にあるのみで，広い平坦面には郭を区画する土塁や溝が存在しない。中世遺物もごく少ない。したがって，これも軍記物に登場する「有吉城」の姿とはかけ離れている。急場で造られ，あるいは途中で廃城にいたった可能性が高い（柴田1995）。付近にはほかに城郭に結びつく場所は存在しないので，やはりこの地に「有吉城」は存在しなかったのであろう。最近では小櫃川河口北岸の木更津市有吉を推定地とする説もあるとのことである。



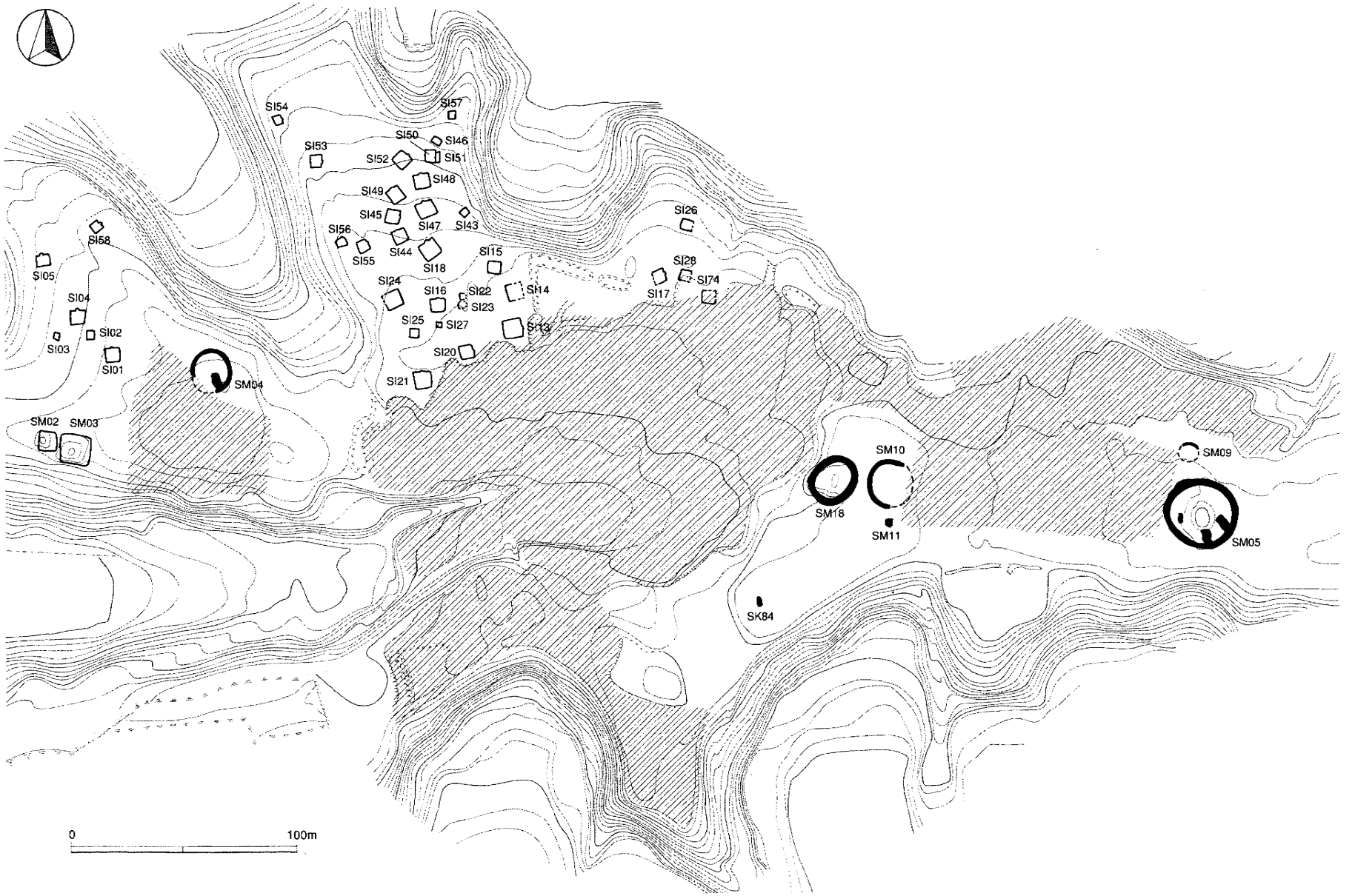
第211図　縄文時代の遺構分布

第10表　縄文土器掲載点数数

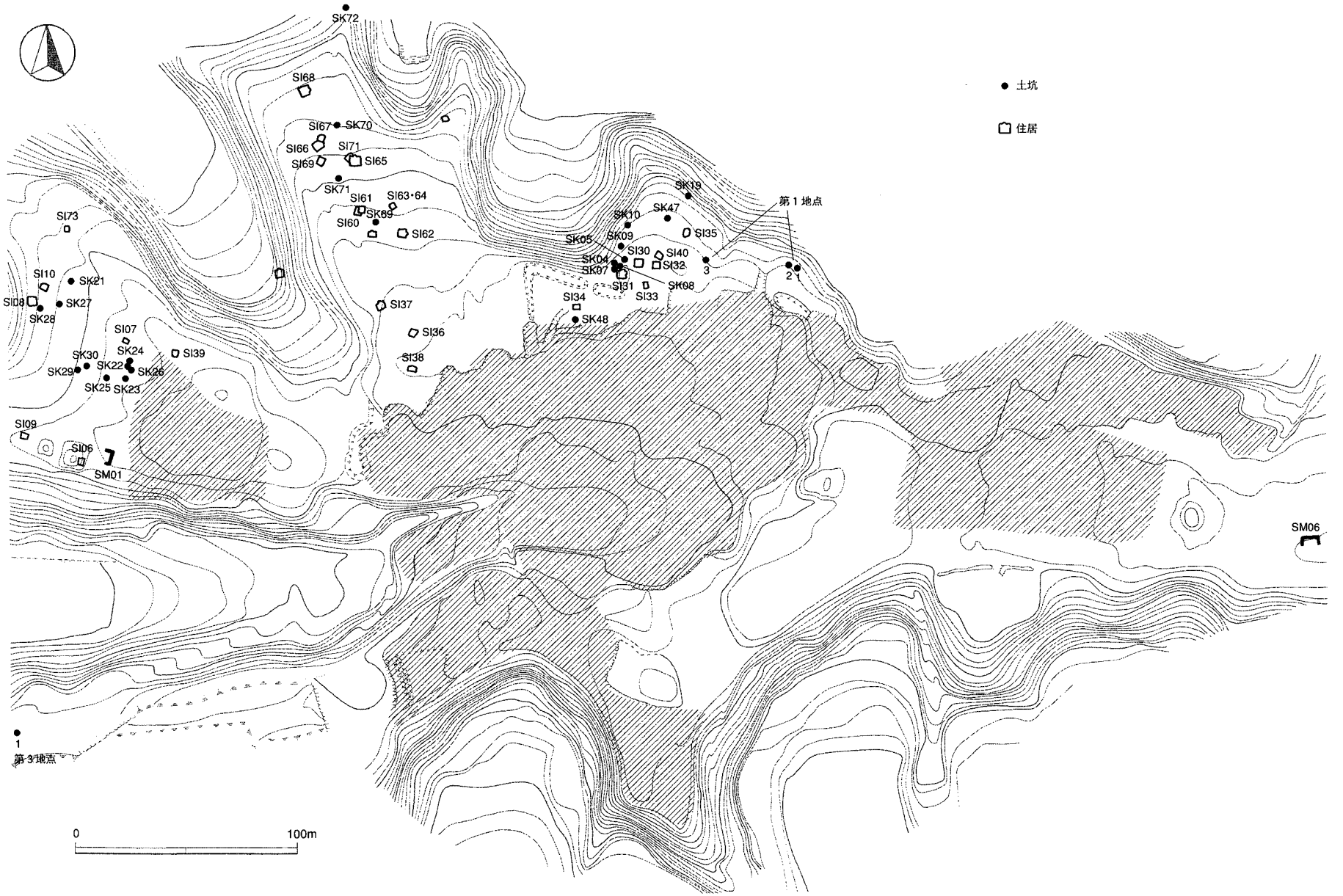
			北西ブロック					南東ブロック									
群	類	型式	8地点	12地点	9地点	7地点	13地点	15地点	26地点	16地点	22地点	28地点	30地点	25地点	20地点	11地点	合計
		調査面積	6700	13200	15100	4000	1600	1130	630	3500	400	1000	100	100	470	2700	
土器箱数			1	5	3	1	1	4	0	0	0	1	0	0	0	1	17箱
掲載点数			17	72	47	21	4	115	2	2	3	20	2	4	5	20	334
1群	**撚糸文系**			**1**													**1**
2群	**沈線文系**		**3**	**15**	**3**	**1**		**7**				**4**				**4**	**37**
	1	三戸		8				3								1	12
	2	田戸下層		2												3	5
	3	田戸上層			1												1
	4	子母口	3	5	2	1		4				4					19
3群	**条痕文系**		**5**	**10**	**6**	**2**		**49**	**1**	**1**	**3**	**4**				**1**	**82**
	1or2	野島or鵜ヶ島台	1														1
	2	鵜ヶ島台	1	2				15									18
	3	茅山下層						1									1
	4	茅山上層		2				3									5
	4+	茅山上層以降						4									4
	5	花積下層		1													1
	他		3	5	6	2		26	1	1	3	4				1	52
4群	**羽状縄文系**			**4**	**1**			**1**						**1**			**7**
5群	**浮島・興津・諸磯式**		**3**	**8**	**18**	**10**	**2**	**40**								**3**	**84**
	1	浮島Ⅰ	1	2	1	1		10								1	16
	1or 2	浮島ⅠorⅡ						3									3
	2	浮島Ⅱ		3	3			1									7
	2or3	浮島ⅡorⅢ				1										1	2
	3	浮島Ⅲ			2	1	1	1									5
	4	諸磯a	1	1	3		1	10									16
	4or 5	諸磯a or b						1									1
	5	諸磯b	1	1	4	1		12									19
	5or 6	諸磯b or c			1												1
	6	諸磯c			1	2										1	4
	7	興津		1	3	2											6
	他					2		2									4
6群	**前期末葉**			**1**	**1**	**1**		**2**				**1**				**4**	**10**
8群	**五領ヶ台式**		**1**	**1**													**2**
9群	**阿玉台・勝坂式**		**5**	**14**		**4**		**11**	**1**							**2**	**37**
	01	阿玉台Ⅰ		5													5
	01a	阿玉台Ⅰa		4		1		7	1							1	14
	01b	阿玉台Ⅰb	4	2		1		4									11
	02	阿玉台Ⅱ		2													2
	03	阿玉台Ⅲ	1														1
	10	中峠		1		2										1	4
10群	**加曽利E式**			**14**	**15**	**3**	**2**	**4**				**10**	**2**	**3**	**3**	**5**	**61**
	1	加曽利EⅠ		3	1	1		1									6
	1or2	加曽利EⅠorⅡ		1												1	2
	2	加曽利EⅡ		2	6	1	1	2				6	2	1	2	1	24
	2or3	加曽利EⅡorⅢ			1		1					4		1	1	2	10
	3	加曽利EⅢ		1				1								1	3
	4	加曽利EⅣ		7	1	1											9
	7	加曽利E浅鉢			6												6
	他													1			1
14群	**堀之内式**			**2**	**2**							**1**			**1**	**1**	**6**
15群	**加曽利B式**			**1**				**1**							**1**		**3**
不明				**1**	**1**					**1**							**3**

第11表　縄文時代石器掲載点数

	8地点	12地点	9地点	7地点	13地点	15地点	26地点	16地点	22地点	28地点	30地点	25地点	20地点	11地点	合計
打製石斧		3	3	1										1	8
石鏃類	1	8	3	1		4								6	23
磨石類	2	7	9			1								4	24
石皿		1		1	1				1					1	5
磨製石斧		1				1								1	3
他剥片石器		2	2			2								3	9
他礫石器	4	8	1		1				1					1	16
石核類	1	2	1			6									10
楔形石器類	2	5	1			1									9
剥片	5	9	3			11								3	31
総計	15	46	23	3	2	26			2				20		138



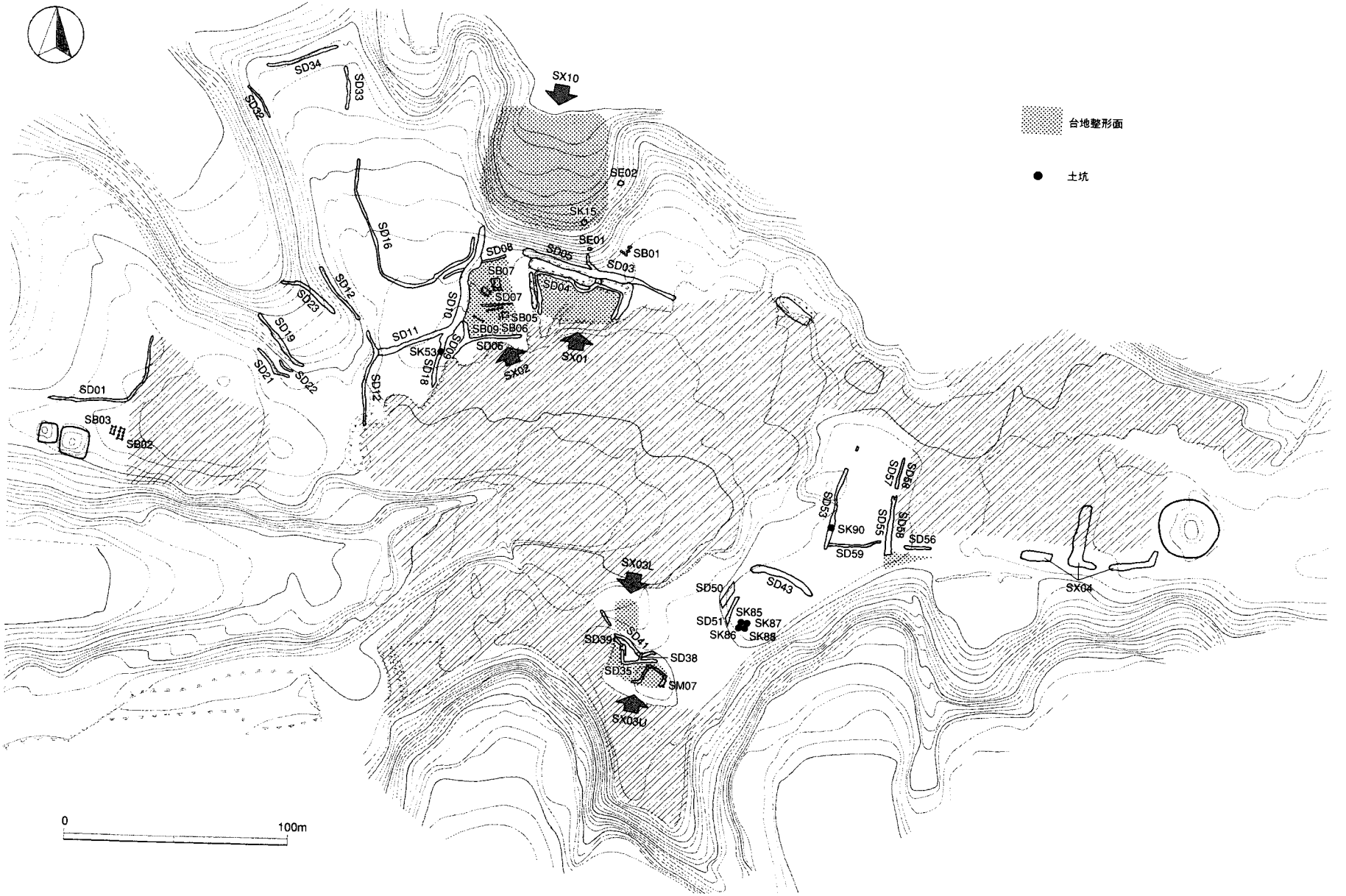
第212図　古墳時代の遺構分布



第213図　奈良・平安時代の遺構分布

第12表　土師器·須恵器等掲載点数

地点	時代	遺構	土師器									須恵器					灰釉				計
			甕	杯	高杯	鉢	甑	碗·皿	壺	小型土器	手捏ね	甕	杯	蓋	壺	提瓶	甕	高台付杯	瓶	皿	
	総計		165	232	49	13	12	9	0	2	8	19	19	17	2	1	1	1	2	4	556
	古墳時代計		148	162	49	13	10	1	0	2	8	7	19	17	2	1	0	0	0	0	439
8	住居跡	SI01	1	12			1														14
8	住居跡	SI03	7	3			1						2	3							16
8	住居跡	SI04	4	8	4								3	2							21
8	住居跡	SI05	6	3	1								2	2							14
9	住居跡	SI13	3	4	3	1															11
9	住居跡	SI14	2	2		1															5
9	住居跡	SI15	5	4	7								1	1		1					19
9	住居跡	SI16	5	7									1								13
9	住居跡	SI17	3	4			1														8
9	住居跡	SI18	15	13	1		1				5		2								37
9	住居跡	SI20	7	12	1																20
9	住居跡	SI21	7	8	1			1						1							18
9	住居跡	SI24	12	8	3								1								24
13	住居跡	SI28	2	2			2														6
12	住居跡	SI43	3	2	7		1							1							14
12	住居跡	SI44	1	1	2		1					2	1	1							9
12	住居跡	SI45	4	9	1																14
12	住居跡	SI46	11	5	3	4	2							1	1						27
12	住居跡	SI47	3	5	1						1		2	1							13
12	住居跡	SI48	9	5	1	1					1		1								18
12	住居跡	SI49	2	1	1									1							5
12	住居跡	SI50	1	14	2	3				1			1								22
12	住居跡	SI52	14	11		1				1			1								28
12	住居跡	SI53	2	6		1															9
12	住居跡	SI54	2	3	1						1										7
12	住居跡	SI56	4	1	1																6
12	住居跡	SI57	8	4	2	1															15
12	住居跡	SI58	2	1	1																4
9	古墳	SM04	2	1	2																5
11	古墳	SM05	1	3	3							5	1	3	1						17
	奈良·平安計		17	70	0	0	2	8	0	0	0	12	0	0	0	0	1	1	2	4	117
8	住居跡	SI06		11				5													16
8	住居跡	SI07	1	6								1									8
8	住居跡	SI08		6								3									9
8	住居跡	SI09	2	5																	7
8	住居跡	SI10		1				2											1	2	6
9	住居跡	SI30	1	5				1									1		1	1	10
9	住居跡	SI33		5																	5
9	住居跡	SI37	3	3																	6
9	住居跡	SI38	2	5																	7
12	住居跡	SI59	1	7								8									16
12	住居跡	SI63		4																	4
12	住居跡	SI65	1	1			1											1			4
12	住居跡	SI69	5				1														6
12	住居跡	SI72	1	8																	9
12	住居跡	SI73		3																1	4



第214図　近世の遺構分布

第13表　中近世遺物掲載点数（1）　産地・器種を集計

大別	器種	器形	7地点				8地点		9地点				11地点	13地点	15地点				26地点	28地点	遺跡計
			SE01	SE02	SK15	SX10	SM02	SM03	SX01	SX02	SK57	溝	SM5	SK76	SX03-L	SX03-U	SM07	SD42	SD50	溝	
瀬戸・美濃	染付磁器	蓋							1												1
		皿							1			1									2
		碗	1		2	1			4			1						1		1	11
	陶器	その他				1															1
		蓋				1			1			1									3
		行平				1															1
		香炉			1	1						1			3						6
		皿	2			2		2			1		2		10				1		20
		洗																1			1
		灯明具	1			1															2
		徳利			1	1		1	1			4	1		3						12
		鉢				1						1	2		1						5
		半胴							1												1
		瓶										1			2						3
		瓶・壺類				1															1
		片口		1		2									1			1			5
		碗				2		1	2						1		1				7
		擂り鉢					1		2			2	1		3						9
		燭				1							1								2
常滑	陶器	鉢												1	1	1					3
		甕				1			1				1		1						4
堺	陶器	擂り鉢			1	2			1	1					3					1	9
備前	陶器	壺										1									1
肥前	色絵磁器	蓋				1															1
		皿										1									1
		瓶													1						1
	青磁	香炉													1						1
		鉢			1																1
		碗													1						1
	白磁	皿				1															1
		瓶				1															1
	染付磁器	その他			1							1								1	3
		蓋	1		1	1			2			1									6
		向付													1					1	2
		皿	1		2	1	2		3			2			4			1		1	17
		猪口			3																3
		徳利				1															1
		鉢	1		1							1									3
		仏飯器													1						1
		碗	1		1			1	3			2	1				1	2		1	13
	陶器	蓋											1							1	2
		釜																		1	1
		香炉													1						1
		皿										1			3		1				5
		土瓶				1														1	2
		徳利			1	1															2
		瓶							1												1
		瓶・壺類				1															1
		碗							1						2						3
瓦質土器・土器		皿				2		1					1		4			2		1	11
		七輪													1						1
		鉢			1				1												2
		焜炉			1																1
		焙烙	1			3						2	1		3			1			11
		皿																		1	1
		擂り鉢											1								1
合計			9	1	18	33	3	6	26	1	1	24	13	1	52	1	3	9	1	11	213

第14表　中近世遺物掲載点数（2）　時期別集計

時期	7地点				8地点		9地点				11地点	12地点	13地点		15地点					16地点	26地点	28地点			総計
	SE01	SE02	SK15	SX10	SM02	SM03	SX01	SX02	SK57	溝	SM5	遺構外	遺構外	SK76	遺構外	SX03-L	SX03-U	SM07	SD42	遺構外	SD50	遺構外	SD55	SD52	
13C														1											1
14C																	1								1
14C～15C																1				1					2
15C									1							1				1	1				4
15C末～16C							1																		1
中世											1		3												4
17C前				1		1										3									5
17C中																2									2
17C後										1						3			1						5
17C				3												3									6
17C～18C			1	1		1					1					4		2							10
18C前	1							1		1	1	1				3						1			9
18C中						1				1															2
18C中/後	1																								1
18C後	3	1	1	2	2	2	3			5	1	1			1	4			3				1	1	31
18C	2		5	4	1		1			4	1				1	6		1							26
18C～19C				6												1									7
19C前				4			2			5	1					1							1		14
19C中										2															2
19C	1		4	4			1			1	3					2			1						17
総計	8	1	1	25	3	5	8	1	1	20	9	2	3	1	2	34	1	3	5	2	1	1	2	1	140

注・参考文献

第1章

1　千葉県文化財センター 1984　『千葉東南部ニュータウン15－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』

2　『日本城郭体系6』 1980　新人物往来社

府町清 1977 『房総古城跡めぐり』　有峰書店

3　『房総里見軍記』,『国府台戦記』,『関八州古戦記』である。

4　大野康夫 1984 「歴史的背景」『千葉東南部ニュータウン15－馬ノ口遺跡・有吉城跡他』

第3節　有吉城跡

5　柴田龍司 1995 「二つのおゆみ城－小弓城と生実城－」千葉いまむかし8

6　千葉県文化財センター 1999 『千葉東南部ニュータウン21－有吉遺跡（4次）－』

7　千葉県文化財センター 1982 『千葉東南部ニュータウン17－高沢遺跡－』

8　千葉県文化財センター 1983 『千葉東南部ニュータウン20－有吉北貝塚2（古墳時代以降）－』

9　白井久美子1990 「群集墳の形成」『房総考古学ライブラリー5　古墳時代（1）』260p.

10　千葉県文化財センター 1985 『千葉東南部ニュータウン18－鎌取遺跡－』

11　千葉県文化財センター 2001 『千葉東南部ニュータウン23－太田法師遺跡－』

第2章

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』

千葉市史編纂委員会 1997『千葉市図誌　上巻』

中野修秀 2000 「遺構外出土の遺物」『沓掛貝塚遺跡－金谷郷遺跡群Ⅲ－』

中野晴久 1994 「赤羽・中野　生産地における編年について」『「中世常滑焼をおって」資料集』

藤澤良祐 1998 『瀬戸市史　陶磁史篇　六』

水本和美他 1998 「陶磁器・土器　分類・計数基準」『伝中・上富士前Ⅱ』別冊　豊島区遺跡調査会

第5章

中野修秀 2000 「遺構外出土の遺物」『沓掛貝塚遺跡－金谷郷遺跡群Ⅲ－』

西野雅人2000　「縄文時代中期の通年定住集落と周辺遺跡群」　史館31

第15表　遺構一覧

地点	新No.	旧No.	種類1	種類2	種類3	時期1	時期2	備考	ｸﾞﾘｯﾄﾞ
01地点			3遺構						
01	No.1-1	—	土坑	土坑		平安		土師器片, スラグ細片	K4
01	No.1-2	—	土坑	土坑		平安		土師器片, スラグ細片	K4
01	No.1-3	—	土坑	土坑		平安		土師甕, 杯	J4
03地点			1遺構						
03	No.3-1	—	土坑	土坑		古代?		土師甕	B9
04地点			13遺構						
04	No.4-02	04-002	土坑	炉穴	5基	縄文	早期後葉	条痕文土器多数	D9
04	No.4-05	04-008	土坑	炉穴	2基	縄文	早期後葉	条痕文土器多数	E9
04	No.4-08	04-013	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	条痕文土器小片	E9
04	No.4-09	04-016	土坑	炉穴	3基	縄文	早期後葉	条痕文土器小片	E9
04	No.4-12	04-019	土坑	炉穴	2基	縄文	早期後葉	遺物なし	E9
04	No.4-03	04-005	土坑	土坑		不明		土器小片	D9
04	No.4-04	04-007	土坑	土坑		不明		遺物なし	D9
04	No.4-07	04-011	土坑	土坑		不明		遺物なし	E9
04	No.4-10A	04-017	土坑	土坑		縄文		縄文土器小片	E9
04	No.4-10B	04-017	土坑	土坑		縄文	早期後葉	ハイガイ・マガキの貝ブロック	E9
04	No.4-01	04-001	土坑	土坑		不明		遺物なし。ごく新しい	D9
04	No.4-06	04-010	溝			不明		条痕文土器小片	E9
04	No.4-11	04-018	溝			不明		遺物なし	E9
07地点			23遺構						
07	SK01	07-036	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	条痕文土器口縁	I3
07	SK02	07-021	土坑	陥し穴		縄文		遺物なし	H3
07	SK03	07-026	土坑	陥し穴		縄文		遺物なし, 不整形	H3
07	SK04	07-010	土坑	土坑	廃滓坑	平安		灰釉瓶, 土師椀, 甕. 焙烙流入. 砥石, 土玉. スラグ, 椀型滓, 小鉄塊, 炉壁	I4
07	SK05	07-011	土坑	土坑	製鉄関連	古代		スラグ	I4
07	SK06	07-012	土坑	土坑	製鉄関連?	不明		遺物なし. 製鉄遺構に近接	I4
07	SK07	07-013	土坑	土坑	製鉄関連	古代		スラグ. 遺構？	I4
07	SK08	07-030	土坑	土坑	製鉄関連	古代		スラグ	I4
07	SK09	07-031	土坑	土坑	製鉄関連	古代		スラグ, 土師小片	I4
07	SK10	07-016	土坑	土坑		平安		土師長頸壺	I3
07	SB01	07-032	建物跡	柱穴列		近世?		遺物なし	I4
07	SK11	07-001	土坑	土坑		不明		遺物なし	H4
07	SK12	07-002	土坑	土坑		不明		遺物なし	H4
07	SK13	07-003	土坑	土坑		不明		遺物なし	H4
07	SK14	07-019	土坑	土坑		不明		遺物なし. 製鉄遺構に近接	I4
07	SK15	07-020	土坑	土坑	SX10遺構群	近世		17～19Cの陶磁器多数, 転用砥石. 近現代攪乱あり	H3
07	SK16	07-022	土坑	土坑	SX10遺構群	不明		遺物なし	H3
07	SK17	07-033	土坑	土坑		不明		遺物なし	I3
07	SK18	07-034	土坑	土坑		不明		遺物なし	I3
07	SK19	07-035	土坑	土坑	製鉄関連	不明		土師小片, スラグ。古代の土坑か？	I3
07	SE01	07-009	井戸	井戸	SX10遺構群	近世		寛永通寶. 18･19Cの陶磁多. 硯, 線刻あり	H4
07	SE02	07-024	井戸	井戸	SX10遺構群	近世		土師高台付杯, 骨	I3
07	SX10	07-Noなし	その他	台地整形	SX10遺構群	近世		土師高台付杯, 骨	H3
08地点			39遺構						
08	SK20	08-D19	土坑	陥し穴		縄文		遺物なし	C4
08	SI01	08-003	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕, 杯12, 甑. 支脚2, 土製勾玉, 土玉, スラグ3	C5
08	SI02	08-004	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師杯, 高杯, 鉢	C5
08	SI03	08-005	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕7, 杯3, 甑1. 須恵杯2, 蓋3. 支脚	C5
08	SI04	08-006	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕4, 杯8, 高杯4. 須恵杯3, 蓋2. 支脚, 軽石, スラグ2	C5
08	SI05	08-010	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕6, 杯3, 高杯1. 須恵杯2, 蓋2	B4
08	SI06	08-001	住居跡	住居跡		平安		２号塚下. 土師杯10, 高台付杯, 高台付椀3, 椀, 皿	C6
08	SI07	08-002	住居跡	住居跡		平安		土師甕, 杯6. 須恵甕. 刀子	C5
08	SI08	08-007	住居跡	住居跡	製鉄関連	平安		土師杯. 須恵甕3. 刀子, 小鉄塊3	B4
08	SI09	08-008	住居跡	住居跡		平安		土師甕2, 杯5	B6
08	SI10	08-009	住居跡	住居跡	製鉄関連	平安		廃滓坑もつ。土師杯1, 高台付椀2. 灰釉長頸壷1, 皿2. 土玉. スラグ･小鉄塊多量, 羽口	B4
08	SM01	08-M03	古墳･塚	古墳	方墳	平安		終末期方墳	C6
08	SK21	08-D33	土坑	土坑	廃滓坑	平安		焼土確認. スラグ, 小鉄塊, 炉壁	C4
08	SK22	08-D09	土坑	土坑		平安		土師甕, 高台付椀. 須恵高台付皿	C5
08	SK23	08-D10	土坑	土坑	製鉄関連	平安		土師甕, 高台付椀, スラグ3	C5
08	SK24	08-D11	土坑	土坑		古代?		掲載遺物なし, 遺存良い甕底部片1. 形状と位置から古代土坑か	C5
08	SK25	08-D12	土坑	土坑		平安		土師杯	C5
08	SK26	08-D16	土坑	土坑		古代?		遺物なし. D09と重複新旧不明	C5
08	SK27	08-D25	土坑	土坑		古代		土師小片. 円形	C4
08	SK28	08-D30	土坑	土坑		平安		須恵甑片. 非掲載の中近世1	B4
08	SK29	08-D31	土坑	土坑		古代		土師小片	C5
08	SK30	08-D32	土坑	土坑		平安		甕底部片	C5
08	SB02	08-1･2号掘立柱	建物跡	掘立柱建物跡		近世?		柱痕あり, 掲載遺物なし	C6
08	SB03	08-3号掘立柱	建物跡	柱穴列		近世?		掲載遺物なし	C6
08	SM02	08-1号塚	古墳･塚	塚		近世		18Cの陶磁器. 砥石, スラグ1	B6
08	SM03	08-2号塚	古墳･塚	塚		近世		17･18Cの陶磁器. 燧石, スラグ3	C6
08	SD01	08-M01	溝	溝		近世?		遺物なし	C6
08	SD02	08-M02	溝	溝		近世?		遺物なし	C5
08	SK31	08-D02	土坑	土壙墓	土壙墓	近世		２号塚下　人骨, 漆製品, 玉	C6
08	SK32	08-D01	土坑	土坑		近世		２号塚下, 塚の施設か？土師小片のみ	C6

地点	新No.	旧No.	種類1	種類2	種類3	時期1	時期2	備考	ｸﾞﾘｯﾄﾞ
08	SK33	08-D03	土坑	土坑		近世		２号塚下,塚の施設か？土師小片のみ	C6
08	SK34	08-D06	土坑	土坑		近世?		遺物なし.掘り込みは人為的	D5
08	SK35	08-D15	土坑	土坑		不明		遺物なし.底凹凸あるが人為的か	C5
08	SK36	08-D18	土坑	土坑		不明		遺物なし.円形で深い	B5
08	SK37	08-D20	土坑	土坑		不明		遺物なし	C6
08	SK38	08-D22	土坑	土坑		不明		縄文前期諸磯式小片2	C4
08	SK39	08-D23	土坑	土坑		不明		土師摩滅小片のみ,掲載遺物なし	B4
08	SK40	08-D24	土坑	土坑		不明		遺物なし.焼け面あり	C4
08	SK41	08-D26	土坑	土坑？		不明		縄文土器片	C4
	09地点		80遺構						
09	SK42	09-FP1･2	土坑	炉穴	4基	縄文	早期後葉	子母口式	I4
09	SK43	09-FP3	土坑	炉穴	2基	縄文	早期後葉	遺物なし	D5
09	SK44	09-FP4	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	条痕文系2	D5
09	SK45	09-FP5	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	条痕文系	D5
09	SI11	09-J30	住居跡	住居跡		縄文	中期･加曽利E	１号墳内.ｷｬﾘﾊﾞｰ型2,鉢2.打製石斧	D5
09	SK46	09-P01	土坑	土坑		縄文		貝層･灰層あり.深鉢2	G5
09	SI13	09-J01	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕3,杯4,高杯3.鉢1,スラグ6	G5
09	SI14	09-J02	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕2,杯2,鉢1.支脚,スラグ5	G4
09	SI15	09-J03	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕5,杯4,高杯7.須恵杯,蓋.細型羽口3,土製小玉	G4
09	SI16	09-J04	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕5,杯7.須恵杯.砥石2	G4
09	SI17	09-J07	住居跡	住居跡		古墳	後期	貝あり.旧SI17<SI33.土師甕3,杯4,甑.勾玉状の土製品	I4
09	SI18	09-J10	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕15,杯13,高杯,甑,手捏ね5.須恵杯2.支脚,土玉,土製小玉	G4
09	SI19	09-J12	住居跡	住居跡?		古墳		掲載遺物なし	I4
09	SI20	09-J13	住居跡	住居跡		古墳	後期	貝あり.土師甕7,杯13,高杯	G5
09	SI21	09-J14	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕7,杯8,高杯,椀.須恵蓋.鉄鏃,支脚	G5
09	SI22	09-J18	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕,杯	G4
09	SI23	09-J19	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師杯	G4
09	SI24	09-J20	住居跡	住居跡		古墳	後期	SK60と重複.土師甕12,杯8,高杯3.須恵杯.紡錘車,土玉2,支脚	F4
09	SI25	09-J23	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕,管状土錘	F5
09	SI26	09-J28	住居跡	住居跡		古墳	後期	炭･焼土多.土師杯3	I4
09	SI27	09-J11	住居跡	住居跡?		古墳？		掲載遺物なし	G5
09	SI28	09+13-J27	住居跡	住居跡		古墳	後期	貝層あり.土師甕2,杯2,甑2.土玉6	I4
09	SI29	09-J17	住居跡	住居跡		古代?		遺物なし	I4
09	SI30	09-J06	住居跡	住居跡	製鉄関連	平安		土師甕,杯4,高台付杯,椀.灰釉甕,手付瓶,皿.羽口,刀子.スラグ･小鉄塊,炉壁	I4
09	SI31	09-J08	住居跡	住居跡	製鉄関連	平安		土師甕.支脚2,スラグ2	I4
09	SI32	09-J09	住居跡	住居跡?		平安		土師杯,高台付杯	I4
09	SI33	09-J16	住居跡	住居跡		平安		旧SI17<SI33.土師杯5	I4
09	SI34	09-J21	住居跡	住居跡?	製鉄関連	平安		土師杯,スラグ1	H4
09	SI35	09-J22	住居跡	住居跡	製鉄関連	平安		小鍛冶炉.羽口3,スラグ7	I4
09	SI36	09-J24	住居跡	住居跡		平安		土師甕,杯	F5
09	SI37	09-J25	住居跡	住居跡		平安		土師甕3,杯3.土玉	F4
09	SI38	09-J26	住居跡	住居跡		平安		土師甕2,杯5	F5
09	SI39	09-J31	住居跡	住居跡		平安		土師杯3	D5
09	SI40	09-J15	住居跡	住居跡?		平安?		近くの推定床レベルで土師器	I4
09	SM04	09-1号墳	古墳･塚	古墳	円墳	古墳	後期	土師甕2,杯,高杯2.丸玉4	D5
09	SK47	09-D03	土坑	土坑	製鉄関連	平安		スラグ椀型滓,鍛造剥片,羽口,炉壁	I3
09	SK48	09-D11	土坑	土坑	製鉄関連	平安		鍛造剥片	H4
09	SX01	09-整形1	その他	台地整形	SX01遺構群	近世		整形面+SD03～5,SK49～51,56,57	H4
09	SD03	09-M03	溝	溝	SX01遺構群	近世		階段もち,7地点の斜面に降りる。19Cの陶磁器多数,泥人形	H4
09	SD04	09-M04	溝	溝	SX01遺構群	近世		掲載遺物なし	H4
09	SD05	09-M21	溝	溝	SX01遺構群	近世		18･19Cの陶磁器.獣骨四肢骨片？障子堀状.泥人形,砥石	H4
09	SK49	09-D08	土坑	土坑	SX01遺構群	近世		近世遺物あり,スラグ1	H4
09	SK50	09-D32-1	土坑	土坑		近世		遺物なし.M11を切る	F6
09	SK51	09-D32-3	土坑	土坑	SX01遺構群	近世		遺物なし	I4
09	SX02	09-整形2	その他	台地整形	SX02遺構群	近世		整形面+SD06～09,SB05～07,SK52	G4
09	SD06	09-M01	溝	溝	SX02遺構群	近世		掲載遺物なし	G5
09	SD07	09-M02	溝	溝	SX02遺構群	近世		掲載遺物なし	G4
09	SD08	09-M05	溝	溝	SX02遺構群	近世		遺物なし	G4
09	SD09	09-M07	溝	溝	SX02遺構群	近世		掲載遺物なし	G5
09	SB05	09-1号掘立柱	建物跡	掘立柱建物跡	SX02遺構群	近世?		掲載遺物なし	G4
09	SB06	09-2号掘立柱	建物跡	掘立柱建物跡	SX02遺構群	近世?		遺物なし	G4
09	SB07	09-3号掘立柱	建物跡	掘立柱建物跡	SX02遺構群	近世?		遺物なし	G4
09	SB08	09-5号掘立柱	建物跡	柱穴列		近世?		遺物なし	I4
09	SK52	09-D31	土坑	土坑	SX02遺構群	近世？		遺物なし	G4
09	SB09	―	建物跡	柱穴列		近世?		遺物なし	G4
09	SD10	09-M06	溝	溝		近世		18C後中心の陶磁器多,管状土錘,砥石,温石	G4
09	SD11	09-M08	溝	溝		近世		18･19Cの陶磁器	F5
09	SD12	09-M09	溝	溝		近世		掲載遺物なし.障子堀状	F5
09	SD13	09-M10	溝	溝		近世		掲載遺物なし	I4
09	SD14	09-M11	溝	溝		近世		遺物なし	F5
09	SD15	09-M12	溝	溝		近世		磁器1､土製碁石	G4
09	SD16	09-M13	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	F4
09	SD17	09-M14	溝	溝		近世		遺物なし	G5

地点	新No.	旧No.	種類1	種類2	種類3	時期1	時期2	備考	ｸﾞﾘｯﾄﾞ
09	SD18	09-M15	溝	溝		近世?		遺物なし	G5
09	SD19	09-M16	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	E5
09	SD20	09-M17	溝	溝		近世		掲載遺物なし	I4
09	SD21	09-M18	溝	溝		近世		遺物なし. 障子堀状	E5
09	SD22	09-M19	溝	溝		近世?		遺物なし	E5
09	SD23	09-M20	溝	溝		近世		18C磁器	E4
09	SD24	09-M22	溝	溝		近世?		遺物なし	F4
09	SD25	09-M23	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	D5
09	SK53	09-D05	土坑	土坑	土壙墓	近世		土葬人骨全身一部, 寛永通寶, 鉄	G5
09	SK54	09-D01	土坑	土坑		近世?		杯1はJ15の流入か	I4
09	SK55	09-D04	土坑	土坑		不明		遺物なし, SI16と重複	G4
09	SK56	09-D06	土坑	土坑	SX01遺構群	近世		遺物なし, D32に似る	I4
09	SK57	09-D07	土坑	土坑	SX01遺構群	近世		15C後の小皿	H4
09	SK58	09-D10	土坑	土坑		近世		掲載遺物なし	H4
09	SK59	09-D30	土坑	土坑		不明		遺物なし	F5
09	SK60	09-D32-2	土坑	土坑		不明		遺物なし, SI24と重複	F4
09	SO01	09-K01	炭窯	炭窯		近世		遺物なし	E5
	11地点		3遺構						
11	SM05	11+20-古墳	古墳・塚	古墳	円墳	古墳		石室2, 木棺直葬1, 土壙1. 塚に改変. 主体部4に人骨, 鉄剣. 土師甕1, 杯3, 高杯2, 須恵瓶, 杯1, 蓋3. 鉄鏃, 弓金具, 耳環, 玉類, 砥石	O7
11	SM06	11-周溝状遺構	古墳・塚	古墳	方墳	古代		縄文のみ	P7
11	SD26	11-M01	溝	溝		近世		遺物なし. 炭窯に切られる	O7
	12地点		53遺構						
12	SK61	12-FP1	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	掲載遺物なし	F3
12	SK62	12-FP2	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	遺物なし	E2
12	SK63	12-FP3	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	遺物なし	F2
12	SK66	12-FP6･7	土坑	炉穴	2基	縄文	早期後葉	A燃焼部に条痕文系尖底土器突き刺さる	B3
12	SK67	12-D07	土坑	陥し穴		縄文		遺物なし	E2
12	SK68	12-D08	土坑	陥し穴		縄文		遺物なし	G3
12	SI41	12-J25	住居跡	住居跡		縄文	前期	花積下層式深鉢1, 磨石1	F2
12	SI42	12-J29	住居跡	住居跡		縄文	中期	加曽利EIV式3, 石鏃, 楔形石器	E2
12	SI43	12-J01	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕3, 杯2, 高杯7, 甑. 須恵蓋	G3
12	SI44	12-J05	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕, 甑. 土玉	F4
12	SI45	12-J07	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕4, 杯9, 高杯, スラグ1	F3
12	SI46	12-J08	住居跡	住居跡		古墳	後期	土器集中, 正立多. 土師甕11, 杯5, 高杯3, 鉢4, 甑2. 須恵蓋, 壷	G3
12	SI47	12-J09	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕3, 杯5, 高杯, 手捏ね. 須恵杯2. 蓋. 支脚, 土玉. 炉壁?, スラグ3	G3
12	SI48	12-J10	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕9, 杯5, 高杯, 甑, 手捏ね. 須恵杯1. 支脚, 粘土塊, スラグ2	F3
12	SI49	12-J12	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕2, 杯, 高杯. 須恵蓋. 支脚, 刀子, スラグ2	F3
12	SI50	12-J14	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕1, 杯14, 高杯, 鉢3, 小型甕. 須恵杯. 支脚6	G3
12	SI51	12-J15	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕, 高杯	G3
12	SI52	12-J16	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕14, 杯11, 高杯, 鉢, 小型壷. 小玉3	F3
12	SI53	12-J18	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕2, 杯14, 高台付杯, 台付杯2, 鉢. 土玉・土製小玉スラグ, 平安混入	E3
12	SI54	12-J22	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕2, 杯3, 高杯, 手捏ね. 土玉, スラグ1	E2
12	SI55	12-J23	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕2, 壷. 紡錘車, 土玉	F4
12	SI56	12-J24	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕4, 杯, 高杯. 軽石	F4
12	SI57	12-J27	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師甕8, 杯5, 高杯2, 鉢	G2
12	SI58	12-J32	住居跡	住居跡	製鉄関連	古墳	後期	土師甕3, 杯3, 高杯. 須恵瓶. 灰釉高台付杯. スラグ･小鉄塊多, 炉壁	C4
12	SI59	12-J02	住居跡	住居跡		平安		土師甕1, 杯7. 須恵甕8. 刻書土器あり. 砥石	F4
12	SI60	12-J03	住居跡	住居跡		平安		旧SI61<SI60新. 土師杯, 須恵甕2	F3
12	SI61	12-J04	住居跡	住居跡	製鉄関連?	平安		旧SI61<SI60新. 細型羽口	F3
12	SI62	12-J06	住居跡	住居跡	製鉄関連	平安		土師甕, スラグ6	F4
12	SI63	12-J11	住居跡	住居跡	鍛冶工房	平安		土師杯4. 軽石, 羽口, スラグ･小鉄塊多, 炉壁。旧SI49<SI63新	F3
12	SI64	12-J13	住居跡	住居跡		平安		カマドと床面のみ. 掲載遺物なし。旧SI49<SI64新	F3
12	SI65	12-J17	住居跡	住居跡		平安		旧SI65<SI70新. 土師甕3, 杯2, 甑, 窓付甕	F3
12	SI66	12-J19	住居跡	住居跡		平安		土師甕, 杯	E3
12	SI67	12-J20	住居跡	住居跡		平安		土師杯	E2
12	SI68	12-J21	住居跡	住居跡		平安		土師杯	E2
12	SI69	12-J26	住居跡	住居跡	製鉄関連	奈良･平安		土師甕5, 甑. スラグ･小鉄塊多, 炉壁	E3
12	SI70	12-J28	住居跡	住居跡		平安		旧SI65<SI70新. 掲載遺物なし	G2
12	SI71	12-J30	住居跡	住居跡		平安		土師甕, 杯2	F3
12	SI72	12-J31	住居跡	住居跡	製鉄関連	平安		土師甕, 杯7, 高台付杯, スラグ2	E4
12	SI73	12-J33	住居跡	住居跡		平安		土師杯2, 台付杯. 灰釉高台付皿	C3
12	SK69	12-D04	土坑	土坑	廃滓坑	平安		鍛冶炉. 羽口	F3
12	SK70	12-D01	土坑	土坑	廃滓坑	平安		紡錘車	F2
12	SK71	12-D02	土坑	土坑	廃滓坑	平安		土師杯, 甕, スラグ4, 椀形滓あり	F3
12	SK72	12-D05	土坑	土坑	製鉄関連	古代?		スラグ多	F1
12	SD27	12-M01	溝	溝		近世?		遺物なし	G3
12	SD28	12-M02	溝	溝		近世		管状土錘, 燧石	G3
12	SD29	12-M03	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	F4
12	SD30	12-M04	溝	溝		近世		宝永火山灰. 掲載遺物なし	F3

地点	新No.	旧No.	種類1	種類2	種類3	時期1	時期2	備考	ｸﾞﾘｯﾄﾞ
12	SD31	12-M05	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	F3
12	SD32	12-M06	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	E2
12	SD33	12-M07	溝	溝		近世?		遺物なし	F2
12	SD34	12-M08	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	E2
12	SK73	12-D06	土坑	土坑		不明		遺物なし	E1
12	SO02	12-D03	炭窯	炭窯		近世		遺物なし	E3
	13地点		4遺構						
13	SI74	13-006	住居跡	住居跡		古墳	後期	土師杯2, 須恵杯	J4
13	SK74	13-001	土坑	土坑		不明		掲載遺物なし	J5
13	SK75	13-002	土坑	土坑		不明		遺物なし	J5
13	SK76	13-003	土坑	土坑		不明		土師杯2, 13C陶器1. 古墳or中世?	J4
	15地点		16遺構						
15	SK77	15-FP1	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	遺物なし	I8
15	SK78	15-FP2	土坑	炉穴	1基	縄文	早期後葉	遺物なし	I8
15	SK79	15-FP3	土坑	炉穴	2基	縄文	早期後葉	遺物なし	I8
15	SK80	15-FP4･5	土坑	炉穴	7基	縄文	早期後葉	遺物なし	I8
15	SK81	15-FP6	土坑	炉穴	7基	縄文	早期後葉	一部天井遺存. 茅山下層･上層多	I8
15	SX03L	15-整形区画	その他	台地整形	近世遺構群	近世		屋敷跡か. 泥人形3, 砥石多	I8
15	SX03U	15-整形区画	その他	台地整形	近世遺構群	近世		塚と畑？	I8
15	SM07	15-塚	古墳･塚	塚		近世		円墳→塚に造り替え. 砥石2	I8
15	SD35	15-溝1	溝	溝		近世		掲載遺物なし	I8
15	SD36	15-溝2	溝	溝		近世		掲載遺物なし	I8
15	SD37	15-溝3	溝	溝		近世		遺物なし	I8
15	SD38	15-溝4	溝	溝	道路跡	近世		上段､下段遺構群の昇降用, 掲載遺物なし	I8
15	SD39	15-溝5	溝	溝		近世?		古墳後期土師杯1。全測図のみ	I8
15	SD40	15-溝6	溝	溝		近世		遺物なし。全測図のみ	I8
15	SD41	15-溝7	溝	溝		近世		遺物なし。全測図のみ	I8
15	SD42	15-溝8	溝	溝	道路跡	近世?		H6-溝	I9
	16地点		2遺構						
16	SM08	16-古墳	古墳･塚	古墳		古墳		須恵杯	K6
16	SD43	16-溝	溝	溝		近世?		遺物なし	K7
	18･19地点		3遺構						
18･19	SX04	18･19-土塁	その他	土塁	近世遺構群	近世		トレンチ内に道路, 土坑, 掲載遺物なし	N7
18･19	SD44	18-No.なし	溝	溝		近世		SX04土塁下, 宝永火山灰入る	N7
18･19	SD45	19-溝	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	N6
	22地点		3遺構						
22	SK82	22-001	土坑	炉穴	2基	縄文	早期後葉		K5
22	SK83	22-002	土坑	炉穴	2基	縄文	早期後葉		K6
22	SI75	22-003	住居跡	住居跡?		古墳?	後期？	土師杯, 高杯	K6
	25地点		4遺構						
25	SX05	25-003	その他	台地整形	近世遺構群	近世		遺物なし	M6
25	SD47	25-No.なし	溝	溝		近世?		遺物なし	N6
25	SD48	25-002	溝	溝		近世?		遺物なし	N6
25	SD49	25-001	溝	溝	道路跡	近世?		遺物なし	N7
	26地点		8遺構						
26	SK84	26-003	土坑	土坑	古墳主体部?	古墳？		主体部か. 板碑片のみ	J8
26	SX06	26-004	その他	台地整形	近世遺構群	近世		集団墓壙群周辺の整形面, 板碑	J8
26	SD50	26-001	溝	溝		近世?		15C中～後の陶器 1	J8
26	SD51	26-002	溝	溝		近世?		砥石	J8
26	SK85	26-P3	土坑	土坑	火葬土壙	近世		火葬人骨	J8
26	SK86	26-P4	土坑	土坑	火葬土壙	近世		遺物なし	J8
26	SK87	26-P5･P6	土坑	土坑	火葬土壙	近世		火葬人骨	J8
26	SK88	26-P7	土坑	土坑	火葬土壙	近世		火葬人骨	J8
	27地点		1遺構						
27	SM09	27-001	古墳･塚	古墳?	円墳?	古墳?		円墳周溝か, 遺物なし	O6
	28地点		17遺構						
28	SK89	28-SK51	土坑	陥し穴		縄文		遺物なし, 円墳周溝下	L6
28	SM10	28-SD06	古墳･塚	古墳	円墳	古墳		周溝のみ, 掲載遺物なし	K6
28	SM11	28-SX02	古墳･塚	古墳	主体部	古墳		単独, 箱式石棺	L7
28	SX09	28-SD13	その他	台地整形		近世		遺物なし	L7
28	SX07	28-SX01	その他	土塁	近世遺構群	近世		遺物なし	K6
28	SX08	28-SX03	その他	畑跡	畝	不明		耕作痕	K7
28	SD52	28-SD02	溝	溝		近世		SX01に伴う. 18C後磁器	K6
28	SD53	28-SD03	溝	溝		近世?		掲載遺物なし. 土師小片あり	K6
28	SD54	28-SD05	溝	溝		近世?		掲載遺物なし. 土師小片あり	K6
28	SD55	28-SD11	溝	溝		近世		18･19C陶磁器. 砥石2	L7
28	SD56	28-SD12	溝	溝		近世		近世陶磁器	L7
28	SD57	28-SD14	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	L6
28	SD58	28-SD15	溝	溝		近世?		掲載遺物なし	L6
28	SD59	28-SD21	溝	溝		中近世		中世土師質土器	K7
28	SK90	28-SK52	土坑	土坑	火葬土壙			火葬人骨	K7
28	SK95	28-SK53	土坑	土坑				遺物なし	L7
28	SK96	28-SK54	土坑	土坑				遺物なし	L7
	30地点		1遺構						
30	SK97	30-SK01	土坑	小竪穴		縄文	中期	加曽利EⅡ式ｷｬﾘﾊﾞｰ型2	M7

凡例　地点-時代-遺構No.順(＝報告順)に並べた　　既報告の第1･3･4地点の遺構も掲載した

第16表　縄文土器

地点	図	No.	注記	時期	型式	群	類	器種・主文様	文様・調整・備考
No.07	SK01	1	036/41,42	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.07	SK01	2	036/13,17,41	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.07	遺構外	1	南斜面/9	早期	子母口	02	4	無文	繊維
No.07	遺構外	2	3F/2	前期	諸磯b	05	5	結節浮文	縄文
No.07	遺構外	3	010/27	前期	諸磯c	05	6	集合沈線文	平行沈線
No.07	遺構外	4	南斜面/3	前期	諸磯c	05	6	集合沈線文	平行沈線
No.07	遺構外	5	3D/3	前期	浮島Ⅰ	05	1	鋸歯状沈線文	平行沈線
No.07	遺構外	6	3F/2	前期	浮島	05		波状貝殻文	ハマグリ型。連続刺突
No.07	遺構外	7	024/5	前期	諸磯or浮島	05		集合沈線文	1本引き沈線
No.07	遺構外	8	南斜面/3	前期	浮島ⅡorⅢ	05	2or3	波状貝殻文	フネガイ科
No.07	遺構外	9	4D/2	前期	浮島Ⅲ	05	3	三角文	竹管先端刺突
No.07	遺構外	10	南斜面/3	前期	興津	05	7	波状貝殻文	フネガイ科、施文密
No.07	遺構外	11	？/2	前期	興津	05	7	刺突文	半截竹管先端加工
No.07	遺構外	12	3E/2	前期	前期末	06		結節縄文	口唇原体圧痕、口縁粘土紐痕
No.07	遺構外	13	3E/2?	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	隆帯＋角押文	表面劣化
No.07	遺構外	14	3F/2	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	無文	接合痕要状。隆帯
No.07	遺構外	15	3D/7	中期	中峠	09	10	交互刺突文	隆帯上縄文
No.07	遺構外	16	3B/7	中期	中峠	09	10	沈線文	撚糸l
No.07	遺構外	17	029/2	中期	加曽利EⅠ	10	1	垂下沈線	RL。雲母多
No.07	遺構外	18	020/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	沈線文	RL
No.07	遺構外	19	030/6	中期	加曽利EⅣ	10	4	微隆起線文	RL。表面劣化
No.08	遺構外	1	1号塚/45	早期	子母口	02	4	無文	
No.08	遺構外	2	010/2	早期	子母口	02	4	無文	遺存上端接合痕
No.08	遺構外	3	030/1	早期	子母口	02	4	無文	
No.08	遺構外	4	001/1	早期	野島～鵜ヶ島台	03	1or2	無文	条痕、口唇刻み
No.08	遺構外	5	003/1	早期	鵜ヶ島台	03	2	無文	条痕
No.08	遺構外	6	1号塚/45	早期	条痕文系	03		無文	条痕。尖底部
No.08	遺構外	7	D23/1	早期	条痕文系	03		無文	条痕、口唇刻み
No.08	遺構外	8	表採/-	早期	条痕文系	03		無文	条痕
No.08	遺構外	9	表採/-	前期	諸磯a	05	4	集合沈線文	平行沈線、一部刻み充填
No.08	遺構外	10	006/2	前期	諸磯b	05	5	集合沈線文	
No.08	遺構外	11	D9/1	前期	浮島Ⅰ	05	1	集合沈線文	格子状。撚糸
No.08	遺構外	12	006/4	中期	五領ヶ台	08		山形沈線文	平行沈線
No.08	遺構外	13	002/4	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	角押文	
No.08	遺構外	14	2号塚/3	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	角押文	突起。下端は接合痕？
No.08	遺構外	15	2号塚/3	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	無文	網代痕
No.08	遺構外	16	002/2	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	隆帯＋結節沈線	
No.08	遺構外	17	010/3	中期	阿玉台Ⅲ	09	03	隆帯＋角押文	幅広工具
No.09	SK42	1	FP1/2	早期	子母口	02	4	無文	外面条痕、板状工具。口唇刻み
No.09	SK42	2	FP2/2	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.09	SK44	3	FP4/5,8,12,20~22,24,25,27,40,42,45	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。突起。尖底か
No.09	SK44	4	FP4/15~18,30,33~36,45,58,59	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。尖底
No.09	SK45	5	FP5/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.09	SI11	1	J30/4,32,34,37,52,55	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	LR。口縁部区画なし
No.09	SI11	2	J30/1,23,30,31,46,50,53,54,63	中期	加曽利EⅡ	10	7	加E鉢	櫛描沈線。2～4,7同一
No.09	SI11	3	J30/7,29	中期	加曽利EⅡ	10	7	加E鉢	楕円区画内沈線
No.09	SI11	4	J30/24,44	中期	加曽利EⅡ	10	7	加E鉢	2～4,7同一
No.09	SI11	5	J30/47,54	中期	加曽利EⅡ	10	7	加E鉢or浅鉢	無文、内外面赤彩
No.09	SI11	6	J30/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	RL
No.09	SI11	7	J30/49	中期	加曽利EⅡ	10	7	加E鉢	2～4,7同一
No.09	SK46	6	P1/2	後期	堀之内1	14		垂下沈線	3本1組沈点。RL。6･7同一
No.09	SK46	7	P1/4	後期	堀之内1	14		垂下沈線	3本1組沈点。RL。6･7同一
No.09	遺構外	1	6C-02/1	早期	田戸上層	02	3	無文	外面ナデ。尖底
No.09	遺構外	2	3F-16/1	早期	子母口	02	4	無文	内外面条痕。口唇絡状体圧痕文。拓本内面のみ
No.09	遺構外	3	3F-16/1	早期	条痕文系？	03		無文	外面条痕→ナデ。田戸上層～子母口?
No.09	遺構外	4	J03/59	早期	条痕文系	03		無文	外面条痕
No.09	遺構外	5	3F-10/1	前期	黒浜	04		押引文	半截竹管。RL
No.09	遺構外	6	J13/3	前期	諸磯a	05	4	波状沈線文	撚糸文
No.09	遺構外	7	3Y-15/1	前期	諸磯a	05	4	肋骨文	円形刺突
No.09	遺構外	8	1号墳/27	前期	諸磯a	05	4	鋸歯状･弧状沈線文	円形刺突。地文縄文?
No.09	遺構外	9	J07/113	前期	諸磯b	05	5	集合沈線文	半截竹管
No.09	遺構外	10	4Y-05/1	前期	諸磯b	05	5	入組弧線文	コブ状突起。RL。口唇短沈線
No.09	遺構外	11	J10/64	前期	諸磯b	05	5	爪形文＋連続刺突	口唇刻み
No.09	遺構外	12	2J-06/1	前期	諸磯b	05	5	結節浮文	
No.09	遺構外	13	2I-12/1	前期	諸磯b or c	05	5or 6	集合沈線文	半截竹管
No.09	遺構外	14	3I-09/1	前期	諸磯c	05	6	棒状浮文	浮文と口唇上刺突。円形浮文。集合沈線
No.09	遺構外	15	4Y-16/1	前期	浮島Ⅰ	05	1	弧状沈線文	平行沈線。撚糸文
No.09	遺構外	16	4D-10/1	前期	浮島Ⅱ	05	2	爪形文＋変形爪形文	
No.09	遺構外	17	1号墳/41	前期	浮島Ⅱ	05	2	爪形文	刻み隆帯、平行沈線
No.09	遺構外	18	3F-10/1	前期	浮島Ⅱ	05	2	波状貝殻文	ハマグリ型。口唇指頭押圧
No.09	遺構外	19	M10/2	前期	浮島Ⅲ	05	3	三角文	口唇刻み。補修孔
No.09	遺構外	20	D07/6	前期	浮島Ⅲ	05	3	三角文	施文密
No.09	遺構外	21	M03/5	前期	興津	05	7	波状貝殻文	フネガイ科。口縁部条線帯
No.09	遺構外	22	J08/34	前期	興津Ⅱ	05	7	貝殻文＋平行沈線	フネガイ科。施文密
No.09	遺構外	23	J07/21	前期	興津	05	7	沈線内刺突文	
No.09	遺構外	24	4E-08/1	前期	前期末	06		原体圧痕文	縄文原体2本。内外面丁寧なナデ
No.09	遺構外	25	J23/3	中期	加曽利EⅠ	10	1	加E胴部	沈線。撚糸文
No.09	遺構外	26	M06/4	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	渦巻文。楕円区画
No.09	遺構外	27	J23/2	中期	加曽利EⅡ	10	2	連弧文	沈線。撚糸文
No.09	遺構外	28	1号墳/26	中期	加曽利EⅡ	10	7	加E鉢?	orキャリパー型。隆帯。区画内沈線。
No.09	遺構外	29	J20/10	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型?	胴部意匠充填。LR
No.09	遺構外	30	4Z-12/1	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	連弧文	円形刺突。RL
No.09	遺構外	31	D31/1,2	中期	加曽利EⅣ	10	4	無文部	RL
No.09	遺構外	32	J07/85	中期	加曽利EⅡ	10	2	曽利系	集合沈線。隆帯
No.09	遺構外	33	J07/8	不明	不明			無文	底部
No.11	遺構外	1	C/41	早期	三戸	02	1	条痕文	外面ケズリ～ミガキ、内面粗いナデで接合痕

地点	図	No.	注記	時期	型式	群	類	器種・主文様	文様・調整・備考
No.11	遺構外	2	A3/7	早期	田戸下層	02	2	沈線帯＋刺突	
No.11	遺構外	3	A3/6	早期	田戸下層	02	2	沈線帯＋刺突	
No.11	遺構外	4	A3/1,5	早期	田戸下層	02	2	沈線	尖底、天狗鼻状
No.11	遺構外	5	C/38	早期	条痕文系	03		無文	外面貝殻？条痕
No.11	遺構外	6	A3/5	前期	諸磯c	05	6	浮文	浮文状爪形文、LRヨコ
No.11	遺構外	7	A/14	前期	浮島Ⅰ	05	1	集合沈線文	平行沈線×3、竹管3本結束か。口唇刻み
No.11	遺構外	8	A3/5	前期	浮島ⅡorⅢ	05	2or3	波状貝殻文	ハマグリ型
No.11	遺構外	9	C/38	前期	前期末	06		無文	結節縄文、無節L。口唇縄文原体圧痕
No.11	遺構外	10	NM/1	前期	前期末	06		鋸歯状印刻文	0段の縄文原体圧痕
No.11	遺構外	11	NM/1	前期	前期末	06		無文	結節縄文、無節L。爪形の刺突
No.11	遺構外	12	第2主体/10	前期	前期末	06		無文	LR
No.11	遺構外	13	A3/1	後期	堀之内1	08		沈線文	垂下沈線
No.11	遺構外	14	B/1	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	角押文	V字意匠は印刻状
No.11	遺構外	15	A/10	中期	中峠	09	10	キャリパー型	交互刺突。隆帯上刻み
No.11	遺構外	16	A3/1	中期	加曽利EⅠorⅡ	10	1or2	キャリパー型	環状+橋状把手。RL?
No.11	遺構外	17	A3/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	RL
No.11	遺構外	18	A3/4	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	キャリパー型	RL
No.11	遺構外	19	A3/1	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	キャリパー型	RL。蕨手状沈線
No.11	遺構外	20	0トレ/1	中期	加曽利EⅢ	10	3	意匠充填系?	LR。微隆帯
No.12	SK66	1	FP-6/5	早期	条痕文系	03		無文	内外面ナデ。尖底
No.12	SI41	1	J25/11	前期	花積下層	03	5	原体圧痕意匠文	蕨手状、山形。隆帯区画。刺突。羽状縄文
No.12	SI42	1	J29/16,18	中期	加曽利EⅣ	10	4	横位連繋弧線文	微隆起線、RL
No.12	SI42	2	J29/4,16	中期	加曽利EⅣ	10	4	微隆起線文	LR
No.12	SI42	3	J29/12	中期	加曽利EⅣ	10	4	横位連繋弧線文	沈線。無節L。円形刺突
No.12	遺構外	1	C/5	早期	撚糸文系	01		無文	撚糸文
No.12	遺構外	2	C2-74/7	早期	三戸	02	1	集合沈線文	沈線区画。斜格子状、鋸歯状。竹之内式
No.12	遺構外	3	D2-25/8	早期	三戸	02	1	集合沈線文	
No.12	遺構外	4	C/5	早期	三戸	02	1	集合沈線文	太い沈線
No.12	遺構外	5	C5-66/1	早期	三戸	02	1	無文	口縁無文帯。竹管条痕
No.12	遺構外	6	J-31/2	早期	三戸	02	1	集合沈線文	沈線区画。斜格子状。竹之内
No.12	遺構外	7	C2-75/11,12	早期	三戸	02	1	集合沈線文	劣化著しい
No.12	遺構外	8	C5-06/1	早期	三戸	02	1	集合沈線文	
No.12	遺構外	9	C5-06/1	早期	三戸	02	1	無文	外面丁寧なナデ。尖底底面灰付着
No.12	遺構外	10	C5-36/2	早期	田戸下層	02	2	集合沈線文	
No.12	遺構外	11	C5-07/2	早期	田戸下層	02	2	集合沈線文	
No.12	遺構外	12	C2-82/14	早期	子母口	02	4	無文	外面条痕。口唇絡状体圧痕
No.12	遺構外	13	C2-96/8	早期	子母口	02	4	無文	外面条痕。口唇刺突
No.12	遺構外	14	C2-81/10	早期	子母口	02	4	無文	内外面擦痕。補修孔
No.12	遺構外	15	D2-16/19,36	早期	子母口	02	4	無文	内面接合痕
No.12	遺構外	16	C5-07/3	早期	子母口？	02	4	無文	尖底
No.12	遺構外	17	C2-73/23	早期	鵜ヶ島台	03	2	沈線区画文	刺突。外面劣化、内面条痕。口唇刻み
No.12	遺構外	18	C1-46/1	早期	鵜ヶ島台	03	2	微隆起線区画内沈線	器面劣化
No.12	遺構外	19	C2-73/5	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.12	遺構外	20	C2-61/7	早期	条痕文系	03		無文	外面ヘラ状条痕、内面擦痕
No.12	遺構外	21	I6?/67	早期	茅山上層	03	4	無文	内外面条痕
No.12	遺構外	22	A/1	早期	茅山上層	03	4	条痕意匠文	内外面調整後条痕施文
No.12	遺構外	23	D2-03/7	早期	条痕文系	03		無文	外面条痕。尖底
No.12	遺構外	24	？/1	早期	条痕文系	03		無文	器面劣化。尖底
No.12	遺構外	25	C5-07/2	前期	黒浜	04		無文	付加縄文LR
No.12	遺構外	26	C1-78/8	前期	黒浜	04		無文	LR。指頭圧痕
No.12	遺構外	27	J-09/70	前期	黒浜	04		無文	RL
No.12	遺構外	28	C/4	前期	黒浜	04		無文	無節L
No.12	遺構外	29	J-05/17,52,69	前期	諸磯b	05	5	爪形文意匠文	蕨手状、刻み隆帯
No.12	遺構外	30	J-27/33	前期	浮島Ⅰ	05	1	木葉文	平行沈線、撚糸文
No.12	遺構外	31	J-07/44	前期	浮島Ⅰ	05	1	波状沈線文	平行沈線、撚糸文
No.12	遺構外	32	C2-83/35	前期	諸磯a	05	4	爪形文	爪形文幅狭、鋸歯状多段。地文縄文
No.12	遺構外	33	J-01/42	前期	浮島Ⅱ	05	2	平行沈線文	菱形文
No.12	遺構外	34	J-23/47	前期	浮島Ⅱ	05	2	変形爪形文	
No.12	遺構外	35	D2-06/12	前期	浮島Ⅱ	05	2	波状沈線文	フネガイ科
No.12	遺構外	36	C2-42/1	前期	興津Ⅱ	05	7	条線帯	無節縄文、結節回転文
No.12	遺構外	37	J-03/4	前期	前期末	06		波状沈線文	平行沈線区画内波状沈線。結節回転文
No.12	遺構外	38	J-01/52	前期	五領ヶ台末	08		平行沈線文	RL。雲母・砂粒多
No.12	遺構外	39	C2-94/2	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	角押文	波状口縁。雲母・砂粒多
No.12	遺構外	40	D2-25/8	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	隆帯＋角押文	
No.12	遺構外	41	C2-72/6	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	角押文	隆帯脇結節沈線
No.12	遺構外	42	D2-03/7	中期	阿玉台Ⅰa～b	09	01ab	隆帯	雲母多
No.12	遺構外	43	J-32/144	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	隆起線区画内結節沈線	隆帯状刻み。雲母多
No.12	遺構外	44	C2-95/1	中期	阿玉台Ⅲ	09	03	隆帯＋角押文	幅広。雲母多。口唇刻み
No.12	遺構外	45	C2-95/1	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	結節沈線	把手破片。刻み。雲母多
No.12	遺構外	46	D2-03/7	中期	阿玉台Ⅱ	09	02	隆帯＋角押文	複列。雲母多
No.12	遺構外	47	C2-92/2	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	角押文	波状沈線。雲母多
No.12	遺構外	48	C2-93/11	中期	阿玉台Ⅱ	09	02	隆帯＋角押文	複列。平行沈線。雲母多
No.12	遺構外	49	C2-95/5	中期	阿玉台Ⅱ	09	02	連続刻み	
No.12	遺構外	50	C2-95/1	中期	阿玉台	09	01	隆帯＋角押文	幅広。口縁渦巻き突起。砂粒多。補修孔
No.12	遺構外	51	C2-96/9,27	中期	阿玉台	09	01	無文	底部。砂粒・雲母多
No.12	遺構外	52	C2-80/1	中期	中峠?	09	10	隆帯＋角押文	楕円区画に複列角押文、波状沈線充填。砂粒・雲母多
No.12	遺構外	53	M-02/2	中期	加曽利EⅠ	10	1	キャリパー型	LRL。胴集合沈線
No.12	遺構外	54	J-15/11	中期	加曽利EⅠ	10	1	曽利系?	撚糸文Lに隆帯貼付
No.12	遺構外	55	C6-62/1	中期	加曽利EⅠorⅡ	10	1or2	曽利系	撚糸文Lヨコ施文。隆帯。内面段
No.12	遺構外	56	J-09/70	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	LRL。胴集合沈線
No.12	遺構外	57	J-09/67	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	RL
No.12	遺構外	58	J-11/83	中期	加曽利EⅢ	10	3	横位連繋弧線文	逆U字状。RL
No.12	遺構外	59	D2-15/10	中期	加曽利EⅣ	10	4	無文部	微隆起線。LRタテ
No.12	遺構外	60	J-08/40	中期	加曽利EⅣ	10	4	横位連繋弧線文	微隆起線。LR
No.12	遺構外	61	C6-30/1	中期	加曽利EⅣ	10	4	横位連繋弧線文	微隆起線。LR。橋状把手
No.12	遺構外	62	C4-08/1	中期	加曽利EⅣ	10	4	横位連繋弧線文	微隆起線。LR。渦巻文
No.12	遺構外	63	C5-08/1	中期	加曽利EⅠ	10	1	曽利系	平行沈線。口唇刻み。内面段
No.12	遺構外	64	C/4	後期	称Ⅱ～堀1	14		粗製土器	沈線区画
No.12	遺構外	65	B4-86/	後期	堀之内1	14		縄文＋沈線	蕨手状文

地点	図	No.	注記	時期	型式	群	類	器種・主文様	文様・調整・備考
No.12	遺構外	66	C2-71/2	後期	加曽利B1	15		加B精製	外面沈線、LR。内面沈線
No.12	遺構外	67	B4-22/1	不明	不明			無文	鉢or浅鉢
No.13	遺構外	1	C2-02/1	前期	諸磯a	05	4	押引文	LR
No.13	遺構外	2	005/1	前期	浮島Ⅲ	05	3	三角文	
No.13	遺構外	3	J27/29	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	RL、0段多条
No.13	遺構外	4	C1/1	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	キャリパー型	LRL
No.15	SK81-D	1	FP-6D/1	早期	鵜ヶ島台	03	2	沈線区画内沈線	円形刺突。内外面条痕
No.15	SK81-D	2	FP-6D/1	早期	条痕文系	03		無文	段部分。内外面条痕
No.15	SK81-D	3	FP-6D/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.15	SK81-E	4	FP-6E/2	早期	条痕文系	03		円孔文	3段の微隆帯
No.15	SK81-E	5	FP-6E/1	早期	茅山上層	03	4	縄文帯	口縁内外面と口唇上に回転縄文
No.15	SK81-E	6	FP-6E/1	早期	茅山下層	03	3	山形文	沈線、内外面条痕
No.15	SK81-E	7	FP-6E/1	早期	茅山上層	03	4	縄文帯	微隆帯上縄文、内面条痕
No.15	SK81-E	8	FP-6E/1	早期	条痕文系	03		無文	外面条痕後ナデ、内面板orヘラ条痕後貝殻条痕
No.15	SK81-E	9	FP-6E/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.15	SK81-E	10	FP-6E/1	早期	条痕文系	03		無文	段部分。内外面条痕
No.15	遺構外	1	JH/693	早期	三戸	02	1	無文	
No.15	遺構外	2	JH/153	早期	三戸	02	1	集合沈線文	平行沈線。2・3同一
No.15	遺構外	3	JH/756	早期	三戸	02	1	集合沈線文	平行沈線。2・3同一
No.15	遺構外	4	JH/712	早期	子母口	02	4	無文	内外面ヘラケズリとナデ
No.15	遺構外	5	JH/744	早期	子母口	02	4	無文	内外面ヘラケズリとナデ
No.15	遺構外	6	塚/2	早期	子母口	02	4	無文	内外面ヘラケズリとナデ
No.15	遺構外	7	JH/627	早期	子母口	02	4	無文	内外面条痕後ナデ
No.15	遺構外	8	JH/617	早期	鵜ヶ島台	03	2	微隆起線区画内沈線	円形刺突。内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	9	JH/956	早期	鵜ヶ島台	03	2	微隆起線区画内沈線	円形刺突。内面条痕
No.15	遺構外	10	JH/725	早期	鵜ヶ島台	03	2	微隆起線区画内沈線	円形刺突。内面条痕
No.15	遺構外	11	JH/948	早期	鵜ヶ島台	03	2	沈線文	菱形文。円形刺突。内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	12	JH/910	早期	鵜ヶ島台	03	2	沈線文	円形刺突。内外面ナデ。口唇刻み
No.15	遺構外	13	JH/574	早期	鵜ヶ島台	03	2	刺突意匠文	沈線伴なう?内外面条痕、口唇への字刻み
No.15	遺構外	14	JH/694	早期	鵜ヶ島台	03	2	刺突意匠文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	15	I/1	早期	鵜ヶ島台	03	2	刺突意匠文	内面ナデ。口唇刻み
No.15	遺構外	16	JH/314	早期	鵜ヶ島台?	03	2	刺突意匠文	外面条痕、内面ナデ。口唇刻み
No.15	遺構外	17	JH/129	早期	鵜ヶ島台	03	2	沈線区画内刺突	外面ナデ、内面条痕
No.15	遺構外	18	JH/849	早期	鵜ヶ島台	03	2	沈線区画内刺突	刺突、内外面条痕
No.15	遺構外	19	JH/270,998	早期	鵜ヶ島台	03	2	微隆起線区画内沈線	円形刺突。内外面条痕
No.15	遺構外	20	JH/621	早期	鵜ヶ島台	03	2	沈線区画内沈線	円形刺突。内外面条痕
No.15	遺構外	21	JH/1	早期	鵜ヶ島台	03	2	刺突意匠文	内外面ナデ
No.15	遺構外	22	JH/765	早期	条痕文系	03		無文	外面ヘラナデ、内面条痕・ヘラナデ
No.15	遺構外	23	JH/768	早期	条痕文系	03		無文	外面ヘラナデ、内面条痕・ヘラナデ
No.15	遺構外	24	JH/16	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	25	JH/152	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み。焼成前穿孔
No.15	遺構外	26	JH/699	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	27	JH/998	早期	条痕文系	03		沈線意匠文内沈線	幅広沈線。細沈線による斜格子文。内面条痕
No.15	遺構外	28	JH/157	早期	条痕文系	03		沈線区画内刺突?	幅広沈線。口唇刻み
No.15	遺構外	29	JH/685,689	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.15	遺構外	30	H8-86/16	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	31	JH/757	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	32	JH/687	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	33	JH/668	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	34	JH/220	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	35	JH/37	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	36	JH/717	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	37	JH/562	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	38	JH/629,630	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	39	JH/747	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。口唇刻み
No.15	遺構外	40	JH/444,445	早期	茅山上層	03	4	微隆起線意匠文	内面条痕・ナデ・ドングリ圧痕、外面条痕
No.15	遺構外	41	JH/210	早期	茅山上層以降	03	4+	刻み隆帯	円文。内外面ナデ。半截竹管刺突
No.15	遺構外	42	JH/801	早期	茅山上層以降	03	4+	刻み隆帯	隆帯上絡状体圧痕?、内面条痕
No.15	遺構外	43	JH/632	早期	茅山上層以降	03	4+	隆起線	外面条痕・絡状体圧痕、内面条痕
No.15	遺構外	44	JH/548	早期	茅山上層以降	03	4+	沈線意匠文	幅広沈線。内面ナデ
No.15	遺構外	45	JH/937	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕、平底
No.15	遺構外	46	JH/968	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕?劣化、平底
No.15	遺構外	47	JH/314	前期	黒浜	04		爪形文	平行沈線
No.15	遺構外	48	JH/156	前期	諸磯a	05	4	爪形文	円形刺突。LR。円孔
No.15	遺構外	49	JH/356	前期	諸磯a	05	4	爪形文	肋骨文。円形刺突。49・54同一
No.15	遺構外	50	JH/615,616	前期	諸磯a	05	4	爪形文	円形刺突。円孔
No.15	遺構外	51	塚/2	前期	諸磯a	05	4	爪形文	円形刺突。RL
No.15	遺構外	52	JH/998	前期	諸磯a	05	4	平行沈線文	先端斜めの半截竹管内面で幅広沈線、肋骨文
No.15	遺構外	53	JH/92	前期	諸磯a	05	4	平行沈線文	肋骨文
No.15	遺構外	54	H8-98/4	前期	諸磯a	05	4	平行沈線文	肋骨文。円形刺突。49・54同一
No.15	遺構外	55	JH/224	前期	諸磯a	05	4	平行沈線文	木葉文。上端接合痕
No.15	遺構外	56	JH/480	前期	諸磯a	05	4	平行沈線文	木葉文。RL充填
No.15	遺構外	57	JH/22	前期	諸磯a	05	4	爪形文	LR、結節回転文
No.15	遺構外	58	JH/536,738	前期	諸磯a or b	05	4or 5	無文	RL、原体末端閉じた痕跡
No.15	遺構外	59	JH/62,320,505,569,869,992,996	前期	諸磯b	05	5	爪形文	幅広。弧状意匠多。刺突
No.15	遺構外	60	JH/156	前期	諸磯b	05	5	爪形文	幅広
No.15	遺構外	61	H8-93/1	前期	諸磯b	05	5	爪形文	
No.15	遺構外	62	JH/32	前期	諸磯b	05	5	結節浮文	RL?。小突起。口縁刻み
No.15	遺構外	63	JH/336,376	前期	諸磯b	05	5	爪形文	円形刺突。蕨手文
No.15	遺構外	64	JH/835,839	前期	諸磯b	05	5	爪形文	幅広、弧状。59と同一?
No.15	遺構外	65	JH/577	前期	諸磯b	05	5	爪形文	幅広、弧状
No.15	遺構外	66	JH/154,905	前期	諸磯b	05	5	結節浮文	蕨手文
No.15	遺構外	67	JH/208,209	前期	諸磯b	05	5	結節浮文	RL
No.15	遺構外	68	JH/198	前期	諸磯b	05	5	結節浮文	RL
No.15	遺構外	69	?/33	前期	諸磯b	05	5	集合沈線文	平行沈線、綾杉状
No.15	遺構外	70	H8-96/30	前期	諸磯b	05	5	結節浮文	底部
No.15	遺構外	71	JH/613,856	前期	浮島Ⅰ	05	1	平行短沈線文	沈線末端で結節。口縁折り返し、口縁下端刻み
No.15	遺構外	72	H8-86/23	前期	浮島Ⅰ	05	1	平行短沈線文	隆帯状刻み
No.15	遺構外	73	H8-85/13	前期	浮島Ⅰ	05	1	有節平行沈線文	73・77同一?

地点	図	No.	注記	時期	型式	群	類	器種・主文様	文様・調整・備考
No.15	遺構外	74	JH/350	前期	浮島Ⅰ	05	1	有節平行沈線文	
No.15	遺構外	75	JH/828	前期	浮島Ⅰ	05	1	爪形文区画内平行沈線	鋸歯状文。撚糸R
No.15	遺構外	76	JH/193	前期	浮島Ⅰ	05	1	平行沈線文	蛇行沈線
No.15	遺構外	77	JH/275,767	前期	浮島Ⅰ	05	1	有節平行沈線文	73・77同一?
No.15	遺構外	78	H8-76/21	前期	浮島Ⅰ	05	1	平行沈線文	撚糸文R
No.15	遺構外	79	H8-96/8	前期	浮島Ⅰ	05	1	無文	粗い撚糸文?
No.15	遺構外	80	JH/33	前期	浮島Ⅰ	05	1	無文	粗い撚糸文?
No.15	遺構外	81	JH/50	前期	浮島ⅠorⅡ	05	1or 2	爪形文	指頭押圧
No.15	遺構外	82	JH/82	前期	浮島ⅠorⅡ	05	1or 2	平行沈線文	隆帯?上刻み、劣化
No.15	遺構外	83	JH/558	前期	浮島ⅠorⅡ	05	1or 2	波状貝殻文	ハマグリ型
No.15	遺構外	84	JH/157	前期	浮島?	05		刺突文	内外面粘土汁により赤く発色
No.15	遺構外	85	H8-95/53	前期	浮島Ⅱ	05	2	変形爪形文	
No.15	遺構外	86	JH/704	前期	浮島Ⅲ	05	3	変形爪形文	
No.15	遺構外	87	JH/695	前期	前期末	06		無文	RL、結節回転文
No.15	遺構外	88	JH/78,665	前期	前期末	06		無文	LR
No.15	遺構外	89	H8-98/5	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	無文	つまみ状突起、外面輪積み痕
No.15	遺構外	90	JH/116	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	角押文	
No.15	遺構外	91	JH/531	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	隆帯＋角押文	つまみ状突起。左右非対称の枠状区画
No.15	遺構外	92	JH/598	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	隆帯＋角押文	大波状口縁、非対称意匠
No.15	遺構外	93	JH/511,512	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	角押文	口唇刻み
No.15	遺構外	94	P07/1	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	隆帯＋角押文	非対称突起。内面角押文区画内印刻状
No.15	遺構外	95	H8-97/13	中期	阿玉台Ⅰa?	09	01a	無文	つまみ状突起。隆帯。外面輪積み襞
No.15	遺構外	96	JH/1	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	隆帯＋角押文	貼付。砂粒多
No.15	遺構外	97	JH/420	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	隆帯＋角押文	波状沈線
No.15	遺構外	98	JH/95	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	角押文	波状沈線
No.15	遺構外	99	JH/581	中期	阿玉台Ⅰb	09	01b	隆帯＋角押文	輪積み襞
No.15	遺構外	100	M2-22/12	中期	加曽利EⅠ	10	1	キャリパー型粗形	環状+橋状把手。背割り隆帯
No.15	遺構外	101	M01/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	磨消。無節L
No.15	遺構外	102	G8-81/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	楕円区画内刺突。No.28-10同一
No.15	遺構外	103	G8-91/1	中期	加曽利EⅢ	10	3	キャリパー型	渦巻き突起
No.15	遺構外	104	H8-47/13	前期	後葉	05		無文	LRヨコ胴下端まで施文
No.15	遺構外	105	JH/176,623	後期?	加曽利B?	15		微隆起線	微隆帯、口縁部無文帯、沈線。RL
No.16	遺構外	1	塚/1	不明	不明			無文	内外面ミガキ
No.16	遺構外	2	塚/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.20	遺構外	1	古墳/2	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	渦巻文
No.20	遺構外	2	古墳/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	RLL直前段反撚り
No.20	遺構外	3	古墳/1	中期	加曽利ⅡorⅢ	10	2or3	キャリパー型	RL
No.20	遺構外	4	古墳/1	後期	堀之内?	14		平行沈線文	
No.20	遺構外	5	古墳/1	後期	加曽利B	15		沈線文	強いミガキ
No.22	SK82	1	002/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕。内面接合痕。小突起
No.22	SK83	2	001/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.22	SK82	3	002/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.25	遺構外	1	002/1	前期	黒浜	04		円形刺突	繊維
No.25	遺構外	2	002/18	中期	加曽利E	10		無文部	LRL
No.25	遺構外	3	003/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	無文部	RL。盲孔or円形刺突
No.25	遺構外	4	003/1	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	無文部	LR
No.26	遺構外	1	004/6	早期	条痕文系	03		連続刺突文	内外面条痕
No.26	遺構外	2	004/6	中期	阿玉台Ⅰa	09	01a	隆帯＋角押文	狭い楕円区画。つまみ状突起。口唇連続刺突
No.28	遺構外	1	G11-30/4	早期	子母口	02	4	無文	指頭ナデで条痕状。口唇上浅い刻み
No.28	遺構外	2	SD06/1	早期	子母口	02	4	無文	内外面条痕
No.28	遺構外	3	SK09/1	早期	子母口	02	4	無文	外面丁寧なナデ、内面ナデ
No.28	遺構外	4	SD15/2	早期	子母口	02	4	無文	外面条痕、内面ナデ
No.28	遺構外	5	G11-40/21	早期	条痕文系	03		無文	内外面ナデ
No.28	遺構外	6	SK09/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.28	遺構外	7	F11-80/1	早期	条痕文系	03		無文	内外面条痕
No.28	遺構外	8	G11-40/1	早期	条痕文系	03		平行沈線・結節沈線	波状文。外面ナデ、内面条痕。口唇刻み。下吉井式並行
No.28	遺構外	9	SD06/1	前期	前期末	06		平行沈線文	折返口縁下端刻み。結節沈線で区画、平行沈線意匠文
No.28	遺構外	10	G11-31/2	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	楕円区画内刺突。No.15-102同一
No.28	遺構外	11	SD11/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	LRL
No.28	遺構外	12	SX02/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	RL
No.28	遺構外	13	G10-82/2	中期	加曽利EⅡ	10	2	連弧文系	撚糸文R
No.28	遺構外	14	SD11/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	LRL
No.28	遺構外	15	SD11/1	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	キャリパー型	LRL
No.28	遺構外	16	G10-39/3	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	キャリパー型	胴部なのにLRヨコ
No.28	遺構外	17	SD06/16	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	キャリパー型	RL
No.28	遺構外	18	G11-30/5	中期	加曽利EⅡorⅢ	10	2or3	キャリパー型	LRL
No.28	遺構外	19	SD15/1	中期	加曽利EⅡ	10	2	曽利系	集合沈線。蛇行隆帯
No.28	遺構外	20	SD06/17	後期	堀之内Ⅱ	14		平行沈線文	LRヨコ。内面沈線。小突起
No.30	SK97	1	SK01/13,14,25,28	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	LRL
No.30	SK97	2	SK01/1,2,3,7,10,12	中期	加曽利EⅡ	10	2	キャリパー型	RL

第17表　土器片錘・土製円板

地点	図	第図	No.	注記	時期	型式	部位	軸長	幅	軸角	重量	備考
11	遺構外	91	21	A3/1	中期	加曽利EⅡorⅢ	口縁	5.1	4.7	89	35.6	
11	遺構外	91	22	Oトレ/1	中期	加曽利EⅡ	口縁	6.8	3.6	88	39.5	
11	遺構外	91	23	A3/2	中期	加曽利EⅡ	胴	6.9	5.5	81	52.0	
11	遺構外	91	24	C?/38	中期	加曽利E	胴	6.8	5.7	87	64.3	
12	遺構外	110	68	C5-02/1	中期	加曽利EIV	口縁	5.7	4.9	59	33.1	
15	遺構外	171	1	JH/285	中期	加曽利EⅡorⅢ	口縁	5.5	5.3		41.7	土製円板
15	遺構外	171	2	JH/789	中期	中峠	口縁	4.7	3.9	89	28.3	

第18表　縄文時代石器・石製品

石器

地点	第図	No.	遺構	器種名	石材名	注記
7	6	20	遺構外	石鏃	黒曜石	2E-9/－
7	6	21	遺構外	打製石斧	粘板岩	010/108
7	6	22	遺構外	石皿	安山岩	防空壕入口/－
8	16	18	遺構外	石鏃（未成品）	黒曜石	10土坑/1
8	16	19	遺構外	楔形石器	黒曜石	2ツカ/1b
8	16	20	遺構外	楔形石器	黒曜石	10住/1b
8	16	21	遺構外	石核	黒曜石	6住/25
8	16	22	遺構外	剥片	黒曜石	2ツカ/27
8	16	23	遺構外	剥片	黒曜石	2ツカ/1a
8	16	24	遺構外	剥片	黒曜石	10住/1a
8	16	25	遺構外	磨石	安山岩	30土坑/1
8	16	26	遺構外	磨石	砂岩	2ツカ/3
8	－	－	遺構外	剥片	黒曜石	6住/3
8	－	－	遺構外	礫	ホルンフェルス	6住/6
8	－	－	遺構外	剥片	黒曜石	10住/1c
8	－	－	遺構外	砥石	浮石	10住/1d
8	－	－	遺構外	砥石	浮石	10住/4
8	－	－	遺構外	礫	砂岩	2ツカ/2
9	42	8	SI11	打製石斧	砂岩	J30/36
9	44	1	遺構外	石鏃	頁岩	J10/－
9	44	2	遺構外	石鏃	黒曜石	H3-04/1b
9	44	3	遺構外	調整痕をもつ剥片	頁岩	H3-04/1a
9	44	4	遺構外	不明	緑泥片岩	J21/9
9	44	5	遺構外	石鏃（未成品）	黒曜石	J7/42
9	44	6	遺構外	楔形石器	安山岩	M6/2
9	44	7	遺構外	調整痕をもつ剥片	黒曜石	1フン/40
9	44	8	遺構外	石核	安山岩	J13/40
9	44	9	遺構外	打製石斧	砂岩	Y3-10/1
9	44	10	遺構外	打製石斧	粘板岩	Y4-6/1
9	44	11	遺構外	磨石	安山岩	J14/1
9	44	12	遺構外	磨石	砂岩	J8/35
9	44	13	遺構外	磨石	砂岩	J26/1
9	44	14	遺構外	磨石	砂岩	J2/1
9	44	15	遺構外	磨石	チャート	J2-14/4
9	44	16	遺構外	凹石	安山岩	M3/9
9	44	17	遺構外	台石	流紋岩	2住/11
9	44	18	遺構外	石棒	結晶片岩	J10/
9	45	19	遺構外	磨石	結晶片岩	J26/34
9	－	－	遺構外	磨石	流紋岩	FP-4/57
9	－	－	遺構外	砥石	凝灰岩	A3-86/1
9	－	－	遺構外	剥片	黒曜石	3F-16/1
9	－	－	遺構外	剥片	頁岩	J14/3
9	－	－	遺構外	剥片	珪質頁岩	M6/6
11	92	1	遺構外	石鏃	チャート	A36/1a
11	92	2	遺構外	石鏃	瑪瑙	B区/7b
11	92	3	遺構外	石鏃	チャート	BE/9
11	92	4	遺構外	石鏃	粘板岩	方形周溝状遺構/1
11	92	5	遺構外	石鏃	黒曜石	A36/5b
11	92	6	遺構外	石鏃	黒曜石	A36/1b
11	92	7	遺構外	掻器・削器	黒曜石	C区/50a
11	92	8	遺構外	剥片	黒曜石	C区/50c
11	92	9	遺構外	剥片	黒曜石	C区/50b
11	92	10	遺構外	使用痕ある剥片	黒曜石	C区/18
11	92	11	遺構外	掻器・削器	珪質頁岩	B区/6
11	92	12	遺構外	打製石斧	砂岩	A36/5a
11	92	13	遺構外	磨製石斧	砂岩	C区/3
11	92	14	遺構外	台石	砂岩	C区/12
11	92	15	遺構外	磨石	流紋岩	C区/9
11	92	16	遺構外	磨石	安山岩	A区/4
11	92	17	遺構外	敲石	砂岩	B区/7a
11	93	18	遺構外	石皿	砂岩	C区/8
11	93	19	遺構外	礫	安山岩	C区/29
11	－	－	遺構外	剥片	黒曜石	C区/19
12	108	2	SI41	磨石	安山岩	J25/7
12	108	4	SI42	石鏃	頁岩	J29/5
12	108	5	SI42	楔形石器	安山岩	J29/6
12	111	1	遺構外	石鏃	チャート	表採/a
12	111	2	遺構外	石鏃	安山岩	J18/14
12	111	3	遺構外	石鏃	黒曜石	J32/15
12	111	4	遺構外	石鏃	安山岩	C2-51/1
12	111	5	遺構外	石鏃	チャート	J32/76
12	111	6	遺構外	石鏃	黒曜石	D2-35/1
12	111	7	遺構外	石鏃（未成品）	チャート	C2-84/54
12	111	8	遺構外	両極石核	チャート	B4-48/1
12	111	9	遺構外	両極石核	チャート	J26/61
12	111	10	遺構外	楔形石器		C5-46/1
12	111	11	遺構外	石核	黒曜石	C2-85/16
12	111	12	遺構外	楔形石器	凝灰岩	J18/7
12	111	13	遺構外	石核	黒曜石	C1-67/2
12	111	14	遺構外	調整痕をもつ剥片	黒曜石	C5/－
12	111	15	遺構外	調整痕をもつ剥片	珪質頁岩	B4-74/1
12	111	16	遺構外	剥片	黒曜石	J8/42
12	111	17	遺構外	剥片	珪質頁岩	J22/43
12	111	18	遺構外	打製石斧	砂岩	C2-85/69
12	111	19	遺構外	打製石斧	安山岩	C1-34/1
12	111	20	遺構外	打製石斧	安山岩	J24/7
12	111	21	遺構外	磨製石斧	砂岩	J3/56
12	112	22	遺構外	砥石	砂岩	J9/58
12	112	23	遺構外	台石	砂岩	J1/49
12	112	24	遺構外	磨石	流紋岩	D5-23/1
12	112	25	遺構外	磨石	砂岩	D4/1
12	112	26	遺構外	磨石	流紋岩	C2-74/6
12	112	27	遺構外	磨石	流紋岩	B4/86
12	112	28	遺構外	磨石	砂岩	B4/96
12	－	－	遺構外	砥石	凝灰岩	B4-40/1
12	－	－	遺構外	石皿	安山岩	C2-93/15
12	－	－	遺構外	砥石	緑泥片岩	J2/12
12	－	－	遺構外	砥石	浮石	J11/88
12	－	－	遺構外	砥石?	浮石	J17/91
12	－	－	遺構外	砥石		J18/39
12	－	－	遺構外	砥石?	浮石	J24/34
12	－	－	遺構外	砥石		M5/2
13	160	5	遺構外	石皿	不明	C2/1
13	－	－	遺構外	礫	安山岩	003/7
15	171	1	遺構外	石匙	流紋岩	JH/698
15	171	2	遺構外	石鏃	黒曜石	H8-75/2
15	171	3	遺構外	石鏃	チャート	H8-97/17
15	171	4	遺構外	石鏃（未成品）	頁岩	I?-31/－
15	171	5	遺構外	楔形石器	チャート	JH/777
15	171	6	遺構外	両極石核	チャート	JH/356
15	171	7	遺構外	両極石核	チャート	JH/595
15	171	8	遺構外	両極石核	チャート	JH/504
15	171	9	遺構外	両極石核	チャート	JH/69
15	171	10	遺構外	石核	黒曜石	H8-77/19
15	171	11	遺構外	剥片	チャート	H8-86/29
15	171	12	遺構外	剥片	凝灰岩	JH/103
15	171	13	遺構外	調整痕をもつ剥片	瑪瑙	JH/2
15	171	14	遺構外	磨製石斧	蛇紋岩	H8-78/1
15	171	15	遺構外	磨石	砂岩	中央トレンチ/1
15	－	－	遺構外	石鏃	黒曜石	H8-84/4
15	－	－	遺構外	石核	黒曜石	JH/880
17	186	1	遺構外	磨石	砂岩	3T/－
28	201	21	遺構外	石皿	安山岩	G11-31/1
28	－	－	遺構外	礫	砂岩	SD-11/1

石製品

地点	第図	No.	遺構	器種名	石材名	注記
12	112	29	遺構外	石製垂飾		D2-16/
16	182	3	遺構外	環状石製品	蛇紋岩	ツカ/

第19表　土師器・須恵器等

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
07	7	1	SK04	010/1	土師器	杯	14.3	8.0	5.5		黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	ロクロ成形	内面黒色処理。二次焼成,器面荒れ顕著
07	7	2	SK04	010/160	土師器	甕	12.0		4.2	10	黒褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
07	7	3	SK04	010/191	灰釉	手付瓶			7.1	10	灰白	灰白	ナデ	ナデ		外面灰釉
07	7	4	SK04	010/10	灰釉	瓶		9.0	5.4	20	灰	灰白	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り・ナデ	底部内面灰釉
07	7	1	SK10	016/1	土師器	甕	13.5		8.3	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
07	7	2	SK10	016 /2,4	土師器	壺		11.0	9.2	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り		
07	7	3	SK10	016/3,5	土師器	甕		8.7	17.1	30	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
07	8	1	遺構外	南斜/9	土師器	杯	14.0		3.9	10	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面赤彩
07	8	2	遺構外	南斜/4	土師器	杯	11.1		4.6	10	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒色処理
07	8	3	遺構外	南斜/4	土師器	坩	9.8	5.9		10	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
07	8	4	遺構外	南斜/4,6	土師器	甕	18.4		25.0	20	黄褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		外面黒斑
07	8	5	遺構外	南斜/4	土師器	壺	15.8		8.2	10	黄褐	黄褐	ヘラ削り・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒斑
07	8	6	遺構外	南斜/4	土師器	手捏ね	7.3	5.6	2.8	20	褐	褐	ナデ	ナデ		底部外面木葉痕、体～底部外面黒斑
07	8	7	遺構外	南斜/9	土師器	手捏ね	3.6	4.2	2.3	80	褐	褐	ナデ	ナデ		
07	8	8	遺構外	南斜/5	灰釉	手付瓶		6.0	3.3	10	灰白	灰白	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	胴部外面灰釉
07	8	9	遺構外	南斜/1	土師器	甑	27.1		22.2	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		胴部外面黒斑
07	12	2	SE02	024/3	土師器	椀		9.9	4.0	30	褐	褐	ナデ	ナデ	ナデ	
08	17	1	SI01	003 /14	土師器	杯	13.6		4.7	100	黒	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		内外面黒色処理
08	17	2	SI01	003 /4,11	土師器	杯	13.4		4.1	90	褐	黒	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		内外面黒色処理
08	17	3	SI01	003 /4	土師器	杯	14.0		3.8	10	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		口縁内面黒色処理
08	17	4	SI01	003 /2	土師器	杯	13.6		3.4	10	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		
08	17	5	SI01	003 /2	土師器	杯	14.8		3.4	20	茶褐	茶褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		
08	17	6	SI01	003 /4	土師器	杯	11.7		2.5	10	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ	不明		外面器面荒れ、内面・口縁外部黒色処理
08	17	7	SI01	003 /3,4	土師器	杯	14.1		4.5	60	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		内外面黒色処理
08	17	8	SI01	003 /10	土師器	杯	10.1		3.3	60	黒	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		内外面黒色処理
08	17	9	SI01	003 /3	土師器	杯	13.7		2.7	10	暗黄褐	暗黄褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
08	17	10	SI01	003 /4	土師器	杯	12.8		2.8	10	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内面黒色処理
08	17	11	SI01	003 /1	土師器	杯	13.7		3.4	10	灰褐	黒	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		内外面黒色処理
08	17	12	SI01	003 /3	土師器	杯	21.8		4.5	10	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		外面黒色処理
08	18	13	SI01	003 /8	土師器	甕		5.9	4.6	10	褐	黒褐	ヘラナデ	ヘラ削り		二次焼成
08	18	14	SI01	003 /3	土師器	甑	23.6		5.9	10	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁内面黒斑
08	19	1	SI02	004 /1,4,5	土師器	杯	24.8		7.0	30	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内面黒色処理
08	19	2	SI02	004 /7	土師器	高杯	14.2	9.7	7.8	60	橙褐	橙褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		
08	19	3	SI02	004 /6	土師器	鉢	14.8	6.3	8.7	80	褐	黒褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		外面黒斑
08	20	1	SI03	005 /16	須恵器	蓋	11.4		4.6	90	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	天井全面回転ヘラ削り	
08	20	2	SI03	005 /10	須恵器	蓋	11.7		4.5	8	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	回転ヘラ切り・天井全面回転ヘラ削り	
08	20	3	SI03	005 /15	須恵器	蓋	9.6		3.5	90	灰褐	灰褐	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り	天井外面灰釉
08	20	4	SI03	005 /22	須恵器	杯	8.9	4.5	3.3	100	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	回転ヘラ切り・全面回転ヘラ削り	受け部灰釉
08	20	5	SI03	005 /15	須恵器	杯	9.8		4.4	90	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	回転ヘラ切り・全面回転ヘラ削り	
08	20	6	SI03	005 /17	土師器	杯	14.0		5.1	90	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒斑
08	20	7	SI03	005 /24	土師器	杯	13.8		5.0	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		体部下半内外面黒斑
08	20	8	SI03	005 /24	土師器	杯	12.9		3.4	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	20	9	SI03	005 /2,24	土師器	甕	13.2		12.6	80	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
08	20	10	SI03	005 /12,13	土師器	甕	15.2	7.0	19.3	50	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
08	20	11	SI03	005 /24,27	土師器	甕	18.3	7.2	27.9	50	黒褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
08	21	12	SI03	005 /14	土師器	甕	18.0	5.0	29.2	90	黒褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部内外面黒斑
08	21	13	SI03	005 /4～8	土師器	甕		7.6	18.9	40	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		胴部外面黒斑
08	21	14	SI03	005 /18	土師器	甕		7.4	5.3	10	黒	黒	ヘラナデ	ヘラ削り		
08	21	15	SI03	005 /18	土師器	甕			19.5	40	黒褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		胴部外面黒斑
08	21	16	SI03	005 /2,11	土師器	甑	29.8	8.1	22.1	100	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面黒斑
08	22	1	SI04	006 /003,009,010	須恵器	蓋	13.6		4.7	90	灰	青灰	ナデ	ヘラ削り・ナデ	天井回転ヘラ削り・ナデ	
08	22	2	SI04	006 /002,003,008	須恵器	蓋	12.8		4.4	80	灰	灰	ナデ	ヘラ削り・ナデ	天井2/3回転ヘラ削り	口縁・天井部境に沈線一周
08	22	3	SI04	006 /008,002,009,010,012,013	須恵器	杯	11.5		4.9	80	灰	灰	ナデ	ヘラ削り・ナデ	回転ヘラ削り	
08	22	4	SI04	006 /003,002,013	須恵器	杯	11.8		4.2	30	灰	灰	ナデ	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	外面二条の黒痕(焼成による?)
08	22	5	SI04	006 /002	須恵器	杯			2.2	30	緑灰	灰褐・緑灰	ナデ	ナデ	天井部ナデ	外面2色
08	22	6	SI04	006 /003,004	土師器	杯	14.8		3.6	10	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	22	7	SI04	006 /001,002,003	土師器	杯	12.6		3.8	20	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	22	8	SI04	006 /002,003	土師器	杯	12.8		2.8	10	黄褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内面摩滅により赤彩剥離
08	22	9	SI04	006 /001	土師器	杯	15.0		3.1	10	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	22	10	SI04	006 /004	土師器	杯	13.9		2.9	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内面口縁・外面黒色処理
08	22	11	SI04	006 /001,002	土師器	杯	14.6		2.7	20	黄褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	22	12	SI04	006 /003,011,027	土師器	杯	15.0		3.8	20	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	22	13	SI04	006 /003	土師器	杯	13.8		3.2	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		底部外面摩滅のため黄褐色化
08	23	14	SI04	006 /001,024	土師器	高杯	14.1	10.3	9.3	80	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	23	15	SI04	006 /002,011	土師器	高杯		9.0	5.7	30	赤褐	赤褐	ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	23	16	SI04	006 /004	土師器	高杯		8.4	1.5	10	黒褐	赤褐	ナデ	ナデ		
08	23	17	SI04	006 /004	土師器	高杯			4.5	10	赤褐	赤褐	ヘラナデ	ヘラ削り・ヘラナデ		
08	23	18	SI04	006 /002,003,027	土師器	甕	12.6		8.2	30	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		
08	23	19	SI04	006 /003,026	土師器	甕	20.8		11.0	20	白褐	白褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	23	20	SI04	006 /004	土師器	甕	18.7		4.5	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
08	23	21	SI04	006 /015	土師器	甕		9.0	3.1	10	赤褐	赤褐	ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
08	24	1	SI05	010 /12,31	須恵器	蓋	12.0		4.2	30	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	天井部全面回転ヘラ削り	
08	24	2	SI05	010 /-	須恵器	蓋	12.2		4.4	40	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	天井部全面回転ヘラ削り	
08	24	3	SI05	010 /7	須恵器	杯	10.4		4.8	100	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り	
08	24	4	SI05	010 /1,11,24,30	須恵器	杯	10.8		3.9	40	灰	灰	ナデ	ナデ	全面回転ヘラ削り	
08	24	5	SI05	010 /19	土師器	杯	12.4		3.7	100	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		体から底部外面黒斑、内面黒色処理
08	24	6	SI05	010 /21	土師器	杯	11.2		4.0	70	黒	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		内面黒色処理
08	24	7	SI05	010 /20	土師器	杯	14.2		4.9	90	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	24	8	SI05	010 /1,2,4,9	土師器	壺	18.3		11.6	20	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ		内面黒斑、二次焼成
08	24	9	SI05	010 /25,28,29	土師器	壺	10.4		9.2	20	黒褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	25	10	SI05	010 /26	土師器	高杯	20.7	14.1	15.5	90	橙褐	橙褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ・ヘラナデ		杯部内面黒斑
08	25	11	SI05	010 /1,4,5,6,22	土師器	壺	10.2	4.8	17.4	40	黒褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁～胴部外面黒斑、二次焼成
08	25	12	SI05	010 /15,17	土師器	壺		8.0	16.2	30	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り	手持ちヘラ削り	胴部外面黒斑
08	25	13	SI05	010 /1,28	土師器	壺	20.8		7.9	20	黒褐	褐				内外面摩滅顕著
08	25	14	SI05	010 /1	土師器	壺		9.2	5.9	20	暗黄褐	黄褐		刷毛・ナデ		胴部外面黒斑、底部外面沈線(磨耗)
08	26	1	SI06	001 /6	土師器	杯	11.6	6.1	3.5	100	黒	黒	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	外面黒斑、内面全面黒色物質、二次焼成
08	26	2	SI06	001 /8	土師器	杯	10.5	5.4	3.6	90	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	26	3	SI06	001 /2,5	土師器	杯	11.4	5.8	4.2	90	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	体部外面黒斑
08	26	4	SI06	001 /1,3,4	土師器	杯	11.1	4.5	4.3	40	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	26	5	SI06	001 /3	土師器	杯	12.0	4.8	3.7	30	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	26	6	SI06	001 /2	土師器	杯	11.9	4.6	3.5	50	黒褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	26	7	SI06	001 /4	土師器	杯	11.6	5.8	3.2	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	底部内外面黒斑
08	26	8	SI06	001 /3	土師器	杯	11.3		3.1	10	黒	褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	不明	内面黒色物質
08	26	9	SI06	001 /3	土師器	杯		5.2	3.3	30	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	体部内外面黒斑
08	26	10	SI06	001 /3	土師器	杯		6.0	1.4	10	茶褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ	回転糸切り・外周手持ちヘラ削り	外面黒斑
08	26	11	SI06	001 /1,3	土師器	皿	16.0		2.9	10	黒褐	褐	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ		
08	26	12	SI06	001 /1,2	土師器	高台付杯	14.9		3.9	10	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ		内外面黒斑
08	26	13	SI06	001 /7	土師器	椀	12.0	6.6	5.3	50	黒褐	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	ナデ	内面黒色処理、二次焼成
08	26	14	SI06	001 /3	土師器	高台付椀		9.4	4.6	20	橙褐	褐	ナデ	ナデ	ナデ	二次焼成
08	26	15	SI06	001 /1,2	土師器	高台付椀		7.4	2.9	10	黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	ナデ	椀内面黒色処理
08	26	16	SI06	001 /3	土師器	高台付椀		7.4	3.3	10	褐	褐	ナデ	ナデ	ナデ	
08	27	1	SI07	002 /005	土師器	杯	13.7	6.4	4.4	80	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	体部外面黒斑
08	27	2	SI07	002 /014	土師器	杯	13.7		3.2	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
08	27	3	SI07	002 /15	土師器	杯	12.8		3.4	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
08	27	4	SI07	002 /21	土師器	杯	14.2		4.3	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	27	5	SI07	002 /22	土師器	杯		6.0	1.7	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・ナデ・無調整	
08	27	6	SI07	002 /8	土師器	杯		6.0	1.0	10	褐	褐	ナデ	ナデ		二次焼成
08	27	7	SI07	002 /002,018	土師器	壺	21.9		7.8	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒斑
08	27	8	SI07	002 /012,019,020	須恵器	壺			13.2	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・タタキ		
08	28	1	SI08	007 /011	土師器	杯	12.9	6.0	3.5	50	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	28	2	SI08	007 /1,11	土師器	杯	13.2	5.9	3.6	60	黒褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	28	3	SI08	007 /008	土師器	杯	14.8		3.8	10	褐	褐	ミガキ・ナデ	ナデ		
08	28	4	SI08	007 /9	土師器	杯		5.6	2.2	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	28	5	SI08	007 /11	土師器	高台付杯			3.2	10	褐	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	ナデ	
08	28	6	SI08	007 /6	土師器	高台付杯			2.7	10	褐	褐	ミガキ・ナデ	ナデ		
08	28	7	SI08	007 /001,002,007,011	須恵器	壺				10	灰	暗灰	ナデ	平行タタキ		外面タタキあり
08	28	8	SI08	007 /004	須恵器	壺				10	褐	褐	ナデ	格子目タタキ・ナデ		外面格子目タタキ
08	28	9	SI08	007 /001	須恵器	壺				10	褐	褐	ナデ	格子目タタキ・ナデ		外面格子目タタキ
08	29	1	SI09	008 /1	土師器	杯	11.0	4.6	3.5	20	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	29	2	SI09	008 /001	土師器	杯	11.8	4.8	3.8	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	29	3	SI09	008 /001	土師器	杯	12.8	4.8	3.4	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	29	4	SI09	008 /001	土師器	壺	12.7		5.9	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	29	5	SI09	008 /2	土師器	杯	13.8		4.4	10	黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ		内面黒色処理
08	29	6	SI09	008 /2	土師器	杯		6.0	2.4	10	黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	内面黒色処理
08	29	7	SI09	008 /001	土師器	壺	19.6		5.4	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
08	30	1	SI10	009 /004	灰釉	皿	13.8		1.7	10	灰白	灰白	ナデ	ナデ		
08	30	2	SI10	009 /061	土師器	杯	14.0	7.3	4.2	40	茶褐	茶褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	30	3	SI10	009 /1,2	土師器	高台付椀			5.2	10	黒褐	褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	ナデ	
08	30	4	SI10	009 /004	灰釉	皿		7.0	1.4	10	灰白	灰白	ナデ	ナデ	回転糸切り・ナデ	
08	30	5	SI10	009 /004	土師器	高台付椀		7.0	2.8	10	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	ナデ	
08	30	6	SI10	009 /060,061	灰釉	長頸瓶		16.4	5.8	20	灰白	灰白	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	ナデ	
08	31	1	SK22	9D/1	須恵器	高台付皿		7.4	1.4	10	灰	灰	ナデ	ナデ	全面回転ヘラ削り・ナデ	体部内外面灰釉
08	31	2	SK22	9D/1	土師器	高台付椀		9.0	2.9	10	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・ナデ	
08	31	3	SK22	9D/1	土師器	壺	12.8		4.0	10	黒褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁部内面黒色物質、二次焼成
08	31	1	SK23	10D/1	須恵器	高台付椀	13.6		3.2	10	灰	灰	ナデ	ナデ		
08	31	2	SK23	10D/1	土師器	壺		9.0	1.3	10	黒褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り		底部外面黒色物質、二次焼成
08	31	1	SK25	12D/1	土師器	杯	11.8	4.6	3.4	10	褐	黒褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	二次焼成
08	31	1	SK28	30D/1	須恵器	甑				10	褐	褐	ナデ	格子目タタキ		外面格子目タタキ
08	32	1	SK30	32D/1	土師器	壺		5.4	1.5	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
08	30	1	SM01	3溝/1	土師器	杯	11.8		2.8	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
08	35	1	SM02	1号塚/11,36,39,41	須恵器	杯	9.0		3.9	20	灰褐	灰褐	ナデ	ナデ	全面回転ヘラ削り	
08	35	1	SM03	2号塚/	土師器	杯	11.8	5.2	3.6	20	黒	褐	ナデ	ナデ	手持ちヘラ削り	
08	35	2	SM03	2号塚/28	土師器	杯	10.6	10.4	4.5	20	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	35	3	SM03	2号塚/1	土師器	杯		6.3	2.4	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
08	35	4	SM03	2号塚/1	土師器	高台付杯		7.1	1.7	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・ナデ	高台部外面黒斑、杯底部内面黒色物質
08	35	5	SM03	2号塚/1	土師器	高台付杯		7.0	3.0	10	褐	褐	ナデ	ナデ	ナデ	
08	35	6	SM03	2号塚/28	土師器	壺		5.8	2.2	10	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		底部外面ヘラ書き
08	32	1	遺構外	4E/表採	須恵器	蓋			3.9	40	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	天井全面回転ヘラ削り	
08	32	2	遺構外	P3/1	土師器	杯	14.4		2.1	10	褐	褐	ナデ	ナデ		

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
09	46	1	SI13	J01/1,46	土師器	杯	15.9		5.0	90	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
09	46	2	SI13	J01/52	土師器	杯	14.0		4.4	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	46	3	SI13	J01/71	土師器	杯	12.4		3.0	10	赤褐	赤褐(黄褐)	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	46	4	SI13	J01/17	土師器	杯	14.0		3.9	10	褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		体部外面黒斑
09	46	5	SI13	J01/3,27,28,29,31,45,46	土師器	鉢	13.7		7.1	60	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		外面赤彩不明瞭
09	46	6	SI13	J01/1	土師器	高杯	15.8		2.9	10	橙褐	橙褐				器面磨耗顕著、内面黒色処
09	46	7	SI13	J01/1,3,10,11,23,43,50,71	土師器	高杯	18.8		6.2	20	黒褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	47	8	SI13	J01/16	土師器	高杯		9.6	5.1	10	黄褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
09	47	9	SI13	J01/11,13,14,18,47	土師器	甕	18.4		7.6	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
09	47	10	SI13	J01/035	土師器	甕	20.4		5.8	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
09	47	11	SI13	J01/13,12,20,32,37,36,43	土師器	甕	23.9		16.2	20	黄褐	黄褐	ナデ	ナデ		胴部外面黒斑
09	48	1	SI14	J02/2	土師器	杯	12.8		2.7	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
09	48	2	SI14	J02/14	土師器	杯	14.2		3.2	10	黒褐	褐	ミガキ・ナデ	ナデ		内外面黒色処理、器面磨耗顕著
09	48	3	SI14	J02/21,22	土師器	鉢	17.1		8.2	40	褐	黒	ミガキ			器面荒れ顕著、内外面黒斑
09	48	4	SI14	J02/20	土師器	甕	18.7	6.7	26.6	60	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
09	48	5	SI14	J02/4	土師器	甕	14.1		5.6	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	49	1	SI15	J03/34	須恵器	盌	13.6		3.1	10	青灰	青灰	ナデ	ナデ		
09	49	2	SI15	J03/153	須恵器	杯	11.8		2.8	10	灰	灰	ナデ	ナデ		二次焼成
09	49	3	SI15	J03/51,27	土師器	杯	13.8		4.5	30	橙褐	橙褐 黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	49	4	SI15	J03/3,73	土師器	杯			2.5	10	褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒色物質
09	49	5	SI15	J03/14,15	土師器	杯	12.0		4.2	40	橙褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	49	6	SI15	J03/12	土師器	杯	11.7		4.7	40	褐	褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体部外面黒斑
09	49	7	SI15	J03/166,170	土師器	高杯	14.2		8.2	40	黒褐	褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		内面黒色処理
09	49	8	SI15	J03/22	土師器	高杯	16.1	13.0	10.1	70	褐	褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		
09	49	9	SI15	J03/178	土師器	高杯	14.9		10.3	70	黒褐	褐	ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		杯部外面黒斑、内面黒色処理、二次焼成
09	49	10	SI15	J03/2,58,62	土師器	高杯			3.3	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	49	11	SI15	J03/146,155,180	土師器	高杯			6.1	20	黒褐	褐				器面荒れ顕著、杯外面黒斑、内面黒色処理、二次焼成
09	49	12	SI15	J03/164	土師器	高杯		11.5	6.8	40	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		脚部外面黒斑
09	49	13	SI15	J03/1	土師器	高杯			4.4	10	褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		
09	49	14	SI15	J03/170,168	土師器	甕	15.6		21.5	70	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑、二次焼成
09	50	15	SI15	J03/87,90,93	須恵器	提瓶				10	灰	灰	ナデ	ヘラ削り・タタキ目・カキ目		胴部外面自然釉
09	50	16	SI15	J03/95,122,123,124,130,144,152,180	土師器	甕	15.8		14.3	30	黒褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁～胴部外面黒斑、二次焼成
09	50	17	SI15	J03/169	土師器	甕	15.6		4.6	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	50	18	SI15	J03/37,48,49	土師器	甕	15.9		7.7	10	褐	褐		ヘラ削り・ナデ		内面器面荒れ、二次焼成
09	50	19	SI15	J03/53,131,132	土師器	甕		7.5	4.8	20	黒	褐	ナデ	ヘラ削り		胴部外面黒斑、二次焼成
09	51	1	SI16	J04/56	須恵器	杯	11.0		2.6	10	灰	灰	ナデ	ナデ		
09	51	2	SI16	J04/9	土師器	杯	14.9		3.3	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
09	51	3	SI16	J04/63	土師器	杯	11.8		3.1	10	赤褐	赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ		体部外面器面磨耗
09	51	4	SI16	J04/53	土師器	杯	11.9		2.9	10	橙褐	橙褐				内外面器面荒れ、接合しない破片あり
09	51	5	SI16	J04/63	土師器	杯	12.0		3.4	20	赤褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	51	6	SI16	J04/61	土師器	杯	12.8		2.8	10	赤褐	赤褐	ナデ	ナデ		
09	51	7	SI16	J04/12	土師器	杯	14.0		2.9	10	褐	褐	ヨコナデ	ヨコナデ		
09	51	8	SI16	J04/53	土師器	杯	11.0		3.2	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラナデ・ヨコナデ		
09	51	9	SI16	J04/58	土師器	甕	16.3		11.0	30	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面黒斑、二次焼成
09	51	10	SI16	J04/59	土師器	甕		7.6	2.6	10	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		
09	51	11	SI16	J04/63	土師器	甕		7.6	1.9	10	褐	黒褐				内外面磨耗
09	51	12	SI16	J04/26	土師器	甕		6.8	1.4	10	黒褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		
09	52	13	SI16	J04/2,7,53	土師器	甕	16.0		25.8	40	黄褐	黄褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
09	53	1	SI17	J07/110	土師器	杯	14.8		6.0	50	黄褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	53	2	SI17	J07/82,89-1	土師器	杯	14.4		4.5	60	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
09	53	3	SI17	J07/99,100,102	土師器	杯	18.4		5.1	20	赤褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	53	4	SI17	J07/25,30,31,58	土師器	杯			4.1	30	赤褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		体部外面黒斑
09	53	5	SI17	J07/60,93	土師器	甕	12.8		7.0	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	53	6	SI17	J07/63,76,78	土師器	甕		5.8	6.2	20	黒褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		胴部外面黒斑、底部木葉痕
09	54	7	SI17	J07/86,87,89	土師器	甕	16.0	7.5	24.4	80	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面黒斑
09	54	8	SI17	J07/109,117	土師器	甑	24.6	8.1	24.1	40	褐	褐	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
09	55	1	SI18	J10/154	須恵器	杯	9.5		2.9	10	灰	灰	ナデ	ナデ		
09	55	2	SI18	J10/34	須恵器	杯				10	灰	灰	ナデ	ナデ		
09	55	3	SI18	J10/4,5,109	土師器	杯	14.0		5.0	40	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	55	4	SI18	J10/50	土師器	杯	12.6		4.4	70	褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒色処理、底部外面黒斑
09	55	5	SI18	J10/125	土師器	杯	11.6		4.8	80	黒	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		内面黒色処理・口縁～体部外面黒斑
09	55	6	SI18	J10/183	土師器	杯	11.9		3.7	10	褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
09	55	7	SI18	J10/121,140	土師器	杯	13.7		4.8	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
09	55	8	SI18	J10/55,57	土師器	杯			3.6	10	黒褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		黒色処理か
09	56	9	SI18	J10/3	土師器	杯	14.0		3.6	10	黒	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内面黒色処理
09	56	10	SI18	J10/113	土師器	杯	12.6		4.4	30	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	56	11	SI18	J10/101	土師器	杯	10.8		4.0	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	56	12	SI18	J10/61,62	土師器	杯	13.0		5.4	40	褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		体～底部1/3
09	56	13	SI18	J10/118	土師器	杯	12.6		3.3	90	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		内面黒色処理
09	56	14	SI18	J10/178,179,181,184,185,198	土師器	杯			3.6	40	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	56	15	SI18	J10/98	土師器	杯	9.9	6.8	3.9	70	黒褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		体～底部外面黒斑あり
09	56	16	SI18	J10/114	土師器	手捏ね	9.1	5.0	4.4	80	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		黒斑あり・底部外面
09	56	17	SI18	J10/60	土師器	手捏ね	7.3	6.5	1.9	100	褐	褐	ナデ	ナデ		底部に木葉痕
09	56	18	SI18	J10/58	土師器	手捏ね	7.3	6.5	1.9	100	褐	褐	ナデ	ナデ		底部に木葉痕
09	56	19	SI18	J10/59	土師器	手捏ね	8.1	7.8	2.2	100	褐	褐	ナデ	ナデ		底部に木葉痕、口縁部内外面黒斑
09	56	20	SI18	J10/74	土師器	高杯			7.4	20	褐	褐	ミガキ・ヘラナデ	ヘラナデ		
09	56	21	SI18	J10/163	土師器	手捏ね			4.3	90	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		外面黒斑あり
09	56	22	SI18	J10/22,76,ﾌﾒｲ1	土師器	甕	12.4		17.0	30	橙褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
09	56	23	SI18	J10/44,67,200	土師器	甕	13.5		16.0	30	赤褐	赤褐	ナデ	ナデ		二次焼成
09	56	24	SI18	J10/121	土師器	甕	18.0	8.0	29.5	100	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑、二次焼成
09	56	25	SI18	J10/120	土師器	甕	15.6	7.7	28.9	90	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑、二次焼成
09	57	26	SI18	J10/138	土師器	甕	16.6		10.1	10	黒褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
09	57	27	SI18	J10/110,112,117	土師器	甕	14.6		8.9	20	褐	褐		ヘラ削り・ヨコナデ		内面器面荒れ、二次焼成
09	57	28	SI18	J10/51,103	土師器	甕	17.6		4.2	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁部内面黒斑
09	57	29	SI18	J10/122,132,133	土師器	甕	22.2		5.1	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒斑
09	57	30	SI18	J10/117	土師器	甕		8.2	22.2	50	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		二次焼成、胴部外面黒斑
09	57	31	SI18	J10/2,21,25	土師器	甕		8.5	21.4	40	黒褐	赤褐	ヘラナデ	ヘラ削り		胴部外面黒斑、二次焼成
09	57	32	SI18	J10/82,96,97	土師器	甕			21.6	20	黄褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ミガキ・ナデ		胴部外面黒斑
09	57	33	SI18	J10/129	土師器	甕		5.2	2.4	10	褐	褐	ナデ	ナデ		胴部～底部外面黒斑、底部に木葉痕
09	57	34	SI18	J10/126	土師器	甕		7.2	2.7	10	黒	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		底部外面黒斑
09	57	35	SI18	J10/71,79,97	土師器	甕		5.8	4.4	10	赤褐	褐		ヘラ削り		内面器面荒れ、二次焼成
09	57	36	SI18	J10/3	土師器	甕		8.0	1.5	10	褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り		二次焼成
09	58	37	SI18	J10/115	土師器	甑	23.0	7.7	24.4	90	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	59	1	SI20	J13/77	土師器	杯	14.2		6.0	50	褐	褐	ヘラ削り・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	59	2	SI20	J13/082,083,085	土師器	杯	12.8		4.4	20	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	59	3	SI20	J13/4	土師器	杯	13.8		4.1	10	橙褐	橙褐				内外面器面荒れ
09	59	4	SI20	J13/4,62	土師器	杯	13.0		5.0	80	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	59	5	SI20	J13/60	土師器	杯	13.4		3.9	10	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	59	6	SI20	J13/79	土師器	杯	14.1		5.0	30	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒色物質、体～底部外面黒斑
09	59	7	SI20	J13/17	土師器	杯	12.4		4.8	80	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	59	8	SI20	J13/5	土師器	杯	11.7		5.1	100	黄褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		
09	59	9	SI20	J13/12	土師器	杯	13.8		3.1	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	59	10	SI20	J13/035～037	土師器	杯	11.9		4.8	30	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		体部断面黄褐色
09	59	11	SI20	J13/060,070	土師器	杯	12.4		4.8	30	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	59	12	SI20	J13/14	土師器	杯	14.6		4.2	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	60	13	SI20	J13/068	土師器	高杯			4.2	20	黄褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		内面中心のみ無彩色、脚部上方箱彩
09	60	14	SI20	J13/072	土師器	甕	19.0		9.4	10	赤褐	褐	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		
09	60	15	SI20	J13/080,081	土師器	甕	12.6		7.8	10	黄褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内面器面荒れ
09	60	16	SI20	J13/038,044,045	土師器	甕	20.0		14.3	50	橙褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	60	17	SI20	J13/003,029	土師器	甕	13.4		4.7	10	黒褐	赤褐	ナデ	ナデ		断面赤褐色
09	60	18	SI20	J13/026	土師器	甕	20.2		6.4	10	褐色	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	60	19	SI20	J13/004,009	土師器	甕		7.0	2.2	10	黄褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り		断面黄・黒・赤褐色あり
09	60	20	SI20	J13/046	土師器	甕		4.2	1.5	10	明橙褐	橙褐		ヘラ削り・ナデ		内面器面荒れ
09	61	1	SI21	J14/4,15	須恵器	蓋	15.4		3.8	10	灰	灰	ナデ	ナデ		外面灰釉
09	61	2	SI21	J14/13,14,3	土師器	杯	11.9		4.5	40	黒褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	61	3	SI21	J14/11	土師器	杯	14.8		4.9	60	赤褐	赤褐	ヘラ削り・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面黒色物質
09	61	4	SI21	J14/6	土師器	杯	12.1		4.8	90	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	61	5	SI21	J14/62	土師器	杯	14.3		4.1	70	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		赤彩摩滅
09	61	6	SI21	J14/9	土師器	杯	12.2		5.2	70	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	61	7	SI21	J14/3,4,22	土師器	杯	20.3		6.3	70	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	61	8	SI21	J14/52	土師器	杯	14.0		4.4	90	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		底部外面黒斑
09	61	9	SI21	J14/2,37	土師器	椀	7.6		4.6	70	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	62	10	SI21	J14/12	土師器	高杯		8.8	5.8	40	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		
09	62	11	SI21	J14/10	土師器	甕	11.9	4.8	10.1	90	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	62	12	SI21	J14/3,9,21,25	土師器	甕	13.9	5.2	14.4	80	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	62	13	SI21	J14/17	土師器	甕	21.8		9.0	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
09	62	14	SI21	J14/3	土師器	甕	18.5		3.8	10	褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	62	15	SI21	J14/44,54	土師器	甕	19.6		8.1	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	62	16	SI21	J14/2,27,41	土師器	甕		5.8	6.8	20	黒褐	黒褐	ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	62	17	SI21	J14/36,38～41	土師器	甕	17.0	6.5	29.5	70	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	62	18	SI21	J14/44	土師器	杯	22.8	7.4	26.6	80	褐	褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		底部内面黒色物質・胴部外面黒斑
09	63	1	SI22	J18/6	土師器	杯	14.8		2.6	10	赤褐	赤褐	ナデ	ナデ		
09	63	2	SI22	J18/6	土師器	甕	16.7		4.0	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
09	63	1	SI23	J19/1	土師器	杯				10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	64	1	SI24	J20/39	須恵器	杯	11.0		2.5	10	灰	灰	ナデ	ナデ		
09	64	2	SI24	J20/66,67,74	土師器	杯	14.8		3.8	20	橙褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成あり
09	64	3	SI24	J20/117	土師器	杯	14.6		5.0	90	赤褐	赤褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体部外面黒斑
09	64	4	SI24	J20/97	土師器	杯	13.6		4.6	100	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		底部外面黒斑
09	64	5	SI24	J20/113,115,125	土師器	杯	11.9		4.1	40	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
09	64	6	SI24	J20/101	土師器	杯	14.4		3.8	10	橙褐	橙褐				器面磨耗
09	64	7	SI24	J20/114～116	土師器	杯	16.3		7.2	40	赤褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	64	8	SI24	J20/96	土師器	杯	14.6		5.6	50	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	65	9	SI24	J20/64	土師器	杯	13.4		4.7	90	赤褐	赤褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		底部外面黒斑
09	65	10	SI24	J20/53,58,02	土師器	高杯	14.8	10.9	9.0	60	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		杯内面黒色処理
09	65	11	SI24	J20/102	土師器	高杯		10.4	8.1	20	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ヘラナデ		
09	65	12	SI24	J20/13	土師器	高杯	12.4		6.3	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		
09	65	13	SI24	J20/125	土師器	甕	13.5		5.5	10	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
09	65	14	SI24	J20/90	土師器	壺	11.8		10.8	10	黒	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		肩部外面黒斑
09	65	15	SI24	J20/124	土師器	甕	13.8	7.0	16.7	100	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		
09	65	16	SI24	J20/119	土師器	壺	19.1	7.3	23.4	90	褐	褐	ヘラ削り・ナデ	ナデ・ヘラナデ		二次焼成
09	65	17	SI24	J20/107,110	土師器	壺	14.6		14.9	20						
09	65	18	SI24	J20/3,4,10	土師器	壺	20.1		10.3	10	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面黒斑、二次焼成
09	65	19	SI24	J20/98,126	土師器	壺	16.0		22.7	90	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁部外面黒斑
09	65	20	SI24	J20/73,126	土師器	甕		5.6	5.1	10	褐	褐		ヘラ削り		内面器面荒れ、二次焼成
09	65	21	SI24	J20/85,102	土師器	壺		7.1	5.3	10	褐	黒	ヘラナデ	ヘラ削り		
09	66	22	SI24	J20/118	土師器	甕	24.7	7.5	21.2	90	褐	褐	ヘラ削り・ナデ	ナデ・ヘラナデ		二次焼成
09	66	23	SI24	J20/61	土師器	甕	27.8		10.2	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		口縁外面・胴部内面黒斑
09	66	24	SI24	J20/52	土師器	壺		5.0	4.3	10	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		
09	67	1	SI25	J23/20	土師器	壺		7.4	7.1	10	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		二次焼成
09	68	1	SI26	J28/12	土師器	杯	13.6		4.0	20	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	68	2	SI26	J28/8,9,11	土師器	杯	11.8		4.9	10	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
09	68	3	SI26	J28/7,13	土師器	杯	15.8		5.3	30	黄褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体～底部外面黒斑、体部外面黒色物質
09	69	1	SI30	J06/78	灰釉	皿	14.0		2.2	10	灰白	灰白	ナデ	ナデ		
09	69	2	SI30	J06/48	土師器	杯	13.7	5.0	3.9	30	褐	褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	回転糸切り・手持ちヘラ削り(一部糸切り痕残存)	
09	69	3	SI30	J06/91,92,106	土師器	杯	13.9	5.7	4.6	70	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	口縁外面黒斑
09	69	4	SI30	J06/104,131	土師器	杯	10.9	5.8	3.9	60	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	体～底部内外面黒斑
09	69	5	SI30	J06/105	土師器	杯	11.1	5.8	3.6	100	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	内外面黒斑
09	69	6	SI30	J06/40,58,62	土師器	椀	15.2	6.7	6.1	50	褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ	全面手持ちヘラ削り	外面黒斑、内面黒色処理
09	69	7	SI30	J06/77	土師器	高台付杯	15.2	7.4	6.3	70	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・周縁部ナデ	内外面黒斑
09	69	8	SI30	J06/75	灰釉	手付瓶		6.0	9.5	80	灰	灰	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面灰釉
09	69	9	SI30	J06/47,54,131	土師器	甕	11.7		4.8	20	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
09	69	10	SI30	J06/76	灰釉	甕		15.2	18.8	20	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ		肩部内外面・高台内面灰釉
09	70	1	SI31	J08/1,2,21,27	土師器	甕	22.0		8.4	20	褐	褐	ナデ	ナデ		
09	70	1	SI32	J09/1,7,8	土師器	杯	12.2	5.6	3.8	80	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
09	70	2	SI32	J09/5	土師器	高台付杯	14.8		4.8	30	黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	全面回転ヘラ削り	口縁部外面黒斑
09	54	1	SI33	J16/5,24	土師器	杯	11.4	6.0	3.5	30	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	内外面黒斑
09	54	2	SI33	J16/16,17,14	土師器	杯	13.2		4.1	20	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ		
09	54	3	SI33	J16/3,4,22,27	土師器	杯	14.9	7.1	6.6	30	黒	黒	ミガキ・ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	ナデ	外面黒斑、内面黒色処理
09	54	4	SI33	J16/23,27,3	土師器	杯		8.2	3.5	10	黒褐	褐	ナデ	ナデ	ナデ	杯部下位黒色物質
09	54	5	SI33	J16/11	土師器	杯			3.3	20	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ	ナデ	
09	70	1	SI34	J21/3	土師器	杯	12.6		2.2	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
09	71	1	SI36	J24/10,26	土師器	杯		5.8	3.2	10	黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	底部外面黒斑、内面黒色処
09	71	2	SI36	J24/19	土師器	壺	23.8		5.9	10	褐	褐	ナデ・刷毛	ナデ		
09	72	1	SI37	J25/29,31	土師器	杯	15.8		3.3	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
09	72	2	SI37	J25/31	土師器	杯		6.0	0.8	10	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ	回転糸切り・外周手持ちヘラ削り	
09	72	3	SI37	J25/19	土師器	杯		6.1	1.6	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
09	72	4	SI37	J25/6	土師器	甕	24.2		8.1	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	72	5	SI37	J25/10	土師器	甕	18.8		3.2	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	72	6	SI37	J25/5	土師器	甕		8.6	4.9	10	黒褐	褐	ナデ	ヘラ削り		
09	72	1	SI38	J26/23,25	土師器	杯	17.8		4.3	10	褐	褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ		
09	72	2	SI38	J26/4	土師器	杯	13.8		3.4	10	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ		
09	72	3	SI38	J26/29	土師器	杯	12.8	5.6	3.8	20	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
09	72	4	SI38	J26/20	土師器	杯	11.6		1.9	10	褐	褐	ナデ	ナデ		口縁内面黒斑
09	72	5	SI38	J26/22	土師器	杯		5.3	1.2	10	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ		底部に繊維痕
09	72	6	SI38	J26/38	土師器	壺	15.7		4.8	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	72	7	SI38	J26/33	土師器	甕		9.0	3.2	10	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		
09	73	1	SI39	J31/9	土師器	杯	13.7		3.6	10	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ		二次焼成
09	73	2	SI39	J31/8	土師器	杯	12.6		3.7	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	73	3	SI39	J31/6,7,12	土師器	杯	14.8		5.0	20	黒褐	褐	ミガキ・ナデ	ナデ		内面黒色処理
09	83	1	SK54	D01/2	土師器	杯	11.4	5.4	3.8	90	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	近世土坑に流入
09	74	1	SM04	1号墳/20	土師器	杯	12.4		3.0	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	74	2	SM04	1号墳/10	土師器	高杯			6.4	10	褐	黒褐	ヘラナデ	ヘラナデ		外面黒斑、二次焼成
09	74	3	SM04	1号墳/25	土師器	高杯			5.2	10	褐	褐				内外面器面荒れ
09	74	4	SM04	1号墳/26	土師器	甕	15.4		2.9	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
09	74	5	SM04	1号墳/18	土師器	甕		5.6	2.5	10	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		外面黒斑
09	77	1	遺構外	J05/8	土師器	杯	13.8		3.9	10	橙褐	橙褐				内外面器面荒れ
09	77	2	遺構外	J05/14	土師器	杯			5.6	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外面器面磨耗
09	77	3	遺構外	J05/19	土師器	杯	10.4	5.1	4.5	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
09	77	4	遺構外	J02/1	土師器	杯	14.7		4.9	20	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
09	77	5	遺構外	3E/1	緑釉	高台付皿		6.8	2.2	10	緑灰	緑灰	ナデ	ナデ		内外面施釉
11	98	1	SM05-2	古墳/第2主体001,005,012,C-13	須恵器	蓋	10.0		3.9	90	灰	灰	ナデ	天井全面回転ヘラ削り		内面灰釉,天井ヘラ書き
11	98	2	SM05-2	古墳/第2主体部3,14,A-3,B-1,B-6,B-7,C-32,C-33,C-41	須恵器	壺			13.2	10	灰	灰	ナデ	平行タタキ・ナデ		内面底部中央灰釉だまり
11	103	1	SM05-墳丘	古墳/C-3,27	須恵器	蓋	10.0	4.2	4.0	60	灰	灰	ナデ	ナデ	回転ヘラ削り	天井ヘラ書き
11	103	2	SM05-墳丘	古墳/B-006,C-041	須恵器	蓋			2.0	5	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	天井部面回転ヘラ削り	
11	103	3	SM05-墳丘	古墳/B-007	須恵器	杯			2.9	20			ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	天井全面回転ヘラ削り	
11	103	4	SM05-墳丘	古墳/C-039	土師器	杯	10.2		3.6	80	橙褐	橙褐	放射線ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
11	103	5	SM05-墳丘	No.20古墳/1	土師器	杯	10.6		3.9	70	褐	褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
11	103	6	SM05-墳丘	B/008,009	土師器	杯	13.1		4.3	10	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
11	103	7	SM05-墳丘	No.20古墳/1,31-11-C48	土師器	高杯		8.8	7.1	40	杯-黒,脚-褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		杯内部黒色処理
11	103	8	SM05-墳丘	A区/006	土師器	高杯			5.3	20	黄褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		
11	103	9	SM05-墳丘	No.20古墳/1	土師器	高杯			5.9	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラナデ		
11	103	10	SM05-墳丘	No.20古墳/1	土師器	甕		6.1	2.8	10	褐	褐	ヘラナデ	ナデ		底部外面黒斑、底部外面木葉痕
11	103	11	SM05-墳丘	B,C/048	須恵器	壺	10.6		12.5	20	灰白	灰白	ナデ	ナデ		内外面灰釉
11	103	12	SM05-墳丘	古墳/C-035	須恵器	甕	11.7		21.6	100	灰	灰	ナデ	タタキ・ナデ		肩位下部穿孔
11	103	13	SM05-墳丘	古墳/017,50	須恵器	甕	16.0		9.7	10			ナデ	タタキ・ナデ		肩部・口縁部内面灰釉
11	103	14	SM05-墳丘	古墳/C-47	須恵器	甕				10	灰褐	灰	ナデ	平行タタキ		
11	103	15	SM05-墳丘	古墳/B-006,C-017,023,028.041.044	須恵器	甕		5.5	18.2	20	灰白	灰白	ナデ	平行タタキ・ナデ		底部内面に灰釉
11	104	1	SM05時期	古墳/A-008,9	土師器	杯	13.6	6.0	5.2	30	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	底部内外面線刻
11	104	2	SM05時期	C区/046	土師器	杯	14.8	7.0	4.8	80	褐	褐	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り	内外面黒斑
11	104	3	SM05時期	A区/007,008	土師器	杯	13.6		3.2	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
11	104	4	SM05時期	A区/007	土師器	杯	12.6		4.0	10	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ		
11	104	5	SM05時期	A区/008,009	土師器	杯		6.0	1.2	10	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
11	104	6	SM05時期	A区/006	土師器	杯		6.6	1.0	10			ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
11	104	7	SM05時期	古墳/C-041	須恵器	甕				10	褐	褐	ナデ	平行タタキ・ナデ		
11	104	8	SM05時期	A区/008	土師器	甕	27.8		1.8	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
12	113	1	SI43	J01/76	須恵器	蓋	12.0		4.2	10			ナデ	ナデ	天井回転ヘラ削り	
12	113	2	SI43	J01/23,92,12	土師器	杯	12.2		5.0	80	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		底外全面黒斑
12	113	3	SI43	J01/29	土師器	杯	12.4		6.9	60	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		口唇欠損多
12	113	4	SI43	J01/9,13	土師器	高杯	15.6	11.7	10.5	90	黒褐	黄褐	ナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		脚部裾外面黒斑,杯内面黒色処理か

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
12	113	5	SI43	J01/15	土師器	高杯	14.6	9.3	8.5	80	黒褐	黒褐	ミガキ・ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		
12	113	6	SI43	J01/12	土師器	高杯	15.0		10.7	40	黒褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ヘラナデ・ナデ		内面黒色処理か？
12	113	7	SI43	J01/21	土師器	高杯	14.0		6.6	50	黒	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ・ヘラナデ		杯部内面黒色処理
12	113	8	SI43	J01/50	土師器	高杯	14.0		7.4	60	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		杯内部口縁に黒色処理
12	113	9	SI43	J01/51	土師器	高杯	13.9		7.2	50	黒褐	黒褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ・ヘラナデ		杯部外面黒斑
12	113	10	SI43	J01/86	土師器	高杯			3.0	10	黒	黒褐	ナデ	ヘラ削り		
12	113	11	SI43	J01/24,61	土師器	壺	13.2	7.0	15.1	70	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面下半黒斑・二次焼成
12	113	13	SI43	J01/6,7	土師器	壺	18.4		11.2	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁～胴部外面黒斑
12	114	12	SI43	J01/6	土師器	壺	16.7	8.3	18.3	90	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面黒斑・二次焼成
12	114	14	SI43	J01/17,18,20,41	土師器	甑	22.5		21.3	70	褐	褐	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部内外面黒斑・二次焼成
12	116	1	SI44	J05/36,42,?	須恵器	壺	13.5		4.0	10	黒褐	黒褐	ナデ	タタキ・ナデ		
12	116	2	SI44	J05/4	須恵器	壺	12.0		4.9	20			ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	116	3	SI44	J05/14	土師器	杯	12.0		4.2	40	黒	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	116	4	SI44	J05/13	須恵器	杯	12.2		3.6	20	灰	灰	ナデ	ナデ	外周回転ヘラ削り	ロクロ成形
12	116	5	SI44	J05/46,47	土師器	高杯	16.5		10.4	70	黒褐	黒褐	その他(不明)	ヘラ削り・ナデ		
12	116	6	SI44	J05/50	土師器	高杯			4.7	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ヘラナデ		
12	116	7	SI44	J05/27	須恵器	盌	6.0		3.8	10	灰	灰	ナデ	天井全面回転ヘラ削り		
12	116	8	SI44	J05/55	土師器	壺	14.5	7.0	30.1	80	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面黒斑
12	116	9	SI44	J05/1,3～15,17	土師器	甑	22.8	7.5	24.1	90	褐	褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面黒斑
12	117	1	SI45	J07/51,52,54,57	土師器	杯	16.2		5.1	50	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		底部外面黒斑
12	117	2	SI45	J07/73,74	土師器	杯	13.6		4.1	20	橙褐	橙褐				器面が荒れているため不明
12	117	3	SI45	J07/15,22,23,25	土師器	杯	14.4		5.7	70	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		体～底部黒斑
12	117	4	SI45	J07/15	土師器	杯	13.3		5.6	40	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		体～底部外面黒斑
12	117	5	SI45	J07/5,80,83,98	土師器	杯	15.2	8.0	5.0	10	黄褐	黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ・不明		器面が荒れているため不明
12	117	6	SI45	J07/15,40,92,100	土師器	杯	13.8		4.3	90	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	117	7	SI45	J07/115,117	土師器	杯	13.2		4.6	30	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	117	8	SI45	J07/21,25	土師器	杯			4.6	30	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	117	9	SI45	J07/65,66,?	土師器	杯	11.6		4.0	30	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体～底部外面黒斑
12	117	10	SI45	J07/76	土師器	高杯		8.4	4.2	10	褐	褐	ナデ	ナデ・ヘラナデ		
12	117	11	SI45	J07/93	土師器	壺	12.0		10.0	40	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部内外面黒斑
12	118	12	SI45	J07/91	土師器	壺	16.6		15.3	30	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		頸部～胴部外面黒斑
12	118	13	SI45	J07/15,94	土師器	甕	14.4	7.5	21.0	70	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	118	14	SI45	J07/107,109,114	土師器	甕			26.2	20	橙褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ			外面器面荒れ顕著、二次焼成
12	119	1	SI46	J08/23	土師器	杯	11.0		5.3	90	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
12	119	2	SI46	J08/30	土師器	杯			4.5	90	黒褐	黒褐	ナデ	ヨコナデ		外面|器面荒れ
12	119	3	SI46	J08/9	土師器	高杯			5.3	10	黒	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		杯内部黒色処理
12	119	4	SI46	J08/29	土師器	鉢	14.2	6.4	10.9	50	黒	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		内面黒色処理
12	119	5	SI46	J08/40	土師器	鉢	12.1	7.0	9.2	80	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		底部外面黒斑
12	119	6	SI46	J08/8	土師器	鉢		5.6	6.9	70	褐	褐	ナデ・ヘラナデ・ヘラ痕	ヘラ削り・ナデ		
12	119	7	SI46	J08/24	土師器	壺		6.4	14.1	20	橙褐	橙褐	ヘラナデ	ヘラ削り		胴部外面黒斑
12	119	8	SI46	J08/31,32	土師器	壺		6.2	13.2	20	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		胴部外面黒斑
12	119	9	SI46	J08/25～27,33	土師器	壺	15.6	8.1	27.6	30	褐	褐				器面内外磨耗、胴部外面黒斑
12	119	10	SI46	J08/39,44	土師器	壺	17.8	8.2	19.0	30	黒褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	120	11	SI46	J08/38,44	土師器	壺		8.2	25.0	20	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		二次焼成
12	120	12	SI46	J08/34	土師器	甑	25.6		10.6	30	褐	褐				口縁部内面・胴部外面黒斑
12	120	13	SI46	J08/45	須恵器	盌	12.8		5.1	90	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り	
12	120	14	SI46	J08/11,16,44	土師器	杯	11.4		4.3	70	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		二次焼成
12	120	15	SI46	J08/7	土師器	杯	14.2		4.6	30	黒褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	120	16	SI46	J08/7,7メイ2	土師器	杯	12.5		2.8	30	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	120	17	SI46	J08/12,43	土師器	高杯	16.5	10.5	13.0	70	黒	黄褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		杯内面黒色処理、杯外面黒斑、二次焼成
12	120	18	SI46	J08/11	土師器	高杯		13.0	10.4	30	黒褐	褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		
12	120	19	SI46	J08/14	土師器	甕	13.9	7.1	14.6	60	黒褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
12	120	20	SI46	J08/15	土師器	鉢	8.2	6.2	9.6	90	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		底部外面黒斑、底部木葉痕、接合痕
12	120	21	SI46	J08/20,21	須恵器	盌	10.0	6.5	11.2	90	褐	褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		胴部黒斑、二次焼成
12	120	22	SI46	J08/6	土師器	甕		6.7	3.6	10			ヘラナデ	ヘラ削り		
12	121	23	SI46	J08/5,44	土師器	壺	15.0	6.6	29.5	40	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	121	24	SI46	J08/18,44	土師器	壺		9.6	32.4	30	淡褐	淡褐	ナデ・ヘラナデ	ミガキ・ナデ		二次焼成、底外面調整不明
12	121	25	SI46	J08/19,21	土師器	壺	16.4		15.3	40	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
12	121	26	SI46	J08/19	土師器	甕		6.3	21.5	40	褐	褐		ヘラ削り		二次焼成、内面器面荒れ
12	121	27	SI46	J08/13,44	土師器	甑	21.4	7.6	22.7	50			ナデ	ヘラ削り・ナデ		胴内外面黒斑、二次焼成
12	122	1	SI47	J09/40	須恵器	盌	12.0		4.4	20	褐	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	回転ヘラ切り・天井全面回転ヘラ削り	
12	122	2	SI47	J09/1,24,43,67	須恵器	杯	11.8		4.4	20	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り	
12	122	3	SI47	J09/57,68	土師器	杯	13.2		4.1	30	黄褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		体部内外面黒斑
12	122	4	SI47	J09/18,20,66,67	土師器	杯	14.3		3.7	70	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		口縁～体部内外面黒斑、二次焼成
12	122	5	SI47	J09/11	土師器	杯	13.4		4.5	70	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体部内外面,底部外面黒斑
12	122	6	SI47	J09/61,62	須恵器	杯	12.0		4.4	60	褐	褐	ヨコナデ	ヨコナデ		体部外面黒斑
12	122	7	SI47	J09/67,68	土師器	杯	14.0		2.9	10	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		体部外面黒斑
12	122	8	SI47	J09/67,C6/90/1	土師器	杯	14.2		3.7	10	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		内外面黒色処理か
12	123	9	SI47	J09/10,68～70	土師器	高杯			9.6	30	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラナデ		
12	123	10	SI47	J09/55	土師器	手捏ね	3.8		4.5	90	橙褐	橙褐	ナデ	ヨコナデ		底部外面黒斑
12	123	11	SI47	J09/16,37,55	土師器	壺	18.2	7.3	24.3	80	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
12	123	12	SI47	J09/J9竈,C2-9竈-54	土師器	壺			4.7	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	123	13	SI47	J09/41,46,48	土師器	壺		7.4	6.0	10	褐	黒褐				器面荒れ顕著、二次焼成
12	124	1	SI48	J10/7,18,21,52	須恵器	杯	11.2		4.2	30	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り	

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
12	124	2	SI48	J10/24	土師器	杯	13.4		3.6	50	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内面黒色処理
12	124	3	SI48	J10/41	土師器	杯	14.0		3.6	10	褐	褐	ヘラ削り・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	124	4	SI48	J10/15	土師器	杯			3.7	20	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		内面黒色処理か
12	124	5	SI48	J10/17,24	土師器	杯	12.6		4.2	20	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		器面荒れ
12	124	6	SI48	J10/20,39	土師器	高杯		11.6	7.1	50	赤褐	赤褐	ミガキ・ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		
12	124	7	SI48	J10/10	土師器	手捏ね	4.4		2.8	100	褐	褐	ナデ	ナデ		
12	124	8	SI48	J10/20,27	土師器	杯			4.4	10	褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	125	9	SI48	J10/28	土師器	甕	20.4		10.4	30	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		二次焼成
12	125	10	SI48	J10/29,30,36	土師器	鉢	12.8		7.7	50	黒	黒	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	125	11	SI48	J10/24,29,30	土師器	甕	17.0		20.2	30	黒褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		二次焼成
12	125	12	SI48	J10/29,ｱﾒｲ3	土師器	壺	18.2		19.7	30	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
12	125	13	SI48	J10/27,68,ｱ?	土師器	壺	14.3		5.5	10	褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	125	14	SI48	J10/40	土師器	壺	10.8		3.6	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	125	15	SI48	J10/28,38	土師器	甕	15.8		2.6	10	橙褐	橙褐	ヨコナデ	ヨコナデ		
12	125	16	SI48	J10/13	土師器	壺		4.4	2.7	10	褐	黒褐		ヘラ削り		外面器面荒れ
12	125	17	SI48	J10/8,9,26,31	土師器	甕		8.0	2.8	10	黒褐	黒	ナデ	ヘラ削り		
12	125	18	SI48	J10/ｶﾏﾄﾞ-29	土師器	壺		8.3	2.8	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り		
12	126	1	SI49	J12/3	須恵器	甕	11.8		3.4	10	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ		
12	126	2	SI49	J12/49	土師器	杯	12.8		2.5	10	黄褐	黄褐				内外面磨耗、体部外面黒斑
12	126	3	SI49	J12/3	土師器	高杯		14.7	8.1	40	橙褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		裾部外面黒斑
12	127	4	SI49	J12/5,56	土師器	甕		7.2	27.3	50	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り		胴部内外面黒斑・二次焼成
12	127	5	SI49	J12/ｶﾏﾄﾞ-4	土師器	壺	19.4	7.4	31.9	50	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部内外面黒斑・二次焼成
12	128	1	SI50	J14/28	須恵器	杯	10.4	3.7	3.7	20	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り	
12	128	2	SI50	J14/7	土師器	杯	14.9		6.2	100	黒褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	128	3	SI50	J14/6	土師器	杯	14.2		6.8	40	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体部内外面黒斑
12	128	4	SI50	J14/15	土師器	杯	11.4		4.8	90	黒	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		内面黒色処理か
12	128	5	SI50	J14/32	土師器	杯	9.0		4.5	90	黒褐	黒	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	128	6	SI50	J14/6	土師器	杯	15.0		3.4	10	黒	黒				内外面器面荒れ
12	128	7	SI50	J14/9	土師器	杯	14.0		3.1	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	128	8	SI50	J14/9	土師器	杯	13.0		3.1	100	橙褐	橙褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	128	9	SI50	J14/33,34	土師器	杯	12.7		3.4	70	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ		体部内外面黒斑
12	128	10	SI50	J14/5,28	土師器	杯	14.5		4.2	10	黒	黒	ヨコナデ			外面器面荒れ
12	128	11	SI50	J14/27	土師器	杯	14.8		3.3	10	黒褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	128	12	SI50	J14/竈1	土師器	鉢	11.9		7.0	90	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		体部～底部外面黒斑、二次焼成
12	128	13	SI50	J14/18	土師器	杯	11.6		5.7	80	黒褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
12	129	14	SI50	J14/17	土師器	杯	13.0		5.7	90	黄褐	黄褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体部～底部外面黒斑
12	129	15	SI50	J14/20	土師器	杯	14.0		4.7	90	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体部外面黒斑、二次焼成
12	129	16	SI50	J14/27	土師器	杯	11.1		4.8	10	褐	黒	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		外面黒斑
12	129	17	SI50	J14/6,8	土師器	高杯	15.8	9.5	9.7	80	褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ・ヘラナデ(ヘラ痕)		杯部内面黒色処理か
12	129	18	SI50	J16/12	土師器	高杯			10.3	70	黄褐	黄褐	ミガキ？・ナデ	ナデ		内外器面荒れ,脚巻、内面黒色処理か、外面口縁＋脚裾部黒斑
12	129	19	SI50	J14/11	土師器	小型甕		6.9	14.5	80			ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部内外面黒斑、二次焼成
12	129	20	SI50	J14/3,27	土師器	鉢	11.4	7.4	11.2	40	黒褐	褐	ナデ	ナデ		二次焼成
12	129	21	SI50	J14/18,26,30	土師器	鉢		6.6	8.6	20	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	129	22	SI50	J14/22,28	土師器	壺	10.8		4.0	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
12	129	1	SI51	J15/4,9	土師器	高杯	15.6		6.4	20	黒	黒	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	129	2	SI51	J15/8,11	土師器	壺	22.8		9.5	10	褐	黒	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		外面黒斑
12	130	1	SI52	J16/99,11	須恵器	杯	13.0		4.9	50	褐	黒	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	130	2	SI52	J16/170	土師器	杯	13.6		5.2	90	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		体部外面黒斑,口縁～内外面赤彩
12	130	3	SI52	J16/61	土師器	杯	13.8		4.7	80	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外器面磨耗、二次焼成,内外面赤彩
12	130	4	SI52	J16/102	土師器	杯	13.9		5.2	90	黄褐	黄褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		内外器面磨耗、内外面赤彩
12	130	5	SI52	J16/177,?	土師器	杯	13.2		4.7	30	褐	褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		器面荒れ,体部外面黒斑,内外面赤彩
12	130	6	SI52	J16/177	土師器	杯	14.0		3.9	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成,内外面口縁赤彩
12	130	7	SI52	J16/71	土師器	杯	12.0		5.3	100	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		内外器面磨耗・赤彩痕跡、体部外面黒斑
12	130	8	SI52	J16/69,79,150	土師器	杯	12.4		5.1	70	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成,内外面赤彩
12	130	9	SI52	J16/144	土師器	杯	12.6		4.5	10	黄褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		体部外面黒斑
12	131	10	SI52	J16/155～157	土師器	杯	13.4		4.8	90	橙褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁～内外面赤彩
12	131	11	SI52	J16/100	土師器	杯	6.8		5.4	100	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁内外面黒斑,口縁～内外面赤彩
12	131	12	SI52	J16/128	土師器	杯	12.0		2.9	10	褐	褐		ヘラ削り・ナデ	全面回転ヘラ削り	赤彩剥離
12	131	13	SI52	J16/168	土師器	小型壺	4.8	2.7	6.3	100	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
12	131	14	SI52	J16/135	土師器	鉢	17.3		12.2	80	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体部内外面黒斑
12	131	15	SI52	J16/1	土師器	壺	13.2	7.9	24.6	90	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ		窓付き。胴部外面黒斑
12	131	16	SI52	J16/76,77,86,91	土師器	壺	15.6		26.5	70	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	131	17	SI52	J16/51,56,57,89	土師器	壺	15.6		10.0	20	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	131	18	SI52	J16/145,147,148	土師器	壺	14.7		15.7	30	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
12	131	19	SI52	J16/30	土師器	甕	13.0		5.6	10	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ミガキ・ナデ		口縁内外面赤彩
12	131	20	SI52	J16/90,106,108	土師器	壺	20.6		18.5	30	橙褐	橙褐				二次焼成、内外面荒れ,煤着
12	132	21	SI52	J16/159	土師器	甕	20.0		10.0	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
12	132	22	SI52	J16/62,98,103	土師器	壺	13.5		16.5	50	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		二次焼成
12	132	23	SI52	J16/ｶﾏﾄﾞ 3,59,135,136	土師器	壺			13.1	20	淡橙	淡橙	ナデ・ヘラナデ	ミガキ・ナデ		
12	132	24	SI52	J16/135	土師器	壺		10.3	7.2	10	肌	淡黄褐	ヘラナデ	ミガキ・ナデ		底部外面木葉痕
12	132	25	SI52	J16/33,42,47,53	土師器	甕		6.2	22.0	20	褐	黒褐	ヘラナデ	ヘラ削り		
12	132	26	SI52	J16/26,34,64,134	土師器	壺		6.6	9.0	10	褐	橙褐	ヘラナデ	ヘラ削り		底部木葉痕
12	132	27	SI52	J16/15,140	土師器	壺		8.0	8.0	10	黒褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		
12	132	28	SI52	J16/78,111,ｱﾒｲ1	土師器	壺		5.8	5.5	10	黒褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	133	1	SI53	J18/75	土師器	杯	13.6		6.0	100	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		口縁～体部外面黒斑
12	133	2	SI53	J18/22,69,70,72	土師器	杯	12.9		5.2	60	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		一部二次焼成
12	133	3	SI53	J18/44	土師器	杯	14.8		4.9	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	133	4	SI53	J18/74	土師器	杯	14.3		5.6	70	橙褐	橙褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		体部外面黒斑、二次焼成
12	133	5	SI53	J18/13,51,68	土師器	杯	14.7		4.2	40	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
12	133	6	SI53	J18/19,69	土師器	杯			2.9	10	褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	133	7	SI53	J18/1,32,45,76	土師器	鉢	13.2	6.1	7.2	100	黒褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		底部木葉痕、体部外面黒斑
12	134	8	SI53	J18/17,18,26,27,28,30,46,50,58,67	土師器	甕	26.0	8.9	24.0	60	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部内外面黒斑、二次焼成
12	134	9	SI53	J18/19	土師器	壺	8.0		15.7	30	黒褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑、二次焼成
12	135	1	SI54	J22/22,28～30	土師器	杯	12.0		3.3	20	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁外面黒色物質
12	135	2	SI54	J22/-	土師器	杯	11.8		2.4	10	黒	褐		ヘラ削り		器面内磨耗、内面黒色処理
12	135	3	SI54	J22/58	土師器	杯	13.0		6.9	70	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	135	4	SI54	J22/57	土師器	高杯			5.2	10	黒	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り		杯部内面黒色処理
12	135	5	SI54	J22/56	土師器	手捏ね			3.6	20	赤褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り		二次焼成
12	135	6	SI54	J22/44,45	土師器	甕	16.4	9.9	28.8	80	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ		胴部外面黒斑
12	135	7	SI54	J22/1,3,44,57	土師器	甕	21.0	7.6	23.4	70	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヨコナデ		口唇部黒斑、二次焼成
12	136	1	SI55	J23/54	土師器	壺	7.4	4.0	6.6	100	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部内外面黒斑
12	136	2	SI55	J23/33	土師器	甕		7.0	3.0	10	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		
12	136	3	SI55	J23/	土師器	甕			17.5	20	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
12	137	1	SI56	J24/15,17	土師器	杯	13.6		4.5	20	橙褐	橙褐				内外器面磨耗
12	137	2	SI56	J24/18,19	土師器	高杯	14.2		8.7	30	橙褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
12	137	3	SI56	J24/167ﾒﾒ1	土師器	甕	15.8	6.7	25.0	90	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	137	4	SI56	J24/15,17	土師器	甕	13.4	5.5	21.0	70	褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ・ヘラナデ		胴部外面黒斑、二次焼成
12	137	5	SI56	J24/29,7ﾒﾒ1	土師器	甕	23.6		15.4	30	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		外面黒斑
12	137	6	SI56	J24/5,12,13,18	土師器	甕		5.4	4.9	20	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り		胴部外面黒斑
12	139	1	SI57	J27/59	土師器	杯	13.6		4.9	70	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		底部外面黒斑
12	139	2	SI57	J27/53	土師器	杯	13.6	7.2	4.4	90	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ナデ		外面下位1/3黒斑
12	139	3	SI57	J27/47	土師器	杯	11.6		4.8	60	橙褐	橙褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		外面口縁～底部黒斑
12	139	4	SI57	J27/50	土師器	杯	15.2		6.2	90	赤褐	赤褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	139	5	SI57	J27/45,48	土師器	高杯	13.5		5.7	60	赤褐	赤褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		
12	139	6	SI57	J27/49,51,52	土師器	高杯	15.3	10.9	11.5	80	黄褐	黄褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		裾部内外面黒斑
12	139	7	SI57	J27/63	土師器	鉢	13.2	4.4	10.8	50	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		外面底部黒斑
12	140	8	SI57	J27/55	土師器	甕	14.6	6.7	16.3	90	黄褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	140	9	SI57	J27/54	土師器	甕	15.0	7.4	24.6	90	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
12	140	10	SI57	J27/56	土師器	甕	11.2	6.7	16.0	100	黄褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	140	11	SI57	J27/60	土師器	甕	15.6		20.2	20	赤褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	140	12	SI57	J27/27,58,61	土師器	甕	15.0		20.4	40	黒	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		外面黒色部の割合高
12	140	13	SI57	J27/34～36,38	土師器	甕	15.8		11.4	30	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	140	14	SI57	J27/18,62	土師器	甕		6.6	7.8	30	赤褐	赤褐	ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴下位～底部外面黒斑
12	140	15	SI57	J27/65	土師器	甕		6.0	11.4	50	黄褐	赤褐	ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	141	1	SI58	J32/262,263,303	土師器	杯	13.8		4.1	20	赤褐	黄褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成、器面荒れ
12	141	2	SI58	J32/348	土師器	高杯	12.7		9.1	80	橙褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
12	141	3	SI58	J32/179,281,329	土師器	甕	15.8		5.0	10	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	141	4	SI58	J32/31	土師器	甕	15.8	7.0	29.6	70	褐	褐				器面荒れ剥落、二次焼成
12	142	1	SI59	J02/58	土師器	杯	13.6	6.6	4.2	60	褐	褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	回転糸切り・無調整	
12	142	2	SI59	J02/63,64,80	土師器	杯	12.8	6.0	3.9	50	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	接合部に二次焼成
12	142	3	SI59	J02/40	土師器	杯	13.0	5.4	3.9	60	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	142	4	SI59	J02/41,47	土師器	杯	12.1	6.0	3.7	100	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	142	5	SI59	J02/45	土師器	杯	12.3	6.5	3.8	100	黄褐	黄褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	口縁部内面油煙
12	142	6	SI59	J02/49	土師器	杯		6.8	1.3	10	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	底部外面ヘラ書き「土」
12	142	7	SI59	J02/65,75	土師器	杯	14.4		4.0	10	褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ナデ		
12	142	8	SI59	J02/80,81,84	土師器	甕		10.6	4.1	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
12	142	9	SI59	J02/83,84,94	須恵器	壺	16.1		11.4	10			ナデ	タテタタキ・ヨコナデ		
12	143	10	SI59	J02/5,50,52,54	須恵器	甕	23.2		18.3	20	黒褐	黒褐	ナデ	タタキ・ナデ		
12	143	11	SI59	J02/18,19,24,27	須恵器	甕	19.4		15.4	20	橙褐	橙褐	ナデ	タタキ・ナデ		
12	143	12	SI59	J02/25,31,66,70	須恵器	甕	20.2		15.6	10	灰褐	灰褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	143	13	SI59	J02/12	須恵器	甕	23.2		5.2	10	橙褐	橙褐	ナデ	タタキ・ナデ		
12	143	14	SI59	J02/2,9	須恵器	甕	19.5		7.9	10	褐	褐	ナデ	平行タタキ・ナデ		
12	143	15	SI59	J02/85	須恵器	甕	24.0		8.0	10	橙褐	橙褐	ナデ	平行タタキ・ナデ		
12	143	16	SI59	J02/42～44,50	須恵器	甕		19.0	5.8	20	橙褐	橙褐	ナデ	ヘラ削り		
12	144	1	SI60	J03/43	土師器	杯	13.2	6.4	4.9	90	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	体部内外黒斑
12	144	2	SI60	J03/22	須恵器	甕	22.4		12.5	10	黒褐	黒褐	ナデ	タタキ・ナデ		
12	144	3	SI60	J03/4,8,11,14,15,40	須恵器	甕		15.6	12.7	20			ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	146	1	SI62	J06/1	土師器	甕	15.4		6.6	10	黒褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	126	1	SI63	J11/12,18,86,97	土師器	杯	13.2	4.4	4.3	50	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・外周手持ちヘラ削り	
12	126	2	SI63	J11/1	土師器	杯	11.7	7.0	3.0	20	褐	褐	ナデ	ナデ	手持ちヘラ削り	体部外面黒斑
12	126	3	SI63	J11/19,20	土師器	杯	11.4		2.8	10	赤褐	赤褐	ナデ	ナデ		
12	126	4	SI63	J11/46,49	土師器	杯		6.0	2.5	10	黒	黒	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	台付？
12	147	1	SI65	J17/92	灰釉陶器	高台付杯		9.0	3.9	10			ナデ	ナデ	回転糸切り	胴部外面黒斑
12	147	2	SI65	J17/108	土師器	杯	12.6	5.4	3.5	40	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	147	3	SI65	J17/76,118	土師器	甕	15.0		4.8	10	暗黄褐	暗黄褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
12	147	4	SI65	J17/119	土師器	甑		16.4	4.5	10	褐	灰褐	ナデ	ヘラ削り		
12	148	1	SI66	J19/27,J-20-2	土師器	杯	14.8		4.3	10	黒褐	褐	ミガキ・ナデ	ナデ		内面黒色処理か
12	148	2	SI66	J19/27,J-20-2	土師器	甕	23.2		5.4	10	黒褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
12	148	1	SI67	J20/1,7,J-19-27	土師器	杯	12.2	6.3	3.7	20	黄褐	黄褐	ナデ	ナデ	回転糸切り	
12	149	1	SI68	J21/2	灰釉	皿	14.0	6.4	2.8	50	灰白	灰白	ナデ	ナデ	回転糸切り	口縁～体部内外面灰釉
12	149	2	SI68	J21/竈1	土師器	杯	12.5	6.2	4.2	100	黄褐	黄褐	ナデ	ナデ	回転糸切り	体部外面黒斑
12	150	1	SI69	J26/15,16,32,38	土師器	甕	19.3		12.7	20	黒褐	褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		胴部外面黒斑
12	150	2	SI69	J26/35,42	土師器	甕	20.8		5.4	10	赤褐	赤褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁部内外黒斑、二次焼成
12	150	3	SI69	J26/16	土師器	甕	18.5		5.6	10	褐	褐	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		
12	150	4	SI69	J26/33,59	土師器	壺		10.2	5.7	10	褐	褐	ヘラナデ	ヘラ削り		
12	150	5	SI69	J26/137ﾒﾒ1	土師器	甕		6.0	4.2	10	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	150	6	SI69	J26/1,16,44,51	土師器	甑	35.0	16.4	31.2	10	黒褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	151	1	SI71	J30/1	土師器	杯	13.0		3.6	20	褐	褐	ナデ	ナデ		底面残存少
12	151	2	SI71	J30/3	土師器	杯		6.0	2.8	10	黄褐	黄褐	ナデ	手持ちヘラ削り	回転糸切り・無調整	
12	151	3	SI71	J30/2	土師器	壺		6.0	4.4	10	黒	褐	ナデ	ヘラ削り		
12	151	1	SI72	J31/31,32,37,54	土師器	杯	12.2	6.3	4.1	60	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	体部外面黒斑

地点	第図	No.	遺構	注記	器種	器形	口径	底径	器高	遺存%	色調内面	色調外面	調整内面	調整外面	ロクロ整形・調整	備考
12	151	2	SI72	J31/29,73	土師器	杯	12.7	5.6	3.8	40	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	151	3	SI72	J31/287メイ2	土師器	杯	12.4	5.1	4.1	20	褐	黄褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	手持ちヘラ削り	
12	151	4	SI72	J31/25,38	土師器	杯	14.4		2.9	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
12	151	5	SI72	J31/42	土師器	杯		5.2	1.5	10	褐	褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	全面手持ちヘラ削り	
12	151	6	SI72	J31/44	土師器	杯		5.3	1.9	10	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	151	7	SI72	J31/55,39	土師器	杯	14.9	7.7	5.1	90	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・外ナデ	
12	151	8	SI72	J31/6,15	土師器	高台付杯	13.8	7.6	5.0	10	褐	褐	ナデ	ナデ	ナデ	
12	151	9	SI72	J31/19,23,24	土師器	甕	19.5		13.2	20	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	152	1	SI73	J33/9,23	灰釉	高台付皿	14.0	6.9	2.9	40	灰白	灰白	ナデ	ナデ	回転糸切り・周縁部ナデ	口縁～体部内外面灰釉
12	152	2	SI73	J33/20	土師器	杯	12.5	5.6	3.7	80	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	152	3	SI73	J33/11,16,17,39	土師器	杯	14.5		4.1	10	褐	褐	ナデ	ナデ		二次焼成
12	152	4	SI73	J33/4	土師器	台付杯	13.4	9.0	6.0	40	褐	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	回転糸切り・周縁部ナデ	体部外面黒斑
12	153	1	SK69	D4/17	土師器	杯	10.8	6.0	3.4	10	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	153	2	SK69	D4/2～5,8,11	土師器	甕	20.3		13.3	30	赤褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	153	1	SK70	D1/2	土師器	杯	16.0		4.9	10	黒	橙褐	ナデ	体部下回転ヘラ削り・ナデ		墨書？、口唇内外面黒色処理
12	153	2	SK70	D1/2	土師器	甕	18.5		4.3	10	橙褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	153	3	SK70	D1/2	土師器	甕		8.6	9.9	20	黄褐	黄褐	ヘラナデ	ヘラ削り	回転糸切り・無調整	
12	153	1	SK71	D2/3,21	土師器	杯	12.8	6.0	3.9	90	赤褐	赤褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	153	2	SK71	D2/10	土師器	杯	12.1	5.2	4.3	90	赤褐	赤褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	153	3	SK71	D2/4	土師器	甕		8.0	4.1	10	黄褐	黄褐	ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
12	155	1	遺構外	J17/47,53,55	土師器	杯	14.0		3.1	20	橙褐	橙褐	ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ		二次焼成
12	155	2	遺構外	C2/001	須恵器	杯	12.0		2.8	10	灰	灰	ナデ	ナデ		
12	155	3	遺構外	C2/001	須恵器	杯	11.8		2.6	10	灰	灰	ナデ	ナデ		
12	155	4	遺構外	C6/001	須恵器	杯	9.4		2.8	10	灰	灰	ナデ	ナデ		
12	155	5	遺構外	D5/23-1	土師器	手捏ね	11.2	10.4	3.8	20	褐	褐	ナデ	ナデ		底部に木葉痕あり
12	155	6	遺構外	B4/(ナシ)	土師器	高杯			5.6	10	杯-黒、脚-黒褐	褐	ミガキ・ヘラナデ	ヘラナデ		
12	155	7	遺構外	C5/98-1	土師器	高杯			5.1	10	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラナデ		
12	155	8	遺構外	D5/1	須恵器	坩	6.0		3.9	10	灰	黒灰	ナデ	ナデ		
12	155	9	遺構外	J17/29	土師器	甕	16.6		6.0	10	黄褐	黄褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		
12	156	10	遺構外	J32/41,49,53,152	灰釉	高台付杯	14.1	6.5	4.8	70	灰	灰	ナデ	ナデ	回転糸切り・周縁部ナデ	口縁～体部内外面灰釉
12	156	11	遺構外	J32/305	土師器	杯	10.9	5.2	3.8	100	褐	褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	静止糸切り・無調整	二次焼成
12	156	12	遺構外	J18/3	土師器	杯	12.6	5.6	4.0	60	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	内外面黒斑
12	156	13	遺構外	J18/57	土師器	杯	11.6	5.6	4.3	70	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	156	14	遺構外	J32/311,フメイ2	土師器	杯	12.4	5.6	3.9	90	褐	褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	156	15	遺構外	J27/1,10,14,15	土師器	杯	13.1	5.5	3.9	80	橙褐	橙褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	156	16	遺構外	J18/69	土師器	杯	11.4	6.0	3.6	10	褐	褐	ナデ	ナデ	手持ちヘラ削り	
12	156	17	遺構外	C5/92-1	土師器	杯	10.9		3.9	10	黒褐	褐	ナデ	ナデ		
12	156	18	遺構外	C2/18,19,23	土師器	杯	12.3		3.0	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
12	156	19	遺構外	C5/82-1	土師器	杯	11.8		2.6	10	褐	褐	ナデ	ナデ		
12	156	20	遺構外	J18/52,54	土師器	杯		5.8	3.3	20	橙褐	黒	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	体～底部黒斑、二次焼成
12	156	21	遺構外	J18/60	土師器	杯		5.4	3.2	30	赤褐	赤褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	
12	156	22	遺構外	J18/1,56	土師器	杯	13.6	6.4	5.0	40	黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	外面黒斑、二次焼成、内面黒色処理
12	156	23	遺構外	C5/82-1	土師器	杯	12.0		3.8	10	黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ		内面黒色処理
12	156	24	遺構外	J18/1,27,56,62	土師器	杯	16.2	6.6	5.8	30	黒褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ	手持ちヘラ削り	黒色処理？、二次焼成
12	156	25	遺構外	J18/53	土師器	杯	15.0	6.2	4.7	40	褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ	全面手持ちヘラ削り	体部内外面黒斑
12	156	26	遺構外	J18/40,41,68	土師器	台付杯	14.2		5.1	20			ナデ	ナデ		内外器面荒れ
12	156	27	遺構外	J18/36	土師器	高台付杯			4.7	40	黒	褐	ミガキ・ナデ	ナデ	回転糸切り・周縁部ナデ	杯内部黒色処理
12	156	28	遺構外	J18/37	土師器	台付杯		7.4	2.2	10	黒	褐	ナデ	ナデ	ナデ	高台外面黒斑
12	156	29	遺構外	C4/38-1	土師器	高台付杯			2.3	10	褐	褐	ナデ	ナデ	ナデ	
12	156	30	遺構外	J32/319	須恵器	壺	22.0		6.5	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
12	156	31	遺構外	J32/310	須恵器	壺	21.8		6.5	10	褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ナデ		
12	156	32	遺構外	J32/308,313,354	土師器	甕		8.7	19.5	30	褐	褐	ナデ・ヘラナデ・接合痕	ヘラ削り・ナデ		二次焼成
13	161	1	SI28	J27/14	土師器	杯	13.8		5.8	60	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ミガキ		体部外面黒斑
13	161	2	SI28	J27/15	土師器	杯	14.0		5.6	90	赤褐	褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		内面・口縁～体部外面赤彩
13	161	3	SI28	J27/22,23	土師器	甑	23.0		9.5	40	茶褐	茶褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		胴部外面黒斑
13	161	4	SI28	J27/32,12	土師器	甑		7.0	1.6	10	黒褐	黒褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		外面黒斑
13	161	5	SI28	J27/27	土師器	甕	14.0		5.9	10	暗褐	黒褐	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り・ナデ		口縁外面煤
13	161	6	SI28	J27/28,29	土師器	壺	14.8	8.0	13.7	80	褐	褐	ナデ	ナデ	全面手持ちヘラ削り	口縁部内面胴部外面黒斑
13	162	1	SI74	006/6,4,1	須恵器	杯	12.0		3.1	10	茶褐	茶褐	ナデ	ナデ		体部外面灰釉
13	162	2	SI74	006/2	土師器	杯	14.0		3.4	10	黒褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		口縁内外黒色処理
13	162	3	SI74	006/1	土師器	杯			4.1	40	黒	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		内面黒色処理
13	163	1	SK76	003/12,5	土師器	杯	10.8		3.3	10	赤褐	褐	ナデ	ヘラ削り・ナデ		
13	163	2	SK76	003/11	土師器	杯				10	褐	褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ		内外面黒色処理、底部外面線刻
16	183	1	SM08	塚/1	須恵器	杯			3.0	10	灰	灰	ナデ	回転ヘラ削り・ナデ	回転ヘラ削り	
22	190	1	SI75	3/1	土師器	杯		5.4	2.6	10	黒褐	黒褐	ナデ	ナデ	回転糸切り・無調整	底部内外面黒斑
22	190	2	SI75	3/1	土師器	高杯			3.6	10	褐	褐	ナデ	ナデ・ヘラナデ		
22	190	3	SI75	3/1	土師器	高杯		9.4	5.3	30	橙褐	橙褐	ナデ・ヘラナデ			外面荒れ顕著、二次焼成
26	198	1	SX06	4/6	土師器	杯	14.0		2.7	10	褐	黒褐	ミガキ・ナデ	ヘラ削り・ミガキ・ナデ		
26	198	2	SX06	4/6	土師器	杯		6.6	2.6	10	黒褐	暗褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	手持ちヘラ削り	底部外面黒色物質
26	198	3	SX06	4/6	土師器	杯		8.9	2.5	10	赤褐	赤褐	ナデ	手持ヘラ削り・ナデ	手持ちヘラ削り	内外面赤彩

第20表　中近世陶磁器類

地点	遺構	第図	No.	注記	大別	時期	器種	器形	文様	備考	口径	底径	器高
7	SK15	10	1	20/6, 10	堺		陶器	擂り鉢		擂り目あり	29.8		10.5
7	SK15	10	2	20/10	瀬戸・美濃		陶器	香炉		筒型香炉。三足。飴釉。丸ハ彫り半菊文	10.7	7.5	6.0
7	SK15	10	3	20/10	瀬戸・美濃	17C後～18C前	陶器	徳利		胴部内面以外鉄釉	3.8		12.6
7	SK15	10	4	20/1	肥前		陶器	徳利		唐津肥前系			7.8
7	SK15	10	5	20/1	肥前	18C	染付磁器	猪口	内外面染付		6.8	2.6	4.9
7	SK15	10	6	20/1	肥前	18C	染付磁器	猪口	外面・高台内面染付	端反猪口	6.2	1.5	4.0
7	SK15	10	7	20/1	肥前	18C	染付磁器	猪口	外面・高台内面染付	端反猪口	6.1	2.5	4.8
7	SK15	10	8	20/1	肥前	18C後	染付磁器	蓋	内外面染付	朝顔形碗蓋	9.0		2.1
7	SK15	10	9	20/1	肥前	19C	染付磁器	碗	内外面染付	端反碗	10.8	3.8	5.7
7	SK15	10	10	20/1	瀬戸・美濃	19C	染付磁器	碗	内外面染付	端反碗		4.6	5.6
7	SK15	10	11	20/1	瀬戸・美濃	19C	染付磁器	碗	内外面染付	端反碗	8.7	3.4	4.6
7	SK15	10	12	20/1	肥前	18C	染付磁器	皿	内外面・高台内面染付	小皿。高台端部砂付着。厚手U字高台皿	13.3	8.3	4.8
7	SK15	10	13	20/1	肥前	18C	染付磁器	皿	内外面・高台内面染付	小皿。銘「萬暦年製」	11.2	5.6	2.1
7	SK15	10	14	20/1	肥前	19C前	染付磁器	鉢	内外面染付	八角鉢	13.0	6.6	6.7
7	SK15	10	15	20/1	肥前	19C	青磁	鉢	浮き彫り	口縁輪花型	17.5	7.4	7.4
7	SK15	11	16	20/1	肥前		染付磁器	その他	上面染付	水滴。底面布目圧痕?			2.7
7	SK15	11	17	20/10	瓦質土器・土器		土器	鉢		外面・口縁内面施釉。ケズリ出し高台	10.1	8.6	8.6
7	SK15	11	18	20/6	瓦質土器・土器		土器	焜炉		簀受けの内輪もつ	20.6		13.5
7	SE01	11	1	9/1	瀬戸・美濃	18C中/後	陶器	皿		輪禿皿。ケズリ出し高台。高台以外長石釉		7.0	1.6
7	SE01	11	2	9/9	瀬戸・美濃	18C前	陶器	灯明具		蛇の目高台。底部周辺以外灰釉		7.4	5.1
7	SE01	11	3	9/10	瀬戸・美濃	18C後	陶器	皿	内面染付・梅文	梅文皿。底部内面呉須・鉄釉施文。付高台。高台以外灰釉	10.4	4.0	4.5
7	SE01	11	4	9/19	肥前	18C後	染付磁器	蓋	内外面・天井部染付		9.6	4.3	2.4
7	SE01	11	5	9/14	肥前	18C	染付磁器	皿	内外面・高台内面染付	小皿。高台端部砂付着。厚手U字高台皿	13.1	7.6	3.7
7	SE01	11	6	9/8	肥前	18C後	染付磁器	碗	内外面染付	広東碗	11.5	5.9	6.6
7	SE01	11	7	9/3	瀬戸・美濃	19C	染付磁器	碗	内外面・高台内面染付	端反碗	10.2	4.4	5.8
7	SE01	11	8	9/5	肥前	18C	染付磁器	鉢	内外面染付	八角鉢		6.4	4.5
7	SE01	12	9	9/17	瓦質土器・土器		土器	焙烙		内外面煤	36.0		6.6
7	SE02	12	1	4/1	瀬戸・美濃	18C後	陶器	片口		高台以外飴釉。ケズリ出し高台。底部内面トチン痕。底内面重ね焼き痕	16.6	8.6	9.5
7	SX10	13	1	24/5	瀬戸・美濃	18C	陶器	片口		内外面飴釉	17.1		6.3
7	SX10	13	2	28/3	肥前		白磁	瓶			2.4		9.2
7	SX10	13	3	28/3	瀬戸・美濃	19C	陶器	蓋	紐に刻み	土瓶蓋。外面のみ施釉。内面煤付着	5.6		3.0
7	SX10	13	4	28/3	肥前		陶器	土瓶		唐津肥前系土瓶。口縁内外面無釉	6.8		5.5
7	SX10	13	5	28/3	瀬戸・美濃	17～18C	陶器	灯明具		底部周辺以外灰釉。体部～底部外面煤付着		7.6	2.7
7	SX10	13	6	29/3	瀬戸・美濃	18C	陶器	碗		腰錆湯呑。灰釉・鉄釉掛け分け	9.3		5.0
7	SX10	13	7	29/11	瀬戸・美濃	17C	陶器	香炉		三足つく。内外面鉄釉?		5.7	1.9
7	SX10	13	8	29/9	瀬戸・美濃		陶器	その他		半胴。ケズリ出し高台		13.0	6.1
7	SX10	13	9	29/9	堺	18C	陶器	擂り鉢		口縁ナデ・体擂り目	33.1		7.9
7	SX10	13	10	29/8	肥前	17C	染付磁器	皿	内外面染付	小皿。見込みに「大（明成）化年（製）」	13.8	6.8	3.0
7	SX10	13	11	29/7	瓦質土器・土器	18～19C	土器	焙烙		外面煤付着	17.2		5.5
7	SX10	13	12	3B/5	瀬戸・美濃	18C	陶器	碗	体部外面呉須絵	御室茶碗。灰釉	9.6		4.2
7	SX10	13	13	Jトレ/5	瀬戸・美濃	16末～17C前	陶器	皿		志野丸皿	10.6	6.4	1.8
7	SX10	13	14	2E/7	瀬戸・美濃	17C	陶器	皿		菊皿。ケズリ出し高台。飴釉		11.0	2.2
7	SX10	13	15	2E, 3D/2E/8, 9, 3D/5	瀬戸・美濃	18～19C	陶器	行平		益子。口縁外面煤付着	13.8		5.8
7	SX10	13	16	3B/5	瀬戸・美濃		陶器	片口		付高台。高台以外灰釉。底部内面トチン痕		10.0	4.4

地点	遺構	第図	No.	注記	大別	時期	器種	器形	文様	備考	口径	底径	器高
7	SX10	13	17	3B/5	瀬戸・美濃	18C後	陶器	鉢		練鉢。削り出し高台。内面トチン痕		13.0	5.5
7	SX10	13	18	3B/5	肥前	19C前?	陶器	鉢		練鉢。内外面施釉		12.2	4.8
7	SX10	13	19	2E, 3F/2E/7, 3F/5	瀬戸・美濃	19C初	陶器	鉢		練鉢。口縁端部折り返し。内外面灰釉	14.8		4.1
7	SX10	13	20	Jトレ/6	瀬戸・美濃	18C後	その他	乗燭		台付。底面回転糸切り無調整。中央に小孔。杯部内外面鉄釉	5.5	4.4	4.3
7	SX10	13	21	2E/7	肥前		陶器	徳利		唐津肥前系		7.6	4.3
7	SX10	13	22	3B/5	瀬戸・美濃	18末～19C初頭	陶器	徳利		外面飴釉	3.5		21.9
7	SX10	13	23	3D/4	堺	19C	陶器	擂り鉢					5.7
7	SX10	13	24	3C, 4C/7	常滑	近世	陶器	甕					7.4
7	SX10	14	25	3B/5	肥前		白磁	皿		紅皿	6.1	2.8	1.6
7	SX10	14	26	3E/6	瀬戸・美濃	19C前	染付磁器	碗	内外面染付	端反椀	11.5		5.3
7	SX10	14	27	3B/8	肥前		染付磁器	徳利	外面染付・蛸唐草文	お神酒徳利		5.2	9.5
7	SX10	14	28	3B/9	肥前	19C	色絵磁器	蓋	外面染付・色絵	段重蓋	12.8		2.6
7	SX10	14	29	Jトレ/6	肥前	19C	染付磁器	蓋	外面染付	段重蓋	11.8		3.2
7	SX10	14	30	Aトレ/1	瓦質土器・土器	18～19C	土器	皿		小皿	8.9	4.6	2.1
7	SX10	14	31	西斜面下/1	瓦質土器・土器	18～19C	土器	皿		小皿	6.1	3.9	1.1
7	SX10	14	32	3B/12	瓦質土器・土器	18～19C	土器	焙烙		内耳。口縁外面煤付着	37.6		5.2
7	SX10	14	33	3C, 4C/2	瓦質土器・土器	18～19C	土器	焙烙		外面煤付着	35.2		5.3
8	SM02	35	2	塚1/29, 43, 44	瀬戸・美濃	18C末	陶器	擂り鉢		内面鉄釉	27.6		4.3
8	SM02	35	3	塚1/23	肥前	18C後	染付磁器	皿	体部内面染付見込	小皿。ケズリ出し高台	12.4	6.0	3.0
8	SM02	35	4	塚1/44	肥前	18C	染付磁器	皿	内外面染付	変形皿。高台部下端以外施釉			
8	SM03	35	7	塚2/4	瀬戸・美濃	18C中	陶器	皿		灯明皿。内面→体部下位煤付着	9.9	7.2	1.6
8	SM03	35	8	塚2/26	瀬戸・美濃	17C前	陶器	皿		輪禿皿。ケズリ出し高台		6.2	1.7
8	SM03	35	9	塚2/10	瀬戸・美濃	18C後	陶器	碗		腰錆茶碗	9.7	5.1	5.9
8	SM03	35	10	塚2/27	瓦質土器・土器		土器	皿		小皿。回転糸切り無調整	7.4	3.7	1.3
8	SM03	35	11	塚2/8	瀬戸・美濃	17C末～18C	陶器	徳利		鉄釉		12.4	13.1
8	SM03	35	12	塚2/7, 17	肥前	18C後	染付磁器	碗	外面・高台内面染付	高台付	10.0	3.9	5.2
9	SK57	85	1	D07/1, 2	瀬戸・美濃	15C後	陶器	皿		古瀬戸小皿。口縁波打つ	11.5	5.0	2.3
9	SD03	85	2	M03/1	瀬戸・美濃	19C前	陶器	碗		小碗。ケズリ出し高台。灰釉。内面黒灰色付着物。	5.2	2.8	3.4
9	SD03	85	3	M03/1	瀬戸・美濃	19C前	陶器	碗		小碗。ケズリ出し高台。灰釉	5.8	2.9	3.4
9	SD03	85	4	M03/1	瀬戸・美濃		陶器	蓋		紐付蓋。無釉。回転糸切り無調整	9.5	4.0	2.0
9	SD03	85	5	M03/2	肥前		陶器	瓶		土瓶。内外面鉄釉。注口剥落	7.8		6.4
9	SD03	85	6	M03/14	瀬戸・美濃		陶器	擂り鉢		回転糸切り未調整。擂り目12本1単位。全面錆釉		9.0	4.9
9	SD03	85	7	M03/M3/2, H3/3/1	常滑	18C	陶器	甕		大甕	41.8		5.7
9	SD03	85	8	M03/1	肥前		染付磁器	蓋	内外面染付		5.3	5.8	3.4
9	SD03	85	9	M03/1	肥前		染付磁器	蓋	内外面染付		8.8	3.5	2.9
9	SD03	85	10	M03/1	肥前	19C前	染付磁器	碗	内外面染付	広東碗		5.2	5.1
9	SD03	85	11	M03/1	肥前		染付磁器	皿	底内面染付	高台部。二次利用痕跡あり		6.1	1.2
9	SD03	85	12	M03/1	肥前	18C後	染付磁器	皿	内外面・高台内面染付	小皿。高台端部砂付着	13.4	8.0	5.0
9	SD03	85	13	M03/36927	瀬戸・美濃	19C	染付磁器	皿	内外面染付	中皿		9.0	1.5
9	SD10	85	14	M06/2	肥前		陶器	皿		紅皿	6.5	3.0	2.8
9	SD10	85	15	M06/14	瀬戸・美濃		陶器	蓋		唐津肥前系行平鍋	5.0		1.7
9	SD10	85	16	M06/13	瀬戸・美濃	18C中	陶器	香炉		筒型香炉。ケズリ込み高台。鉄釉	14.0	10.4	8.8
9	SD10	85	17	M06/4	瀬戸・美濃	19C中	陶器	徳利		貧乏徳利。ケズリ込み高台		6.4	4.5
9	SD10	85	18	M06/4	瀬戸・美濃	19C中	陶器	徳利	鉄絵	畑徳利。灰釉。底面粘土粒		8.4	4.2
9	SD10	85	19	M06/4	瀬戸・美濃		陶器	徳利		ペコかん。外面鉄釉		8.0	9.5
9	SD10	85	20	M06/12	瀬戸・美濃		陶器	徳利		ペコかん		5.4	4.4

地点	遺構	第図	No.	注記	大別	時期	器種	器形	文様	備考	口径	底径	器高
9	SD10	85	21	M06/4	瀬戸・美濃	18C末	陶器	鉢		練鉢or片口。内外面施釉	19.0		10.0
9	SD10	85	22	M06/2	備前		陶器	壺			12.0		3.2
9	SD10	85	23	M06/7	瀬戸・美濃	17C末	陶器	擂り鉢		鉄釉			
9	SD10	86	24	M06/8	瀬戸・美濃		陶器	擂り鉢		回転糸切り。鉄釉		9.0	3.3
9	SD10	86	25	M06/4	肥前	18C後	染付磁器	その他	外面染付	仏飯器。ケズリ出し輪高台	6.5	4.0	5.8
9	SD10	86	26	M06/2	肥前	18C後～19C初	染付磁器	蓋	内外面・つまみ内面染付		9.6	5.3	2.7
9	SD10	86	27	M06/4			染付磁器	蓋	内外面・つまみ内面染付、銘		8.9	3.8	2.5
9	SD10	86	28	M06/2,4,7	肥前		染付磁器	鉢	内外面染付	高台蛇の目釉はぎ	22.6	11.5	7.6
9	SD10	86	29	M06/4	肥前	18C後～19C前	染付磁器	碗	内外面染付・高台内面はなし			4.3	4.4
9	SD10	86	30	M06/7	肥前	18C後	染付磁器	皿	内外面・高台内面染付	小皿	12.6	7.1	3.5
9	SD10	86	31	M06/10	瓦質土器・土器		土器	焙烙			33.0		5.4
9	SD10	86	32	M06/8	瓦質土器・土器		土器	焙烙			42.0		4.5
9	SD11	86	33	M08/5	瀬戸・美濃		陶器	瓶		花瓶		6.5	11.1
9	SD11	86	34	M08/2	瀬戸・美濃	19C前	染付磁器	碗	内外面染付・高台内はなし	端反碗	10.5	3.6	5.7
9	SD11	86	35	M08/2	肥前	18C	染付磁器	皿	内面染付	小皿	13.7	7.1	3.0
9	SD11	87	36	M08/2	瀬戸・美濃		染付磁器	皿	内外面染付	深皿	16.4	9.4	5.6
9	SD15	87	37	M12/2	肥前		色絵磁器	皿				9.0	2.2
9	SD23	87	38	M20/2	肥前	18C	染付磁器	碗	外面染付	厚手碗	9.4	4.2	5.5
9	SD05	87	39	M21/2	肥前	18C前	陶器	碗			9.3	3.4	5.2
9	SD05	87	40	M21/2	瀬戸・美濃	18C	陶器	徳利				9.2	4.4
9	SD05	87	41	M21/2	肥前	18C後	染付磁器	碗	内外面染付	筒型茶碗		3.8	3.5
9	SD05	87	42	M21/2	瀬戸・美濃	19C前	染付磁器	碗	内外面染付	端反碗	10.6	4.3	5.6
9	遺構外	87	43	J5/25	肥前		陶器	土瓶		土瓶	9.0	8.2	8.0
9	SX02	87	44	3F/16/1	堺	18C前	陶器	擂り鉢					
9	SX01	87	45	H3/03/1	瀬戸・美濃	15C末～16C	陶器	擂り鉢				9.2	5.0
9	SX01	87	46	I3,T1/4	瀬戸・美濃		陶器	半胴				20.8	6.0
9	SX01	87	47	H3/04/1	瀬戸・美濃	18C後	染付磁器	蓋	内外面・天井上面染付		9.0	3.0	2.6
9	SX01	87	48	I3,T1/2	肥前	18C後	染付磁器	碗	内外面染付	湯飲み碗	8.8		3.9
9	SX01	87	49	I3,T1/1	肥前	18C	染付磁器	碗	外面・高台内面染付	厚手碗	9.8	4.6	5.3
9	SX01	87	50	I3,T1/2	瀬戸・美濃	19C	染付磁器	碗	内外面染付	端反碗	9.7	4.6	5.9
9	SX01	87	51	I3,T1/1	瀬戸・美濃	19C前	染付磁器	碗	内外面染付	広東碗		6.0	7.5
9	SX01	87	52	I3,T1/4	瀬戸・美濃	19C前	染付磁器	碗	内外面染付	広東碗	9.0	4.4	5.1
9	SX01	87	53	H3/04/1	肥前	18C後	染付磁器	皿	内外面染付	小皿	13.8	8.0	3.0
9	SX01	87	54	H3/04/1	不明		土器	鉢				10.0	7.8
11	SM5(塚)	104	9	A/6	肥前	19C	陶器	蓋		土瓶蓋	7.1	2.5	1.8
11	SM5(塚)	104	10	C/20	瀬戸・美濃	18C	陶器	灯明具		灯明皿	8.4	3.2	1.7
11	SM5(塚)	104	11	A/2	瀬戸・美濃		陶器	皿		脚台付灯明皿	7.3	5.6	5.2
11	SM5(塚)	104	12	周溝/1	瀬戸・美濃		陶器	秉燭				3.6	4.1
11	SM5(塚)	104	13	A/2	瀬戸・美濃	17C末～18C前	陶器	鉢		鉄絵鉢		13.4	2.6
11	SM5(塚)	104	14	C/22	瀬戸・美濃	18C後	陶器	徳利				7.3	8.5
11	SM5(塚)	104	15	C/22,43	瀬戸・美濃	18C前	陶器	鉢		練鉢	15.4		3.8
11	SM5(塚)	104	16	A/9	常滑	中世	陶器	甕		甕底部		13.1	4.6
11	SM5(塚)	104	17	C/21,38	瀬戸・美濃	19C前	陶器	擂り鉢					
11	SM5(塚)	104	18	B/3	不明	19C	陶器	擂り鉢		益子?		13.0	4.4
11	SM5(塚)	104	19	A/2	肥前	19C	染付磁器	碗	内外面染付	端反碗	10.9	4.3	5.9
11	SM5(塚)	104	20	A/9	瓦質土器・土器		土器	皿		小皿	7.0	3.7	1.1
11	SM5(塚)	104	21	B/2,5	瓦質土器・土器		土器	焙烙			36.1		5.5
12	遺構外	158	1	D5/	瀬戸・美濃	18C後	陶器	鉢		練鉢	14.2	8.1	5.6
12	遺構外	158	2	D5/	不明		陶器	擂り鉢		益子？			5.5
12	遺構外	158	3	D5/	肥前		染付磁器	皿	口縁内面染付	小皿	13.7	7.6	3.2
12	遺構外	158	4	C4/36/1	堺	18C前	陶器	擂り鉢					9.1
12	遺構外	158	5	C5/04/1	瓦質土器・土器		瓦質土器	鉢		火鉢	16.2		4.1
12	遺構外	158	6	C5/26/1	瓦質土器・土器		土器	皿			4.3	3.2	0.7

地点	遺構	第図	No.	注記	大別	時期	器種	器形	文様	備考	口径	底径	器高
12	遺構外	158	7	J26/52	瓦質土器・土器		土器	皿			3.9	3.0	0.8
13	SK76	163	3	003/5	常滑	13C前	陶器	鉢		片口鉢底部		13.6	6.1
13	遺構外	164	1	F4/2	常滑	中世	陶器	鉢		片口鉢			
13	遺構外	164	2	E3/1/1	常滑	中世	陶器	甕		甕底部			
13	遺構外	164	3	C2/2	常滑	中世	陶器	甕					
13	遺構外	164	4	C2/2	瓦質土器・土器		土器	焙烙			34.2		6.1
15	SX03-L	174	1	中トレ/1,6	肥前		青磁	香炉			8.2	6.2	6.5
15	SX03-L	174	2	中トレ/1	瀬戸・美濃	17C中	陶器	皿		志野丸皿	11.0	6.2	2.3
15	SX03-L	174	3	H8/11/20	瀬戸・美濃	17C後	陶器	皿		菊皿		6.2	1.7
15	SX03-L	174	4	H8/11/13	瀬戸・美濃		陶器	瓶		花瓶	5.2		7.2
15	SX03-L	174	5	H8/11/18	瀬戸・美濃		陶器	香炉			14.6	8.7	18.9
15	SX03-L	174	6	H8/11/16	瀬戸・美濃	18C	陶器	瓶		花瓶	15.9	9.4	2.1
15	SX03-L	174	7	H8/12/1,2,4,27	瀬戸・美濃	17C前	陶器	皿		輪禿皿	12.3	5.8	2.9
15	SX03-L	174	8	H8/14/1	瓦質土器・土器		土器	皿			10.2	5.8	1.7
15	SX03-L	174	9	H8/15/2	瀬戸・美濃	17C末	陶器	皿		丸皿。灰釉	11.4	7.2	2.5
15	SX03-L	174	10	I面/6	瀬戸・美濃	17C前	陶器	皿		輪禿皿	13.3	5.9	2.9
15	SX03-L	174	11	H8/21/10,14	瓦質土器・土器		土器	焙烙			35.8		4.4
15	SX03-L	174	12	H8/21/3,I面/31	瀬戸・美濃	17C後	陶器	皿		菊皿			
15	SX03-L	174	13	H8/21/5,H8/22/1,/I面/31	瓦質土器・土器		土器	皿			11.9	6.2	1.9
15	SX03-L	174	14	I面/28,29	瀬戸・美濃	17C中	陶器	皿		志野丸皿	11.2	6.6	1.7
15	SX03-L	174	15	H8/22/24	肥前	17C後～18C前	陶器	皿		輪禿皿。青緑釉		4.2	1.7
15	SX03-L	174	16	H8/22/8	常滑	14C～15C	陶器	鉢		片口鉢底		15.0	5.6
15	SX03-L	174	17	H8/22/20							31.6		5.2
15	SX03-L	174	18	I面/30	瀬戸・美濃	17C前	陶器	碗		志野丸碗	12.8		6.6
15	SX03-L	174	19	H8/22/18	瓦質土器・土器		土器	焙烙			40.0		4.1
15	SX03-L	174	20	中トレ/11	瀬戸・美濃	17C	陶器	擂り鉢			32.0		7.3
15	SX03-L	174	21	中トレ/13	肥前	17C後～18C中	陶器	皿		大皿。三島手			4.9
15	SX03-L	174	22	中トレ/6	肥前	17C末～18C前	陶器	碗		御室茶碗	8.9	4.5	5.5
15	SX03-L	174	23	中トレ/18	瓦質土器・土器		土器	皿			8.2	5.4	1.3
15	SX03-L	174	24	中トレ/12,14,15	瀬戸・美濃	18C	陶器	皿		灯明皿	10.2	6.8	1.8
15	SX03-L	175	25	H8/35/1	瀬戸・美濃	19C	陶器	徳利					
15	SX03-L	175	26	H8/35/1	堺	19C前	陶器	擂り鉢					
15	SX03-L	175	27	H8/35/1	肥前	18C末～19C前	青磁	碗				5.4	3.6
15	SX03-L	175	28	H8/44/2	肥前	17C末～18C前	陶器	碗		刷毛目碗		4.1	4.1
15	SX03-L	175	29	H8/45/6	瀬戸・美濃	18C	陶器	皿		灯明受皿	7.6	3.2	1.3
15	SX03-L	175	30	中トレ/6	肥前		陶器	皿		大皿			
15	SX03-L	175	31	中トレ/19	瀬戸・美濃		陶器	擂り鉢				12.4	10.0
15	SX03-L	175	32	中トレ/6	肥前	18C	染付磁器	皿	外面・底外染付		9.4	3.9	5.5
15	SX03-L	175	33	中トレ/6	瀬戸・美濃	18C前	陶器	香炉				8.9	4.7
15	SX03-L	175	34	中トレ/6	瀬戸・美濃	18C初	陶器	香炉				9.0	4.3
15	SX03-L	175	35	下段整地面/1	肥前	18C	染付磁器	皿	外面染付	一括取上げ	10.8	4.2	6.3
15	SX03-L	175	36	I面/31	瀬戸・美濃		陶器	徳利		一括取上げ	3.2		3.9
15	SX03-L	175	37	I面/1	肥前	18C後	染付磁器	皿	内外面染付	小皿,一括取上げ	12.8	8.0	3.3
15	SX03-L	175	38	I面/31	肥前	18C後	染付磁器	皿	内外面染付	小皿,一括取上げ	12.8	7.8	3.2
15	SX03-L	175	39	I面/25	瓦質土器・土器		土器	七輪		多孔盤壮			
15	SX03-L	175	40	I面/31	肥前		染付磁器	その他	杯外面染付	仏飯器		3.6	5.1
15	SX03-L	175	41	I面/1	常滑	15C後	陶器	甕		甕口縁			
15	SX03-L	175	42	I面/30	瓦質土器・土器		土器	焙烙			32.8	25.5	4.9
15	SX03-L	175	43	I面/1	瓦質土器・土器		土器	皿		小皿	4.2	3.4	0.6

地点	遺構	第図	No.	注記	大別	時期	器種	器形	文様	備考	口径	底径	器高
15	SX03-L	175	44	H8/37/4	堺	18C初	陶器	擂り鉢			32.4	14.5	12.5
15	SX03-L	175	45	H8/36/2	瀬戸・美濃	17C	陶器	擂り鉢		すり鉢口縁			
15	SX03-L	175	46	H8/46/1	瀬戸・美濃	18C	陶器	皿		灯明油皿	7.9	2.9	2.1
15	SX03-L	175	47	H8/47/2	瀬戸・美濃		陶器	鉢		練鉢		6.3	5.7
15	SX03-L	176	48	H8/47/9	堺	18C後	陶器	擂り鉢			36.0		7.5
15	SX03-L	176	49	H8/75/1, H8/85/19, 35	肥前	17C	色絵磁器	瓶		小瓶		5.4	4.0
15	SX03-L	176	50	H8/76/33	瀬戸・美濃	19C	陶器	徳利				5.3	5.8
15	SX03-L	176	51	H8/76/34, 44	瀬戸・美濃	18C後	陶器	片口			12.8	6.6	8.4
15	SX03-L	176	52	H8/95/86	肥前		陶器	香炉			9.7	5.2	6.2
15	SX03-L	176	53	/3, H8/95/1	肥前		染付磁器	向付	外面染付		11.3	6.8	7.6
15	SX03-U	176	54	上段整地面/1	常滑	14C前	陶器	鉢		片口鉢			
15	SM07	176	55	H8/86/43	肥前	18C	染付磁器	碗	外面・底外染付		10.8	4.2	6.2
15	SM07	176	56	H8/86/45	瀬戸・美濃	17C末～18C前	陶器	碗		御室茶碗	9.6	4.4	7.0
15	SM07	176	57	H8/95/30, 32, 35	肥前	17C後～18C前	陶器	皿		輪禿皿。透明釉	12.0	4.6	3.4
15	SD42	180	1	/024	肥前	17C後	染付磁器	皿		輪禿皿	11.8	4.2	3.1
15	SD42	180	2	/1	瀬戸・美濃	19C	染付磁器	碗	内外面染付・高台内はなし	広東碗	11.8	6.4	7.0
15	SD42	180	3	/2	肥前	18C後	染付磁器	碗	内外面染付	小広東碗	9.0	3.3	4.7
15	SD42	180	4	/28, 29	瀬戸・美濃	18C後	陶器	片口			13.5	7.5	9.7
15	SD42	180	5	/31	肥前	18C後	染付磁器	碗	内面染付	筒型茶碗		4.2	6.3
15	SD42	180	6	/13	瓦質土器・土器		土器	皿		小皿	8.1	3.9	1.3
15	SD42	180	7	/14	瓦質土器・土器		土器	皿		小皿	4.7	2.6	1.0
15	SD42	180	8	/37	瀬戸・美濃		陶器	洗			23.8	9.6	5.2
15	SD42	180	9	/10, 11.16	瓦質土器・土器		土器	焙烙			35.0		4.7
15	遺構外	181	1	不明/22	瀬戸・美濃	18C後	陶器	碗		腰錆茶碗	9.3	4.5	5.7
15	遺構外	181	2	盛/31	瀬戸・美濃	18C	染付磁器	碗	内外面染付・高台内はなし	広東碗	12.4	6.2	6.4
16	遺構外	185	1	H9/19/1	常滑	15C前	陶器	鉢		片口鉢			
16	遺構外	185	2	H9/19/1	瓦質土器・土器		土器	灯明具			6.2	3.1	2.4
16	遺構外	185	3	表採/1	瓦質土器・土器	14C～15C	土器	皿			13.2	6.0	3.1
26	SD50	199	1	001/1	瀬戸・美濃	15C中～後	陶器	皿		古瀬戸後期緑釉皿		5.4	1.1
28	SD55	205	1	SD11/1	肥前		陶器	釜		釜底		10.8	2.3
28	SD55	205	2	SD11/1	肥前		陶器	土瓶		土瓶底		10.6	1.6
28	SD55	205	3	SD11/1	堺		陶器	擂り鉢				15.0	3.6
28	SD55	205	4	SD11/1	瓦質土器・土器		土器	皿		小皿	4.2	3.0	0.7
28	SD55	205	5	SD11/1	瀬戸・美濃	19C前	染付磁器	碗	内外面染付	端反碗	10.5	4.5	5.6
28	SD55	205	6	SD11/1	肥前	18C後	染付磁器	皿	内外面染付	小皿	13.0	7.6	3.7
28	SD56	205	1	L28, SD12/1	肥前		染付磁器	その他		四足盤			
28	SD56	205	2	SD12/1	肥前		陶器	蓋			11.4	8.6	3.3
28	SD52	206	1	SD2/1	肥前		染付磁器	向付	外面染付		15.8		5.3
28	SD52	206	2	SD2/1	肥前	18C後	染付磁器	碗	内外面染付	筒型茶碗		3.5	1.5
28	SD59	207	1	SD20/3~6, 8~10, 12~15, 17, 18, 21	その他			皿			14.0	6.3	3.7
28	遺構外	208	1	G11/63/1	瀬戸・美濃	18C前	陶器	徳利				6.8	14.5
28	遺構外	208	2	G10/82/2	肥前		陶器	灯明具		脚台付灯明皿		4.6	5.4
28	遺構外	208	3	G11/30/5	不明		陶器	鉢		練鉢		10.6	2.8
28	遺構外	208	4	G10/82/2	瓦質土器・土器		土器	焙烙			34.0		4.6

第21表　古代の土製品

地点	第図	No.	遺構	器種	注記	備考	長or高	幅	厚さ	径	重さ	孔径
7	7	6	SK04	土玉	010/274						5.3	0.5
8	18	15	SI01	支脚	003/16	基部欠損	14.3					
8	18	16	SI01	支脚	003/12	基部欠損	13.1					
8	18	17	SI01	土製勾玉	003/13		1.8	1.3	0.9		1.5	
8	18	18	SI01	土玉	003/5		3.0			3.2	29.6	0.7
8	21	17	SI03	支脚	005/23	基部欠損。側面面取り	12.4					
8	25	15	SI05	支脚	010/27	側面面取り	17.8					
8	30	7	SI10	羽口	009/59, 63					7.9		2.4
8	30	8	SI10	土玉	009/56		2.9			2.8	18.5	0.2
9	48	6	SI14	支脚	J2/23	小片						
9	50	20	SI15	羽口	J3/160, 163	細型。一端欠損				4.7		1.5
9	50	21	SI15	羽口	J3/132, 136	細型。一端欠損				3.8		0.9
9	50	22	SI15	羽口	J3/39	細型。小片						
9	50	23	SI15	土製小玉	J3/1		1.2			1.2	1.2	0.2
9	54	9	SI17	不明土製品	J7/113	勾玉状	3.7		1.7		6.9	
9	58	38	SI18	支脚	J10/119	完形	21.2			10.0		
9	58	39	SI18	土玉	J10/93		3.1			3.2	29.8	0.5
9	58	40	SI18	土製小玉	J10/2		0.9			0.9	0.9	0.1
9	62	19	SI21	支脚	J14/18	頭部片						
9	66	26	SI24	土玉	J20/5		3.0			3.1	28.7	0.3
9	66	27	SI24	土玉	J20/121		2.7			2.8	20.5	0.4
9	66	28	SI24	支脚	J20/122	頭部片						
9	66	29	SI24	紡錘車	J20/99	小径4.0	3.0			5.3	88.6	0.3
9	67	2	SI25	管状土錘	J23/3		3.7			2.0	9.6	0.6
9	69	11	SI30	羽口	J6/1	小片						
9	70	2	SI31	支脚	J8/3	両端欠損				6.2		
9	70	3	SI31	支脚	J8/30	両端欠損				6.0		
9	71	1	SI35	羽口	J22/27	小片						
9	71	2	SI35	羽口	J22/21	小片。先端溶解						
9	71	3	SI35	羽口	J22/28	小片						
9	72	7	SI37	土玉	J25/30		2.8			2.9	21.0	0.4
12	116	10	SI44	土玉	J05/58		3.6			3.8		0.8
12	123	14	SI47	支脚	J9/44		15.6	7.3				
12	123	15	SI47	土玉	J09/66		2.5			3.3		
12	124	7	SI48	手捏ね土器	J10/10	内外面ナデ。外面指頭痕, 底面接合痕	2.9	4.6				
12	125	19	SI48	支脚	J10/23	基部破片						
12	126	6	SI49	支脚	J12/2	基部欠損	18.5			7.0		
12	126	6	SI63	羽口	J11/17	先端部破片。先端溶解				7.4		2.7
12	129	23	SI50	支脚	J14/31	完形。側面・底面籾痕。側面爪圧痕。二次焼成なし	15.0			10.2		
12	129	24	SI50	支脚	J14/10	完形。二次焼成なし	15.5			10.7		
12	129	25	SI50	支脚	J14/14	完形。側面・底面籾痕。二次焼成なし	15.9			10.1		
12	129	26	SI50	支脚	J14/2	完形。胎土中に数センチの空胴多。二次焼成なし	16.8			10.5		
12	129	27	SI50	支脚	J14/28	頭部小破片。二次焼成あり						
12	129	28	SI50	支脚	J14/13	頭部破片。二次焼成あり	11.8					
12	134	10	SI53	土玉	J18/65		3.4			3.4		0.8
12	134	11	SI53	土玉	J18/23		3.4			3.6		0.8
12	134	12	SI53	土製小玉	J18/8		1.4			1.1		0.1
12	135	5	SI54	手捏ね土器	J22/56	中位に接合痕。内面赤色顔料有	3.6			6.4		
12	135	8	SI54	土玉	J22/60		3.1			3.9		0.6
12	136	5	SI55	土玉	J23/40		3.2			3.7		
12	145	1	SI61	羽口	J4/9	細型。側面ほぼ全面に炉壁状付着物	12.8			4.0		0.7
12	153	3	SK69	羽口	D4/15	先端溶解, 一部還元	16.8			7.9		2.1
12	153	4	SK70	紡錘車	D-1/1		2.1			5.3		7.2
12	155	5	遺構外	手捏ね土器	D-5/1	底部木葉痕。内外面ナデ	3.8			11.2		
12	—	—	SI48	焼粘土塊	J10/37	棒状粘土に捻り						
13	161	7	SI28	土玉	J27/17		2.9			3.3	25.6	0.5
13	161	8	SI28	土玉	J27/31	小型	1.9			2.0	6.5	0.5
13	161	9	SI28	土玉	J27/30	小型	1.8			2.0	6.2	0.5
13	161	10	SI28	土玉	J27/2	小型	1.9			1.9	6.7	0.4
13	161	11	SI28	土玉	J27/9	小型	1.5			1.8	3.7	0.3
13	161	12	SI28	土玉	J27/10	小型	1.6			1.8	3.7	0.4

第22表　古代の石製品

地点	第図	No.	遺構	器種	注記	備考	長or高	幅	厚さ	径	重さ	孔径
7	7	5	SK04	砥石	010/15	1面使用						
8	25	16	SI05	軽石	J-10/4							
9	52	14	SI16	砥石	J4/48	4面使用						
9	52	15	SI16	砥石	J4/49	4面使用,穿孔						
9	58	41	SI18	不明石製品	J10/	一面人為的な摩滅						
9	74	6	SM04	丸玉	1号墳/34		0.8			1.0	1.1	0.3
9	74	7	SM04	丸玉	1号墳/34		0.8			1.0	0.9	0.2
9	74	8	SM04	丸玉	1号墳/34		0.8			1.1	1.2	0.3
9	74	9	SM04	丸玉	1号墳/34		0.7			0.9	0.2	0.2
9	74	10	SM04	丸玉	1号墳/34	孔2	1.1			1.1	0.9	0.1
9	88	11	遺構外	砥石	J1-6/5	J16=SI33出土か?						
11	98	3	SM05-2主体	切子玉	第2主体/4		3.2			2.1	19.1	0.4
11	98	4	SM05-2主体	勾玉	第2主体/6		2.7	1.6	0.9		5.0	0.1
11	102	1	SM05-土壙	砥石	P001/1		11.3	3.2	0.7		26.0	
12	126	5	SI63	軽石	J11/88							
12	132	29	SI52	小玉	J16/96	臼玉に近い	0.4			0.8		0.2
12	132	30	SI52	小玉	J16/95	臼玉に近い	0.4			0.8		0.3
12	132	31	SI52	小玉	J16/97	臼玉に近い	0.4			0.7		0.3
12	136	4	SI55	紡錘車	J23/53	下面放射状線刻	1.8			4.4		0.7
12	138	7	SI56	軽石	J24/34	火を受け,煤有						
12	143	17	SI59	砥石	J2/62	両端欠損。3面使用	10.6	3.1	2.3			

第23表　古代の金属製品

地点	第図	No.	遺構	器種	注記	備考	長or高	幅	厚さ	径	重さ	孔径
8	27	9	SI07	刀子	002/11		8.2	1.7	0.3		13.9	
8	28	10	SI08	刀子	007/5		20.8	0.8	0.3		18.4	
9	62	20	SI21	鉄鏃	J14/20	鏃身長4.2,逆刺長0.7,篦被長0.4	4.2	4.0	0.2		5.4	0.3
9	69	12	SI30	刀子	J6/36	基部は完存?木質有	4.8	1.3	0.2		5.4	
11	96	1	SM05-1主体	鉄鏃	第1主体/14	鏃身長2.0,逆刺長0.2,篦被長4.8。有機質有	9.6	1.9	0.3		7.6	
11	96	2	SM05-1主体	鉄鏃	第1主体/16	鏃身長1.9,逆刺長0.2,篦被長4.3。有機質有	9.1	1.9	0.3		8.2	
11	96	3	SM05-1主体	鉄鏃	第1主体/15	鏃身長2.0,逆刺長0.2,篦被長4.8。有機質有	7.9	1.8	0.3		7.8	
11	96	4	SM05-1主体	鉄鏃	第1主体/13	鏃身長2.0,逆刺長0.1,篦被長4.1。有機質有。基部欠損	9.2	1.8	0.3		7.5	
11	96	5	SM05-1主体	鉄鏃	第1主体/19	鏃身長1.9,逆刺長0.2,篦被長4.4。有機質有	9.1	1.6	0.2		7.0	
11	96	6	SM05-1主体	鉄鏃	第1主体/18	鏃身長2.1,逆刺長0.1,篦被長4.6。有機質有	10.0	1.7	0.2		9.5	
11	96	7	SM05-1主体	鉄鏃	第1主体/17,20	鏃身長3.0,逆刺長0.4,篦被長4.5。有機質有	11.4	1.0	0.2		6.5	
11	96	8	SM05-1主体	鉄鏃	第1主体/21	鏃身長1.8,逆刺長0.3,篦被長3.3。有機質有。基部欠損	5.9		0.2		4.5	
11	96	9	SM05-1主体	弓金具	第1主体/22	花弁5枚,径0.8. 木質有	2.5	0.5			1.8	
11	98	5	SM05-2主体	鉄鏃	第2主体/7	両端欠損	11.9				11.3	
11	98	6	SM05-2主体	耳環	第2主体/11				0.3	1.8		
11	99	1	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-1	鏃身長3.9,逆刺長0.2,篦被長0.9。革状有	4.6	3.7	0.3		8.4	
11	99	2	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-6	鏃身長4.3,逆刺長0.8,篦被長6.0。口巻痕。2・6・13錆着	12.9	2.2	0.2	-		
11	99	3	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-13	鏃身長4.3,逆刺長0.8,篦被長6.0。3・11・12錆着	11.1	1.2	0.2	-		
11	99	4	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-2	鏃身長1.9,逆刺長0.1,篦被長7.6	9.5	0.0	0.2		0.1	
11	99	5	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-11	鏃身長1.5,逆刺長0.1,篦被長10.2。口巻痕	13.2	0.7	0.1		8.0	
11	99	6	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-8	鏃身長3.6,逆刺長0.1,篦被長6.6。2・6・13錆着.木質有	14.1	1.0	0.2	-		
11	99	7	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-5	鏃身長3.5,逆刺長0,篦被長6.7. 木or毛皮様の付着物	11.2	1.1	0.2		9.6	
11	99	8	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-9	鏃身長4.6,逆刺長0,篦被長0.3	4.8	1.0	0.3		3.0	
11	99	9	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-10	鏃身長?,逆刺長0.3,篦被長6.2.両端欠損	8.5		0.3			
11	99	10	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-4	鏃身長3.1,逆刺長0,篦被長7.8	13.4	0.9	0.2			
11	99	11	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-3	鏃身長1.9,逆刺長0,篦被長7.8	13.2	0.8	0.2		11.4	
11	99	12	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-12	鏃身長2.8,逆刺長一,篦被長9.0。3・11・12錆着	14.0	0.7	0.4	-		
11	99	13	SM05-3主体	鉄鏃	主体部/9-7	鏃身長2.4,逆刺長-,篦被長9.8。2・6.13錆着	15.1	1.0	0.2	-		
11	100	1	SM05-3主体	直刀	主体部/4	鍔,目釘、柄木一部有。計測値別表						
11	100	2	SM05-3主体	直刀	主体部/6	鍔,柄糸巻痕一部有。計測値別表						
11	100	3	SM05-3主体	直刀	主体部/5,7	透かしもつ鍔,目釘、柄有機質一部有。計測値別表						

地点	第図	No.	遺構	器種	注記	備考	長or高	幅	厚さ	径	重さ	孔径
11	101	4	SM05-3主体	直刀	主体部/3	透かしもつ鍔,目釘,柄・鞘有機質一部有。計測値別表						
11	101	5	SM05-3主体	直刀	主体部/5-8	鍔,柄木,柄・鞘有機質一部有。計測値別表						
11	101	6	SM05-3主体	直刀	主体部/5	柄・鞘有機質一部有。計測値別表						
11	101	7	SM05-3主体	直刀	主体部/-	有機質一部有。計測値別表						
11	102	2	SM05-土壙	剣	P001/2	先端鞘有。砥石一部錆着=重量に含む	32.2	1.6	0.2		60.6	
12	126	7	SI49	刀子	J12/53		6.4	1.1	0.3		5.9	

第24表　中近世の土製品

地点	第図	No.	遺構	器種	注記	備考	長or高	幅	厚さ	径	重さ	孔径
9	88	1	SD03	泥人形	M3/2			6.4	3.9		42.0	
9	88	2	SD05	泥人形	M21/2						14.2	
9	88	3	SD15	土製碁石	M12/3						2.1	
9	88	4	SD10	管状土錘	M6/12		4.5			2.1	15.4	0.5
9	88	6	SD10	温石	M6/2			6.1	1.6			0.5
9	88	8	SX01	管状陶錘	H3-4/1		3.3			2.5	22.4	1.1
9	88	9	遺構外	管状土錘	4F-5/1		3.9			1.9	11.1	0.7
9	88	10	遺構外	管状土錘	4E-8/1		4.2			1.9	11.4	0.5
12	157	1	SD28	管状土錘	M-2/2		4.2			1.8		0.5
12	158	5	遺構外	小皿	C5/26	底部回転糸切り無調整	0.7			4.3		
12	158	6	遺構外	カワラケ	J26/52	底部回転糸切り無調整	0.8			3.9		
12	158	7	遺構外	土製碁石	C6/1							
15	178	71	SX03-L	泥人形	H8/34	頭部。下端に穿孔。72とは胎土異なる	1.6	1.6			4.0	0.2
15	178	72	SX03-L	泥人形	H8/55	体部。上端・下端に穿孔。71とは胎土異なる	5.5	4.0	1.8		24.4	
15	178	73	SX03-L	泥人形	Ⅰ面/1	馬	6.2	3.4			47.5	

第25表　中近世の石製品

地点	第図	No.	遺構	器種	注記	備考	長or高	幅	厚さ	径	重さ	孔径
7	8	10	遺構外	砥石	3D/6	表裏・両側面使用						
7	11	19	SK15	砥石	020/5	擂り鉢転用。全面使用						
7	12	10	SE01	硯	009/7	背面に線刻						
8	35	5	SM02	砥石	1号塚/30	1面使用						
8	35	13	SM03	燧石	2号塚/一括	稜潰れる	2.7	2.5	1.9		13.0	
9	88	5	SD10	砥石	M6/12	1面使用						
9	88	7	SD05	砥石	M21/2	4面使用						
9	88	12	遺構外	硯	5E-02/1	線刻		6.0	1.3			
9	89	13	SX01	板碑	H3-2/6	風化顕著						
9	89	14	遺構外	五輪塔	C/9	火輪						
9	89	15	SX01	五輪塔	H3-2/2	地輪。土塁上表採						
9	89	16	SX01	五輪塔	H3-2/1	空・風輪。表採						
9	89	17	SX01	茶臼	H3/2	茶臼の上臼						
12	157	2	SD28	燧石	M-2/2	石英	2.2	2.0	1.6		10.5	
12	158	11	遺構外	砥石	B4-40/1	両端欠損。1面使用	8.9	4.2	1.3			
13	164	10	遺構外	砥石	C1/1	3面使用	8.0	3.4	2.2			
15	176	58	SX03-L	砥石	H8/03	1面使用	10.5	2.7	2.6			
15	176	59	SX03-L	砥石	中トレ9/-	H8-14	10.3	2.9	2.1			
15	176	60	SX03-L	砥石	H8-23/1	2面使用	11.7	4.3	3.4			
15	177	61	SX03-L	砥石	H8-23/33	1面使用	9.0	3.7	2.8			
15	177	62	SX03-L	砥石	H8/24	H8-24,1面使用	8.1	2.9	2.9			
15	177	63	SX03-L	砥石	H8-47/5	2面使用	10.3	4.5	2.9			
15	177	64	SX03-L	砥石	H8/55	3面使用	8.6	4.7	3.2			
15	177	65	SX03-L	砥石	中トレ5/-	H8-55,1面使用	9.0	3.4	2.4			
15	177	66	SX03-L	砥石	Ⅰ面/11	2面使用	10.6	2.8	3.2			
15	177	67	SX03-L	砥石	38/-	1面使用	11.0	3.7	2.5			
15	177	68	SM07	砥石	H8-87/32	1面使用	12.9	3.8	3.0			
15	177	69	SM07	砥石	H8-98/6	2面使用	9.1	2.4	3.0			
15	178	70	SX03-L	砥石	H8-47/1	1面使用	7.0	4.5	1.3			
15	181	3	遺構外	砥石	-/-	地点一括。1面使用	8.1	3.5	2.8			
26	198	4	SX06	板碑	4/1	小片,風化顕著			2.0			
26	199	2	SD51	砥石	2/1	2面使用	8.1	3.5	1.9			
28	205	8	SD55	砥石	SD11/1	1面使用	11.6	3.5	2.2			
28	205	7	SD55	砥石	SD11/1	1面使用	17.2	3.5	2.6			

第26表　SM05-第3主体部直刀計測値

	現存長	刀身長	茎長	身幅	背幅	茎幅	茎厚	目釘孔径	重量	鍔長径	鍔短径	鍔厚	はばき長	はばき短
1	101.7	80.9	20.7	4.0	0.8	1.7	0.6	0.6	1529.6	8.3	6.9	0.5	4.3	3.0
2	85.0	76.0	9.0	3.2	0.8	0.8	0.3	0.4	551.1	8.1	6.3	0.3	3.6	2.5
3	82.4	70.6	10.2	3.1	0.8	1.4	0.2	0.4	302.8	7.9	6.3	0.3	3.2	2.1
4	71.4	60.2	11.0	2.9	0.7	1.9	0.4	0.5	525.5	6.7	5.4	0.3	2.9	1.9
5	72.1	63.5	11.5	2.9	0.8	1.5	0.4	0.4	506.2	5.8	4.4	0.3	3.1	2.2

写　真　図　版

図版1
覆作
大道
種ケ谷津
生浜古墳群
鎌取場台
南二重堀
高沢
鎌取
有吉
有吉北貝塚
有吉南
大井戸作
上赤塚
赤塚支谷
馬ノ口
有吉南貝塚
有吉城跡
泉支谷
城ノ台
木戸作
狐塚古墳
椎名崎
椎名崎古墳群A
人形塚
伯父名台
椎名神社
椎名崎古墳群B
小金沢貝塚
今台
小金沢古墳群
苅田子台
遺跡付近航空写真

図版2

SX10平場

東端台地上平坦部

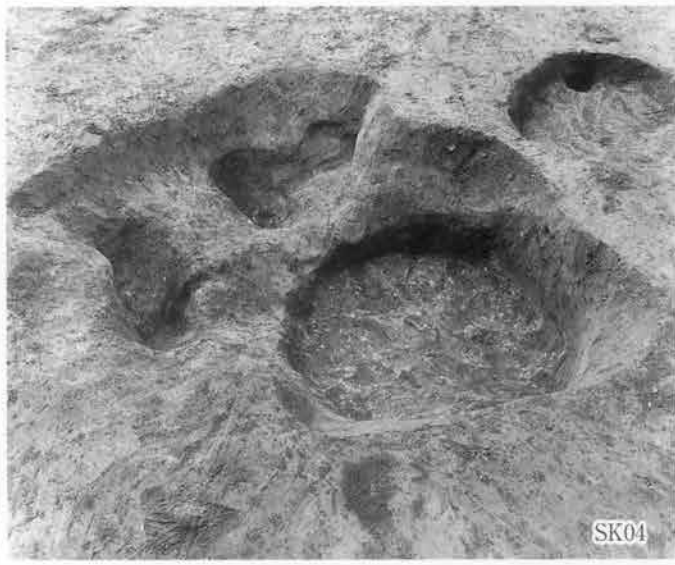
斜面部上端

SK11

図版3

SE01　貝層

SK12


SK04

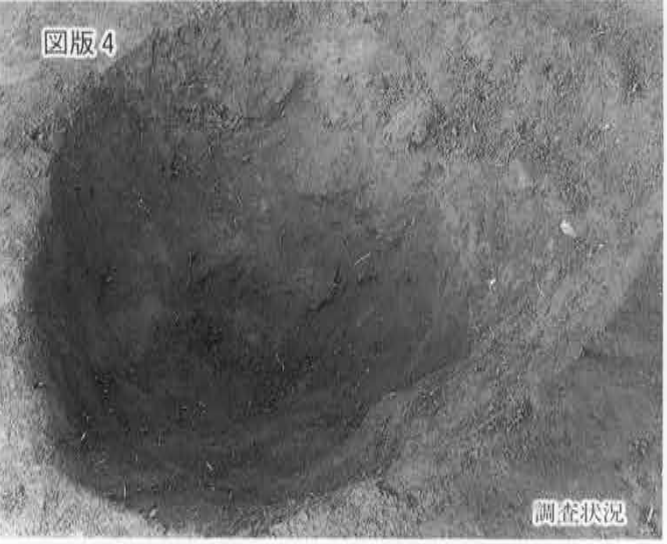
SK13

SK05

SE01

SK06

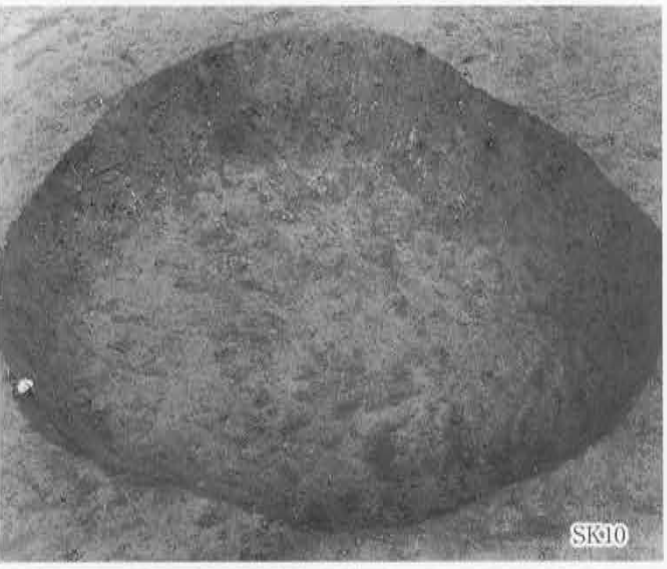
図版4


調査状況

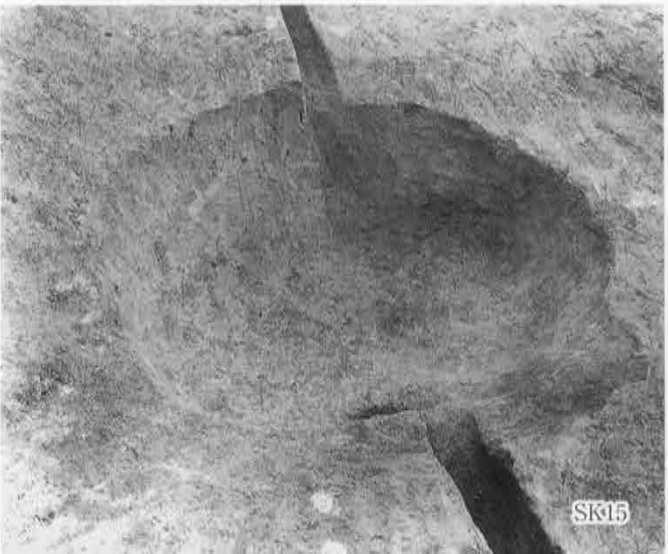
SK16

調査状況

SE02

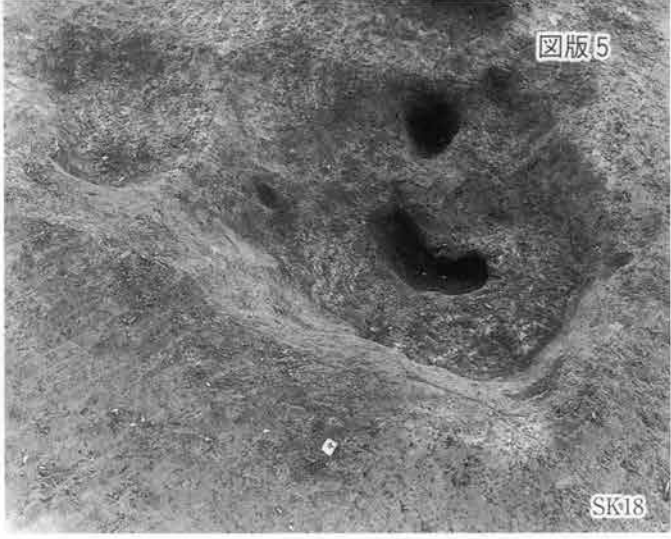

SK10

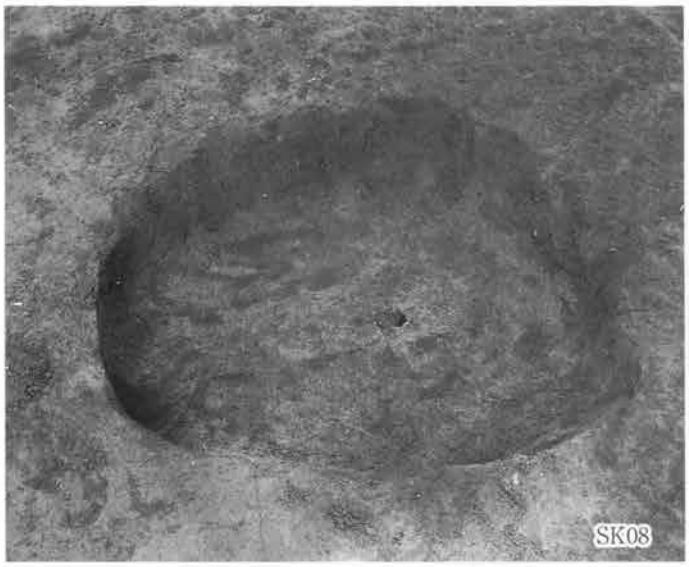
調査状況


SK15

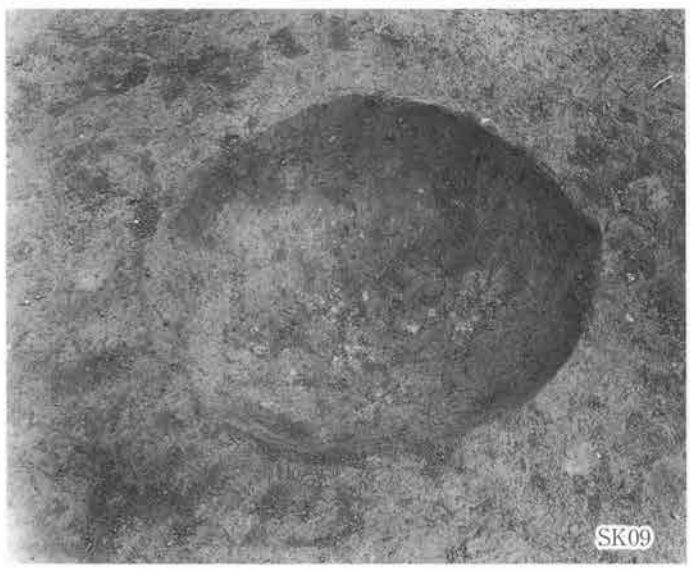
SK03

調査状況

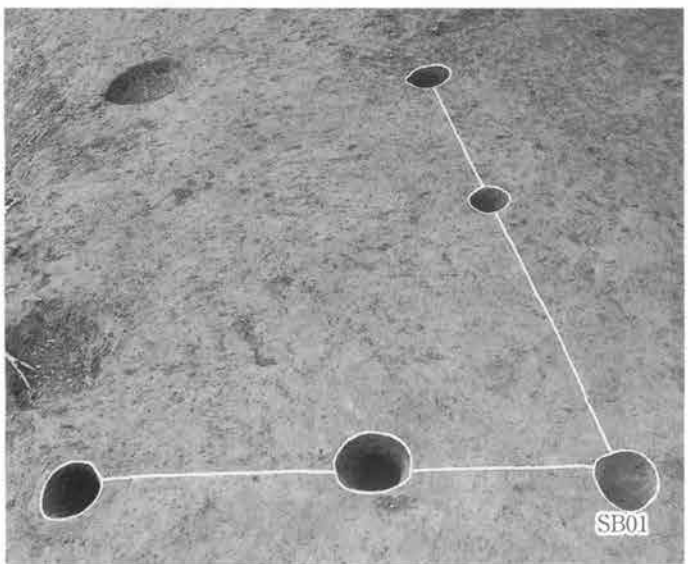

SK18


SK08

SK19


SK09

SK01

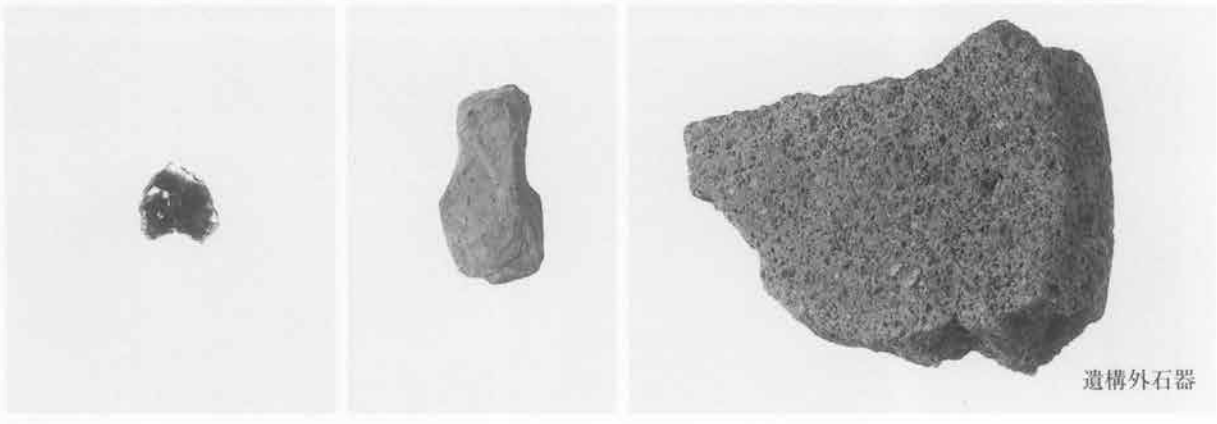

SB01

SD03

図版 6

SK01

遺構外土器



遺構外石器

SK04－1

SK04－4

SK10－3

SK04－2

SK10－1

SE02－2

SK04－3

SK10－2

SX10－8

中近世遺物

図版8

SI06

SI07

SI01

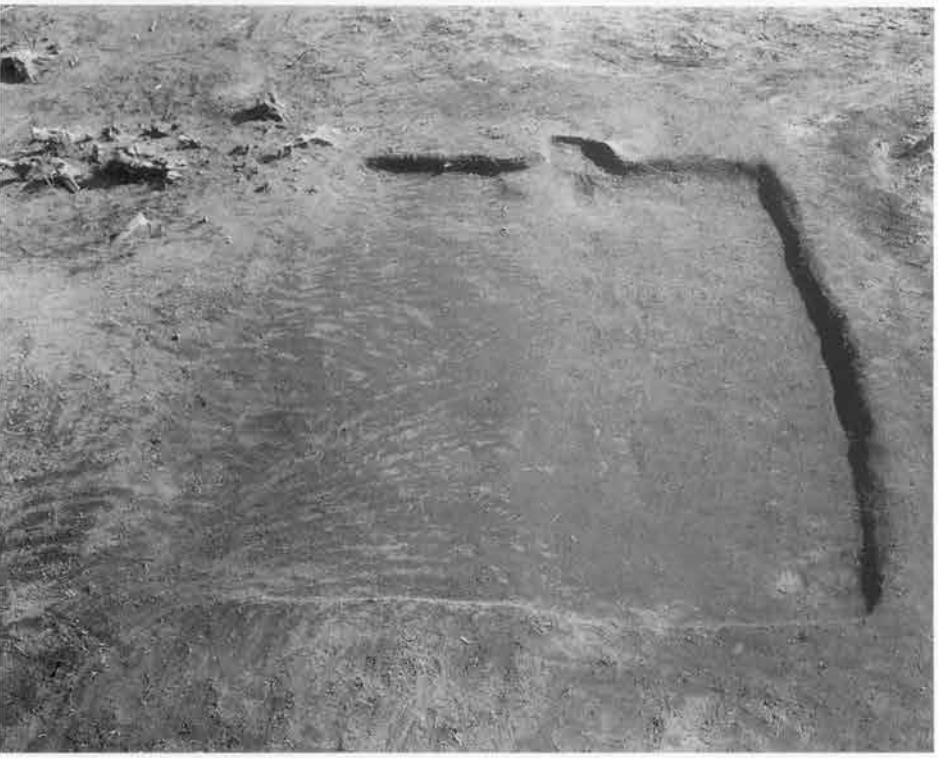
SI02

SI03

SI04

図版10

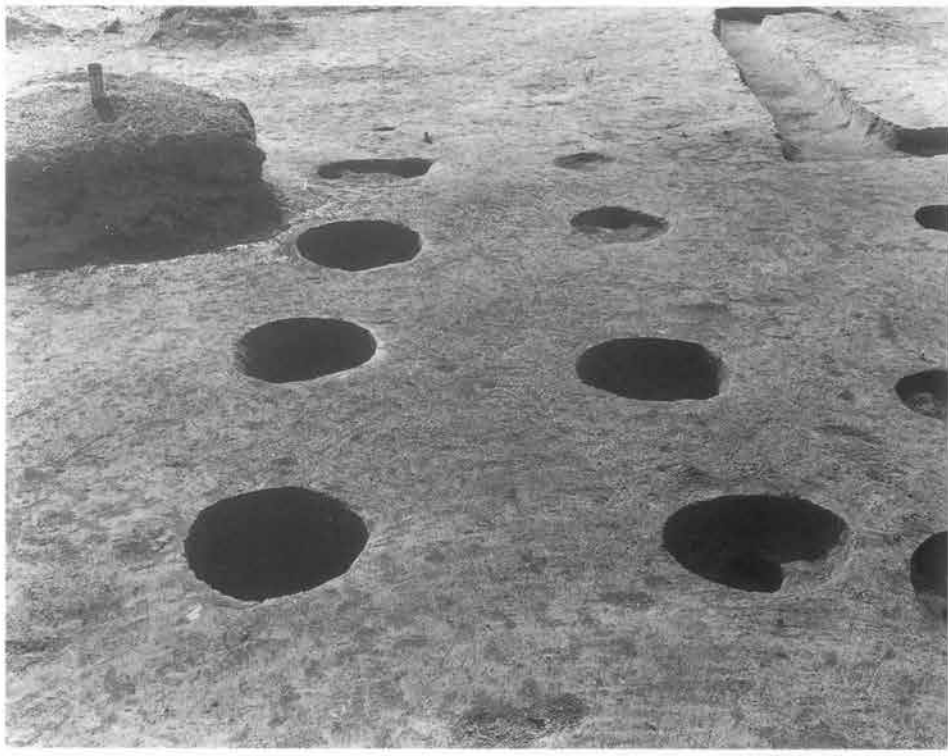
SI08



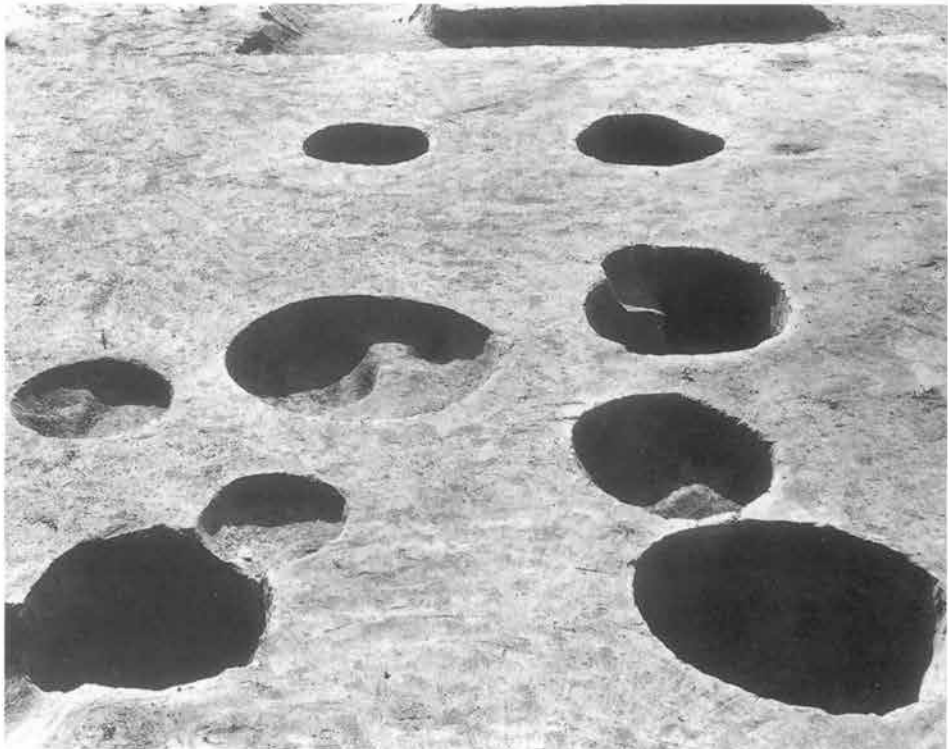
SI09

SI10

SI05



SB02



SB03

図版12

SM02・03調査前

SM02調査前

SM02墳丘断面

SM03調査前

SM03調査後

SM01

図版14

SK32

調査状況

SK31

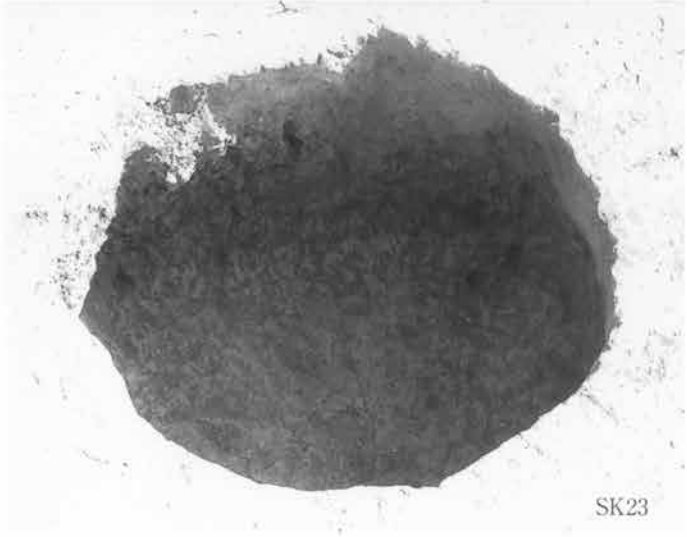
SK34

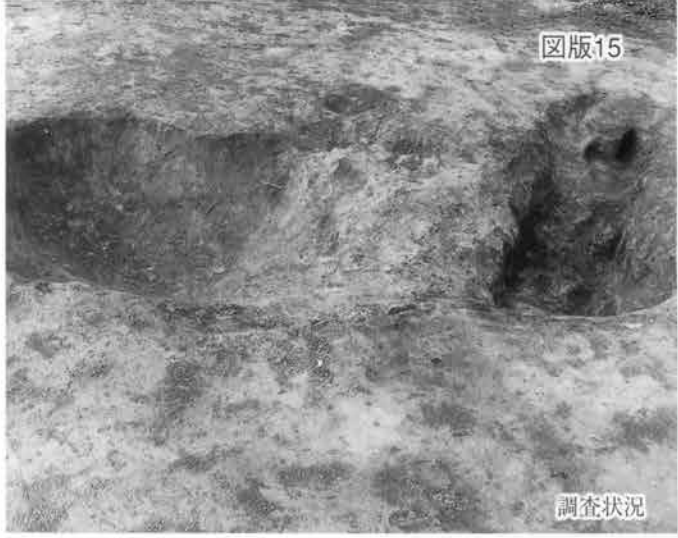
SK31埋葬人骨

調査状況

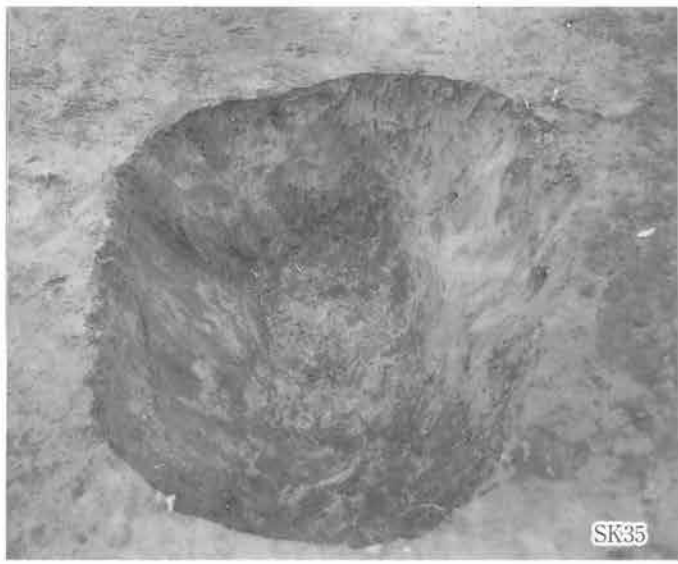
SK33

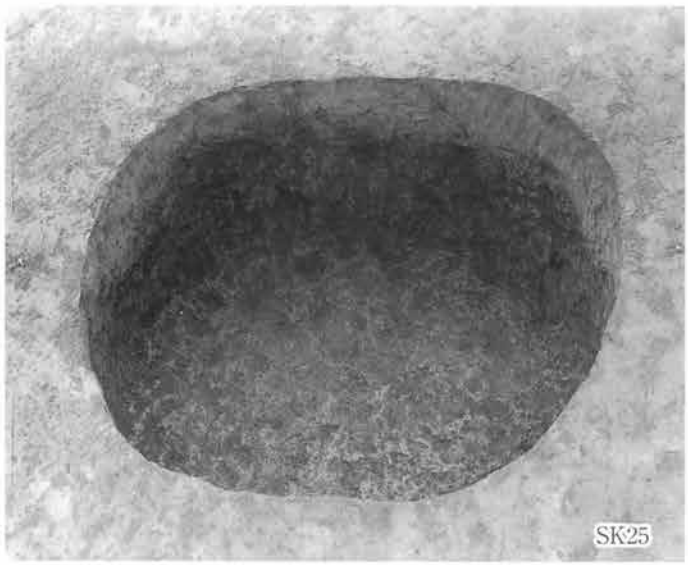
SK22


SK23


調査状況

SK24


SK35


SK25

SK26

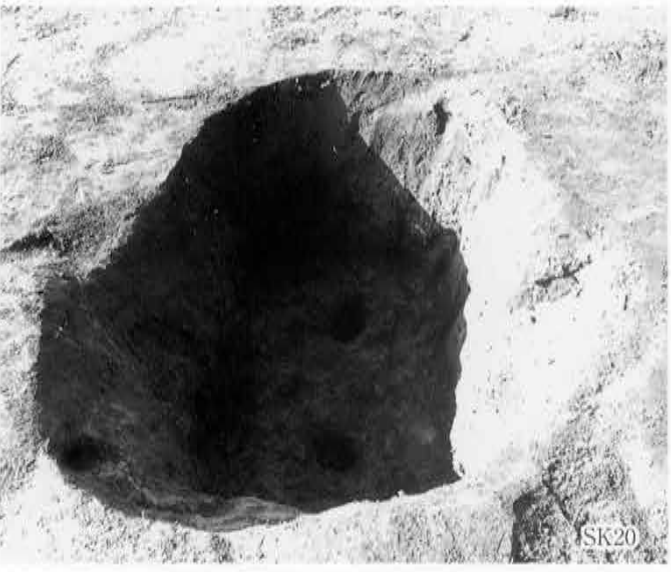
調査状況

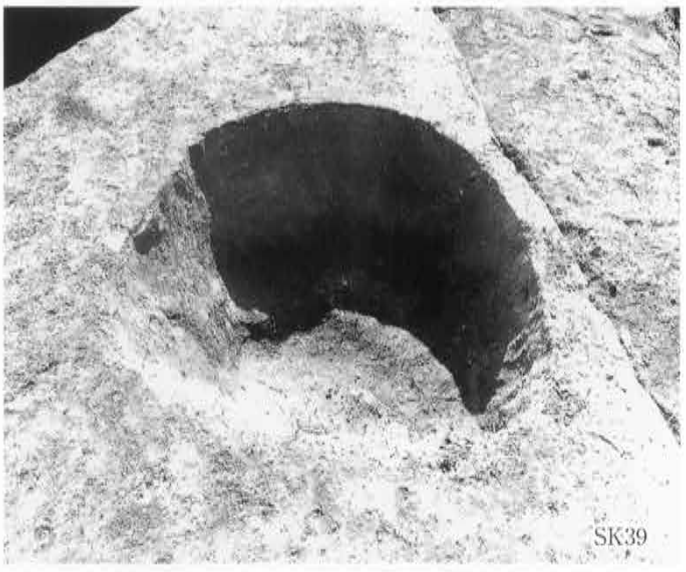
調査状況

図版16

SK36

SK38


SK20


SK39

SK37

SK40

調査状況

SK27

SK41

SK29

調査状況

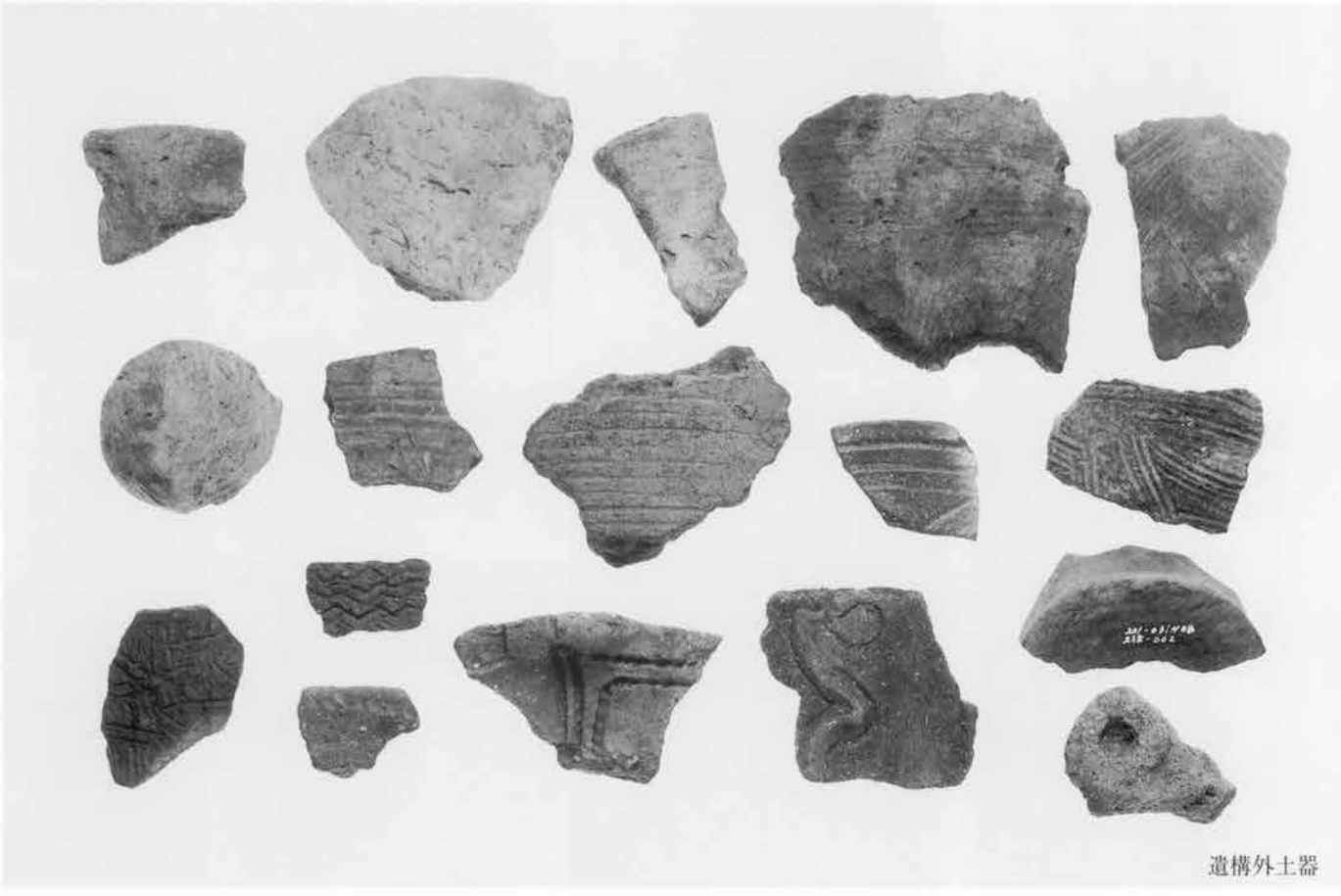
SK30

調査状況

SK21

SK28

SD01・02



遺構外土器

遺構外石器

SI01－1

SI01－2

SI01－5

SI01－7

SI01－8

SI01－13

SI02－1

SI02－2

SI02－3

SI03－1

SI03－2

SI03－3

SI03－5

SI03－4

SI03－6

SI03－9

SI03－11

SI03－12

SI03－10

SI03－13

SI03－15

SI03－14

SI03－16

SI04－1

SI04－2

SI04－3

SI04－4

SI04－7

SI04－11

SI04－12

SI04－14

SI04－15

SI04－16

SI04－18

SI04－20

SI04－21

SI05－1

SI05－2

SI05－3

SI05－4

SI05－7

SI05－5

SI05－6

SI05－10

SI05－11

SI05－13

SI05－8

SI05－9

SI05－12

SI05－14

遺構外1

SM02－1

SI06－1

SI06－2

SI06－3

SI06－4

SI06－6

SI06－7

SI06－12

SI06－13

SI06－16

SI07－1

SI07－5

SI07－7

SI07－8

SI08－1

SI08－2

SI10－2

SI10－3

SI10－6

SI10－5

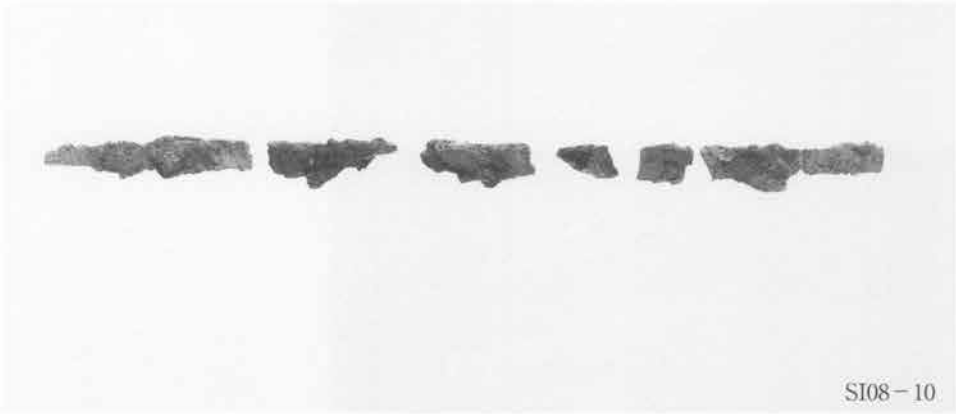
SK25－1

SM03－1

SM03－2

SM03－5

SI07－9



SI08－10

SI01－17

SI10－8

SI01－18

SI10－7

SI01－15

SI01－16

SI03－17

SI05－15

奈良・平安時代遺構出土鉄製品・土製品

SI13

SI14

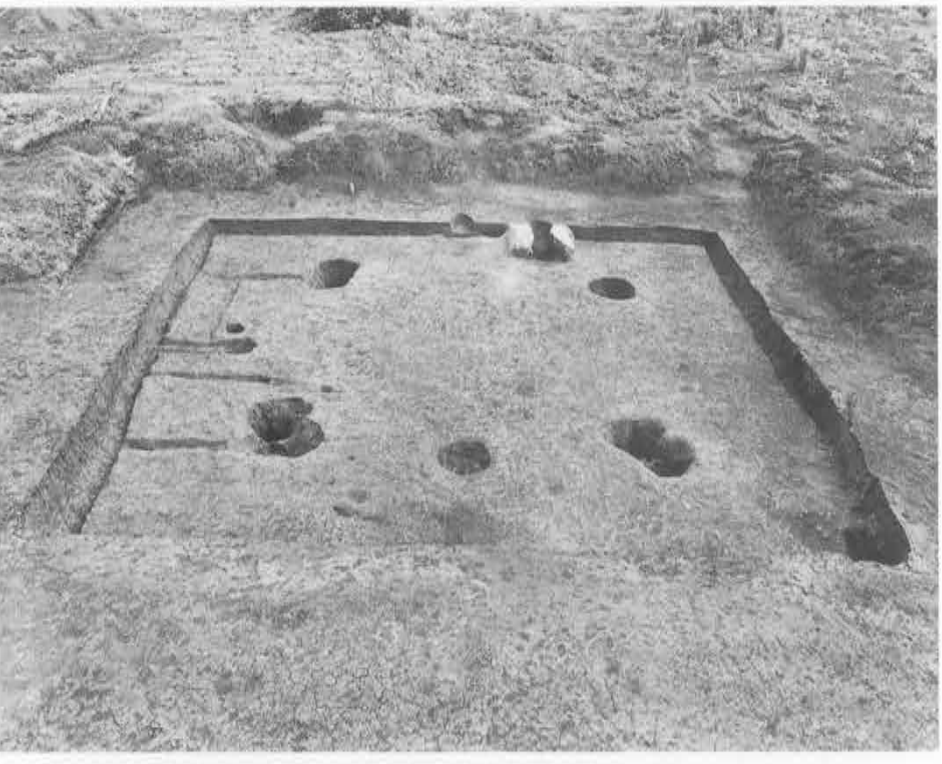
SI15

SI16

SI30

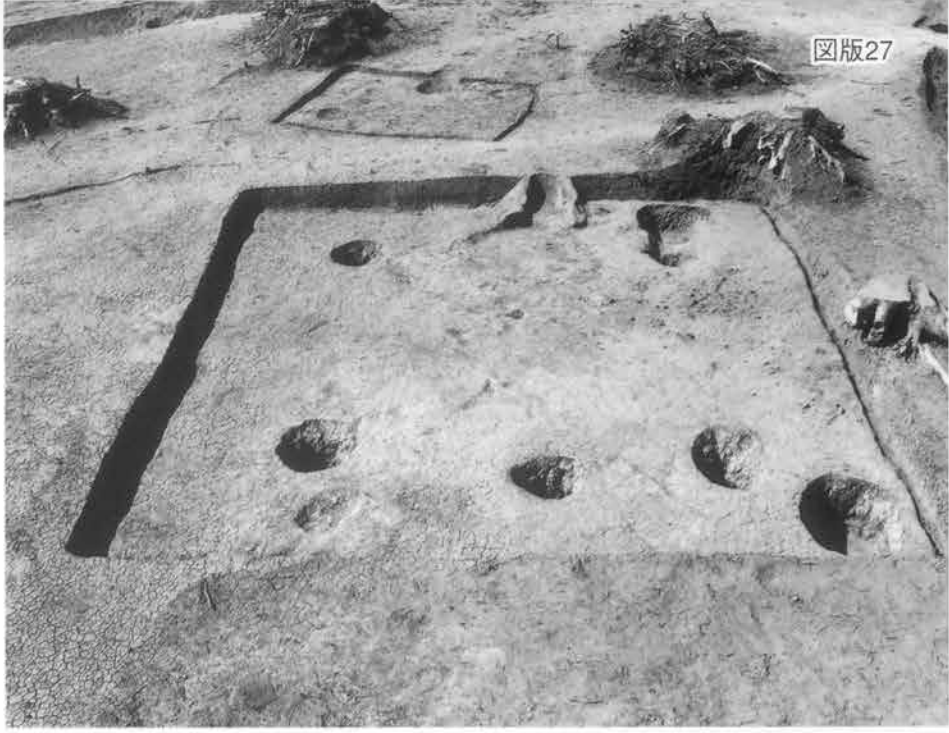
SI17

SI17貝層

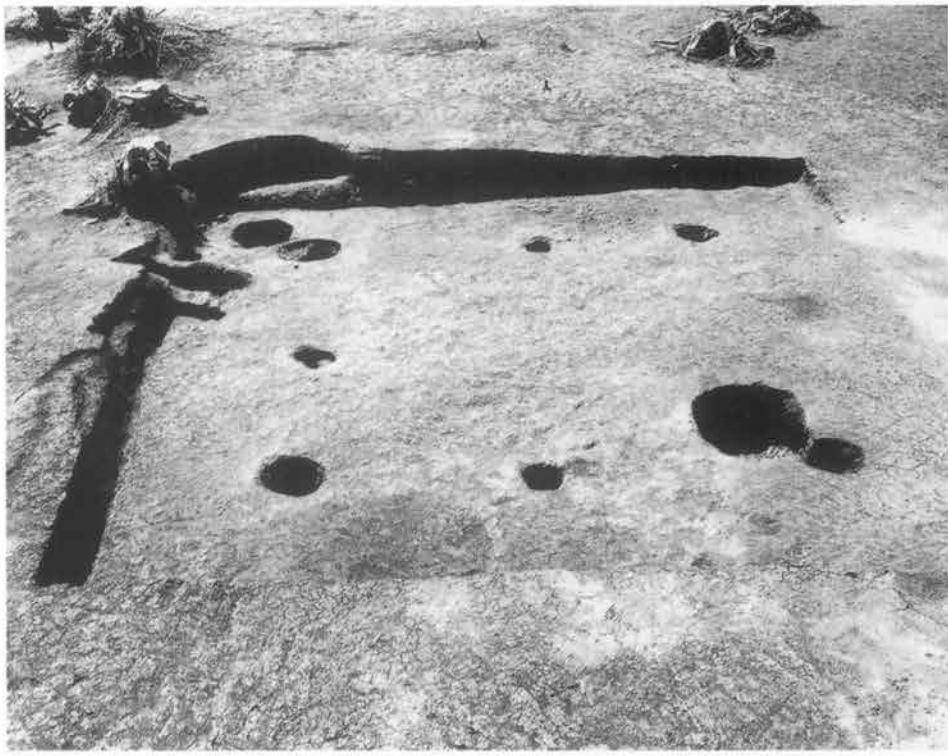


SI18

SI20



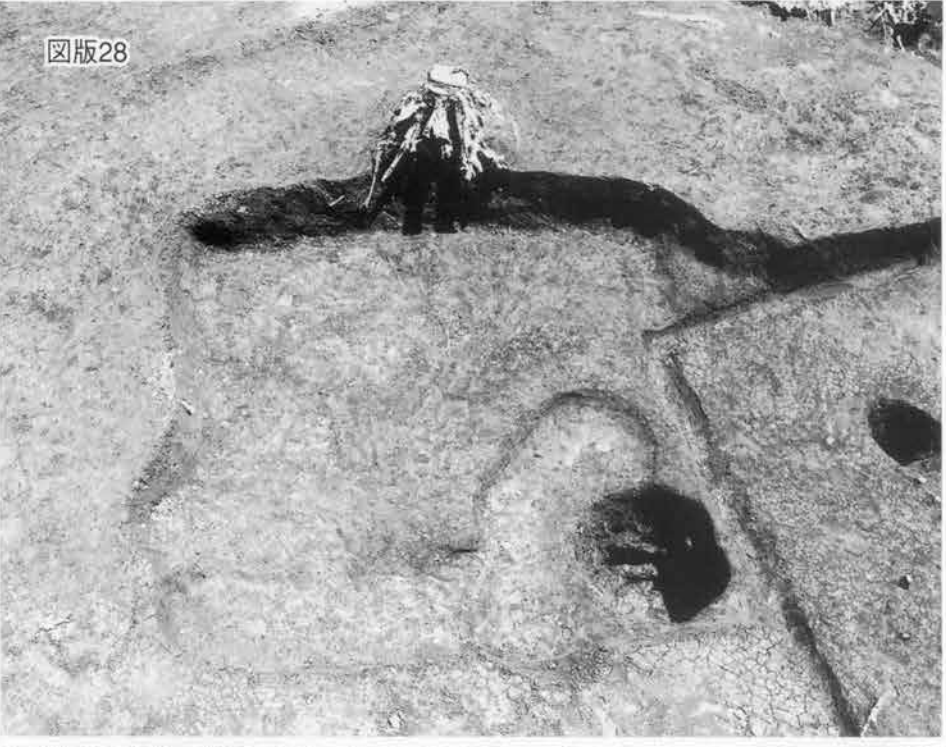
SI21



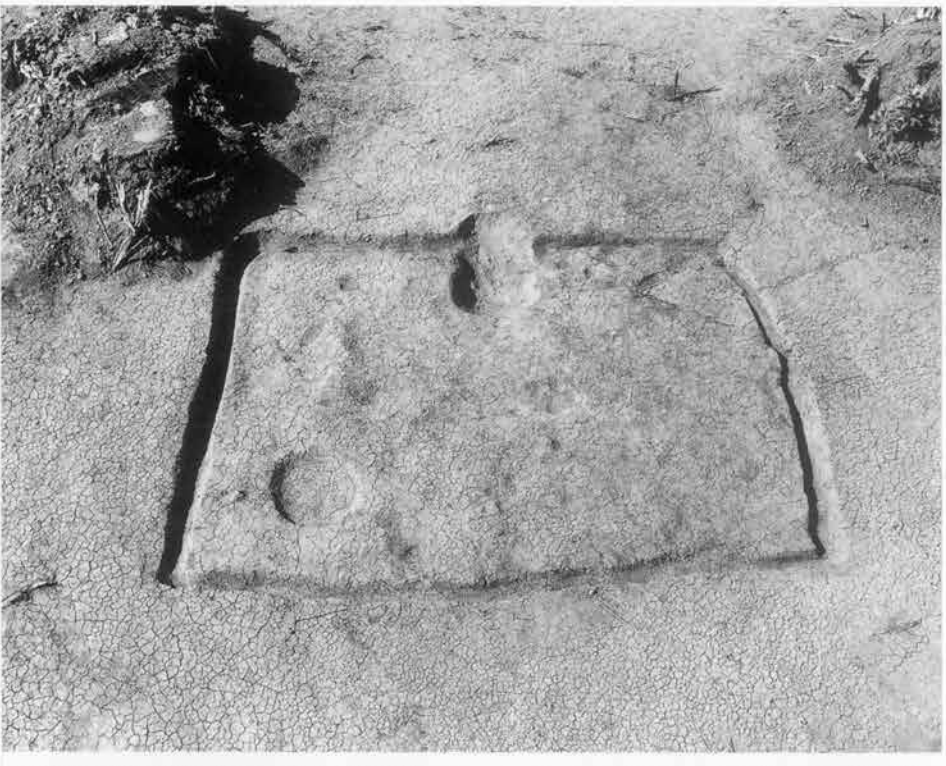
SI24

SI25

図版28

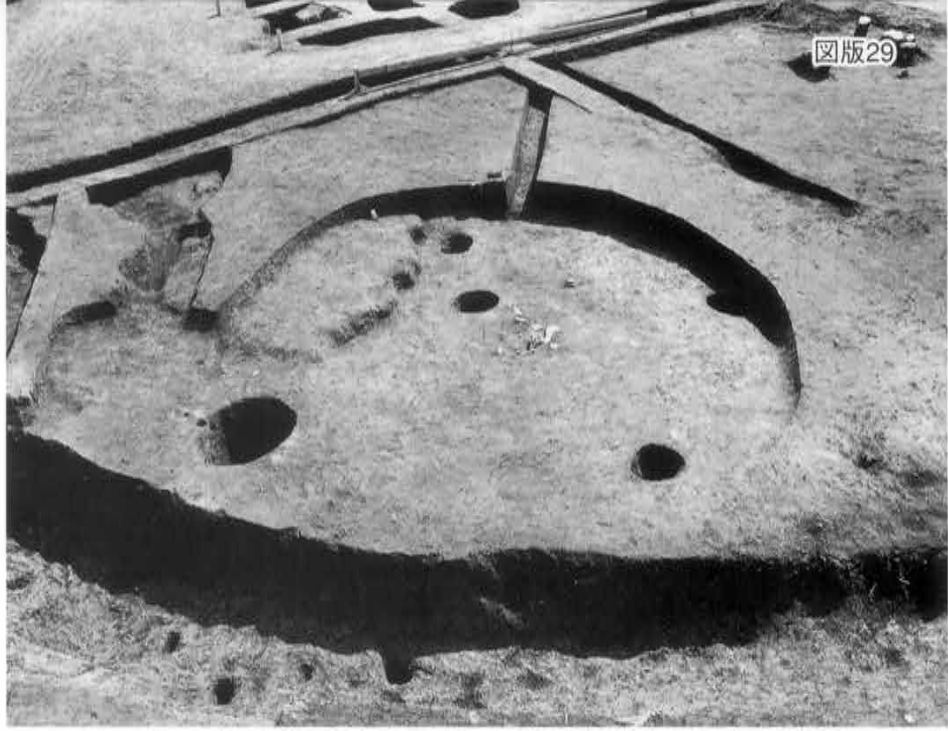


SI36

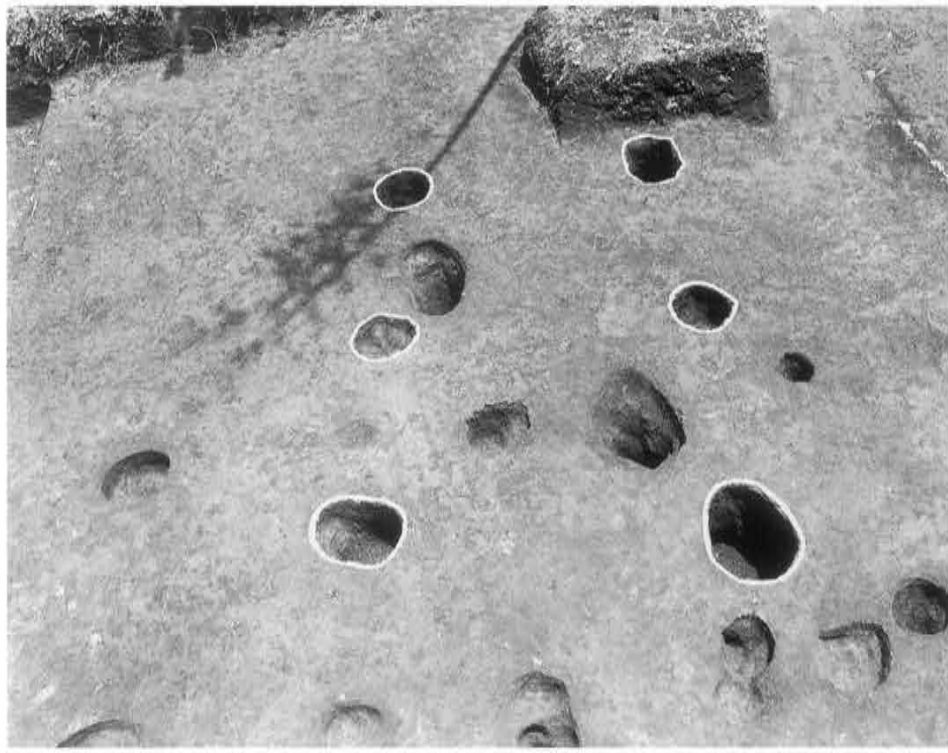


SI38

SI26



SI11



SB05

SB08

図版30

SM04

SM04

SM04主体部

SM04主体部

SM04主体部

SM04主体部

図版32

SM04主体部

SM04主体部

SM04主体部

SD03

SD05土墨北側

SX01

図版34

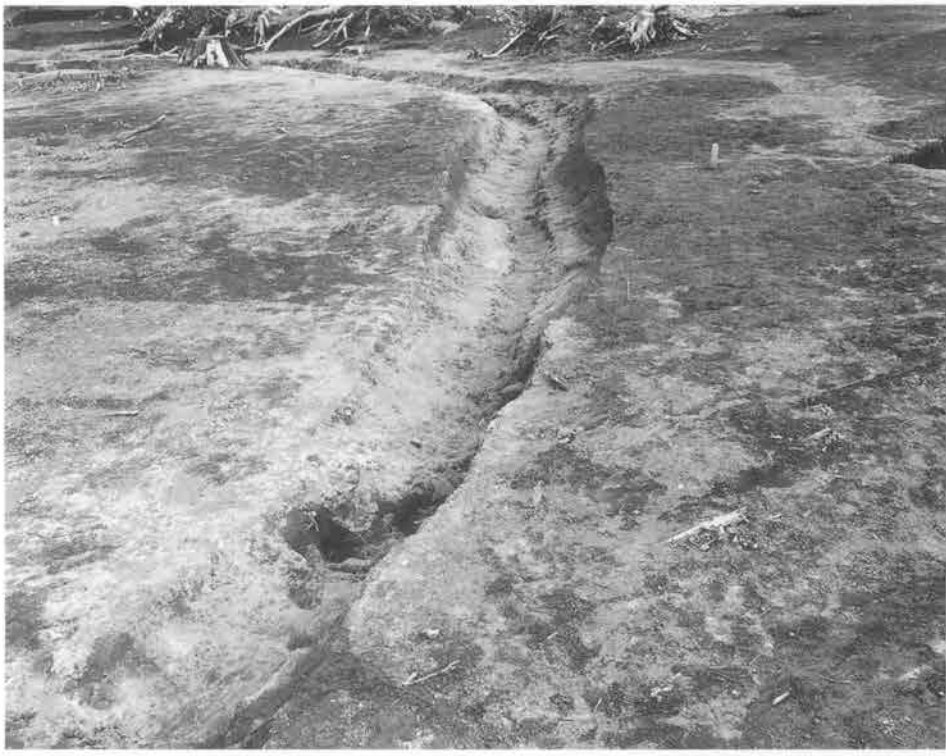
SX01

SD03階段部分

SD12

図版35

SD10



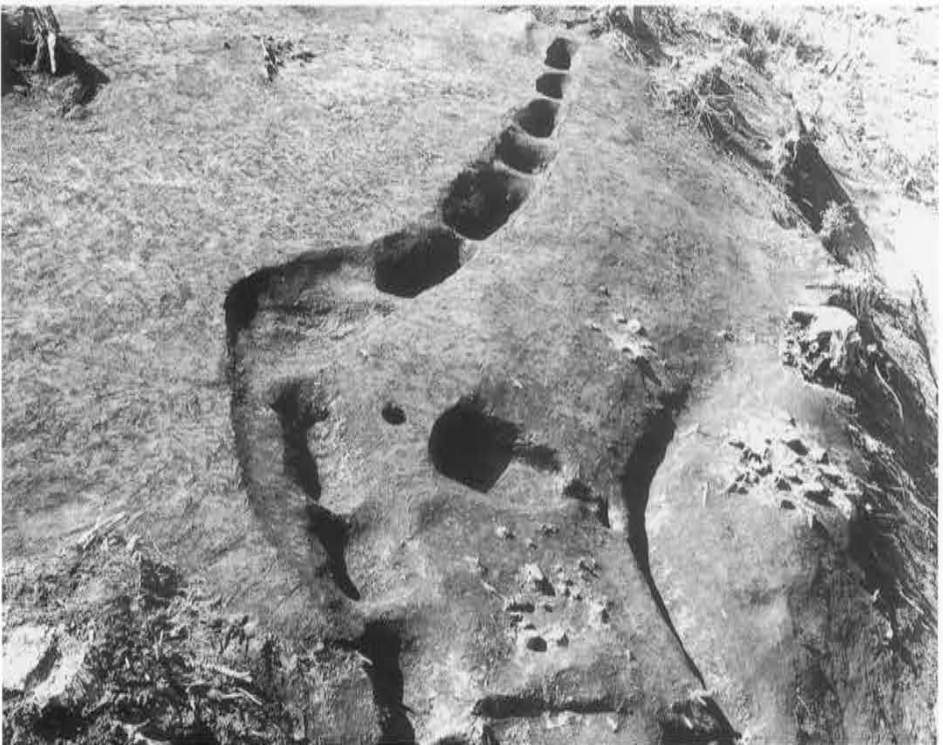
SD15

SD15・16

図版36

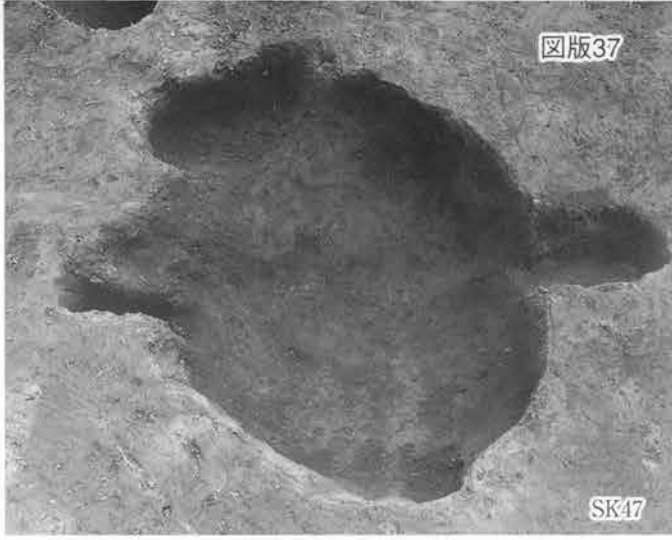
SD18

SD19

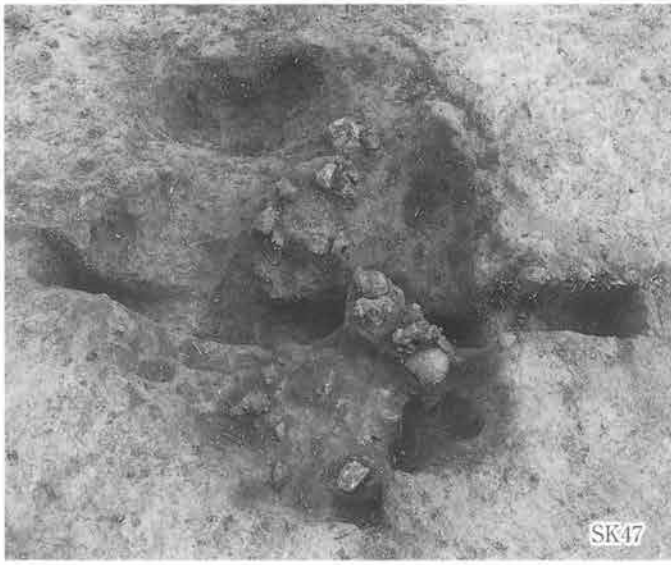


SD21

SK42


SK47

SK43


SK47

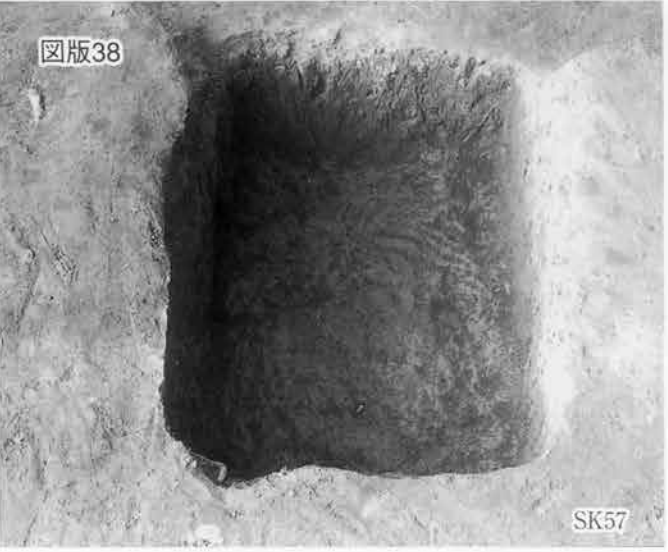
SK44

SK53

SK44

SK56

図版38


SK57

SK48

SK49

SK59

調査状況

SK46貝層断面

SK58

S001

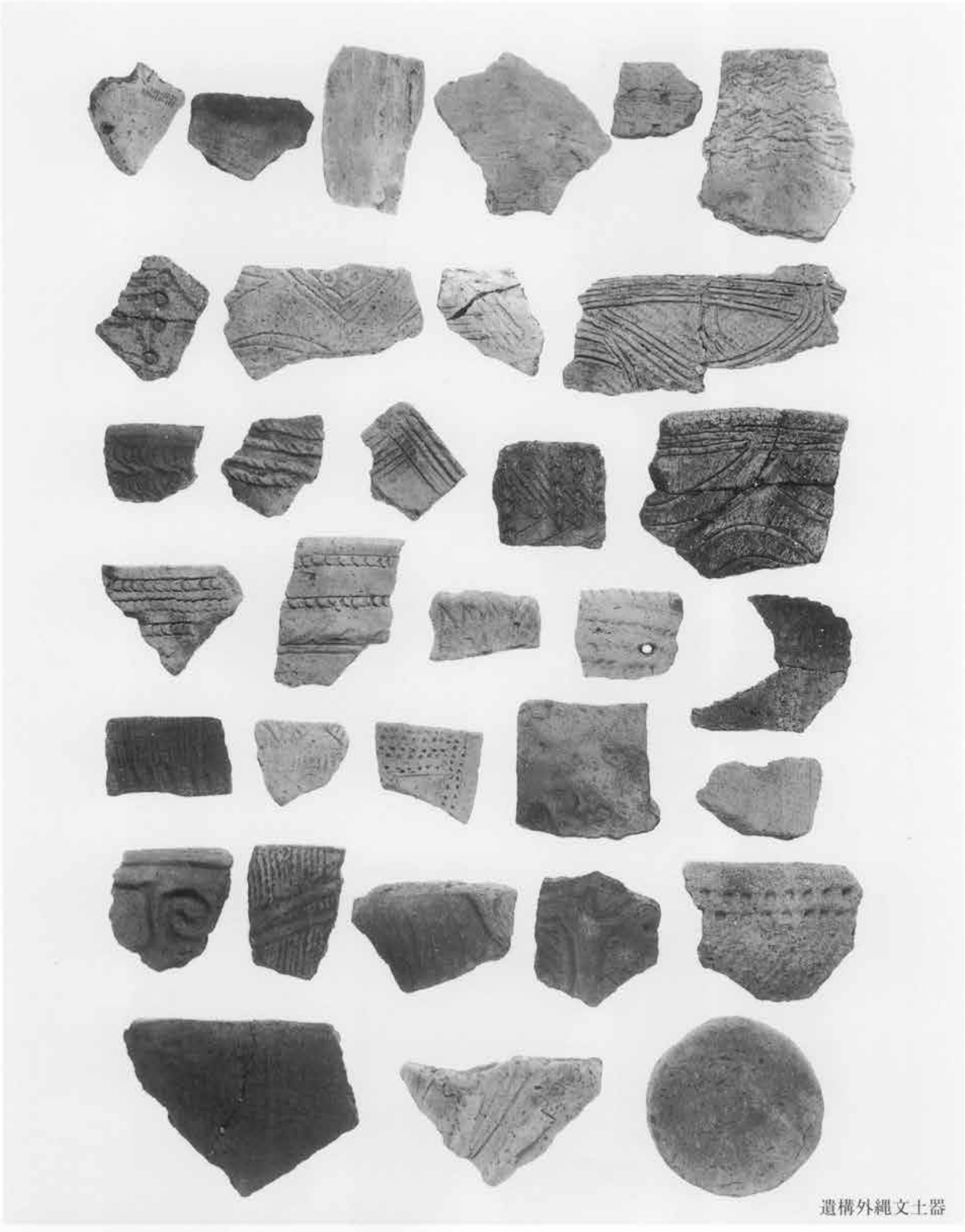
SK44－4

SK44－3

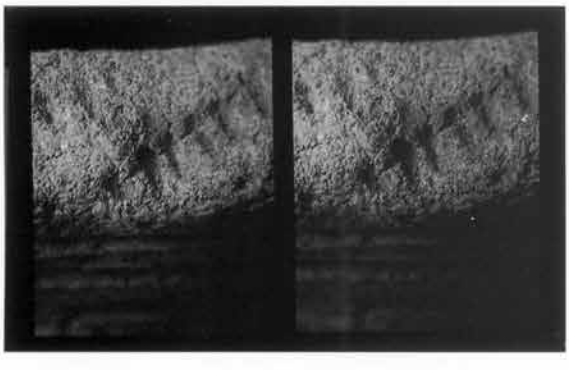
SI11－1

SI11－2

SI11



遺構外縄文土器



遺構外－2　絡状体圧痕

遺構外石器

SI13－1

SI13－4

SI13－5

SI13－7

SI13－8

SI13－9

SI13－11

SI14－3

SI14－4

SI15－5

SI15－6

SI15－8

SI15－9

SI15－7

SI15－10

SI15－12

SI15－15

SI15－14

SI16－13

SI17－7

SI15－16

SI16－9

SI17－8

SI16－10

SI15－19

SI18－3

SI17－1

SI16－2

SI18－4

SI17－2

SI16－7

SI17－3

SI18－5

SI18－10

SI18－12

SI18－13

SI18－14

SI18－15

SI18－16

SI18－17

SI18－18

SI18－19

SI18－21

SI18－22

SI18－23

SI18－24

SI18－25

SI18－30

SI18－27

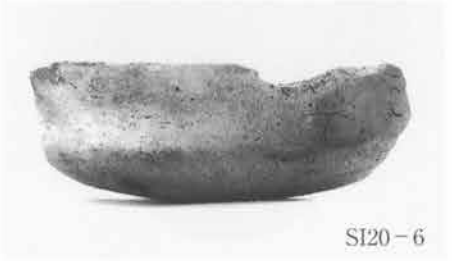
SI18－31

SI18－37

SI20－1

SI20－2

SI20－4


SI20－6

SI20－7

SI20－8

SI20－10

SI20－16

SI20－13

SI21－1

SI21－7

SI21－3

SI21－5

SI21－2

SI21－4

SI21－6

SI21－8

SI21－9

SI21－10

SI21－11

SI21－12

SI21－17

SI21－18

SI21－15

SI22－2

SI24－1

SI24－2

SI24－5

SI24－7

SI24－4

SI24－3

SI24－8

SI24－9

SI24－10

SI24－11

SI24－15

SI24－14

SI24－16

SI24－19

SI24－18

SI24－17

SI24－22

SI24－23

SI24－13

SI24－24

SI26－3

SI26－1

SI30－1

SI30－3

SI30－5

SI30－4

SI30－6

SI30－8

SI30－7

SI30－10

SI30－9

SI31－1

SI32－1

SI33－1

SI33－2

SI33－3

SI37－1

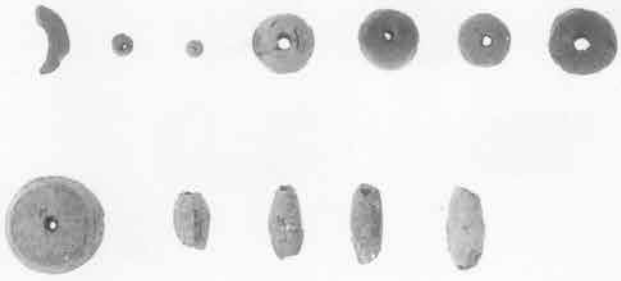
SI38－4

SI39－3

SK54－1

遺構外－3

鉄鏃・刀子



玉・土玉・紡錘車・土錘

土玉・支脚・羽口

支脚・羽口

支脚

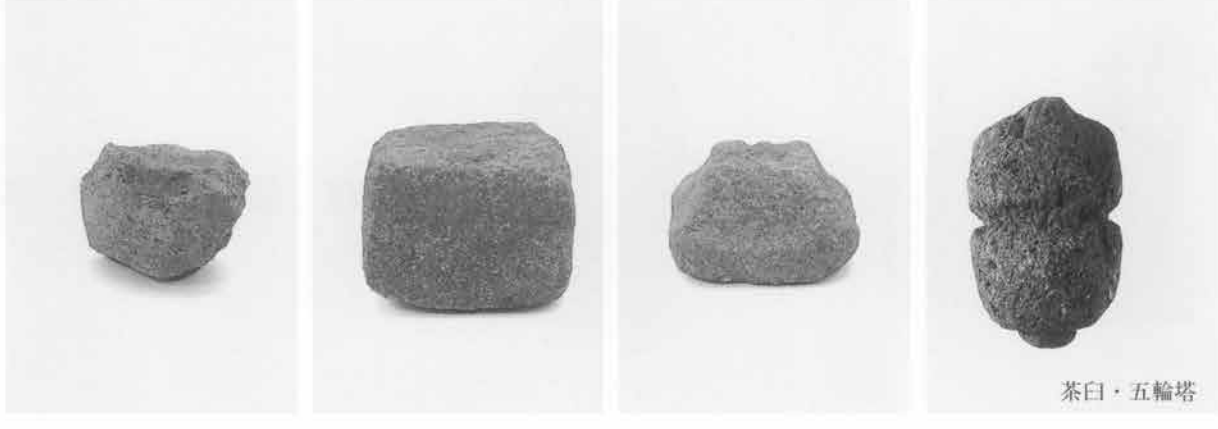
砥石

砥石

玉

陶磁器1

陶磁器2



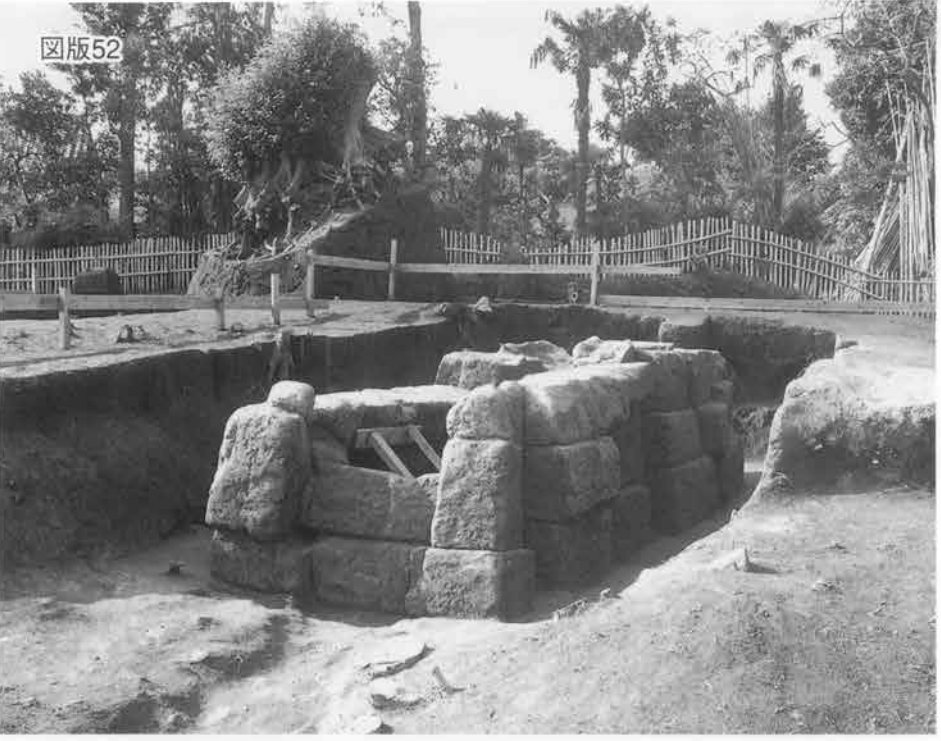
茶臼・五輪塔

SM05調査前

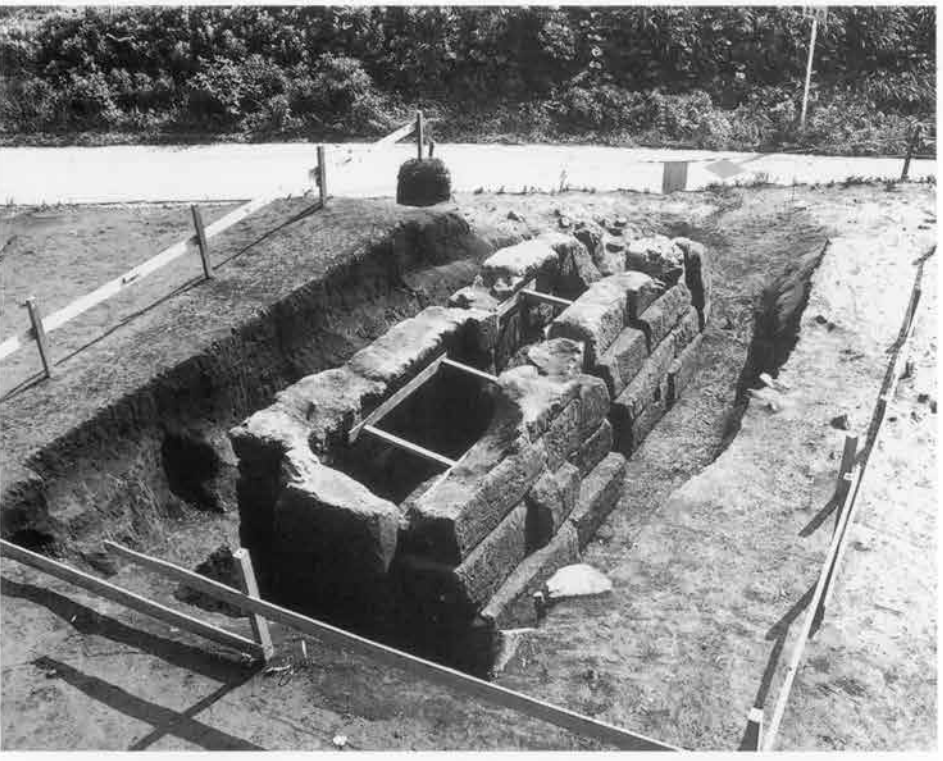
SM05調査風景

SM05墳丘断面

図版52



第１主体部石室



第１主体部石室

第１主体部掘りかた

第1主体部遺物

第2主体部

第2主体部石室

図版54

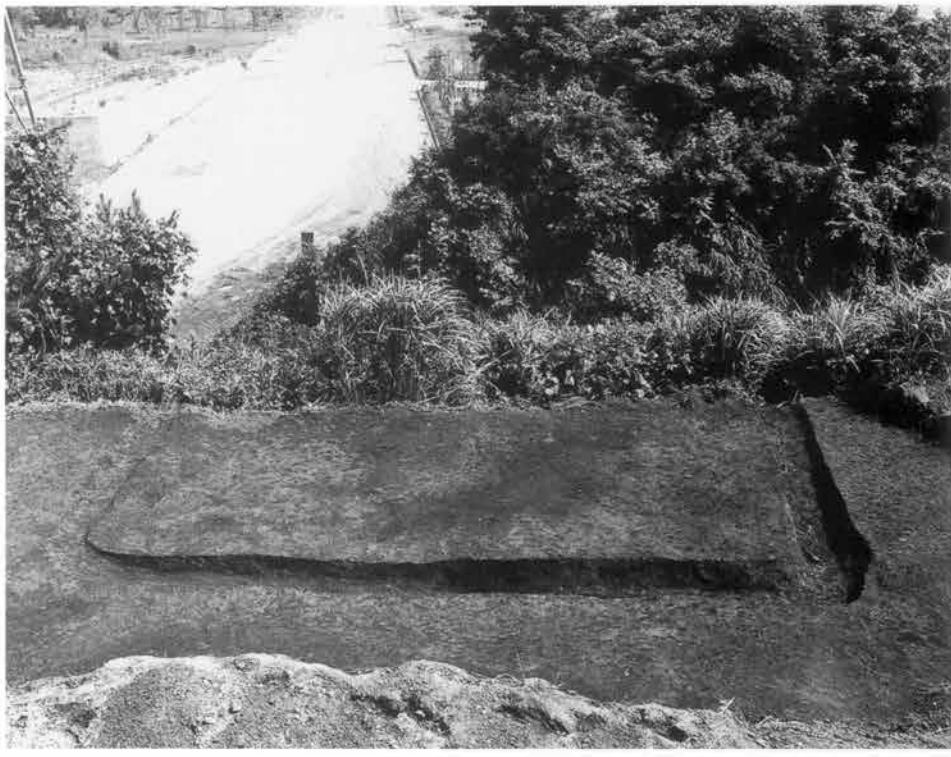
第２主体部石室

第２主体部遺物

第２主体部掘りかた

図版55

SM05土壙墓



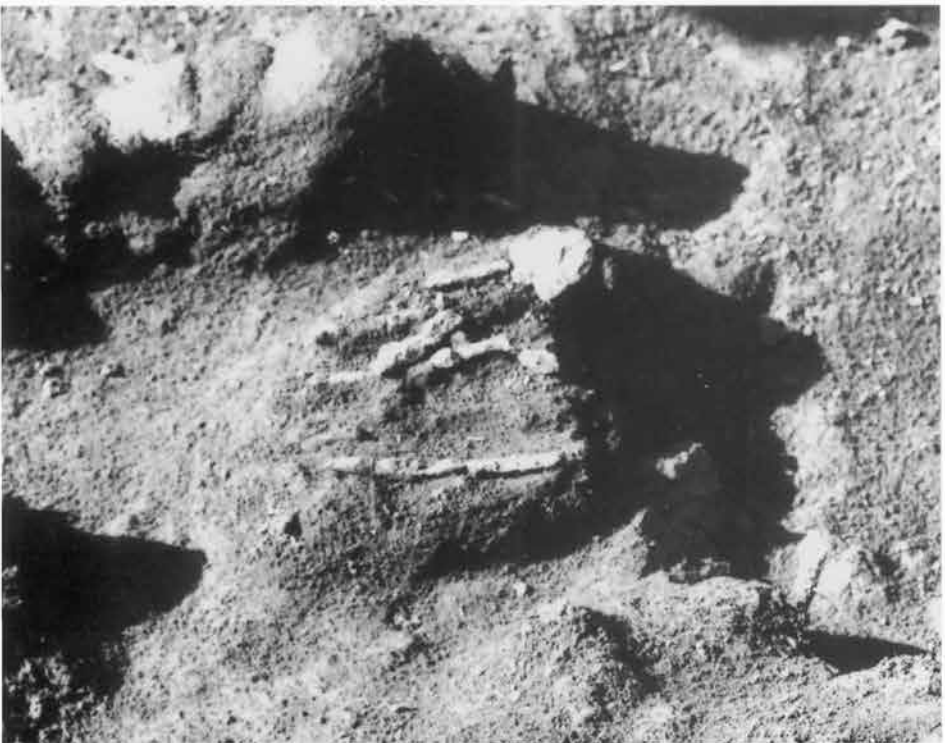
SM06

SM05周溝

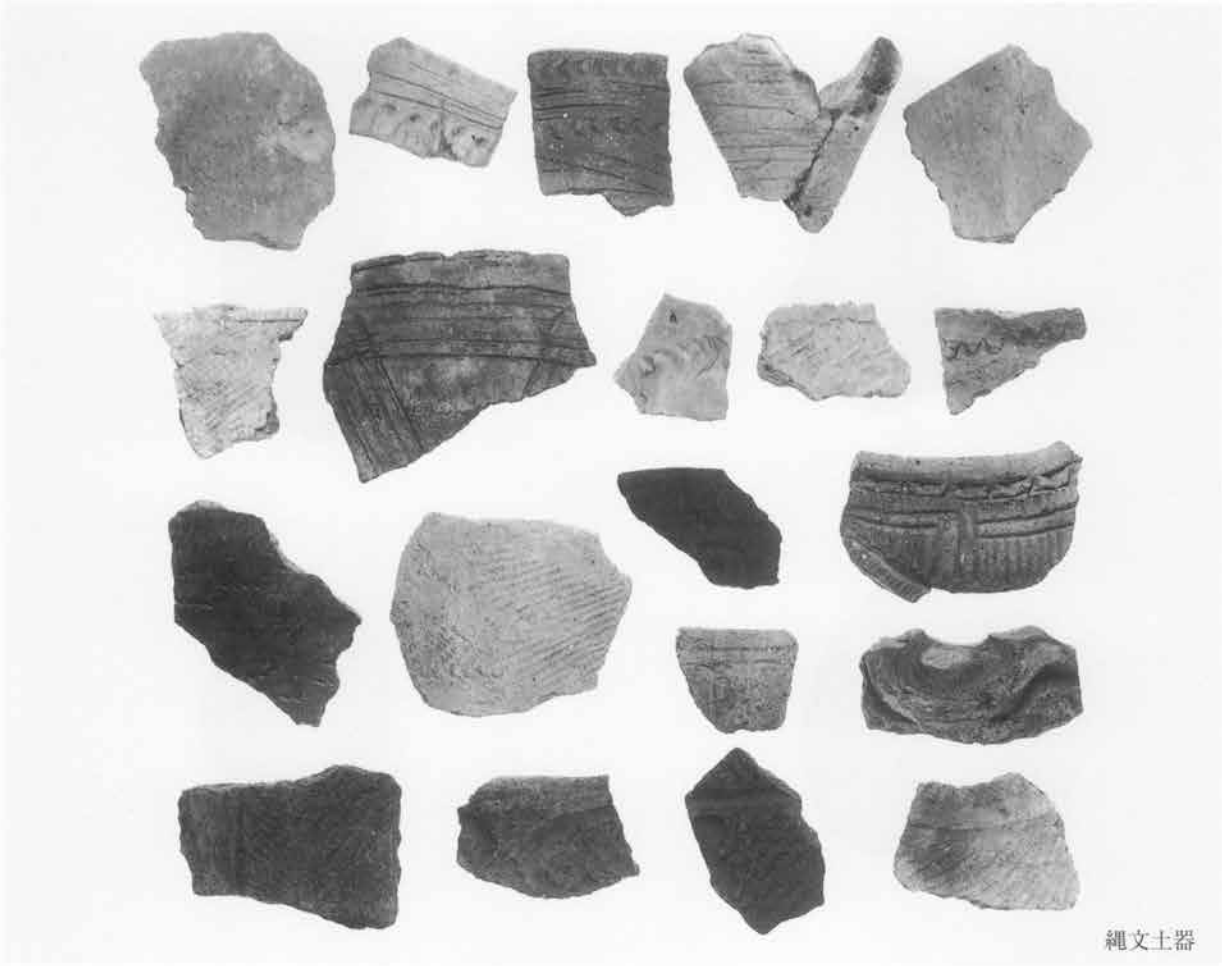
図版56

第3主体部

第3主体部遺物

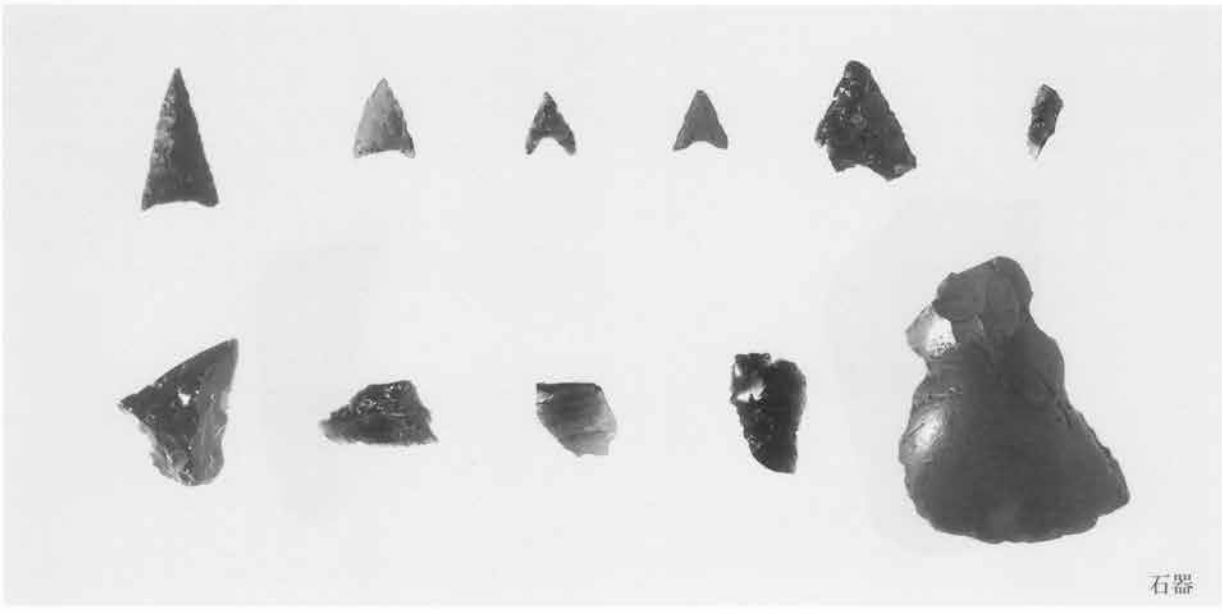


第3主体部遺物



縄文土器

土器片錘



石器

SM05－第2－1

SM05－第3－8

SM05－第2－2

SM05－第3－1

SM05－第3－10

SM05－第3－15

SM05－第3－4

SM05－第3－11

SM05－第3－5

SM05－塚－1

SM05－第3－7

SM05－第3－12

SM05－塚－2

SM05－第2－4

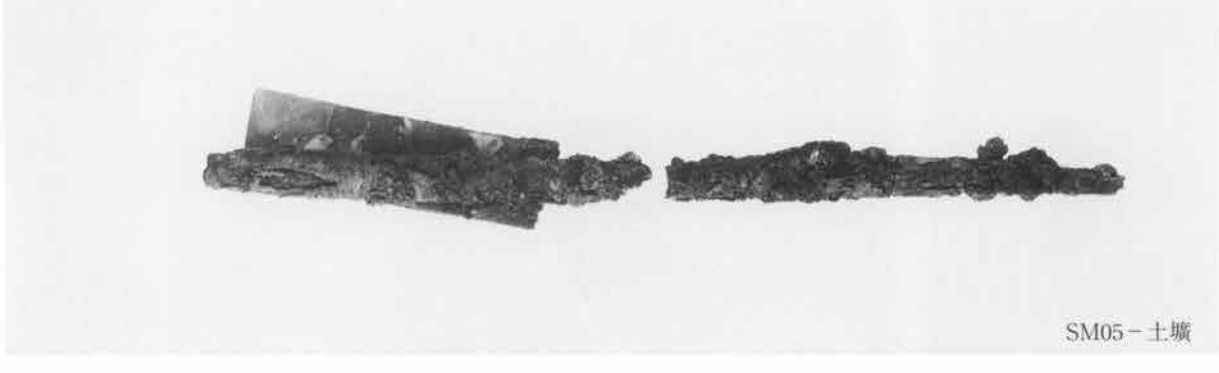
SM05－第2－3

SM05－第3－1

SM05－第3－5

SM05－第3－2

SM05－第3－2・3・6



SM05－土壙

第1－1

第1－2

第1－3

第1－4

第1－5

第1－6

第1－7

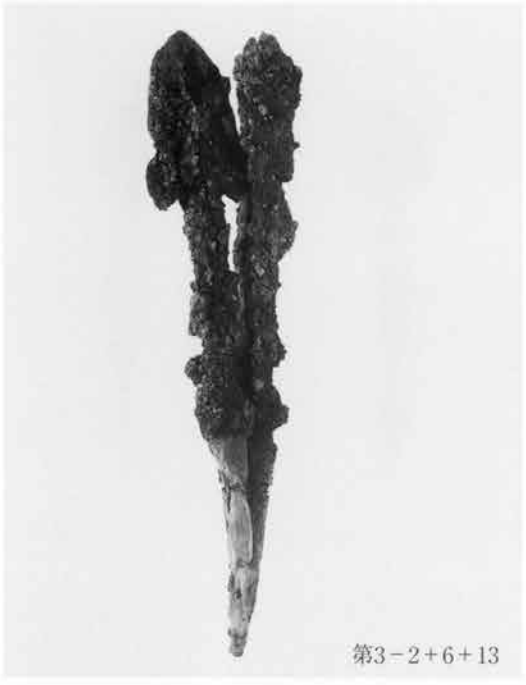
第1－8

第1－9

第2－5

第2－6

第3－1


第3－2＋6＋13

第3－3＋12

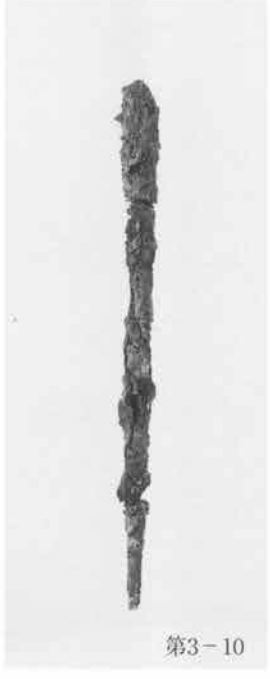
第3－4

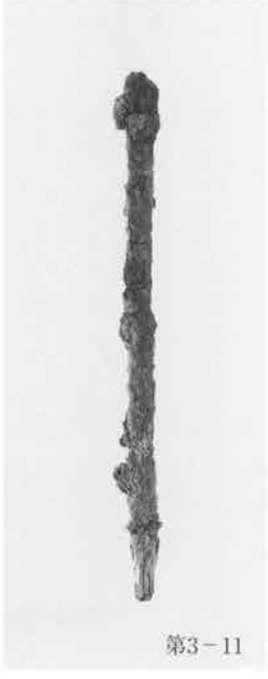
第3－5

第3－7

第3－8

第3－9


第3－10


第3－11

中近世陶磁器

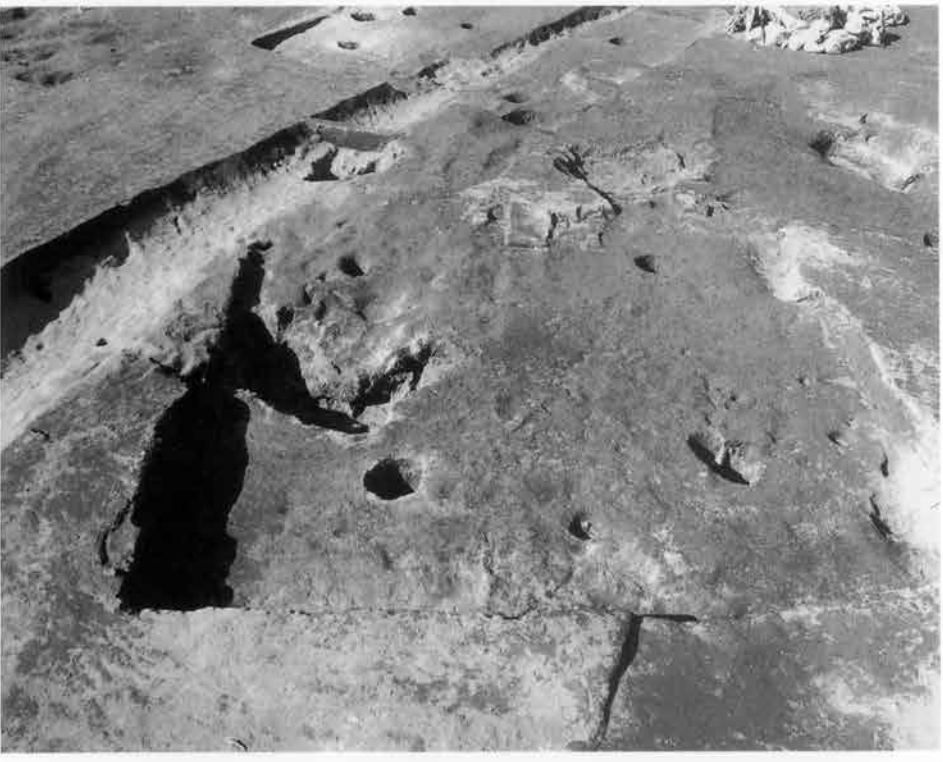
全景

SI43

SI59

図版64

SI60・61



SI44

SI62

SI45

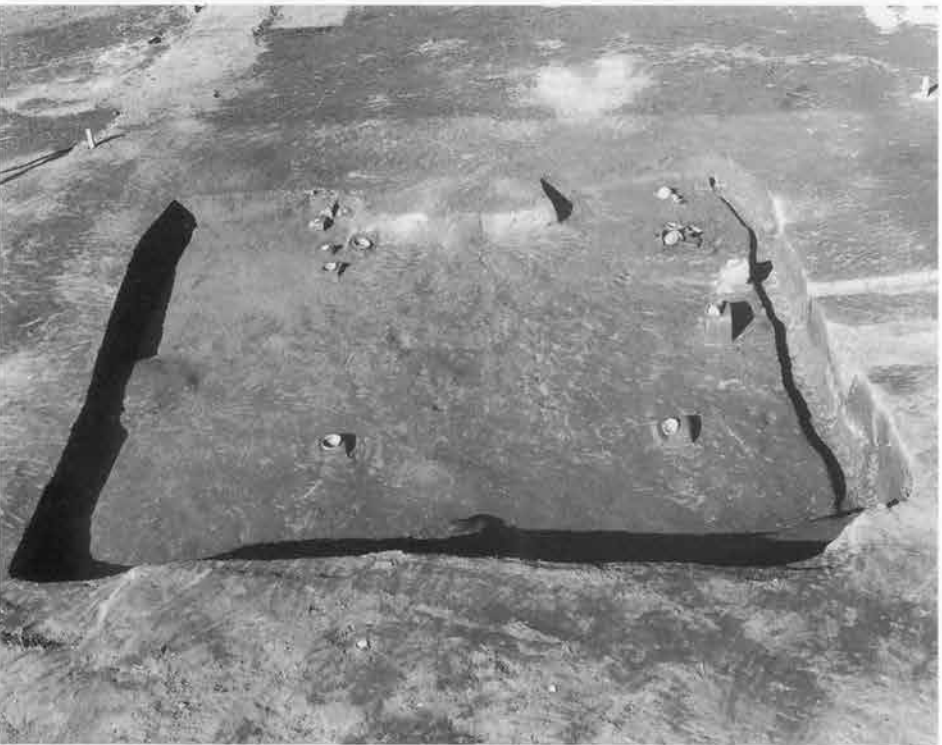
SI47

SI48

図版66

SI49・63・64

SI63小鍛治炉



SI50

図版67

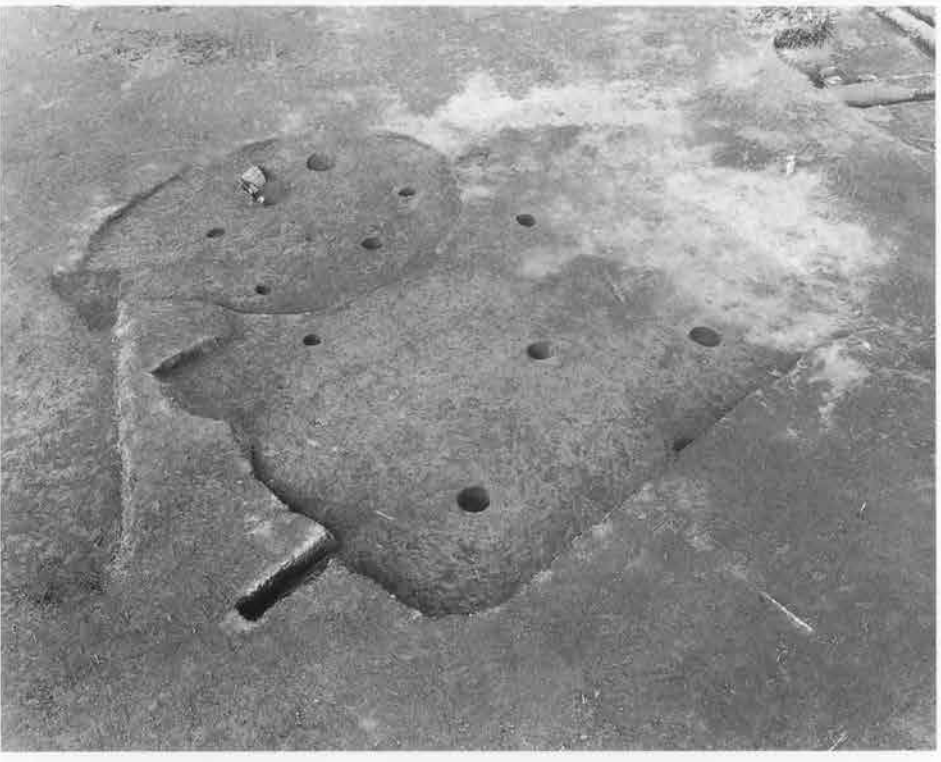
SI50・51

SI52

SI65

図版68

SI53

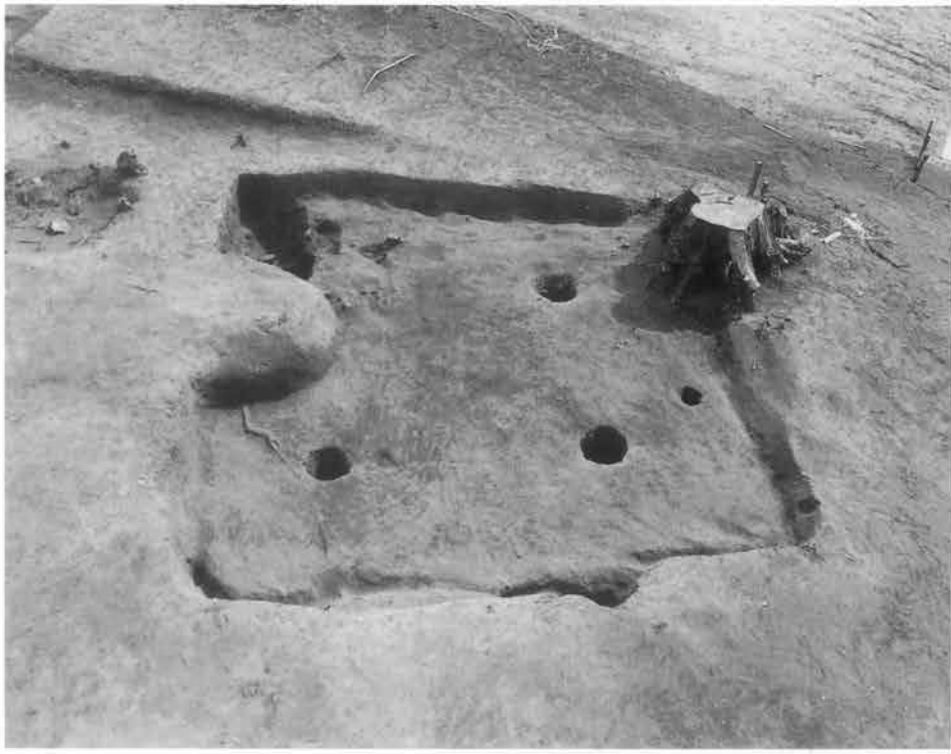


SI66・67

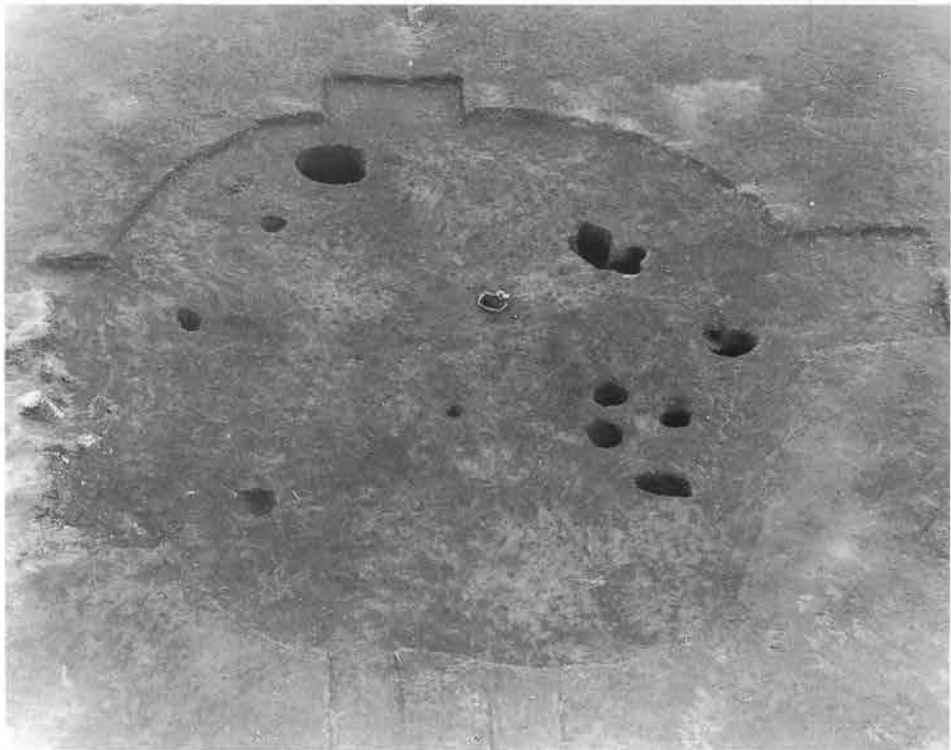
SI54

SI55

SI56



SI41



図版70

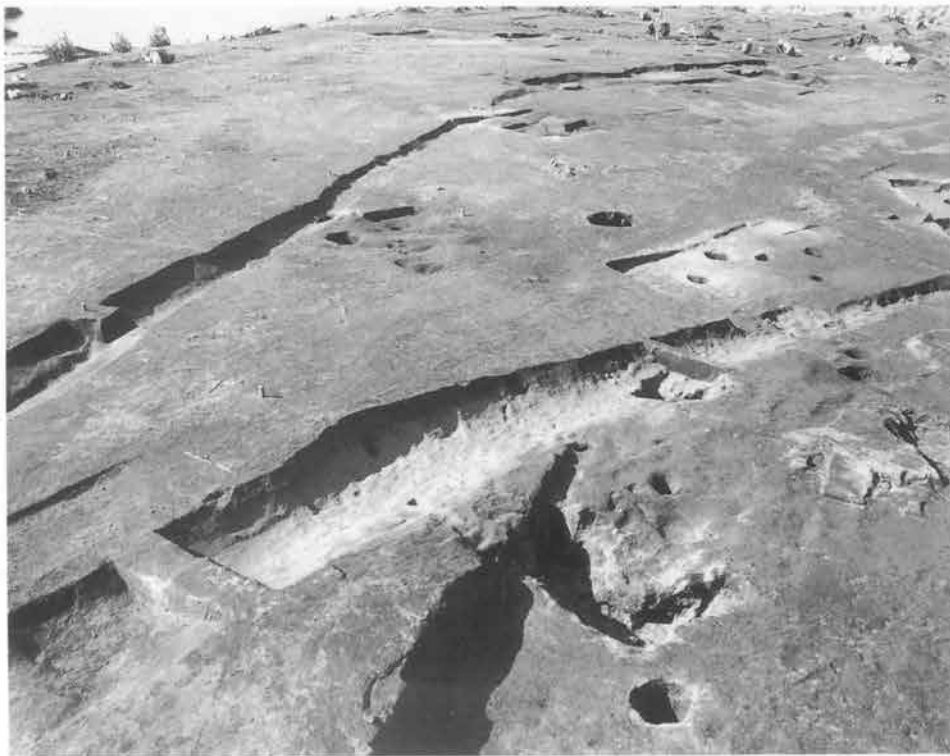
SI69

SI57・70

SI42

SI58

SI73



SD29

図版72

SK61

SO02

SK62

SK69

SK63

SK73

SK71

SK68

SI41－1

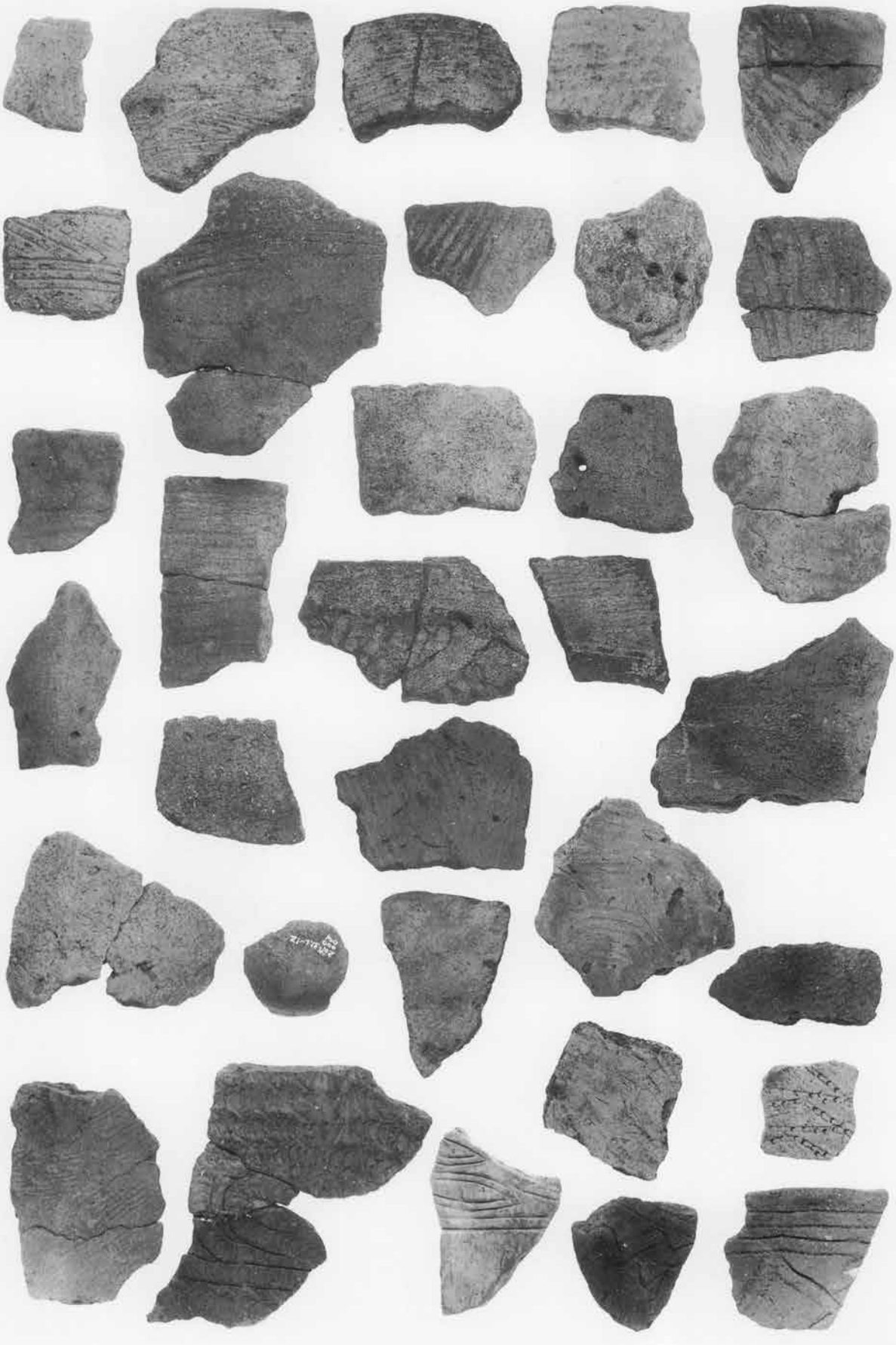
SI42－1

SI41－2

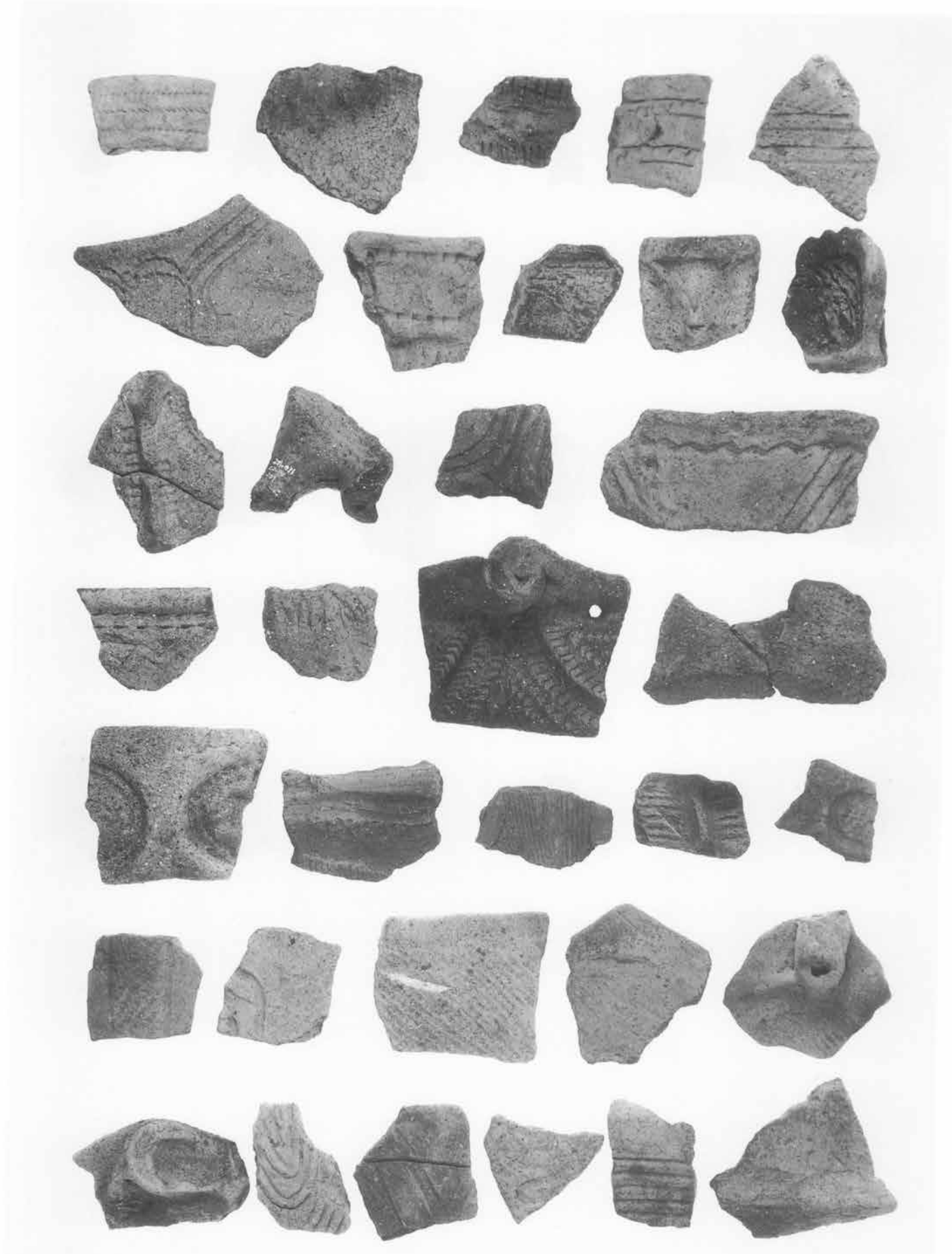
SI42－3

SK66－1

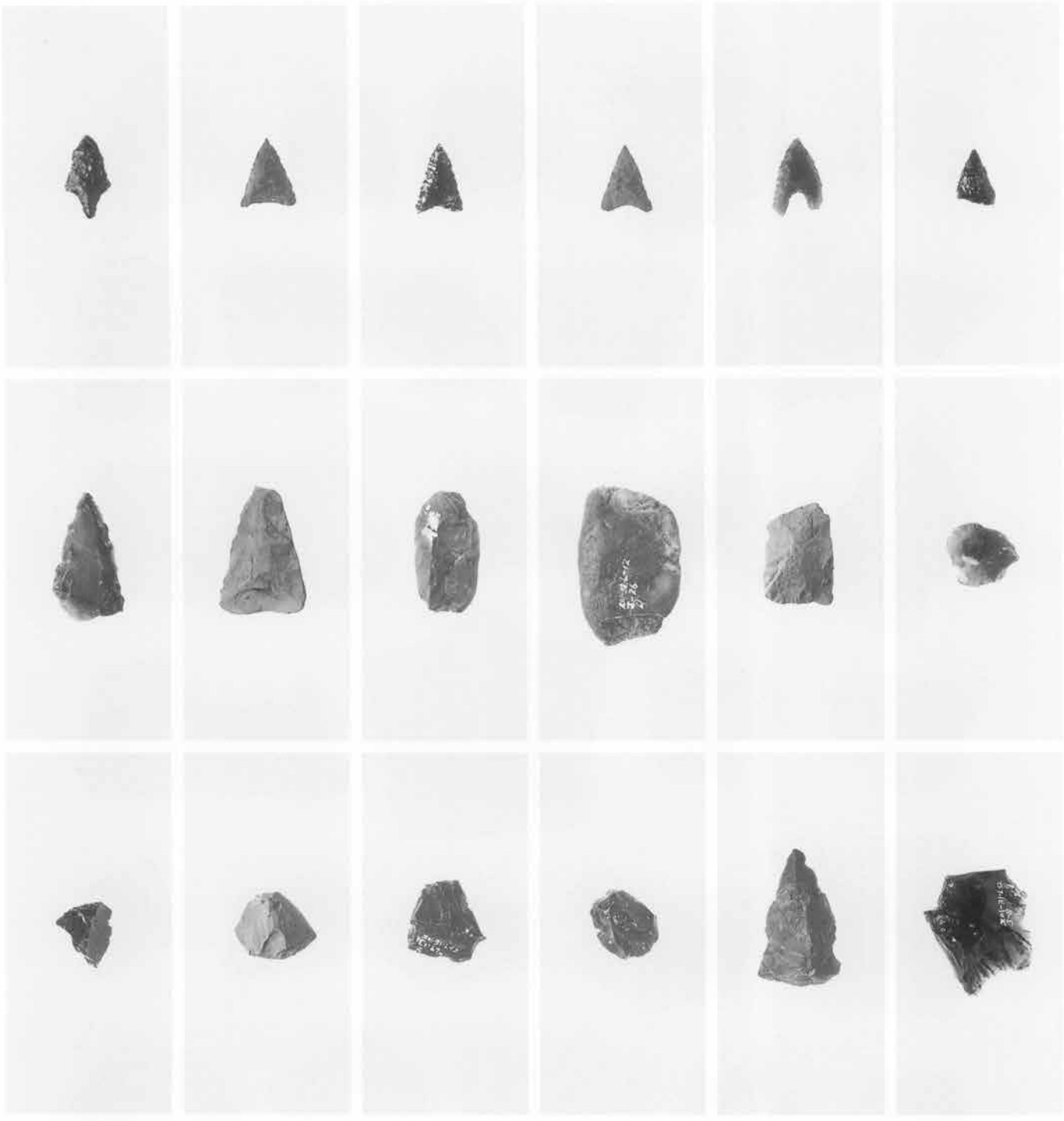
遺構外－68



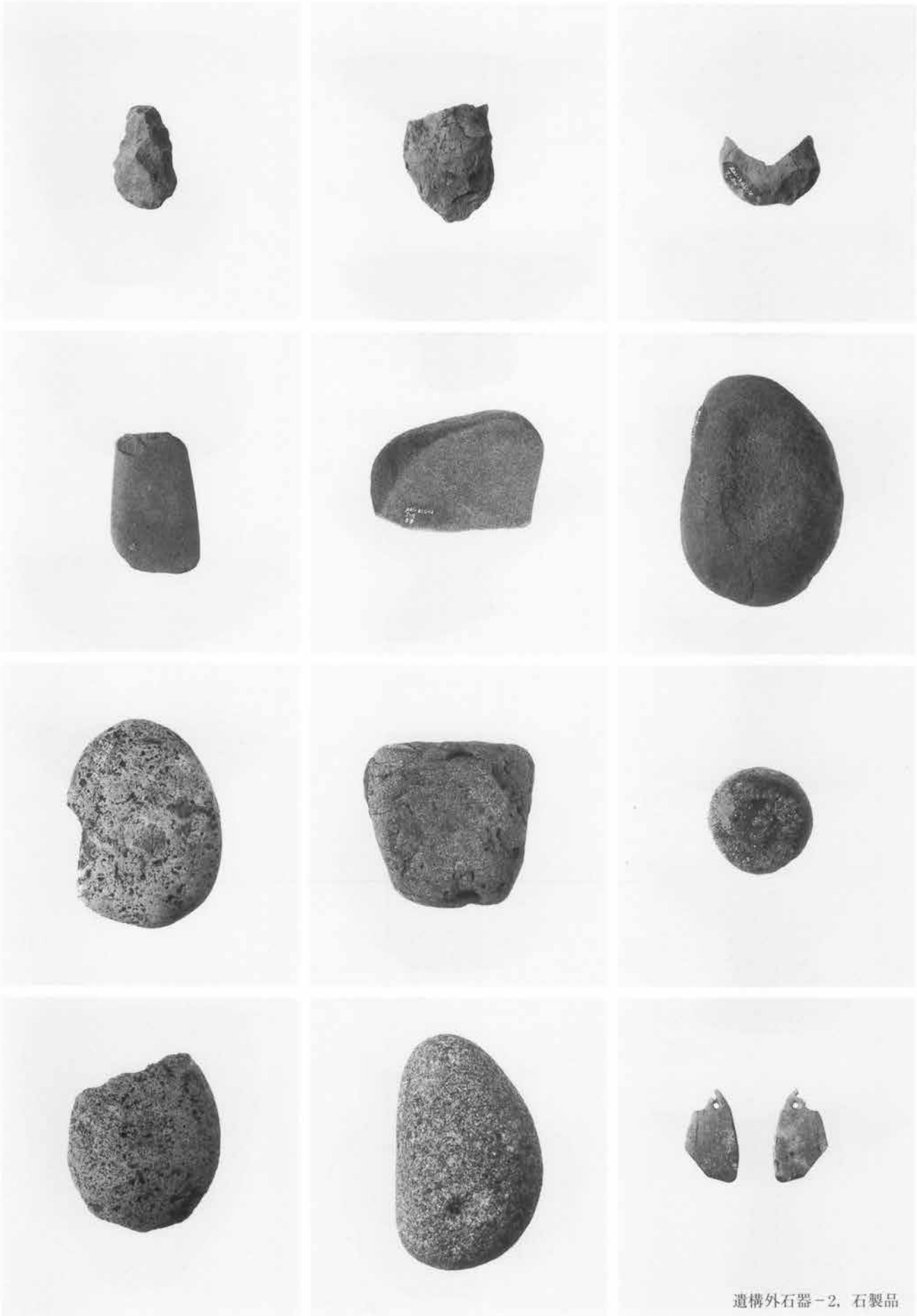
遺構外1～33



遺構外34～67



遺構外石器－1



遺構外石器－2，石製品

SI43－1

SI43－2

SI43－3

SI43－4

SI43－5

SI43－6

SI43－7

SI43－8

SI43－9

SI43－11

SI43－12

SI43－14

SI44－2

SI44－3

SI44－5

SI44－9

SI44(J05)　SI44－7

SI44(J05)　SI44－8

SI44(J07)　SI45－1

SI44(J07)　SI45－3

SI44(J07)　SI45－2

SI45－5

SI45－4

SI45－7

SI45－8

SI45－9

SI45－6

SI45－10

SI45－11

SI45－14

SI45－12

SI45－13

SI46－13

SI46－14

SI46－1

SI46－2

SI46－15

SI46－16

SI46－17

SI46－18

SI46－4

SI46－20

SI46－19

SI46－5

SI46－6

SI46－21

SI46－24

SI46－7

SI46－10

SI46－26

SI46－9

SI46－25

SI46－27

SI46－11

SI46－12

SI46－23

SI46－22

SI47－2

SI47－4

SI47－10

SI47－9

SI47－11

SI48－1

SI48－2

SI48－4

SI48－5

SI48－6

SI48－9

SI48－11

SI48－10

SI48－12

SI48－13

SI49－1

SI49－3

SI49－5

SI49－4

SI50－1

SI50－3

SI50－2

SI50－4

SI50－5

SI50－8

SI50－9

SI50－11

SI50－12

SI50－13

SI50－14

SI50－15

SI50－17

SI50－18

SI50－20

SI50－19

SI50－21

SI51－1

SI52－1

SI52－2

SI52－3

SI52－4

SI52－15

SI52－7

SI52－8

SI52－10

SI52－11

SI52－13

SI52－14

SI52－15

SI52－17

SI52－16

SI52－22

SI53－4

SI52－23

SI53－7

SI52－18

SI52－25

SI53－9

SI52－19

SI52－28

SI53－8

SI52－20

SI53－2

SI54－3

SI54－1

SI54－6

SI54－7

SI55－3

SI55－1

SI56－2

SI56－4

SI56－3

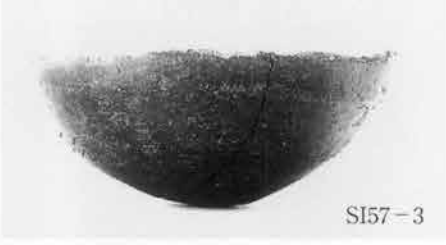
SI56－6

SI56－5

SI57－4

SI57－1

SI57－2


SI57－3

SI57－5

SI57－6

SI57－7

SI57－8

SI57－9

SI57－12

SI57－11

SI57－10

SI57－13

SI58－1

SI58－2

SI58－3

SI58－4

SI59－1

SI59－2

SI59－3

SI59－5

SI59－4

SI59－12

SI59－11

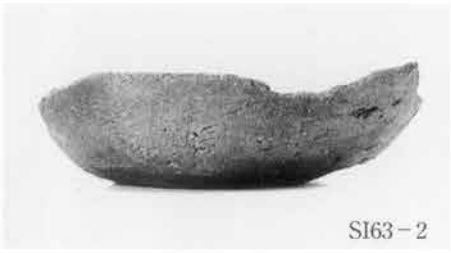
SI59－14

SI60－1

SI60－3

SI62－1

SI63－1


SI63－2

SI65－1

SI65－2

SI67－1

SI68－1

SI68－2

SI69－1

SI69－2

SI69－3

SI69－4

SI69－5

SI69－6

SI72－1

SI72－2

SI72－3

SI72－4

SI72－7

SI72－9

SI73－1

SI73－2

SI73－4

SK70－1

SK70－3

SK71－1

SK71－2

SK71－3

SK69－2

外－10

外－11

外－12

外－13

外－14

外－15

外－18

外－21

外－22

外－25

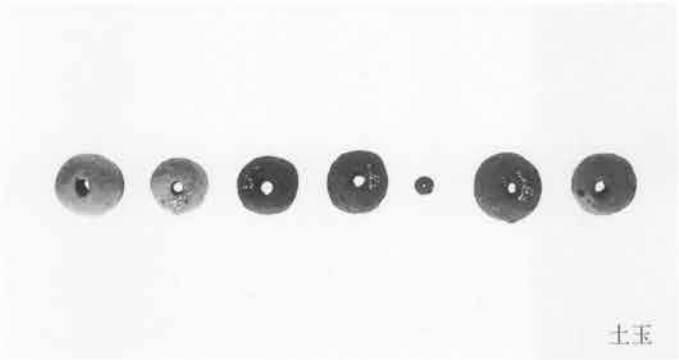
外－27

外－31

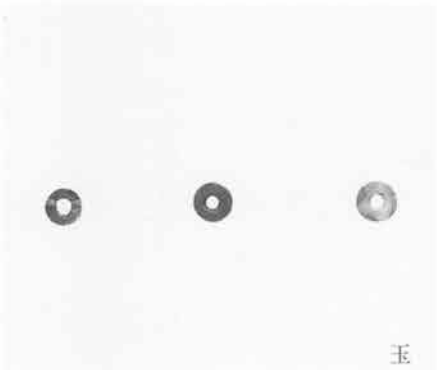
外－32

支脚

支脚



土玉



玉

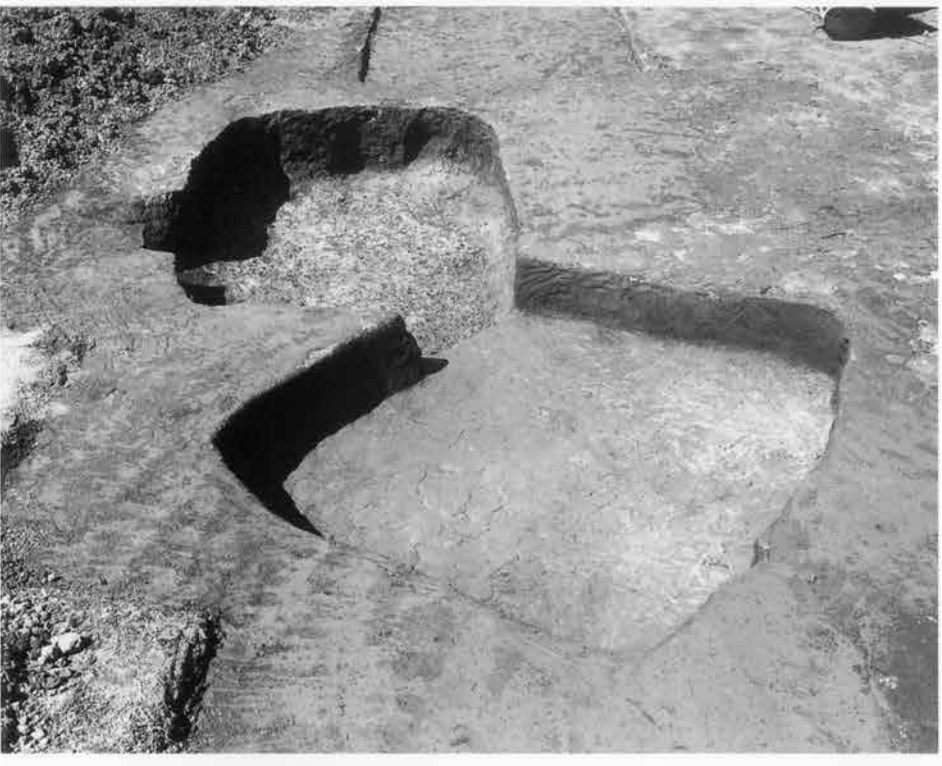
紡錘車

羽口

砥石

軽石

SI28

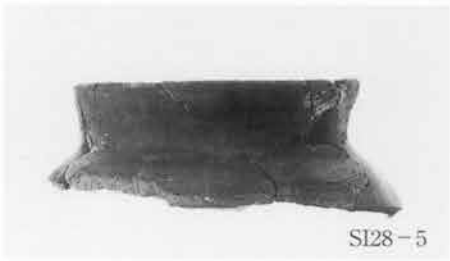


SK74・75

SK76・SI74

SI28－1

SI28－3



SI28－5

SI28－2

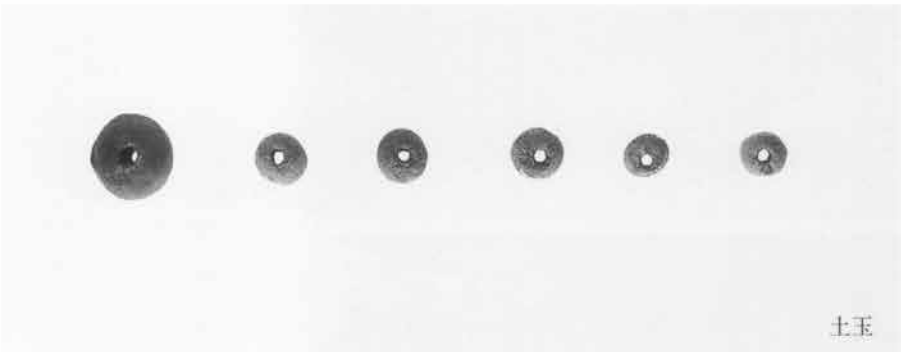
SI28－6

SI74－2

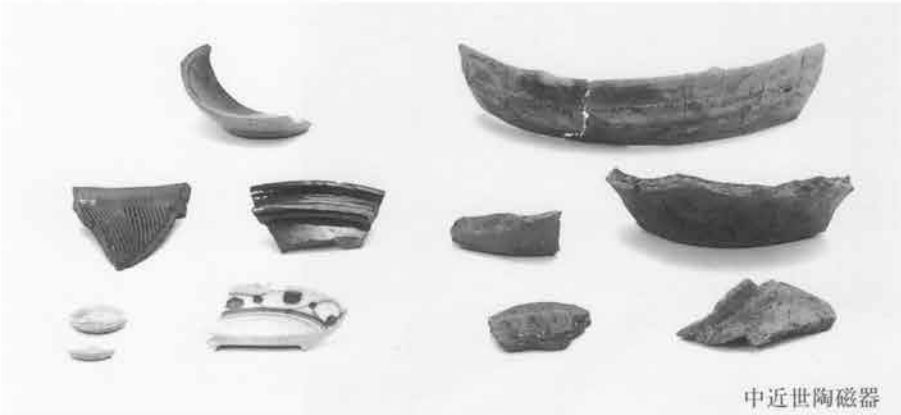
SI74－3

縄文土器

縄文石器



土玉



中近世陶磁器

SX03L　上段整地面

SX03U　下段整地面

SM07

SM07土層断面

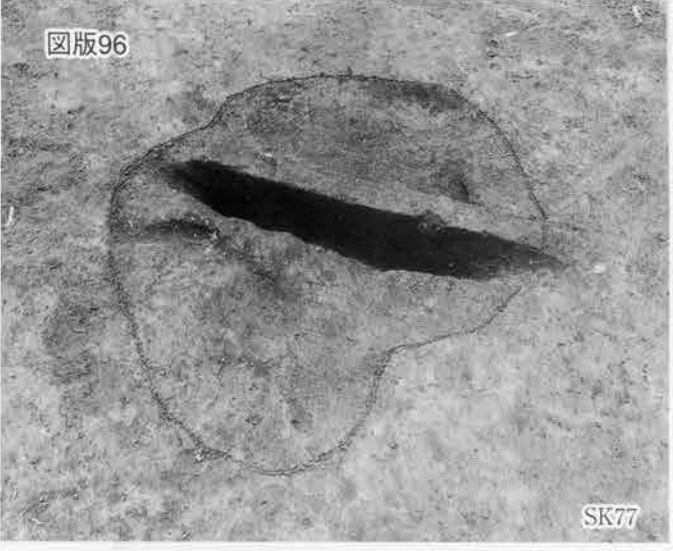
SM07周溝内遺物

SD42

SD38

SK81ー E燃焼部

図版96


SK77

SK81

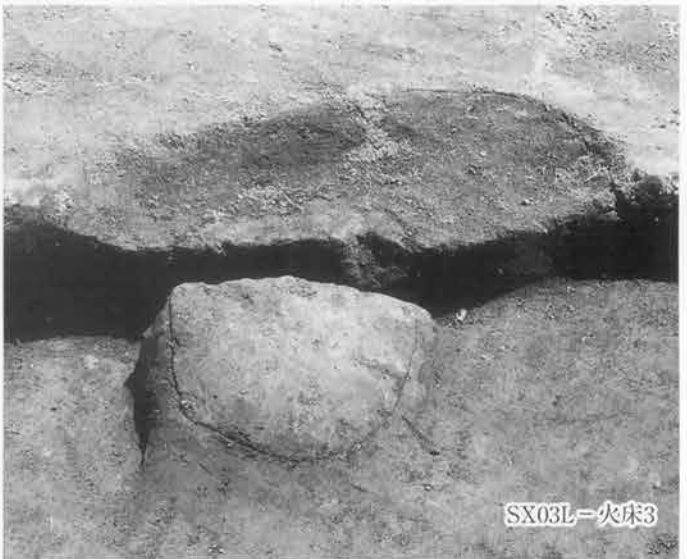
SK78

SX03L－火床1

SK79

SX03L－火床2

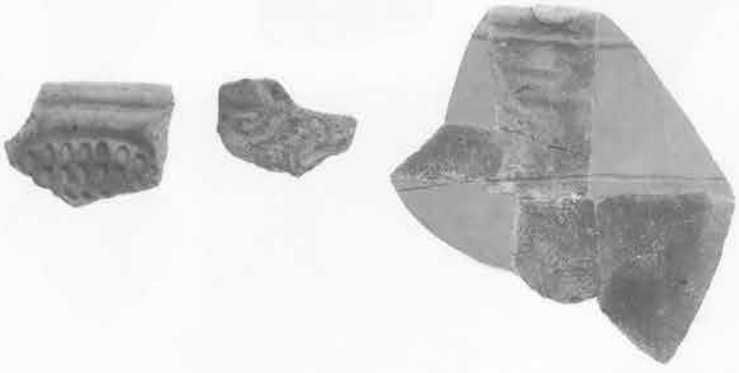
SK80


SX03L－火床3

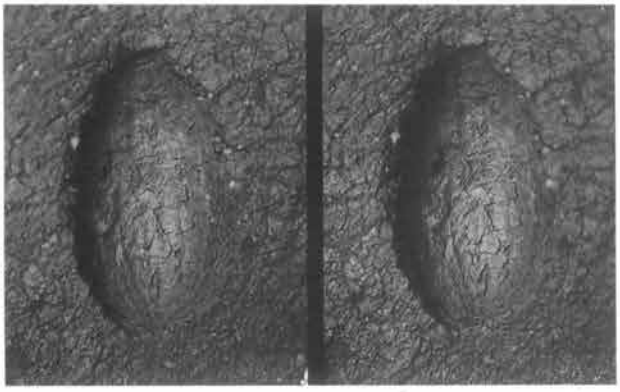
SI81－4

外－104

SK81

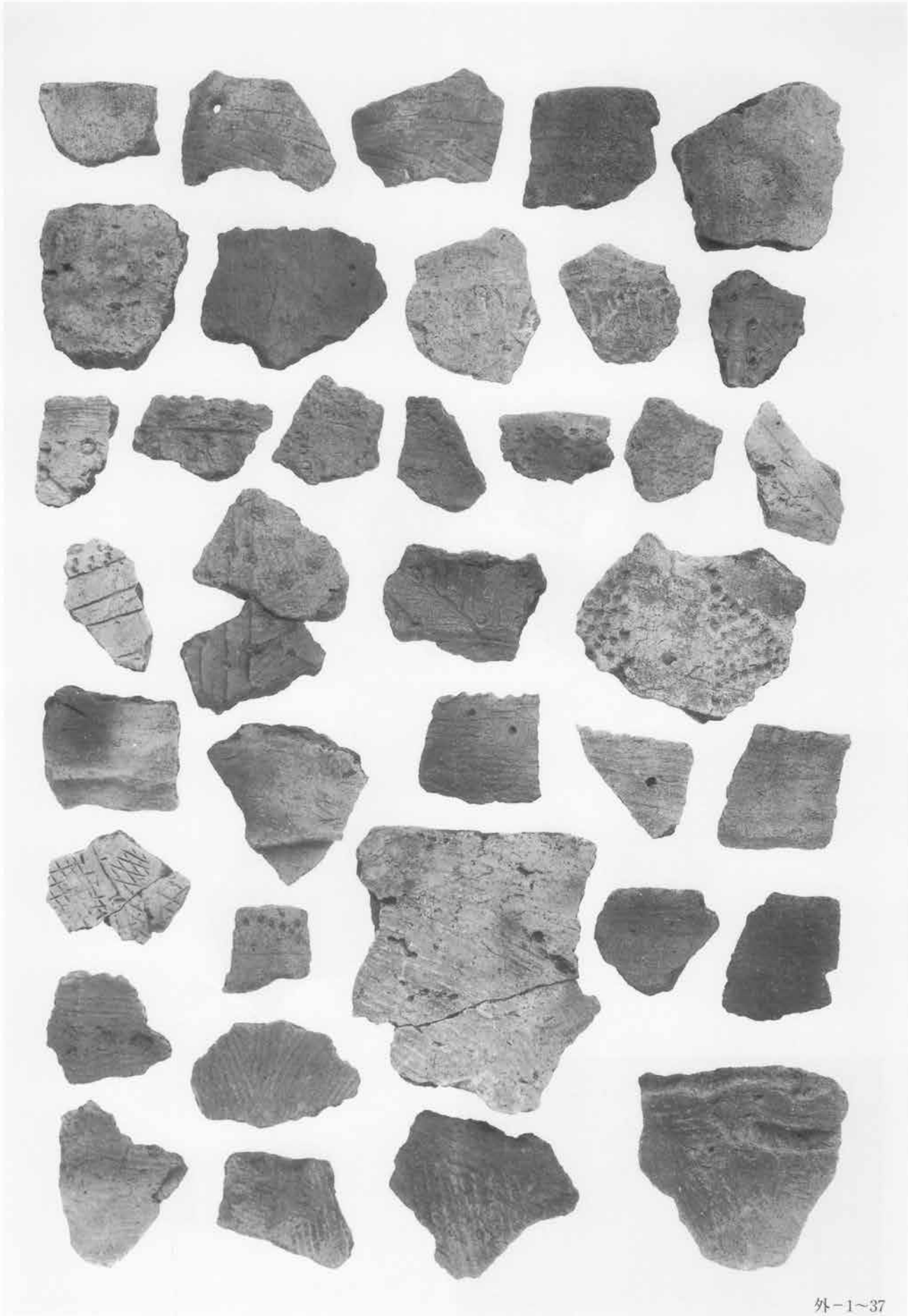


外－102，103，105

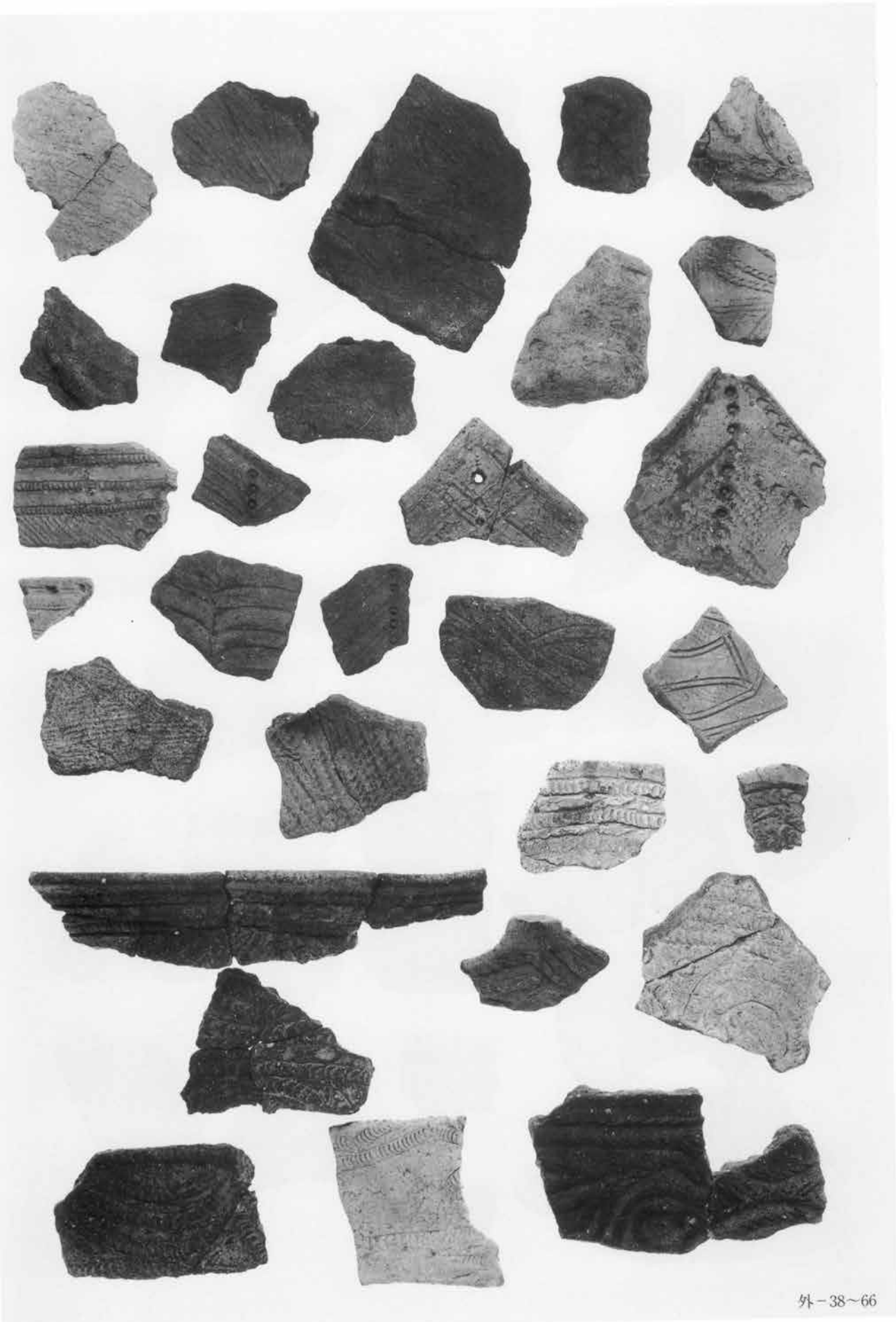


外－40ドングリ圧痕

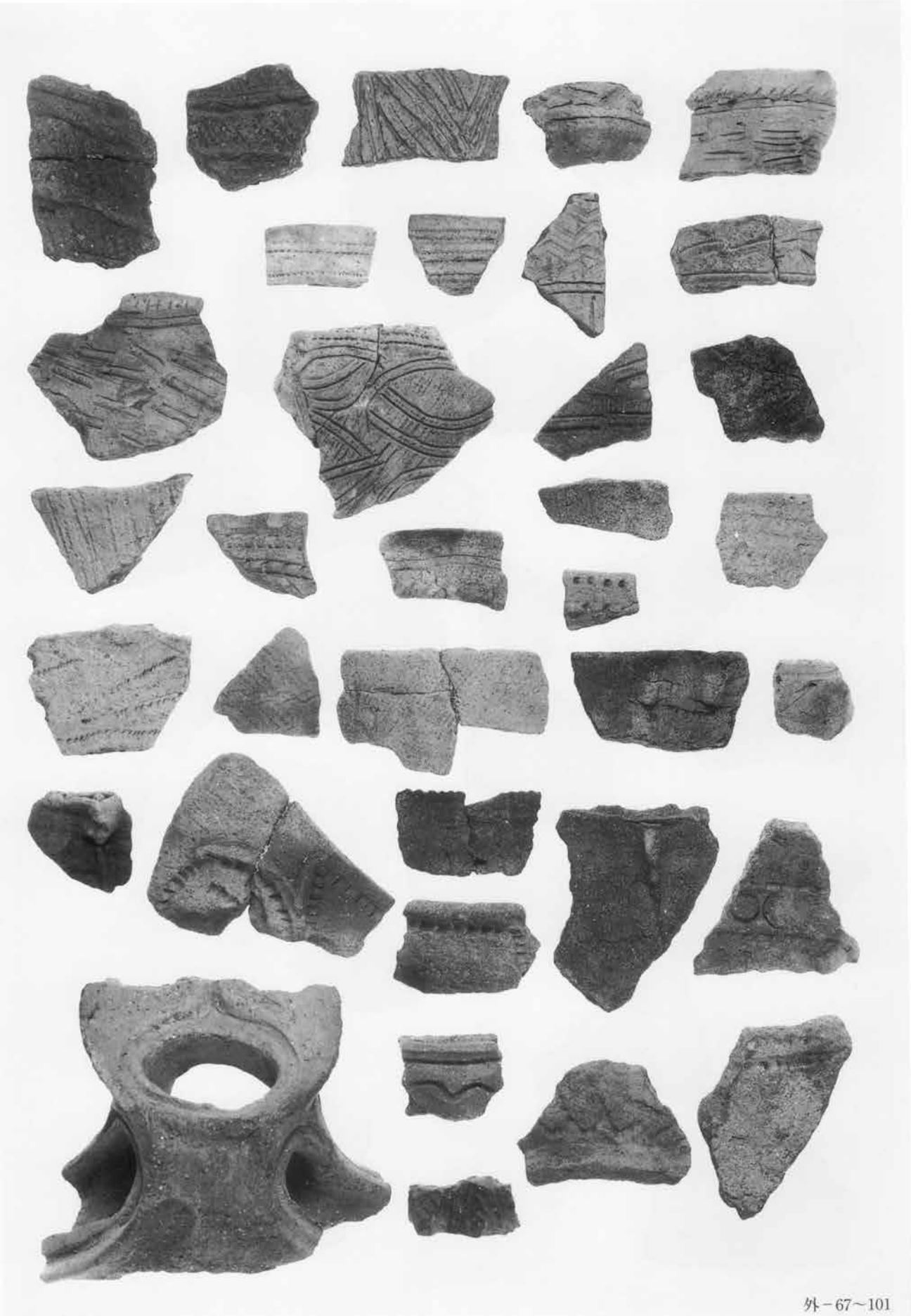
土製品



外－1～37



外－38～66



外－67～101

遺構外石器・石製品

SX03陶磁器1

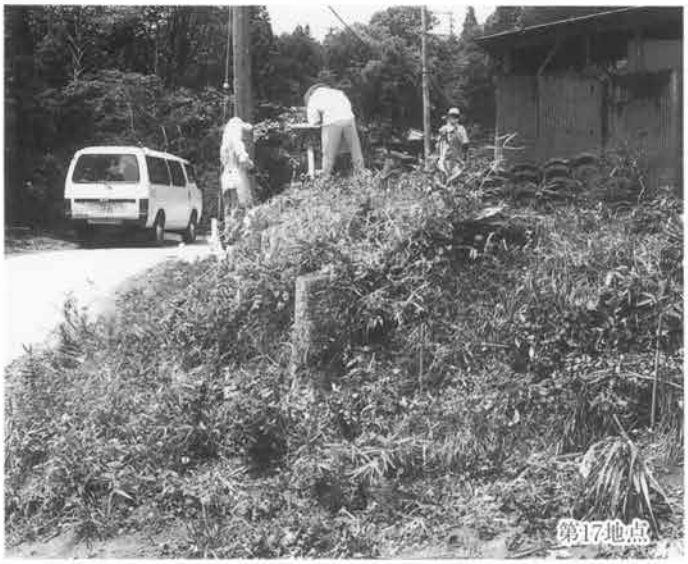
SX03陶磁器2

SX03陶磁器3

SX03－土製品

第17地点

SK83


第17地点

SD47・48

第18地点

SX05

第19地点

第25地点

図版104

SX06

SD50・51

SK85

SK84

SK86

SX06

SK87

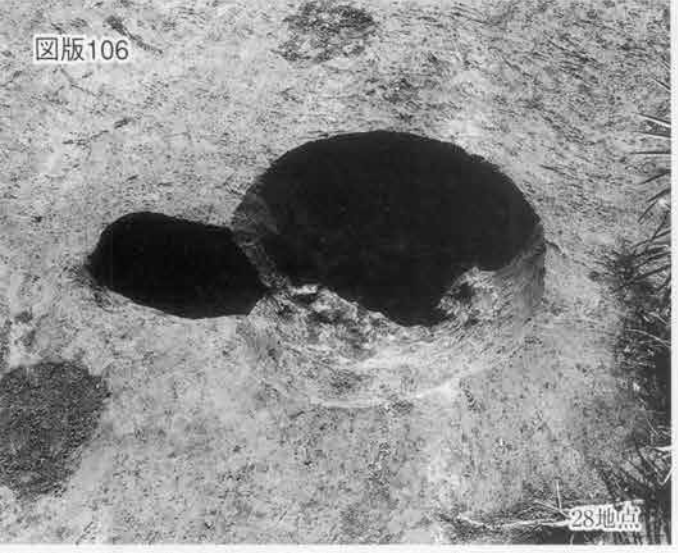
SM09

SM11

SM08・SD53

SM10

図版106


28地点

SD53

SD52・SX07

SD54

SD55・57・58

SK97

SK89

30地点

SK97－2

SK97－1

第17地点石器

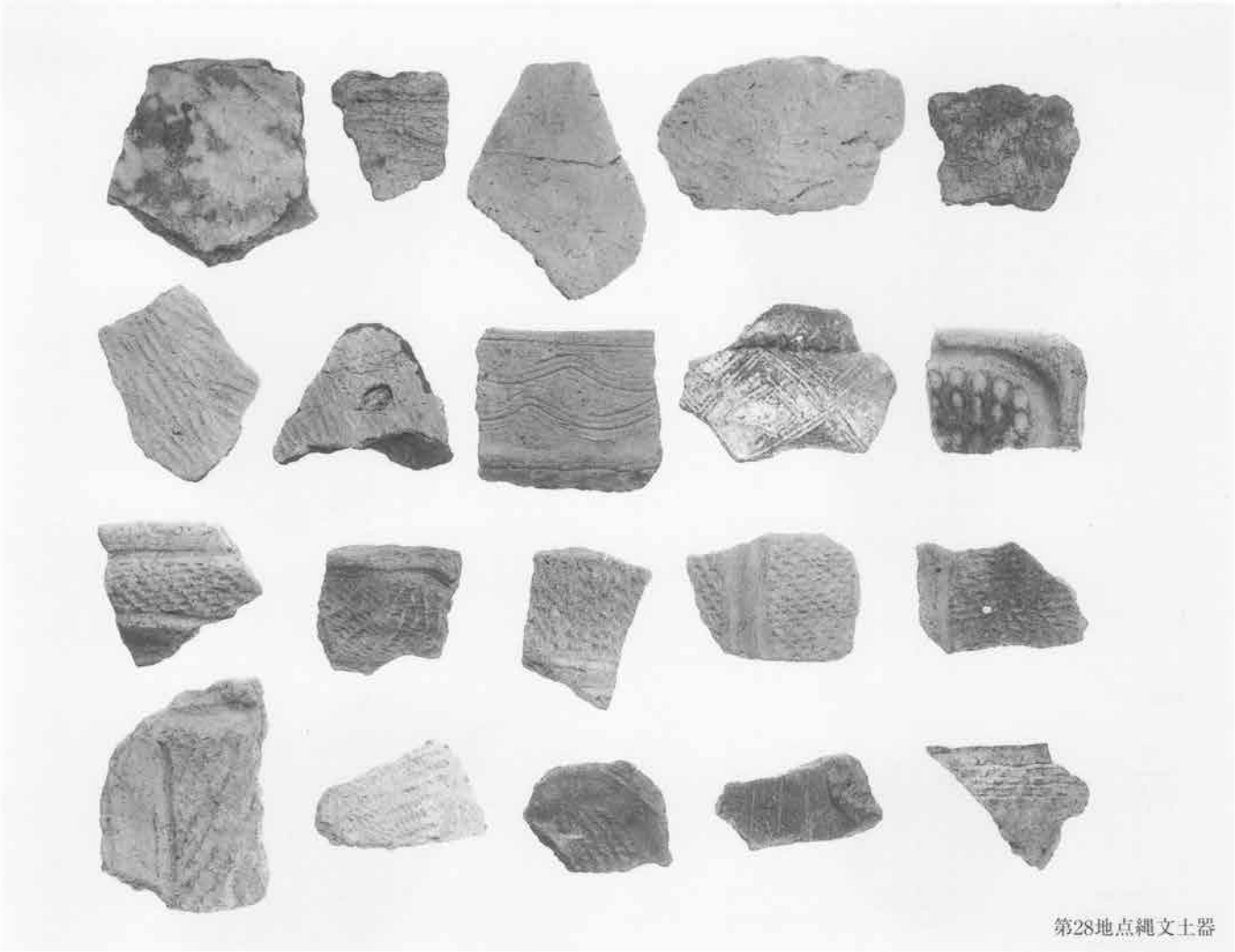
第28地点石器

第20地点縄文土器

SK82

第25地点縄文土器

第26地点縄文土器



第28地点縄文土器

第16・26・28地点中近世陶磁器

報告書抄録

ふりがな	ちばとうなんぶにゅーたうん25
書名	千葉東南部ニュータウン25
副書名	千葉市有吉城跡1（縄文時代以降）
巻次	25
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第421集
編著者名	加藤修司・西野雅人・渡邉高弘
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2
発行年月日	平成14年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ありよしじょうあと 有吉城跡	ちばけんちばしみどりく 千葉県千葉市緑区 ありよしちょう 有吉町	12105	201-031	35度 33分 19秒	140度 10分 12秒	19840601～ 19970718	51,980	土地区画整理事業（千葉東南部）に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
有吉城跡 （縄文時代以降）	集落跡 古墳	縄文時代早・前期	住居跡 1軒 陥し穴 6基 炉穴 21群49基	縄文土器，石器，環状石製品，石製垂飾品	軍記物に書かれた中世城郭は存在せず，台地整形，土塁，溝は17世紀以降の集落に伴う。 早期後葉の炉穴群，花積下層式の住居跡，加曽利E式の住居跡・小竪穴を検出。 古墳時代後期と平安時代の集落。大型円墳あり。
		縄文時代中期	住居跡 2軒 小竪穴 1基 土坑 1基	縄文土器，石器，土器片錘	
		古墳時代	住居跡 39軒 円墳 5基 主体部のみ 2基	土師器，須恵器，羽口，紡錘車，土玉，支脚，管状土錘	
		奈良･平安時代	住居跡 31軒 鍛冶工房 1棟 方墳 2基 製鉄関連土坑 13基 土坑 13基	土師器，須恵器，灰釉陶器，羽口，スラグ，小鉄塊，紡錘車，土玉，支脚，砥石，軽石	
		江戸時代	台地整形面 8か所 塚 3基 井戸 2基 土壙墓 7基 溝 58条		

千葉県文化財センター調査報告第421集

千葉東南部ニュータウン25

－千葉市有吉城１（縄文時代以降）－

平成14年３月25日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　都市基盤整備公団千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1－3
幕張テクノガーデン19・20階

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印　刷　株式会社　み　つ　わ
千葉市美浜区新港213－5